平成 25 年度　教育・研究業績書

奈良産業大学

平成 25 年度　教育・研究業績書　目次

【ビジネス学部】

教授

■ 岩見　昭三・・・・・・1
■ 金田　充広・・・・・・3
■ 河合　和男・・・・・・6
■ 清水　啓司・・・・・・9
■ 松本(伊達)　桃子・・・・・ 17
■ 西口　清治・・・・・ 24
■ 西田　裕之・・・・・ 27
■ 福留　和彦・・・・・ 31
■ 古田　雅雄・・・・・ 58
■ 宮坂　純一・・・・・ 64
■ 森　　基雄・・・・・ 72
■ 矢倉　伸太郎・・・・ 75

准教授

■ 武谷　嘉之・・・・・ 77
■ 棚橋　　豪・・・・・ 82
■ 豊田　正明・・・・・ 86
■ 加藤(藤井)　路子・・・・・ 93
■ 三浦　晴彦・・・・・ 98
■ 山下　雅弘・・・・・100
■ 山本　英司・・・・・102

専任講師

■ 西川　弘展・・・・・112
■ 水野　清文・・・・・115
■ 岡田(森元)　伸枝・・・・・124

助教

■ 松本　尚哲・・・・・130

【情報学部】

教授

■ 大原　荘司・・・・・133
■ 杵崎　のり子・・・・137
■ 西岡　茂樹・・・・・147
■ 根岸　　章・・・・・149
■ 福西　三千春・・・・155
■ 向井　厚志・・・・・162
■ 門垣　一敏・・・・・182
■ 山田　　尚・・・・・184
■ 吉村　文男・・・・・186

准教授

■ 菅　　徹・・・・・188
■ 桑原　祐子・・・・・193
■ 嶋田　理博・・・・・207
■ 宮崎(竹田)　治美・・・・・214

専任講師

■ 片岡　英己・・・・・220
■ 玉野　哲也・・・・・226
■ 羽太　広海・・・・・231
■ 米川　雅士・・・・・246

【地域公共学総合研究所】

教授

■ 井上　眞理子・・・・265
■ 宇津木　成介・・・・270
■ 岡部　修一・・・・・286
■ 川本　正知・・・・・290
■ 多喜　正城・・・・・293
■ 竹山　　理・・・・・297
■ 平尾　　透・・・・・302
■ 松田　智子・・・・・304
■ 三毛　美恵子・・・・327
■ 守本　とも子・・・・332
■ 吉岡　隆之・・・・・367
■ 渡辺　邦博・・・・・392

准教授

■ 伊崎　一夫・・・・・396
■ 小野　俊郎・・・・・402
■ 清都　千春・・・・・404
■ 阪元　勇輝・・・・・406

教育・研究業績書

ビジネス学部

教　育　研　究　業　績　書

平成26年3月31日

氏名　　岩見　昭三

研究分野	研究内容のキーワード
EUの金融・証券市場	EU,ユーロ、ソブリン危機、国際通貨

教育上の能力に関する事項

事項	年月日	概要
1　教育方法の実践例		
サブノート形式の講義プリントの作成・改訂	平成9年4月1日～	学生にキーワードを記入させるサブノートプリントを作成し、学習効果を高める。
ミニテストの実施	平成19年4月1日～	毎回、授業の最初にミニテスト問題を公表し、授業の焦点を明らかにする。授業の最後にミニテストを実施し、理解度を確認し、次回の授業時に解答例を示す。
2　作成した教科書，教材		
国際金融論、国際通貨システム論（関西大学非常勤）の講義プリント	平成25年4月1日～	テキスト『現代国際金融』（上川孝夫、藤田誠一編、有斐閣）の内容に基づき、重要事項を空欄にしたサブノートプリントを作成。
3　教育上の能力に関する大学等の評価		
4　実務の経験を有する者についての特記事項		
5　その他		

職務上の実績に関する事項

事項	年月日	概要
1　資格，免許		
2　特許等		
3　実務の経験を有する者についての特記事項		
4　その他		

研　究　業　績　等　に　関　す　る　事　項				
著書，学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所，発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要
（著書）				
１．『図説　ヨーロッパの証券市場　２００９年版』	共	平成20年12月	日本証券経済研究所	第４章の「公社債市場」を執筆し、ユーロ圏全体と主要国の公社債市場を概観し、問題点を析出
２．『図説　ヨーロッパの証券市場　２０１２年版』	共	平成24年2月	日本証券経済研究所	第９章の「公社債市場」を執筆し、とくに、現在のソブリン危機を中心に、原因を明らかにするとともに、今後の焦点を展望
（学術論文）				
１．ドイツの銀行の国際業務とユーロの国際化―１９９９～２００３年の展開―	単	平成16年12月	産業と経済、第１９巻３・４号	ユーロ発足後のユーロの国際化の進展状況をドイツの銀行の国際業務を軸にして分析。その結果、依然としてロンドン国際金融市場がドイツの銀行の国際業務の主要舞台となっていることが明らかになり、そこではドルが国際通貨として君臨してユーロの国際化が遅れていることを強調した。
２．EUのソブリン危機―国債利回りスプレッドの拡大要因を中心として―	単	平成24年2月	龍谷大学経済学論集（松岡利通教授追悼号）第５１巻第４号	ソブリン危機国の２００９～１０年の国債利回りの急上昇の原因を、ブンデスバンクの見解を手掛かりに分析。その結果、債務残高が一定程度高く、単年度の財政赤字が悪化している国の国債利回りが急上昇していることが判明し、たんなる投機要因によるものでないことを強調した。
３.ユーロ圏諸国の不均衡発展ードイツブンデスバンクの見解をめぐってー	単	平成24年12月	社会科学雑誌（奈良産業大学社会科学学会）第５巻	ユーロ発足以降拡大してきたユーロ圏内諸国間の不均衡発展の原因については、ブンデスバンクに代表される赤字国責任論と、それに批判的な黒字国責任論が対立している。データ分析の結果、赤字国の過大需要が主因であることが確認されたが、その過大需要をもたらした原因としてユーロ圏内先進国による資本投資のあり方が大きく影響していることが分かった。問題はユーロ圏内資本投資と各国の経済発展との連携の強化である。

［注］

1　最近10年間の教育活動、研究活動について作成すること。

2　「教育活動」については、各項目ごとに年月日順に、「学会等および社会活動」については、就任年月日順に記入すること。

3　「研究活動」については、下記の点に留意すること。

①　著書・論文及びその他の順に、発表年月日順に記入すること。

②　著者が複数にわたる場合で、筆頭著者が著書・論文等において明示されている場合には、その氏名に◎印を付すこと。

③　共著（論文）の場合、「該当頁数」の記入にあたっては、本人の分担箇所を特定できる場合は、その頁数を記載すること。

④　最近10年間に著書・論文等の発表のなかった者についても、教員名を挙げてその部分を空欄にしておくこと。

⑤　芸術分野や体育実技等の分野を担当する教員については、著書・論文等以外の競技会、展覧会または演奏会等での発表のうち、特に顕著な業績と認められるものについても記載すること。このほか、専門分野の特性を 考慮し、顕著な業績と認められるものがある場合もこれに含めてもよい。

教　育　研　究　業　績　書

平成26年3月31日

氏名　　金田　充広

研究分野	研究内容のキーワード
会社法、手形・小切手法	新株(予約権)発行、取締役、手形抗弁

教育上の能力に関する事項

事項	年月日	概要
1　教育方法の実践例		
1）特記事項なし		
2　作成した教科書，教材		
1） 日本語コミュニケーションⅠ（13,14） (奈良産業大学)	平成19年4月1日	ビジネス学部１年生の基礎教育用の基礎共通科目テキストのうち日本語教育関連の一部を執筆担当した。
2） 現代社会トピックスⅡ(経済犯罪と法)「商取引社会における犯罪」執筆担当	平成19年10月30日	ビジネス学部１年生の経済犯罪をめぐる法律知識・思考力養成のため講義案として担当者が執筆した。
3） 法の仕組みとビジネス(奈良産業大学)	平成24年4月1日	ビジネス学部１年生の基礎教育用の専門基礎科目テキストのうち法律学関連を執筆担当した。
3　教育上の能力に関する大学等の評価		
1）特記事項なし		
4　実務の経験を有する者についての特記事項		
1）特記事項なし		
5　その他		
1）特記事項なし		

職務上の実績に関する事項

事項	年月日	概要
1　資格，免許		
1）特記事項なし		
2　特許等		
1）特記事項なし		
3　実務の経験を有する者についての特記事項		
1）特記事項なし		
4　その他		
1）特記事項なし		

研究業績等に関する事項				
著書，学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所，発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（著書）				
１．講説 商法(総則・商行為法)	共	平成16年4月	不磨書房	法科大学院の学生が法律理論・判例を体系的に習得できる基本書として共同執筆したものである。 Ａ5判・全243頁 加藤徹、吉本健一、金田充広、清弘正子 第4編第1章～第3章、第5編第1章・第2章（133頁－192頁）を執筆。 第4編「商行為法総論」の第1章～第3章は、それぞれ「商行為の意義と種類」、「商行為の通則」、「匿名組合--共同企業の特殊形態」、第5編「商事売買と決済」の第1章・第2章はそれぞれ「商事売買」、「交互計算」である。
２．民事特別法の諸問題 第5巻 （上巻）（関西法律特許事務所開設35周年記念論文集）	共	平成22年4月	第一法規	商事・倒産法の分野から、各執筆者のこれまでの実務経験、研究成果を論文としてまとめたものである。 Ａ5判・全439頁 道野真弘、山野加代枝、吉本健一、片山信弘、金田充広、田邊光政、吉井敦子、高橋英治、新津和典、今川嘉文、佐藤鉄男、森まどか、山本和彦、今中利昭、赫高規、今泉純一 〔会社法--取締役関係〕「手形行為に関する利益相反取引」（79頁－103頁）を執筆。 会社と取引する取締役が会社を代表する自己取引の場合はもちろんのこと、他の取締役が会社を代表する場合にも、取締役らが結託して利益相反取引をすることにより会社に不利益が発生するおそれがある。このような取締役の行為のうち、とくに手形行為に関する利益相反取引につき判例その他裁判例及び学説を検討したものである。
（学術論文）				
１．株主代表訴訟における株主の共同訴訟参加	単	平成16年9月	奈良法学会雑誌 17巻1･2号 135頁－157頁	株主代表訴訟の原告側に共同訴訟人として参加の申出をした株主の参加の申出が、本件訴訟を不当に遅延させることは明らかであるとして、商法268条2項（現行法上は、会社法849条1項）ただし書きにより許されないとした原審の判断を破棄差し戻した最高裁判決の評釈である。
２．ニッポン放送新株予約権発行差止事件	単	平成18年9月	奈良法学会雑誌 19巻1･2号 183頁－212頁	ニッポン放送の新株予約権発行に対するその差止請求に関する抗告審決定を素材に、新株発行の差止事由に関して、主要目的ルール及び企業価値の観点から、その他主要裁判例とともに理論的検討をした。それとともに例外的に、経営支配権の維持・確保を主要な目的とする発行も不公正発行に該当しない場合があることにつき示唆的見解を示した。
３．手形抗弁 -- 二重無権の抗弁における固有の経済的利益 --	単	平成20年3月	奈良法学会雑誌 20巻3･4号 145頁－171頁	いわゆる二重無権に関する判例・学説を分析検討するとともに後者の抗弁との関連において理論的整合性を検討するものである。甲乙丙の順に約束手形が振出、裏書された場合に、甲乙間および乙丙間の手形授受の原因関係がいずれも消滅した場合において、手形債務者である振出人甲がする抗弁の主張に関する理論的研究である。
４．会社の定款所定の目的	単	平成20年12月	社会科学雑誌 1巻 1頁－30頁	会社の目的に関する判例・学説を概観するとともに、民法43条（2006年改正前）は会社の目的に関して類推適用できるか否かという問題で議論されているものの、民法の条文からは適用そのものであるという考え方を否定する積極的理由は見あたらないのではないかという見解を示すとともに、会社の権利能力及び行為能力の目的による制限につき検討するものである。
５．手形法の沿革と人的抗弁の制限 -- 昭和13年商法改正前 --	単	平成21年9月	奈良法学会雑誌 22巻1･2号 77頁－111頁	手形法17条は、人的抗弁の制限を規定している。昭和13年の商法中改正法律により第4編手形が削除されるまで、商法は、手形及び小切手に関する規定を有し、同年改正前商法440条に手形抗弁に関する規定を置いていた。商法の制定以前は、ドイツ人のロエスレル氏による草案とこれを基礎として制定された旧商法が、手形抗弁を規定しており、善意取得の制度との分化が見られない状況にあったと見ることができ、これに関して制度発展の史的観点から概観したものである。

６．著しく不公正な方法による募集株式の発行 -- クオンツ新株発行差止仮処分命令申立事件 --	単	平成23年11月	社会科学雑誌 3巻 111頁－132頁	裁判例における主要目的ルールの適用を概観することにより、会社支配権が争われている場合に、具体的状況の下でする新株発行に一応差止事由があるという推定の基礎となる事実関係が、本件その他裁判例において判示されている事案をクローズアップした。不公正発行の推定が資金調達の必要性により覆滅されるというアプローチにシフトする状況ないし傾向があるという見方である。このことは新株発行の差止めを求める株主の立証上の負担を軽減する機能を有することを確認した。
７．代表取締役の権限	単	平成24年11月	阪大法学 62巻3・4号 365頁－387頁	取締役会設置会社の代表取締役の権限に関して、派生機関説・並立機関説の再検討を踏まえたうえで、代表取締役による会社の行為の視点から、会社の目的及び株主総会・取締役会との法的関係を中心に検討している。代表取締役の権限の法律上の制限の問題を考える導入的検討として、代表取締役の権限を分析したものである。
８．会社買収防衛策における新株予約権の活用	単	平成24年11月	社会科学雑誌 5巻 27頁－52頁	日本企業同士のM&Aの件数は、2006年の約2200件をピークに減少している。しかしこうした状況においても株式会社は会社買収に対する何らかの措置が重要である。事後的な措置により差止めが問題になることが多いことから、主として新株予約権の割当てによるいわゆる平時導入型の会社買収防衛策を概観したうえで若干の示唆を提起するものである。
９．悪意の抗弁（１） -- 手形法17条ただし書にいう「債務者ヲ害スルコトヲ知リテ」 --	単	平成25年12月	社会科学雑誌 8巻 91頁－113頁	手形は、転々流通することが予定されている証券であるから、流通保護の観点から抗弁の制限を考慮しなければならない。しかし悪意で手形を取得した者を保護する必要はないから、このような場合には人的抗弁は制限されず手形所持人に対抗することができる。手形法17条ただし書がこれを規定するが、ジュネーブ手形法統一会議における条文成立に至る議論等を紹介する。
１０．悪意の抗弁（２・完） -- 手形法17条ただし書にいう「債務者ヲ害スルコトヲ知リテ」 --	単	平成26年3月	社会科学雑誌 9巻 137頁－163頁	判例から悪意の抗弁を成立させる抗弁存在の認識を分析検討した。手形法17 条ただし書にいう「債務者ヲ害スルコトヲ知リテ」に関する通説は、同条ただし書の要件事実をいっそう明確にしたものであり、その解釈指針を示したものである。また了知説と理論的に矛盾するものではなく密接な関連があることを明らかにした。
（その他）				
特記事項なし				

［注］

1 最近10年間の教育活動、研究活動について作成すること。

2 「教育活動」については、各項目ごとに年月日順に、「学会等および社会活動」については、就任年月日順に記入すること。

3 「研究活動」については、下記の点に留意すること。

① 著書・論文及びその他の順に、発表年月日順に記入すること。

② 著者が複数にわたる場合で、筆頭著者が著書・論文等において明示されている場合には、その氏名に◎印を付すこと。

③ 共著(論文)の場合、「該当頁数」の記入にあたっては、本人の分担箇所を特定できる場合は、その頁数を記載すること。

④ 最近10年間に著書・論文等の発表のなかった者についても、教員名を挙げてその部分を空欄にしておくこと。

⑤ 芸術分野や体育実技等の分野を担当する教員については、著書・論文等以外の競技会、展覧会または演奏会等での発表のうち、特に顕著な業績と認められるものについても記載すること。このほか、専門分野の特性を 考慮し、顕著な業績と認められるものがある場合もこれに含めてもよい。

教　育　研　究　業　績　書

平成26年3月31日

氏名　　河合　和男

研究分野	研究内容のキーワード
経済学	国際経済学、経済史

教育上の能力に関する事項

事項	年月日	概要
1　教育方法の実践例		
1）プリントを利用した講義	昭和60年4月から現在まで	プリント作成形式は文章形式とレジュメ形式の中間に位置し、適宜、統計資料も挿入している。これは、学生が口述部分を十分にノートできない状況、ならびに講義内容をすべて板書することの時間的非効率に対する措置である。またプリントには適宜、空白部分を設け、その箇所を口述もしくは板書を通じて学生に筆記させているが、それは学生が講義に集中し、講義内容を正確に把握してもらうためである。
2）「授業アンケート」の活用	毎年	本学では毎年「授業アンケート」を実施し、学生に授業への要望を聞いている。その要望を受けて、毎回、講義のはじめに前回の講義の要点を復習したり、板書の仕方や話し方を改善したりするなどの工夫をしている。
3）公開授業への参加	毎年	本学では毎年、他の教員の授業を聴講するという公開授業週間を設けている。これを通じて他の教員の授業方法を学び、自分の授業方法の改善に生かしている。
2　作成した教科書，教材		
1）特記事項なし		
3　教育上の能力に関する大学等の評価		
1）特記事項なし		
4　実務の経験を有する者についての特記事項		
1）特記事項なし		
5　その他		
1）特記事項なし		

職務上の実績に関する事項

事項	年月日	概要
1　資格，免許		
1）特記事項なし		
2　特許等		
1）特記事項なし		
3　実務の経験を有する者についての特記事項		
1）特記事項なし		
4　その他		
1）特記事項なし		

研　究　業　績　等　に　関　す　る　事　項				
著書，学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所，発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要
（著書）				
１．朝鮮・台湾における植民地支配の制度・機構・政策に関する総合的研究	共著	平成16年5月	平成13年度～15年度科学研究費補助金（基盤研究（B)(1) ）研究成果報告書（課題番号：13410098）	本書は、文部科学省の科学研究費補助金によって、朝鮮・台湾における植民地支配の制度・機構・政策に関して総合的に研究したものである。 A4判　全232頁 編者（研究代表者）：水野直樹　　共著者：水野直樹・松田吉郎・近藤正巳・松田利彦・藤永壮・呉宏明・駒込武・青野正明・高木博志・河合和男・堀和生　　本人担当部分:「戦時期朝鮮の増米政策に関する覚書」（175～188頁）を単著。　　本稿は、2001(平成13）年10月から公開された外務省外交史料館所蔵「茗荷谷研修所旧蔵記録」の資料を利用して、戦時期の朝鮮における増米政策について概観したものである。まず、1920年から34年にかけて実施された「産米増殖計画」と対比しながら、40年実施の6ヵ年計画である「朝鮮増米計画」、および41年末の太平洋戦争勃発に伴って同計画を拡充強化した「改定増米計画」の特徴について検討した。次いで、「改定増米計画」遂行の中核的存在であった「朝鮮農地開発営団」の設立の背景や役割について考察した。そして、最後に戦争の進展に伴う労働力や資材の極端な不足によって計画ははかばかしい成果を挙げることはできなかったことを指摘した。
２．日本の朝鮮･台湾支配と植民地官僚	共著	平成21年3月	思文閣出版	本書は、近代日本の朝鮮･台湾支配を、現地におけるその担い手だった「植民地官僚」に着目して考察したものである。 A5判　全740頁 編者:松田利彦・やまだあつし 共著者:松田利彦・やまだあつし・通堂あゆみ・大浜郁子･長沢一恵・広瀬貞三･河合和男･福井譲･青野正明･三谷憲正･野口真広･水野直樹･永井和･李炯植･李昇燁・河原林直人・廣岡浄進 本人担当部分：「第二次水力調査と朝鮮総督府官僚の水力認識」(303～332頁)を単著。 本稿は、1930年代の朝鮮工業化政策の根幹に位置した電力開発問題について、工業用の原動力としての水力発電という認識が総督府官僚のなかで、いつ生まれたのかを追ったものである。まず4次にわたる総督府の水力調査についてその期間や調査範囲、調査結果を跡付け、そのうえで朝鮮の水力は乏しいという認識から貯水池式・流域変更方式の採用によって朝鮮の水力発電が有望視されるようになった大きな転換点が第2次水力調査(1922～29年）にあったこと、そしてこの認識の転換は局長・課長の事務系官僚ではなく技術系官僚によってもたらされたということを指摘した。
(学術論文)				
1.1990年代後半以降の日本の直接投資と東アジア	単著	平成24年11月	奈良産業大学社会科学学会『社会科学雑誌』第5巻、ｐ５３～ｐ８７	本稿は、東アジア域内分業の展開という観点から、1990年代後半～2000年代末の日本の東アジア向け直接投資と在東アジア日系企業の行動様式を考察したものである。まず、日本の直接投資残高の推移と業種別構成、ならびに在外日系企業の事業展開(現地法人数・従業者数、設備投資額、売上高、経常利益等の推移）から、日本の東アジア向け直接投資の特徴について考察した。次いで、在外日系企業(製造業）の販売先別売上高構成と調達先別仕入高構成といった行動様式が日本と東アジアとの貿易にどのような影響を及ぼしているのかという観点から、全製造業ならびに日本の二大投資業種である輸送機械と情報通信機械の2業種について検討した。

２．中国における日系企業	単著	平成24年12月	奈良産業大学経済経営学会『産業と経済』第25巻第1号、ｐ１～ｐ３０	本稿は、主に中国と日本の統計資料に依拠して、中国対内直接投資に占める日本の位置や特徴、中国の工業生産や輸出に占める外資企業の比重、販売先別売上高構成の観点からみた中国国内企業と日系企業をはじめとする外資企業の特徴、とくに日系企業の販売先別売上高構成・調達先別仕入高構成が中国全体の貿易や日中間貿易に及ぼす影響などをマクロ的に検討することを通じて、中国の経済発展と外資企業、特に日系企業との関わりについて考察した。併せて、世界の日系企業と対比しての在中国日系企業の特徴等についても言及した。
３.東アジア域内貿易の展開と中国	単著	平成25年2月	奈良産業大学社会科学学会『社会科学雑誌』第７巻、ｐ１～ｐ４９	本稿では中国にとって東アジア域内貿易がもつ意義を考察するための準備作業として、中国と東アジア域内貿易との関わりを数量的に検討した。まず、ＥＵ・ＮＡＦＴＡと東アジアにおける域内貿易の比較検討、ならびに東アジア域内貿易の変化という観点からの中国と他の東アジア諸国・地域との比較検討を通じて、東アジア域内貿易全体の特徴や中国における東アジア貿易の特徴を探った。さらに中国の貿易構造に関して、ＨＳ2ケタ分類に基づいて中国全体の趨勢の分析、ならびに中国―米国・ＥＵ間貿易と中国―日本を含む東アジア地域間貿易との比較検討を行なった。最後に補論として、香港を中継港とする中国・第三国間貿易における統計上の乖離問題について考察した。
（その他）				
［ノート・書評等］				
１．（書評）黒瀬郁二『東洋拓殖会社ー日本帝国主義とアジア太平洋ー』	単著	平成16年12月	奈良産業大学経済経営学会『産業と経済』第19巻第3・4号 P239～P245	同書は、東拓に関して、(1)営業地域の拡大と業務の目まぐるしい変転の理由、(2)国策会社としての二重の規定性＝国策＜植民地政策の論理＞と会社＜経営の論理＞の相互関係、(3)事業展開を根底に制約していた国際的条件を、第一次大戦と満州事変によって3期に区分される東拓の資金構造と投資構造の段階的な変化を実証的に検討することを通じて解明し、東拓研究を一段と高めることに貢献している。なお問題点として、外資導入に関する分析がやや弱く、また東拓の特徴を浮き彫りにするためにも他の国策会社との比較対照が必要であったのではないかということなどを指摘した。

［注］

1 最近10年間の教育活動、研究活動について作成すること。

2 「教育活動」については、各項目ごとに年月日順に、「学会等および社会活動」については、就任年月日順に記入すること。

3 「研究活動」については、下記の点に留意すること。

① 著書・論文及びその他の順に、発表年月日順に記入すること。

② 著者が複数にわたる場合で、筆頭著者が著書・論文等において明示されている場合には、その氏名に◎印を付すこと。

③ 共著(論文)の場合、「該当頁数」の記入にあたっては、本人の分担箇所を特定できる場合は、その頁数を記載すること。

④ 最近10年間に著書・論文等の発表のなかった者についても、教員名を挙げてその部分を空欄にしておくこと。

⑤ 芸術分野や体育実技等の分野を担当する教員については、著書・論文等以外の競技会、展覧会または演奏会等での発表のうち、特に顕著な業績と認められるものについても記載すること。このほか、専門分野の特性を 考慮し、顕著な業績と認められるものがある場合もこれに含めてもよい。

教　育　研　究　業　績　書

平成26年3月31日

氏名　清水　啓司

研究分野	研究内容のキーワード
健康・スポーツ科学 （身体教育学・体力科学・バイオメカニクス・運動生理学・スポーツ経営学）	体育授業研究（バイオメカニクス研究の成果を授業に活用する）、 運動の分析、体力科学、健康科学、スポーツ経営学

教育上の能力に関する事項

事項	年月日	概要
1　教育方法の実践例		
1）体力測定、診断、運動処方を学ぶ取り組み。授業時間最初にスポーツテスト（体力診断・運動能力）を実施し、入学時の自己の体力の現状を測定・把握し、文部省体育局データまたは、都立大学の体力標準値と比較検討させた。自己の体力評価をの分析をグループディスカッションさせ,自己の運動処方をレポート課題とした。	平成元年～現在	同じ年齢の体力基準値（文部省・都立大学体力標準値）に対して、自分がどのような測定項目で劣っているのか、優れているのかをグループディスカッションで発表させ、他の受講学生と議論させ、トレーニングの課題を整理させた。自分のトレーニングメニューを作成レポート提出させた。 奈良産業大学　「一般体育実技・講義」、大谷大学 体育実技「スポーツ研究演習」で実施した。
2）正課スポーツ実技の運動運動強度を心拍数・血中乳酸濃度（運動生理学的測定値）の指標測定から主観的運動強度評価の信頼性を確認させた取り組み。	平成11年～現在	スポーツ実技での身体活動中最も心拍数が時間当たり多い前後の心拍数と血中乳酸濃度を測定した。さらに、次の課題として、講義時間、終了時まで継続して心拍数を測定し詳しく分析した。グールプで検討議論した。 奈良産業大学　一般教養科目　健康・スポーツ科目「選択スポーツ」で実施。
3）最寄駅から大学まで（大学周辺を含む）と大学構内の歩行地図作成の取り組み。新規開講科目の「健康スポーツ演習」の課題として、自己の歩行分析をテーマとして取り組ませた。伊能忠敬の歩行地図作成の歴史も学ばせた。	平成13年～現在	自己の歩行分析として、自分の1分あたりの歩行数つまり歩行頻度（ピッチ）・一歩の歩幅（ストライド）を測定させた。その積である1分あたりの歩行距離を自覚認識させることから、大学周辺と大学構内の歩行地図を作成させた。大学周辺・構内はかなりの傾斜があるにも関わらず、かなりの精度で、自己の歩行データは役立つことを認識させた。健康・体力の面からも歩行運動の意義を講義を通じ学ばせた。最寄駅からバスに乗車せず歩く学生の比率が増加した。 奈良産業大学　健康・スポーツ科目「健康スポーツ演習」で実施。講義科目のスポーツ科学論（体力科学）でも実施した。
4）「スポーツ指導者養成プロジェクト」の取り組み、ビジネス学部開設の重点科目としてのプロジェクト演習科目の一つとして、クラブ活動を意欲的に取り組む学生に対して、指導者として初歩的な資格にチャレンジできる能力を身に着けさせるための取り組み。	平成19年～現在	（財）日本サッカー協会のキッズプロジェクトの趣旨に賛同し、キッズリーダー資格を取得させた。さらに、JFA公認C級コーチ資格（サッカーの基礎技術能力のある者に）を取得させた。受講生同士で、学ぶ側と教える側を体験し指導案の書き方や指導技法・運動生理学・発育発達の科学を学び、学年を超えたクラスで、外部講師や外部組織との連携し活動する中で、グループ学習体験を繰り返し行わせた。
(1) ビジネス学部開設に合わせて、「プロジェクト演習」の取り組みに参加し、「スポーツ指導者養成プロジェクト」を西田裕之教授と担当した。、平成24年度の奈良産業大学紀要２８集に4年間の取り組みのまとめと課題として発表した。	平成24年12月	ビジネス学部開設時のカリキュラム編成の趣旨を理解し、「学士課程教育の構築に向けての答申」を受け、学年の枠を超えた、自律志向の体験型プロジェクト演習として「スポーツ指導者養成プロジェクト」を立ち上げた。「社会参画・グループワーク・課題探究・知識活用」の4つをキーワドに「社会人基礎力」の養成に力を入れたカリキュラムの推進に取り組んだ。

5）実技・講義・演習における教育実践	平成元年～現在	実技科目では、各種目の技術習得だけでなく、準備・後方づけ・基礎練習を通じ仲間との信頼関係をつくることを重視してきた。「協力」「役割分担」「バディーやグループでの信頼関係を築く活動」を意識させリーダーシップとともにフォロアーシップも大切であることを具体的に体験させるようグループ構成に工夫した。 当然個人の技能の向上も重視した。「運動を科学する」意識を持たせバイオメカニクス的研究の成果を生かすため「スポーツ一口メモ、運動技術のコツの発見」を課題として与え、議論させ、最後に解説するように心がけてきた。 講義科目では、学習への動機づけとして、視聴覚教材（DVD・VTR）を厳選し、積極的に活用した。OHPやパワーポントを活用し、できるだけ文章・キーワード・物理学の公式だけでなく、視覚的・直感的に理解できるよう図・表や写真・動画映像を準備工夫した。学生に問いかけ質問（クイズ）を投げかけ、発言させ・議論させ、一方的講義にならないよう、インターラクティブ（双方向）な授業を心掛けてきた。講義内容も、実技・実践を伴って意味のあるものなので、とにかく「やって試る」、「やらせて見る」よう測定機材・トレーニング道具を教室に持ち込み実演するようプレゼンテーションの工夫を心掛けた。
2　作成した教科書，教材		
1）作成した教材	平成元年～現在	教材として配布してきたプリントは、　①体力分析・評価・運動処方のシリーズ②歩行分析のシリーズ③運動生理学のシリーズ④バイオメカニクスに関するシリーズ⑤スポーツマネジメントに関するシリーズを作成してきた。「体育講義」、「体育実技」、「健康スポーツ演習」、「スポーツ科学論」、「バイオメカニクス」、「スポーツマネジメント」などの講義で、また選択スポーツ実技（バスケットボール・バドミントン・テニス）でプリントを配布してきた。
3　教育上の能力に関する大学等の評価		
1）学生からの評価	平成21年～現在	平成21年度のFD委員会の学生の授業評価では、・説明はわかりやすいですか。・担当教員の授業への準備の程度。・担当教員の授業に対する意欲は感じられますか。・学習意欲は刺激されますか。・他の学生にこの授業を薦めますか。・「授業改善シート」の取り組みはなされましたか。等の半数以上の項目で5段階評価で4.0以上（4.0～4.6）の評価を、「健康スポーツ演習」・「スポーツマネジメント」・「競技スポーツ演習」の科目において前・後期連続して獲得した。 評価方法が4段階に改正された平成22年度では、「スポーツ経営学」で、総合判定3.47で、・説明の分かりやすさ。・理解度を確認しながら授業は進めていますか。・先生の授業への熱意と意欲は感じられますか。・授業時間外での学修活動を行うよう指導していますか。14項目中11項目で、3.0以上の評価を獲得した。 FD委員会として授業評価を実施していない科目についても中間「授業改善アンケート」を科目特性を考慮し独自に行い、セメスター内で改善するよう学生の意見を聴き・理解の程度を確認しながら授業を展開している。受講学生も好意的に協力してくれる信頼関係が形成され、その関係は現在も継続している。
2）学長からの評価	平成7年～現在	①平成7年度～17年度　評議委員、 ②平成16年度～17年度　FD副委員長、 ③平成18年度～19年度　学修支援センター長（部長職）、 ④平成19年度～20年度　全学共通教養推進委員長代行、 ⑤平成19年度、平成23年度　経営学部学部長代行、 ⑥平成20年度～21年度　オープンキャンパス実行委員長 ⑦平成20年度～21年度　自己点検・評価（教養教育担当委員） ⑧平成21年度～24年度　全学共通・教養教育推進委員長 ⑨平成25年度　自己点検・評価員委員長 他の学内委員会活動は、　5　その他　10)のその他の委員の項目で示す。

4　実務の経験を有する者についての特記事項		
1）特記事項なし		
5　その他の事項		
1)学内委員会活動について		
（1）評議委員	平成7年～17年	学部（経済・経営）代表委員、教養教育代表委員
（2）FD委員会副委員長	平成16年・17年	副学長が委員長に就任した。副委員長という立場ではあるが、FD委員会の本学における運営を学長から直接個人指名で委嘱一任された。京都地区大学コンソーシアムでの先進他大学のFD活動を参考に、遅れていた本学でのFD活動を仲間の委員（教員・事務職員）たちとともに意欲的に推進した。年2回の学生の授業アンケートの実施、評価のフィードバック、ホームページ上での公開、同僚教員の授業の見学・報告書による評価・交流、その後の授業研究会の実施、FDに関する先進の他大学からの講師を招聘し、全学FD講演会の実施などを実現した。 これらのFD活動の取り組みは、その後の外部評価機構からも高い評価を頂いた。奈良県大学連合のFD連絡会議にも積極的に参加するように意識改革をはかった。
（3）学修支援センター長（部長職）	平成18年・19年	学長の直接指名・委嘱を受け、初代学修支援センター長に就任した。金沢工業大学や、関西国際大学のFD活動を参考に本学で、できることから取り組んだ。自主学習室の設置・運営、支援センターとして定期試験に向けての学習・質問・疑問を受け付ける教員体制をつくり、当番日程表を学生に公表した。「なんでも相談コーナー」を作り、問題が解決するまで付き合い、関連部署に引率同行した。「目安箱」をつくり定期的に取り組み状況を公開し、その成果を公表した。奈良産業大学、学修支援室のホームページを通じ活動を公開し、「学修支援」のキーワードでの検索ヒット上位（10位以内）を担当者グループの努力で継続していた。活動内容の多くは、現在の学生支援センターに引き継がれた。
（4）全学共通・教養教育推進委員長代理	平成19年・20年	学長の直接指名・委嘱を受け、前任者の退職に伴い、全学共通・教養教育推進委員長代理の職につき第三者評価員会の教養教育分門の担当者となった。過去の会議の議事録を整理し、問題点を整理し解決策を議論した。議事録も必ず残し、会議も定例化し、「学士力の保証」に向けての課題と新カリキュラム作成に取り組んだ。
（5）経営学部長代行	平成19年・23年	経営学部募集停止の次の年度と経営学部閉鎖年度の経営学部長代行となった。
（6）オープンキャンパス実行委員長	平成20年・21年	ビジネス学部・情報学部の2学部体制でのオープンキャンパス・広報活動で中心的役割を果たした。在学生が案内し本学の生の声でアピールするオープンキャンパスを学生たちの協力で実施した。
（7）自己点検・評価委員（教養教育担当代表）	平成20年・21年	「学士力」が問われる中、ビジネス・情報学部での大幅なカリキュラム改善が実施された。特に教養基礎科目（基礎数学・基礎英語・ITリテラシー・日本語教育コミュニケーション）の設置、初年次教育、リメディアル教育、キャリア教育への対応の必要性を議論し科目を編成した。
(8) 全学共通・教養教育推進委員長	平成21年～現在	教養基礎科目（基礎数学・基礎英語・ITリテラシー・日本語コミュニケーション）、人文科学・自然科学・社会科学、キャリア科目、外国語科目、健康・スポーツ科目に関する担当者とカリキュラムの検討を推進してきた。また、初年次教育とリメディアル教育を重視し、学生支援センターと連絡・協力体制をつくり、学生の学力向上と学習環境の整備を進めてきた。フルゼミ制度や学年の枠を超えたプロジェクト演習の取り組みも本委員会として学部の教育を支えてきた。
(9)自己点検・評価委員長	平成25年	学長の直接指名により委嘱を受け就任した。 平成26年度に再審査となる外部評価機構への対応の資料準備の担当のとりまとめ役を命じられた。

(10)その他の委員会	平成元年～現在	教務委員、学生委員、入試委員、広報委員、 図書館運営委員、情報センター運営委員、 スポーツ振興委員、紀要編集委員など歴任した。
2)クラブ活動の指導について		
（1）奈良産業大学バスケットボール部（男子）指導	平成３年～現在	スポーツ推薦入学生なし、一般入学生のみの活動を部長・監督として指導 最高成績　西日本学生選手権大会ベスト１６、 関西学生リーグ３部　3位

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
1　資格，免許		
1）小学校教諭１級普通免許	昭和51年3月31日	京都教育大学 免許書番号　昭五十小一普め第三一二号 （京都府教育委員会）
2）中学校教諭１級普通免許（保健体育）	昭和51年3月31日	京都教育大学 免許書番号　昭五十中一普め第二〇三一号(保健体育) （京都府教育委員会）
3）高等学校教諭１級免許(保健体育)	昭和52年3月31日	京都教育大学 免許書番号　昭和五十一高一普め第三九号（保健体育） （京都府教育委員会）
4）修士（教育学）	昭和55年3月	大阪教育大学 学位記　第538号（教育学修士）
2　特許等		
1）特記事項なし		
3　実務の経験を有する者についての特記事項		
1）特記事項なし		

研究業績等に関する事項				
著書，学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所，発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（著書）				
（学術論文）				
1.日本人平泳ぎ選手に関する研究	単著	平成20年12月	奈良産業大学 紀要24集	pp.1～13 競泳における平泳ぎという種目、泳法については、過去の日本人水泳選手たちの工夫とアイデアで世界のトップレベルを維持してきた。その過程で競技規則がたびたび変更された。バタフライという泳法も日本人選手のアイデアで生み出された。潜水泳法も登場した。それらは、バイオメカニクス的思考により理論的根拠を得て、独自の技術練習やトレーニングを重ね、大きな競技会で栄光に輝いた。特に近代泳法はミュンヘンの田口選手から始まり、北京の北島選手で一つの完成形に到達したと評価されている。その泳法の技術の歴史を、バイオメカニクス的根拠を示しながら整理・検討した。

2. 教育課程の改善と「プロジェクト演習」による教育の可能性　-「スポーツ指導者養成プロジェクト」の取り組みから	共著	平成24年12月	奈良産業大学 紀要28集	pp. 65～78 2007年にビジネス学部は、経済学部・経営学部・法学部を統合、改組され設置された。新学部の教育目標を充たすために、基礎科目としての初年次教育の重視、さらに専門科目では演習重視のカリキュラムを提示した。学年の枠を超えて、グループによる体験型学習によって、「学士課程共通の学習成果に関する指針」に応えるべく、カリキュラムとして「プロジェクト演習」が組まれた。 【社会参画】【グループワーク】【課題探究】【知識活用】を共通コンセプトとして講座の目標を掲げ、実践活動を行ってきた。「スポーツ指導者養成プロジェクト」と担当者として、4年間のまとめと今後の課題を明らかにした。 共著者：清水啓司（第一著者）・西田裕之
3. スポーツの教育的価値・ビジネス的価値を考える　－スポーツマネジメント研究の課題から-	単著	平成24年12月	奈良産業大学 社会科学雑誌	pp. 189～209 スポーツビジネスの発展に伴う諸問題（経済的観点優先・勝利至上主義など）がスポーツの持つ本来の教育的意義を歪めていることを、オリンピックビジネスの歴史を顧みることから考察、検討した。更なる問題点を指摘し、改善のための課題をスポーツマネジメントの視点から考察した。「人を動かす力」は、「内発的動機づけを促す力」として発揮されなければならない。「自分で意思決定し、自立した人材自己育成の力をつけさせる」ことをスポーツ指導者やサポートする保護者が理解し、反省と点検を繰り返すマネジメントサイクルの形成に努力しなければならないことを指摘した。
（その他／学会発表・研究会発表）				
1.「インナーマッスルのトレーニング方法の検討」	単独	平成16年8月7日	身体運動研究会 （奈良産業大学）	話題提供：資料配布要旨　ウエイトトレーニングで鍛え上げた究極の筋肉のイメージは、体の表面に近い、てこの比率の大きな筋肉で、ボディービルダーのような肉体を連想させる。最近のスポーツトレーニングでは、関節の位置をシツカリ支え、姿勢を細かく調節する、深部の筋肉の働きも注目されるようになった。関節の運動は、伸展・屈曲だけでなく回内・回外、外旋・内旋、外転・内転などが複合された3次元運動である。深部筋のトレーニング方法の基本的注意事項を整理し、議論した。
2.「初動動作の研究 （最初の一歩について）」	単独	平成17年8月6日	身体運動研究会 （奈良産業大学）	話題提供：資料配布要旨　イチロー選手の盗塁におけるポイントから「最初の一歩」についてまとめ提案した。①リードは小さめ　②重心が高い姿勢をとると、走り出しの姿勢までに上体を下げる動作が必要になる。（重心を下げすぎると体勢が立ち上がる）③ベースを結んだライン上に立たない。②に注目して、中間姿勢から抜重し（右膝関節を崩し）スタートしている、左足（一塁側）での蹴りを意識しすぎる二段動作になりスタートは遅くなるとのこと。陸上短距離のスタートの前足・後足とブロックに対するキックは、早くスタートすることよりシツカリ反作用を得ることが大切と考えられている。
3.「ナンバ走りと二軸運動」	共同	平成18年8月5日	身体運動研究会 （奈良産業大学）	話題提供：配布資料要旨　古武術研究家の甲野善紀氏が紹介され、桐朋高校バスケット部が取り入れ成果を上げた「ナンバ走り」について、バイオメカニクスの立場から優位性についてまとめ議論した。末續信吾選手の走りのフォームを取り上げ、二軸走法の分析・解説を行い話題提供した。 共同発表者：木村陽介・清水啓司

4.「歩行運動の分析－歩行のバイオメカニクスー」	単独	平成19年8月4日	身体運動研究会 (奈良産業大学)	話題提供：配布資料要旨　歩行運動の研究の歴史は古く、古代ギリシャのアリストテレスは、「動物の前進運動」の問題として取り上げている。ウエーバーは機械的側面から、マイブリジは馬の連続写真の分析・ブラウネとフィッシャーは、足圧測定など力学的分析へと、写真技術の進歩と測定機器の発達に伴って発展してきた。ヒトの歩行周期・身体重心の変化・関節角度変化から基礎的な歩行分析のバイオメカニクスの手法を整理・確認し話題を提供した。
5.「SPEED社の最新水着と水泳の記録の関係」	単独	平成20年8月2日	身体運動研究会 (奈良産業大学)	話題提供：配布資料要旨　北京五輪に向けて、開発投入されたＳＰＥＥＤ社の「レーザー・レーサー」を着用した選手が自己ベストをつぎつぎ更新し、世界記録が2008年7月7日現在、45個以上生まれた。日本選手権でも、日本記録が15個、世界記録が1個生まれた。北島選手がどの水着を着るか注目が集まった。北京五輪直前までの水着の影響によると思われる記録を整理した。日本選手は如何すべきか議論した。
6.「スポーツトレーナーなら知っておきたい身のこなし」	共同	平成21年8月1日	身体運動研究会 (奈良産業大学)	話題提供：配布資料要旨　①腕はどこからついているか？肩甲骨の外転運動を理解する。②支持基底面と重心の関係を理解する。③遊脚と支持脚を理解することから二軸動作の理解ができる。④右動作と左動作を真に対象に行うことは難しい。などを中心に議論した。 共同発表者：木村陽介・清水啓司
7.「少年野球の指導上の注意点（主に投手の指導）」	共同	平成22年8月1日	身体運動研究会 (奈良産業大学)	話題提供：配布資料要旨　スポーツ用品会社の社員として、少年野球・高校生の野球の指導者(木村陽介)としての経験から注意すべき事柄を整理し提言した。主に投手の肘・肩の障害予防の立場から、正しい投球フォームについて議論した。 共同発表者：木村陽介・清水啓司
（その他／公開講座・出張講義・オープンキャンパスデモ講義）				
1.「経営学を学ぶとは」 －スポーツ経営学の研究から－	単独	平成21年11月21日	私立高野山高等学校 （和歌山県）	配布資料:大学には、総合大学と単科大学があり、学術・研究の専門機関である。大学教育の特徴として、セメスター制と単位履修制度、ゼミナールを紹介した。経営学とは何か、学問領域と関連科目設定について解説した。ヒト・モノ・カネ・情報の4つの経営資源をコントロールし、社会にサービスし、利益を上げ、組織を継続的に存続・発展させ、社会貢献する営みであることを解説した。経営学理論の基本的な歴史の解説とスポーツマネジメントの具体例を、ロス五輪以後の民間のスポーツの発展からの取り組みを解説した。
2.「大学で学ぶべきこと」 －先入観をすて自分自身で判断する力を身に着けようー	単独	平成22年3月27日	奈良産業大学 オープンキャンパス模擬講義	配布資料：「大学で学ぶとは、他者の経験から学び（文献を読む）、自分自身で過去の経験を整理し、自分の所属しているグループで何が課題であるか、問題を発見し、仲間と協力して解決策を見出し行動できる力を身に付けることである。との立場から、先入観に囚われず自分の頭で考え行動し、社会貢献できる人物になろう！と参加者に呼びかけた。そのためにぜひ本学のプログラム演習で学びませんかと呼びかけた。

3.「スポーツマネジメントとは？」	単独	平成22年6月15日	奈良県立大和広陵高等学校 （スポーツコース）	配布資料：「体育・スポーツ関係で職業に就くために」という観点でスポーツコースの生徒に講義した。体育教師になるためには、教育大学と呼ばれる国立大学の教育学部（大阪教育・京都教育・奈良教育）の体育学科を卒業するか、いわゆる体育大学（大阪体育・日本体育・天理大学・中京・びわ湖成蹊）の体育学部を卒業するか、地方の総合国立大学（筑波・滋賀・和歌山）の教育学部、体育学科を卒業するかが考えられる。国立では、鹿屋体育大学があることを紹介した。スポーツに関わり生計を立てている職業を紹介した。球団職員・用品メーカー・公務員・施設管理・コーチなどを紹介した。スポーツ用品メーカーの紹介として、美津濃・アシックス・アディダスの商品開発競争と企業の歴史を紹介した。
4.「スポーツ科学を学ぶ（運動生理学・バイオメカニクス）」 ースポーツ活動で何を学ぶべきかー	単独	平成22年6月19日	私立東大阪柏原高等学校 体育科（大阪府）	配布資料：生徒44人・教員2人・保護者7人 「スポーツを通じで何を学ぶか？」 勝利するためには「最新スポーツ科学（運動生理学・バイオメカニクス）を学ばねばならない、筋組成・心拍数・最大酸素摂取量・有酸素運動など基本的事項を解説した。スポーツを教材として、教育に生かすことは可能であるが、競技スポーツ優先・勝利至上主義・スポーツによる経済的効果（商業主義）が優先されると問題が生じることを指摘し、議論した。勝利至上主義とトーピング（薬物）、メダル優先、人格を否定され暴力に耐える選手達がいることを指摘し、議論した。
5.「体育学・スポーツ科学の紹介」	単独	平成22年6月23日	奈良県立西和青陵高等学校	配布資料：「ナショナルトレーニングセンターの完成と体育学・スポーツ科学の成果について」の話をした。主に、北京五輪選手（水泳の北島）の科学的トレーニングのサポート体制の強化とその成果。クラブ活動している生徒に、進路選択（進学）のために「スポーツに関わる職業」と「スポーツマネジメント」の話をした。
6.「経営学について」 ースポーツマネジメントの立場からー	単独	平成23年1月26日	奈良県立二階堂高等学校	配布資料:職業選択・大学進路選択に向けてお話を生徒にした。経営学とは何か、学問領域と関連科目設定について解説した。ヒト・モノ・カネ・情報の4つの経営資源をコントロールし、社会にサービスし、利益を上げ、組織を継続的に存続・発展させ、社会貢献する営みであることを解説した。経営学理論の基本的な歴史の解説をした。スポーツマネジメントの課題となる、マーケティングの具体例をスポーツ用品メーカーの商品開発努力を運動用シューズ（アシックスと美津濃、海外メーカー）の例を挙げ解説した。ロサンゼルスオリンピックでの民間活力の導入と近代オリンピックの変貌を解説した。
7.「オリンピックとスポーツビジネスの歴史」 ースポーツの教育的価値・ビジネス的価値を考えるー	単独	平成23年5月21日	奈良産業大学主催 王寺町リーベルカレッジ （公開講座）	配布資料：「オリンピック開催とスポーツビジネスの発展」ピーターユベロスが1988年ロサンゼルス大会を民間活力を導入し、税金を充当せず大成功に導いた。以後オリンピック開催は、経済効果も期待されビジネスチャンスの宝庫であると認識されるようになった。招致合戦は激戦となった。しかし、体育・スポーツが勝利至上主義、ビジネス優先に終始すれば、教育的には問題を含んでいることを指摘しておかねばならない。さらにエスカレートする薬物問題、選手の人権問題なども考えられることを講義した。

［注］

1 最近10年間の教育活動、研究活動について作成すること。

2 「教育活動」については、各項目ごとに年月日順に、「学会等および社会活動」については、就任年月日順に記入すること。

3 「研究活動」については、下記の点に留意すること。

① 著書・論文及びその他の順に、発表年月日順に記入すること。

② 著者が複数にわたる場合で、筆頭著者が著書・論文等において明示されている場合には、その氏名に◎印を付すこと。

③ 共著（論文）の場合、「該当頁数」の記入にあたっては、本人の分担箇所を特定できる場合は、その頁数を記載すること。

④ 最近10年間に著書・論文等の発表のなかった者についても、教員名を挙げてその部分を空欄にしておくこと。

⑤ 芸術分野や体育実技等の分野を担当する教員については、著書・論文等以外の競技会、展覧会または演奏会等での発表のうち、特に顕著な業績と認められるものについても記載すること。このほか、専門分野の特性を 考慮し、顕著な業績と認められるものがある場合もこれに含めてもよい。

教　育　研　究　業　績　書

平成26年3月31日

氏名　松本（伊達）　桃子

研究分野	研究内容のキーワード
文学	英米文学、比較文学、児童文学

教育上の能力に関する事項

事項	年月日	概要
1　教育方法の実践例		
1）Eラーニングを活用した授業の実践	平成20年４月～平成26年3月	奈良産業大学ビジネス学部ビジネス学科、情報学部情報学科の外国語科目「基礎英語Ⅰ」において、Eラーニングによる演習を授業の主体とした。学生はコンピュータ上で問題演習を行い、誤答すれば同じ問題を３回連続で正答するまで繰り返し解かねばならない。正答率や回答に要した時間は教員のコンピュータ上で見ることができるので、各人の苦手分野を把握し、的確な指導ができた。また、進捗状況を点数化して成績に反映するため、学生は具体的な目標を得て学習意欲が増し、授業への満足度も高まった。
2）パワーポイントを用いた理解度向上	平成21年4月～平成26年3月	上記「基礎英語Ⅰ」において、理解が不十分なまま問題演習に取り組み、誤答を繰り返して学習意欲が低下する学生が見られたので、平成21年４月から、問題演習の前に自作のパワーポイント教材を用いて授業内容の概説を行い、理解度を向上させた。さらに、平成23年度からはパワーポイントの内容を書き込み式教材として印刷、配布し、学生の能動的学習を促している。
3）ドリル教材による理解度の把握と授業改善	平成21年４月～現在	上記「基礎英語Ⅰ」において、問題演習後の理解の定着ときめ細かい達成度把握のために、演習後の小テストを毎授業時間の最後に実施し、添削して次回に返却している。また、達成度をＡＢＣの３段階で評価し、成績に反映するとともに、Ｃの学生には最低Ｂランクに到達するまで再提出を義務づけている。 また「基礎英語Ⅱ」についても書き込み式の補助教材を作成し、学生の授業参加を促すとともに、ノートとして復習に使えるものとしている。これも毎回の提出を義務づけ、達成度を上と同じ方式で評価し、添削して次回に返却している。 「英語読解Ⅰ・Ⅱ」においても、教科書準拠のワークシートを自作し、毎回の提出を義務づけ、添削して返却している。
4）音声教材による発音とリスニングの指導	平成19年４月～現在	奈良産業大学ビジネス学部ビジネス学科、情報学部情報学科の外国語科目「TOEIC対策英語Ⅰ・Ⅱ」、また「資格試験対策英語Ⅰ・Ⅱ」において、TOEIC試験の問題形式に準拠した教材を使用し、全授業回数の半分をリスニング対策に充てている。問題音声を最低３回CDで流し、初回はスキャニングで概要を把握させ、次はスキミングで必要な情報を拾い出させ、最後はシャドーイングで発音を再現させることを試みている。初回は聞き取れない学生も、必要な情報を特定することで聞き取れるようになり、自信をつけていく傾向が見て取れる。さらに、英語の歌を使用して歌詞の一部を聞き取らせる活動を授業の最後に組み入れ、楽しみながら聴解力を上げる訓練をしている。
2　作成した教科書，教材		
1）「導入演習・基礎演習」（奈良産業大学ビジネス学部）	平成19年４月～９月	奈良産業大学ビジネス学部の「導入演習」において使用した。作成を担当した第５章「文章の書き方」では、長文を読みこなし内容を簡潔にまとめる能力を伸ばすことを目指し、一定の効果を上げることができた。
2）講義用補助教材「公務員試験対策英語」	平成８年４月～平成20年３月	奈良産業大学法学部法学科、ビジネス学部ビジネス学科の「公務員試験対策英語」のために作成した教材。公務員試験の過去問題や模擬問題から、学生の実力に併せた問題を選択し、主題別あるいは文法事項別にまとめて毎回の授業テキストとして使用した。

3）講義用補助教材「英語（講読）」	平成19年４月～平成20年３月	奈良産業大学情報学部情報学科の「基礎英語Ⅰ」のために作成した教材。テキストに準拠し、単語、内容把握、発音練習、英作文などの演習をバランス良く配置して、オールラウンドな英語力の養成を図った。
4）講義用補助教材「基礎英語Ⅰ」	平成21年４月～平成26年3月	奈良産業大学ビジネス学部ビジネス学科、情報学部情報学科の「基礎英語Ⅰ」のために作成した教材。上記１-2),3)の内容を参照。
5）講義用補助教材「基礎英語Ⅱ」	平成21年４月～現在	奈良産業大学ビジネス学部ビジネス学科、情報学部情報学科の「基礎英語Ⅱ」のために作成した教材。上記１-3)の内容を参照。
6）講義用補助教材「英語Ⅰ・Ⅱ」「TOEIC対策英語Ⅰ・Ⅱ」「資格試験対策英語Ⅰ・Ⅱ」	平成５年４月～現在	奈良産業大学法学部法学科の「英語Ⅰ・Ⅱ」、ビジネス学部ビジネス学科、情報学部情報学科の「TOEIC対策英語Ⅰ・Ⅱ」「資格試験対策英語Ⅰ・Ⅱ」のために作成した教材。英語のポップソングから、親しみやすく聞き取りが容易なものを選び、歌詞の一部を空欄にして聞き取り教材とした。
3　教育上の能力に関する大学等の評価		
1）授業評価アンケート	平成25年11月	平成20年度から実施されている授業評価アンケートにおいては、毎回肯定的な評価を得ている。平成25年11月のアンケートでは、ほぼすべての授業で平均値を上回る評価を受けた。
2）学長からの評価（奈良産業大学）	平成24年度	講義・演習を堅実にこなしており、授業内容や授業の運営に対して学生からの評価も高く、教育能力は十分にあると考える。英語を苦手とする学生が多い中で、授業内容に対する理解度の向上をはかるため、常に授業方法の工夫に取り組んでいる。こうした授業改善への積極的な姿勢は、学生の語学能力の育成に貢献している。
4　実務の経験を有する者についての特記事項		
1）奈良産業大学公開講座『平成20年度王寺りーべるカレッジ』 （於王寺町地域交流センター）	平成20年７月	「ファンタジーの新しい波－『ハリー・ポッター』は何をもたらしたのか」と題して講演を行った。下記、講演１を参照。
2）生駒市図書館英米文学講座 （於生駒市図書館）	平成21年10月	「人形の家から見る現代の家族」と題して講演を行った。下記、講演２を参照。
3）奈良産業大学公開講座『平成22年度王寺りーべるカレッジ』 （於王寺町地域交流センター）	平成22年6月	「人形ファンタジーに見る現代の家族」と題して講演を行った。下記、講演３を参照。
4）奈良産業大学公開講座『平成25年度王寺りーべるカレッジ』 （於王寺町地域交流センター）	平成25年9月	「映画になったファンタジー―よみがえる古典作品―」と題して講演を行った。下記、講演４を参照。
5）奈良産業大学公開講座『平成25年度王寺りーべるカレッジ』 （於王寺町地域交流センター）	平成25年9月	「映画になったファンタジー―現代ファンタジーの挑戦―」と題して講演を行った。下記、講演５を参照。
5　その他		
1）奈良産業大学法学部法学科における教育実績	平成５年４月～平成19年３月（平成17年度を除く）	「英語ⅠA」（平成9～14,16,18年度） 英文の講読を中心とした初年次用の授業である。 「英語ⅠB」（平成6,9～12,14～16年度） LL演習を中心とした初年次用の英語の授業である。 「英語ⅡA」（平成5,7～8,13年度） 英文の講読を中心とした２年次用の授業である。 「公務員試験対策英語」（平成14～16,18年度） 公務員試験の英語問題の演習を行う授業である。 「実用英語C」（平成18年度） TOEICを中心とした資格試験問題の演習を行う授業である。

２）奈良産業大学ビジネス学部ビジネス学科における教育実績	平成19年４月～現在	「英語ＩA」（平成19年度） 「実用英語C」（平成19～20年度） 「公務員試験対策英語」（平成19～20年度） 上記参照。 「TOEIC試験対策英語」（平成19～23年度） TOEICの問題演習を行う授業である。 「英語（講読）」（平成20～22年度） 英文の講読を中心とした初年次用の授業である。 「導入演習」（平成19～20,22年度） 「基礎演習」（平成19～20,22年度） 大学生活に必要な学習能力、学習習慣を身につけさせる授業である。 「総合演習」（平成21年度） 演習形式で実践力を養う授業である。 「英語コミュニケーション」（平成21～22年度） 英文法を中心に基礎的な英語力を養う授業である。 「基礎英語Ｉ」（平成23～24年度） 「基礎英語Ⅱ」（平成23～24年度） 英文法を中心に基礎的な英語力を養う授業である。
３）大阪工業大学における教育実績	平成12年４月～平成17年３月	「英作文・英文法」（平成12年度） 英作文と英文法に特化した授業である。 「時事英語」（平成13～14年度） ニュース英語を題材とした授業である。 「科学技術英語」（平成15年度） 科学技術の分野で使われる英語を題材とした授業である。 「資格英語」（平成16年度） TOEICを中心とした資格試験問題の演習を行う授業である。

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
１　資格，免許		
１）文学修士	平成２年３月	奈良女子大学　第419号 論文題目：Myth, History, and Story:J. R. R. Tolkien's Secondary World
２）中学校教諭専修免許状	平成２年３月	外国語（英語）（第34号）
３）高等学校教諭専修免許状	平成２年３月	外国語（英語）（第126号）
４）TOEIC（国際コミュニケーション英語能力テスト）	平成24年３月	９９０点取得
２　特許等		
なし		なし
３　実務の経験を有する者についての特記事項		
１）日本イギリス児童文学会理事	平成20年4月～平成26年3月	学会規定の改訂、会員名簿の管理などの実務に当たった。

２）日本イギリス児童文学会TINKER BELL編集委員	平成20年4月～ 平成24年3月	学会の紀要TINKER BELLの査読、編集作業などの実務に当たった。
４　その他		
１）ホームページ企画小委員会委員長	平成20年4月～ 平成24年3月	広報委員会の下部組織であるホームページ企画小委員会の委員長を務めた。

研　究　業　績　等　に　関　す　る　事　項

著書，学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所，発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　要
（著書）				
１．英語圏諸国の児童文学 Ⅰ　物語ジャンルと歴史	共著	平成23年３月	ミネルヴァ書房	冒険物語、少年・少女小説、孤児物語など、30テーマを取り上げ、簡潔な説明と作家・作品解説を加えた総合的な児童文学ガイド。 Ａ５判　全194頁 編者：日本イギリス児童文学会 共著者：三宅興子、桂宥子、永島憲江、森野聡子、福田泰久、藤本朝巳、夏目康子、森恵子、水間千恵、伊達桃子ほか２０名 本人担当部分：「２３　人形・おもちゃ物語」（P.133-P.138）を単著。 人形やおもちゃが命を得て動き出すというファンタジーの系譜をたどり、代表的な作品を紹介しながら、この形式がもつ意味を考えた。
２．英米児童文化55のキーワード	共著	平成25年３月	ミネルヴァ書房	英米の児童文化に関わる５５のキーワードを取り上げて概説し、そのキーワードに関連する児童文学作家と作品を解説する。 A５判　全280頁 編者：白井澄子、笹田裕子 共著者：安藤聡、井辻朱美、川端有子、神戸洋子、北本正章、笹田裕子、白井澄子、島式子、鈴木宏枝、高田賢一、伊達桃子ほか１４名 本人担当部分：「１－３　子育て」(p.12～p.15)を単著。 時代によって変遷する子育ての理念と実態を辿り、子育てが社会を映す鏡であることを明らかにした。 本人担当部分：「３－３　乳母」(p.76～p.79)を単著。 イギリス独自の発展を遂げた乳母という職業の変遷をたどり、児童文学におけるもっとも有名な乳母メアリー・ポピンズの表象とからめて考察した。 本人担当部分：「４－３　人形」(p.112～p.115)を単著。 子どもにとって人形のもつ意味と、大人が教育手段として人形を用いる場合の意味を比較しながら考察した。
（学術論文）				
１．人形ファンタジーにおける「家」と「家族」 （査読付）	単著	平成17年２月	日本イギリス児童文学会誌「英語圏児童文学研究TINKER BELL」 No.50 P.30-P.44	ルーマー・ゴッデン『人形の家』、ジェーン・ガーダムThrough the Dolls' House Door, シルヴィア・ウァフ『メニム一家の物語』シリーズ、アン・マーティンとローラ・ゴドウィン『アナベル・ドールの冒険』シリーズという20世紀半ばから現代までの４作の人形ファンタジーを取り上げ、そこに描かれた家と家族のあり方の変遷を考察した。学会発表４の内容に加筆・訂正を行ったものである。

２．ファンタジーとして見た『ハリー・ポッター』	単著	平成20年３月	奈良産業大学法学会誌「奈良法学会雑誌」20巻３・４号 P.1-P.17	世界的な人気を博した反面、文学としては厳しい評価を受けることも多いJ. K. ローリングの『ハリー・ポッター』シリーズをファンタジーのジャンル的特質に注目して分析した。シンポジウム１の本人担当部分の内容に加筆・訂正を行ったものである。
３．ファンタジーの新しい波―『ハリー・ポッター』は何をもたらしたのか―	単著	平成20年12月	奈良産業大学社会科学学会誌「社会科学雑誌」第1巻 P.149-P.170	J. K. ローリングの『ハリー・ポッター』シリーズをイギリス児童文学の伝統の中に位置づけ、この作品が社会にもたらした影響を探った。講演２に加筆・訂正を行ったものである。
４．デイヴィッド・アーモンド『クレイ』における中間性の意味	単著	平成23年12月	「奈良産業大学紀要」第17集 P.67-P.78	デイヴィッド・アーモンドの『クレイ』を、アーモンドの作品総体の中での位置づけと、人形ファンタジーとしての特性という２つの観点から分析した。学会発表５の内容に加筆・訂正を行ったものである。
５．人形ファンタジーにおける変身	単著	平成24年3月	奈良産業大学社会科学学会誌「社会科学雑誌」第４巻 P.1-P.21	人形から人間、人間から人形への変身というモチーフを含む児童文学作品を時代順に6点取り上げ、それぞれにおいてこのモチーフの表す意味の変遷をたどった。学会発表６の内容に加筆・訂正を行ったものである。
６．デイヴィッド・アーモンドの作品における怪物と天使 （査読付）	単著	平成25年3月	日本イギリス児童文学会誌「英語圏児童文学研究 TINKER BELL」 No.58 pp.57-71	アーモンドの作品に頻出する超自然的な存在を怪物と天使の２種類に大別し、それぞれの意味と作中での機能を考えた。怪物と天使はともに人間の内なる二面性を表し、これらを外部ではなく内部に見出すことが主人公の成長にとって必要であることを示した。
（その他）				
１．世界文学あらすじ大事典１	共著	平成17年7月	国書刊行会	原書名：Masterpieces of World Literature in Digest Form フランク・マギルの原書(1952-56)を下敷きに、独自の項目や解説を加え、世界の文学作品１００１作（シリーズ全4巻合計）のあらすじを詳述した事典。 監修：横山茂雄、石堂藍 共訳者：石堂藍、伊藤雅子、應谷靖子、太田純、加藤紀子、金井真弓、唐澤洋子、川口有紀、菊池由美、伊達桃子ほか34名 本人担当部分：「アテネのタイモン」(P.62-P.64)「ウィンダミア卿夫人の扇」（P.263-P.265)「ヴェローナの二紳士」（P.275-P.277)「エマ」(P.354-P.357)「ガラスの鍵」(P.539-P.541)「狐になった人妻」(P.594-P.596)「吸血鬼ドラキュラ」(P.608-P.611)
２．世界文学あらすじ大事典2	共著	平成17年12月	国書刊行会	翻訳５の内容を参照のこと。 本人担当部分：「ジョン王」(P.426-P.429)「ゼンダ城の虜」(P.574-P.576)「タイタス・アンドロニカス」(P.597-P.601)「ダニエル・デロンダ」(P.639-P.643)
３．世界文学あらすじ大事典3	共著	平成18年9月	国書刊行会	翻訳５の内容を参照のこと。 本人担当部分：「説きふせられて」(P.145-P.148)「トロイラスとクレシダ」(P.218-P.221)「ナルニア国ものがたり」(P.270-P.275)「人間の絆」(P.328-P.332)「バラントレーの若殿」(P.467-P.471)「白衣の騎士団」(P.577-P.580)「二人の貴公子」(P.645-P.647)「冬物語」(P.660-P.663)

４．世界文学あらすじ大事典4	共著	平成19年６月	国書刊行会	翻訳５の内容を参照のこと。 本人担当部分：「ヘンリー五世」(P.81-P.83)「ヘンリー八世」(P.83-P.85)「ヘンリー四世」(P.85-P.89)「ヘンリー六世」(P.92-P.97)「ポイントンの蒐集品」(P.99-P.101)「まじめが肝心」(P.161-P.163)「指輪物語」(P.429-P.436)「四つの書名」(P.464-P.467)「レベッカ」(P.575-P.578)「罠」(P.673-P.675)
（その他）				
「学会発表」				
１．デイヴィッド・アーモンド『クレイ』における中間性の意味	単独	平成20年11月	日本イギリス児童文学会第39回研究大会 （於清泉女子大学）	学術論文12の内容を参照のこと。
２．人形ファンタジーにおける変身	単独	平成22年11月	奈良女子大学英語英米文学会第39回大会 （於奈良女子大学）	学術論文13の内容を参照のこと。
「シンポジウム」				
１．『ハリー・ポッター』はおもしろかったのか	共同	平成19年11月	日本イギリス児童文学会第38回研究大会 （於中京大学）	世界的なベストセラーとなった『ハリー・ポッター』シリーズの終了に際して、この作品のどこがどのように受けたのか分析を試みた。発表者はそれぞれ、時代、ファンタジーとしての様式、フェミニズムによるヒロイン像、ポピュラー・カルチャーとしての普遍性の観点から作品の魅力を論じた。 本人担当部分：『ハリー・ポッター』のファンタジー性 共同発表者：戸田山みどり、伊達桃子、森野聡子、森有礼
「講演」				
１．ファンタジーの新しい波－『ハリー・ポッター』は何をもたらしたのか	単独	平成20年７月	奈良産業大学公開講座『平成20年度王寺リーベるカレッジ』 （於王寺町地域交流センター）	学術論文11の内容を参照のこと。
２．人形の家から見る現代の家族	単独	平成21年10月	生駒市図書館英米文学講座 （於生駒市図書館）	学術論文９の内容を下敷きに、ガーダムの作品を除き、ラッセル・ホーバンの『親子ネズミの冒険』を取り上げて、フェミニズム的視点を取り入れ、かつ一般にわかりやすい内容に改めた。
３．人形ファンタジーから見る現代の家族	単独	平成22年６月	奈良産業大学公開講座『平成22年度王寺リーベるカレッジ』 （於王寺町地域交流センター）	講演３の内容を下敷きに、ファンタジーの定義についてさらにわかりやすく解説した。
４．映画になったファンタジー―よみがえる古典作品―	単独	平成25年9月	奈良産業大学公開講座『平成25年度王寺リーベるカレッジ』 （於王寺町地域交流センター）	ファンタジーの映画化の歴史を辿り、『不思議の国のアリス』『オズの魔法使い』『ピーター・パン』などの古典作品について、映画化に際して原作がどのように変更され、どのような価値観を伝えようとするか、社会状況と絡めて検討した。
５．映画になったファンタジー―現代ファンタジーの挑戦―	単独	平成25年９月	奈良産業大学公開講座『平成25年度王寺リーベるカレッジ』 （於王寺町地域交流センター）	特に1990年代以降のファンタジーの映画化において、『指輪物語』『ハリー・ポッター』『ライラの冒険』などの現代作品の描かれ方と、映画化の成功あるいは失敗の要因を論じた。

［注］

1 最近10年間の教育活動、研究活動について作成すること。

2 「教育活動」については、各項目ごとに年月日順に、「学会等および社会活動」については、就任年月日順に記入すること。

3 「研究活動」については、下記の点に留意すること。

① 著書・論文及びその他の順に、発表年月日順に記入すること。

② 著者が複数にわたる場合で、筆頭著者が著書・論文等において明示されている場合には、その氏名に◎印を付すこと。

③ 共著（論文）の場合、「該当頁数」の記入にあたっては、本人の分担箇所を特定できる場合は、その頁数を記載すること。

④ 最近10年間に著書・論文等の発表のなかった者についても、教員名を挙げてその部分を空欄にしておくこと。

⑤ 芸術分野や体育実技等の分野を担当する教員については、著書・論文等以外の競技会、展覧会または演奏会等での発表のうち、特に顕著な業績と認められるものについても記載すること。このほか、専門分野の特性を 考慮し、顕著な業績と認められるものがある場合もこれに含めてもよい。

教　育　研　究　業　績　書

平成26年3月31日

氏名　　西口　清治

研究分野	研究内容のキーワード
会計学	財務会計、簿記

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
1　教育方法の実践例		
1）経営学部「教育問題研究会」の設置	平成15年4月～17年3月	経営学部教員による教育問題の研究会を主催
2　作成した教科書，教材		
1）一年次共通テキスト「会計入門」	平成19年4月	会計学を初めて学ぶ学生への入門書で会計の考え方、簿記、財務諸表、経営分析について概要を述べたものである。
2）一年次共通テキスト「簿記の仕組みとビジネス」	平成23年4月	「会計入門」の改訂版であり、より現代のビジネスにおける会計学と簿記論をわかりやすく開設したものである。
3　教育上の能力に関する大学等の評価		
1）特記事項なし		
4　実務の経験を有する者についての特記事項		
1）特記事項なし		
5　その他		
1）特記事項なし		

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
1　資格，免許		
1）特記事項なし		
2　特許等		
1）特記事項なし		
3　実務の経験を有する者についての特記事項		
1）特記事項なし		

4　その他		
1）特記事項なし		

研究業績等に関する事項				
著書，学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所，発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（著書）				
（学術論文）				
1.小資金による株式投資と会計情報	単	平成18年3月	奈良産業大学経済学会「産業と経済」21巻1号 P.57～P.83	本稿は、小額（少額）から、株式投資を始める個人の投資家を対象に株式投資の現状と戦略を述べたものである。以下、手軽に入手できる「会計情報」、ここでは『会社四季報』などやインターネット上の情報を使って、投資判断する前提でものである。なお、信用取引については、投機性が強く、制約もあるので、触れていない。
2.我が国におけるキャッシュ・フロー計算書の傾向	単	平成24年11月	奈良産業大学社会科学学会「社会科学雑誌」第5巻 P.315～P333	会計情報としてのキャッシュ・フロー計算書の情報は企業経営者や情報利用者にとって意思決定に役立つ情報が必要である。キャッシュ・フロー計算書の作成目的は、損益計算書とは別の観点から企業の資金状況を開示、すなわち企業の現金創出能力と支払い能力を査定するのに役立つ情報を提供し、利益の質を評価するのに役立つ情報を提供することの視点から、企業の財務データを用い傾向を分析している。
3.100円ショップのビジネスモデルと会計構造	単	平成24年12月	奈良産業大学「地域公共学研究所年報」第３集 P.35～P.50	普段の生活になじみのある日用品・文房具等の生活雑貨商品を１００円で販売している「１００円ショツプ」をとりあげ、現実の経営方法を検討し、「ヒト・モノ・カネ・情報」などの経営資源の考察を行う。　本稿は、筆者が文房具や日用品の購入でよく利用している１００円ショップを経営学的にまた会計学的視点から分析したものである。
4.小型計算機による会計計算技法	単	平成24年12月	奈良産業大学経済学会「産業と経済」25巻1号 P.83～P.105	本稿は過去の計算器具であるが、t会計領域においてまだ利用できる可能性があるのではないかとの思いから各種計算器を考察してみた。その結果そろばんや円形計算尺にはまだ利用できる可能性があることが分析できた。
5.計算ツールの会計領域への適用可能性	単	平成25年2月	奈良産業大学社会科学学会「社会科学雑誌」第7巻 P.51～P72	現在は会計情報の分析や活用において、デジタル機器としてパソコンを含めた汎用コンピュータの利用が一般的であるが、果たしてこれだけではないであろうと、また過去利用されていた計算道具の中にも考慮すべきツールをあるのではないかとの思いで、長年調査してきた。本稿では計算道具として金融電卓と円形計算尺を取り上げ、会計での適用可能性について分析したものである。
（その他）				

［注］
1　最近10年間の教育活動、研究活動について作成すること。
2「教育活動」については、各項目ごとに年月日順に、「学会等および社会活動」については、就任年月日順に記入すること。
3「研究活動」については、下記の点に留意すること。
　①　著書･論文及びその他の順に、発表年月日順に記入すること。

② 著者が複数にわたる場合で、筆頭著者が著書・論文等において明示されている場合には、その氏名に◎印を付すこと。
③ 共著（論文）の場合、「該当頁数」の記入にあたっては、本人の分担箇所を特定できる場合は、その頁数を記載すること。
④ 最近10年間に著書・論文等の発表のなかった者についても、教員名を挙げてその部分を空欄にしておくこと。
⑤ 芸術分野や体育実技等の分野を担当する教員については、著書・論文等以外の競技会、展覧会または演奏会等での発表のうち、特に顕著な業績と認められるものについても記載すること。このほか、専門分野の特性を 考慮し、顕著な業績と認められるものがある場合もこれに含めてもよい。

教　育　研　究　業　績　書

平成26年3月31日

氏名　　西田　裕之

研究分野	研究内容のキーワード
スポーツ方法学研究	サッカー、体力、指導方法、分析

教育上の能力に関する事項

事項	年月日	概要
1　教育方法の実践例		
1）プロジェクト演習「スポーツ指導者養成」において、奈良県内保育園・幼稚園の巡回指導アシスタントの実施。	平成22年10月～現在に至る	奈良産業大学プロジェクト演習「スポーツ指導者養成」受講生に日本サッカー協会の「キッズリーダー」を取得させ、その後、奈良県サッカー協会が実施している保育園・幼稚園巡回指導のアシスタントとして、実際の現場での指導を体験させる。
2）プロジェクト演習「スポーツ指導者養成」における指導実践の実施	平成22年度～現在に至る	奈良産業大学プロジェクト演習「スポーツ指導者養成」において、受講生1名が指導者となり、その他の学生が選手役となって指導実践を行う。最後にその指導内容、方法についての意見交換を行う。
2　作成した教科書，教材		
1）コーチング論プリント	平成23年4月	コーチング論の授業用ワークシートを作成。毎時間提出させて点検・確認を行う。
2）スポーツ文化史プリント	平成23年4月	スポーツ文化史の授業用ワークシートを作成。毎時間提出させて点検・確認を行う。
3　教育上の能力に関する大学等の評価		
1）奈良産業大学平成23年度授業評価アンケート	平成23年7月27日	「コーチング論」について、授業評価アンケートを受けて改善策等を回答。
2）奈良産業大学平成24年度前期授業評価アンケート	平成24年7月25日	「コーチング論」「日本語コミュニケーションⅠ」について、授業評価アンケートを受けて改善策等を回答。
3）奈良産業大学平成24年度後期授業評価アンケート	平成25年1月23日	「日本語コミュニケーションⅡ」について、授業評価アンケートを受けて改善策等を回答。
4）奈良産業大学平成25年度前期授業評価アンケート	平成25年7月24日	「コーチング論」「日本語コミュニケーションⅠ」について、授業評価アンケートを受けて改善策等を回答。
5）奈良産業大学平成25年度後期授業評価アンケート	平成26年1月22日	「日本語コミュニケーションⅡ」について、授業評価アンケートを受けて改善策等を回答。
4　実務の経験を有する者についての特記事項		
1）王寺町「リーベル・カレッジ」公開講座　講師	平成19年9月	王寺町リーベルカレッジにおいて、「スポーツで子どもを育てる」をテーマで講演。凶悪犯罪の低年齢化が進む日本社会において、その要因として発育期におけるインターネット・携帯電話・テレビゲーム等の脳への悪影響を挙げ、その防止策として発育期の子どもたちにスポーツの楽しさ、外遊びの面白さを教えることの重要性を説いた。
2）日韓大学サッカー指導者セミナー（光云大学）シンポジウムパネラー	平成21年3月	毎年3月に実施される「日韓大学サッカー指導者セミナー」のパネラーとして登壇。韓国から3名、日本から3名の指導者が両国の大学サッカーの育成システムや強化策を討論。
3）王寺町「リーベル・カレッジ」公開講座　講師	平成22年6月	王寺町リーベルカレッジにおいて、FIFAワールドカップ南アフリカ大会の開催中に合わせて「FOOTBALLの歴史」について講演。フットボールの成立から世界への普及・発展、FIFAワールドカップの誕生から現在の発展に至る歴史について映像を交えて解説。

5　その他		
1）日本サッカー協会公認「C級コーチ養成講習会」の開催	平成23年6月～9月	奈良産業大学プロジェクト演習「スポーツ指導者養成」の受講生中、サッカー経験者に対して、日本サッカー協会公認「C級コーチ養成講習会」を別途開催し、6名が資格を取得。
1)奈良教育大学における教育実践	平成13年10月～平成22年3月	奈良教育大学の非常勤講師として後期の半年間「球技Ⅱ（サッカー）」を担当した。
2）同志社大学における教育実践	平成14年４月～平成20年３月	同志社大学法学部の嘱託教員として「スポーツパフォーマンスⅠ（サッカー）」を担当した。
3）同志社大学における教育実践	平成20年４月～	同志社大学健康スポーツ科学部の嘱託教員として「スポーツパフォーマンスⅠ（サッカー）」を担当している。

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
1　資格，免許		
1．資格 (一財）日本体育協会公認Ｃ級スポーツ指導員取得 （一財）日本体育協会（財）日本サッカー協会公認Ｂ級コーチ取得 （一財）日本体育協会（財）日本サッカー協会公認Ａ級コーチ取得 （一財）日本サッカー協会準指導員インストラクター （ＪＦＡ:Ｃ級コーチ講習会インストラクター資格）	平成3年10月 平成9年10月 平成11年10月 平成14年4月～現在に至る	奈良県内でのサッカー指導が可能の公認資格 サッカー競技力向上を目的に、ユース年代の指導が可能の公認資格 サッカー競技力向上を目的に、アマチュアのトップレベルの指導が可能の公認資格 （一財）日本サッカー協会公認Ｃコーチ養成講習会のインストラクターを務めることが可能な資格
2　特許等		
なし		
3　実務の経験を有する者についての特記事項		
1）（一財）全日本大学サッカー連盟	平成7年4月 平成17年4月 平成21年4月 平成22年7月	技術委員（平成20年3月まで） 理事（現在に至る） 副理事長（現在に至る） 理事長はじめ各理事と協同のもと、全日本大学サッカー連盟の法人化を果たす。
2）関西学生サッカー連盟	昭和62年4月 昭和62年4月 平成18年4月 平成20年4月	理事（現在に至る） 技術委員（平成20年3月まで） 副理事長（平成20年3月まで） 理事長（現在に至る）
3）（社）奈良県サッカー協会	昭和63年4月 平成14年4月	技術委員（平成22年3月まで） 理事（現在に至る）
4）関西サッカー協会	平成21年4月	理事（現在に至る）
5）ユニバーシアード男子サッカー代表チーム（再掲）	平成19年8月	バンコク大会チームリーダー（5位）
6）（財）奈良県体育協会	平成21年1月	競技力向上専門委員会委員（現在に至る）
7）テレビ解説	平成16年6月	ＮＨＫ教育テレビ 第33回関西学生サッカー選手権大会決勝戦 阪南大学対桃山学院大学（14:00～長居陸上競技場）
8）テレビ解説	平成18年6月	ＮＨＫ教育テレビ 第35回関西学生サッカー選手権大会決勝戦 立命館大学対関西大学（14:00～長居陸上競技場）

９）テレビ解説	平成１６年11月	奈良テレビ 全国高等学校サッカー選手権大会奈良県決勝戦 奈良育英高校対富雄高校 （13:00～橿原公苑陸上競技場）
１０）テレビ解説	平成20年6月	ＮＨＫ教育テレビ 第37回関西学生サッカー選手権大会決勝戦 阪南大学対大阪体育大学（14:00～長居陸上競技場）
４　その他		
学内業務		
1）スポーツ振興委員会委員	平成20年4月～	奈良産業大学ビジネス学部
2)評議員	平成21年4月～	奈良産業大学ビジネス学部
3）スポーツ振興委員長	平成23年4月～	奈良産業大学
4）就職委員会委員	平成23年4月～ 平成25年３月	奈良産業大学ビジネス学部
5）年間行事検討委員会委員	平成22年4月～ 平成24年3月	奈良産業大学ビジネス学部
6)自己点検・評価委員会委員長	平成25年9月～	

研　究　業　績　等　に　関　す　る　事　項

著書，学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所，発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　要
（著書）				
なし				
（学術論文）				
1．フランスの青少年サッカー選手育成システムに関する研究（Ⅰ）－若年層における選手育成システムの現状と特徴－	共著	平成18年9月	大阪教育大学「紀要」第ＩＶ部門５５巻１号 ｐ51～p70	1998年フランス・ワールドカップにおいて、地元フランス代表チームが優勝した。その要因は1970年代から始まった選手育成システムによる若手選手の育成にある。フランスの青少年期におけるサッカー選手育成システムに着目し、その長期的な視野に立った若年層の選手育成システムの理念と実情を分析。 本人担当部分：共同研究のため抽出は困難。主に1995年に国立サッカー学院（I.N.F)での合宿経験を活かして、サッカー学院概要に関するものに関与。 共著者：松原英輝、入口豊、中野尊志、西田裕之、中村泰介
2．フランスの青少年サッカー選手育成システムに関する研究（Ⅱ）－若年層における選手育成システムの現状と特徴－	共著	平成19年2月	大阪教育大学「紀要」第ＩＶ部門５５巻2号 ｐ27～p44	1998年フランス・ワールドカップにおいて、地元フランス代表チームが優勝した。その要因は1970年代から始まった選手育成システムによる若手選手の育成にある。フランスの青少年期におけるサッカー選手育成システムに着目し、その長期的な視野に立った若年層の選手育成システムの理念と実情を分析。 本人担当部分：共同研究のため抽出は困難。主に1995年に国立サッカー学院（I.N.F)での合宿経験を活かして、サッカー学院概要に関するものに関与。 共著者：松原英輝、入口豊、中野尊志、西田裕之、中村泰介

3、教育課程の改善と「プロジェクト演習」による教育の可能性・「スポーツ指導者養成プロジェクト」の取り組みから	共著	平成24年12月	奈良産業大学「紀要」第28集P. 65～p. 78	2007年にビジネス学部が、経済・経営・法の3学部を統合・改組し設置された。新学部の学部教育目標を充たすために専門科目では演習重視のカリキュラムを提示した。学年の枠を超えた、グループによる体験型学習によって、「学士課程共通の学習成果に関する指針」に応えるべく、カリキュラムとして「プロジェクト演習」が組まれた。［社会参画］［グループワーク］［課題研究］［知識活用］を共通コンセプトとして講座の目標を掲げ、実践活動を行ってきた。「スポーツ指導者養成」の担当者として、４年間のまとめと今後の課題を明らかにした。本人担当部分：プロジェクト演習「スポーツ指導者養成」のなかで、「キッズリーダー養成講習会」「幼稚園巡回指導アシスタント」「JFA公認Ｃ級コーチ養成講習会」「救急救命士講習会」の実施担当者。 共著者：清水啓司、西田裕之
（その他）				
〈研究ノート〉 １、サッカー（フットボール）の誕生	単著	平成24年12月	奈良産業大学「紀要」第28集P. 193～p. 198	1990年代に入り世界の舞台で活躍するようになった日本のサッカー。これから世界のベスト１０入りを目標に掲げての強化を行う。そのためには日本独自の戦術を確立することが重要である。しかしその前に、まず、サッカーの誕生について知ることから始める。人間で一番器用に使えるのは手である。しかし、その手の使用を禁止したサッカー。このことが現在のようなサッカーに発展させた一番の要因と考える。これを今後の日本サッカーの戦術を研究する始めとする。
（オープンキャンパス・出張講義）				
１、「ユニバーシアード大邱大会　優勝の軌跡」	単独発表	平成18年9月	奈良産業大学オープンキャンパス	ユニバーシアード大邱大会優勝監督として、チーム立ち上げから本大会優勝までの軌跡を映像を使用して紹介。
2、「スポーツ指導者養成プロジェクト」	単独発表	平成19年9月	奈良産業大学オープンキャンパス	新学部のビジネス学部での取り組み「プロジェクト演習」の「スポーツ指導者養成」についての授業内容を紹介。
3、「フットボールの誕生」	単独発表	平成24年8月	奈良産業大学オープンキャンパス	ロンドンオリンピック期間中のオープンキャンパスにおいて、注目されているサッカーに焦点を絞り、その誕生についてミニ講義を実施。

［注］

1 最近10年間の教育活動、研究活動について作成すること。

2 「教育活動」については、各項目ごとに年月日順に、「学会等および社会活動」については、就任年月日順に記入すること。

3 「研究活動」については、下記の点に留意すること。

① 著書・論文及びその他の順に、発表年月日順に記入すること。

② 著者が複数にわたる場合で、筆頭著者が著書・論文等において明示されている場合には、その氏名に◎印を付すこと。

③ 共著（論文）の場合、「該当頁数」の記入にあたっては、本人の分担箇所を特定できる場合は、その頁数を記載すること。

④ 最近10年間に著書・論文等の発表のなかった者についても、教員名を挙げてその部分を空欄にしておくこと。

⑤ 芸術分野や体育実技等の分野を担当する教員については、著書・論文等以外の競技会、展覧会または演奏会等での発表のうち、特に顕著な業績と認められるものについても記載すること。このほか、専門分野の特性を 考慮し、顕著な業績と認められるものがある場合もこれに含めてもよい。

教　育　研　究　業　績　書

平成26年3月31日

氏　名　　福留　和彦

研究分野	研究内容のキーワード
理論経済学、応用経済学、経済政策	経済政策、幸福の経済発展論、共生の経済学、日本経済／関西経済

教育上の能力に関する事項

事項	年月日	概要
1　教育方法の実践例		
1)　ＩＴ機器を活用した教育実践	平成15年4月から現在に至る	【大学名】 奈良産業大学（経済学部経済学科） 【科目名】 基礎経済学Ⅰ（ミクロ経済学編） 基礎経済学Ⅱ（マクロ経済学編） 経済政策Ⅰ・Ⅱ 日本経済論 【内容】 ワープロ教材、パワーポイント教材とプロジェクターを使い、視覚的な効果から学生の理解度を促進。同教材を授業時間中にプリントとして配布し、かつ、学内LANで結ばれるサーバー上の「教材箱」にデジタルデータとして保管することで、授業に欠席した学生やプリントを紛失した学生でも、学生自身でプリントアウトできるように配慮した。予習のために、先々の授業内容に関する資料も「教材箱」に。学生による学内IT機器の利用促進の狙いもある。 【成果（効果）】 ①板書量の削減、口頭説明への注力向上、その結果としての学生の理解度の向上。 ②授業中での文章、図表類の再掲示が瞬時に行えた。 ③授業で前週内容を復習する際、瞬時に授業内容を再現可能。 ④予習・復習等学生の自習を支援した。 【大学名】 近畿大学（経済学部） 【科目名】 マクロ経済学 産業構造論Ⅰ 産業構造論Ⅱ 【内容】 ワープロ教材、パワーポイント教材とプロジェクターを使い、視覚的な効果から学生の理解度を促進。同教材を授業時間中にプリントとして配布。 【成果（効果）】 ①板書量の削減、口頭説明への注力向上、その結果としての学生の理解度の向上。 ②授業中での文章、図表類の再掲示が瞬時に行えた。 ③授業で前週内容を復習する際、瞬時に授業内容を再現可能。 【大学名】 近畿大学（法学部） 【科目名】 経済原論A 経済原論B 【内容】 ワープロ教材、パワーポイント教材とプロジェクターを使い、視覚的な効果から学生の理解度を促進。同教材を授業時間中にプリントとして配布。 【成果（効果）】 ①板書量の削減、口頭説明への注力向上、その結果としての学生の理解度の向上。 ②授業中での文章、図表類の再掲示が瞬時に行えた。 ③授業で前週内容を復習する際、瞬時に授業内容を再現可能。

		【大学名】 関西大学(経済学部) 【科目名】 学際講座2・開発経済学のアイデア 【内容】 ワープロ教材、パワーポイント教材とプロジェクターを使い、視覚的な効果から学生の理解度を促進。同教材を授業時間中にプリントとして配布。 【成果(効果)】 ①板書量の削減、口頭説明への注力向上、その結果としての学生の理解度の向上。 ②授業中での文章、図表類の再掲示が瞬時に行えた。 ③授業で前週内容を復習する際、瞬時に授業内容を再現可能。
2) 授業内容等のインターネット上での公開	平成15年4月から現在に至る	【大学名】奈良産業大学 【内容】講義資料や学生の学習を促す資料をweb上で公開。オープンキャンパス模擬講義や高校出張講義の資料、学内生や受験生、その他学外の人たちが関心を持つ資料をweb上で公開した。 ①経済学で考えるeコマース http://www.nara-su.ac.jp/econ/PDF/top.pdf ②経済学は、こう考える～いまの日本を理解するために～ http://www.nara-su.ac.jp/econ/PDF/opencampus04.pdf ③人生設計の経済学 http://www.nara-su.ac.jp/econ/PDF/fukutome4.pdf ④日本経済のビジョンをどう描くか http://www.nara-su.ac.jp/econ/PDF/fukutome3.pdf ⑤学生向け読書リスト「経済学に親しむ30冊の本」 http://www.nara-su.ac.jp/econ/books.htm ⑥奈良産業大学教員紹介ページ 「私の研究に影響した人・本」 http://www.nara-su.ac.jp/econ/staff/fukutome3.htm 「思い通りに行かない人生もおもしろい―「平成日本のよふけ」風に―」 http://www.nara-su.ac.jp/econ/fukutome1.htm

3）教育効果を高めるためのその他の教育実践	平成19年4月から 現在に至る	【大学名】奈良産業大学ビジネス学部 【内容】eメールおよび学内LAN上の「教材箱」「提出箱」を利用した教員―学生間、学生―学生間の授業時間外の日常的なコミュニケーションを活性化。夏季休暇、冬期休暇、ゴールデンウィークなどの長期休日が教育の断絶、学習の停滞を生むことから、遠隔地間のコミュニケーション・ツールとしてeメールを活用し、学生への連絡や質問の受付を行っている。レポート課題や卒業論文指導もeメールの添付ファイル機能を利用している。データ量の大きなファイルの受け渡しは学内LAN上の「提出箱」を使用。 【成果（効果）】 ①eメールによる質問と回答は、経済政策Ⅰ・Ⅱや日本経済論では授業内容だけでなく、同時進行の時事問題についての質問も多く、社会問題への関心の喚起や、それと授業内容との関連についての理解度の向上ができた。 ②eメールの添付ファイル機能によって、論文やレポート作成の個別指導が日常的に行うことができ、指導回数や密度が格段に向上した。 ③プロジェクト演習の成果発表会に向けた発表資料の作成について、学内LAN上の「教材箱」や「提出箱」を通じて効率的に指導できた。 【大学名】 奈良産業大学ビジネス学部 【科目名】 専門演習Ⅱ、短期プロジェクト演習（ERE挑戦） 【内容】 オフィスアワーの活用や授業時間の延長による学生の学習のサポート。また、奈良産業大学学習支援センター主催によるリメディアル教育(課外補習)への参加。論文作成指導や資格試験指導の場合、通常の授業時間では不十分なため、学生の同意を得て授業時間を延長（最大2時間半）、オフィスアワーをその時間に割り当てたりした。またEREは、経済数学の知識が必要なため、学生たちと教員の時間的都合を調整し、都合の付く曜日時間帯で経済数学の授業を研究室で行った。 【成果（効果）】 ①モンゴルやミャンマーからの留学生に、毎週のオフィスアワーを重要文献の解読時間とし、日本の経済発展や日本の資本主義を学んでもらい、卒業論文を作成した。 ②経済学検定試験（ERE）では、2科目受験（ミクロ経済学・マクロ経済学）でB+およびBに合格した（各1名）。

３）教育効果を高めるためのその他の教育実践（続き）		【大学名】 奈良産業大学ビジネス学部 【科目名】 短期プロジェクト演習 「一流ビジネスパーソンとの交流プロジェクト」 「ERE挑戦プロジェクト」 プロジェクト演習「奈良観光振興プロジェクト」 【内容】 奈良産業大学ビジネス学部のカリキュラムの特徴である体験型学習プログラムとしての「プロジェクト演習」の実施。 ①「一流ビジネスパーソンとの交流プロジェクト」 筆者の学外での人脈を活かし、関西経済同友会会員企業から数社、部課長クラスのビジネスパーソンに延べ10回講義を担当して頂き、学生たちと活発な討論を行った。 ②「ERE挑戦プロジェクト」 毎時間ミクロ経済学またはマクロ経済学の練習問題の解答に演習参加者全員が取り組んだ。並行して経済数学の練習も行った。 ③「奈良観光振興プロジェクト」 信貴山（朝護孫子寺、門前町など）との協力のもと、当演習が観光地図を作成し、それを基にしたモニターツアーを企画・実施した。また隣町の平群町の時代祭にボランティア参加し、同祭りの成功に貢献した。また比較研究の重要性から、奈良以外の観光地・歴史遺産（大阪新世界、京都伏見）でのフィールドワーク、同じ奈良県下の他地域（法隆寺界隈、高取城跡など）にも調査に行った。学内での授業ではプレゼンテーションやレポート・レジュメ作成の訓練を行い、そのほか教員によりマーケティング論や広告論を講義したりした。 【成果（効果）】 ①「一流ビジネスパーソン交流プロジェクト」 多くの演習生がビジネスの最前線で活躍しているビジネスパーソンの馬力や姿勢に感化された。一部の学生はその後の実力向上が認められ、講師関係企業に就職を果たしている。 ②「ERE挑戦プロジェクト」 授業期間に2回の受験機会があり、最終的にB+級とB級の合格者を出し、奈良産業大学でEREの単位認定が制度化されて以来はじめての単位認定を果たした。 ③「奈良観光振興プロジェクト」 地元・信貴山の協力でモニターツアーを企画協力し、成功させた。また平群町の時代祭に協力参加し、成功に貢献した。 【大学名】 本務校（奈良産業大学）、非常勤先大学 【科目名】 経済政策Ⅰ・Ⅱ 日本経済論 【内容】 web上にある各種ホームページ・webサイトの活用。本務校および非常勤先で担当している専門科目・教養科目の教育効果を高めるため、web上の各種ホームページやwebサイトを活用している。経済政策Ⅰ・Ⅱや日本経済論の授業では衆議 【成果（効果）】 ①授業に関連する情報のインターネット上の所在を覚える。 ②官公庁ホームページから無料ダウンロードできる資料や、国

２　作成した教科書，教材		
1）福留和彦〔1993年〕「発展途上国工業化の過程分析―メキシコと韓国を事例にとって―」（『大阪市大論集』第73号所収）	平成19年4月～平成25年3月	【大学名】 関西大学経済学部 【科目名】 学際講座2開発経済学のアイデア 【内容】 輸入代替工業化戦略と輸出志向工業化戦略、貿易構造と産業構造の関係を論じた雁行形態論の説明。 【成果(効果)】 講義者(福留)の執筆であることの授業内容との整合性。 【大学名】 和歌山大学経済学部 【科目名】 開発経済学 【内容】 輸入代替工業化戦略と輸出志向工業化戦略、貿易構造と産業構造の関係を論じた雁行形態論の説明。 【成果(効果)】 講義者(福留)の執筆であることの授業内容との整合性。 【大学名】 大阪産業大学経済学部 【科目名】 産業構造論 【内容】 輸入代替工業化戦略と輸出志向工業化戦略、貿易構造と産業構造の関係を論じた雁行形態論の説明。 【成果(効果)】 講義者(福留)の執筆であることの授業内容との整合性。 【大学名】 近畿大学経済学部 【科目名】 産業構造論Ⅰ・Ⅱ 【内容】 輸入代替工業化戦略と輸出志向工業化戦略、貿易構造と産業構造の関係を論じた雁行形態論の説明。 【成果(効果)】 講義者(福留)の執筆であることの授業内容との整合性。
2）福留和彦〔1997年〕「蓄積停止を考慮した農工2部門モデル」（『経済学雑誌』第98巻1号所収）または福留和彦〔2008年〕「アーサー・ルイスの二重経済論」（『社会科学雑誌』第1巻創刊号所収）	平成19年4月～平成25年3月	【大学名】 関西大学経済学部 【科目名】 学際講座2開発経済学のアイデア 【内容】 工業化過程における産業構造の変化、都市化、農業の役割などを説明。 【成果(効果)】 講義者(福留)の執筆であることの授業内容との整合性。 【大学名】 和歌山大学経済学部 【科目名】 開発経済学 【内容】 工業化過程における産業構造の変化、都市化、農業の役割などを説明。 【成果(効果)】 講義者(福留)の執筆であることの授業内容との整合性。 【大学名】 大阪産業大学経済学部 【科目名】 産業構造論 【内容】 工業化過程における産業構造の変化、都市化、農業の役割などを説明。 【成果(効果)】 講義者(福留)の執筆であることの授業内容との整合性。 【大学名】 近畿大学経済学部 【科目名】 産業構造論Ⅰ・Ⅱ 【内容】 工業化過程における産業構造の変化、都市化、農業の役割などを説明。 【成果(効果)】 講義者(福留)の執筆であることの授業内容との整合性。

3）PowerPoint／Word教材 3－1．PowerPoint／Word：基礎経済学Ⅰ（ミクロ経済学編） 3－2．PowerPoint：基礎経済学Ⅱ（マクロ経済学編） 3－3．Word：経済数学 3－4．PowerPoint／Word：経済政策Ⅰ・Ⅱ 3－5．PowerPoint／Word：日本経済論 3－6．PowerPoint／Word：マクロ経済学 3－7．PowerPoint：経済原論（ミクロ経済学編） 3－8．Word：経済原論A（ミクロ経済学編） 3－10．Word：経済原論B（マクロ経済学編） 3－11．PowerPoint：開発経済学のアイデア	平成16年4月～現在に至る	【大学名】奈良産業大学経済学部、ビジネス学部 【科目名】 基礎経済学Ⅰ　PowerPoint／Word教材（3－1） 基礎経済学Ⅱ　PowerPoint／Word教材（3－2） 特殊講義(経済数学演習)　Word教材（3－3） 経済政策Ⅰ・Ⅱ　PowerPoint／Word教材（3－4） 日本経済論　PowerPoint／Word教材（3－5） 【大学名】近畿大学経済学部、法学部 【科目名】 マクロ経済学（経済学部）PowerPoint／Word教材（3－6） 経済原論A（法学部）　PowerPoint教材（3－7） Word教材(3－8) 経済原論B（法学部）　Word教材（3－10） 【大学名】関西大学経済学部 【科目名】 開発経済学のアイデア　PowerPoint教材（3－11）
4）福留和彦〔1997年〕「情報の経済学を乗り越えて―経済発展の経済学の探求―」（『経済学雑誌』第97巻5・6号所収）	平成15年4月～現在に至る	【大学名】 奈良産業大学経済学部、和歌山大学経済学部 【科目名】 経済政策Ⅰ・Ⅱ（奈良産業大学） 開発経済学（和歌山大学） 【内容】 1．情報の非対称性、不確実性の基本事項。 2．「反新古典派の経済学」「開発経済学への情報の経済学の導入」などJ.E.スティグリッツやG.アカロフの情報の経済学の理論構造や特徴、問題点を説明。 【成果（効果）】 講義者（福留）の執筆であることの授業内容との整合性。
5）福留和彦〔2001年〕「開発経済学の再生に向けて―市場経済化をどう理論化するか―」（富山大学極東地域研究センター報告レジュメ）	平成15年4月～平成23年3月	【大学名】 奈良産業大学経済学部 【科目名】 経済政策 【内容】 開発経済学の現状と課題、IMFや世界銀行の構造調整プログラムの問題点などを説明。 【成果（効果）】 講義者（福留）の執筆であることの授業内容との整合性。 【大学名】 関西大学経済学部 【科目名】 学際講座2開発経済学のアイデア 【内容】 開発経済学の現状と課題、IMFや世界銀行の構造調整プログラムの問題点などを説明。 【成果（効果）】 講義者（福留）の執筆であることの授業内容との整合性。 【大学名】 和歌山大学経済学部 【科目名】 開発経済学 【内容】 開発経済学の現状と課題、IMFや世界銀行の構造調整プログラムの問題点などを説明。 【成果（効果）】 講義者（福留）の執筆であることの授業内容との整合性。
6）福留和彦・福島健彦〔2001年〕「新しい時代の企業間電子商取引の可能性」（関西社会経済システム研究所（現関西社会経済研究所）デジタルエコノミー研究会編『デジタルエコノミーの進展と関西の産業競争力・企業活動に関する研究』所収第3章）。福留和彦〔2001年〕「IT化の進行と企業間電子商取引の可能性」（『産業と経済』第16巻1号所収）。	平成15年4月～平成25年3月	【大学名】 奈良産業大学経済学部 【科目名】 経済政策 【内容】 テーマ「反新古典派の経済学」で引用。情報の経済学の盲点や、市場システムの構築の一例として参照。 【成果（効果）】 講義者（福留）の執筆であることの授業内容との整合性。 【大学名】 近畿大学経済学部 【科目名】 産業構造論Ⅱ 【内容】 テーマ「情報産業」で同論考を使用。電子商取引市場の仕組みや、90年代後半以降のIT革命における情報問題の解説。 【成果（効果）】 講義者（福留）の執筆であることの授業内容との整合性。

7）竹山理・根岸章・福留和彦著〔2004年〕『経済数学入門』産図テクスト	平成16年4月～現在に至る	【大学名】 奈良産業大学経済学部経済学科 【科目名】 理論・経済史特殊講義(経済数学演習) ベーシック数理Ⅰ・Ⅱ 基礎数学Ⅰ・Ⅱ 【内容】 上記科目用に執筆・使用したテキスト。ベーシック数理Ⅰ・Ⅱおよび基礎数学Ⅰ・Ⅱではサブテキスト。 第Ⅰ部 経済数学への準備 第1章 関数とグラフ （根岸執筆） 第2章 方程式 （福留執筆） 第3章 数列 （福留執筆） 第4章 微分法 （根岸執筆） 第Ⅱ部 経済数学の基礎 第5章 行列と行列式 （竹山執筆） 第6章 1変数関数の微分（竹山執筆） 第7章 2変数関数の微分（竹山執筆） 【成果(効果)】 基礎経済学(必修科目)、ミクロ経済学、マクロ経済学等経済理論に必要な数学知識を修得させた。ベーシック数理Ⅰ・Ⅱおよ基礎数学Ⅰ・Ⅱでは関連トピックを同テキストから引用した。
8）福留和彦〔2005年〕「実質利子率の低下は投資需要を増加させるか？―インフレ・ターゲティング論への留保―」（『産業と経済』第20巻4号所収）	平成18年4月～現在に至る	【大学名】 奈良産業大学経済学部、奈良産業大学ビジネス学部 【科目名】 経済政策Ⅰ・Ⅱ 【内容】 不況期の金融緩和政策の説明、インフレターゲティング政策の説明および批判。 【成果(効果)】 講義者(福留)の執筆であることの授業内容との整合性。 【大学名】 近畿大学法学部 【科目名】 経済原論A、経済原論B 【内容】 不況期の金融緩和政策の説明、インフレターゲティング政策の説明および批判。 【成果(効果)】 講義者(福留)の執筆であることの授業内容との整合性。
9）奈良産業大学ビジネス学部編『専門基礎科目Ⅱ』(株)明新社	平成19年4月～現在に至る	【大学名】 奈良産業大学ビジネス学部 【科目名】 経済の仕組みとビジネス （経済入門） 経済政策Ⅰ・Ⅱ 【内容】 専門基礎科目専用に学内スタッフにより執筆されたテキスト。福留は奈良産業大学ビジネス学部ビジネス科准教授(平成24年度より教授)として担当の「経済入門(平成23年4月から「経済の仕組みとビジネス」)」部分を担当執筆。経済分析の最も基本部分を学生に体得させることを狙いに、需給均衡分析と比較優位論に限定した具体例を収録。経済政策Ⅰ・Ⅱではこれをサブテキストとし、同書内の関連トピックを引用している。 【成果(効果)】 ①オリジナルテキストゆえのシラバスとの整合性の高さ。 ②学生の予習・復習の支援。
10）福留和彦〔2006年〕「高齢化の進行と日本経済のあり方―生活水準・国民負担率・経済成長率―」（『産業と経済』第21巻1号所収）	平成19年4月～平成26年3月	【大学名】 奈良産業大学ビジネス学部 【科目名】 日本経済論 【内容】 テーマ「国民負担率と経済成長」を説明。少子高齢化が進む日本経済が目指す方向を3つ提示し、増大する社会保障費に対応するためにプラスの経済成長率が必要であること、その値を試算し提示した。 【成果(効果)】 講義者(福留)の執筆であることの授業内容との整合性。

11）進化経済学会編〔2006年〕『進化経済学ハンドブック』共立出版	平成22年4月～現在に至る	【大学名】 近畿大学経済学部 【科目名】 産業構造論Ⅱ 【内容】 テーマ「情報産業」で同書の「情報革命」を引用。当該項目は講義者(福留)の執筆。 【成果(効果)】 情報革命の定義が講義者(福留)の執筆であることの授業内容との整合性。
12）福留和彦〔2011〕「高齢化する日本の社会保障モデル」(『社会科学雑誌』第3巻所収)	平成24年4月～平成26年3月	【大学名】 奈良産業大学ビジネス学部 【科目名】 日本経済論 【内容】 テーマ「国民負担率と経済成長」におて、勤労者と老齢者の受益・負担関係と、社会保障財源として保険料と税金の組み合わせ比率という要素を組み込んだより詳細な議論を説明した。 【成果(効果)】 講義者(福留)の執筆であることの授業内容との整合性。
13）福留和彦〔2013〕「「幸福の経済発展論」試論 ―社会/経済システムを中心に―」(『奈良産業大学紀要』第29集所収)	平成25年4月～現在に至る	【大学名】 奈良産業大学ビジネス学部 【科目名】 経済政策Ⅰ・Ⅱ 専門演習Ⅱ 【内容】 現在の日本や地域経済が直面している政策的課題として、人々の豊かさや幸福をどう考えるかという問題があり、経済学としてどのように挑戦できるかを説明した。 【成果(効果)】 講義者(福留)の執筆であることの授業内容との整合性。
14）福留和彦〔2013〕「「論じる」文章の要件とは何か？―社会科学論文・レポートに求められること―」(『奈良産業大学紀要』第30集所収)	平成25年4月～現在に至る	【大学名】 奈良産業大学ビジネス学部 【科目名】 専門演習Ⅱ プロジェクト演習Ⅰ「公務員養成プロジェクト」 【内容】 専門演習Ⅱにおいては卒業論文指導に、プロジェクト演習では公務員試験問題にある要旨把握や論述問題対策へのテキストの一つとして使用。 【成果(効果)】「論じる」文章の要件とはなにか、それが欠けると論文や研究レポートとはなりえないことを注意できた。
３　教育上の能力に関する大学等の評価		
1）拙稿「論文・レポートの書き方」への評価（評価者：奈良学園理事・水野隆徳）	平成22年4月12日	本人が執筆した「論文・レポートの書き方」(奈良産業大学経済経営学会NEWSLETTER no.38)に対し奈良学園理事(当時)・水野隆徳が評価。藤原昇学長宛書簡にて。以下原文ままま。「福留和彦氏は「奈良産業大学　経済経営学会　NEWSLETER No.38」の中で、優秀賞「麻生内閣の経済政策における定額給付金の検証」に関して講評し、論文やレポートを作成する場合の基本的要件について氏の見解を披歴している。内容は学生にとっては相当難しいものとなっているが、一人でも多くの教員がこのような姿勢で卒業論文や報告・レポート、試験結果の指導に当たってもらえればという思いをもった次第です。」

2）授業評価アンケート 近畿大学経済学部「産業構造論Ⅱ」	平成23年後期	教員評価に該当する項目全般に関して、全科目平均(5段階評価)を大きく上回る結果であった。 ＜例＞ 「授業内容は理解できたか」得点4.0(全科目平均3.8) 「教員の説明の仕方はわかりやすかったか」得点4.5(同3.9) 「教員の話し方は明瞭だったか」得点4.5(同4.0) 「黒板文字やパワーポイント資料の提示は明瞭だったか」得点4.3(同3.9) 「授業に刺激され授業内容に興味を持つようになったか」得点4.0(同3.7) 「教員は授業の準備を十分にしていたか」得点4.5(同4.2) 「授業に対する教員の熱意を感じたか」得点4.3(同)4.1 「教員は学生の質問、疑問、意見をくみとってくれたか」得点4.5(同4.0) 「教員のあなたがたへの接し方は適切だったか」得点4.8(同4.0) 「この教員の授業を10点法で評価せよ」得点8.5(同7.8)
４　実務の経験を有する者についての特記事項		
特記事項なし		
５　その他		
1）奈良産業大学経済学部経済学科における教育実績	平成15年4月～平成19年3月	奈良産業大学経済学部経済学科助教授（平成15年4月から平成19年3月まで）として、以下の科目を担当した。 「基礎経済学Ⅰ（ミクロ）」（平成15年4月～平成18年9月） 「基礎経済学Ⅱ（マクロ）」（平成15年10月～平成19年3月） 「理論・経済史特殊講義（経済数学演習）」（平成15年4月～平成19年3月） 「経済政策（市場・制度・政府）」（平成15年4月～平成16年3月） 「経済政策」（平成16年4月～平成19年3月） 「専門演習Ⅰ（経済学の考え方を実践しよう）」（平成15年4月～平成16年3月） 「専門演習Ⅰ（経済学で鍛えよう）」（平成16年4月～平成18年3月） 「専門演習Ⅰ（経済学的思考の技術）」（平成18年4月～平成19年3月） 「専門演習Ⅱ」（平成15年4月～平成18年3月） 「専門演習Ⅱ（卒論の準備）」（平成17年4月～平成19年3月） 「卒業論文」（平成18年4月～平成19年3月）

		「基礎経済学Ⅰ（ミクロ）」「基礎経済学Ⅱ（マクロ）」は、赤堀・渡辺・服部〔2002年〕『エッセンシャルズ基礎経済学』を使ってミクロ経済学とマクロ経済学の基礎を講じた。平成16年度は教科書として嶋村紘輝・横山将義〔2003年〕『図解雑学ミクロ経済学』井堀利宏〔2002年〕『図解雑学マクロ経済学』も使用した。 「理論・経済史特殊講義（経済数学演習）」は、教科書として竹山・根岸・福留〔2004年〕『経済数学入門』を執筆・使用し、基礎経済学Ⅰ・Ⅱに必要な関数、方程式、数列、微分の基礎を講じた。 「経済政策（市場・制度・政府）」は、市場の経済学として競争均衡理論、制度の経済学として比較制度分析、そして開発主義の経済学を取り上げた。 「経済政策」は、IS-LMモデル、AD-ASモデルを講じた。平成18・19年度は発展途上国の経済政策を加えて講じた。 「専門演習Ⅰ」は、コミュニケーション能力、デザイン能力（企画・構成能力）、論理的思考力、問題発見能力などを鍛えることを目的とし、日本経済新聞社編〔2003年〕『ゼミナール日本経済入門』、野口旭〔2003年〕『らくらく入門塾経済のしくみがすんなりわかる講座』、伊藤元重〔2000年〕『市場主義』、大瀧雅之〔2001年〕『景気循環の読み方』などを教科書として使用した。平成17年度は教員が用意した30冊の経済関係図書から各自1冊異なる図書を選ばせ、1人がその1冊を読破し発表させるようにした。平成18年度は会計学の知識も取り入れ山田真哉〔2005年〕『さおだけ屋はなぜ潰れないのか？』、西野武彦〔2003年〕『ゼロから始める決算書の読み方』を追加した。 「専門演習Ⅱ」は、専門演習Ⅰで培った各種能力を基礎に、サブテキストとして澁谷恵宜〔2000年〕『卒論応援団』を読ませ、卒業論文の作成を指導した。平成16年度は教員が厳選した10冊の経済関係図書のうちから各自必ず1冊選ばせて、それに関連する卒業論文を書かせた。 「専門演習Ⅱ（卒論の準備）」は、卒論準備としてスティグリッツ＝ウォルシュ〔2005年〕『スティグリッツ入門経済学（第3版）』を読ませた。 「卒業論文」は、卒業論文作成指導を行った。
2）近畿大学経済学部における教育実績	平成16年4月～平成18年3月	近畿大学経済学部非常勤講師（平成16年4月から平成18年3月まで）として、以下の科目を担当した。 「マクロ経済学」（平成16年4月～平成18年3月） 「マクロ経済学」は、ＳＮＡ、乗数理論、消費関数、投資関数、IS-LMモデル、AD-ASモデル、マクロ生産関数などを取り上げ、マクロ経済学の標準的な考え方や道具を説明した。
3）近畿大学法学部における教育実績	平成17年4月～平成19年3月	近畿大学法学部非常勤講師（平成17年4月から平成19年3月まで）として、以下の科目を担当した。 「経済原論」（平成17年4月～平成19年3月） 「経済原論」は、前期にミクロ経済学（完全競争理論、市場の失敗論など）、後期にマクロ経済学（45度線分析、IS-LMモデル、AD-ASモデル）を講じた。

4）奈良産業大学ビジネス学部ビジネス学科における教育実績	平成19年4月～平成24年3月	奈良産業大学ビジネス学部ビジネス学科准教授（平成19年4月から平成26年3月まで）として、以下の科目を担当した。 「経済入門（平成23年4月から「経済の仕組みとビジネス」へ名称変更）」（平成19年4月～平成24年3月） 「経済政策」（平成19年4月～平成24年3月） 「日本経済論」（平成19年4月～平成24年3月） 「ITリテラシーⅠ」（平成21年4月～平成21年9月） 「ITリテラシーⅡ」（平成21年10月～平成22年3月） 「ベーシック数理Ⅰ」（平成22年4月～平成22年9月） 「基礎数学Ⅰ」（平成23年4月～平成23年9月） 「基礎数学Ⅱ」（平成23年10月～平成24年3月） 「導入演習」（平成19年4月～平成19年9月） 「基礎演習」（平成19年10月～平成20年3月） 「短期プロジェクト演習（一流ビジネスパーソンとの交流プロジェクト）」平成19年10月～平成20年9月） 「専門演習Ⅱ（経済学部）」（平成19年4月～平成20年3月） 「卒業論文（経済学部）」（平成19年4月～平成21年3月） 「総合演習（E-circle）」（平成20年4月～平成21年3月） 「プロジェクト演習（奈良観光振興プロジェクト）」（平成20年4月～平成23年3月） 「専門演習Ⅰ（経済学的思考を身に付ける）」（平成21年4月～平成22年3月） 「専門演習Ⅱ」（平成22年4月～平成23年3月） 「短期プロジェクト演習（ERE挑戦プロジェクト）」（平成22年10月～平成23年9月） 「経済入門（経済の仕組みとビジネス）」は、指定教科書である奈良産業大学ビジネス学部編『専門基礎科目Ⅱ』所収の「経済の仕組みとビジネス（経済入門）」（担当者執筆）を使い、比較優位の原理や需給均衡分析を講じた。 「経済政策」は、岩田規久男・飯田泰之〔2006年〕『ゼミナール経済政策入門』を教科書とし、マクロ経済政策（財政・金融政策、成長政策）、ミクロ経済政策（公共事業と競争政策、公共財と外部性）、所得再分配政策（税制、年金、医療政策）を講じた。 「日本経済論」は、原田泰〔2008年〕『コンパクト日本経済論』を教科書とし、経済発展（生産性、成長会計分析）、景気循環（失業とインフレーション）、少子高齢化問題などを講じた。 「ITリテラシーⅠ」は、『よくわかるMicrosoft Office Word 2007』（富士通エフ・オー・エム）を教科書とし、基本的な文書作成・編集・保存の仕方を指導した。 「ITリテラシーⅡ」は、『よくわかるMicrosoft Office Word 2007』（富士通エフ・オー・エム）を教科書とし、文書作成に関する応用的機能、Excelデータの取り込み方、総合的な演習問題への取り組みなどを指導した。 「ベーシック数理Ⅰ」は、指定教科書として奈良産業大学ビジネス学部編『ベーシック数理Ⅰ・Ⅱ』を使い、論理、集合算、対応関係、約数・倍数の利用、数列、方程式などを講じた。 「基礎数学Ⅰ」は、(財)日本数学検定協会〔2011年〕『数学検定の完全対策6～8級』を教科書とし、計算技能問題と数理技能問題を学生に解かせ、解法を指導した。 「基礎数学Ⅱ」は、(財)日本数学検定協会〔2010年〕『数検の完全対策3～5級』を教科書とし、計算技能問題と数理技能問題を学生に解かせ、解法を指導した。

		「導入演習」は、指定教科書として奈良産業大学ビジネス学部編『導入演習・基礎演習』を使い、学内施設の利用の仕方、学修計画の立て方、スケジュール管理、ノート筆記のテクニック、情報収集の仕方、学外見学の実施とレポート作成・発表会を指導した。 「基礎演習」は、指定教科書として奈良産業大学ビジネス学部編『導入演習・基礎演習』を使い、レポート作成上の様々な要点について解説・指導した。 「短期プロジェクト演習（一流ビジネスパーソンとの交流プロジェクト）」は、東証1部上場の企業数社の部課長クラスのビジネスパーソンと交流し、業界の特徴、仕事のやり方や意味、一流たりえるための人間力について議論した。 「専門演習Ⅱ（経済学部）」は、200ページほどの小著のなかから最近話題になったものや好著と思うものを学生にできる限り多く読破してもらい、議論した。図書は、山田真哉『さおだけ屋はなぜ潰れないのか？』、山本信幸『キャバクラの経済学』、小菅正夫『＜旭山動物園＞革命』、安倍晋三『美しい国へ』、平野啓一郎『本の読み方　スローリーディングの実践』などを取り上げた。 「卒業論文（経済学部）」は、卒業論文執筆の指導を行った。 「総合演習（E-circle）」は、毎演習90分の時間中を日本語使用禁止とした。教科書として弘兼憲史〔2007年〕『バイリンガル版　部長・島耕作１』を使い、role-playingを英語で行った。 「プロジェクト演習（奈良観光振興プロジェクト）」は、奈良県三郷町、平群町を中心に実地調査を行い、地域の歴史遺産や自然、名所、特産物など観光振興につながる資源の開拓と、プランの作成・提案を学生が主体的に取り組めるよう指導した。「信貴山周辺魅力発見ツアー」の実現や「平群町時代祭」へのボランティア参加、学園祭での地元特産品販売などの成果を得た。 「専門演習Ⅰ」は、G.マンキュー〔2008年〕『マンキュー入門経済学』を教科書指定し、生産可能性フロンティア、比較優位の原理、需給均衡分析、AD-ASモデルなどを身につけさせ、それを使って新聞や雑誌の記事を読み解く練習をさせた。 「専門演習Ⅱ」は、卒業論文の執筆指導を行った。 「短期プロジェクト演習（ERE挑戦プロジェクト）」は、経済学検定試験（ＥＲＥ）のミクロ・マクロＢ、Ｂ＋、Ａ以上の合格を目指してミクロ経済学、マクロ経済学の特訓を行った。教科書として福岡正夫〔2008年〕『ゼミナール日本経済入門（第4版）』、問題集として瀬古・渡辺〔2009年〕『完全マスター　ゼミナール経済学入門（第3版）』、経済数学の教科書として西村和雄〔2003年〕『まんがDE入門　経済数学』を使用した。
5）近畿大学法学部における教育実績について	平成19年4月～平成21年3月	近畿大学法学部非常勤講師（平成19年4月から平成21年3月まで）として、以下の科目を担当した。 「経済原論」（平成19年4月～平成21年3月） 「経済原論」は、マクロ経済学（45度線分析、IS-LMモデル、AD-ASモデル、開放マクロ経済モデル）を講じた。
6）関西大学経済学部における教育実績について	平成19年4月～平成20年9月	関西大学経済学部非常勤講師（平成19年4月から平成20年9月まで）として、以下の科目を担当した。 「学際講座2　開発経済学のアイデア（前期）」（平成19年4月～平成20年9月） 「学際講座2　開発経済学のアイデア（前期）」は、ルイス・モデル、ラニス＝フェイ・モデル、マハラノビス・モデル、ミントの「組織の二重性」論、分益小作制度と複合契約モデル、マイクロファイナンス、トダロの3部門モデル、クルーグマンの産業立地論を講じた。

7）大阪産業大学経済学部における教育実績について	平成20年4月～平成22年9月	大阪産業大学経済学部非常勤講師（平成20年4月から平成22年9月まで）として、以下の科目を担当した。 「産業構造論（前期科目）」（平成20年4月～平成22年9月） 「基礎演習2（前期科目）」（平成20年4月～平成22年9月） 「産業構造論（前期科目）」は、産業構造論の方法論、産業構造変化や産業構造調整、産業政策などについて講じた。 「基礎演習2（前期科目）」は、G.マンキュー『マンキュー経済学＜ミクロ編＞』を教科書にして、需給均衡分析と比較優位の原理を学び、それらの道具を使って実際の経済問題を考える訓練を行った。
8）近畿大学法学部における教育実績について	平成21年4月～平成24年3月	近畿大学法学部非常勤講師（平成21年4月から平成24年3月まで）として、以下の科目を担当した。 「経済原論Ａ」（平成21年4月～平成23年9月） 「経済原論Ｂ」（平成21年10月～平成24年3月） 「経済原論Ａ」は、G.マンキュー『マンキュー入門経済学』を教科書に、経済学十大原理、比較優位の原理、需給均衡分析、弾力性概念、余剰分析、価格規制、課税、外部性について講じた。 「経済原論Ｂ」は、G.マンキュー『マンキュー入門経済学』を教科書に、ＧＤＰ、物価指数、生産と成長、貯蓄・投資と金融システム、貨幣システムと古典派理論、AD-ASモデルを講じた。
9）近畿大学経済学部における教育実績について	平成22年4月～平成24年3月	近畿大学経済学部非常勤講師（平成22年4月から平成24年3月まで）として、以下の科目を担当した。 「産業構造論Ⅰ」（平成22年4月～平成23年9月） 「産業構造論Ⅱ」（平成22年10月～平成24年3月） 「産業構造論Ⅰ」は、産業構造論の方法、産業連関表、ペティ＝クラークの法則、迂回生産化と産業構造の多段階化、雁行形態論とプロダクトサイクル論などを講じた。 「産業構造論Ⅱ」は、高度成長期日本の産業構造変化、現代日本経済と情報産業、金融産業、観光産業などを講じた。
10）和歌山大学経済学部における教育実績について	平成22年9月～平成23年3月	和歌山大学経済学部非常勤講師（平成22年9月から平成23年3月まで）として、以下の科目を担当した。 「開発経済学」（平成22年9月～平成23年3月） 「開発経済学」は、「賢人たちの開発経済論」と題し、J.E.Stiglitz、A.K.Sen、M.Yunus、J.Jacobs、石川滋、中岡哲郎の諸論を講じた。

11）奈良産業大学ビジネス学部ビジネス学科における教育実績	平成24年4月～現在	奈良産業大学ビジネス学部ビジネス学科教授（平成24年4月から現在に至る）として、以下の科目を担当した。 「経済入門（平成23年4月から「経済の仕組みとビジネス」へ名称変更）」（平成24年4月～現在） 「経済政策Ⅰ」（平成24年4月～現在） 「経済政策Ⅱ」（平成24年10月～現在） 「日本経済論」（平成24年4月～現在） 「基礎数学Ⅰ」（平成24年4月～平成24年9月） 「インターンシップⅠ」（平成24年9月～平成25年3月） 「インターンシップⅡ」（平成25年度集中講義） 「プロジェクト演習（奈良観光振興プロジェクト）」（平成24年4月～現在） 「専門演習Ⅰ（ERE挑戦と経済分析力のUP）」（平成24年4月～平成25年3月） 「専門演習Ⅱ」（平成25年4月～現在） 「経済入門（経済の仕組みとビジネス）」は、指定教科書である奈良産業大学ビジネス学部編『専門基礎科目Ⅱ』所収の「経済の仕組みとビジネス（経済入門）」（担当者執筆）を使い、比較優位の原理や需給均衡分析を講じている。 「経済政策Ⅰ」は、平成24年4月～平成26年3月は、マクロ経済指標（ＧＤＰ、ＣＰＩ、労働力と失業率など）、IS-LMモデル、不況下の財政政策について講じている。平成26年4月～現在は、需給均衡分析(余剰分析など)や比較優位論を使ってミクロ経済政策を扱っている。 「経済政策Ⅱ」は、AD-ASモデル、不況下の金融政策、マクロ経済政策と構造改革、日本の「失われた20年」、リフレーション政策、EU経済危機などについて講じている。 「日本経済論」は、戦後日本の経済成長、日米経済摩擦、日本のバブル経済、デフレーション、日本の経済政策（アベノミクスなど）、金本位制の歴史的教訓、新自由主義、少子高齢化と人口減少、幸福の経済発展論を講じている。 「基礎数学Ⅰ」は、(財)日本数学検定協会〔2011年〕『数学検定の完全対策6～8級』を教科書とし、計算技能問題と数理技能問題を学生に解かせ、解法を指導した。 「インターンシップⅠ」は、前半を企業が求める人材としてメーカー編、流通編、サービス編、情報編など業界別に紹介し、後半は実践トレーニング編として時間管理、職場のルール、話し方と動作、接客と他社訪問、電話と電子メール、ビジネス文書について専門講師を招き個人ワークやグループワークをして指導を行った。 「インターンシップⅡ」は、2年次に履修した「インターンシップⅠ」の知識を基礎に、実習先企業でそれを活かす訓練を行い、 その経験を批判的に分析・評価した「自己分析シート」をもとに、事後報告会で発表させる。 「プロジェクト演習（奈良観光振興プロジェクト）」は、平群町の竜田川周辺の城跡、古墳、道の駅などを調査し、成果発表を行った。 「専門演習Ⅰ(ERE挑戦と経済分析力のUP)」は、経済学検定試験（ERE）への挑戦を動機付けにして、学生の経済学知識と経済分析力の向上を図った。これにより次年度の専門演習Ⅱでの卒業論文作成のための基礎体力をつけた。 「専門演習Ⅱ」は、卒業論文の作成指導を行っている。
12）近畿大学経済学部における教育実績について	平成24年4月～平成25年3月	近畿大学経済学部非常勤講師（平成24年4月から平成25年3月まで）として、以下の科目を担当した。 「産業構造論Ⅰ」（平成24年4月～平成24年9月） 「産業構造論Ⅱ」（平成24年10月～平成25年3月） 「産業構造論Ⅰ」は、産業構造論の方法、産業連関表、ペティ＝クラークの法則、迂回生産化と産業構造の多段階化、雁行形態論とプロダクトサイクル論などを講じた。 「産業構造論Ⅱ」は、高度成長期日本の産業構造変化、現代日本経済と情報産業、金融産業、観光産業などを講じた。

13）近畿大学法学部における教育実績について	平成24年4月～現在	近畿大学法学部非常勤講師（平成24年4月から現在に至る）として、以下の科目を担当した。 「経済原論Ａ」（平成24年4月～現在） 「経済原論Ｂ」（平成24年10月～現在） 「経済原論Ａ」は、平成24年4月～平成26年3月までは、G.マンキュー『マンキュー マクロ経済学Ｉ入門篇（3版）』を教科書とし、マクロ経済学のデータ、IS-LMモデル、マンデル＝フレミングモデルを講じた。平成26年4月～現在は、講義用レジュメ(Word)を作成し、需給均衡分析(余剰分析など)や比較優位論を使ってミクロ経済学を講じている。 「経済原論Ｂ」は、平成24年4月～平成26年3月までは、G.マンキュー『マンキュー マクロ経済学Ｉ入門篇（3版）』を教科書とし、マクロ経済学のデータ、IS-LMモデル、AD-ASモデル、貨幣とインフレーション、貯蓄投資バランス論を講じた。平成26年4月～現在は、講義用レジュメ(Word)を作成し、マクロ経済学の基礎データ(GDP、物価、労働人口と失業率、貨幣など)、IS/Lモデル、AD/ASモデルを講じている。

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
１　資格，免許		
１）実用英語検定試験２級	昭和63年	
２）修士（経済学）	平成5年3月	学位番号　第252号 論文題名　二重経済発展論の再検討
２　特許等		
特記事項なし		
３　実務の経験を有する者についての特記事項		
特記事項なし		
４　その他（学内公務歴）		
1）教務委員、大学要覧委員。	平成16年4月～平成17年3月	奈良産業大学 教務委員：カリキュラム作成、基礎教育科目の検討、シラバス編集等教務案件の立案・検討。 大学要覧委員：入学者募集のための広報誌作成。
2）大学要覧委員、学部広報委員、導入演習策定委員。	平成17年4月～平成18年3月	奈良産業大学 大学要覧委員：入学者募集のための広報誌作成。 学部広報委員：所属学部の広報関係案件の検討。 導入演習策定委員：1年次生対象「導入演習」に関わる案件の検討。
3）大学要覧委員、ＦＤ委員、学修支援センター委員、ビジネス学部準備作業部会委員、その他ビジネス学部開設準備に伴う各種作業小部会メンバー。	平成18年4月～平成19年3月	奈良産業大学 大学要覧委員：入学者募集のための広報誌作成。 FD委員：授業アンケート、公開授業、FD後援会の実施、FD研究会への参加などFD活動に関わる案件の企画・検討・実施。 学修支援センター委員：学生の学修サポートや学修への啓発を企画・立案・実施。 ビジネス学部準備作業部会委員：ビジネス学部の開設準備作業。

4) ＦＤ委員、キャリア育成委員。	平成19年4月～平成20年3月	奈良産業大学 FD委員：授業アンケート、公開授業、FD後援会の実施、FD研究会への参加などFD活動に関わる案件の企画・検討・実施。 キャリア育成委員：学生のキャリア形成に関わる案件の検討。
5) ＦＤ委員。	平成20年4月～平成21年3月	奈良産業大学 FD委員：授業アンケート、公開授業、FD後援会の実施、FD研究会への参加などFD活動に関わる案件の企画・検討・実施。
6) オープンキャンパス委員、1年次教育・テキスト作成委員。	平成21年4月～平成22年3月	奈良産業大学 オープンキャンパス委員：オープンキャンパスの企画・立案・実施。模擬講義の担当。 1年次教育・テキスト作成委員：ビジネス学部1年次教育に関わる案件の企画・立案・実施と、1年次教育オリジナルテキストの作成。
7) 就職委員会副委員長、国際交流センター運営委員、1年次教育・テキスト作成委員、ホームページ小委員会委員、リメディアル教育ワーキンググループ委員、基礎数学検討ワーキンググループ委員。	平成22年4月～平成23年3月	奈良産業大学 就職委員会副委員長：学生の就職案件について企画・検討。 国際交流センター運営委員：留学生の学修や生活に関する案件の検討。 1年次教育・テキスト作成委員：ビジネス学部1年次教育に関わる案件の企画・立案・実施と、1年次教育オリジナルテキストの作成。 ホームページ小委員会委員：奈良産業大学ホームページの編集。 リメディアル教育ワーキンググループ委員：リメディアル教育の立案・検討・実施。 基礎数学検討ワーキンググループ委員：1年次生への数学教育の企画・立案・実施。
8) 就職委員会委員長、スポーツ振興委員、1年次教育・テキスト作成委員、インターンシップ科目検討ワーキンググループ委員。	平成23年4月～平成24年3月	奈良産業大学 就職委員会委員長：就職委員会の招集、方向付け。学生の就職案件について企画・検討。 スポーツ振興委員：強化クラブを初めとした学生のスポーツに関わる案件の企画・検討・実施。 1年次教育・テキスト作成委員：ビジネス学部1年次教育に関わる案件の企画・立案・実施と、1年次教育オリジナルテキストの作成。 インターンシップ科目検討ワーキンググループ委員：インターンシップの科目化に関する制度設計。
9) 就職委員会委員長、スポーツ振興委員、高等教育改革推進社会科学関係部会委員。	平成24年4月～平成25年3月	奈良産業大学 就職委員会委員長：就職委員会の招集、方向付け。学生の就職案件について企画・検討。 スポーツ振興委員：強化クラブを初めとした学生のスポーツに関わる案件の企画・検討・実施。 高等教育改革推進社会科学関係部会委員：新学部開設準備に関する企画・立案・実施。
10) 入学試験委員、1年教育・テキスト作成委員、学校法人奈良学園（仮称）奈良学園大学設置準備委員会現代社会学部会会員。	平成25年4月～平成26年3月	奈良産業大学 入学試験委員：ビジネス学部及び情報学部の入試に関する諸業務。 1年次教育・テキスト作成委員：ビジネス学部1年次教育に関わる案件の企画・立案・実施と、1年次教育オリジナルテキストの作成。 学校法人奈良学園（仮称）奈良学園大学設置準備委員会現代社会学部会会員：奈良学園大学現代社会学部開設準備に関する諸業務。
11) 学生支援センター委員、学生委員。	平成26年4月～現在に至る	奈良学園大学 学修支援センター委員および学生委員：学生生活一般、奨学金関係、学友会活動の指導、リメディアル教育等に関する諸業務。

研究業績等に関する事項				
著書，学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所，発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（著書）				
１．経済数学入門	共著	平成16年4月	産図テクスト	共著者：竹山理、根岸章、福留和彦 Ｂ5判、全140頁。 本人担当部分：「第2章方程式」(pp.20－34) 「第3章数列」(pp.35－42) 概要：奈良産業大学経済学部「特殊講義(経済数学演習)」用テキストとして作成。「第Ⅰ部経済数学への準備」「第Ⅱ部経済数学の基礎」の2部構成。他の市販経済数学教科書と同様に関数、方程式、数列、微分、行列・行列式、ベクトル、最適化理論を扱うが、類書には見られないほど多くの経済学との関連を示す具体例を掲載している。
（学術論文）				
1. 実質利子率の低下は投資需要を増加させるか？―インフレ・ターゲティング論への留保―	単著	平成17年12月	「産業と経済」(奈良産業大学経済経営学会)第20巻4号、pp.297－308.	要旨：インフレ・ターゲット論は、インフレ期待の醸成による実質利子率の低下を通じて民間投資需要の増大させることを狙いとする。しかし本稿のモデルに従えば、実質利子率の低下は実質利潤率の低下を同時に引き起こし、民間投資需要を喚起できるか定かでないことを示した。この結論はIS曲線の傾きが緩やかに右下がりではなく垂直に近いことを意味している。インフレ・ターゲット論では、緩やかなIS曲線を前提とした上でLM曲線の下方シフトが均衡GDPを意味あるほどに増加させることを主張するので、本稿が得た結論を問題として抱える。
2. 高齢化の進行と日本経済のあり方 ―生活水準・国民負担率・経済成長率―	単著	平成18年3月	「産業と経済」(奈良産業大学経済経営学会)第21巻1号、pp.1－13.	要旨：高齢化の進行が不可避的に国民負担を増加させると仮定し、今後20年の日本経済のあり方を考えた。税制や社会保障制度など所得再分配制度の整備や、「豊かさ」に対する価値観の転換も考慮しつつ、それでも国民の生活水準の維持には経済の量的拡大が必要であることを主張した。この主張を裏付けるために、①現在の可処分所得と20年後の可処分所得が同水準、②現在の可処分所得は20年間現在の水準を下回らないという2つの条件を満たす数理モデルを構築し、現在の生活水準を維持する実質経済成長率（年率）が約2%という結果を得た。
3. 国民負担率の上昇と経済成長率 ―前著への補論―	単著	平成18年9月	「産業と経済」(奈良産業大学経済経営学会)第21巻3・4号、pp.271－282.	要旨：前著「高齢化の進行と日本経済のあり方」への補論。前著で議論されなかった勤労者層と老齢者層の階層分類に加え、各階層における可処分所得の違いをモデルのなかに明確化した。その結果、勤労者層と老齢者層が同時に生活水準を維持するための実質経済成長率は、前著とほぼ同じ結果である年率2%～3%という結果を得た。
4. アーサー・ルイスの二重経済論	単著	平成20年12月	「社会科学雑誌」(奈良産業大学社会科学学会)第1巻創刊号、pp.31－57.	要旨：W.A.Lewisの二重経済論に関する4論文を再検討。Ranis＝Feiモデルや農工間資源移転論との関連に注意しつつ、Lewisは無制限労働供給による資本蓄積過程の成否が、農業成長とのバランスを重視していることを再確認した。さらに、前著「蓄積停止を考慮した農工2部門モデル」で提示したTrap型農工2部門モデル（余剰労働を残したまま転換点前で資本蓄積過程が停止するモデル）を再定式化し、Lewis論文「無制限労働供給による経済発展」（1954年）に叙述的に書かれている条件を使ってTrap型農工2部門モデルと同じモデルを構築できることを確認した。

5. 高齢化する日本の社会保障モデル	単著	平成23年11月	「社会科学雑誌」(奈良産業大学社会科学学会)第3巻、pp.45－82.	要旨：福留〔2006年〕「高齢化の進行と日本経済のあり方」で未解決の問題、①将来時点の国民負担率の恣意性、②老齢者と勤労者の受益と負担の関係、③社会保障財源として税負担と保険料負担の関係、④望まれる税制などのうち、①②③を組み込んだ社会保障モデルを構築した。その上で、全国民負担を勤労者が負う設定で1人当り可処分所得を悪化させない実質GDP成長率を再計算した。その結果、租税負担と社会保障負担の割合およびその変化次第では、福留〔2006年〕と同様に2%から3%台後半の実質GDP成長率が必要であることが確認された。
6. 部分最適と全体最適について ―経済学の見地から―	単著	平成24年3月	「社会科学雑誌」(奈良産業大学社会科学学会)第4巻、pp.53－70.	要旨：経営論や組織論のなかでしばしば言及される「部分最適、全体最適」の議論を経済学の見地から論じたもの。筆者が参加する企業リーダー養成塾「サイバー適塾」(関西経済同友会)でも、企業経営者や中堅幹部社員から「部分最適ではなく全体最適の実現」との言説が聞かれる。言葉の直観的な意味がはたして論理的に支持しうるのか、市場の失敗の一種である「外部性」に関する経済理論に基づき検証した。その結果、部分最適の否定ではなく、部分最適を維持しながらぞれを全体最適につなぐ回路の存在する理論的可能性を示し得た。
7. 産業構造論の方法と現代日本経済分析〈1〉―産業構造論の再体系化―	単著	平成24年11月	「社会科学雑誌」(奈良産業大学社会科学学会)第5巻、pp.335－394.	要旨：産業構造論を需給均衡の比較静学分析と整合的に再体系化し、その枠内に産業連関論や前方・後方連関効果、ペティ＝クラークの法則、二重経済論、移動のマルコフチェーン、迂回生産化と産業構造の多段階化など産業構造変化の経験法則や理論を再構成した。本論文が提示する産業構造論の方法によって、日本経済の近現代における産業構造の傾向的変化や、工業化の特性、技術進歩、環境・エネルギー問題、価値観の変化、少子高齢化からの要求など、現代日本経済の経験や直面する課題を産業活動の側面から明らかにした。
8.「幸福の経済発展論」試論―社会／経済システムを中心に―	単著	平成25年3月	「奈良産業大学紀要」第29集、pp.89－114.	要旨：日本や他の先進欧米諸国はGDP成長以外に社会の豊かさや人の幸福を模索している。この論文は先行する「幸福の経済学」研究や「幸福度指標」を巡る諸議論を踏まえ、「幸福の経済発展論」を試論として提示する。「幸福の経済発展論」は次の3つの視点に立つ。①「幸福度」など指標化・可視化の努力、②幸福度向上のために必要なライフスタイルの提案・変革、それを支える財・サービス・技術群の考察、③社会／経済システム全体に対する認識方法の改良と、その認識に基づく実際のシステム改善の提案である。本論文は①と③を論じた。
9. 「論じる」文章の要件とは何か？―社会科学論文・レポートに求められること―	単著	平成25年12月	「奈良産業大学紀要」第30集、pp.65―87.	要旨：社会科学論文や研究レポートの要件について論じた。5W1Hという情報規則や主語の明示、主語の重層性などの基本的事項のほか、相関関係と因果関係、時間適前後関係、目的と手段の区別、状況描写と評価、政策、足し算と引き算、経済学の使用まで、論文として欠くべからざる条件のほか汎用性の高い分析道具の使い方について論じた。

（その他）				
「辞典・辞書」 1．進化経済学ハンドブック	共著	平成18年年9月	共立出版	概要：進化経済学会によるハンドブック編集事業。進化経済学の概要、方法論、様々な具体例、問題点や方向性などを包括した日本の進化経済学研究の出版当時における到達点を網羅・詳解。全頁数581頁。判型A5。ISBN 978-4-320-00572-3 編集委員：　塩沢由典(委員長)、磯谷明徳、清水耕一、八木紀一郎、荒川章義、池田毅、岡村東洋光、岡本哲史、高増明、谷口和久、徳丸宜穂、中島義裕、中原隆幸、萩原泰治、姫野順一、平野泰朗、福留和彦、水口雅夫。 担当部分：「繊維機械」pp.340-341、「情報革命」pp.485-486、「情報の経済学」p.486、「緑の革命」p.538、「レント・シーキング」p.551.
「メールマガジン」 1．地域づくりワンポイントアドバイス「地域づくりへの大学の関わり方」	単著	平成21年3月	「奈良県地域づくりメールマガジン　まほろば＊地域づくり情報」(奈良県地域振興部地域づくり支援課)、2009年4月号	要旨：奈良産業大学の教育プログラム「プロジェクト演習」の活動を通して、大学がもつ人的・知的資源の地域づくりへの活かし方を紹介。情報学部の「高取城CG再現プロジェクト」やビジネス学部の「奈良観光振興プロジェクト」の活動が、地域住民自身による価値ある地域資源の再発見を促す一方、学生自身も地域貢献の一端を担うことで知識を実践の場で活かす訓練を行えることを紹介した。
「公開シンポジウム冊子」 1．2013奈良産業大学公開シンポジウム「共生社会を考える」	共著	平成26年3月	奈良産業大学地域連携推進委員会	要旨：2013年11月9日に開催された奈良産業大学公開シンポジウム「共生社会を考える」の基調講演（同志社大学特別客員教授・橘木俊詔氏）、パネルディスカッション等を集録。福留はパネリストとして参加し、「「共生の経済学」をどう構想できるか？」という意見陳述を行った。のち、他のパネリストおよび基調講演者とパネルディスカッションを行った。同冊子はそれを集録したもの。
「学会・研究会発表」 1. 高齢化する日本の社会保障モデル	―	平成24年2月	奈良産業大学経済経営学会第2回定例研究会	コメンテータ：三浦晴彦准教授（同大ビジネス学部） 要旨：前著「高齢化の進行と日本経済のあり方」で得た結果を用いて、①国民負担率の恣意性、②老齢者と勤労者の受益と負担の関係が不明確、③社会保障財源として国庫負担と保険料の関係が不明確といった前著で残されていた課題に答えるためのモデル分析を行った。その結果、モデルの前提条件のうち国民負担中の社会保険料負担の割合が時間経過の中で低下するとき、国民負担率が大きく上昇する可能性をモデルの結論として得た。
2. 関西活性化、教育からのアプローチ	―	平成26年2月	平成25年度関西州広域計画研究会第3回会議	要旨：関西経済の低迷と日本経済の異同に注意しつつ、需要飽和社会のなかではマクロ経済政策のみならず需要創造を継続的に実現できる仕組み作りが必要であることを主張した。その方途の一つとして教育制度の転換を取り上げ、価値観の多軸化を提唱した。またこうした主張には、日本や関西が直面している課題への認識問題が存在しており、景気循環的問題と構造的問題の区別、経済成長の必要性、市場を成長に利用することなどを説明した。

3. 制度の現状分析	―	平成26年3月	進化経済学会金沢大会2013（金沢大学）	セッション司会：福留 報告者：西村　知(にしむら・さとる、鹿児島大学)「太平洋島嶼国の離島における農地利用制度の変容：ミクロネシア連邦共和国ピングラップ島のイモ畑利用を事例として」、Jokim Kitolelei（ジョキム・キトレレイ、鹿児島大学）「Understanding Fisheries Rules in Fiji: A Comparison of Three Case Studies」、戸田宏治(とだ・こうじ、日本経済大学)「官民人事交流に関する考察」、番匠谷光晴(ばんしょうや・みつはる、四天王寺大学)「医療供給体制と保険付の需関係にする一考察」
「公開シンポジウム」 1. アクティブラーニングの一形態―奈良産業大学ビジネス学部「プロジェクト演習」の経験から―	―	平成25年6月	第1回高校大学(「学び育ち」の)連携フォーラム	基調講演：溝上慎一(みぞかみ・しんいち、京都大学)「高校・大学で求められるアクティブラーニング」 パネリスト：福留「アクティブラーニングの一形態―奈良産業大学ビジネス学部「プロジェクト演習」の経験から―」 要旨：大阪府下の高等学校管理職（校長、教頭など）約60校を相手に、アクティブラーニングの理論と実践例を紹介。パネルディスカッションにて議論した。福留は本学プロジェクト演習「奈良観光振興」に携わってきた経験に基づき、どのように講義と演習を連携させているか説明した。また、理論化・制度化したものが現場の運用でどのような問題に直面するかにも言及した。
2. 共生社会を考える	―	平成26年3月	2013奈良産業大学公開シンポジウム	基調講演：橘木俊詔(たちばなき・としあき、同志社大学特別客員教授)「共生社会を考える」 パネリスト：福留「「共生の経済学」をどのように構想できるか？」 要旨：基調講演者がアメリカ型社会と北欧型社会(デンマーク)、ニューリベラリズムとコミュニタリアニズムを対比し問題を提起。自助・共助・公助のあり方を論じる中で、これからの日本では公助の重みが一層増すことを主張した。パネルディスカッションでは基調講演者のほか、奈良産業大学から古田雅雄(政治学、市民社会論)、井上眞理子(家族社会学)、福留(経済政策、幸福の経済発展論)が加わり議論した。福留は「共生」を考える際の一般的注意点を紹介しながら、経済学の立場から「共生」をどのように考えるべきか意見を述べた。
「講　演」 1. 日本経済のビジョンをどう描くか	―	平成17年8月	奈良産業大学第5回公開講座	王寺町リーベルカレッジ 要旨：日本経済の直面する課題を①短・中期的課題、②長期的課題に分け、前者には景気循環に関わる不況とデフレの問題、後者には技術や社会状況、国際環境の変化に起因する構造問題があることを注意した。政策割り当ての原則から、景気循環の問題にはマクロ経済政策、構造問題には市場機能の改善と知識創造のための仕組みの形成が必要であることを提言した。

2. 日本経済の見取り図から私たちの暮らしを考える	—	平成18年6月～7月	2006しろきた市民セミナー(大阪市立城北市民学習センター)	第1回(6/26)経済学は「平成不況(デフレ経済)」をどう見ているか？ 要旨：需要不足問題と供給側の構造問題を峻別することを指摘。平成不況は需要問題であり、供給問題への対処である構造改革は政策割当として不適切であることを指摘した。またなぜデフレーションが経済に悪影響をもたらすか解説した。 第2回(7/3)景気対策の混乱を整理する～財政・金融・「構造改革」～ 要旨：1990～2005年までの日本の歴代政権と経済政策を解説し、複数回の景気の回復と墜落が政策上の原因で発生したことを説明。AD-ASモデルを使って不況下の正しい経済政策を解説した。 第3回(7/10)高度経済成長とライフスタイル 要旨：戦後日本の高度成長が、欧米的ライフスタイルの導入と世帯数の増加や賃金上昇により、耐久消費財中心の内需主導型経済成長であったことを解説。このモデルでの経済成長はすでに完了し、現在の日本は新しい国内需要を創造するための好循環モデルの再形成に迫られていることを説明した。 第4回(7/24)少子高齢化社会と日本経済のあり方 要旨：日本の高齢化の進行は、社会保障コストの増加をもたらし、生活水準の悪化の可能性を指摘した。税制や社会保障制度の再分配政策では限界があり、経済成長が年率2～3%必要であることを説明した。 第5回(7/31)幸福の経済学～「質」の時代～ 要旨：経済の質的改善と量的拡大が車の両輪となって経済成長することが国民の幸福の前提であることを主張した。サービス産業化を進めることで環境負荷の低減を図り、国民の精神的・知的満足に応える財の創出が課題であることを結論とした。
3. ＜オズの魔法使い＞と経済学	—	平成22年8月	教職員のための公開講座(奈良産業大学)	要旨：F.ボーム作「＜オズ＞の魔法使い」には19世紀末米国での通貨制度を巡る議論がモチーフにあることを紹介。この話題の結論は、20世紀初頭の世界恐慌、同時期の昭和恐慌、日本の平成不況、さらにユーロ圏諸国の財政危機にも関係することを説明した。
4. 経済学から日本史を考える　～昭和恐慌から大東亜戦争へ～	—	平成24年2月	三郷町市民講座(財団法人三郷町文化振興財団)	要旨：経済政策の誤りによる国民の経済的困窮が大東亜戦争突入への抑止を不可能にしたことを主張。浜口雄幸・井上準之助政権時の清算主義が不況を悪化させたが、犬養毅・高橋是清政権時のケインズ政策、金本位制の放棄が景気回復の足がかりを作ったものの間にあわず、2.26事件で軍部の政治掌握をもたらしてしまったことを説明した。
5. 経済論議の混迷を整理する！　～経済診断はなぜ異なるのか？～	—	平成24年2月	三郷町市民講座(財団法人三郷町文化振興財団)	要旨：メディアに登場する専門家の解説は、各自が依拠している経済学の思想や理論に基づいていることを説明した。経済学は一枚岩ではなく、学派ごとに鋭い対立があることを紹介しつつ、不況の原因を需要面に求める立場、供給面に求める立場、セーフティネットの不備に求める立場など立場によって景気対策の処方箋が全く変わることを解説した。

「社会人対象講義」 １．《重層的教育システム》仮説	―	平成19年7月	伍福塾(サイバー適塾第5期生勉強会)	於：三菱商事関西支社 要旨：社会常識やルール、所作・振る舞いなどを巡って世代間でしばしば摩擦が起きる。社会には本来様々な世界があり、各世界でルールや作法は異なるが、そうした複数の異なる世界での経験を経ずに、子供が子供の世界でのみ通用する単色の世界観を大人になっても全ての世界に持ち込むことが摩擦の原因であり、解決の方途としてコミュニティベースのもの、市場ベースのものの可能性を提案した。
２．幸福の経済学	―	平成20年4月	伍福塾(サイバー適塾第5期生勉強会)	於：三菱商事関西支社 要旨：日本経済の成熟化や日本社会の少子高齢化は、従来型の経済成長モデルや価値観からの転換を必要としているとの認識に立ち、日本社会の幸福度の向上のために必要なライフスタイルの提案・変革、それを支える産業、財・サービス、技術群の考察を行った。
３．経済診断はなぜ異なるのか？	―	平成20年6月	伍福塾(サイバー適塾第5期生勉強会)	於：三菱商事関西支社 要旨：「失われた15年」と称される日本経済の長期低迷に対し、処方箋を提示するはずの専門家や政策の立案者である政府の、経済に対する現状診断や政策内容の混乱・異論の並立の原因について、経済学史や経済理論に基づき整理・解説した。
４．格差問題の偽装を告発する	―	平成20年8月	伍福塾(サイバー適塾第5期生勉強会)	於：三菱商事関西支社 要旨：1990年代後半から2006年までの所得格差問題について、内閣府や政府見解など社会の高齢化の進行が格差拡大の原因とする見解に対し、それはジニ係数の誤用に基づく結論であり、正しくは、90年代末からの日本的賃金・雇用システムの変質に起因することをジニ係数の理論的特徴を踏まえて解説した。
５．交渉力を考える　～部分最適と全体最適～	―	平成20年9月	伍福塾(サイバー適塾第5期生勉強会)	於：三菱商事関西支社 要旨：交渉力を磨くための経済学的素養の必要性・有用性を説いた。「部分最適から全体最適へ」は企業の組織マネジメントの上で常識化して言われるが、経済学の「外部性」理論を用いると部分最適と全体最適をつなぐ回路をいかに作るかが真の課題であることがわかることを解説した。
６．続・交渉力を考える　～ゲーム理論の知見～	―	平成20年10月	伍福塾(サイバー適塾第5期生勉強会)	於：三菱商事関西支社 要旨：ゲーム理論「囚人のジレンマ」を通して、「部分最適≠全体最適」を確認し、小国がいかに交渉力を持つか、「背水の陣戦略」を解説した。 また、ゲーム理論によって完全競争市場の「部分最適＝全体最適」という結論が支持されなくなっていること、現在の経済学の主流が変化していることを解説した。
７．交渉術	―	平成20年11月	伍福塾(サイバー適塾第5期生勉強会)	於：三菱商事関西支社 要旨：タクシーへの相乗りの例を用いて、料金の異なる目的地へ2人が相乗りすることの平等な利益を得るように交渉が行われるための理論的背景を解説した。
８．田母神論文を考える	―	平成20年12月	伍福塾(サイバー適塾第5期生勉強会)	於：三菱商事関西支社 要旨：田母神俊雄〔2008年〕「日本は侵略国家であったのか」について、日本の戦後の歴史認識の問題を歴史学に対する比較言語学からの批判である「言語論的転回」を材料に考察した。物語としての歴史か、事実／真実としての歴史か、歴史学の難しさに留意しつつ、経済学的思考枠組をもった科学的歴史学に立脚すべきことを主張した。

９．インフレ・ターゲティング政策を考える	―	平成21年1月	伍福塾(サイバー適塾第5期生勉強会)	於：三菱商事関西支社 要旨：マクロ経済学のオペレーティング・システムであるIS-LMモデルを解説し、P.クルーグマンらのインフレターゲティング政策の特徴を解説した。また2005年10月に新しいFRB議長に就任したベン・バーナンキの考え方にも触れた。
10．続・インフレ・ターゲティング政策を考える	―	平成21年2月	伍福塾(サイバー適塾第5期生勉強会)	於：三菱商事関西支社 要旨：前回のインフレターゲティング政策の解説を踏まえ、拙稿〔2005年〕「実質利子率の低下は投資需要を増加させるか？」を紹介し、インフレターゲティング政策の問題点を解説した。結論として、民間投資需要の実質利子率に対する弾力性が非常に小さくなることをモデルの結論として得たことを紹介した。
11．サブプライム問題とはなにか？	―	平成21年3月	伍福塾(サイバー適塾第5期生勉強会)	於：三菱商事関西支社 要旨：日本の1980年代後半のバブル経済と、2007～2008年に米国で発生したサブプライム問題とリーマンショックの異同を明らかにした。両国とも不動産バブルがきっかけになっており、また金融機関による不動産関連融資の異常な拡大が背景にあったが、米国の場合には債権の証券化という金融手法が介在していることを解説した。
12．需要創出型経済成長の必要性　～ケインズとシュンペーター～	―	平成21年4月	伍福塾(サイバー適塾第5期生勉強会)	於：三菱商事関西支社 要旨：拙稿〔2008年〕「アーサー・ルイスの二重経済論」を引きつつ、日本の高度成長期の経済発展パターンを解説した。その上で吉川洋〔2009年〕『今こそ、ケインズとシュンペーターに学べ』、〔2003年〕『構造改革と日本経済』を引きつつ、需要飽和時代における経済成長、イノベーションの果たす役割について議論した。
13．年金制度の経済学　～原題：人生設計の経済学～	―	平成21年6月	伍福塾(サイバー適塾第5期生勉強会)	於：三菱商事関西支社 要旨：異時点間効用最大化モデル（2期間ライフサイクルモデル）を用いて、消費と貯蓄の最適解を求める方法を解説した。その上で、個人の長生き確率をモデルに組み込み、公的年金制度の必要性を説いた。
14．経済学から「マニフェスト」はどう見えるか？	―	平成21年8月	伍福塾(サイバー適塾第5期生勉強会)	於：三菱商事関西支社 要旨：2009年8月30日衆議院解散総選挙時の自民党と民主党のマニフェストについて、それを経済学に基づき統一的な基準で整理・評価した。生産可能性フロンティア、比較優位の原理、余剰分析、AD-ASモデルなど経済学の道具を用いて経済問題を整理し、両党のマニフェストが正しい経済認識と政策提言に至っているかチェックリストを作成し提示した。
15．関西の人材育成について	―	平成21年9月	伍福塾(サイバー適塾第5期生勉強会)	於：三菱商事関西支社 要旨：関西活性化の糸口の一つに人材育成がある。本発表では、「人間力」という力の実体について、サイバー適塾（関西経済同友会）での経験に基づいて定義し、「人間力」をもった企業人・起業家の育成が関西にとって課題であることを指摘した。
16．信貴山魅力発見	―	平成21年11月	伍福塾(サイバー適塾第5期生勉強会)	於：三菱商事関西支社 要旨：前回の「関西の人材育成」に引き続き、関西活性化を「観光振興」という別の観点から論じた。発表者は奈良県下の大学に所属し、大学が立地している地域の魅力を掘り出す作業を学生とともに行っている。その一つに地元「信貴山」の歴史遺産である朝護孫子寺があり、学生たちとともに明らかにしたその魅力を紹介した。

17. ＜オズの魔法使い＞と経済学	―	平成21年12月	伍福塾(サイバー適塾第5期生勉強会)	於：三菱商事関西支社 要旨：F.ボーム作「＜オズ＞の魔法使い」には19世紀末米国での通貨制度を巡る議論がモチーフにあることを紹介。この話題の結論は、20世紀初頭の世界恐慌、同時期の昭和恐慌、日本の平成不況、さらにユーロ圏諸国の財政危機にも関係することを説明した。
18. 続・幸福の経済学	―	平成22年2月	伍福塾(サイバー適塾第5期生勉強会)	於：三菱商事関西支社 要旨：ブータンのGNHに始まり、近年の幸福度の指標化の動きを紹介しつつ、発表者も経済学の新たな可能性を求めて「幸福の経済学」を構想していること紹介した。前回発表の「幸福の経済学」(平成20年4月)とは視点を変え、財・サービスの配分システムや、個人の社会的関係性など社会システムのあり方に焦点を当て持論を紹介した。
19. 財政赤字の考え方：Part1.最後の日本人	―	平成22年5月	伍福塾(サイバー適塾第5期生勉強会)	於：三菱商事関西支社 要旨：日本における毎年の財政赤字の計上とその累積である政府債務が国家財政の破綻を帰結するとの議論がある。これに反論する議論に原田泰〔2008年〕「最後の日本人」論があり、人口減少の進行により950年後の日本には1人の国民が国のすべての資産と負債を相続するため、国家財政の破綻は無いこと、問題は財政赤字によって作り出された公共財の性質にあることを紹介した。
20. 発展途上国工業化の過程分析　～メキシコと韓国～	―	平成22年9月	伍福塾(サイバー適塾第5期生勉強会)	於：三菱商事関西支社 要旨：1960年代～80年代に新興工業国として発展してきた韓国とメキシコの工業化過程を比較検討した。韓国の輸出指向工業化とメキシコの輸入代替工業化の相違点を明らかにし、両国とも累積債務問題という共通の問題点を抱えた中で、その返済の可否を左右した工業化の社会的能力について解説した。
21. 大学教育は今どうなっているか？	―	平成22年12月	伍福塾(サイバー適塾第5期生勉強会)	於：三菱商事関西支社 要旨：「初年次教育」と「リメディアル教育」と呼ばれる近年の大学教育の新しい制度化について紹介した。スタディ・スキルやスチューデント・スキル、専門教育への橋渡しを目的とした「初年次教育」、高校までに習得すべき内容の補習教育である「リメディアル教育」について、その制度化への経緯を説明し、現場レベルでどのような工夫や努力がなされているかを紹介した。
22. Ｙ＝Ｃ＋Ｉで読み解く経済学　Part1.	―	平成23年2月	伍福塾(サイバー適塾第5期生勉強会)	於：関西電力中之島プラザ 要旨：マクロ経済均衡を表現するY=C+Iの有用性を解説。乗数理論、マクロバランス論、各種政策論などマクロ経済を認識する際の共通枠組みとして、その応用性・汎用性が極めて高いことを説明した。
23. Ｙ＝Ｃ＋Ｉで読み解く経済学　Part2.	―	平成23年3月	伍福塾(サイバー適塾第5期生勉強会)	於：関西電力中之島プラザ 要旨：前回の発表内容を踏まえて、不況下の財政政策の種類について解説した。財政拡大政策と減税政策、財源を増税に求めるか国債発行とするか、国債発行は市中消化か日銀引受けか、ケースによって景気浮揚効果が変わってくることを解説した。
24. 日本史を経済学から読み解く　～Part1.大東亜戦争はなぜ起こったか？～	―	平成23年8月	伍福塾(サイバー適塾第5期生勉強会)	於：三菱商事関西支社 要旨：大東亜戦争の経済的背景として食料問題を指摘。英国を始め今日の先進各国は人口成長と人口転換問題を抱えた。日本は1920年代に農業生産性の停滞を経験し、コメ騒動など食料問題に直面する。その解決の方途として朝鮮半島と台湾を食料供給基地化したが、こうした問題を開発経済学では「リカードの罠」と呼び、現代の発展途上国にも共通する問題であることを説明した。

25. 日本史を経済学から読み解く　～Part2.大東亜戦争はなぜ起こったか？～	—	平成23年9月	伍福塾(サイバー適塾第5期生勉強会)	於：電通関西支社 要旨：大東亜戦争の経済的背景として昭和恐慌を取り上げた。浜口雄幸首相・井上準之蔵相らが清算主義に基づき不況を悪化させ、農村を疲弊させたの対し、高橋是清蔵相の拡張的財政政策と金融緩和、金本位制からの離脱が景気回復への道筋をつけたことを説明した。しかし、2.26事件以降、軍部による政権の掌握と軍事予算の急拡大によって戦争突入が不可避となったことを説明した。
26. 高齢化する日本の社会保障モデル	—	平成24年1月	伍福塾(サイバー適塾第5期生勉強会)	於：電通関西支社 要旨：拙稿〔2011年〕「高齢化する日本の社会保障モデル」に基づき、老齢者と勤労者の受益と負担の関係、社会保障財源としての国庫負担（税負担）と保険料負担の関係を明示的に導入したモデルを提示し、想定される将来の国民負担率のもとで個人の生活水準を悪化させない経済成長率がどの程度になるか試算したものを紹介した。
27. 辛坊治郎『日本経済の真実』を批判的に読む	—	平成24年2月	伍福塾(サイバー適塾第5期生勉強会)	於：三菱商事関西支社 要旨：メディアを通じた発言力の強い著者による日本経済診断本である同書が誤解や矛盾、経済学への無知に満ち溢れていることを説明した。創作された「高度成長期」論を振り回し、景気対策としての経済政策を高度成長期への郷愁とする曲解、供給天井たる潜在生産能力の毀損が不況の真因だとする本書の奇怪さを標準的な経済理論から論破した。
28. 範囲の経済	—	平成24年6月	伍福塾(サイバー適塾第5期生勉強会)	於：三菱商事関西支社 要旨：財の生産上のコスト削減に関して、財の生産量にかかわる効果と、財の生産の範囲に関わる効果に大きく2つあることを紹介した。財の生産量に関わる費用節約効果には、①固定費用、②規模の経済、③経験効果が、財の範囲に関わる費用節約効果には、①金銭的外部効果、②範囲の経済があることを解説した。
29. 消費税って、どうよ？	—	平成24年8月	伍福塾(サイバー適塾第5期生勉強会)	於：電通関西支社 要旨：消費税やその税率を巡る議論が錯綜している状況をまず整理し、消費税の役割と注意点について経済学的分析を踏まえ解説した。また2014年4月および2015年10月に消費税率が引き上げられることに言及し、景気が回復軌道に乗り安定成長がしっかりしていなければ、再度の景気の墜落もあることに注意を引いた。
30. アベノミックスとはなにか？Part1	—	平成25年1月	伍福塾(サイバー適塾第5期生勉強会)	於：JR西日本商事(株) 要旨：アベノミクスへの賛意を示したうえで、マスメディアのアベノミクスに対する誤解を説明し、アベノミクスが標準的なマクロ経済政策の考え方に従っていること、その政策の遅効性や副作用も踏まえた上で、3年間の継続性を必要とすることを主張した。
31. アベノミックスとはなにか？Part2	—	平成25年2月	伍福塾(サイバー適塾第5期生勉強会)	於：京阪電鉄本社 要旨：前回発表の続きで、アベノミクスと高橋是清の政策の類似性を説明した。また、前回不十分であったIS-LMのオープンモデルを解説し、現在の円安進行の理論的解説を行った。
32. 「幸福の経済発展論」試論	—	平成25年6月	伍福塾(サイバー適塾第5期生勉強会)	於：三菱商事関西支社 要旨：人々の幸福は社会システムや経済システムのあり方に大きく影響されることを述べた。その上でシステムに関わる事項として、市場、ビルトインスタビライザー、経済成長の意義や役割、限界について論じた。また市場システムに関する先行理論に学びつつ、既存の市場システムへの改革提案としてどのようなものがあるかを紹介した。さらに、ネットワーク型社会の問題点にも言及した。

33. ご近所付き合いの経済学～外部不経済とピグー税～	—	平成25年10月	伍福塾(サイバー適塾第5期生勉強会)	於：電通関西支社 要旨：ミクロ経済学の道具立てを用い、市場の失敗の一つして外部性を紹介した。公害問題を事例としながら、ピグー税という解決手段が有効であること、その資金を一般財源化することを通じて電力等エネルギー問題をどのように解決するかを論じた。
34. 共生社会を考える～経済学からの構想～	—	平成26年1月	伍福塾(サイバー適塾第5期生勉強会)	於：京阪電鉄本社 要旨：日本国内および世界的にも様々な利害の衝突と調整が課題となっており、まさに共生をいかに実現するかが21世紀社会の課題であることを説明。経済や社会のシステムとして共生をどのように考える必要があるか、また社会の価値観にはどのようなタイプが存在しているか類型的に紹介した。
35. いわゆる「ゆとり教育」は教育ルネッサンスだったのか？～A.S.ニイルとJ.デューイの教育論とその実践例を通して～	—	平成26年2月	伍福塾(サイバー適塾第5期生勉強会)	於：京阪電鉄本社 要旨：いわゆる「ゆとり教育」への批判と見直しが進んでいるのに対して、実はゆとり教育の具体的形態の一つである総合的学習は、効果が出始めていたという問題提起をした。総合的学習の理論的・思想的背景と考えられるJ.デューイとA.S.ニイルの教育論を紹介し、その日本における実践例である「きのくに子どもの村学園」を紹介した。
36. ビットコイン騒動～貨幣とは、何なのか？～	—	平成26年4月	伍福塾(サイバー適塾第5期生勉強会)	於：JR西日本商事(株) 要旨：マウントゴックスの破綻によるビットコイン騒動への経済学からの見方を提示した。同事件は専らITの進歩による光と影に焦点があたっているが、実は「貨幣とは何か」という経済学における重要テーマに関わっていることを説明した。金融庁や財務省による制度(法律)上の解釈と、経済理論における解釈の違いにも言及した。
37. 経済学のキーワードから考えるTPP問題	—	平成26年5月	伍福塾(サイバー適塾第5期生勉強会)	於：JR西日本商事(株) 要旨：貿易や投資の自由化、その国際制度の変遷の上にTPP問題が生まれてきたことを説明した。TPP問題は経済問題だけでなく国内の利害調整という政治問題、TPPへの加盟がもたらす国家安全保障の問題等さまざまな社会的関係性を含んでいることにも注意しつつ、経済問題に焦点を合わせ、貿易理論と需給均衡分析を使ってこれを分析した。また最近国際貿易理論に理論的革新があって、TPP問題へも影響を及ぼしそうであることにも言及した。
「オープンキャンパス模擬講義・高校出張講義」 １．経済学は、こう考える～いまの日本を理解するために～	—	平成16年	奈良産業大学オープンキャンパス	要旨：経済をヒト・モノ・カネの循環構造と定義し、循環を生み出す市場の機能が不十分になったとき、不況が発生することを解説した。また、AD-ASモデルを使って不況対策を意図として行われる構造改革とマクロ経済政策の違いを説明した。
２．人生設計の経済学	—	平成17年11月	高校出張講義	於：京都府立すばる高等学校 要旨：高校生にも分かるように視覚化した上で、異時点間効用最大化モデル（2期間ライフサイクルモデル）を用いて、消費と貯蓄の最適解を求める方法を解説した。その上で、個人の長生き確率をモデルに組み込み、公的年金制度の必要性を説いた。

３．景気対策の混乱を整理する	―	平成18年10月	高校出張講義	於：大阪府立茨木西高等学校 要旨：「失われた15年」と称される日本経済の長期低迷に対し、処方箋を提示するはずの専門家や政策の立案者である政府の、経済に対する現状診断や政策内容の混乱・異論の並立の原因について、経済学史や経済理論に基づき整理・解説した。
４．カネの流れとｉモード	―	平成20年2月	高校出張講義	於：奈良県立二階堂高等学校 要旨：eコマース市場の発達と携帯端末としての携帯電話の普及が新たなサービスとしての「iモード」を生み出したことをやさしく解説した。その上で、iモードの公式有料サイトの課金制度が、東京に莫大な資金の流入を生み出していることを、公式サイトの運営会社の所在地から明らかにした。
５．いまこそ経済学！世の中を読み解く最強の理論～経済学から「マニフェスト」はどう見えるか？～	―	平成21年9月	高校出張講義	於：私立天理高等学校 要旨：2009年8月30日衆議院解散総選挙時の自民党と民主党のマニフェストについて、それを経済学に基づき統一的な基準で整理・評価した。生産可能性フロンティア、比較優位の原理、余剰分析、AD-ASモデルなど経済学の道具を用いて経済問題を整理し、両党のマニフェストが正しい経済認識と政策提言に至っているかチェックリストを作成し提示した。
６．＜オズの魔法使い＞と経済学	―	平成22年7月	高校出張講義	於：和歌山県立新宮高等学校 要旨：F.ボーム作「＜オズ＞の魔法使い」には19世紀末米国での通貨制度を巡る議論がモチーフにあることを紹介。この話題の結論は、20世紀初頭の世界恐慌、同時期の昭和恐慌、日本の平成不況、さらにユーロ圏諸国の財政危機にも関係することを説明した。

［注］

1 最近10年間の教育活動、研究活動について作成すること。

2 「教育活動」については、各項目ごとに年月日順に、「学会等および社会活動」については、就任年月日順に記入すること。

3 「研究活動」については、下記の点に留意すること。

① 著書・論文及びその他の順に、発表年月日順に記入すること。

② 著者が複数にわたる場合で、筆頭著者が著書・論文等において明示されている場合には、その氏名に◎印を付すこと。

③ 共著(論文)の場合、「該当頁数」の記入にあたっては、本人の分担箇所を特定できる場合は、その頁数を記載すること。

④ 最近10年間に著書・論文等の発表のなかった者についても、教員名を挙げてその部分を空欄にしておくこと。

⑤ 芸術分野や体育実技等の分野を担当する教員については、著書・論文等以外の競技会、展覧会または演奏会等での発表のうち、特に顕著な業績と認められるものについても記載すること。このほか、専門分野の特性を 考慮し、顕著な業績と認められるものがある場合もこれに含めてもよい。

教　育　研　究　業　績　書

平成26年3月31日

氏　名　　古田　雅雄

研究分野	研究内容のキーワード
政治学	国民国家、勢力均衡論、民主化

教育上の能力に関する事項

事項	年月日	概要
1　教育方法の実践例		
1）学生の授業内容の確認	平成19年4月～ 平成25年3月	毎講義内容を学生が理解しているかどうかを確認するために毎講義内に確認レポートを書かせ提出させ、次回の授業において模範レポートの解説を行ってきた。
2）公務員試験対策の自主勉強会	平成17年4月～ 平成25年3月	公務員を目指す学生に講義後、休暇中の何日かを使ってに自主勉強会を開催した。対象科目は社会科学関連科目の講義と過去問練習、文章添削など。
3）少年警察ボランティア	平成17年4月～ 平成25年3月	本学と奈良県警察本部とが提携して地域の安全・安心のための学生のボランティア活動に引率役として参加。
2　作成した教科書，教材		
専門基礎科目用教材 1）政治学入門(2007年度版、120－178頁) 2）政治学入門(2008年度版、37－67頁) 3）政治学入門(2009度年版、71－101頁) 4）政治学入門(2010年度版、71－101頁) 5）政治の仕組みとビジネス(2011年度版、101－131頁) 6）政治の仕組みとビジネス(2012年度版、155－185頁)	平成19年4月1日 平成20年4月1日 平成21年4月1日 平成22年4月1日 平成23年4月1日 平成24年4月1日	専門基礎科目の講義用教材として作成。第2次世界大戦後の日本と世界の政治の動向を解説する。改版ごとに内容を修正、補足したりしてできるだけ今の政治現象を読み取れるように工夫している。主な項目は憲法をめぐる議論、日本人の政治意識の変遷、自民党と民主党、官僚主導と政治主導など。
国際関係論関連教材 1）ポスト冷戦時代の国際社会、 2）ポスト冷戦時代の国際関係［新版］ 3）ポスト冷戦時代の国際関係［第3版］ 4）ポスト冷戦時代の国際関係［第4版］ 5）ポスト冷戦時代の国際関係［第5版］ 6）ポスト冷戦時代の国際関係［第6版］ 7）ポスト冷戦時代の国際関係［第7版］ 8）外交論 9）ポスト冷戦時代の国際関係［第8版］ 10）日本の戦後外交を考える	平成10年 3月 平成13年12月 平成14年11月 平成16年 1月 平成16年12月 平成20年 3月 平成20年10月 平成21年 4月 平成22年 5月 平成22年 9月	国際関係論の講義用教材として作成。時事的な内容を書き換えている。基本的な内容は3つの部分からなる。第1は第2次世界大戦後からの冷戦時代である。第2は冷戦終了後1990年代から21世紀初めのイラク戦争までである。第3は現在の国際関係で問題となっている時事的な事柄を取り上げている。時事問題を扱うために本教材を定期的に書き改めている。８）は外交論の講義用に作成した教材。10）は国際政治コミュニケーションの講義用に作成した教材。
政治学講義用教材 1）政治学講義 2）現代政治イデオロギー 3）ヨーロッパ現代政治史（上・下） 4）現代日本の政治 5）市民社会論 6）戦後西欧諸国の理念と現の変遷 7）ヨーロッパ現代政治史（上・下）改訂版	平成 9年 6月 平成13年 6月 平成14年 1月 平成14年 6月 平成22年10月 平成22年10月 平成24年4月	講義用教材としてそれぞれの科目に応じて教材冊子の形で作成している。
3．教育上の能力に関する大学等の評価		
1）講義に関しては受講生からは内容は難しく感じているが、講義は理解できると評価されている。また講義運営は受講生からある程度納得できるとみなされている。その点では大学は良い評価を与えている。	平成21年 3月	
4　実務の経験を有する者についての特記事項		
1）私立天理高等学校にて「高校内進路（法学部）ガイダンス」の説明	平成17年11月5日	天理高校にて法学部進学希望者に法学教育とその後の進路を説明。
2）西宮甲英高院にて「大学進学説明会」に参加	平成25年7月17日	大学進学説明会にて法学部系の説明。

5　その他		
特記事項なし		

職務上の実績に関する事項		
事　項	年月日	概　要
1　資格，免許		
1）高等学校教諭二級免許状（社会科）	昭和52年 3月	
2）中学校教諭一級免許状（社会科）	昭和54年 3月	
3）法学修士	昭和58年 3月	「バイエルン人民党とバイエル政治」（法修第178号）
4）高等学校教諭一級免許状（社会科）	昭和58年 3月	
2　特許等		
特記事項なし		
3　実務の経験を有する者についての特記事項		
1）奈良市地域安全条例等委員会委員長	平成18年12月	奈良市安心安全まちづくり条例等策定、奈良市安全安心まちづくり基本計画策定に関わり、その進捗状況を検証。（現在に至る）
2）奈良県明るい選挙推進協議会委員	平成19年 8月	定期的な会議に参加、協議会に参加しその方針を協議・決定し、また選挙に関わる啓蒙活動に携わる。（現在に至る）
4　その他		
1）奈良産業大学全学教務委員会副委員長	平成21年 4月	全学教務副委員長としてカリキュラムの編成に携わった。（平成23年3月まで）
2）奈良産業大学ビジネス学部長 3）仮称現代社会学部設置部会長	平成23年 4月 平成25年6月	ビジネス学部長として学部運営に携わる。（平成24年5月まで）（仮称現代社会学部会長は平成26年3月まで）
4）奈良学園理事	平成24年 6月	奈良学園の理事として常勤理事会等の機関で協議、決定に携わる。学園全体の学校経営に関与する。（現在に至る）

研究業績等に関する事項				
著書，学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所，発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　要
（著書）				
1.西欧比較政治第2版	共著	平成16年4月	一藝社	本書は西欧各国の概略と政治学的手法を用いて比較検討する。旧版をより拡大し書き改めた　A4判全276頁　編者：加藤秀治郎　共著者：坂井一成、富崎隆、増田正、河崎健、池谷知明、加藤伸吾、八木三木男、正体朝香、白鳥浩、吉武信彦、古田雅雄、藤井浩司、檜山雅人、ロコバント、エルンスト、岩崎正洋　　本人担当部分：「ネオ・コーポラティズム」121－125頁、「多極共存型民主主義」126－129頁　前者において政府・労働組合・経営者団体が一体化となって経済政策を決定する体制を説明する。後者において民族、宗教、言語、階級など様々な要因を抱える国でも民主主義体制を安定させる工夫を説明する。

2.20世紀現代史＜新装判＞	共著	平成17年3月	一藝社	本書は20世紀はどのような時代であったかを多面的な視点から解説する。時代、地域・国、事象ごとに専門分野から論じる。　A4h判全306頁編者：須藤眞志　共著者：須藤眞志。加藤秀治郎、河原地英武、北澤義之、小島朋之、田中義晧、古田雅雄、松川克彦、丸山珠里、八木三木男、吉川洋子本人担当部分：「欧州の帝国主義の時代」1－5頁、「ファシズムの台頭」40－45頁　前者において第1次世界大戦に至る帝国主義の時代、後者において戦間期に発展したファシズムを事実関係から歴史のダイナミズムを解説する。
（論文）				
1、ドイツにおける政党組織の変容ー「断片的にルースに1つにまとまったアナーキー」型政党の解説を中心にー	単著	平成16年3月	人間科学研究第6号85－106頁	本論は近年の政党組織論の議論とは異なる視点を提供する。1960年代までの大衆政党モデルが包括政党モデルに移行し、1980年代よりカルテル政党モデル、プロフェッショナル政党モデルなどが提案されている。本論では「断片的なルースに1つにまとまったアナーキー」型政党モデルを紹介し、現在のドイツの政党組織論を検討する。
2.ポスト冷戦時代の新世界秩序の行方ーソフト・バランシングから見た国際政治の理解に向けてー	単著	平成18年9月	奈良法学会雑誌第19巻第1・2号　1－153頁	本論は冷戦終了後の新世界秩序のあり方を主要大国・地域(米国、ＥＵ、ロシア、中国)を中心に、それにかかわる日本、イスラム・パワーなどから、現況の国際政治を解説する。第1に現在の国際政治を解説すること、第2にそれを説明できる理論の検討を内容とする。その際、勢力均衡論の立場から、新世界秩序像の分析とその理論についての可能性を探る。
3.なぜドイツではネオリベラリズムが定着しないのかーシュレーダー時代における経済改革のジレンマと政界再編の可能性ー	単著	平成19年3月	奈良法学会雑誌第19巻第3・4号　91－146頁	本論は1990年代末から2005年までのドイツのシュレーダー政権の経済改革を中心にドイツの政治動向を考察する。1990年代ドイツ経済は戦後最悪の時代を迎えた。かつて賞賛を浴びた『ドイツ・モデル』は見る影もないぐらい消滅したかに思われた。そのため経済改革が各政党から提示されたが、それが今後生じる政界再編と絡むという視点から、政党、政治家、有権者の態度の変化を検証する。
4.Contemporary Politics of Japan.Cooperation,Conflict,Support,and Change among Voters,Politicians,Parties and Bureacrats.	単著	平成19年9月	奈良法学会雑誌第20巻第1・2号　１－149頁	本論は現在の日本政治を外国に紹介するために英文で書いた。その際説明する基本的な視点は政治アクター（政党、政治家、官僚、有権者、圧力団体など）から第2次世界大戦後から現在までを基本的な流れから日本政治の特質を浮かび上がらせる。具体的には、憲法をめぐる議論、戦後の有権者の投票行動から政治意識の変遷、自民党と民主党の政党の力学、官僚と政治家の関係、政治的リーダーシップなどを取り上げている。
5.ポスト冷戦時代の新勢力均衡論ーソフト・バランシング概念を中心にー	単著	平成20年3月	奈良法学会雑誌第20巻第3・4号　113－144頁	本論は冷戦後の国際政治をどのような観点から理解すればよいかを考察した。米国の1極支配、多極的構造など様々な考え方があるが、等閑視された勢力均衡論を修正したソフト・バランシングを枠組みに現在の事象を解明する。これは従来の勢力均衡論の固定的な考え方からもっと柔軟な国家間のバランスを保つ考え方である。現在、各国はこのような基準で柔軟な同盟関係を維持しながら、自国の安全保障を考慮している。
6.西ヨーロッパ国民国家形成論－Ｓ・ロッカン・モデルを参考にー	単著	平成20年9月	奈良法学会雑誌第21巻第1・2号1－187頁	本論は西ヨーロッパ国民国家の生成と発展、それに今後の行方をロッカン・モデルを参考に比較政治学的に説明するマクロ・モデルを描いている。歴史的に国家建設、国民形成、大衆民主主義、福祉国家の各段階を縦軸にし、それぞれの西欧諸国が各段階でどのような選択をするかを横軸にして現在の西欧諸国それぞれの違いを比較分析を行う。

7. グローバル化論　―　グローバル化する世界をどのように理解するべきか　―	単著	平成21年9月	奈良法学会雑誌第22巻第1・2号1－75頁	近年グローバル化の進展が著しい国際現象とみなされるが、それは経済現象のみを指摘される場合がほとんどである。しかし、グローバル化現象は政治・経済・文化のそれぞれの側面から考察しなければ理解できない。そのための分析枠組みを必要とする。本論では様々な観点から検討し、グローバル化した世界をどのように読み取るべきかの一試論を提供する。
8. 総選挙に向けた政治過程における政治的リーダーシップの考察－麻生首相と小沢代表にみる政局の主導権争いをめぐる事例研究－	単著	平成22年3月	奈良法学会雑誌第22巻第3・4号109－141頁	本論はリーダーシップのあり方を2008年9月から年末にかけて自民党の麻生首相と民主党の小沢代表の2人のリーダーの動きから指導者像を考察する事例研究である。政権交代前の政局から政治的リーダーの駆け引き、状況判断、国民への訴えかけ、政策提言のあり方などを比較したうえで、日本の首相のリーダーシップと他国のそれと比較する。
9. 現代政治文化論	単著	平成22年9月	奈良法学会雑誌第23巻第1・2号　1-109頁	本論は政治文化論をマクロ・メゾ・ミクロの部分から理論的な検討を行い、理論的な枠組みを提供することを目的とする。第2次世界大戦後、政治文化論は大きな躍進を果たしたが、1990年代に合理的選択モデルの席巻で一時学問的な停滞があったが、その後政治文化論の復権が言われている。これらの見解をまとめておく。
10 ．ドイツ社会民主党の改革戦略とそのジレンマ－政界再編期における社会民主主義の行方－	単著	平成23年11月	社会科学雑誌第3巻1－44頁	本論は最近のドイツの社会民主党の改革戦略とジレンマから現在の社会民主主義の模索、実際に改革の行きづまり、ドイツの福祉国家のあり方を検討する。1998年選挙に勝利したシュレーダー政権は当初予定していた改革方針を実現できず、その後大連合政権で様々な改革がなされたが、それは従来の福祉国家から離脱することになる。現在の社会民主主義のあり方を考える。
11. 現代市民社会論　―　その概念化への試論　―	単著	平成24年9月	社会科学雑誌第5巻407-460頁	1970年代以降、市民社会という用語は新しい理念を表すようになっている。1970年代南欧諸国の権威主義の崩壊、1989年東欧革命やソ連崩壊、1990年代第3世界の民主化、先進国の民主化の徹底、2010年中東・北アフリカの「アラブの春」などで、新しい市民社会像を模索する動きが顕著になってきた。その点を踏まえた市民社会論を考え、新たな市民社会論を本論では考察する。
12. グローバル化時代の西ヨーロッパ福祉国家	単著	平成24年12月	社会科学雑誌第6巻103－138頁	グローバル化は現在の西欧福祉国家にどのような衝撃を与えているのだろうか。この現象に解釈は3つの立場で見解が異なる。第1は大きく影響する。第2はあまり影響しない。第3は福祉国家がグローバル化に対応できる。3つの見解を検討したうえで、グローバル化が一様な現象であることを証明し、福祉国家の対応の仕方を個別事例を含めて考察する。
13, バイエルンにおける政治的カトリシズムの研究―19世紀国民国家形成期における「国家と宗教」の関係から―	単著	平成25年3月	社会科学雑誌第7巻　83-285頁	ヨーロッパ政治を考察する際には政治と宗教の関係を抜きにして理解することはできない。とりわけ19世紀の国民国家の形成段階では国民を統合する意味で国家への忠誠心を持つ国民であることとカトリック信者との関係をどのように整合させるのかは国民形成過程には極めて重要な問題である。この事例をバイエルンに求め、その経緯をロッカン・モデルの視点から論じる。
14. 戦後史における日本の安全保障の変遷をめぐる議論の整理―日米安保体制の定着、変容、拡大について―	単著	平成25年3月	奈良産業大学紀要第29集　129－163頁	第2次世界大戦以降の日本での安全保障政策に関する議論へ変遷を総合的に考察する。それには日米安全保障体制が大きな部分を占めている。これは1960年の両国の締結した同条約を基にするが、国際政治の状況は大きく変化してきた。その中で日本が日米関係を中心にどのような安全保障政策を議論し実際に採用してきたかを概観する。

15. 国際政治と第4次石油危機の可能性－エネルギー資源確保をめぐる地政学・地経済的変動の一考察－	単著	平成25年12月	社会科学雑誌第8巻115－177頁	戦後の先進国経済は安価な石油をエネルギーとした経済成長が続いたが、それが一変するのは1973年からの第1，2，3次石油危機によるものである。その危機は希少な資源と国際紛争が密接に結びついている。その後も消費国と生産国の生産と価格をめぐる主導権争いが続く。現在、それとは別の第4次石油危機が国際紛争を引き起こす可能性がある。第3世界の成長する国々が絡み、従来とは異なった事情を解説する。
16. 大統領制と議院内閣制の比較研究－民主主義にはどちらの統治形態がより有効なのか－	単著	平成26年3月	社会科学雑誌第9巻57－136頁	民主主義の統治形態には大統領制と議院内閣制、それに半大統領制がある。民主主義と政治的安定にはどの統治制度がふさわしいかという論争は以前からあるが、結論はいまだに出ていない。本論はこれまでの論争を整理し、この論争からの中心テーマを取り上げる。そのことで民主主義の実行性と政治的安定をいかに確保するかを検討する。
（翻訳）				
1. M. アンダーソン『戦後ヨーロッパの国家とナショナリズム』（M.Anderson,States and Nationalism in Europe since 1945）	共訳	平成17年9月	ナカニシヤ出版168頁	本訳は現在の欧州の国家とナショナリズムの関係を扱った訳書。ナショナリズムは国民国家の成立を目指し、それとともに誕生し、第1次世界大戦終結を機に普遍的理念の1つとしての立場を獲得した。その後極端に変質したのがナチズムやファシズム、ナショナリズムは信頼を失う結果となった。近年ナショナリズムは「時代遅れで危険な思想」と見なされてきた。翻訳書ではナショナリズムは現在でも有効な理念であるとする立場から、新たなナショナリズム論を構築し多角的に議論を展開する。共訳者：土蔵莞爾。逐次共訳したので各担当部分を区別できない。
2.E.ヘラール、S.v.ヘッケ「ヨーロッパのキリスト教民主主義―冷戦終了以降の加工と上昇―」(E.Gerard,S.V.Hecke,European Christian Democracy in the 1990s.Towards a Comparative Approach)	共訳	平成17年9月	法学論集第55巻第3号237－269頁	本訳は冷戦終了以降の欧州連合加盟国のキリスト教民主主義政党の展開を分析する。1990年代には西欧諸国のキリスト教民主主義政党の凋落が叫ばれた。有権者の意識、政治イデオロギー、政党などの変化などがその原因であるが、その一方でその復活も指摘される。冷戦終了以降の状況変化の中でキリスト教民主主義はそれに影響されるとともに時代を形成する役割も果たしてきたことを論じる。共訳者：土倉莞爾。逐次共訳をしたので、各担当部分を区別できない。
3.E. S. クラウス、B.ナイブレイド「日本は『大統領制』になったのか－日本における首相、メディア、選挙の関係－ (E.S.Krauss and B.Nyblade, in Japan ? The Prime Minisiter,Media and Election in Japan)	共訳	平成21年3月	奈良法学会雑誌第21巻第3.4号91－116頁	本訳は先進国共通である「大統領化」の現象を日本に適応できるかどうかの検討を行っている。議院内閣制の国々でも首相が事実上大統領な権限を行使できると言われる。従来日本では首相は強いリーダーであるよりも、様々な勢力の調整役と評価され、政治的決定では官僚や自民党派閥ほど重要視されてこなかった。しかし著者たちは現在その事情が変化し、日本でも首相が「大統領」のような存在になっていることを論証する。共訳者：石井晶子。逐次共訳したので、担当部分を区別できない。
（講演録）				
1. 住民投票から民主主義を考える	単独	平成19年9月	奈良法学会雑誌第20巻第1・2号29－52頁	本講演録は平成18年6月石川県立武生高校で行った講演である。近年日本では住民投票(直接民主主義）が頻繁に行われるようになった。本講演では民主主義の視点から直接民主主義と代表民主主義の理論、実践、長所・短所などを説明すると同時に日本の場合は歴史的、現在的な経緯と問題点を考えてもらう。
2. 近年の日本の選挙動向－選挙制度の政治的効果と投票行動の変化－	単独	平成20年9月	奈良法学会雑誌第21巻第1・2号231－255頁	本講演録は平成20年5月第59回近畿都市選挙管理委員会総会（於、大和高田市文化会館）においての講演を所収している。選挙制度、そこから生じる「デヴェルジェの法則」、近年の選挙事情の変化、それに伴う投票行動の変容、有権者と政党の最近の傾向などを講演した。

3. 新世界秩序の行方－冷戦後の国際環境と日本外交のあり方－	単独	平成21年3月	奈良法学会雑誌第21巻第3・4号117－151頁	本講演録は平成20年6月王寺町リーベルカレッジにおいての講演を所収したものである。本講演では、前半において冷戦終了後の世界情勢を概観し、同時多発テロ、イラク戦争を経た現在の国際政治情勢を解説する。後半で北東アジア情勢から日本、中国、朝鮮半島の動向を解説する。
（学会発表）				
1. ドイツの社会的市場経済の行方―現代ドイツの政治経済体制の変質はあるのかー	単独	平成17年4月	近代思想史研究会（於、関西大学）	本発表は戦後の政治経済体制の特徴である社会的市場経済を解説する。それにその安定性の秘訣や、それが最近では批判される事情を分析する。
2. ロッカン・モデル再考	単独	平成20年11月	関西政治史研究会（於、奈良女子大学）	本発表はロッカンの提示したモデル・理論を解説し、現在にいても有効活用できることを実証することを要旨する。まず、ロッカンの理論を1960年代のものと、1970年代のものとに分けて解説する。前者は政党と支持者の政党システム構造の定式化である。後者はそれを含めた国民国家形成の比較分析モデルである。両者は一体となって現在の西欧諸国の政治を説明し、今後の展開を類推できる枠組みを提供する。
3. 大連立政権の崩壊とドイツ社会民主党	単独	平成22年6月	日本比較政治学会自由企画3「現代ヨーロッパの社会民主主義政党と政権－改革の戦略と力量ー」（於、東京外国語大学）	本発表は現代欧州の社会民主主義政党と政権の関係をスウェーデン、英国、ドイツの3国の改革能力を比較考察することを共通テーマとする報告である。その中でドイツ社会民主党の事例を取り上げた。1998年政権復帰以降から2005年大連立政権を介して2009年に政権離脱するまでの軌跡の中で政治経済体制の改革の経緯を報告する。結論的には社民党はこの間の改革に成功したとは言い難く、逆に社会民主義の現在的意義を問われることになった。

［注］

1 最近10年間の教育活動、研究活動について作成すること。

2 「教育活動」については、各項目ごとに年月日順に、「学会等および社会活動」については、就任年月日順に記入すること。

3 「研究活動」については、下記の点に留意すること。

① 著書・論文及びその他の順に、発表年月日順に記入すること。

② 著者が複数にわたる場合で、筆頭著者が著書・論文等において明示されている場合には、その氏名に◎印を付すこと。

③ 共著（論文）の場合、「該当頁数」の記入にあたっては、本人の分担箇所を特定できる場合は、その頁数を記載すること。

④ 最近10年間に著書・論文等の発表のなかった者についても、教員名を挙げてその部分を空欄にしておくこと。

⑤ 芸術分野や体育実技等の分野を担当する教員については、著書・論文等以外の競技会、展覧会または演奏会等での発表のうち、特に顕著な業績と認められるものについても記載すること。このほか、専門分野の特性を 考慮し、顕著な業績と認められるものがある場合もこれに含めてもよい。

教　育　研　究　業　績　書

平成26年3月31日

氏名　　宮坂　純一

研究分野	研究内容のキーワード
経営学	経営管理、企業と社会、人的資源管理、企業倫理、企業社会的責任

教育上の能力に関する事項

事項	年月日	概要
1　教育方法の実践例		
1）ウェブ「Dialoge　学生との対話」 http://www.nara-su.ac.jp/~miyasaka/　開設	平成7年4月1日	学生との意思疎通を目的として、ウェブ「Dialoge　学生との対話」を運営（現在に至る）
2）経営倫理学のシラバスをウェブで開示。平成23年度から、管理の仕組みとビジネス及び人的資源管理論のシラバスを追加でアップ。受講生の質問に対する回答を記載したページも公開している。	平成15年4月1日	経営倫理学の講義を、企業倫理の実践・現実をビジュアルに理解させる目的で、ウェブを利用して展開。その詳細な内容を学内向けのホームページにて公開 http://www.nara-su.ac.jp/~miyasaka/ にリンクさせてアップ（現在に至る）
3）経営学を実践的に学ぶ「場」として学内にカフェを開設して指導する	平成18年6月1日	経営を実践的に学ぶ場を提供するために、経営学部の同僚と3人で合同ゼミとして、学内に本格的なカフェを立ち上げる。学生がアルバイトではなく、事業主体として参加する。学生が、仕入れ、マーケティング、会計等に直接関わり、学生が経営するカフェとして多くのマスコミから取材を受ける。ビジネス学部のプロジェクト演習のモデルとなった活動（現在に至る）
4）カフェ・メーリングリスト	平成18年6月1日	プロジェクト演習（カフェ経営プロジェクト）を円滑に運営するために、カフェ開店時前から「カフェ・メーリングリスト」を構築する（現在に至る）。
5）専門演習のテキストとして「ケーススタディで学ぶ企業と社会」を作成。簡易製本して学生に配付	平成23年9月15日	専門演習Ⅰ用のテキスト
2　作成した教科書，教材		
1）『ビジネス入門』奈良産業大学ビジネス学部(単著)	平成19年4月	奈良産業大学ビジネス学部1回生対象に開講されている「ビジネス入門」の講義テキスト。それ以降、毎年微調整を施している。
2）『アドバンスト経営学』中央経済社(共著)	平成22年4月	大学院レベルの体系的テキスト。基本的・通説的な理論はもちろん最新の理論・テーマにも言及、経営学の全体像を偏りなくつかむことができる。各章とも現実編と理論編から構成され、現実・実際から理論・学説へとスムーズに読み進められる。第10章企業倫理担当（340－373）
3）『新版　要説経営学』文眞堂(共著)	平成23年6月	経営学の全領域にわたり、些末な内容をそぎ落として、重要な要点のみを包括的かつコンパクトに記述。本書1冊で優に十数冊以上の経営学書に匹敵する内容をカバーする。中~上級学習者向けの講義テキスト、大学院受験者や修士課程大学院生の知識整理、各種試験参考書などとして、高効率な学習ができるように各種の工夫がなされている。第11章人的資源管理（139-154）、第14章労使関係と従業員の権利（180-190）,第22章ステイクホルダー･マネジメント型企業への転換（290-302）担当
4）『管理の仕組みとビジネス』奈良産業大学ビジネス学部(単著)	平成23年4月	奈良産業大学ビジネス学部1回生対象に開講されている「ビジネス入門」の講義テキストを、カリキュラム改訂に合わせて書き直したもの
5）『ケーススタディで学ぶ　企業と社会』(単著)	平成23年9月	専門演習のために、実例から14件のケースを作成したテキスト

3　教育上の能力に関する大学等の評価		
1）教育者・研究者としてのピア評価	昭和54年以降現在に至る	自著への書評及び依頼されて執筆した書評：宮坂純一著『ソビエト労務管理論』（奥林康司）『国民経済雑誌』第139巻第３号（1979年）／トムソン＆ヴィドマー著片岡信之＋宮坂純一＋小田福男訳『米ソ比較経営学』（奥林康司）『窓』第111号（1987年）／トムソン＆ヴィドマー著片岡信之＋宮坂純一＋小田福男訳『米ソ比較経営学』（笹川儀三郎）『経営史学』第22巻第２号（1987年）／宮坂純一著『社会主義経営とモチベーション』（大島國雄）『アジア経済』第31巻第11号１990年）／宮坂純一著『社会主義経営とモチベーション』（加藤志津子）奈良産業大学『産業と経済』第５巻第３号（1990年）／大島國雄著『社会主義経営学』『アジア経済』第31巻第11号（1990年）／宮坂純一著『経営管理の論理』（晃洋書房、1991年）を読んで――Ｔ君への手紙――（篠原三郎）奈良産業大学『産業と経済』第６巻第３号（1991年）／西岡健夫著『市場・組織と経営倫理（文眞堂、1996年）を読む』奈良産業大学『産業と経済』第12巻第１号（1997年）／宮坂純一著『ステイクホルダー・マネジメント』（出見世信之）『比較経営学会誌』第29号（2005年）／宮坂純一著『ステイクホルダー行動主義と企業社会』（晃洋書房、2004年 を読んで――Ｔ君への手紙――（篠原三郎）奈良産業大学『産業と経済』第20巻第２号（2005年）／山縣正幸著『企業発展の経営学』を読む『産業と経済』第22巻第２号（2007年）／宮坂純一著『道徳的主体としての現代企業』（山縣正幸）奈良産業大学『産業と経済』第24巻第３・４号（2010年）／宮坂純一著『道徳的主体としての現代企業』（田中一弘）『組織科学』Vol.43　No.4（2010年）
2）専門領域関連のホームページ作成	平成10年７月/平成11年３月（現在に至る）	「経営倫理学への招待」http://www009.upp.so-net.ne.jp/juka/及び「日本的経営への招待」http://www5f.biglobe.ne.jp/~juka2/を開設。学生をはじめとして研究者や実務家等から質問が多数寄せられる。
3）企業倫理専門家としての評価	平成17年2月17日	朝日新聞夕刊文化欄に写真入りで「企業倫理研究の第一人者として」紹介される。
4　実務の経験を有する者についての特記事項		
1）なし		
5　その他		
1）講演 2006/11/25	平成18年11月	「企業倫理・コンプライアンスについて考える～ＣＳＲの陥穽、ＣＳＲは1960-70年代の社会的責任論の焼き直しなのか～」（社）日本消費生活アドバイザー・コンサルタント協会西日本支部主催「企業における消費者対応講座」
2）講演 2008/10/11	平成20年10月	「企業不祥事。なぜに、起こり、再発するのか。」【奈良産業大学リーベル王寺公開講座】

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
1　資格，免許		
1）特記事項なし		
2　特許等		
1）特記事項なし		
3　実務の経験を有する者についての特記事項		
1）特記事項なし		

4　その他		
1）特記事項なし		

研究業績等に関する事項				
著書，学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所，発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（著書）				
1．ステイクホルダー行動主義と企業社会	単	平成17年2月	晃洋書房	企業とステイクホルダー(株主、従業員、消費者、地域社会,自然環境など)の間に生じている問題、ステイクホルダーが、社会や企業に対して主張していることなどを、ビジネスエシックスの発想を借りて整理し、展望する。
2．応用倫理学事典	共	平成19年12月	丸善	加藤尚武責任編集宮坂純一他編。社会にコミットする倫理学である「応用倫理学」の全貌が見渡せる、この分野初の中項目事典。わが国の「応用倫理学」各分野で活躍中の研究者総勢200名が執筆に参加。様々な身の回りのキーワードについて、哲学的・倫理学的概念を援用しながら具体的に考察する。収録する中項目見出し語数は約350。巻末索引の収録語数は約3000語で、それぞれの用語に対応する英語も併記。７企業倫理・経営倫理を編集執筆（338-399）
3．現代企業の新地平	共	平成20年8月	千倉書房	片岡信之・海道ノブチカ編。新自由主義に基礎を置く経済政策が深刻な社会的諸問題を生み出してきた今日、それと一体の株主中心的企業モデルを問い直すとともに、改めてヨーロッパ・モデルの持つ現代的意義に目を向けてみることは、意味のあることと思われる。本書の意図するところは、まさにこの点であり、その課題を、三部に分けて考察する。第８章現代企業とステイクホルダーマネジメント担当（117-130）
4．道徳的主体としての現代企業	単	平成21年8月	晃洋書房	企業不祥事は何故に繰り返されるのか。ビジネス・エシックスの発想を借りて理論的に説明し、不祥事が起こらないために何を為すべきなのか、という課題にひとつの回答を提示する。
5．アドバンスト経営学	共	平成22年4月	中央経済社	［前掲］片岡信之、齊藤毅憲、佐々木恒男、高橋由明、渡辺峻編。大学院レベルの体系的テキスト。基本的・通説的な理論はもちろん最新の理論・テーマにも言及、経営学の全体像を偏りなくつかむことができる。各章とも現実編と理論編から構成され、現実・実際から理論・学説へとスムーズに読み進められる。第10章企業倫理担当（340－373）
6．新版　要説経営学	共	平成23年6月	文眞堂	［前掲］経営学の全領域にわたり、些末な内容をそぎ落として、重要な要点のみを包括的かつコンパクトに記述。本書1冊で優に十数冊以上の経営学書に匹敵する内容をカバーする。中~上級学習者向けの講義テキスト、大学院受験者や修士課程大学院生の知識整理、各種試験参考書などとして、高効率な学習ができるように各種の工夫がなされている。第11章人的資源管理（139-154）、第14章労使関係と従業員の権利（180-190）,第22章ステイクホルダー･マネジメント型企業への転換（290-302）担当
（学術論文）				
1．統合社会契約論について考える(下))	単	平成18年3月	奈良産業大学『産業と経済』第18巻第３号（351-369）	ドナルドソンとダンフィによって「ビジネスエシックスの統合理論」として提唱され世界的に大きな反響を呼んだ「統合社会契約論」の内容を理論的に詳細に吟味する。マクロ契約、ミクロ契約、契約されたモラル合理性、モラルフリースペース、ハイパー規範、プライオリティルール等がキーワード。２回に分けて掲載。

２．環境倫理学とビジネス・エシックス	単	平成16年6月	奈良産業大学『産業と経済』第19巻第２号（97-117）	自然を「物言わぬ（サイレント）」ステイクホルダーとして位置づけて、現代企業は自然とどのように「付き合う」べきなのか、を考える。人間中心主義からの脱却、世代間倫理、環境保全、等がキーワードである。
３．コミュニティ・ビジネスとビジネス・エシックス	単	平成16年6月	奈良産業大学『産業と経済』第19巻第２号（119-142）	地域社会を重要なステイクホルダーとして位置づける立場から、コミュニティビジネスのあり方を経営倫理学的に考える。ビジネスの視点とコミュニティの視点をどのように結合するのか、を中心に、事例分析を含めて、コミュニティビジネスの原理、歴史が検討されている。
４．発言する消費者たち	単	平成16年6月	『リスクマネジメントBusiness』第17巻第４号（18-22）	依頼原稿。「物申す」のは株主だけではなく、消費者も「当事者」として積極的に発言し行動している現実の意味を考える
５.公益通報者保護制度と労働組合	単	平成16年6月	『労働調査』第423号（4-9）	依頼原稿。内部告発に対する評価が「ヒーロー」か「裏切り者」に大別される通説を廃して、内部告発がおこなわれないような組織を作り上げるためにはなにが必要なのか、という視点から、内部告発の問題点を整理する。
６．社会的に責任ある組織への途	単	平成16年6月	『人事院月報』No.663（16-19）	依頼原稿。事例の紹介を通して、「社会から信頼される企業」の意味を考える。
７．ビジネス・エシックス、ステイクホルダー・マネジメントそしてＣＳＲ	単	平成17年9月	奈良産業大学『産業と経済』第20巻第３号（147-175）	ステイクホルダーという概念が「一般化」するに伴って、企業と社会の関係を巡ってさまざまな概念が明確に定義されずに使われし混乱している現状を考えて、企業を道徳的主体として考える立場から、ビジネスエシックス、ステイクホルダーマネジメント、ＣＳＲを概念的に交通整理した論攷である。
８．生活賃金の問題提起	単	平成17年10月	『労働調査』第423号（38-57）	依頼原稿。アメリカの各地で、生活ができる賃金を求めて「草の根」運動が広範囲にわたって展開されている。いまなぜ「生活賃金」が問題になっているのか。その推移と現状だけでなく、日本の年功賃金との関連を含めて、その意味を考える論攷である。
９．スウェットショップからの問題提起	単	平成17年12月	『奈良産業大学　紀要』第21号（59-80）	スゥエットショップに対する反対運動が、特に、児童労働、強制労働等の観点から、世界的に展開されている現状を概観し、それを擁護する立場の紹介をを含めて、スゥエットショップ問題を整理し、今後を展望する。
10．人権、そして働くものの権利	単	平成17年12月	『奈良産業大学紀要』第21号（101-126）	ＩＬＯ、ＧＲＩ、ＳＡ８０００，ＥＴＩ、サリバン原則、等の国際的な労働基準の比較研究。その有用性と含意を中心に、論じている。
11．スウェットショップは超えられたのか？	単	平成18年6月	奈良産業大学『産業と経済』第22巻第１号（97-118）	スウェットショップを巡る議論を整理した後、ナイキとアディダスの事例（アンチ・スウェットショップ運動への対応策）を分析して、その企業行動の意味を考えることが本稿の目的であり、モラルイマジネーションが重要なキーワードである。
12．ビジネスエシックスと三つの陥穽）	単	平成19年3月	奈良産業大学『産業と経済』第22巻第１号（1-16）	田中照純「企業倫理学に潜む３つの陥穽」に対する反論。倫理学への陥没、ステイクホルダー論による眩惑、主観的規範論への傾斜、という３つの論点を巡って、論争が展開されている。
13．コミュニティ・ビジネス概念の確立に向けて（１）－－－奈良県コミュニティ・ビジネスの経営学的研究序説	共	平成19年9月	奈良産業大学『産業と経済』第22巻第２号（1-17）	奈良県はコミュニティビジネス後進県である。その奈良県の実態把握を目指して、本稿では、その準備作業として、コミュニティビジネスの定義を分析し、コミュニティビジネスの指標を確立している。奈良県コミュニティビジネスの実態調査の結果は活字化はされていないが、ウェブで「資料」を公開している。

14. コミュニティ・ビジネスの新たな展開：地域経済開発から住民主体地域密着型ビジネスへ ーーーイギリスの事例を中心として	単	平成19年120月	『奈良産業大学　紀要』第22号（39-58）	コミュニティビジネスないしはソーシャルビジネスは欧米においてさまざまな事業主体のろとで展開されている。本稿では、イギリスの先進的事例に学ぶという形で、彼の地で積極的に推し進められている地域経済開発から住民主体地域密着型への転換のプロセスそしてその実態を理論的にまた実態分析を不決めて論じている。
15. 道徳的主体としての現代企業	単	平成20年7月	奈良産業大学『産業と経済』第23巻第１・２号（19-45）	自然人としての個人だけではなく、人工的につくりだされた組織に対しても、道徳的責任を問うことができるーーこれが「企業道徳的主体」説である。これに対して賛成する立場、否定する立場の所説を批判的に検討したあとで、筆者の見解を、積極的に提示している。
16. 現代企業とステイクホルダー・マネジメント	共	平成20年8月	片岡信之・海道ノブチカ編『現代企業の新地平』千倉書房所収（117-130）	企業を道徳的主体として見なすことができるという立場から、新しいマネジメントをあり方を提唱する。企業はいわば企業と各種のステイクホルダーとの間のさまざまな契約の束であり、それらを契約を遂行することがステイクホルダーマネジメントである、と主張する。
17. 従業員の権利について考えるひとつの視点ーー労働ＣＳＲ序説	単	平成21年3月	奈良産業大学『産業と経済』第23巻第３・４号（1-29）	ＣＳＲを従業員の視点から論じた論攷。働くものの権利としての人権が企業内社会でどのように保障されるのかについて、アメリカ企業で注目されている「デュー・プロセス」に注目して、その歴史、原理、現状について整理し、日本企業への教訓を列挙している
18. 人的資源管理（HRM）と倫理ーー人的資源管理をビジネス・エシックスの視点から考える	単	平成22年3月	奈良産業大学『産業と経済』第24巻第３・４号（1-18）	人的資源管理（HRM）の枠内にビジネスエシックスの問題提起をどのように組み込むのかを中心論じる。人的資源管理（HRM）を倫理の視点から本格的に論じた文献はこれまで少なく、おそらく本稿が我が国では最初の試みであろう。
19. 企業倫理	共	平成22年3月	片岡信之他編『アドバンスト経営学』中央経済社、2010年所収（340-375）	没道徳性神話、倫理綱領、ＣＳＲ、社会的責任投資、社会的ミッション、ステイクホルダー、ステイクホルダーマネジメント、ソーシャルスクリーニング、社会的企業、コミュニタリアニズム、等をキーワードとして、企業と社会の関係を、企業倫理の視点から、現実を踏まえて理論的に概観する。
20. 何故に、企業は倫理を問われるのか	単	平成23年1月	経営倫理実践センター『経営倫理』No.61（8-10）	依頼原稿。現在、社会から企業に求められていることを、企業倫理の立場から、道徳的主体としての企業という概念に基づいて、整理する。
21. ステイクホルダー・セオリーと従業員ーーステイクホルダー・セオリーとしての　　従業員の二面性を中心として	単	平成23年3月	奈良産業大学ビジネス学部『社会科学雑誌』第２巻（1-18）	ステイクホルダーとしての従業員には、会社と対峙する側面と会社を代表する経営者に連なる存在として社会と対峙する側面という２つの側面があるとの立場から、従業員ステイクホルダーの特殊性を本格的に論じている。
22. 人的資源管理	共	平成23年3月	片岡信之編『新版　要説経営学』文眞堂所収（139-154）	ワークライフバランス、ヒト資源、エンプロイアビリティ、長期決済型賃金、成果給、コンピテンシー給、ワークルール、等をキーワードとして、現代人的資源管理のあり方を整理する。
23. 労使関係と従業員の権利	共	平成23年3月	片岡信之編『新版　要説経営学』文眞堂所収（180-190）	労使協議制、国際的労働基準、労働ＣＳＲ、任意雇用、ディーセントワーク、等のキーワードで、現代の労使関係のあり方を整理する。
24. ステイクホルダー・マネジメント型経営への転換	共	平成23年3月	片岡信之編『新版　要説経営学』文眞堂所収（290-302）	株主中心のストックホルダー型・マネジメントからステイクホルダー型マネジメントへの転換が徐々に進行しているとの認識能もとで、現代企業のガバナンスを整理する。ＣＳＲ、株主行動主義、ステイクホルダー行動主義、等がキーワードである。

25. ロシアでモチベーションはどのような内容で教えられているのか	単	平成24年11月	奈良産業大学ビジネス学部『社会科学雑誌』第５巻(503-539)	1990年代以降ロシアでは再び欧米系のマネジメント思想・技術に大きな関心が払われ摂取がおこなわれてきたが、今日では、それらの経験を踏まえてマネジメント関連の斬新な『テキスト』が数多く刊行されている。本稿は、モチベーションをタイトルとする十数冊のテキストの内容を精査し、欧米及びソビエト時代のモチベーション論の異同を中心に、マネジメント文化（管理）の一般性と特殊性の問題にアプローチしたものである。
26.「道徳的主体としての現代企業」の存在論的意味	単	平成24年12月	『奈良産業大学紀要』第28集(120-140)	経営学をはじめとする社会科学のタームとの関連で「道徳的主体としての企業」を概念的に整理して、株式会社論の文脈で位置づけ、その存在論的意味を考える。例えば、会社は誰のものであるのか？という問題に対しては、会社は会社自体のものであり、その会社にはひとつの組織体として独自の意思がある、と積極的に主張する。
27.ロシアのビジネスエシックスについて	単	平成24年12月	奈良産業大学ビジネス学部『社会科学雑誌』第６巻(139-171)	ロシアでは2000年以降ビジネスエシックスへの関心が高まっている。しかし概念自体が英語圏の「借り物」であり、ロシア独自のビジネスエシックスの構築にまでは至っていない。本稿は、さまざまな文脈で使われているビジネスエシックスの概念整理にはじまり、実践的には、倫理綱領の制定が重要視されている、ロシアのビジネスエシックス関連の学界及び実務界の現状を、ロシア語文献を読みこなして、解明したものである。
28.企業社会的責任論の生成と展開（上）	単	平成24年12月	奈良産業大学ビジネス学部『社会科学雑誌』第６巻(173-222)	2010年に刊行されたロシアのＣＳＲ研究の第一人者ブラゴフの『企業社会的責任：概念の進化』はＣＳＲ論通史として第一級の作品である。単独の著者による通史は欧米でも希である。本稿はその作品を批判的に紹介しＣＳＲ研究の現状の問題点を抽出し、現代社会の在り方を問うものである。ブラゴフは欧米系のＣＳＲ研究を文献史的に追体験し、企業市民、サスティナブル経営にも言及した上で、ロシアの観点を盛り込んで独自に整理しており、我々にとっても教えられることが多々ある。３回に分割して掲載。
29.企業社会的責任論の生成と展開（中）	単	平成25年2月	奈良産業大学ビジネス学部『社会科学雑誌』第７巻(355-390)	2010年に刊行されたロシアのＣＳＲ研究の第一人者ブラゴフの『企業社会的責任：概念の進化』はＣＳＲ論通史として第一級の作品である。単独の著者による通史は欧米でも希である。本稿はその作品を批判的に紹介しＣＳＲ研究の現状の問題点を抽出し、現代社会の在り方を問うものである。ブラゴフは欧米系のＣＳＲ研究を文献史的に追体験し、企業市民、サスティナブル経営にも言及した上で、ロシアの観点を盛り込んで独自に整理しており、我々にとっても教えられることが多々ある。３回に分割して掲載。
30.ロシアにおけるソーシャルビジネス研究及び実践の一断面	単著	平成25年3月	『奈良産業大学紀要』第29集(165-184)	日本ではコミュニティビジネスとして知られているロシアのソーシャルビジネスに焦点を合わせ、その理論的状況と現実の一端を解明する。ロシアでは、一方で、ＮＰＯが続々と立ち上げられ、他方で、ＣＳＲへの関心が深まり、地域住民が政府に頼らずに社会的課題をビジネスの手法で解決する社会的条件が整備されつつあるが、マイクロファイナンスはいまだかなり不十分である。その現状を分析することによって、我が国のコミュニティビジネスそして社会的企業が抱えている問題点がより鮮明に浮かび上がり、今後の対応に向けて教訓が得られる。

31.ロシアではＨＲＭがどのように教えられているのか 単著 平成25年12月	単著	平成25年12月	『奈良産業大学紀要』第30集(99-114)	ロシアでは、市場経済へと転換とともに、様々なマネジメント領域において、個別の企業に大きな自由裁量が与えられることになった。人事管理の領域はそのような流れの中でよりラジカルな変貌を遂げている場である。本稿では、人的資源管理というタームが積極的に取り入れられている現状に注目して、その「人的資源管理」が高等教育機関でいかなる内容で教えられているのかという問題意識のもとで、現在のロシアのマネジメントのあり方を解明し、その意味を考えるための視点を提供している。
32.企業社会的責任論の生成と展開（下）	単著	平成25年12月	奈良産業大学ビジネス学部『社会科学雑誌』第８巻(1-50)『	2010年に刊行されたロシアのＣＳＲ研究の第一人者ブラゴフの『企業社会的責任：概念の進化』はＣＳＲ論通史として第一級の作品である。単独の著者による通史は欧米でも希である。本稿はその作品を批判的に紹介しＣＳＲ研究の現状の問題点を抽出し、現代社会の在り方を問うものである。ブラゴフは欧米系のＣＳＲ研究を文献史的に追体験し、企業市民、サスティナブル経営にも言及した上で、ロシアの観点を盛り込んで独自に整理しており、我々にとっても教えられることが多々ある。３回に分割して掲載。
33.ロシアのおけるＣＳＲ教育充実に向けた動き	単著	平成25年12月	奈良産業大学ビジネス学部『社会科学雑誌』第８巻(51-90)	1990年代以降のロシアのビジネススクールの全般的な歴史を整理したうえで、具体的な事例のひとつとして、サンクトペテルブルグ大学ビジネススクールに焦点を当てて、カリキュラムの分析を試みる。その結果判明したことは、学部教育だけでなく大学院レベルの教育でも、ビジネスエシックスあるいはCSRを軸としてカリキュラムが構築され、マネジメント教育が推進されているという事実であり、この経験は、モデルとして、他のビジネススクールにも導入されている。
34.ロシアにおけるコーポレートガバナンスへの取り組み	単著	平成26年3月	奈良産業大学ビジネス学部『社会科学雑誌』第９巻(195-230)	ロシアの高等教育機関で学ぶ学生を対象に執筆された「コーポレートガバナンス」関連のテキスト（教科書、参考書等）を読み込みその内容を精査して、「コーポレートガバナンス」という事象がいかなる意味で教えられているのか、を解明した論文。この作業によって、ロシアが原則としてはアメリカ型のガバナンスを志向していることが判明したが、それだけではなく、ロシアが英語圏をはじめとする欧米の企業統治からどのようなことを学び、自国の文化に適したガバナンス構築を進めているのか、その一端が見えてくる。
35.ロシアから見たソーシャルアントレプレナーシップ論の現状	単著	平成26年3月	奈良産業大学ビジネス学部『社会科学雑誌』第９巻(231-282)	ソーシャルアントレプレナーシップ、言葉を換えて言えば、社会企業家、社会的企業の活動が世界的に注目を集めている。私経済、公経済だけではなく、今後は、社会経済（第3セクター）のあり方に私たちの未来が掛かっている、という考え方である。本稿は、このことを念頭に置いて、ソーシャルアントレプレナーシップを巡るロシアの現状を、理論と実際の２つの側面から検討し、私たちに突きつけられている課題を丁寧に整理した論文である。
36.ロシアの企業市民概念とその現実	単著	平成26年3月	『地域公共学総合研究所所報』第４集(25-52)	CSRは進化する概念であり、今日では、そのCSRと企業市民概念の相互関連を巡って議論が錯綜し、実践的にも少なからざる混乱を引き起こしている。本稿では、そのような現状に対して、筆者なりにひとつの回答を提示することを意図して執筆されたものである。具体的には、この領域で「後進国」であるロシアの現状を題材として、理論的に問題点を整理し今後を展望している。

（その他）				

［注］

1 最近10年間の教育活動、研究活動について作成すること。

2 「教育活動」については、各項目ごとに年月日順に、「学会等および社会活動」については、就任年月日順に記入すること。

3 「研究活動」については、下記の点に留意すること。

① 著書・論文及びその他の順に、発表年月日順に記入すること。

② 著者が複数にわたる場合で、筆頭著者が著書・論文等において明示されている場合には、その氏名に◎印を付すこと。

③ 共著（論文）の場合、「該当頁数」の記入にあたっては、本人の分担箇所を特定できる場合は、その頁数を記載すること。

④ 最近10年間に著書・論文等の発表のなかった者についても、教員名を挙げてその部分を空欄にしておくこと。

⑤ 芸術分野や体育実技等の分野を担当する教員については、著書・論文等以外の競技会、展覧会または演奏会等での発表のうち、特に顕著な業績と認められるものについても記載すること。このほか、専門分野の特性を 考慮し、顕著な業績と認められるものがある場合もこれに含めてもよい。

教　育　研　究　業　績　書

平成26年3月31日

氏名　森　基雄

研究分野	研究内容のキーワード
英語学	英語の起源と歴史

教育上の能力に関する事項

事項	年月日	概要
1　教育方法の実践例		
1）全学レベルでプレースメントテストを実施し、学力別のクラス編成による授業を実施。	平成23年4月3日、平成24年4月3日	英語の基礎学力が極端に低い学生のケアーを重視したクラス編成を行い、ｅ-ラーニング教材で英語の基礎を１から学ばせることにより、本学の英語会話、英語読解といったやや発展的なレベルに向かう科目の習得のための土台作りを目指した。
2　作成した教科書，教材		
1）森　一郎・森　基雄　『耳から覚える試験にでる英文解釈　ＣＤ付き』　青春出版社	平成24年7月5日	本書は英文解釈の急所を116とし、大学受験に必要なエッセンスを厳選したものである。そして中身を再度点検の上、より見やすく、わかりやすく使用できるよう２色刷りとし、記憶シートと合わせて使用することによって英文解釈力をより身につけられるようにし、さらに≪急所≫部分をＣＤに収録し、繰り返し聞くことで勉強効率が上がることを目指した。
3　教育上の能力に関する大学等の評価		
	平成00年0月0日	
4　実務の経験を有する者についての特記事項		
	平成00年0月0日	
5　その他		
1）奈良県北葛城郡王寺町の王寺リーベルカレッジでの公開講座にて「英語の誕生」と題して講演	平成22年6月19日	英語はもともと印欧語族の中のいくつものグループの１つであるゲルマン語派の１方言であったこと、英語の歴史はドイツの北部にいたゲルマン民族の一部が西暦５世紀にブリテン島に移住してきたことに始まること、English、Englandという名称の由来、そして今日の英語のスペルと実際の発音との間に大きなギャップができてしまっことの歴史的背景など、世間一般にはなじみの薄いと思われる英語の裏話的な内容の講演。講演後のアンケートの結果も好評であったとの報告をいただいた。

職務上の実績に関する事項

事項	年月日	概要
1　資格，免許		
1）	昭和00年0月	
2　特許等		
1）	昭和00年0月	
3　実務の経験を有する者についての特記事項		
1）	昭和00年0月	

4　その他		
1）	昭和00年0月	

研　究　業　績　等　に　関　す　る　事　項				
著書，学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所，発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要
（著書）				
	単	平成00年0月		
（学術論文）				
1. 古英語強変化動詞　(Ⅲ)	単	平成16年12月	奈良産業大学紀要第20集 P. 61～P. 68	古英語強変化動詞の過去時制の接辞と古英語強変化動詞第1類の活用における母音交替と子音交替の成立過程を、他の古代ゲルマン諸語のケースと比較しながら印欧祖語までさかのぼって考察することにより、西ゲルマン諸語、そしてその中でもさらに古英語が独自に発達させた音韻、形態上の特徴とそこに至るまでのプロセスにおける問題点について論じた。
2. 古英語強変化動詞　(Ⅳ)	単	平成19年12月	奈良産業大学紀要第23集 P. 59～P. 68	古英語強変化動詞の第2類と第3類の活用における母音交替と子音交替の成立過程を印欧祖語までさかのぼって考察し、他の古代ゲルマン諸語のケースとは異なる古英語独自の音変化によって大きく様変わりした古英語の第2類と第3類の音韻、形態上の特徴とそこに至るまでのプロセスにおける問題点について論じた。
3. 古英語強変化動詞6類について	単	平成24年11月	奈良産業大学『社会科学雑誌』第5巻 p. 541～p. 558	古英語強変化動詞１～５類では不定詞～過去単数～過去複数～過去分詞における母音交替は究極的にはすべて印欧祖語の母音交替の基本パターンであるe～o～ゼロ～ゼロにさかのぼると考えられるにに対し、本稿のテーマである６類はゲルマン祖語のa～ō～ō～aという一見大きく逸脱したもののように見えるパターンを示す。本稿ではまずこの母音交替が後に古英語ではさまざまな音変化を受けたことにより古英語が独自に発達させた６類の状況について詳細に論じた上で、ゲルマン祖語のa～ō～ō～aそのものの印欧語としての真の起源についても主に最新の説に基づき、その問題点も含めて論じた。
4. 古英語強変化動詞　(Ⅴ)	単	平成24年12月	奈良産業大学紀要第28集 p. 151～p. 159	古英語強変化動詞１～３類の語根母音が基本的には不定詞～過去単数～過去複数～過去分詞においてe～o～ゼロ～ゼロという印欧祖語の単純な基本パターンにそのまま還元できるのに対し、本稿がテーマとして取り上げたものはより複雑で従来から議論の多い４，５類である。４類の語根母音は印欧祖語のe～o～ē～ゼロに、５類のそれは印欧祖語のe～o～ē～eにそのまま由来するかのようにも見えるが、１～３類にはなく４，５類に共通して現れる、印欧祖語のēにさかのぼるかのように一見思える過去複数の長母音については特に、ゲルマン語派以外のグループの動詞と比較すると、形態論的に見て印欧祖語にそのままさかのぼるものとは考えにくいとする学者も多い。その真に語源的な解釈については見解の分かれるところであり、その最新とも言える説を中心に議論を進めつつ、同時に４，５類がゲルマン祖語から古英語に至るまでのさまざまな音変化を受けて古英語独自のさらに複雑な様相を呈するに至った過程についても論じた。

5. 重複動詞とその古英語における発達	単	平成24年12月	奈良産業大学『地域公共学総合研究所年報』第3集 p. 109～p. 117	ゲルマン語の強変化動詞の７つのクラスのうち、最終の７類として分類されるのがこの重複動詞であり、このグループはまさに寄り合い所帯の様相を呈する。そして従来特に問題とされてきた過去形の母音は古英語（そしてゴート語以外のすべてのゲルマン語）においては印欧祖語のアプラウトを反映するものではなく、完了形の要素である重複接頭辞の母音eと語根母音の縮合により形成されたとする説が依然有力であることを改めて確認した。その結果、重複動詞が真に示すアプラウトはむしろ時制変化外の同根語に存在することは明らかであり、またそのことをはっきりと具体的に示すために、ゲルマン以外の語派も含め、同根でアプラウトの関係にあると思われるその多くの実例を挙げ、さらに重複動詞の現在時制の母音の起源、すなわちその真のアプラウト階梯についても考察した。
（その他）				
	単	平成00年00月		

［注］

1 最近10年間の教育活動、研究活動について作成すること。

2 「教育活動」については、各項目ごとに年月日順に、「学会等および社会活動」については、就任年月日順に記入すること。

3 「研究活動」については、下記の点に留意すること。

① 著書・論文及びその他の順に、発表年月日順に記入すること。

② 著者が複数にわたる場合で、筆頭著者が著書・論文等において明示されている場合には、その氏名に◎印を付すこと。

③ 共著（論文）の場合、「該当頁数」の記入にあたっては、本人の分担箇所を特定できる場合は、その頁数を記載すること。

④ 最近10年間に著書・論文等の発表のなかった者についても、教員名を挙げてその部分を空欄にしておくこと。

⑤ 芸術分野や体育実技等の分野を担当する教員については、著書・論文等以外の競技会、展覧会または演奏会等での発表のうち、特に顕著な業績と認められるものについても記載すること。このほか、専門分野の特性を 考慮し、顕著な業績と認められるものがある場合もこれに含めてもよい。

教　育　研　究　業　績　書

平成26年3月31日

氏名　　矢倉 伸太郎

研究分野	研究内容のキーワード
経営学	酒造企業経営史、地域経済史、地域産業史

教育上の能力に関する事項

事項	年月日	概要
1　教育方法の実践例		
1）特記事項なし		
2　作成した教科書，教材		
1）奈良産業大学ビジネス学部教科書『管理の仕組みとビジネス（ビジネス入門）』	平成24年3月	共著　本学ビジネス学部宮坂純一教授著作の教科書の一部を修正したものである。 専門基礎科目（1年次配当、半期、選択、２単位）において使用する。 共著者：◎宮坂純一、矢倉伸太郎
3　教育上の能力に関する大学等の評価		
1）特記事項なし		
4　実務の経験を有する者についての特記事項		
1）特記事項なし		
5　その他		
1）特記事項なし		

職務上の実績に関する事項

事項	年月日	概要
1　資格，免許		
1）特記事項なし		
2　特許等		
1）特記事項なし		
3　実務の経験を有する者についての特記事項		
1）特記事項なし		
4　その他		
1）特記事項なし		

研　究　業　績　等　に　関　す　る　事　項				
著書，学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所，発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要
（著書）				
（学術論文）				
コミュニティ・ビジネス概念の確立に向けて（Ⅰ）－奈良県コミュニティ・ビジネスの経営学的研究序説－	共	平成19年8月	『産業と経済』　第22巻第2号　73頁～110頁	われわれの本来の目的は、奈良県のコミュニティ・ビジネスの実態を調査し分析することである。本稿はその一環としてまず、欧米のコミュニティ・ビジネスの実情を、地域経済開発、シビック・アントレプレナーならびに地域金融に関する事例を分析し、考察する。次いで、奈良県を中心としたわが国の先進的なコミュニティ・ビジネスの取組の事例研究を積み重ね、その後コミュニティービジネスについての、われわれの定義を提示する予定である。 共著者：◎宮坂純一、矢倉伸太郎、西村　剛
（その他）				

［注］

1　最近10年間の教育活動、研究活動について作成すること。

2「教育活動」については、各項目ごとに年月日順に、「学会等および社会活動」については、就任年月日順に記入すること。

3「研究活動」については、下記の点に留意すること。

①　著書・論文及びその他の順に、発表年月日順に記入すること。

②　著者が複数にわたる場合で、筆頭著者が著書・論文等において明示されている場合には、その氏名に◎印を付すこと。

③　共著（論文）の場合、「該当頁数」の記入にあたっては、本人の分担箇所を特定できる場合は、その頁数を記載すること。

④　最近10年間に著書・論文等の発表のなかった者についても、教員名を挙げてその部分を空欄にしておくこと。

⑤　芸術分野や体育実技等の分野を担当する教員については、著書・論文等以外の競技会、展覧会または演奏会等での発表のうち、特に顕著な業績と認められるものについても記載すること。このほか、専門分野の特性を 考慮し、顕著な業績と認められるものがある場合もこれに含めてもよい。

教　育　研　究　業　績　書

平成26年3月31日

氏名　　武谷　嘉之

研究分野	研究内容のキーワード
経済学	経済史、社会史

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
1　教育方法の実践例		
＜奈良産業大学経済学部ビジネス学部において＞		
1)体験学習を取入れたゼミの運営	平成14年 4月～現在に至る	専門演習において早い時期に学外での工場見学等を取入れることによって、その後の演習における学習と実際の社会のつながりを実感させた。これによって学習意欲を引出した。また夏季休暇中には合宿を行い、研究を深めた。具体的な訪問先は大阪歴史博物館、法隆寺、トヨタ自動車本社工場、産業技術記念館、熊本城などである。
2）moodleを応用したＥ－ラーニングシステムを利用した日本経済史の復習システム	平成16年 4月～平成18年 3月	ＷＥＢ上で日本経済史の復習､および小テストの受験を可能とした｡原則的に講義のあった日とその翌日に２０問程度の小テストを毎回受験することとして、ログを取ることによって学習の進捗状況を把握した。また定期試験前に解説をつけたものを配布し、再受験を勧めることによって、学生の主体的な取り組みを引き出した。
3)講義おけるレポートの活用	平成16年 4月～現在に至る	日本経済史、および産業経済史の講義においてレポート課題の任意提出を認め、添削して返却した。これは受講生のなかに相当程度理解度に差のある現状の中で、上述の小テストだけではその差が埋らないと考えたからである。レポートの課題を複数提示し、学生がその興味に従ってレポートを作成することによって、理解度の高い学生にとっても、低い学生にとっても積極的に学習を深める契機となった。
4)資格取得と連動させたITリテラシー実習の実施	平成19年 4月～平成21年 3月	ビジネス学部の初年次教育として行ったITリテラシーの実習にマイクロソフトオフィススペシャリストの受験を前提とする内容を取入れた。それまで奈良産業大学では同資格取得者は年間１桁に満たなかったが、受講生の８０％の２５名を超える資格取得者を出した。単に資格を得たにとどまらず、比較的成功経験の乏しい本学学生に対して１年生の前期に一般に認められる資格を取得できたという達成感を与えることができた。学生アンケートにおいても非常に高い満足度が検出された。
5)体験型学習を契機とした自発的・主体的カリキュラムの構築と実践－プロジェクト演習を中心として－	平成19年 4月～現在に至る	ビジネス学部設立にあたって、申請するカリキュラムの立案にあたり体験型学習と体系的理論の修得を一体としたプロジェクト演習中心カリキュラムを構想し、ビジネス学部のカリキュラムとして実践した。具体的にはプロジェクト演習毎に重点科目・推奨科目を指定し、体験を中心としたプロジェクトとそれに必要な理論・知識を融合できるようなカリキュラムとした。またこれを全学部的に実施するために各プロジェクト演習担当者と面談を行い、学部として授業内容のチェックをする体制を取った。
6）初年次教育における学外見学を中心としたカリキュラムの実践	平成19年 4月～現在に至る	初年次教育において学外見学を核として、事前研究・現地調査・研究発表の過程を取入れた。座学による準備、現地での見学、調査、調査報告書の執筆、報告発表という流れの中で、基本的な研究態度を身につけさせることができた。さらにグループワークを基本とすることによって今後の大学生活の仲間づくりにも役だてた。具体的な見学先は中小企業の支援を行っているクリエイションコア東大阪などである。

7)パワーポイントを利用した授業教材作成とその配布	平成21年 4月～ 現在に至る	日本経済史の講義においてパワーポイントで教材を作成し、学生が学内からアクセス可能なフォルダにファイルとして公開することで、予習・復習などの自学を助けることができた。
8)学外NPOと連携した演習運営	平成22年 4月～ 現在に至る	NPOと連携して演習に社会活動を取込むことによって体験と理論の結合を図った。具体的には地球温暖化について輪読形式で学ぶとともに、温暖化防止活動をしているNPOが奈良各地で行っているイベントにスタッフとして参加し、啓蒙活動をしたり、奈良産業大学地域連携推進委員会と共催で地球温暖化に関するシンポジウムを開催したりした。
9)学外企業とのコラボレーションによる演習運営	平成22年 9月～ 平成23年 7月	学生食堂を運営企業(株式会社ダイショク)に協力して運営することによって、コミュニケーション能力を中心に、経営に必要な力を身につける演習をおこなった。具体的には学生食堂改善のためのプランを練り、ダイショクに対してプレゼンテーションを行い、ひとつひとつ問題点を解消していきながら、改善プランを実施していった。交渉力・プレゼン能力などが身についた。
１０)講義における双方向授業の実施	平成23年 4月～ 現在に至る	共通教育の「日本人の労働を考える」の講義を通じてアンケートを複数回とって、学生の労働意識を確認しながら、働くということの意味を対話形式で講義した。主体的な参加意欲を引き出した。
＜天理大学人間学部において＞		
１１)パワーポイントを利用した授業教材作成とその配布	平成21年 4月～ 平成22年 3月	日本経済史の講義においてパワーポイントで教材を作成し、学生が学内からアクセス可能なフォルダにファイルとして公開することで、予習・復習などの自学を助けることができた。
＜龍谷大学経済学部において＞		
１２)パワーポイントを利用した授業教材作成とその配布	平成23年 4月～ 平成24年 3月	経済学概論の講義においてパワーポイントで教材を作成し、学生の理解を助けた。またパワーポイント資料は印刷して配布し、復習に用いるよう指示した。
2　作成した教科書，教材		
1）「日本経済史」小テスト	平成16年 4月～ 平成19年 3月	日本経済史の講義の内容を２０問程度にまとめて毎回ネット上で受験させた。学内ネットワークの問題などで利用できないときは印刷した小テストを用いた。
2）「日本の歴史」プリント	平成23年 4月～ 現在に至る	共通教育の「日本の歴史」の講義で毎回講義内容をまとめたプリントを作成し、講義の概要や全体における位置づけなどを明確化することに努めた。
3）「日本の歴史」小テスト	平成23年 4月～ 現在に至る	共通教育の「日本の歴史」の講義を通じて4回程度の小テストを行い、知識の定着を図った。小テストとはいえ選択問題と論述形式を組み合わせたもので、授業の復習とテストの予習を兼ねて自宅学習への動機づけになるなどの効果が大きかった。
4)「日本史概説」 (「日本の歴史」用教科書)	平成25年 4月～ 現在に至る	共通教育の「日本の歴史」のためのテキストを作成し講義で用いる。講義では十分に説明しきれない点などについても予習復習のさいに活用することが期待される。
3　教育上の能力に関する大学等の評価		
1）	平成00年0月0日	
4　実務の経験を有する者についての特記事項		

5　その他		

職　務　上　の　実　績　に　関　す　る　事　項		
事項	年月日	概　　要
1　資格，免許		
1）行政書士	平成 6年	
2）博士(経済学)	平成15年 3月	大阪市立大学第４２３９号 「博士論文題名：近世下級建築職人の組織と労働」
2　特許等		
1）	昭和00年　0月	
3　実務の経験を有する者についての特記事項		
1）	昭和00年　0月	
4　その他		
(主な学内委員等)		
1）学長選考規定原案作成ワーキンググループメンバー	平成16年12月	本学で初めて学長を公選する為の規定の原案を作成した。本ワーキンググループ作成の原案が評議会での修正を経て現在の学長選挙規定となった。
2）学長諮問委員会改組転換ワーキンググループメンバー	平成17年 6月～ 平成17年 8月	奈良産業大学学長招集の改組転換ワーキンググループにおいて報告をまとめ、学長に対して提言を行った。経済・経営・法・情報の４学部を２学部２学科に改組する方向での議論であり、その後改組の基本的枠組みとなった。
3）改組転換委員	平成17年 8月～ 平成17年10月	奈良学園理事長の招集により、改組転換委員会が設置され、奈良産業大学の経済学部、経営学部、法学部改組について案を練ることになった。前身である学長招集のワーキンググループから引続き理事会設置委員会においても検討を続ける唯一のメンバーとなった。
4）新学部申請作業部会メンバー	平成17年12月～ 平成18年 3月	新学部設置申請のためにカリキュラムの詳細を詰める作業を行った。
5）ビジネス学部新設にあたってのカリキュラムの構築	平成17年 6月～ 平成18年 3月	ビジネス学部新設にあたって学部構想を含めカリキュラムの作成に従事した。現代社会において求められる能力と、国際的な基準を視野に入れた学士力の構築を目指して、体験と理論を結合させることをねらいとした演習中心型のカリキュラムを作成した。
6）経済経営学会運営委員	平成23年 4月～ 現在に至る	奈良産業大学経済経営学会の運営委員として学会運営の実務を担った。
7）奈良産業大学高等教育検討ワーキンググループメンバー	平成23年 5月～ 平成23年12月	奈良学園の新大学設置に関する奈良産業大学における検討ワーキンググループのメンバーとして社会科学系学部の検討に加わった。
8）高等教育改革推進社会科学関係系部会メンバー	平成24年 4月～ 平成25年 9月	奈良産業大学を改組し新大学を設立するにあたって社会科学系学部の内容を検討する部会のメンバーとなった。

研究業績等に関する事項				
著書，学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所，発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（著書）				
1. 「日本史概説」	単著	平成25年 4月	開成出版	共生をキーワードとして日本近世近代史を概説した。大学における共通教育のテキストとしても利用できるよう基礎的な事実を通史的に概略すると共に、いくつかのトピックスについてやや詳しく解説した。土地所有の変遷、働き方の変化などを縦軸として設定し、各時代における社会集団のあり方からそれぞれの時代の共生様式を論じた。A5版　245頁
（学術論文）				
1.「中米ホンジュラスにおける国連ボランティアの活動」	単著	平成17年 3月	『産業と経済』 第20巻第1号 （奈良産業大学） 31頁～47頁	2004年9月の現地視察をもとに国連ボランティアの活動を中心に、中米ホンジュラスにおける情報教育の現状を分析した。インターネットの普及状況や、ITスキルの修得状況などを報告した。取り組みの地域差、特に民間情報産業との競合について問題点を指摘した。また現地IT技術者の養成とメンテナンス体制の確立についても論じた。
2.「日本人の労働観　勤勉の始原と終焉（上）」	単著	平成19年 8月	『産業と経済』 第22巻第2号 （奈良産業大学） 111頁～124頁	科研費助成によって得た成果をもとに、日本人の労働観について、始原としての勤勉革命論を検討している。また勤勉革命に見られた歴史的条件がどのように再生産され、どのように失われてきたかを論じている。勤勉革命論が取りこぼしている都市労働者についても議論している。
3.「日本人の労働観　勤勉の始原と終焉」（下）	単著	平成20年 1月	『産業と経済』 第22巻第５号 （奈良産業大学） 241頁～250頁	上記の前編に引き続き近代以降の労働観について述べた。いわゆる勤勉革命の歴史的意義をおさえたうえで、現在の成熟した社会にある日本においてその勤勉がどのように受け継がれてきたか、また失われつつあるかについて論じた。今後の日本人の労働観は、競争や生産性のみを意識した価値観から別の価値観に変化しつつあることが示唆された。
4. 「加賀藩「割場御改法掟帳」について」	単著	平成21年 9月	『産業と経済』 第23巻第2号 （奈良産業大学） 21頁～40頁	科研費の助成を受けて翻刻した加越能文庫の史料を用いて近世期の武家奉公人の雇用形態について分析した。また「割場御改法掟帳」については全文を翻刻し掲載した。特に加賀藩割場が日用についても統括していたことに注目し、その労務管理のあり方を論じた。
5.*"Construction workers' guilds in early modern Osaka"* （査読付き）	単著	平成24年 3月	"City, Culture and Society"Elsevier Ltd,Volume 3, Issue 1, March 2012 Pages 43-49	英語圏の読者を前提に前近代の都市労働者の同業者集団について主に建築職人を事例に紹介した。この際、日本の前近代の特徴について理解を助けるよう解説すると共に、同業者集団が持つ機能、特に相互扶助や、競争ルールの設定などについて普遍的に理解できるよう努めた。ここでは閉鎖経済である一方で相当程度に市場が発達している前近代日本社会の中で、職人同士の過当な競争を防ぎ、他の職人や取引先との利害を調整する役割を同業者集団が担ったことを論じた。
6. 「労働者の組織的連帯における意識の前近代と現代の歴史的比較分析 －共生システムとしての労働者組織の可能性－」	単著	平成24年11月	『社会科学雑誌』 第5号 （奈良産業大学）	これまで研究してきた1800年代後半から1900年代前半の労働者の組織と意識を前提として、現代の労働組合において活動している労働者の意識を歴史的に位置づけることを試みた。実際の労働組合で活動している労働者の意識としては単に労働者の権利の実現ということだけではなく、労働者間の利害調整や、経営的な視点からの活動を担うなど広い視野を持っていることが明らかとなった。その結果労働組合に代表される労働者組織が労使間の利害対立にいたる前の調整弁としての役割を担っていることが明らかとなった。

７．「共生社会経済史試論ー共生をキーワードとした日本史再構築の試みー」	単著	平成24年12月	『産業と経済』 第25号第1号 （奈良産業大学）	利害の異なる主体間の調整様式を共生様式と捉え、共生様式の変化が社会の変動をもたらすという視点から、日本史を再構築することでこれまで日本史の中心的課題としては十分に扱われてこなかった周縁的な事象を位置づけるための枠組みを提示した。現代の共生社会論の問題点を指摘し、歴史的に考える必要を主張している。またその場合に利害調整の役割を担った中間団体が共生様式の安定に果たした役割を指摘し、またその限界も考察した。
(その他)				
（書評）				
１．「秋山哲著『本と新聞の情報革命…文字メディアの限界と未来…』」	単著	平成16年 9月	『産業と経済』 第19巻第3号 （奈良産業大学） 227頁～231頁	秋山哲による新聞という紙媒体によるメディアに対する悲観的な見通しに対して、別の視点から批判を行った。紙媒体の可能性、新聞の可能性について論じた。この書評に対して秋山哲より「情報の質的分類は文字メディアの展望に影響を与えるか-武谷嘉之氏の書評に答えて-」が出され、建設的な議論がなされた。
２．「藪内吉彦・田原啓祐著『近代日本郵便史　ー創設から確立へー』」	単著	平成24年 1月	『経済史研究』 第15号 （大阪経済大学） 235頁～245頁	当該書について詳細な内容紹介を行うとともに、郵便の海外展開における評価について疑問を呈した。
（学会発表）				
１．"Modernization, the experience of Japan"	単独	平成16年 9月	在ホンジュラス日本大使館主催講座・中央アメリカ工科大学特別研究会 (於　テグシガルパ中央アメリカ工科大学)	ホンジュラスの研究者及び大学院生を対象に、日本の近代化の経験を近世からの蓄積に焦点を当て、概説した。日本の近世における農業蓄積に焦点を当て、近代化の前提条件について述べた。また近代化は必然ではなくいくつかの選択の結果であることを話し、例として明治期の外資導入のあり方について紹介した。
２．「近世の都市における労働のあり方---大坂を中心に----」	単独	平成22年 1月	大阪経済史研究会 （於　大阪市立大学）	近世都市における労働の在り方について建築職人を中心に紹介した。特に使用者と職人の関係、また使用者に対抗し、その生活を安定させるための仲間の役割について報告した。労働市場における中間団体の重要性を議論した。
３．「近代日本郵便史に寄せて」	単独	平成23年 4月	第62回経済史研究会 （於　大阪経済大学）	藪内吉彦・田原啓祐著『近代日本郵便史』についての書評報告である。
４．「共生社会史の視角」	単独	平成25年 12月	奈良産業大学経済経営学会定例研究会 （於　奈良産業大学）	共生社会史を構築するための視角について、主に経済史的観点から報告した。共生様式の3様態について概略を述べ、その変化の要因について、現在の時点での見込みを述べた。

［注］

1 最近10年間の教育活動、研究活動について作成すること。

2 「教育活動」については、各項目ごとに年月日順に、「学会等および社会活動」については、就任年月日順に記入すること。

3 「研究活動」については、下記の点に留意すること。

① 著書・論文及びその他の順に、発表年月日順に記入すること。

② 著者が複数にわたる場合で、筆頭著者が著書・論文等において明示されている場合には、その氏名に◎印を付すこと。

③ 共著(論文)の場合、「該当頁数」の記入にあたっては、本人の分担箇所を特定できる場合は、その頁数を記載すること。

④ 最近10年間に著書・論文等の発表のなかった者についても、教員名を挙げてその部分を空欄にしておくこと。

⑤ 芸術分野や体育実技等の分野を担当する教員については、著書・論文等以外の競技会、展覧会または演奏会等での発表のうち、特に顕著な業績と認められるものについても記載すること。このほか、専門分野の特性を 考慮し、顕著な業績と認められるものがある場合もこれに含めてもよい。

教　育　研　究　業　績　書

平成26年3月31日

氏名　棚橋　豪

研究分野	研究内容のキーワード
商学	マーケティング・消費文化・流通・ソーシャルネットワーク

教育上の能力に関する事項

事項	年月日	概要
1　教育方法の実践例		
1）本学のプレ・プロジェクト演習において、商店街のフィールドワークを企画	平成24年4月1日	座学型の講義ではなく、学生自身に問題設定やフィールドワーク先を主体的に考えさせ、その上で現場（商店街）で問題を発見して、考察していく方法を考案した。
2）本学のゼミにおいて商店街の取材を企画	平成24年9月1日	単なるインタビュー型のフィールドワークからカメラ機材や動画編集までを含めた、フィールドワーク＋コンテンツ作成の講義スタイルを考案した。
2　作成した教科書，教材		
1）	平成00年0月0日	
3　教育上の能力に関する大学等の評価		
1）	平成00年0月0日	
4　実務の経験を有する者についての特記事項		
1）	平成00年0月0日	
5　その他		
1）	平成00年0月0日	

職務上の実績に関する事項

事項	年月日	概要
1　資格，免許		
1）	昭和00年0月	
2　特許等		
1）	昭和00年0月	
3　実務の経験を有する者についての特記事項		
1）	昭和00年0月	

4　その他		
1）	昭和00年0月	

研究業績等に関する事項				
著書，学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所，発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（著書）				
仮想経験のデザイン	共	平成18年7月	有斐閣	全体概要：インターネット時代における各サイトとマーケティングマネジメントの特徴を議論している。 B6判　全434頁 編者：石井淳蔵・水越康介 共著者：石井淳蔵他 本人担当部分：「2章　メタ・コミュニケーションの秩序」73-95項 我が国のインターネットの巨大掲示板２ちゃんねる内のコミュニケーション様式を分析した。本論はソーシャルネットワークの台頭により、匿名掲示板の存在意義が過小評価されていることを批判する。両者のサイトにおける人と人のつながり方は独立であり、それぞれは排他的なものではなく共存しうることを指摘した。
（学術論文）				
信頼と機会主義	単	平成16年7月	神戸大学大学院経営学研究科第二論文	本論は、オリバーウィリアムソンの取引費用経済学に注目し、この枠組みでは企業関係が「裏切りと統治」という二分法に陥っており、より社会関係に根ざした「信頼」関係を扱えないことを指摘した。1-34頁
風呂チャンネルの再検討：二つの商人像とその混同 （産業と経済　第22巻2号）	単	平成19年8月	奈良産業大学	本論は、商業経済論で議論される商人像には、全く異なる性質・機能を持ったに２タイプが存在することを指摘した。一つはある関係を前提としたうえで、その関係の効率性向上に役立つ商人であり、他方は関係そのものを発見する商人である。既存の理論では両者が明確に区別されないまま議論が展開されてきたことを批判し、商人像の再定義の必要性を説いた。1-19頁
イマジナリー・コミュニケーションⅠ：顧客インタラクションと２ちゃんねる （産業と経済　第22巻3号）	単	平成19年12月	奈良産業大学	本論は、多くの企業が、インターネット・サイトの構築においてノイズを廃した戦略を採用しがちななか、実際にはサイトの盛り上がりはそのようなノイズなしには成立しないことを主張した。本論はその代表例として「２ちゃんねる」を取り上げて、ノイズの重要性を確認した。1-20頁
現代ファッションにおける「いき」試論：〈風合い〉のロバストネスⅠ （奈良産業大学紀要　第23集）	単	平成19年12月	奈良産業大学	本論は、現代の製品開発において、日本製ジーンズの持つ意義と歴史的背景を取り上げた。岡山県倉敷市のジーンズは、近代的な生産様式を採用せずに、あえて非効率的な設備に留まっている。それは生産の合理性ではなく、ジーンズの持つ色落ちや伸縮具合などの「風合い」を重要視しているためである。本論は、その背景には、職人や消費者双方にかつてのアメリカ文化への憧憬が存在したことを指摘した。19-27頁
風呂理論の再検討：商人の位相 （神戸大学　博士課程モノグラフシリーズ No.0835）	単	平成20年9月	神戸大学大学院	本論は、取引費用経済学（主に企業間関係にける「市場と組織」に二分法の論理）が、流通局面に適用することは無理があることを論じた。その際に、風呂のチャネル・システム論が再評価され、取引費用を計算することが新たな取引費用を生み出す問題の重要性を指摘した。1-22頁

取引費用概念の再検討 （神戸大学　博士課程モノグラフシリーズ No.0836）	単	平成20年9月	神戸大学大学院	本論は、新制度派経済学のフレームワークのひとつである取引費用経済学を取り上げ、「取引費用」概念成立の背景を次の二観点からレビューした。一つは、コース、ウィリアムソン、ノースの各取引費用論者たちの間の概念定義の差異について。もう一つは、取引費用が機会主義と表裏一体の関係であり、信頼関係に基づいた社会的な関係は最初から射程外であることを指摘した。1-28頁
ノスタルジアと消費社会：その類型と動的側面について （奈良産業大学紀要　第24集）	単	平成20年12月	奈良産業大学	本論は、レトロ・マーケティングに関連して、消費者のノスタルジア性向における基礎概念を再検討した。その趣旨はノスタルジアにはさらに4種類に類型化できること、さらにその類型間のダイナミクスの解明が今後のこの分野の研究課題であることを指摘した。15-27頁
二つのクラウドと取引費用 （日本情報経営学会誌 Vol.30, No.4）	単	平成22年4月	日本情報経営学会	本論は、ビジネスとインターネットの関係を「クラウド」に焦点をあてて議論した。ここで、サーバーを自前で用意するのか、それともアウトソースしてクラウドを利用するのかという問題は、取引費用論のフレームワークとして考えることができる。本論はこの取引費用の中身をITの分野に引き寄せて具体化を図った。81-90頁
マルチエージェント・シミュレーションと動的ネットワーク：共同体と共同体のあいだをめぐって （奈良産業大学紀要　第26集）	単	平成22年12月	奈良産業大学	本論は、柄谷がマルクスを評価する際に用いた哲学的モチーフ「共同体と共同体のあいだ」をマルチエージェント・シミュレーションにより再現した。ネットワークの中心が空間的にも核となり、一定のクラスターを形成する。その際、クラスターとクラスターをブリッジするエージェントが媒介中心性最大となり、大きくクラスターを変化させる挙動をartisoc上で描くことに成功した。21-34頁
商人資本の形式化：エージェントベースモデリングとソーシャルネットワーク・アナリシス （第11回　MASコンペティション論文集）	単	平成23年5月	構造計画研究所	本論は、商人資本の形式化に伴う、方法論上の議論を充実させた論考である。一般的に、エージェントベースモデルと社会ネットワーク論はそれぞれ独立した枠組であるが、本論は双方のフレームワークを取り入れた方法を提案した。37-60頁
ネットワーク・システムと遊牧商人 （第12回 MASコンペティション論文集）	単	平成24年5月	構造計画研究所	本論は、都市のネットワークシステム・ダイナミクスを、ネットワーク内を循環する商人とネットワークを形成する商人の二種類のエージェントによって描出した。前回のartisocのモデルの発展バージョンである。58-74頁
マーケティング・コミュニケーションの諸相：破壊的イノベーションと不可知論的マーケティング （社会科学雑誌　第5巻）	単	平成24年11月	奈良産業大学	本論は、従来のマーケティング理論や方法論が劇的な市場構造の変化に対応できないことを指摘した。また、本来独立的に考えられてきた破壊的イノベーションとキャズムの関係性を見た。その際に、両者の解決策となるのが「不可知論的マーケティング」であることを主張し、その内容を論じた。233-267頁
マーケティング・コミュニケーションとネットワーク・フロー：「流通」概念を問い直す （奈良産業大学紀要　第28集）	単	平成24年12月	奈良産業大学	本論は、従来の商業経済論やマーケティング論が扱ってきた「流通」概念を再考した。そして、既存理論が事例研究に集中し、この概念に対する数理的なアプローチを失っていることが明らかにされる。そこで、これの代替案として、商業資本の生成を「ネットワーク上の流通の集中度」とみなすことによって説明できることを示した。具体的には、動的なマルチエージェントのネットワークを媒介中心性で計測する方法を試みた。91-111頁

準最短経路と媒介中心性（産業と経済　第25巻　第1号）	単	平成24年12月	奈良産業大学	本論は、従来の社会ネットワーク論の中心性指標の一つである「媒介中心性」が最短経路問題に依存していることを取り上げる。人間行動を扱う社会科学において、ネットワーク上の移動は最短経路だけが採用されるわけでない。そこで本論は、最短経路でもランダムウォークでもない、「準最短経路」を踏まえた媒介中心性の必要性を説いた。53-62頁
「ちょっと、よりみち」を科学する（第13回 MASコンペティション論文集）	単	平成25年5月	構造計画研究所	本論は、従来の媒介中心性が最短経路のみに依拠した「よりみち無き」中心性概念であることを指摘する。その上で、artisoc上において、やや冗長な経路選択をも許容した中心性を求めるアルゴリズムを考案した。
商店街とパタン・ランゲージ：奈良県奈良市もちいどのセンター街を手がかりにして（社会科学雑誌　第9巻）	単	平成26年3月	奈良産業大学	本論は、クリストファー・アレグザンダーの「パタン・ランゲージ」を、商店街の問題に特化して展開した。その際、奈良県のもちいどのセンター街を手がかりにして、パタン・ランゲージの有効性と限界を明らかにする。ここで明らかにされた論点は、アレグザンダーが議論する「街」は地元民のためのものであるということである。しかし、観光地の商店街ではその街の地理に疎い者を相手にする必要があり、これを加味した商店街の環境設計が必要であることを指摘した。
artisocによる二次元可視領域の構築：エージェントベースド・イソビスタ	単	平成26年6月（予定）	奈良産業大学	本論は、ベネディクトが提案した「イソビスタ」を、マルチエージェント・シミュレーション用のソフトウェア、artisoc上に実装した。これにより、静物である構造物だけでない、他者の動きから由来する死角をも考慮に入れたイソビスタを定量化することを可能にした。
（その他）				

［注］

1 最近10年間の教育活動、研究活動について作成すること。

2 「教育活動」については、各項目ごとに年月日順に、「学会等および社会活動」については、就任年月日順に記入すること。

3 「研究活動」については、下記の点に留意すること。

① 著書・論文及びその他の順に、発表年月日順に記入すること。

② 著者が複数にわたる場合で、筆頭著者が著書・論文等において明示されている場合には、その氏名に◎印を付すこと。

③ 共著(論文)の場合、「該当頁数」の記入にあたっては、本人の分担箇所を特定できる場合は、その頁数を記載すること。

④ 最近10年間に著書・論文等の発表のなかった者についても、教員名を挙げてその部分を空欄にしておくこと。

⑤ 芸術分野や体育実技等の分野を担当する教員については、著書・論文等以外の競技会、展覧会または演奏会等での発表のうち、特に顕著な業績と認められるものについても記載すること。このほか、専門分野の特性を 考慮し、顕著な業績と認められるものがある場合もこれに含めてもよい。

教　育　研　究　業　績　書

平成26年3月31日

氏名　　豊田　正明

研究分野	研究内容のキーワード
民　法	不法行為、過失相殺割合

教育上の能力に関する事項

事項	年月日	概要
1　教育方法の実践例		
1）講義案を簡略化したレジュメを使用	平成12年4月1日 ～現在に至る	東洋大学文学部・経済学部・経営学部・社会学部共通科目「法学B」・「法学」・「日本国憲法」、東京経営短期大学ビジネスマネジメント学科「民法」、東京都立短期大学経営情報学科「民法総論」・「民法各論」、ノースアジア大学法学部「生活と物権」・「民法の入門」・「家族法の基礎」・「民法Ⅰ」「民法Ⅱ」、東洋大学文学部・経済学部・経営学部・社会学部共通科目「民法A」・「民法B」、東京経営短期大学経営総合学科「法学入門」にて、学生の理解を深めるため、問題点に関するレジュメを配布したり、半期科目のように講義時間が少ない場合には、要点をレジュメにまとめそれに記入したりする方法でノートが作成できるようにしている。 学生がレジュメに板書の内容を記入したりコメントを記入するなどして、ノートを取らない学生が減少している。
2）ゼミ合宿を行う	平成15年4月1日 ～同22年9月30日	東洋大学法学部法律学科「法学演習（ゼミナール）」、ノースアジア大学法学部法律学科「ゼミナール」にて、ゼミ合宿を年に1～3回程度行った。 ゼミ合宿で発表させることでより深く調べ物をしたり、ゼミ生同士の親睦を図ることができた。 現在はゼミナールを担当していないが、今日においてもなお当時のゼミ生たちとの交流が継続している。
3）レポートを活用する	平成12年4月1日 ～現在に至る	東洋大学文学部・経済学部・経営学部・社会学部共通科目「法学B」・「法学」・「日本国憲法」、東京経営短期大学ビジネスマネジメント学科「民法」、東京都立短期大学経営情報学科「民法総論」・「民法各論」、ノースアジア大学法学部「生活と物権」・「民法の入門」・「家族法の基礎」・「民法Ⅰ」「民法Ⅱ」、東洋大学文学部・経済学部・経営学部・社会学部共通科目「民法A」・「民法B」、東京経営短期大学経営総合学科「法学入門」にて、意欲的な学生の能力をさらに高めるため、任意でレポート課題を課し、成績評価に努力点を加味して評価するようにし、よりよい成績を取るための動機付けを行っている。レポートを添削することにより学生の文章作成能力も向上している。
4）法律の条文を配布したり、プリントに記載する	平成12年4月1日 ～現在に至る	東洋大学文学部・経済学部・経営学部・社会学部共通科目「法学B」・「法学」・「日本国憲法」、東京経営短期大学ビジネスマネジメント学科「民法」、東京都立短期大学経営情報学科「民法総論」・「民法各論」、ノースアジア大学法学部「生活と物権」・「民法の入門」・「家族法の基礎」・「民法Ⅰ」「民法Ⅱ」、東洋大学文学部・経済学部・経営学部・社会学部共通科目「民法A」・「民法B」、東京経営短期大学経営総合学科「法学入門」にて、講義で参照する条文を別紙で配布したり、プリントに条文を記載することでより予習復習しやすいようにしている。 また、一々六法を引く手間が省け、その時間を説明に割けるため、講義で話す内容が増え、より深い知識を講義することができる。

5）事実関係図を書かせるようにする	平成19年10月1日 ～同22年9月30日	ノースアジア大学法学部「生活と物権」・「民法の入門」・「家族法の基礎」にて、事案の関係図を学生に作成させることにより、より具体的に法律関係を想像し易くし、法律問題の整理能力をつけさせることを目指した。 学生から、法律問題を考える糸口がわかるようになり、理解しやすくためになったとのコメントが寄せられた。 また、教員による講義参観では、同僚の教員からこのようなやり方もあるのか、参考にしたいとの意見をもらった。
6）講義中、学生に質問を投げかけ、対話型の講義を取り入れる	平成12年4月1日 ～現在に至る	東洋大学文学部・経済学部・経営学部・社会学部共通科目「法学B」・「法学」・「日本国憲法」、東京経営短期大学ビジネスマネジメント学科「民法」、東京都立短期大学経営情報学科「民法総論」・「民法各論」、ノースアジア大学法学部「生活と物権」・「民法の入門」・「家族法の基礎」・「民法Ⅰ」「民法Ⅱ」、東洋大学文学部・経済学部・経営学部・社会学部共通科目「民法A」・「民法B」、東京経営短期大学経営総合学科「法学入門」にて、学生に積極的に講義に参加してもらい、集中力を切らさないように、さらには積極的に講義の内容に興味を持てるように、講義中、学生に質問を投げかけ、対話型の講義を取り入れている。同僚の話によると、学生から講義がおもしろかったと好意的な意見があったとのことであった。 また、教員による講義参観では、同僚の教員からこのようなやり方もあるのか、参考にしたいとの意見をもらった。
2　作成した教科書，教材		
1）はじめての法学	平成16年5月10日	東洋大学文学部・経済学部・経営学部・社会学部共通科目「法学」にて教科書の一つとして、同大学通信教育部「法学概論」にて教科書として使用。教科書の内容に沿って講義を行い、さらに踏み込んだ内容を講義したため、学生の理解度が深まった。
2）法学への一歩	平成18年4月25日	東洋大学文学部・経済学部・経営学部・社会学部共通科目「法学」にて教科書の一つとして、同大学通信教育部「法学概論」にて教科書として使用。教科書の内容に沿って講義を行い、さらに踏み込んだ内容を講義したため、学生の理解度が深まった。
3　教育上の能力に関する大学等の評価		
1）学生アンケート	平成22年度	ノースアジア大学にて学生アンケートを行った結果、授業時間を守る、騒がしい学生に注意するの項目で、概ね高い評価を得た。
2）学生アンケート	平成23年度	東洋大学にて学生アンケートを行った結果、概ね高い評価を得た。
3）学生アンケート	平成24年度	東洋大学にて学生アンケートを行った結果、概ね高い評価を得た。
4　実務の経験を有する者についての特記事項		
1）なし	平成00年0月0日	

5　その他		
1）「民法基礎　～行政に必要な民法の基礎知識を学ぶ～」	平成22年8月31日	秋田県自治研修所主催の講座で、不法行為の分野、特に国家賠償法2条1項の責任について過去の裁判例を元にした事例問題を作成し、プリント形式で配布して、講義・討論を行った。 講義後、受講者から質問を受けたり、後日、自治研修所の職員からは、好評であった、是非来年もお願いしたいとのメールをもらった。

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
1　資格，免許		
1）法学士	平成3年3月	法政大学
2）修士（法学）	平成5年3月	明治大学
3）調理師免許	平成2年8月	埼玉県
2　特許等		
1）なし	昭和00年0月	
3　実務の経験を有する者についての特記事項		
1）なし	昭和00年0月	
4　その他		
1）教務委員会副委員長	平成20年 4月	ノースアジア大学法学部法律学科（平成21年 3月まで）
2）合同学生委員会副委員長	平成20年 4月	ノースアジア大学（平成21年 3月まで）
3）学生募集対策チーム長	平成21年 2月	ノースアジア大学法学部法律学科（平成22年 3月まで）
4）教務委員会委員長	平成21年 4月	ノースアジア大学法学部法律学科（平成22年10月まで）
5）ファカルティ・ディベロップメント委員会委員	平成21年 4月	ノースアジア大学（平成22年 9月まで）
6）第三者評価委員会自己評価報告書作成部会委員	平成21年 4月	ノースアジア大学（平成22年 3月まで）
7）法学研究所運営委員	平成21年 4月	ノースアジア大学（平成22年 9月まで）
8）入試委員会委員	平成22年 4月	ノースアジア大学（平成22年 9月まで）
9）学生委員会委員	平成24年4月	奈良産業大学（平成25年 3月まで）
１０）プロジェクト演習委員	平成24年4月	奈良産業大学（平成26年 3月まで）

１１）厚生会委員	平成24年4月	奈良産業大学（平成25年 3月まで）
１２）作業部会委員	平成24年4月	奈良産業大学（平成25年 3月まで）
１３）地域連携委員会委員長	平成25年4月	奈良産業大学（平成26年 3月まで）
１４）教務委員	平成26年4月	奈良産業大学（現在に至る）
１５）学会運営委員	平成26年4月	奈良産業大学（現在に至る）

研　究　業　績　等　に　関　す　る　事　項

著書，学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所，発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　要
（著書）				
はじめての法学（再掲）	共	平成16年5月	八千代出版39～62頁、157～ 180頁	河原 格，足立 文美恵，豊田 正明，金津 謙，窪 幸治，高沢 弘明，池田 栄共著 担当部分：第3章「家族生活と法」・第9章「交通事故と法」 初学者にも理解しやすい内容になるように配慮し、第3章では、家族法一般の知識に加え、浮気と慰謝料などの身近な問題を取り上げ、第9章では、主に交通事故損害賠償実務における、具体的な基準額などを説明した。 （「A5版　全267頁」）
法学への一歩（再掲）	共	平成18年4月	八千代出版39～56頁、97～ 114頁	河原 格、高澤弘明、今出和利、足立文美恵、豊田 正明、金津 謙、関口晃治、佐々木 彩、池谷和子共著 担当部分：第3章「家族生活と法」・第6章「交通事故と法」 上記「はじめての法学」の内容を簡潔・充実させ、さらに初学者にも理解しやすい内容になるように配慮した。 （「A5版　全204頁」）
（学術論文）				
既存障害がある場合の労働能力喪失率の認定方法と逸失利益の算定方法	単	平成16年9月	『交通事故損害賠償の新潮流』交通事故紛争処理センター三十周年記念論文集(ぎょうせい)252～263頁	交通事故損害賠償算定に際し、被害者に後遺障害が残存した場合には、得べかりし利益として後遺障害逸失利益が認められている。この後遺障害逸失利益算定に際しては、今回の事故のみの後遺障害について損害賠償が算定されるのであり、今回の事故に遭う以前から被害者に既存の障害がある場合にはどのように逸失利益を算定すべきかが問題となる。そこで既存障害がある場合の検討し、その算定方法を提示した。とりわけ、裁判例においてどのように後遺障害逸失利益が算定されているかを分析し、統一的な方法により算定すべきであると述べた。
推定の及ばない子に関する近時の状況と家庭破綻説	単	平成17年3月	東京経営短期大学紀要第13巻83～94頁	嫡出推定・嫡出否認制度において、嫡出否認の出訴期間が原則1年と短期間であることから、血縁のない父子関係が法律上確定してしまい、この不都合を解釈により解消することができないかという問題が議論されてきた。このいわゆる「推定の及ばない子」に関しては、裁判例や学説により嫡出推定を及ばないとすることでこの不都合を解決しようとしてきており、具体的な議論が煮詰められてきた。そこで、近時の判例及び学説を再検討し、現代においても家庭破綻説の立場が支持されるべきであるとの論証をした。

ヘルメット着用の有無による過失相殺	単	平成18年3月	東京経営短期大学紀要第14巻111～122頁	交通事故において、とりわけ自動二輪車の事故においては、ヘルメットの着用の有無が運転者ないしは同乗者の生死の境目になることが多い。このことは、交通事故により二輪車の運転者ないしは同乗者が負傷もしくは死亡した場合において、その損害がヘルメット不着用により拡大したときには、損害賠償を算定するに際し過失相殺ないしは過失相殺を類推して損害賠償額を減額できるとするのが実務の取り扱いである。そこで、ヘルメット不着用の場合においてどの程度減額されるべきかを検討した。
道交法上の規定と過失相殺における過失の評価（査読付）	単	平成20年3月	東京経営短期大学紀要第16巻33～45頁	交通事故においては、示談で解決される場合が多い。その際、最終的に損害賠償額を調整するのは過失相殺である。そこで被害者にとっても過失相殺割合に関心が集まることになる。実務においては、いわゆる赤本・青本などに記載されている過失相殺基準が参考にされているが、これらもすべての事故類型が網羅されているわけではない。そこで、路外右折進出四輪車と追越し二輪車との事故類型を検討し、上記基準に記載されていない例を取り上げ、どのように考えるべきかを考察した。
チャイルドシート不装着による過失相殺再論	単	平成20年9月	奈良産業大学法学会雑誌第22巻1・2号113～142頁	前稿に引き続き、交通事故に遭った場合においてチャイルドシートを装着していなかったため損害が拡大した場合において、チャイルドシートを装着していなかったことでどの程度斟酌されるべきか、そして、その後の裁判例からみえてきた、チャイルドシートを装着していなかった場合でも、次善の手段がある場合はどうなるのかなど、より踏み込んでこの問題点に対する検討を行った。
ヘルメット不着用による過失相殺再論	単	平成23年3月	奈良産業大学法学会雑誌第23巻125～157頁	前稿において、とりわけ自動二輪車の事故におけるヘルメットの不着用びよる過失相殺を検討した。その後この問題について判例や実務はどのように変化してきているのか、そして昨今注目されている自転車のヘルメット装着義務化と、過失相殺について論じた。自転車用ヘルメット不着用の場合において、過失相殺されうるのか、されるとするならばどの程度減額されるべきかを検討した。
高速道路への動物侵入と設置・管理上の瑕疵について（査読付）	単	平成24年3月	東京経営短期大学紀要第20巻	昨年、高速道路へ動物が侵入した事故につき、最高裁で道路の設置・管理上の瑕疵に関する判例が出された。裁判で扱われ公刊されたこのような事故事例は、他に1件しかない。そこで、まずは国家賠償法2条1項、土地工作物責任、契約責任等の法理論的な面の考察を行い、次にこれらの事例を様々な項目に分けて比較・検討し、これまで判例評釈等でも指摘されてきている最高裁判例の問題点を踏まえたうえでより事例について踏み込んだ検討を行い、契約責任等の法理論的にこれから問題となるであろう点を指摘・検討した。
自賠責後遺障害等級表における外貌醜状障害男女格差の改正−交通事故損害賠償実務への影響−	単	平成24年9月	奈良産業大学社会科学雑誌第5巻	交通事故損害賠償算定に際し、とりわけ外貌醜状障害が残存した場合において、これまで自賠責保険金の給付に当たっては、著しい外貌醜状および通常の外貌醜状につき男女間で認定される等級に格差があり、これを踏まえて給付額も当然異なっていた。この認定基準である自賠責後遺障害等級表は、昨今、労災等級表における外貌醜状障害男女格差が憲法違反である旨の判決が下されたことから厚労省が当該部分を改正、これに伴って国交省も自賠責等級表の当該部分を改正した。これが交通事故損害賠償実務にどのような影響を与えるのかを考察し、後遺障害慰謝料算定には影響を与えるのではないかと主張した。

（その他）				
交通事故裁定例集第21号	共	平成16年7月	(財)交通事故紛争処理センター（ぎょうせい）1～537頁	森嶌昭夫、野村好弘、西幹忠宏、本田純一、藤村和夫、豊田正明共著 編集委員として裁定要旨並びに要旨索引部分を作成 交通事故紛争処理センターにて平成14年度に出された裁定書を網羅的に収録し、要旨を付して体系的に整理し、要旨を表形式とし、事故略図を取り入れ、要旨の各項目ごとに一覧性をもたせた。 （「A5版　537頁」）
交通事故裁定例集第22号	共	平成17年4月	(財)交通事故紛争処理センター（ぎょうせい）1～526頁	森嶌昭夫、野村好弘、西幹忠宏、本田純一、藤村和夫、豊田正明共著 編集委員として裁定要旨並びに要旨索引部分を作成 交通事故紛争処理センターにて平成15年度に出された裁定書を網羅的に収録し、要旨を付して体系的に整理し、要旨を表形式とし、事故略図を取り入れ、要旨の各項目ごとに一覧性をもたせた。 （「A5版　526」）
交通事故裁定例集第23号	共	平成18年8月	(財)交通事故紛争処理センター（ぎょうせい）1～582頁	森嶌昭夫、野村好弘、西幹忠宏、本田純一、藤村和夫、豊田正明共著 編集委員として裁定要旨並びに要旨索引部分を作成 交通事故紛争処理センターにて平成16年度に出された裁定書を網羅的に収録し、要旨を付して体系的に整理し、要旨を表形式とし、事故略図を取り入れ、要旨の各項目ごとに一覧性をもたせた。 （「A5版　582頁」）
交通事故裁定例集第24号	共	平成19年3月	(財)交通事故紛争処理センター（ぎょうせい）1～539頁	森嶌昭夫、野村好弘、西幹忠宏、本田純一、藤村和夫、豊田正明共著 編集委員として裁定要旨並びに要旨索引部分を作成 交通事故紛争処理センターにて平成17年度に出された裁定書を網羅的に収録し、要旨を付して体系的に整理し、要旨を表形式とし、事故略図を取り入れ、要旨の各項目ごとに一覧性をもたせた。 （「A5版　539頁」）
交通事故裁定例集第25号	共	平成20年3月	(財)交通事故紛争処理センター（ぎょうせい）1～519頁	森嶌昭夫、野村好弘、西幹忠宏、本田純一、藤村和夫、豊田正明共著 編集委員として裁定要旨並びに要旨索引部分を作成 交通事故紛争処理センターにて平成18年度に出された裁定書を網羅的に収録し、要旨を付して体系的に整理し、要旨を表形式とし、事故略図を取り入れ、要旨の各項目ごとに一覧性をもたせた。 （「A5版　519頁」）
物権法概説	共	平成22年4月	春風社	小泉健著「物権法概説」の改訂作業を行った。主な内容は、平成16年の民法改正及びそれに伴う民事執行法等の改正により、教科書の内容のうち改正された箇所を修正する必要が生じたことから、条文等の修正・一部内容の改変を行った。

（発表）				
「自賠責後遺障害等級表における外貌醜状障害男女格差の改正～交通事故損害賠償実務への影響～」	単	平成24年5月	奈良産業大学経済経営学会研究会	交通事故損害賠償算定に際し、とりわけ外貌醜状障害が残存した場合において、これまで自賠責保険金給付では、外貌醜状につき男女間で認定される等級に格差があり、給付額も当然異なっていた。自賠責後遺障害等級表は、元々労災等級表を元にしており、昨今、労災等級表における外貌醜状障害男女格差が憲法違反である旨の判決が下されたことから厚労省が当該部分を改正、これに伴って国交省も自賠責等級表の当該部分を改正した。これが交通事故損害賠償実務にどのような影響を与えるのか、与えるとしたらどの損害費目なのか、とりわけ後遺障害慰謝料算定には影響を与えるのではないかと主張した。 P.39～P.62、P.157～P. 180 担当部分：第3章「家族生活と法」・第9章「交通事故と法」 初学者にも理解しやすい内容になるように配慮し、第3章では、家族法一般の知識に加え、浮気と慰謝料などの身近な問題を取り上げ、第9章では、主に交通事故損害賠償実務における、具体的な基準額などを説明した。 （「A5版　全267頁」）
（その他）				
奈良産業大学公開シンポジウム「共生社会を考える」		平成25年11月	奈良産業大学地域連携委員会主催	地域連携推進委員会委員長として、シンポジウムの企画、基調講演者・パネリストの手配、総合司会などを行った。

［注］

1 最近10年間の教育活動、研究活動について作成すること。

2 「教育活動」については、各項目ごとに年月日順に、「学会等および社会活動」については、就任年月日順に記入すること。

3 「研究活動」については、下記の点に留意すること。

① 著書･論文及びその他の順に、発表年月日順に記入すること。

② 著者が複数にわたる場合で、筆頭著者が著書･論文等において明示されている場合には、その氏名に◎印を付すこと。

③ 共著(論文)の場合、「該当頁数」の記入にあたっては、本人の分担箇所を特定できる場合は、その頁数を記載すること。

④ 最近10年間に著書･論文等の発表のなかった者についても、教員名を挙げてその部分を空欄にしておくこと。

⑤ 芸術分野や体育実技等の分野を担当する教員については、著書･論文等以外の競技会、展覧会または演奏会等での発表のうち、特に顕著な業績と認められるものについても記載すること。このほか、専門分野の特性を 考慮し、顕著な業績と認められるものがある場合もこれに含めてもよい。

教　育　研　究　業　績　書

平成26年3月31日

氏名　加藤（藤井）　路子

研究分野	研究内容のキーワード
経済学	計量経済学、経済統計、社会調査

教育上の能力に関する事項

事項	年月日	概要
1　教育方法の実践例		
1）e-learningシステムを活用した授業実践	平成19年4月～現在に至る	奈良産業大学ビジネス学部の授業として担当する「計量経済学（専門科目、３年次配当、半期、選択４単位）」、「ITリテラシー（共通教育科目、１年次配当、半期１単位）」において、学生の習熟度把握、およびテキスト、問題集、資料の作成と配布のために、e-learningシステムを活用したところ、学期途中で単位修得を諦める学生数を減少させることができた。
2）体験型学習の導入	平成20年9月～平成25年3月	奈良産業大学ビジネス学部の授業として担当する「プロジェクト演習（演習科目、２年次配当、通年４単位）」において、奈良県天理市の休耕地を利用して菜の花を栽培し、収穫したナタネを菜の花プロジェクトに取り組む県内のNPOや市民団体とともに搾油し（滋賀県ECHI OILに委託）、収穫量に応じて割り当てられたナタネ油を「大和菜花油」と名付けて大学祭等の機会を利用して販売する取り組みを行った。これは、原料の生産から加工、販売に至る流れを一貫して体験することによって、企業等における生産活動への理解を深めることを目的としている。 また、ナタネの収穫から次の植え付けまでの間の圃場を有効に活用するための取り組みを学生たちに考えさせ、初年度は蕎麦の栽培とそば打ち体験教室の開催、翌年度はひまわりの栽培とひまわり油の搾油（天候不順により失敗）、続いて景観形成を目的としたコスモスの栽培を行った。また、ナタネ油の販売や蕎麦打ち体験教室などでは企画、収益性の検討、販促物の制作、広報（ホームページの制作（ http://www.nara-su.ac.jp/koken_pj/ ）やチラシ等の作成）など、実際のビジネスにおける様々な活動を行う機会を学生たちに与えることができた。また栽培管理においては、受講生同士でシフトを組むなど疑似労働管理の体験が可能となった。また周辺地域の人々との交流が生まれ、さまざまな知識と経験を培う場となった。
3）就業体験型学習の導入	平成20年12月～現在に至る	奈良産業大学ビジネス学部の授業として担当する「プレ・プロジェクト演習（演習科目、2年次配当、半期２単位）」において、県内農業法人の協力の下で、就業体験を行っている。企業の企画する体験教室へのボランティア参加や、農場における就業体験は、学生による農業へのイメージを変え、中には就職を希望する業種として農業を考える学生も現れた。国民経済の上では縮小傾向にあり、特にビジネス学部では触れる機会も少ない産業・業種に対する学生の固定的なイメージを変えることに成功した。
2　作成した教科書，教材		
1）講義用補助教材	平成22年4月～現在に至る	近畿大学農学部の授業として担当する「国際経済入門」（教養教育科目、１年次配当、半期２単位）」において、講義用補助教材として作成したスライドや資料をウェブ上で供覧できるようにした。これにより学生は、講義中にとったノートと合わせて、自宅での効果的な復習が可能となった。

2）講義用補助教材	平成19年4月～平成23年3月	奈良産業大学ビジネス学部の授業として担当する「計量経済学（専門科目、３年次配当、半期、選択４単位）」で、講義用補助教材として使用するスライドをウェブ上で供覧できるようにするとともに、自動採点型の問題集を作成し、取り組ませることによって、学生の習熟度を確認しながら授業を進めることができるようにした。
3　教育上の能力に関する大学等の評価		
1）学生からの評価	平成21年度～現在に至る	奈良産業大学FD委員会が実施した授業評価アンケートによると、授業の難易度は高いと感じるという回答がやや多いものの、説明のわかりやすさや講義資料、授業の進行スピードなどに対する評価は良好であり、授業満足度も概ね高い。
4　実務の経験を有する者についての特記事項		
なし		
5　その他		
1. 天理大学における教育実践	平成20年4月～平成21年3月	天理大学の非常勤講師として以下の科目を担当した。 「経済概論」（平成２０年４月～平成２０年３月） 一般教育科目のひとつとして、基本的なマクロ経済政策分析を理解できることを目標とする講義を行った。
2. 近畿大学農学部における教育実践	平成14年4月～現在に至る	近畿大学農学部の非常勤講師として、以下の科目を担当している。「国際経済入門」（平成１４年４月～現在に至る。なお着任当初は「国際経済概論」であったが、カリキュラム変更によって現在は「国際経済入門」を担当している。）平成22年から、大学が提供するウェブ上の学習管理システムを利用して、教材配布等を試みている。学外からアクセスできないなど、e-learningシステムとしては問題があるものの、予習、復習、試験対策でアクセスする学生が多数あった。
3. 近畿大学通信教育学部における教育実践	平成24年4月～現在に至る	近畿大学通信教育学部の非常勤講師として、以下の科目を担当している。 「国際経済論」（平成24年～現在に至る） 学部の特性上、受講生の年齢、目的も幅広く、焦点を絞りにくい講座であるが、実務経験のある受講生が多数を占めることから、国際マクロ経済学をベースとしながらも、為替や金利の動向など、実務に反映しやすい話題を中心に講義を組み立てている。
4. 奈良産業大学経済学部およびビジネス学部における教育実践	平成12年４月～現在に至る	奈良産業大学経済学部、およびビジネス学部の専任教員（平成12年4月から平成15年3月まで専任講師、平成15年4月から現在に至るまで准教授）として以下の科目を担当した。 「計量経済学」（平成12年4月～現在に至る） 「経済情報論」（平成15年4月～平成21年3月） 「ＩＴリテラシー」（平成19年4月～平成23年3月） 「プロジェクト演習」（平成20年9月～現在に至る）

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
1　資格，免許		
1. 修士（経済学）	平成8年3月	大阪市立大学第２９７号 論文題目「企業の多国籍化」
2. 博士（経済学）	平成15年3月	大阪市立大学　第４２４２号 論文題目「日本企業の直接投資、および投資受入国による外資誘致効果の測定」
3. 日本商業簿記検定１級	平成 6年12月	日本商工会議所　証80の1第1418号

2　特許等		
なし		
3　実務の経験を有する者についての特記事項		
なし		
4　その他		
なし		

研究業績等に関する事項				
著書，学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所，発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（著書）				
なし				
（学術論文）				
1. 農業の縮小要因と耕地の現状	単著	平成23年3月	奈良産業大学地域公共学総合研究所年報第１集 pp. 73-80 奈良産業大学地域公共学研究所	国民経済における農業縮小の現状を確認するとともに、需要の所得弾力性の定義式から、農業縮小の原因が農産物の需要の所得弾力性の低さにあると考えられることを導出した。生産物需要の所得弾力性を直接的に示すデータは存在しないが、家計調査年報に掲載されている支出弾力性を代替的データとみなし、農産物が所得弾力性の低い生活必需品に分類されることを統計的に確認し、導出された仮説が否定されるものでないことを示した。また農業センサスのデータを中心に、農地の運営状況を確認した上で、農地の流動化が進んでいる地域において耕作放棄地率が低くなる傾向は見受けられるものの、流動化の促進だけではこの問題が解決されない可能性について指摘した。
2. 農業縮小要因としての農産物需要の所得弾力性の推計	単著	平成24年12月	社会科学雑誌第5巻 pp. 395-405 奈良産業大学社会科学学会	経済発展に伴う農業部門の割合の低下は、どの国においてもみられる普遍的傾向として「ペティ＝クラークの法則」の名で知られる。その原因が農産物の需要の所得弾力性にあることを示すとともに、マクロデータを用いて農産物に対する需要の所得弾力性を推計している。
3. 農家数、および、経営耕地減少の要因分析	単著	平成24年12月	奈良産業大学地域公共学総合研究所年報第3集 pp. 69-76 奈良産業大学地域公共学研究所	農家戸数の減少、経営耕地の減少についてその要因を明らかにするとともに、特に経営耕地の減少に対してより大きな影響を与えるものを探るため、みかん（果樹）に関するデータを使用した推計と分析を行っている。

4. 農地規模が与える農地価格への影響分析	単著	平成25年2月	社会科学雑誌第7巻 pp. 73-82 奈良産業大学社会科学学会	耕作放棄地の問題が深刻化する一方、農地法の改革などで農地の流動性は高まっている。農地を農業経営体の本体とみなし、農業経営の販売額から土地を除く生産要素費用を差し引いた残余、すなわち土地純収益を帰属させ、これを農地が賃貸借される場合の正当な地代を示すとする土地純収益の理論に立つならば、農地の収益構造が同質化するにつれて農地の価格差は縮小すると考えられる。しかしながらモノや情報の流通の発展によって農業技術や生産物価格、生産要素価格の差異が縮小し、経営的な意味における農地の差異が縮小したと考えられる現代においても、地域による農地価格差は小さなものではない。本稿では農業生産過程をBC過程とM過程に分けた上で、この農地価格差がM過程のコストによって引き起こされていると仮定した上で、実証分析を行っている。
5. 作物の品目別価格弾力性と所得弾力性の比較と経営耕地面積に及ぼす影響の分析（査読付）	単著	平成25年3月	奈良産業大学紀要第29集 pp. 115-128	農業の産業比率や農業就業人口の低下、ひいては経営耕地面積減少の主因は、農業の主要産物である「食料」の需要の所得弾力性の低さにあると考えられる。本稿では、ベルヌイ＝ラプラス型効用関数を仮定した需要関数を用いて、青果物と果樹の価格弾力性、および所得弾力性の差異を比較し、それらが耕地面積に及ぼす影響について実証分析を行った上で、転作や貸借、売買の容易さといった耕地の弾力的運用の可否が、両者の耕作放棄地面積差に影響を及ぼしていることを導く。
6. 家族のモデル	単著	平成26年3月	社会科学雑誌第9巻 pp. 49-56 奈良産業大学社会科学学会	A. シグノーの世代間扶養モデルをベースに、少子高齢化対策について考察したものである。本稿で導かれた結論は、、高齢者や現役世代の負担を増やし、子ども世代にかけるコスト（社会的補助）を増やす政策は、社会全体の厚生を引き下げるのみならず、少子化に拍車をかける可能性があることを示している。
（その他）				
1. 社会をモデルでみる（講演）	―	平成21年10月	王寺町りーべるカレッジ	さまざまな社会的事象をモデルを使って読み解く方法を紹介したもの。特に「人はなぜポイ捨てをするのか」という事例を取り上げて、社会的ジレンマの発生ポイントと、人の道徳規範が与える影響の大きさについて、費用便益分析という経済モデル枠組みを使って読み解くことを試みた。
2. 奈良産業大学ビジネス学部シンポジウム「奈良の将来」を考える（報告）	―	平成23年3月	社会科学雑誌第2巻 pp. 43-115 奈良産業大学社会科学学会	平成20年秋から「プロジェクト演習（演習科目、4単位）」の一環として取り組む体験型学習「菜の花プロジェクト」を通して見えてきた、NPOや市民団体活動相互の連携の必要性などについて、パネリストとして報告を行った。また、こうした地域活動を県全体の振興へ繋げるには、総合プロデュースのような役割を果たす存在が重要であることも指摘した。

3. ＜シンポジウム＞「道の駅」を考える（編集）	―	平成23年3月	社会科学雑誌第2巻 pp. 117-146 奈良産業大学社会科学学会	平成２１年に行った奈良産業大学ビジネス学部主催のシンポジウム『「道の駅」を考える』のコーディネータとして、講師およびパネリストによる講演・発表をまとめたもの。道の駅の機能や、地域活性化・防災などの観点から期待される役割などを行政、民間、そして道の駅駅長の立場から論じている。
4. 新聞購読に関する意識調査 （研究ノート）	共著	平成23年12月	奈良産業大学紀要第27集 pp. 113-125 奈良産業大学	メディア、特に新聞に対する学生の意識について、アンケートデータから読み解くことを試みた研究である。この中ではアンケートデータの分析を担当している。４つの大学で学部、学年、性別、国籍に制限を設けることなく収集したデータから、一般的な大学生の傾向に関する推計を試みた結果、ニュースメディアとしての新聞の衰退、そしてそれに代わるインターネットの重要性が浮き彫りになる一方、インターネットに対する学生の信頼は決して高いとはいえないこともわかった。ニュースメディアとしてどのような優位性をインターネットに対して認めているのかという点の解明は、今後の課題である。 著者：藤井，亘，渡辺　本人担当部分：pp. 113-119，121-125。調査票の作成、データ分析、執筆といった本稿の主要部分を担当した。
5. 社会をモデルで見る（講演）	―	平成25年6月	王寺町りーべるカレッジ	A. シグノーの世代間扶養モデルを、市民向けにわかりやすく紹介したもの。世代間扶養を、ミクロ経済学の費用と便益、効用最大化の考え方を応用して考察する手法について解説した。

［注］

1 最近10年間の教育活動、研究活動について作成すること。

2 「教育活動」については、各項目ごとに年月日順に、「学会等および社会活動」については、就任年月日順に記入すること。

3 「研究活動」については、下記の点に留意すること。

① 著書・論文及びその他の順に、発表年月日順に記入すること。

② 著者が複数にわたる場合で、筆頭著者が著書・論文等において明示されている場合には、その氏名に◎印を付すこと。

③ 共著（論文）の場合、「該当頁数」の記入にあたっては、本人の分担箇所を特定できる場合は、その頁数を記載すること。

④ 最近10年間に著書・論文等の発表のなかった者についても、教員名を挙げてその部分を空欄にしておくこと。

⑤ 芸術分野や体育実技等の分野を担当する教員については、著書・論文等以外の競技会、展覧会または演奏会等での発表のうち、特に顕著な業績と認められるものについても記載すること。このほか、専門分野の特性を 考慮し、顕著な業績と認められるものがある場合もこれに含めてもよい。

教　育　研　究　業　績　書

平成26年3月31日

氏名　三浦　晴彦

研究分野	研究内容のキーワード
財政学、地方財政論	土地税制、ライフタイムの税負担、都市経済

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
1　教育方法の実践例		
1）	平成00年0月0日	
2　作成した教科書，教材		
1）『共通基礎科目』－日本語コミュニケーションⅡ	平成19年3月	必修科目の教科書として、１教科分を２名で分担して執筆（平成22年度まで使用）
3　教育上の能力に関する大学等の評価		
1）	平成00年0月0日	
4　実務の経験を有する者についての特記事項		
1）	平成00年0月0日	
5　その他		
1）	平成00年0月0日	

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
1　資格，免許		
1）修士号（経済学）	平成10年3月	
2　特許等		
1）	昭和00年0月	
3　実務の経験を有する者についての特記事項		
1）	昭和00年0月	

4　その他		
1）	昭和00年0月	

研究業績等に関する事項				
著書，学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所，発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（学術論文）				
「大阪都市圏における地域特性の変遷と人口動態との関係について－人口減少社会を見据えて－」	単	平成23年11月	『社会科学雑誌』第3巻 P. 83～P. 110	大阪都市圏（大阪府下の区・市と兵庫県の一部）における住環境の歴史的変遷を分析する為に、主成分分析を行った。その結果、1970年以降、各年代において同種の地域特性が表れ、各年代でその順位を変えていることがわかった。その地域特性を用いて、人口変動との関係を考察し、近年、インナーシティー要素の上昇と人口が減少が結びついており、人口減少に歯止めをかける為にも、重要な示唆を与えている。
「大阪府における地価と居住環境の関係について－地方分権下での自立できる地域の姿をさぐる－」	単	平成24年11月	『社会科学雑誌』第5巻 P. 479～P. 502	近年の地価下落状況を概観するとともに、その要因として居住環境との関係を考察した。変数間の多重共線関係を解消する為に主成分分析を行い地域特性の特定化を行った。居住環境と住宅地地価の関係として、理論と整合的な結果が得られ、特に地価下落には、旧来型住環境という停滞的要素が効いていることが実証された。
（その他）				
	単	平成00年00月		

［注］

1　最近10年間の教育活動、研究活動について作成すること。

2「教育活動」については、各項目ごとに年月日順に、「学会等および社会活動」については、就任年月日順に記入すること。

3「研究活動」については、下記の点に留意すること。

① 著書・論文及びその他の順に、発表年月日順に記入すること。

② 著者が複数にわたる場合で、筆頭著者が著書・論文等において明示されている場合には、その氏名に◎印を付すこと。

③ 共著（論文）の場合、「該当頁数」の記入にあたっては、本人の分担箇所を特定できる場合は、その頁数を記載すること。

④ 最近10年間に著書・論文等の発表のなかった者についても、教員名を挙げてその部分を空欄にしておくこと。

⑤ 芸術分野や体育実技等の分野を担当する教員については、著書・論文等以外の競技会、展覧会または演奏会等での発表のうち、特に顕著な業績と認められるものについても記載すること。このほか、専門分野の特性を 考慮し、顕著な業績と認められるものがある場合もこれに含めてもよい。

教　育　研　究　業　績　書

平成26年3月31日

氏名　　山下　雅弘

研究分野	研究内容のキーワード
経済学	理論経済学

教育上の能力に関する事項

事項	年月日	概要
1　教育方法の実践例		
1）授業内容の要約や質問等の受け付け	平成16年4月～平成21年7月	奈良産業大学経済学部経済学科の専任講師、ビジネス学部ビジネス学科の専任講師、准教授として担当の「ミクロ経済学」（専門科目、2年次配当、半期、4単位）において、理解促進のため、講義終了後、内容の要約や質問等を書いてもらい、それらに対して、次回の講義開始後最初の10分程度で紹介と返答をし、学生に好評であった。
2　作成した教科書，教材		
1）奈良産業大学　ビジネス学部　専門基礎科目Ⅰ　現代社会入門（経済分析入門）	平成19年4月～平成22年7月	奈良産業大学ビジネス学部ビジネス学科の専任講師、准教授として担当（複数教員担当）の「現代社会入門」（専門基礎科目Ⅰ、１年次配当、半期、必修2単位）の授業のために作成し理解を促進した。
3　教育上の能力に関する大学等の評価		
1）		
4　実務の経験を有する者についての特記事項		
1）		
5　その他		
1）公務員試験対策指導（経済）	平成18年11月6日	正規の授業とは別に、公務員志望者に試験対策としての経済の勉強会を行った。

職務上の実績に関する事項

事項	年月日	概要
1　資格，免許		
1）Microsoft Office Specialist Word 2003 Microsoft Office Specialist Excel 2003　Microsoft Office Specialist Word 2003 Expert	平成19年7月3日 平成19年9月4日 平成19年10月27日	
2）Microsoft Office Specialist Excel 2003 Expert Microsoft Office Specialist PowerPoint 2003 Microsoft Office Specialist Access 2003	平成19年12月1日 平成20年2月6日 平成20年3月4日	
3）Microsoft Certified Application Specialist Word2007, Excel2007, PowerPoint2007	平成20年6月14日 平成20年8月23日 平成20年11月1日	
2　特許等		
1）		

3　実務の経験を有する者についての特記事項		
1）		
4　その他		
1）		

研究業績等に関する事項				
著書，学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所，発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（著書）				
（学術論文）				
1．進化ゲームにおける動学的均衡Ⅲ	単	平成18年10月	奈良産業大学産業と経済 第21巻 第3・4号	不確実性と情報の経済学、経済学に期待効用と自然淘汰と突然変異の考え方を導入した戦略的不確実性編の続々編。本文中の利得行列のような集団的な戦いが生じる状況に、第3の戦略として考えられうる様々な戦略を加えた場合の進化的均衡の特徴について考察し、協力的で高い利得の社会を創発させる戦略を見つけている。その場合、前論文と同様の構成を行い各命題を得ている。基本的に、経済学的観点から世界平和へ導く政策を導出することを目指しているが他にも適応範囲が広い可能性がある。
2.社会的選択関数に関する覚書	単	平成24年12月	社会科学雑誌 第6巻　奈良産業大学社会科学学会	先行研究における、アローの不可能性定理とその証明および社会的選択関数に関する命題とその証明を解説し、それらを基盤とし本文とは異なる系を導いている。情報の非対称性が存在する2つの社会の構成員が協力し新たな1つの組織として社会的選択をするとき、新たな組織において独裁的な者が存在してしまうこと、その状況がパレート効率的であるとは言えず、任意の個人の効用はただちに上昇するとは限らないことを示している。

［注］

1 最近10年間の教育活動、研究活動について作成すること。

2 「教育活動」については、各項目ごとに年月日順に、「学会等および社会活動」については、就任年月日順に記入すること。

3 「研究活動」については、下記の点に留意すること。

① 著書・論文及びその他の順に、発表年月日順に記入すること。

② 著者が複数にわたる場合で、筆頭著者が著書・論文等において明示されている場合には、その氏名に◎印を付すこと。

③ 共著（論文）の場合、「該当頁数」の記入にあたっては、本人の分担箇所を特定できる場合は、その頁数を記載すること。

④ 最近10年間に著書・論文等の発表のなかった者についても、教員名を挙げてその部分を空欄にしておくこと。

⑤ 芸術分野や体育実技等の分野を担当する教員については、著書・論文等以外の競技会、展覧会または演奏会等での発表のうち、特に顕著な業績と認められるものについても記載すること。このほか、専門分野の特性を 考慮し、顕著な業績と認められるものがある場合もこれに含めてもよい。

教　育　研　究　業　績　書

平成26年3月31日

氏名　山本　英司

研究分野	研究内容のキーワード
経済学、教育学	経済学説、経済思想、経済理論、経済政策、初年次教育

教育上の能力に関する事項

事項	年月日	概要
1　教育方法の実践例		
1）アドバイザリーゼミにおける「週間ポートフォリオ」及び「学修ポートフォリオ」の活用	平成19年4月 ～現在に至る	初年次教育で有名な金沢工業大学の「修学基礎ⅠⅡⅢ」における「修学ポートフォリオ」を参考に、アドバイザーとして担当する演習科目（担当科目は年度により異なる）において、履修登録している全ての授業科目についての出席状況・自学自習時間・学習内容及び1週間の反省点等を「週間ポートフォリオ」として毎週報告させた。また、出席授業回数及びその理由・授業外学修時間及びその理由・到達目標達成度及び達成事項を「学修ポートフォリオ」として学期末に報告させた。 これらにより、学生に自律を促すとともに、教員とのコミュニケーションを図った。
2）通常講義科目におけるレポート作成指導	平成18年4月 ～平成25年9月	奈良産業大学経済学部及びビジネス学部の「環境経済学」（2年次半期週2回4単位）において毎年レポートを課しているが、単にレポートを提出させるだけだといわゆるコピペが横行し、ほとんどの学生が失格または書き直しとなってしまうところ、本来は初年次ゼミで教えられるべきであり、現に教えられてもいるが、「レポートの書き方」を授業時間を使って基礎から教えている。また、目標規定文・参考文献一覧・アウトライン等を事前に提出させて添削指導を行い、許可を得た学生のみレポート本文を提出させている。 これらの指導により、平成22年度には、この授業に優秀なレポートを提出した学生に奈良産業大学ビジネス学部生を対象とする学生懸賞論文への応募を促したところ、2年次生ながら佳作を受賞するなどの成果を得た。また、平成23年6月には大学教育学会第33回大会に実践報告を行い、司会の橋本勝・富山大学教授から高い評価を得た。 「難しすぎる」などと学生からは大変不評であり、授業評価アンケートの自由記述欄では毎年のように抗議の声が寄せられているが、このような状況こそ「通常講義科目におけるレポート作成指導」の必要性を実証するものと認識し、毅然とした対応を貫いている。
3）小テストの活用	平成19年4月 ～平成25年9月	奈良産業大学経済学部及びビジネス学部において「環境経済学」（2年次半期週2回4単位）を平成18年度より担当しているが、当初はレポート及び期末試験で成績評価を実施していたところ、満足な答案が書けず不可となる学生が続出した。 そこで平成19年度より頻繁に小テストを実施することとしたところ、学期途中における復習の機会が増え、期末試験対策の手掛かりともなったことから、不合格者が激減した。
4）交換日記の活用	平成20年4月 ～平成25年9月	「大福帳」や「何でも帳」といった他大学における実践を参考に、奈良産業大学経済学部及びビジネス学部の「環境経済学」（2年次半期週2回4単位）において、平成20年度より、質問・感想・意見を毎回の授業の終了時に求め、コメントを記入して次回の授業の開始時に返却している。また、カード形式ではなく1枚の大きな用紙に継ぎ足しながら記入していっており、各学生について通覧性が高くなっている。 これにより学生とのコミュニケーションを図るとともに、実質的な出欠管理にも活用した。

２　作成した教科書，教材		
１）「現代経済学」補助教材	平成17年9月	奈良産業大学経済学部「現代経済学」（専門教育科目、3年次配当、後期、選択4単位）補助教材として、授業内容に関する予備知識等について、指定した市販の教科書を補足する教材を作成し、本学ホームページに掲載した。
２）『キャンパス・ガイド―導入演習教材―』（共著）及び同指導用資料	平成18年4月	奈良産業大学経済学部・経営学部・法学部「導入演習」（専門教育科目、1年次配当、集中及び前期、選択2単位）共通教材『キャンパス・ガイド―導入演習教材―』（共著）及び同指導用資料として、ビジネス学部設置に向け、「１．オリエンテーション」「３．奈良産業大学を知ろう」「４．大学とは」「５．カリキュラムについて」「６．大学生のタイム・マネジメント」及び「７．時間割を作ってみよう」を担当した。
３）『導入演習・基礎演習』（共著）及び補助教材ワークシート	平成19年4月	奈良産業大学ビジネス学部「導入演習」（専門教育科目、1年次配当、集中及び前期、選択2単位）及び「基礎演習」（同、後期）共通教科書『導入演習・基礎演習』（共著）及び補助教材ワークシートとして、平成19年4月のビジネス学部設置にあたり、大学の方針として初年次教育を本格的に行うこととなり、共通教科書を作成することとなった。その一環として、レポートの書き方を学ぶ「基礎演習」を担当した。
４）『導入演習・基礎演習（2008年度版）』（共著）及び補助教材ワークシート	平成20年4月	奈良産業大学ビジネス学部「導入演習」（専門教育科目、1年次配当、集中及び前期、選択2単位）及び「基礎演習」（同、後期）共通教科書『導入演習・基礎演習（2008年度版）』（共著）及び補助教材ワークシートとして、改訂版の作成にあたり、共著者の転出等に伴い、上記に加え「導入演習」のうち「１．高校と大学の違い」「３．大学生としての生活」「４．カリキュラムと履修登録」及び「５．授業の受け方・ノートの取り方」を新規に担当した。
５）『カレツキの政治経済学』（再掲）	平成21年3月	奈良産業大学経済学部「現代経済学」（専門教育科目、3年次配当、後期、選択4単位）教科書『カレツキの政治経済学』として、これまで市販の書籍を教科書として用いていたところ、自著の出版に伴い、同年9月からの授業において教科書として使用した。
６）『導入演習・基礎演習（2009年度版）』（共著）及び補助教材ワークシート	平成21年4月	奈良産業大学ビジネス学部「導入演習」（専門教育科目、1年次配当、集中及び前期、選択2単位）及び「基礎演習」（同、後期）共通教科書『導入演習・基礎演習（2009年度版）』（共著）及び補助教材ワークシートとして、改訂版の作成にあたり、共著者の転出等に伴い、上記４）に加え「導入演習」のうち「７．新聞に接する・新聞記事を読む」「９．学外見学」及び「10．試験の受け方」を新規に担当した。
７）『導入演習・基礎演習（2010年度版）』（共著）及び補助教材ワークシート	平成22年4月	奈良産業大学ビジネス学部「導入演習」（専門教育科目、1年次配当、集中及び前期、選択2単位）及び「基礎演習」（同、後期）共通教科書『導入演習・基礎演習（2010年度版）』（共著）及び補助教材ワークシートとして、改訂版の作成にあたり、共著者の転出等に伴い、上記に加え「導入演習」のうち「８．辞書・事典等の種類と使い方」を担当した。
８）『現代経済思想―サムエルソンからクルーグマンまで―』（共著）（再掲）	平成23年3月	教科書『現代経済思想―サムエルソンからクルーグマンまで―』（共著）として、全国の大学で「現代経済学」「現代経済思想」等の教科書として使用すべく出版された本のうち「第6章　ミハウ・カレツキ―ポスト・ケインズ派経済学の源泉―」を担当した。
９）『導入演習・基礎演習（2011年度版）』（共著）及び補助教材ワークシート	平成23年4月	奈良産業大学ビジネス学部「導入演習」（専門教育科目、1年次配当、集中及び前期、選択2単位）及び「基礎演習」（同、後期）共通教科書『導入演習・基礎演習（2011年度版）』（共著）及び補助教材ワークシートとして、改訂版の作成にあたり、共著者の転出等に伴い、上記７）に加え「導入演習」のうち「６．図書館とその利用」を新規に担当するとともに、「基礎演習」を全面改訂した（小幅な改訂は毎年全項目にわたって行っている）。
10）『導入演習・基礎演習（2012年度版）』（共著）及び補助教材ワークシート	平成24年4月	奈良産業大学ビジネス学部「導入演習」（専門教育科目、1年次配当、集中及び前期、選択2単位）及び「基礎演習」（同、後期）共通教科書『導入演習・基礎演習（2012年度版）』（共著）及び補助教材ワークシートとして、前年度の授業実践及び教材で言及する外部データベースの変化等を踏まえ、改訂版を作成した。

11）『導入演習・基礎演習（2013年度版）』（共著）及び補助教材ワークシート	平成25年4月	奈良産業大学ビジネス学部「導入演習」（専門教育科目、1年次配当、集中及び前期、選択2単位）及び「基礎演習」（同、後期）共通教科書『導入演習・基礎演習（2013年度版）』（共著）及び補助教材ワークシートとして、前年度の授業実践等を踏まえ、改訂版を作成した。
3　教育上の能力に関する大学等の評価		
1）奈良産業大学平成18年度前期授業アンケート	平成18年11月26日	「環境経済学」について、授業評価アンケートを受けて、大学ホームページ掲載用に改善策等を回答。
2）奈良産業大学平成18年度後期授業アンケート	平成19年2月9日	「現代経済学」について、授業評価アンケートを受けて、大学ホームページ掲載用に改善策等を回答。
3）奈良産業大学平成19年度前期授業アンケート	平成19年8月7日	「環境経済学」について、授業評価アンケートを受けて、大学ホームページ掲載用に改善策等を回答。
4）奈良産業大学平成19年度後期授業アンケート	平成20年3月3日	「現代経済学」について、授業評価アンケートを受けて、大学ホームページ掲載用に改善策等を回答。
5）奈良産業大学平成20年度前期授業アンケート	平成20年8月25日	「ITリテラシーⅠ」及び「環境経済学」について、授業評価アンケートを受けて、大学ホームページ掲載用に改善策等を回答。
6）奈良産業大学平成20年度後期授業アンケート	平成21年1月29日	「現代経済学」について、授業評価アンケートを受けて、大学ホームページ掲載用に改善策等を回答。
7）奈良産業大学平成21年度前期授業アンケート	平成21年9月11日	「環境経済学」について、授業評価アンケートを受けて、大学ホームページ掲載用に改善策等を回答。
8）奈良産業大学平成22年度前期授業アンケート	平成22年11月9日	「環境経済学」及び「ITリテラシーⅠ」について、授業評価アンケートを受けて、大学ホームページ掲載用に改善策等を回答。
9）奈良産業大学平成22年度後期授業アンケート	平成23年3月22日	「ITリテラシーⅡ」について、授業評価アンケートを受けて、大学ホームページ掲載用に改善策等を回答。
10）奈良産業大学平成23年度前期授業アンケート	平成23年10月6日	「基礎数学Ⅰ」及び「環境経済学」について、授業評価アンケートを受けて、大学ホームページ掲載用に改善策等を回答。
11）奈良産業大学平成24年度前期授業アンケート	平成24年9月18日	「ITリテラシーⅠ」「基礎数学Ⅱ」及び「環境経済学」について、授業評価アンケートを受けて、大学ホームページ掲載用に改善策等を回答。
12）奈良産業大学平成24年度後期授業アンケート	平成25年3月15日	「ITリテラシーⅡ」及び「基礎数学Ⅱ」について、授業評価アンケートを受けて、大学ホームページ掲載用に改善策等を回答。
13）奈良産業大学平成25年度前期授業アンケート	平成25年9月27日	「基礎数学Ⅱ」について、授業評価アンケートを受けて、大学ホームページ掲載用に改善策等を回答。
14）奈良産業大学平成25年度後期授業アンケート	平成26年3月14日	「日本語コミュニケーションⅡ」「基礎数学Ⅰ」及び「インターンシップⅠ」について、授業評価アンケートを受けて、大学ホームページ掲載用に改善策等を回答。
4　実務の経験を有する者についての特記事項		
1）奈良学園中学校高等学校における教育実績	平成17年4月 ～平成18年3月	中学3年生を対象に「公民」の経済的内容を担当した。
2）奈良産業大学オープンキャンパス模擬講義	平成17年8月8日	奈良産業大学オープンキャンパスにおいて、「バブル崩壊と「失われた10年」」と題して模擬講義を行った。
3）奈良産業大学出前講義	平成18年10月25日	三重県立名張西高等学校において、「株式投資に必勝法はあるか？」と題して出前講義を行った。
4）奈良産業大学公開講座王寺町リーベルカレッジ	平成19年5月12日	奈良産業大学公開講座王寺町リーベルカレッジ（於リーベル王寺）において、「株式投資に必勝法はあるかだまされないための経済理論」と題して講演を行った。
5）経済教育ネットワーク第1回大阪部会報告	平成19年7月8日	経済教育ネットワーク第1回大阪部会（於阪急ターミナルスクエア17）において、「「中等教育における経済教育に関する若干の覚書」について」と題して報告を行った。

6）日本語研修講座	平成21年8月3日	中華民国国立屏東科技大学から奈良産業大学への短期留学生を対象に実施された日本語研修講座において、「日本の伝統芸能」及び「現代日本の短編アニメーション」の講義を行った。
7）奈良産業大学公開講座奈良駅前大学	平成22年6月29日	奈良産業大学公開講座奈良駅前大学（於社団法人奈良県経済倶楽部ビル）において、「地球温暖化対策と経済学―環境税・排出量取引・公共財―」と題して講演を行った。
8）高等学校進路相談会模擬講義	平成22年7月5日	高等学校進路相談会（於難波御堂筋ホール）において、「「心掛け」で環境は守れる？―環境経済学入門―」と題して模擬講義を行った。
9）日本語研修講座	平成22年7月27日	中華民国国立屏東科技大学から奈良産業大学への短期留学生を対象に実施された日本語研修講座において、「日本の伝統芸能」の講義を行った。
10）名古屋大学大学院経済学研究科課題設定型ワークショップ「社会経済研究」	平成23年1月18日	名古屋大学大学院経済学研究科における大学院学生対象の課題設定型ワークショップ「社会経済研究」において、「カレツキの政治経済学」と題して報告及び質疑応答を行った。
11）文楽応援団平成24年第1回研修会	平成24年2月18日	文楽応援団平成24年第1回研修会（於国立文楽劇場会議室）において、「パロディーとしての文楽―平家物語としての文楽―」と題して学習会の講師を務めた。
12）奈良産業大学学術講演会	平成24年2月25日	奈良産業大学学術講演会「金融の技術革新とサブプライム金融危機」（服部茂幸・福井県立大学教授）に先立ち、「ミンスキーサイクルと服部説―「金融の技術革新とサブプライム金融危機」に寄せて―」と題して講演を行った。
5　その他		
「教育実績」		
1）龍谷大学経済学部における教育実績	平成16年4月 ～平成17年3月	「日本経済論Ⅰ・Ⅱ」
2）奈良産業大学経済学部における教育実績	平成17年4月 ～平成24年3月	「基礎経済学」「基礎経済学Ⅲ・Ⅳ」「現代経済学」「環境経済学」「基礎演習（4単位）」「導入演習」「基礎演習（2単位）」「専門演習Ⅰ・Ⅱ」「卒業論文」「総合演習Ｅ」（年度によって担当授業科目は異なる）
3）奈良産業大学ビジネス学部における教育実績	平成19年4月 ～現在に至る	「日本語コミュニケーションⅡ」「ＩＴリテラシーⅠ・Ⅱ」「基礎数学（ベーシック数理）Ⅰ・Ⅱ」「インターンシップⅠ」「現代社会トピックスⅤ」「環境経済学」「導入演習」「基礎演習」「総合演習（4単位）」「総合演習（2単位）」「専門演習Ⅰ・Ⅱ」「短期プロジェクト演習」（年度によって担当授業科目は異なる）
「教育方法・教育実践に関する発表等」		
1）奈良産業大学ビジネス学部一年次・テキスト作成委員会第1回公開学習会	平成19年6月15日	文部科学省『特色ある大学教育支援プログラム』採択記念シンポジウム「初年次教育とポートフォリオ評価」及び大学教育学会第29回大会より自由研究Ⅰ「初年次教育」について報告を行った。
2）奈良産業大学ビジネス学部一年次教育中間報告会	平成19年8月3日	「現代社会トピックスⅤ（日本経済の光と影）」について報告を行った。
3）奈良産業大学ビジネス学部一年次・テキスト作成委員会第2回公開学習会	平成19年12月21日	大学教育学会2007年度課題研究集会について報告を行った。
4）奈良産業大学ビジネス学部一年次教育中間報告会	平成20年8月4日	「導入演習」及び「現代社会トピックスⅤ（日本経済の光と影）」について報告を行った。
5）第1回　奈良産業大学　公開授業参観交流会	平成20年11月21日	奈良産業大学FD委員会・学修支援センター運営委員会共催の「第1回　奈良産業大学　公開授業参観交流会」において、ビジネス学部一年次教育・テキスト作成委員会実施の「第1セメスターにおける導入教育の自己評価に関する調査結果」について報告を行った。

6）奈良産業大学ビジネス学部一年次教育年度末報告会	平成21年2月12日	「基礎演習」及び他大学における初年次教育について報告を行った。
7）平成21（2009）年度前期一年次教育報告会	平成21年8月7日	「導入演習」基調報告及び5組Bについて報告を行った。
8）初年次教育学会第2回大会	平成21年9月19日	「奈良産業大学ビジネス学部における初年次教育――「導入演習」「基礎演習」を軸とする複数科目による総合型初年次教育――」と題して学会発表を行った。
9）奈良産業大学ビジネス学部平成21（2009）年度後期一年次教育報告会	平成22年2月5日	「基礎演習」基調報告及び5組Bについて報告を行った。
10）奈良産業大学ビジネス学部平成22（2010）年度前期一年次教育報告会	平成22年8月6日	「導入演習」基調報告及び5組Cについて報告を行った。
11）奈良産業大学ビジネス学部平成22（2010）年度後期一年次教育報告会	平成23年2月4日	「基礎演習」5組Cについて報告を行った。
12）大学教育学会第33回大会（再掲）	平成23年6月5日	「通常講義科目におけるレポート作成指導――「環境経済学」における試み――」と題して学会発表を行った。
13）初年次教育学会第4回大会（再掲）	平成23年8月31日	「奈良産業大学ビジネス学部における留学生の特徴――「第1セメスターにおける導入教育の自己評価に関する調査」に見る――」と題して学会発表を行った。
14）奈良産業大学授業研究会	平成23年12月9日	奈良産業大学FD委員会主催の授業研究会の第4分科会「スタディスキルを考える」において、座長を務めるともに話題提供を行った。

職務上の実績に関する事項

事項	年月日	概要
1　資格，免許		
1）中学校教諭一種免許状（社会）	平成4年3月31日	平三中一め第三一二七号（京都府教育委員会）
2）高等学校教諭一種免許状（社会）	平成4年3月31日	平三高一め第三四七八号（京都府教育委員会）
3）修士（経済学）	平成6年3月23日	京都大学経修第五一六号 修士論文題名：カレツキの開発経済学
4）高等学校教諭専修免許状（公民）	平成9年3月31日	平八高専め第一八四号（京都府教育委員会）
5）司書教諭講習修了	平成11年12月1日	第205551号
6）博士（経済学）	平成15年9月24日	京都大学経博第一七四号 博士論文題名：カレツキの政治経済学
2　特許等		
1）特記事項なし		
3　実務の経験を有する者についての特記事項		
1）特記事項なし		

4　その他		
1）奈良産業大学経営経営学会運営委員会委員	平成17年4月 ～平成21年3月	奈良産業大学経済学部及び経営学部を母体とする学内学会「奈良産業大学経済経営学会」の運営委員会の一員として、『産業と経済』『奈良産業大学経済経営学会NEWSLETTER』の編集作業等に従事。
2）奈良産業大学大学要覧検討委員会委員	平成18年4月 ～平成19年3月	奈良産業大学の大学要覧（大学案内）の検討等に従事。
3）奈良産業大学NSU-NET運営委員会委員	平成18年7月 ～平成19年3月	奈良産業大学の情報ネットワークであるNSU-NETの運営に関する委員会の一員として従事。
4）奈良産業大学ビジネス学部教授会準備会教務関連部会構成員	平成18年7月 ～平成19年3月	平成19年4月に発足を予定された奈良産業大学ビジネス学部の教務関連事項の原案の検討等に従事。
5）奈良産業大学ビジネス学部一年次教育・テキスト作成委員会委員	平成19年4月 ～平成25年3月	奈良産業大学ビジネス学部における一年次（初年次）教育の充実及びテキスト編集作業等に従事。なお、平成23年度からは委員会の取りまとめに就任。
6）奈良産業大学経済学部執行部会構成員	平成19年4月 ～平成23年3月	奈良産業大学において平成19年4月に経済学部等を改組してビジネス学部が発足したことに伴い、なお在籍する経済学部生に関わる諸問題の検討等に従事。
7）奈良産業大学新学会設立準備委員会委員	平成19年4月 ～平成19年9月	平成19年4月に発足した奈良産業大学ビジネス学部における学内学会の設立準備に従事。
8）奈良産業大学社会科学学会運営委員会委員	平成19年9月 ～平成21年3月	奈良産業大学ビジネス学部を母体とする学内学会「奈良産業大学社会科学学会」の運営委員会の一員として、『奈良産業大学社会科学学会NEWSLETTER』の編集作業等に従事。
9）奈良産業大学FD委員会委員	平成20年4月 ～平成21年3月	奈良産業大学におけるファカルティ・ディベロップメントに関する委員会の一員として従事。
10）奈良産業大学ビジネス学部一年次アドバイザー取りまとめ担当	平成20年4月 ～現在に至る	奈良産業大学ビジネス学部における一年次生対象の演習科目である「導入演習」及び「基礎演習」の担当者間における取りまとめ担当に従事。
11）奈良産業大学経済学部教務委員	平成20年4月 ～平成24年3月	奈良産業大学経済学部における教務事項を担当するとともに、全学委員会である教務委員会に陪席。
12）奈良産業大学学生支援センター運営委員会委員	平成21年4月 ～平成23年3月	奈良産業大学における学生支援に関する委員会の一員として従事。
13）奈良産業大学全学共通・教養科目調整会議構成員	平成21年11月 ～平成22年3月	臨時に設置された奈良産業大学全学共通・教養科目調整会議の構成員として、全学共通・教養教育推進委員会と合同で平成22年度からの共通教育の検討に従事。
14）奈良産業大学ビジネス学部年間行事検討委員会委員	平成21年12月 ～平成25年3月	奈良産業大学ビジネス学部における諸行事の予定及び進捗状況を管理するとともに、どの委員会にも属さない行事の取りまとめ等に従事。なお、平成22年度からは委員会の取りまとめに就任。
15）奈良産業大学全学共通・教養教育推進委員会委員	平成22年4月 ～平成25年3月	奈良産業大学における共通教育科目に関する委員会の一員として従事。
16）奈良産業大学学内評価員	平成22年9月 ～平成22年11月	奈良産業大学が平成22年度に日本高等教育評価機構における認証評価を受審するに先立ち、リハーサル等において評価員の役割に従事。
17）奈良産業大学入学試験委員会委員	平成23年4月 ～平成25年3月	奈良産業大学における入学試験に関する委員会の一員として従事。なお、平成24年度の10月から11月にかけて、委員長の入院に伴い委員長代行に就任。

18）奈良産業大学AO入試実施小委員会委員	平成23年4月 ～平成24年3月	奈良産業大学入学試験委員会の下に設けられたAO入試の実施に関する小委員会の一員として従事。
19）奈良産業大学編入学試験実施小委員会委員	平成23年4月 ～平成24年3月	奈良産業大学入学試験委員会の下に設けられた編入学試験の実施に関する小委員会の一員として従事。
20）奈良産業大学国際交流センター運営委員会委員	平成24年4月 ～平成25年3月	奈良産業大学における国際交流に関する委員会の一員として従事。
21）奈良産業大学広報委員会委員	平成25年4月 ～平成26年3月	奈良産業大学における広報に関する委員会の委員長として従事。
22）奈良産業大学ホームページ企画小委員会委員	平成25年4月 ～平成26年3月	奈良産業大学広報委員会の下部組織として、ホームページに関する小委員会の一員として従事。
23）奈良産業大学就職委員会委員	平成25年4月 ～平成26年3月	奈良産業大学における就職に関する委員会の一員として従事。
24）奈良産業大学ビジネス学部教務委員	平成25年4月 ～平成26年3月	奈良産業大学教務委員会委員を補佐し、ビジネス学部固有の教務事項を担当する一員として従事。

研　究　業　績　等　に　関　す　る　事　項

著書，学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所，発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要
（著書）				
1.『カレツキの政治経済学』 （奈良産業大学経済・経営研究叢書5）	単著	平成21年3月	千倉書房	博士論文『カレツキの政治経済学』を元に第1章「カレツキ入門」及び第3章「カレツキ資本主義経済論体系の形成と展開」を書き下ろし、その他全体的に加筆したもの。 A5判　全224頁
2.『現代経済思想――サムエルソンからクルーグマンまで――』	共著	平成23年3月	ミネルヴァ書房	サムエルソンからクルーグマンに至る、現代経済学の発展に大きく寄与した16名の経済学者の生涯と思想を幅広く紹介した啓蒙書。 A5判　全296頁 編著者：根井雅弘 共著者：◎根井雅弘、楠美佐子、廣瀬弘毅、神野照敏、藤田菜々子、山本英司、寺尾建、横田宏治、江頭進、荒川章義、中村隆之、服部茂幸 本人担当部分：第6章「ミハウ・カレツキ――ポスト・ケインズ派経済学の源泉――」（95-109頁）を単著。 カレツキの生涯に簡潔に触れつつ、「ケインズ革命」の先行者として特に『景気循環理論』の内容を紹介するとともに、価格二分法と独占度、分配要因を考慮した投資乗数、危険逓増の原理、政治的景気循環等に関してカレツキの資本主義経済論の現代的意義を論じ、カレツキが源泉の一つであるところのポスト・ケインズ派経済学について簡潔に紹介を行った。
（学術論文）				
1）「「マルクス主義者」としてのカレツキ」	単著	平成17年9月	『産業と経済』 （奈良産業大学経済経営学会） 第20巻第3号 123-146頁	カレツキとマルクスとの比較研究の一環として、学説史におけるカレツキの位置を検討した上で、カレツキの経歴をマルクス主義との関係から振り返った。ここで問題となるのがそもそもマルクス主義とは何かであるが、むしろ戦後のポーランドの教条主義的な「マルクス主義者」から批判されたことこそが、批判的精神の持ち主という意味においてカレツキをマルクス主義者たらしめるものであることを指摘した。

2）「カレツキの資本主義経済研究における『景気循環理論』の位置」	単著	平成18年3月	『産業と経済』 （奈良産業大学経済経営学会） 第21巻第1号 15-32頁	カレツキがケインズと独立にまたは先行して「有効需要の原理」に到達していたとして知られる1933年の『景気循環理論』について、その他の文献やカレツキの資本主義経済論の全体に注意を払いながら詳細に検討を行った。その結果、『景気循環理論』は確かに「有効需要の原理」に到達していたものの、説明の一部に不十分な点があり、それらは後の著作において訂正されていったことを明らかにした。
3）「奈良産業大学における初年次教育―ビジネス学部を中心に―」	単著	平成20年12月	『奈良産業大学紀要』 （奈良産業大学） 第24集 29-64頁	奈良産業大学における初年次教育について、初年次教育に関する概念の整理を踏まえつつ諸資料を用いて検討を行った。その結果、奈良産業大学における初年次教育は4段階に時期区分できることが明らかにされ、ビジネス学部における初年次教育の全体像及び成果・課題が他大学等との比較の中で明らかにされた。
4）「『カレツキの政治経済学』再論」	単著	平成23年1月	『季刊経済理論』 （経済理論学会） 第47巻第4号 42-52頁	著書『カレツキの政治経済学』に対し、学会において合評会が2回行われ、また書評が2本寄せられたことを受けて、それらへのリプライを兼ねつつ、同著の要点を敷衍するとともに必要に応じて訂正を行った。訂正は主に伝記的事項についてである。「体系」としてのカレツキ資本主義経済論、『景気循環理論』は自由競争の仮定か、方法論としての「マルクス主義者」等についていっそう詳しい説明を行った。
5）「カレツキと階級闘争」	単著	平成24年11月	『社会科学雑誌』 （奈良産業大学社会科学学会） 第5巻 575-602頁	理論経済学の範疇たる所得分配理論及び政治経済学の範疇たる階級闘争についてのカレツキの見解の検討を行った。その結果、カレツキの階級闘争観が所得分配理論の基礎に裏付けられていること、並びにカレツキの階級闘争観及び所得分配理論は1933年の『景気循環理論』において基本的に完成を見ていたことを明らかにした。
6）「2012年度台湾林業調査報告」	共著	平成24年12月	『奈良産業大学地域公共学総合研究所年報』 （奈良産業大学） 第3集 119－136頁	平成24年度奈良産業大学地域公共学総合研究所研究プロジェクト「吉野林業振興に関する研究」の一環として、国際比較のため、文献調査及び2012年9月における台湾現地調査に基づき、台湾における林業の現状と課題を調査した。 本人担当部分：全6節中、第2節「台湾林業に関する先行文献」、第3節「國立屏東科技大學森林系へのインタビュー調査」、及び第4節「三地門におけるエコツーリズムの現地調査」を単著。 共著者：◎渡辺邦博、山本英司
（その他）				
「研究ノート・啓蒙論文等」				
1）「中等教育における経済教育に関する若干の覚書」	単著	平成18年6月	『産業と経済』 （奈良産業大学経済経営学会） 第21巻第2号 153-213頁	中高一貫校における「公民」経済分野の非常勤講師としての経験に基づき、経済学の専門家の観点から、中等教育における経済教育について、現場で用いられている教科書・資料集の内容の検討を行った。
2）「奈良産業大学ビジネス学部における留学生の特徴」	単著	平成22年12月	『奈良産業大学紀要』 （奈良産業大学） 第26集 89-101頁	平成21年度より奈良産業大学が留学生の本格的受け入れを開始したことを受け、平成19年度の同大学ビジネス学部設置時より実施されている「第1セメスターにおける導入教育の自己評価に関する調査」の結果を用いて、同学部の留学生について、日本人学生と対比させつつ特徴を浮き彫りにしようとした。その結果、留学生は日本人学生と比較して向学心が高く、日本人学生の自己評価が際立って低いのは「わからないことを辞書・事典で調べる」であることなどを明らかにした。

３）「地球温暖化対策と経済学―環境税・排出量取引・公共財―」	単著	平成23年11月	『社会科学雑誌』（奈良産業大学社会科学学会）第3巻 191-208頁	平成22年6月29日に開催された奈良産業大学公開講座「奈良駅前大学」の同名の講演の内容に基づく。地球温暖化の実態及び地球温暖化対策の動向について説明した後、経済学で言う公共財という概念について説明し、最後に、環境税と排出量取引について説明した。総じて標準的な考え方をなるべく平易に解説したものであるが、環境税の税率は環境省案よりさらに引き上げるべきであり、環境税の税収は法人税の減税と失業手当・職業訓練等に充てられるべきであるとの私見を盛り込んだ。
４）「ミハウ・カレツキ Michał Kalecki 1899-1970 ケインズに先んじて論じた有効需要原理」（温経知世　経済学者の思想と理論vol.17）	単著	平成24年1月	『エコノミスト』（毎日新聞社）第90巻第4号通巻4212号 54-55頁	経済学史・経済思想史研究者によるリレー連載「温経知世　経済学者の思想と理論」の「ミハウ・カレツキ」の回への原稿を依頼されたものである。ケインズの有効需要の原理をケインズに先立ち、かつ、いっそう発展した形で展開したことに触れつつ、いたずらに理想を振りかざすことなく、かつ、体制に屈しないカレツキの生涯を紹介した。
５）「パロディーとしての時代物―平家物語と文楽―」	単著	平成24年12月	『奈良産業大学紀要』（奈良産業大学）第28集 (1)-(42)頁	文楽の時代物の現代人にとっての分かりにくさの一因が「時代物はパロディーであるが、現代人は元ネタを知らない」ことにあるとの仮説に基づき、事例研究として平家物語を元ネタとする時代物文楽作品を取り上げた。エピソードの対応関係を年表形式で整理するとともに、平家物語のパロディーとしての時代物文楽作品の見どころの解説を行った。
６）「ミンスキーサイクルと服部説―「金融の技術革新とサブプライム危機」に寄せて―」	単著	平成25年2月	『社会科学雑誌』（奈良産業大学社会科学学会）第7巻 391-399頁	平成24年2月25日に開催された奈良産業大学学術講演会「金融の技術革新とサブプライム金融危機」（服部茂幸・福井県立大学教授）に先立って行った同名の講演の内容に基づく。服部教授とハイマン・ミンスキーの経歴と業績を紹介し、経済学説史における位置付けを明らかにした。
７）「台湾林業の現状―台湾南部の現地調査より―」	共著	平成25年3月	『龍谷大学里山学研究センター2012年度年次報告書』（龍谷大学里山学研究センター）87-88頁	平成24年12月26日に開催された龍谷大学里山学研究センター2012年度第5回研究会における同名の報告の要約を行った。 本人担当部分：全6節中、第2節「台湾林業に関する先行文献」、第3節「國立屏東科技大學森林系へのインタビュー調査」、及び第4節「三地門におけるエコツーリズムの現地調査」を単著。 共著者：◎渡辺邦博、山本英司
８）「通常講義科目におけるレポート作成指導―「環境経済学」を事例として―」	単著	平成25年12月	『奈良産業大学紀要』（奈良産業大学）第30集 139-170頁	カリキュラム改革に伴い2013年度をもって「環境経済学」の開講を終えるにあたり、2006年度から8年間にわたるレポート作成指導の歩みを振り返るとともに、通常講義科目におけるレポート作成指導について考察した。
「書評」				
１）Aslanbeigui, Nahid and Guy Oakes: *The Provocative Joan Robinson: The Making of a Cambridge Economist* (Durham and London: Duke University Press, 2009, x+302pp.)	単著	平成23年1月	『経済学史研究』（経済学史学会）52巻2号 141-142頁	『不完全競争の経済学』等で知られるジョーン・ロビンソンの1930年代のケンブリッジにおけるキャリア形成過程を扱った著書（英語）に対する書評を行った。
「学会発表」				
１）「カレツキ資本主義経済論体系の形成と展開」	単独	平成16年5月	経済学史学会第68回大会（於北星学園大学）	カレツキの資本主義経済論について、「体系」の観点から1933年の『景気循環理論』、1939年の『経済変動理論論文集』、1943年の『経済動学研究』、1954年の『経済動学理論』、そして死後の1971年の『資本主義経済動学論文選集』の5冊の著書を比較検討することによってその本質と可能性を探ろうとした。その結果、基本型としての「1933年体系」の精緻化としてカレツキ資本主義経済論の展開が把握されることとなった。
２）「合評会：山本英司著『カレツキの政治経済学』（千倉書房）」	共同	平成21年7月	経済思想史研究会・近代経済学史研究会合同研究会（於大阪府立大学中之島サテライト教室）	著書『カレツキの政治経済学』について、元木久・関西大学教授の合評に答えてリプライ報告を行った。特に「「マルクス主義者」としてのカレツキ」の部分に議論が集中した。 本人担当部分：リプライ 共同発表者：元木久、山本英司

3）「奈良産業大学ビジネス学部における初年次教育―「導入演習」「基礎演習」を軸とする複数科目による総合型初年次教育―」	単独	平成21年9月	初年次教育学会第2回全国大会 （於関西国際大学尼崎キャンパス）	奈良産業大学における初年次教育について、初年次教育に関する概念の整理を踏まえつつ諸資料を用いて検討を行った。その結果、奈良産業大学における初年次教育は4段階に時期区分できることが明らかにされ、ビジネス学部における初年次教育の全体像及び成果・課題が他大学等との比較の中で明らかにされた。
4）「カレツキの社会主義革命観」	単独	平成21年10月	比較経済体制学会第8回2009秋期大会 （於立命館大学BKC）	カレツキの社会主義革命観について、資本主義観を踏まえた上で歴史的変遷を明らかにした。その結果、資本主義を根本的に批判しつつもあくまでも資本主義の枠内での改革を理論的に提言し、しかしてそれが政治経済学的に受け入れられないであろうことから社会主義革命が必然化されるとのカレツキの論理構造が明らかになった。
5）「合評会：山本英司会員新著『カレツキの政治経済学』」	共同	平成21年11月	経済学史学会関西部会第157回例会 （於兵庫県立大学神戸キャンパス）	著書『カレツキの政治経済学』について、鍋島直樹・名古屋大学教授の発題に答えてリプライ報告を行った。 本人担当部分：リプライ 共同発表者：鍋島直樹、山本英司
6）「『季刊経済理論』第47巻第4号特集「カレツキ経済学の現代的評価」合評会：『カレツキの政治経済学』再論」	共同	平成23年3月	経済理論学会関西部会 （於京都大学）	学術論文「『カレツキの政治経済学』再論」について、池田毅・立教大学准教授のコメントに応えつつ、報告を行った。 本人担当部分：リプライ 共同発表者：池田毅、山本英司
7）「通常講義科目におけるレポート作成指導――「環境経済学」における試み――」	単独	平成23年6月	大学教育学会第33回大会 （於桜美林大学町田キャンパス）	大学におけるいわゆるコピペレポートの横行を踏まえ、初年次ゼミ等とは異なる通常講義科目である「環境経済学」におけるレポート作成指導の試みについて紹介を行った。初年次ゼミにおけるレポート作成指導との連続性に学生の注意を促しつつ、ワークシートを活用して中間レポートを提出させ、かつ、レポート評価基準をルーブリックの形で事前に明示することにより、採点の手間を省くとともに「採点に値するレポート」のみが提出されるよう工夫を行った。
8）「奈良産業大学ビジネス学部における留学生の特徴――「第1セメスターにおける導入教育の自己評価に関する調査」に見る――」	単独	平成23年8月	初年次教育学会第4回大会 （於久留米大学御井キャンパス）	平成21年度より奈良産業大学が留学生の本格的受け入れを開始したことを受け、平成19年度の同大学ビジネス学部設置時より実施されている「第1セメスターにおける導入教育の自己評価に関する調査」の結果を用いて、同学部の留学生について、日本人学生と対比させつつ特徴を浮き彫りにしようとした。その結果、留学生は日本人学生と比較して向学心が高く、日本人学生の自己評価が際立って低いのは「わからないことを辞書・事典で調べる」であることなどを明らかにした。
9）台湾林業の現状―台湾南部の現地調査より―	共同	平成24年3月	龍谷大学里山学研究センター2012年度第5回研究会 （於龍谷大学深草学舎）	研究ノート・啓蒙論文等「2012年度台湾林業調査報告」に基づく内容を、カラー写真のスライドを交えつつ報告した。 本人担当部分：全6節中、第2節「台湾林業に関する先行文献」、第3節「國立屏東科技大學森林系へのインタビュー調査」、及び第4節「三地門におけるエコツーリズムの現地調査」 共同発表者：渡辺邦博、山本英司

［注］

1 最近10年間の教育活動、研究活動について作成すること。

2 「教育活動」については、各項目ごとに年月日順に、「学会等および社会活動」については、就任年月日順に記入すること。

3 「研究活動」については、下記の点に留意すること。

① 著書・論文及びその他の順に、発表年月日順に記入すること。

② 著者が複数にわたる場合で、筆頭著者が著書・論文等において明示されている場合には、その氏名に◎印を付すこと。

③ 共著（論文）の場合、「該当頁数」の記入にあたっては、本人の分担箇所を特定できる場合は、その頁数を記載すること。

④ 最近10年間に著書・論文等の発表のなかった者についても、教員名を挙げてその部分を空欄にしておくこと。

⑤ 芸術分野や体育実技等の分野を担当する教員については、著書・論文等以外の競技会、展覧会または演奏会等での発表のうち、特に顕著な業績と認められるものについても記載すること。このほか、専門分野の特性を 考慮し、顕著な業績と認められるものがある場合もこれに含めてもよい。

教　育　研　究　業　績　書

平成26年3月31日

氏名　　西川　弘展

研究分野	研究内容のキーワード
ケインズを基準とした、マクロ経済学に関する経済学史的研究（経済学史・経済理論）	ケインズ、マクロ経済学（含、貨幣理論・貨幣政策）の歴史

教育上の能力に関する事項

事項	年月日	概要
1　教育方法の実践例		
1）配布資料の作成 2）課題作成の作成	平成17年度より適宜	授業では、教科書を用いていないので、標準的なテキスト・ブックを参照しながら、配布資料と学生が受講到達度を実感できるような課題の作成を試みている。
2　作成した教科書，教材		
1）「ベーシック数理Ⅰ」第12章、第13章；「ベーシック数理Ⅱ」第6章、第7章、第8章、第9章（『ベーシック数理Ⅰ・Ⅱ』奈良産業大学ビジネス学部発行、所収）	平成21年4月1日	ビジネス学部共通基礎科目「ベーシック数理Ⅰ」、「ベーシック数理Ⅱ」の教材である。小学の算数・中学の数学での学習内容の計算技術の習得・確認だけでなく実社会での応用という観点から作成した。
3　教育上の能力に関する大学等の評価		
1）平成18年7月より、ほぼ半期に1度のペースで授業評価アンケートを実施（結果および結果へのコメントは学内ウェブページに掲載）	平成18年7月より	学内のFD活動の一環として実施している。学生の学習意欲の喚起と年々の授業内容・授業方法の見直しに役立てている。なお全学的に実施されている授業改善シートも中間点検として利用している。
4　実務の経験を有する者についての特記事項		
1）特記事項なし		
5　その他		
1）特記事項なし		

職務上の実績に関する事項

事項	年月日	概要
1　資格，免許		
1）学士（商学）	平成7年3月21日	同志社大学
2）修士（経済学）	平成10年3月24日	大阪市立大学大学院
2　特許等		
1）特記事項なし		
3　実務の経験を有する者についての特記事項		
1）特記事項なし		

4　その他			
1）特記事項なし			

研究業績等に関する事項				
著書，学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所，発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（著書）				
特記事項なし				
（学術論文）				
1．ケインズ『貨幣論』の銀行貨幣分割の含意：貨幣数量説からの離脱過程の一局面	単	平成26年3月	『社会科学雑誌』奈良産業大学社会科学学会、A5版、165-194頁	代表的基本モデルを取り上げつつも、『貨幣論』に内在しながら『貨幣論』における金融的流通に関連する貨幣量（M3）の把握が貨幣数量説から派生する、頑強な命題、全貨幣数量（M1＋M2＋M3）の変化率＝物価の変化率を頑強に否定することを確認し、これまであまり具体化されてこなかったケインズ理論の貨幣数量説からの離脱過程の様相の一齣を明らかにした。
2．『貨幣改革論』の内生的貨幣供給の着想－E.キャナンとJ.M.ケインズの論争	単	平成24年12月	『奈良産業大学地域公共学総合研究所年報』、A4版、57-68頁	ケインズにおける内生的貨幣供給の着想は『貨幣論』において本格化していることは周知されているが『貨幣改革論』においてもその着想の一端が示され、この論点をめぐりE.キャナンと論争されていることはあまり知られていない。本論では、キャナンをリカード的系譜に、ケインズをソーントン的系譜に位置付ける試みをしながら、『貨幣改革論』における内生的貨幣供給の着想を紹介し、ケインズの経済学を再解釈する際の視点を示した。
（その他）				
（翻訳） 1.Roger Backhouse「なぜケインズが重要なのか、イギリスの政策形成の視点からの検討」（所収書籍の第2部の担当者として）	共	平成26年2月	『ケインズは、《今》、なぜ必要か？：グローバルな視点からの現在的意義』ケインズ学会編集、平井俊顕監修、作品社、2014年2月15日。（第Ⅰ部グローバルな視点から、ケインズの現代的意義を考える、第3章として所収（42－52頁）。	経済理論史の世界的研究者のRoger Backhouseが所収書籍のために書き下ろされた論文の翻訳の担当。世界的に政府赤字の累積と財政規律の引締めの実行が前面に取りざたされる中においても、従来のケインズ的財政拡張政策の有効性が失われていないことを示唆することが当該論文の主要な論点である。
（学会討論者）				
1．セッション：ピグー厚生経済学の再検討（『富と厚生』出版百周年）山本崇史氏（北海道大学）「関税改革論争におけるピグーの外国貿易論：「貿易論への「厚生」概念の本格的な適用に関して」へのコメント	単	平成24年5月26日（於小樽商科大学）	経済学史学会第76回全国大会	山本報告の前提となった論文を参考に、山本報告の意義と位置づけを確認し、いくつかの疑問点を提起した。学会セッション終了後直ちに山本氏により拙疑問への返答をいただいている。
（研究ノート）				
1．ケインズ『貨幣改革論』の基本視角に関する覚書（上）	単	平成21年9月	『産業と経済』第24巻第1・2号、奈良産業大学経済・経営学会、B5版、41-68頁	ケインズ革命を引き起こした『雇用、利子および貨幣の一般理論』については同著の重要性から論点を明確化し先行研究の不備を補う形で組織的・体系的に研究がなされ、研究が蓄積されている。その一方で『貨幣改革論』については世界的に見ても国内的に見ても、それを主題とする研究もわずかであり、組織的・体系的に研究されていない。そこで日本国内の諸研究の特徴を年代順に整理し、その上で独自の解釈を打ち出そうとしている。（平成24年4月6日時点で未完）

２．石橋湛山の言論思想についての覚書ー東洋経済新報社運営の側面からー	単	平成21年12月	『奈良産業大学紀要』第25集、奈良産業大学、A4版、79-106頁	明治創刊の『東京経済雑誌』についてはその先駆的性格、古典的な経済自由主義という原理的性格から研究が積み重ねられてきている。一方で明治期に創刊され現代まで引き継がれている『東洋経済新報』についてはその全貌が明らかでない。また『東洋経済新報』の中興の祖ともいうべき石橋湛山についてもその全集が古くから完結しているにもかかわらず、政治思想的研究に比べ経済学的研究は比較的手薄である。ここでは、『東洋経済新報社　百年史』を手がかりに『石橋湛山 全集』にもあたり、東洋経済新報社の創設からの歴史的流れを追うことで、同社の経営方針にあらわれる石橋湛山の経済思想を、ジャーナリズムの持続性重視の姿勢、特定の理論命題に過度に依拠した原理というよりは柔軟で折衷的なプラグマティズムの姿勢、専門的経済学重視というよりは教養的色彩の強い経済学重視の姿勢などとしてあきらかにした。

［注］

1 最近10年間の教育活動、研究活動について作成すること。

2 「教育活動」については、各項目ごとに年月日順に、「学会等および社会活動」については、就任年月日順に記入すること。

3 「研究活動」については、下記の点に留意すること。

① 著書・論文及びその他の順に、発表年月日順に記入すること。

② 著者が複数にわたる場合で、筆頭著者が著書・論文等において明示されている場合には、その氏名に◎印を付すこと。

③ 共著（論文）の場合、「該当頁数」の記入にあたっては、本人の分担箇所を特定できる場合は、その頁数を記載すること。

④ 最近10年間に著書・論文等の発表のなかった者についても、教員名を挙げてその部分を空欄にしておくこと。

⑤ 芸術分野や体育実技等の分野を担当する教員については、著書・論文等以外の競技会、展覧会または演奏会等での発表のうち、特に顕著な業績と認められるものについても記載すること。このほか、専門分野の特性を 考慮し、顕著な業績と認められるものがある場合もこれに含めてもよい。

教　育　研　究　業　績　書

平成26年3月31日

氏名　　水野 清文

研究分野	研究内容のキーワード
経営学	経営管理、経営戦略、企業文化

教育上の能力に関する事項

事項	年月日	概要
1　教育方法の実践例		
1）小論文指導・面接指導・時事問題に関する問題提起と議論、ビジネスマナー指導。	平成18年度、平成19年度、平成20年度	東邦高等学校の科目「課題研究」にて、個別小論文指導、面接模擬演習、時事問題を取り上げて問題点や対策を生徒とともに議論、ビジネスマナーの指導などを行った。これらはプレゼンテーション能力、思考力、文章力、問題解決能力、社会人に必要となるマナーの習得などを目的としたものである。
2）会社設立の手続きについての指導。	平成18年度、平成19年度、平成20年度、平成21年度	東邦高等学校の科目「総合実践」にて、会社法に基づき、会社設立（個人企業）の手続きについて学習させた。必要な書式については教材用見本を使用し、生徒各自が手続きを行うことができるように工夫をした。また、チェックライタ（電動式・手動式）やナンバリングといった事務用機器も利用した。商法、簿記などと相互関連させることで企業活動を幅広く実践的に学ぶことを目的としたものである。
3）Power Pointやラベルマイティを用いた授業。	平成18年度、平成19年度、平成20年度、平成21年度	東邦高等学校の科目「総合実践」にて、生徒各自が架空の会社を設立。その会社に関する社是・社訓、経営理念や基本方針などを作成し、Power Pointを使用して発表させた。また、ラベルマイティを使って各自の名刺を作成させた。これらはコンピュータ機器の幅広い利用とプレゼンテーション能力を高めることを目的としたものである。
4）北九州観光事業についてのインタビュー調査の実施。	平成22年度、平成23年度	東筑紫短期大学の科目「ゼミナール」にて、地域観光事業について調査・研究を行った。「到津の森公園」（動物園）、「スペースワールド」（遊園地）、「門司港レトロ」などに学生とともに出向き、インタビュー調査を行った。これらは、学生の自主に学ぶ能力育成や問題意識の向上を図ることを目的としたものである。
5）大阪駅ビルについての実態調査の実施。	平成24年度	奈良産業大学の科目「プレ・プロジェクト演習」にて、大阪駅商業ビルについて調査・研究を行った。これらは、学生の自主に学ぶ能力育成や問題意識の向上を図ることを目的としたものである。
6）奈良観光事業についてのインタビュー調査の実施。	平成24年度	奈良産業大学の科目「プレ・プロジェクト演習」にて、奈良駅商店街について調査・研究を行った。これらは、学生の自主に学ぶ能力育成や問題意識の向上を図ることを目的としたものである。
7）奈良観光事業についてのインタビュー調査の実施。	平成24年度	奈良産業大学にて、短期留学生に対する「課題研究」の指導を行った。論文作成にあたり、和服関連企業へのインタビュー調査を行った。（学生と同伴）

２　作成した教科書，教材		
1）愛知東邦大学にて、「資格講座・簿記」のプリントの作成。	平成19年度11月～平成20年2月	日商簿記検定合格に向け、簿記入門レベル～日商３級レベルに至る解説ならびに問題プリント約100枚を作成した。
2）東邦高等学校にて、「簿記」・「会計」のプリントの作成。	平成15年度～平成21年度	簿記の入門レベルから日商簿記検定２級レベルに至る（会計分野を含む）までの解説ならびに問題プリント1,000枚以上を作成した。
3）東筑紫短期大学にて、「経営実務Ⅰ」・「経営実務Ⅱ」のプリントの作成。	平成22年度、平成23年度	簿記会計の基礎を中心にプリント63枚を作成した。
4）東筑紫短期大学にて、「流通論」のプリントの作成。	平成22年度、平成23年度	流通・商業の概念、生産側・消費側の変化や流通の中心をなす小売業・卸売業について、その役割や活動内容、具体例などをまとめたプリント12枚を作成した。
5）東筑紫短期大学にて、「現代企業論」のプリントの作成。	平成22年度、平成23年度	企業の構造、その諸活動、現代企業が抱える諸問題についてまとめたプリント10枚を作成した。
6）東筑紫短期大学にて、「経済学」のプリントの作成。	平成22年度、平成23年度	ミクロ経済学を中心として経済学を幅広い観点から捉えた内容についてまとめたプリント12枚を作成した。
7）東筑紫短期大学にて、「プレゼミナール（企業研究）」・「ゼミナール（企業研究）」のプレゼンテーション資料の作成。	平成22年度、平成23年度	産業別・企業別資料の収集、ならびにプレゼンテーションの模範実演資料を作成した。
8）東筑紫短期大学にて、「ビジネス実務総論」のプリントの作成。	平成22年度、平成23年度	ビジネスの基本、セルフマネジメントやキャリアデザインなどをまとめたプリント14枚を作成した。
9）東筑紫短期大学にて、「ビジネス実務演習」のプリントの作成。	平成22年度、平成23年度	職場常識や秘書検定に関するプリント24枚を作成した。
10）奈良産業大学にて、「現代社会入門」のプリントの作成。	平成24年度	経済グローバル化、高度情報化、地球環境問題、少子高齢化という4つのテーマに焦点をあてて、その現状と問題に関するプリントを作成した。
11）奈良産業大学にて、「現代社会トピックスⅢ」のプリントの作成。	平成24年度	労働の意味、労働環境の変化などに関するプリント9枚を作成した。
12）奈良産業大学にて、「リーダーシップ論」のプリントの作成。	平成24年度	組織の中のリーダーの在り方やリーダーシップ理論に関するプリント31枚を作成した。
13）奈良産業大学にて、「企業論」のプリントの作成。	平成24年度	企業の構造や諸活動などに関するプリント23枚を作成した。
３　教育上の能力に関する大学等の評価		
1）東筑紫短期大学採用決定の際の評価。	平成21年12月	12年間に渡って高等学校教員を勤めたことによって、短期大学入学前となる高校生の資質に対する理解と教育経験（生活指導面を含む）があること、さらには、建学の精神への理解が高く評価された。
2）「平成22年度（前期・後期）　授業評価アンケート」 「平成23年度（前期・後期）　授業評価アンケート」 「平成24年度（前期・後期）　授業評価アンケート」	平成22～24年度	「説明の仕方がわかりやすかった」、「教員に対する熱意を感じた」、「授業がよく準備・計画されていた」などの項目がすべての担当科目で80％程度の評価を得た。

4　実務の経験を有する者についての特記事項		
5　その他		
1）東邦高等学校にて高等学校教育実習生に対する指導。	平成15年度 ～平成21年度	東邦高等学校にて、毎年6月に2週間実施される「教育実習」の実習生に対する指導。
2）東筑紫短期大学にて担任業務。	平成22年度、 平成23年度	美容ファッションビジネス学科・ビジネスコースの担任業務（平成22年度2年生、平成23年度1年生）。生活演習（HR）では東筑紫学園の建学の精神にもとづいて学校行事の意義と内容を説明、社会活動、履修登録・検定試験の管理、出席管理、教科担当学生・掃除当番学生に対する指導・指示などを行った。
3）東筑紫短期大学にて学生委員担当。	平成22年度	入学式、レクリエーション・スポーツ大会（体育大会）、大学祭、卒業式などの学校行事の計画と反省、学生指導（身だしなみ・マナー教育など）を行った。
4）東筑紫短期大学にて就職指導。	平成22年度	担任として、クラス内の学生に対する就職指導を行った。（就職内定率：就職希望者の100％が内定）
5）東筑紫短期大学にて「初年次教育」の主担当。	平成23年度	初年次教育の主担当。学生のコミュニケーション能力、創造力の向上を目的とする内容である。
6）奈良産業大学にて「新入生プレ・レクチャー」の授業担当。	平成24年度	平成25年度入学生に対して、大学の授業体験として演習授業の内容の一部を紹介。大学が自主的に学ぶ教育機関であることを認識させながら、自らが問題を見つけ出し、それを解決していこうとすることの面白さを少しでも理解させることを目的としたものである。

職　務　上　の　実　績　に　関　す　る　事　項

事項	年月日	概　　要
1　資格，免許		
学士号（経営学）取得	平成7年3月	機関名：朝日大学、経第1669号
修士号（経営学）取得	平成9年3月	機関名：愛知学院大学大学院、第61号 論　　題：「経営戦略に関する一考察」
高等学校教諭専修免許状取得	平成9年3月	愛知県教育委員会、平8高専302号、商業
2　特許等		
な　し		
3　実務の経験を有する者についての特記事項		
な　し		
4　その他		
1)東筑紫短期大学にて教務委員担当。	平成23年度	編入に関わる科目の読み換え、休・退学手続き、カリキュラムや履修科目に関わる手続き等の業務を行った。
2)東筑紫短期大学にて新カリキュラムの考案。	平成22年9月～平成24年2月	所属する美容ファッションビジネス学科の平成23年度男女共学化に伴うカリキュラムの追加・変更の考案。

3)奈良産業大学にてFD委員担当。	平成24年度、 平成25年度	
4)奈良産業大学にてビジネス学部教務委員担当。	平成24年度、 平成25年度	
5)奈良産業大学にてオープンキャンパス実行小委員担当。	平成24年度	
6)奈良産業大学にて情報センター運営委員担当。	平成24年度	
7)奈良産業大学にて専門職養成支援委員担当。	平成24年度、 平成25年度	
8)奈良産業大学にて社会科学学会運営委員担当。	平成24年度	

研究業績等に関する事項				
著書，学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所，発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概要
（著書）				
（学術論文）				
1) 「強力な企業文化の形成と管理体制」	単著	平成17年3月発行	「愛知学院大学大学院経営学研究会紀要」第７巻 pp. 81～94	本論文は、強力な企業文化の形成と、それが環境に適応するものであるために必要となる管理体制構築のアプローチに関する研究である。主な内容としては、自社の企業文化を類型化し、それぞれの企業文化を診断する方法を論述している。また、企業経営の適切かつ効果的な遂行を目指すためにも企業文化を活力ある状態に維持していく必要があることから、その管理体制の根幹なるものを明示した。
2) 「総合スーパー業界の拡大化と今後の展望 ―株式会社ダイエーの事例を中心として― 」	単著	平成21年3月発行	「愛知学院大学大学院経営学研究会紀要」第11巻 pp. 9～19	本論文は、総合スーパー大手である株式会社ダイエーの事例を中心として、これまでの拡大戦略・提携戦略の展開と限界ついて論述するとともに、今後の展望について考察した。まずは、ダイエーの戦略的経緯を明示し、その後、他社との戦略の相違点を考察・検討した。また、総合スーパー大手各社に対して行ったインタビュー調査から、PB商品開発と不採算店舗の閉鎖に重点がおかれているという現状を明らかにした。
3) 「総合スーパー業界の企業文化に関する一考察 ―ダイエー、イオン、イトーヨーカ堂の企業文化とその特徴―」（査読論文）	単著	平成22年3月発行	日本産業経済学会機関誌投稿論文「産業経済研究」第10号pp. 123～133	本論文は、総合スーパー業界大手4社（ダイエー、イオン、イトーヨーカ堂）の各社に対して行ったインタビュー調査をもとに、各社の企業文化の構成要素の特徴と企業文化のタイプ、さらには企業が現在置かれている立場との関係づけを考察した。その結果、各社がおかれている経営環境にとって望ましい企業文化の在り方と課題が明らかになった。

4) 「製造企業と小売企業の双方からみるプライベート・ブランド商品戦略の効果と課題　― 食品関連企業に対するアンケート調査結果からみる共通見解と相違点 ― 」	単著	平成22年12月発行	東筑紫短期大学「研究紀要」第41号pp.149～167	本論文は、製造企業側と小売企業側のそれぞれの立場でのPB商品戦略に対する見解を明らかにすることを目的とした研究である。 筆者は2010年8月に食品関連の製造企業と小売企業の合わせて942社に対してPB商品戦略に関するアンケート調査を実施した。この集計結果からPB商品戦略の見解を整理し、検討・考察をすることで双方の見解の共通点と相違点を明らかにすることができた。
5) 「GMSにおける顧客吸引戦略 ―コスト･パフォーマンス追求とその限界― 」	単著	平成23年3月発行	「愛知学院大学大学院経営学研究会紀要」第13巻pp.59～70	本論文は、GMSに着目し、従来の顧客吸引戦略と今後のその在り方について検討・考察することで、GMSの戦略の本質を見出すことをねらいとしたものである。 もはやコスト・パフォーマンス追求は限界に近い。どれだけ消費者の視点で物事を考えられるかが重要である。結論として商品カテゴリーを拡張するというMDではなく、各カテゴリーのスペシャリティ化にもとづいた総合性を追求していかなければならないという見解を示した。
6) 「食品関連企業の戦略的展望 ―プライベート・ブランド商品戦略の課題克服と新たな企業形態の拡がり― 」（査読論文）	単著	平成23年3月発行	日本産業経済学会機関誌投稿論文「産業経済研究」第11号、pp.125～138	本論文は、食品関連企業のPB商品戦略の効果と今後の展望について検討・考察したものである。これは、食品関連企業が将来進むべき方向性を定める手掛かりを得ることを目的としたものである。 今後は低価格PB商品だけでなく、地域限定的なPB商品の開発や特色ある企業との連携によって商品の差別化を図るなどといったことも求められる。また、SPAや製販同盟のような企業形態が数多く見受けられるようになるという見解を示した。
7) 「グループ化戦略による企業競争力強化の実現と限界―スーパーマーケット業界のケースを中心に― 」	単著	平成23年12月発行	東筑紫短期大学「研究紀要」第42号pp.61～69	本論文は、スーパーマーケット業界のグループ化戦略について、その目的と成果・限界について検討・考察したものである。これにより、グループ化戦略の在り方やこれまでの成果、ならびにスーパーマーケットの今後の方向性を決定する手掛かりを得ることを研究の目的としたものである。 研究の結果、グループ化戦略の効果が明確になった。 また、グループ化戦略の限界と、高付加価値商品の開発・販売の必要性についての見解を述べた。
8)「グループ内企業の企業文化の融合と経営成果との関連性 」	単著	平成24年3月発行	「愛知学院大学大学院経営学研究会紀要」第14巻pp.11～22	本論文は、グループ化戦略の効果と企業文化の融合に関する研究である。それはグループ化における企業文化の在り方を究明する手掛かりを得ることを目的としている。　結果、グループ化の際、その中心的企業の存在がグループ内の整合性を乱すきっかけになることがわかった。そのため、グループ化に至る際、企業文化の変革について関係するすべて人物からの賛同を得たうえで、その分析と変革を迅速に進める必要があることを述べた。
9)「企業における経営理念の役割と経営理念の形骸化 」	単著	平成24年3月発行	「愛知学院大学大学院経営学研究会紀要」第14巻pp.23～33	本論文は、組織の生成から発展の過程おける経営理念の役割と在り方を理論的に検討・考察することで、その存在意義と重要性を明らかにすることを目的としている。その結果、経営理念は企業文化の構成要素として唯一明文化され、意図して浸透させることが可能であることが明らかになった。また、戦略的意思決定の根幹に位置することを図示した。経営理念は日常活動では数値化されないが、企業業績と深く結び付いていると結論付けた。

10)「食品関連企業におけるPB商品導入とランチェスター戦略への効果」（査読付）	単著	平成24年3月発行	日本産業経済学会機関誌投稿論文「産業経済研究」第11号pp.90～102	本論文は、ランチェスター戦略の考え方にもとづき、PB商品の差別化としての効果を検討・考察することで、新たな生き残りの指針を見出す手掛かりを得ることを目的としている。その結果、PB商品が差別化をもたらす理由が明らかになった。顧客満足は他社との比較によって決まることが多い。そのため弱者は、強者が参入しにくい隙間を見つけ出し、独自性あるPB商品の開発・提供に向けて、経営資源を投入すれば勝算があると結論づけた。
11)「PB商品の需要拡大が製造企業に与える影響―食品製造企業からみたPB商品の戦略的効果とNB商品の需要回復に向けた取り組み―」	単著	平成24年12月発行	奈良産業大学「奈良産業大学紀要」第28集pp.113～125	本論文は、研究対象を食品業界の製造企業に絞り、PB商品の需要の現状を掴むとともにNB商品の需要回復に向けた取り組みの実態と経営努力について検討・考察したものである。そして、製造企業の今後のPB生産の効率化に向けての手掛かりなるものを得ることを目的としている。この考察の結果、近年のPB商品の傾向として、価格追求型に留まらず、多様化する消費者の嗜好に合わせて様々な商品が開発・生産・販売すべきであると述べた。また、製造企業は、PB商品のメリットとデメリットについて自社だけでなく小売企業や消費者の立場も考慮に入れながら、SCM、LMSなどといったシステムを構築・実行していけば、十分に業績回復に向けた活路は見出せると述べた。
12)「食品関連企業の製販連携による競争優位確立と全体最適」	単著	平成25年2月発行	「社会科学雑誌」第7巻、pp.311～325	本論文は、製造企業と小売企業での提携に焦点を当てて、その効果と課題について整理・検討・考察したものである。その目的は、食品関連企業を研究対象としたものであり、流通過程上の各企業がより良い関係を構築するための手掛かりを得ることである。 検討・考察の結果、製販連携はグループ化が困難な中小企業にとっても競争力の強化になるし、差別化を図るという意味でも非常に効果的な戦略であることがわかった。ただし、グループ化ではみられない製造企業と小売企業という異なる立場ゆえの見解の相違や、当該企業の企業文化の相違などが課題となる。こうした障壁を乗り越えるためにも、組織間コミュニケーションによって双方のメリットを十分に理解しながら、互いに必要な知識、技術などを提供・共有していくべきであると結論付けた。
13)「食品関連企業にみる商品差別化戦略―低価格PBの限界と今後の商品展開―」	単著	平成25年3月発行	「愛知学院大学大学院経営学研究会紀要」第15巻pp.1～12	本論文では研究対象を私たちの生活に最も関連する食品企業に限定し、効果的な商品差別化戦略がどうあるべきかについて明らかにすることを目的として検討・考察した。 そして、価格戦略ではなく商品差別化戦略として効果が期待できる商品についてプレミアムPBとは別の例を挙げながら4タイプを紹介した。また、インタビュー調査をもとにそれらの商品と企業規模との関係を整理した。その結果、規模が小さくなるほど地域範囲を限定し、仲介業者を介さない形で強固な製販関係を構築することが効果的であることがわかった。
14)「株式会社ダイエーの事業再建計画とその実行―再建活動にみる企業文化の変革―」	単著	平成25年3月発行	「愛知学院大学大学院経営学研究会紀要」第15巻pp.13～27	本論文は、2004年には産業再生法の適用、および産業再生機構から支援を受けた株式会社ダイエーの事業再建に向けた経営計画とその活動内容について検討・考察したものである。また、創業者の強力なリーダーシップに代表される企業文化の変化についても検討・考察した。その目的は再建計画とその活動の要点究明の手掛かりを掴むことである。 その結果、創業者の信念に基づいた企業理念を時代に適合するもの へ変えたものの、実際は企業理念が企業内部に浸透しているとは言い難いことがわかった。企業理念は組織に浸透したとき、組織の求心力ともなり、時代に適合したものかどうかも気付くし、結果として、消費者のみならず社会貢献に寄与する企業として認められ、業績にも反映されると結論付けた。

15）「株式会社ダイエーの再建に向けたグループ化と異文化融合」	単著	平成25年12月発行	奈良産業大学「奈良産業大学紀要」第30集pp.89～97	本論文は、大手スーパーマーケットはグループ化に着目し、そのグループメリットによる競争力の強化の在り方に関する研究を論述したものである。まずは、グループ化戦略の浸透とその効果を整理し、そのうえで、当該企業の企業文化融合の問題について論述した。その目的は、グループ化戦略の効果と問題を明らかにするとともに当該企業間が異なる企業文化をいかにして融合させていくかを究明する手掛かりを得ることである。なお、本論文では株式会社ダイエーを中心に例にあげながら論じた。その結果、業績の回復に向けた結合に限らず、企業が提携・結合する場合、主体となる企業の企業文化を浸透させるにせよ、新たな企業文化の構築を目指すにせよ、中核企業のリーダーが強力なリーダーシップを執ってその礎を築きあげることが重要となると結論付けた。
16）「食品関連企業にみる製販連携の拡がり」	単著	平成26年3月発行	「愛知学院大学大学院経営学研究会紀要」第16巻pp.13～21	本論文は、食品関連企業の製販連携の在り方と将来性について検討・考察したものである。その目的は、製販関係の強化と商品差別化を実現するための手掛かりを得ることである。本論文では食品小売企業の中心的戦略が拡大化からグループ化への移行したことや製販連携の効果について整理した。製販連携をより効果的にするためには仲介業者を介さない形をとることで小売企業が主体となって商品開発に取り組むことや製販双方の企業規模の問題をクリアすること、販売地域を限定することなどに留意することが重要となる。製販連携は、商品差別化と製販関係の強化につながる効果的な戦略であり、こうした課題を乗り越えればますます広がりをみせていくと結論付けた。
17）「セブン＆アイHLDGS.にみる価値訴求商品の追求」	単著	平成26年3月発行	「愛知学院大学大学院経営学研究会紀要」第16巻pp.23～29	本研究は、セブン＆アイHLDGS.の経営者意識とそれに基づく企業活動に着目し、商品開発について考察した。その目的は消費者意識の変化を読み取ることの重要性を明らかにしたうえで、今日の商品開発の在り方についての手掛かりを得ることである。セブン＆アイは低価格PBに関しては一部商品についてSPAにより景気の波の影響をさほど受けない形態をとっている。こうした景気対策はもちろん必要であるが、価格の追求と同時に価値を追求することは重要であることがわかった。価値訴求商品の開発と普及させるにあたり、売り手側はビジョンの明確化とそれに伴う迅速な経営活動が求められると結論付けた。
（その他）				
■研究ノート				
1）「地域密着企業の経営努力 ―奈良県のマスコットキャラクターを用いた商品戦略―」	単著	平成26年3月発行	愛知学泉大学「地域社会デザイン研究」第2集pp.39～43	本研究では地域限定商品による商品差別化戦略をについて事例を取り上げながら考察をした。その狙いは、取引の地域範囲が比較的狭い中小企業の活路を見出す手掛かりを得ることにある。本研究では、考えられる様々な戦略の中から、地域のマスコットキャラクターを用いた地域限定の商品戦略についてみてきた。この戦略は取引範囲を限定するという局地戦の展開である。実際、マスコットキャラクターを利用した商品差別化戦略を行っているのは中小企業が多い。それは、資金力がさほどない中小企業が競争を生き抜く術と判断できるものであった。

■学会発表				
1)「食品関連企業におけるPB商品戦略の効果と消費者満足－製造企業・小売企業・消費者の視点からー」	単独発表	平成23年5月14日発表	日本産業経済学会第58回研究部会（長崎県立大学）	本研究は、生活に最も関連する食品関連企業に焦点を当てて、業績回復に効果が期待できるPB商品戦略について製造企業・小売企業・消費者の立場から検討・考察したものである。これは、それぞれの観点からPB商品の在り方を明確にすることを目的としている。研究の結果、PB商品の分類と定義、急速な普及の原因ならびに結果、さらにはその戦略的効果・課題を明らかになった。また、PB商品に関わる消費者心理について言及した。
2)「食品関連企業にみる商品差別化戦略ー地域特性を活かしたPB商品と製販連携ー」	単独発表	平成24年11月24日発表	日本マネジメント学会第46回研究部会（中京大学）	本研究は、食品関連企業に焦点を当てて、地域特性を活かしたPB商品の例を挙げながら、その特性について検討・考察した。その結果、差別化戦略としての期待度は非常に大きいものの、地域範囲選定の難しさや製販関係の問題などが浮き彫りとなった。
3)「食品業界にみる製販間の企業連携の現状と在り方」	単独発表	平成25年5月11日発表	日本企業経営学会第43回研究部会（大阪商業大学）	本研究は、食品関連業界の展望として製販連携による戦略的効果と課題を究明することを目的としたものである。その結果、製販連携をする商品タイプを①NB商品の地域限定版、②地域のキャラクター関連商品、③地域特性を取り入れた商品（PB商品）、の3つのタイプを例に挙げて、それらについてインタビュー調査の結果を踏まえながら、それぞれの特性を明らかにすることができた。
4)「食品関連企業にみる商品差別化戦略－地域特性を活かしたPB商品と製販連携－」	単独発表	平成25年6月9日発表	日本マネジメント学会第67回全国大会（和光大学） ※平成24年11月の学会発表の内容から中部部会の推薦を受けての発表。	本研究は、食品関連企業に焦点を当てて、地域特性を活かした商品特性について検討・考察したものである。 近年の小売企業には地域特性を活かした商品開発を行い製販連携により差別化を図る企業も見受けられるようになった。このような商品について、企業へのインタビュー調査を踏まえながら、その商品タイプを①地域特性を取り入れた商品（ＮＢ商品）、②地域のキャラクターを取り入れた商品（ＮＢ商品）、③地域特性を取り入れた商品（ＰＢ商品）、④オリジナル・キャラクターに関連する商品（ＰＢ商品）に分類し、その特徴を整理し、戦略的効果について検討した。その結果、③や④のような商品であれば、小規模企業であっても局地戦の強みを発揮しながら製販連携を執ることで十分成果が期待できることがわかった。
5)「オリジナル・キャラクターを用いた地域限定商品による戦略的効果」	単独発表	平成25年12月21日発表	日本商業学会12月研究部会（名古屋外国語大学）	近年急速に普及したPB商品だが、その狙いは低価格に限らず、独自性や製販関係の強化などもあげられる。本研究では地域特性を活かした商品としてオリジナル・キャラクターを用いた商品に着目し、その戦略的効果を探ることで特定地域での競争力強化や製販間の強固な関係の構築に向けた手がかりを得ることを目的とした。その結果、仲介業者を介さない形で強固な製販関係を構築することができれば効果的な戦略であることがわかった。同時に、いかにして販売地域を限定するか、いかにして価格を抑えるか、などといった課題も浮き彫りになった。

6)「食品小売企業のグループ化とその効果－商品差別化による競争力強化の可能性－」	単独発表	平成26年2月15日発表	日本企業経営学会第7回国際学術研究会（日本、韓国、台湾による国際大会。第7回開催国：日本、大阪商業大学）	本研究は、わが国の食品小売企業のグループ化の結果、共同仕入・共同広告・共同開発などシナジー効果がどの程度結果につながったのかを検討・考察したものである。その目的は、これからのグループ化への期待度をはかる上での手掛かりを得ることである。研究の結果、グループ化は商品の開発・販売に関してはPB商品導入や拡大において大いに実現可能性を高める戦略であることがわかった。しかし、その半面でこれまでの独自商品や独自技術の提供への抵抗がある。また、企業文化の相違やその変革など対する抵抗があるため、その浸透に時間を要するなどといった問題が浮き彫りになった。
■司会・コメンテーター				
1)発表者：日野隆生先生（大阪国際大学）テーマ：「マーケティング・コンセプトとイノベーション」		平成23年7月9日ｺﾒﾝﾄ	日本産業経済学会第8回全国大会（東海学園大学）	日野隆生先生の紹介、発表内容について総評と質問、進行。
2)発表者：宮下雄治先生（城西国際大学）テーマ：「PBの製品評価に関する実証研究」		平成24年9月15日ｺﾒﾝﾄ	日本産業経済学会第9回全国大会（立教大学）	宮下雄治先生の紹介、発表内容について総評と質問、進行。

［注］

1 最近10年間の教育活動、研究活動について作成すること。

2 「教育活動」については、各項目ごとに年月日順に、「学会等および社会活動」については、就任年月日順に記入すること。

3 「研究活動」については、下記の点に留意すること。

① 著書・論文及びその他の順に、発表年月日順に記入すること。

② 著者が複数にわたる場合で、筆頭著者が著書・論文等において明示されている場合には、その氏名に◎印を付すこと。

③ 共著（論文）の場合、「該当頁数」の記入にあたっては、本人の分担箇所を特定できる場合は、その頁数を記載すること。

④ 最近10年間に著書・論文等の発表のなかった者についても、教員名を挙げてその部分を空欄にしておくこと。

⑤ 芸術分野や体育実技等の分野を担当する教員については、著書・論文等以外の競技会、展覧会または演奏会等での発表のうち、特に顕著な業績と認められるものについても記載すること。このほか、専門分野の特性を 考慮し、顕著な業績と認められるものがある場合もこれに含めてもよい。

教　育　研　究　業　績　書

平成26年3月31日

氏名　　岡田（森元）伸枝

研究分野	研究内容のキーワード
経営組織論　経営戦略論	人材育成　事業システム　地域産業

教育上の能力に関する事項

事項	年月日	概要
1　教育方法の実践例		
1）キャリアに関心をもたせるために映像資料や事例の活用	平成22年４月～平成24年３月	大手前大学現代社会学部キャリア･マネジメント学科「はたらくことを考える」を担当した際、１回生という早い段階で職業観や自身のキャリアに関心を持たせるために、様々な働き方や生き方を実際の映像資料や事例を用いることでリアルに感じてもらう。毎回学生自らの意見をレポート提出させることで、学生一人一人の考える力ならびに表現する力を伸ばす教育方法を実践した。
2）授業後のミニレポートの活用	平成22年４月～現在に至る	京都女子大学現代社会学部「組織マネジメント論」を担当の際、組織内部で働く個人と組織の運営や事業の仕組みに関して学生の興味を高め、深い考察を導くために、企業経営の事例を取り上げ、映像資料やケース教材を用いながら、毎回ミニレポートを課すことで知識の定着を確認するといった教育方法を実践している。ミニレポートでの内容は、翌週、授業の最初に復習を兼ねてフィードバックすることで、当日の授業の流れを理解させることができている。
3）映画のストーリーにおける仮想体験の実践	平成24年４月～現在に至る	大手前大学現代社会学部「経営組織論」担当において、組織論は外からその構造や機能を観察する学問であるが、そこに自分自身の視点を持つことで組織の論理と個人の論理という両者の間に生まれるジレンマを知る。そうしたジレンマ（意思決定やコンフリクトを含めたもの）をどのように乗り越え、解決していくかといのを理論だけでなく、例えば「12人の優しい日本人」などの映像を用いながら、自分ならどの登場人物に似ており、どういう解決をしていたかなどをレポートにさせ、テクニックやノウハウを理解させると同時に独創的な解決策を導くという教育方法を実践している。
4）知識の理解を深めるグループ討論	平成24年４月～現在に至る	姫路獨協大学経済情報学部「組織管理論」「ビジネスマネジメント論」を担当する。企業の存続・成長のためには、どのようにヒトやモノをマネジメントすれば効率的・効果的成果を得られるかを経営者や事業責任者ならびに組織内で働く個人の視点から考察できるよう、企業経営の事例を取り上げたり、映像資料やケース教材を用いる。そして、習得した知識を利用しながら経営者側の立ち場、働く人の立場でグループ討論することで理解を深めるという教育方法を実践している。
5）モチベーションを高めるためのミニレポートの個別フィードバック	平成24年４月～平成24年７月	奈良産業大学ビジネス学部の専門科目「経営組織論」ならびに「組織管理論」において、授業における知識定着のためにミニレポートを課し、学生の理解度や問題意識などを指摘し、個別にチェックし、翌週各自にフィードバックを行った。このフィードバックにより、授業への取組にモチベーションを高めた学生もおり、学力にも流効果を持つ可能性が示唆される。
6）作成した講義用補助教材の活用	平成24年4月～現在に至る	奈良産業大学ビジネス学部の専門科目「経営組織論」ならびに「組織管理論」「組織戦略論」において、毎回、講義用補助教材を配布している。板書のノート取りに集中するのではなく、講義の要点を理解できるよう配慮したものである。授業に積極的に参加でき、知識の定着がなされるよう、空欄をつくり各自が記入するような形にした。

2　作成した教科書，教材		
1）「洋菓子の経営学」（再掲）	平成22年４月～現在に至る	京都女子大学現代社会学部「組織マネジメント論」においてテキストして用いる、組織内部で働く職人が長期にわたりどのように技能伝承を行うのか、その仕組みを個人のキャリパスの事例として、また、地域産業が長期にわたり発展する鍵となる事業システム論の理解のためにテキストとして用いている。確認のために、課題レポートを課すが、内容理解ならびに知識定着が見受けられる。
2）講義用パワーポイント	平成24年4月～現在に至る	奈良産業大学ビジネス学部の専門科目「経営組織論」ならびに「組織管理論」「組織戦略論」において、講義用としてパワーポイントを作成した。授業に積極的に参加でき、知識の定着がなされるよう、ケースの図表やデータを取り入れた。また、記入すべき言葉は赤、線を引いて覚えてもらうものを青にするなどし、作成した補助教材に対応できるようにした。
3　教育上の能力に関する大学等の評価		
1）大手前大学における学生の評価	平成22年４月～平成23年３月	担当講義課目の学生アンケートにおける「評価アンケート」では、すべての項目において全体平均を上回っており、特に全体として講義に満足できたという平均が高く、学生たちが積極的に授業に臨み、学習していることを確認した。
2）京都女子大学における学生の評価	平成22年４月～現在に至る	担当講義課目の学生アンケートで、講義について、すべての項目において平均以上の評価を受けた。約9割の学生から教員のこの講義に対する熱意を感じたという回答を得ることができた。また、授業をきっかけにこの分野に興味や関心を持った学生の数値が多かったので、授業でPCやプレゼン資料や映像教材を用いたことが学生の理解や関心を高めたと考えられる。今後の儒y号計画の一つの指針となった。
4　実務の経験を有する者についての特記事項		
1）若手経営者のためのMBA講座での講演	平成20年１月	神戸市商工会議所主催（於神戸ポートピアホテル）の若手経営者のためのMBA講座にて、「神戸の地場産業における人材育成と事業システムについて－神戸洋菓子業界の事例－」を講演。地域産業を活性化するためには、地域に根付いてる文化を知り、その文化を継承しさらににつくりあげている人々の中にヒントが隠されているの地域政策はそれに配慮すること、ならびに、地域産業に関わる複数の事業者の連携の必要性について講演した。
2）JMAマネジメント・インスティチュート　組織･人材マネジメントコースでの講演	平成21年12月	JMAマネジメント・インスティチュート　組織･人材マネジメントコース（於神戸ポートピアホテル）にて、「神戸洋菓子産業にみられる人材育成－モチベーションを高める仕組み－」について以下のような講義を行った。競争の激しい地域産業において、業界で生き残るためには、モチベーションを高めておく必要がある。高品質の維持と時代に即したイノベーションを行うことで、モチベーションを高めているが、そうした「わざ」を身につけさせるためにどのような人材育成を行っているか神戸の洋菓子職人たちの事例を用いて行った。
3）神戸生産技術研究会での講演	平成22年１月	神戸生産技術研究会（於神戸市産業振興センター）にて、「地域と産業－神戸洋菓子産業の事例より」を講演した。日本の事業システムについて、神戸の洋菓子産業の事例をもとに、事業システムが取引制度・人材育成制度・評価制度など、複数の事業間の連携によって支えられているが、特に、その顧客情報が継続的に蓄積されることが、地域産業の継続的な発展につながることを言及した。
4）神戸商業を考える会での講演	平成22年６月	神戸商業を考える会（於神戸市産業振興センター）にて、「地場産業成長における戦略－神戸の洋菓子産業から何を学ぶか－」を講演した。　ブランドによる地域活性化の仕組みを、全国に「神戸スウィーツ」として知名度を維持している神戸の洋菓子産業を事例とし考察した。優れた職人の再生産するための人材育成と評価、増殖する職人たちが過度の競争しながらも過度の競争相手にならないような仕組みといった制度的基盤が環境変化に適応するダイナミズムを有していることを言及した。

５）神戸外国人居留地研究会での講演	平成22年12月	神戸外国人居留地研究会（於神戸学院大学）にて、「神戸の洋菓子－その歴史と経営学－」を講演した。神戸という地理的側面ならびに歴史的側面から、神戸の洋菓子産業の事例を用いることで、産業が発展する要因には、人材育成が深く関わっていることを明らかにした。
６）公益財団法人ひょうご震災記念21世紀研究機構での講演	平成23年３月	公益財団法人ひょうご震災記念21世紀研究機構学術交流センター主催（於御影高杉）にて、「神戸の地域産業の復興と発展－神戸洋菓子業界の事例－」を講演した。神戸洋菓子産業が阪神淡路大震災から復興した背景には、人材育成と地域産業における複数事業者の連携といった事業システムの綿密な関係があることを言及し、地域政策がこれに配慮することの重要性について言及した。
７）神戸凌霜御餐会での講演	平成23年12月	神戸凌霜御餐会（於楠公会館）にて、「神戸スウィーツに学ぶ地場産業活性化の秘訣」について講演を行った。地場産業活性化の秘訣を神戸の洋菓子産業ケースを用い、職人再生産の人材育成ならびに不文律の存在、不文律を守らせる取引ネットワークの重要性について言及した。
８）アシニアン２１での講演	平成24年７月	中高年の生きがい創造を目指す芦屋市の社会教育関係団体「アシニアン21」にて地元になじみのある洋菓子について講演を行う。神戸の歴史について周知なので、職人の育成と阪神間の富裕層による文化が今日の洋菓子を生み出している話を中心に行った。
９）そごう神戸店での講演	平成24年８月	神戸スイーツ学会とそごう神戸店がコラボレーションするイベント「神戸スイーツサマーフェスタ」にてサマースクールというものを企画し、「神戸スイーツ入門」講義を行う。なぜ神戸にこれほどまでの洋菓子文化が根付いたのか、歴史や文化を含め長期にわたる職人育成や職人たちの関係性などについて話を行った。企業の人から夏休みの宿題のための小学生も来ていたので、お菓子の薀蓄を交え、幅広い話題提供も行った。
10）不二製油（株）役員研修会にて講演	平成25年１月	不二製油の役員研修会にて講演を行う。不二製油は洋菓子業界における供給業者であり、神戸の洋菓子企業であるため、街の小さな洋菓子店舗における職人のネットワークやネットワークを利用した供給業者との関係を中心に言及することで、今後の供給業者の在り方、大手企業としての在り方を示唆する。
５　その他		
１）（ラジオ番組出演）ラジオ関西「三上公也の情報アサイチ！」	平成21年２月	ラジオ関西「三上公也の情報アサイチ！」に出演し、神戸は観光都市として集客するが、近年、洋菓子がその中心的役割を担っている。洋菓子の原材料業者だけで無く、スイーツタクシーやサロン風の喫茶店など他の業種にも影響を与えることで地域産業の活性化を行っていることを言及した。
２）桃山学院大学経営学部「経営管理論」のゲスト講師	平成21年６月	神戸の洋菓子業界の事例を用いて、職人というプロフェッショナルな人々のキャリア形成における、評価や能力形成の過程について講義した。
３）（テレビ番組出演）　朝日放送「NEWSゆう＋」	平成21年６月	活気ある地場産業のひとつである神戸の洋菓子産業の仕組みを紹介し、産業としての競争優位性について、人材育成やマーケティング視点から、特に、業界にかかわる「人」のつながり（人脈）焦点を当て、わかりやすく解明した。
４）広島大学経営情報学科「経営戦略」のゲスト講師	平成21年７月	地域における産業集積の経営戦略について、神戸の洋菓子産業を事例を用いて考察した。中小企業がある地域に集積することで、個人の利益追求をしながらもしすぎることのないほうが過度の競争にならず生き残りやすい。そのためには、多数の関連事業者と連携しながら、業界に存在する不文律や規範が重要な役割を果たしていることを講義した。
５）久留米大学　宮本琢也学部ゼミのゲスト講師	平成21年９月	中小企業におけるネットワーク戦略について神戸の洋菓子産業の事例を用い、オーナーパティシエならびに複数の関連事業者、顧客という人の関わりから不文律を遵守するしくみを考察した。

6）京都女子大学現代社会学部「組織論」のゲスト講師	平成21年11月	ものづくりのプロフェッショナルでありながら、事業主でもある神戸の洋菓子職人の事例を用い、企業や店舗を組織として彼らの修行中におけるモチベーションを高め方、ならびに組織としてどのようなるためにはどのような人材育成がおこなわれているのか講義した。
7）京都女子大学現代社会学部「マーケティング論」のゲスト講師	平成21年12月	全国に「神戸スウィーツ」として知名度を維持している神戸の洋菓子産業を事例を用い、消費者視点のマーケティングや商品開発、サービス評価、人材育成について考察した。。特に、顧客は何を求めているのか、求められたものに対してどのように応えるのかを中心に講義を行った。
8）広島大学社会人大学院「イノベーション・マネジメント」のゲスト講師	平成22年７月	地域における産業集積の経営戦略について、神戸の洋菓子産業を事例を用いて考察した。中小企業がある地域に集積することで、個人の利益追求をしながらもしすぎることのないほうが過度の競争にならず生き残りやすい。そのためには、多数の関連事業者と連携しながら、業界に存在する不文律や規範が重要な役割を果たしていることを講義した。
9）大手前大学現代社会学部「働くことを考える」のゲスト講師	平成24年５月	キャリアについて学び始めたばかりの大学１回生が対象なので、経営者の視点からどのように人材育成がなされているのか、組織の中で働く人はどういう意識を持っているか、組織の外との関わりはどういうものなのかを神戸の洋菓子産業を事例に講義を行った。

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
1　資格，免許		
1）中学校教諭一級　高等学校教諭二級	昭和63年４月	中学校教諭一級普通免許（外国語　英語）昭六二中一普第二三五号（兵庫県教育委員会） 高等学校教諭二級普通免許（外国語　英語）昭六二高二普第二二八号（兵庫県教育委員会）
2　特許等		
1）なし	昭和00年0月	
3　実務の経験を有する者についての特記事項		
1）なし	昭和00年0月	
4　その他		
1）甲南大学における加護野研究会にて発表	昭和24年６月	加護野研究会（甲南大学特別客員教授加護野忠男教授の門下生が全国に約50名が大学教員となっており、関西在住の大学教員の研究会として月1回開催している研究会）において、「神戸洋菓子業界における戦略と変遷」について発表。神戸の洋菓子業界は規模で分けると「街の洋菓子店」と「全国ブランドとしての洋菓子企業」があるが、この２つの規模の違いが存在することを発表した。
2）大手前大学にて「地域産業のビジネスシステム　～『連携』をキーワードにして」の研究会で発表	昭和24年９月	「地域基幹産業における人材育成と事業システムに関する研究」 （科研費助成研究：代表；西尾久美子先生）の一環としての研究会にて「徒弟的パティシエ・ネットワークによるビジネスシステムと人材育成」について発表。神戸の洋菓子業界に２つのグループ企業群の存在を明らかにし、それぞれの人材育成の違いから地域産業発展の貢献を示唆した。

研究業績等に関する事項				
著書，学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所，発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（著書）				
洋菓子の経営学	単	平成21年２月	プレジデント社	神戸の洋菓子産業が地場産業として定着してきた要因を神戸洋菓子職人や関連業者へのインタビュー調査を中心に明らかにした。地域産業において技術の後継者や産業の新しい担い手として育成された職人の独立を認めつつ、事業者間の過度の競争を制御し、地域産業の裾野を広げることにつながる不文律が地域で共有される文化として醸成されていることを論じた
（学術論文）				
人材育成と競争の制御－京都花街の神戸スウィーツの事例－	共	平成20年４月	国民経済雑誌　第197巻第4号（pp.85-102）（神戸大学経済経営学会）	長期に継続し活力を有している京都花街と神戸洋菓子を比較研究し、将来の独立を視野に入れた人材育成には、高い品質を保つ育成を行うと同時に、業界に明文化されていない重要なルールが顧客ならびに業界に関わる事業者間によって育成される重要性を論じた。（共著者　西尾久美子）
神戸洋菓子産業の創造性を発揮する人材育成の仕組み	単	平成21年９月	日本政策金融公庫調査月報　No.12（pp.34-39）（日本政策金融公庫）	今日神戸は「神戸スウィーツ」というブランドイメージによって観光スポットして全国に知られるようになったが、その要因は、高品質の維持と独創性による商品のイノベーションによる。そうした商品づくりを可能にしているのは、職人が独立を前提とした職人を育成する仕組みに、職人同士競争しながらも過度な競争にならないよう制御する仕組みが存在していることを考察した。
神戸洋菓子産業の事業システム－人材育成を中心として	共	平成21年11月	神戸大学大学院経営学研究所　Discussion Paper 2009 no.44	地場産業が発達するためには、高い品質を維持しながらも、時代の変化に合わせて商品のイノベーションを行わなければならない。同時に高品質をつくることができる職人を再生産する必要があるが、そうした職人再生産には、職人だけでなく、食材業者をはじめ周辺企業が大きな役割を果たしていることを考察した。(共著者　加護野忠男)
地域産業を活性化させる人材育成－神戸洋菓子産業の事例より	単	平成22年４月	中小商工業研究　第103号（pp.35-40）（中小商工業研究所）	地域産業を発展させるための競争力を継続するには、人材育成と事業システムに緊密な関係があり、その競争力を適度なものに保つためには、職人だけでなく地域での協力が重要であることを神戸の洋菓子産業の事例を用いれ明らかにした。
技術伝承のための人材育成－神戸洋菓子業界の人材育成システムの事例	単	平成22年12月	京都女子大学現代社会研究　Vol.13（pp.109-124	長期にわたる技能伝承の仕組みは、技能を継承できると見極めた人材にのみ伝承し、そうした人材を継続的に輩出するためには、地域産業における複数の事業者の連携が必要であることを神戸の洋菓子業界の事例を用いて論じた。
地域産業におけるイノベーションのダイナミクス－神戸洋菓子産業の事例より	単	平成24年11月	奈良産業大学社会科学雑誌　第5巻	地域経済を活性化するためには、地域産業がもつ専門性や多様性に深くかかわる。神戸の洋菓子産業の事例を用い、地域の人々がどのようにしてその地域の特性・資源を活かし、高い付加価値を提供してきたのか、また、地域産業の裾野を広げてきたのかを明らかにした。
（その他）				
（科学研究費） 科研科研基盤研究（C)課題番号25380493「洋菓子産業における戦略と進化についての研究」（480万）	代表	平成23～25年		神戸の洋菓子企業の事例を通じて、地域産業における長期継続的成長を構築させる協働のビジネス・システムについて明らかにすることを目的とする。 神戸の洋菓子業界には、全国ブランド化した企業群と地域に密着した企業群であるが、そうした差異が生じる要因について、理論研究およびフィールドワークを通じながら追究していく。

（調査報告書） １）神戸のケーキはなぜおいしい－小さな贅沢･･･洋菓子産業はどのように発展したか	単	平成19年12月	CREO（神戸製鋼ヒューマン･クリエイト） Vol.1	神戸の洋菓子はなぜおいしいのかという理由を、阪神間に住む評価の厳しい顧客、職人の周辺に在住することで彼らを支える食材業者、優秀な職人という３つの要素を分析した。また、職人育成リスクを回避する不文律の存在を明らかにした。
２）神戸の洋菓子が「おいしい」しくみ	単	平成21年11月	凌霜 Vol.383（神戸大学凌霜会）	神戸の洋菓子が「おいしい」理由は、独創性を発揮する職人を育成するしくみ、書かれざるルールの存在と顧客や食材業者による監視により、神戸の洋菓子産業は裾野を広げ、ブランドイメージの向上につながっていることを考察した。
（学会発表） １）競争を抑制する人材育成の仕組み	単	平成20年５月	ナレッジ･マネジメント学会組織認識論関西部会 於神戸大学	神戸の洋菓子産業が発展してきた要因のひとつには、職人たちが自分の育成し、独立された職人と競争相手にならないように育成し、優れた職人の再生産がおこなわれていることを発表した。
２）神戸洋菓子産業の人材育成と事業システム	共	平成20年６月	組織学会2008年度研究発表会 於神戸大学	神戸洋菓子産業名なぜ発展したのか、なぜ神戸スウィーツというブランド力を持つようになったのか、阪神淡路大震災という未曾有の被害を受けたにもかかわらず、どのようにして短期で復活することができたのかという問題意識を事業システムと人材育成の観点から発表した。 （共著者：小野善生 西尾久美子）
３）洋菓子産業における 戦略と進化についての研究	単	平成25年5月	奈良産業大学経済経営学会	神戸の洋菓子業界を見ると、創業期は家業的に始まっている。ある時期まで（1970年代）は、洋菓子店舗は全国展開（百貨店出店によるブランド化）をめざしていたが、ある時期から（1980年代）は、地域密着化した戦略をとっている。この戦略の境界線の原因が労働契約の問題が挙げらえることについて発表した。
４）神戸の洋菓子産業における顧客の変遷	単	平成25年11月	日本マーケティング学会ポスターセッション 於早稲田大学	神戸洋菓子産業が発達した要因のひとつは、顧客の要望に応じてである。顧客は時代とともに洋菓子に求めるものが変化していったが、それとともに洋菓子職人の技術は発展し、規模も変わっていった。顧客の変遷が業界の生産様式に工業製品、稀少価値、ハイブリッドのバリエーションを生み出したことについて述べた。

［注］

1 最近10年間の教育活動、研究活動について作成すること。

2 「教育活動」については、各項目ごとに年月日順に、「学会等および社会活動」については、就任年月日順に記入すること。

3 「研究活動」については、下記の点に留意すること。

① 著書･論文及びその他の順に、発表年月日順に記入すること。

② 著者が複数にわたる場合で、筆頭著者が著書･論文等において明示されている場合には、その氏名に◎印を付すこと。

③ 共著(論文)の場合、「該当頁数」の記入にあたっては、本人の分担箇所を特定できる場合は、その頁数を記載すること。

④ 最近10年間に著書･論文等の発表のなかった者についても、教員名を挙げてその部分を空欄にしておくこと。

⑤ 芸術分野や体育実技等の分野を担当する教員については、著書･論文等以外の競技会、展覧会または演奏会等での発表のうち、特に顕著な業績と認められるものについても記載すること。このほか、専門分野の特性を 考慮し、顕著な業績と認められるものがある場合もこれに含めてもよい。

教　育　研　究　業　績　書

平成26年3月31日

氏名　　松本　尚哲

研究分野	研究内容のキーワード
経営学	財務諸表監査、内部統制、包括利益

教育上の能力に関する事項

事項	年月日	概要
1　教育方法の実践例		
1）1年次生の導入・基礎演習（ゼミ指導）におけるレポート作成の指導	平成23年4月～平成25年3月	大学での授業を受講するに際し必要となるレポート作成の基本事項を教えるとともに、演習として実際にレポートを作成させつつ必要に応じて適時指導を行い、レポート作成の要領を体得させる。
2）様々な授業スタイルにおける受講方法と対応能力の育成	平成23年4月～現在に至る	各科目で用いる教材の形式を変え、異なる教材に応じた授業の進め方を色分けしておき、それぞれ用いる教材が異なる授業における受講の仕方を、各人の工夫によって習得させる。
2　作成した教科書，教材		
1）財務諸表論の授業用レジュメ	平成23年4月～現在に至る	財務諸表論の授業において主要教材となるレジュメを作成。
2）経営財務論の授業用PPT資料	平成25年4月～現在に至る	経営財務論の授業において使用するPowerPoint用のスライドを作成。
3）経営分析論の授業用レジュメ及び資料	平成26年4月～現在に至る	経営分析論の授業において教材として使用するレジュメと、分析の演習に用いる各企業の財務資料等を作成。
3　教育上の能力に関する大学等の評価		
1）授業評価アンケートによる評価	平成23年4月～現在に至る	本学において前期と後期の授業終了時に実施される学生の授業評価アンケートにて、概ね良好とされる一定水準以上の評価を得ている。
4　実務の経験を有する者についての特記事項		
5　その他		
1）専門職養成支援プログラム税理士コースの学生の指導	平成22年9月～現在に至る	奈良産業大学にて、専門職養成支援プログラムの税理士コースに所属する学生を担当。税理士資格の取得に向けた勉強等の指導・フォローアップなどを行う。

職務上の実績に関する事項

事項	年月日	概要
1　資格，免許		
1）公認会計士試験合格者	平成21年11月	公認会計士試験　二次試験　2009年度合格者
2）修士（商学）	平成25年3月	関西大学　商学研究科　商学専攻　研究者コース 博士課程前期課程修了 商学修士 第685号
2　特許等		

3　実務の経験を有する者についての特記事項		
1）日本公認会計士協会・近畿会、税制・税務委員会委員	平成24年8月～現在に至る	日本公認会計士協会・近畿会における税制・税務委員会の委員として、税制・税務に関する研究を行っている
2）日本公認会計士協会・近畿会、経営委員会	平成25年7月～現在に至る	公認会計士協会・近畿会における経営委員会の委員として、経営、特に事業譲渡やバイオ・ベンチャーに関する研究を行っている
3）組織再編研究会	平成25年7月～現在に至る	公認会計士協会・近畿会と大阪弁護士会との共同研究会であり、その一員として組織再編の事例等に基づいて研究を行っている
4　その他		
1）奈良産業大学　学生委員会	平成23年4月～平成24年3月まで 平成25年4月～平成26年3月まで	学生委員会の一員として、主に三室祭の実行に際して学友会が抱える難問の手助け等を行う。また、在学学生の生活調査を数年に一度行っている。学生の素行不良などによる罰則規定の適用も当委員会で行った。
2）同上　学生支援センター運営委員会	平成23年4月～平成24年3月まで 平成25年4月～平成26年3月まで	学生支援センター運営委員の一員として、大学のリメディアル教育における学生の習熟度に対応したフォローアップの方策を考え、必要に応じて学生の面倒も見てきた。
3）同上　広報委員会	平成24年4月～平成25年3月まで	大学の広報活動の方向性などを検討した。また、下記小委員会の報告を受け、広報として行う方策を検討した。
4）同上　ホームページ作成小委員会	平成24年4月～平成25年3月まで	大学のホームページのあり方について検討するとともに、可能な範囲でデザインのリファイン等も検討した。
5）同上　オープンキャンパス実行小委員会	平成24年4月～平成25年3月まで	大学のオープンキャンパスを実行するための準備や打ち合わせ、学生スタッフとの協議などを行った。オープンキャンパス当日にはスタッフとして東奔西走した。
6）同上　専門職養成支援委員会	平成22年9月～現在に至る	前身である専門職養成支援プログラムの頃から継続して一員である。税理士プログラム担当として、担当学生の教育、管理等を行っている。また、関連資格の受験に際しては渉外交渉なども担当して、資格講座の管理・運営も行っている。
7）奈良産業大学実施の講座である奈良駅前大学にて講座実施	平成24年11月	本学実施の講座である奈良駅前大学にて、「わが国の会計制度」というテーマで講義を行った。

研　究　業　績　等　に　関　す　る　事　項

著書，学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所，発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　要
（著書）				
（学術論文）				
監査制度における内部統制報告制度の位置づけとこれからの展望について	単	平成24年12月	奈良産業大学ビジネス学部『社会科学雑誌』第5巻、pp. 461-478	我が国の監査制度に影響を与えたアメリカの監査制度における、制度の変遷とその中で生まれた内部統制の重要性について言及するとともに、J-SOX法とも呼ばれる内部統制報告制度の必要性について触れている。そのうえで、我が国の内部統制の基準における内部統制報告制度の扱いと、内部統制報告制度についてまわる内部統制の固有の限界の影響について述べている。
包括利益の表示に関する一考察	単	平成25年 3月	奈良産業大学ビジネス学部『社会科学雑誌』第7巻、pp. 287-309	財務報告の目的と2つの会計観について言及するとともに、これにより新たに必要とされた包括利益について述べている。その上で、包括利益の必要性について言及し、その構成要素に則した我が国の会計基準における表示方法について述べるとともに、今後の表示方法のあり方について触れている。

包括利益の表示の有用性と会計責任	単	平成26年 1月	関西大学大学院商学研究科『千里山商学』第69号、pp. 31-68	わが国の会計に対して大きな影響を与えている2つの利益観について述べると共に、包括利益という新しい利益概念が必要となった経緯と包括利益の特性について述べている。その上で、包括利益の業績指標としての有用性を検討しつつ、経営者の責任を判断するための考察を行っている。最後に、包括利益の拡張によって、より有用な情報提供が行える可能性について言及している。

［注］

1 最近10年間の教育活動、研究活動について作成すること。

2 「教育活動」については、各項目ごとに年月日順に、「学会等および社会活動」については、就任年月日順に記入すること。

3 「研究活動」については、下記の点に留意すること。

① 著書・論文及びその他の順に、発表年月日順に記入すること。

② 著者が複数にわたる場合で、筆頭著者が著書・論文等において明示されている場合には、その氏名に◎印を付すこと。

③ 共著（論文）の場合、「該当頁数」の記入にあたっては、本人の分担箇所を特定できる場合は、その頁数を記載すること。

④ 最近10年間に著書・論文等の発表のなかった者についても、教員名を挙げてその部分を空欄にしておくこと。

⑤ 芸術分野や体育実技等の分野を担当する教員については、著書・論文等以外の競技会、展覧会または演奏会等での発表のうち、特に顕著な業績と認められるものについても記載すること。このほか、専門分野の特性を 考慮し、顕著な業績と認められるものがある場合もこれに含めてもよい。

教育・研究業績書

情報学部

教　育　研　究　業　績　書

平成26年3月31日

氏名　　大原　荘司

研究分野	研究内容のキーワード
宇宙線物理学	非線形現象、カオス

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
1　教育方法の実践例		
1）共通教育科目「実験で学ぶ科学」の立ち上げ	平成２３年９月	実験で体験しながら科学の基礎知識を得て、データの取得や解析の基本が理解できることを目指した。
2　作成した教科書，教材		
1）組込みシステム	平成２１年４月	組込みシステム構築の実践教育のために、ルネサスマイコンＨ３０69を搭載する回路基盤をキットを購入して１０式作成し、開発用パソコンに接続して組込み用プログラムの作成演習に適用した。
3　教育上の能力に関する大学等の評価		
1）	平成00年0月0日	
4　実務の経験を有する者についての特記事項		
1）	平成00年0月0日	
5　その他		
1）	平成00年0月0日	

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
1　資格，免許		
1）高等学校理科教員１級免許	昭和５０年３月	
2）X線取り扱い作業主任者免許	昭和５３年９月	
2　特許等		
1）	昭和00年0月	

３　実務の経験を有する者についての特記事項		
１）	平成00年0月0日	
４　その他		
１）	平成00年0月0日	

研　究　業　績　等　に　関　す　る　事　項				
著書，学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所，発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要
（著書）				
（学術論文）				
The Cosmic Ray Anisotropy Observed By the Large Area Air Shower Experiments	共	平成１７年	29th International Cosmic Ray Conference Pune(2005)6,181-184	大広域エアーシャワー観測グループの５つのステーションから得られる宇宙線の到来方向と頻度に関するデータを調和解析し、宇宙線の到来方向の異方性について一定の知見を得た。共同研究者（A.Iyono,T.Konishi,T.Morita,T.Nakatsuka,C.Noda,N.Ochi,S.Ohara,M.Okita,J.Rou,J.Tada,N.Tahahashi,M.Tokiwa,S.Tsuji,T.Wada,I.Yamamoto and Y.Yamashita 本人担当部分　データ測定
情報学への導入教育としての演習科目設計	共	平成１７年	平成１７年度情報処理教育研究集会論文集４１１－４１４	様々な情報機器やソフトウェアの操作方法をひと通りケンケン氏、基本的技術を習得するための情報学導入教育として演習科目を創設し導入前後での学生の習熟度を求め一応の成果が得られたことを確認した。共著者　中尾泰士、向井厚志、大原荘司、福井徹　本人の担当部分　コンピュータミュージックとCADシステムの導入教育を担当した。
全体性と科学	単	平成１８年１２月	奈良産業大学紀要第２１集、９５－１００（２００５）	マックス・ウェーバーの全体知批判と科学の価値自由という考えに基づき、従来科学の対象とされなかった全体性が、環境科学、情報科学、システム科学、カオス科学の出現によって無関係ではなくなったことに焦点をあて、東洋を含めた科学の歴史の中の全体性の扱いと、ネットワークの集合知に見られる全体性を論じた。
リアルタイムOS演習システムの開発	共	平成１８年３月	奈良産業大学、情報学フォーラム、On-Line Journal、Vol.5	コンピュータシステムの効果的学習を考えると、組込み用オペレーティングシステムの学習が最も有効であるという考えに基づき、日本初の組込みOSであるITRON上で制御動作をするモータシステムを作成して、ITRONの命令語を使用することに寄ってコンピュータOSの実体を学習できるシステムを開発した。共同研究者　大原荘司、大崎幹雄　本人担当部分　内容の大部分を担当した。
Zenith Angle Distribution and Atmospheric Effect for EAS with LAAS experiments	共	平成２０年７月	Proc.of 30th International Cosmic Ray Conference,(2007)Vol.4,47-50	到来宇宙線の天頂角分布を、大広域宇宙線観測グループの各ステーションのデータに対して求め、いずれも指数関数によく一致することがわかった。また大気の及ぼす影響についても、シミュレーションの結果とよく一致した。共同研究者 A.Iyono,C.Noda,H.Matusmoto,M.Masuda,T.WadamK.Okei,S.Tsuji,S.Ohara,N.Ochi,T.Konishi,N.Takahashi,I.Yamamoto and T.Nakatsuka　本人担当部分　奈良産業大データ測定とまとめ

LAAS宇宙線観測データとGPS遅延データの相関	共	平成２１年	「地文台によるサイエンス」Universal Academy Press	宇宙線到来方向の異方性と大気変動についてのデータ解析から宇宙線強度を用いた対流圏トモグラフィーについて可能性を調べた。共同研究者 伊代野淳、松本宏樹、山本勲、小西健陽、大原荘司、高橋伸介、越智伸彰、辻修平、桶井一秀、中塚隆郎　本人担当部分　奈良産業大データ観測とまとめ
宇宙線エネルギー時系列のカオスとその異方性	共	平成２１年８月	奈良産業大学情報学フォーラム、Online Jounal,Vol.7	西村・蒲田の式を宇宙線観測データに適用して、５万イベントについての１次宇宙線エネルギーの時系列データを得た。これに、従来のカオス解析を適用し、時系列のカオス性の出現に異方性があることを見出した。共同研究者　大原荘司、小西健陽、向井厚志　本人担当部分　奈良産業大での宇宙線測定とカオス解析考察の大部分
Parallel and Simultaneous EAS Events due to Gerasimova-Zatsepin effects observed by LAAS experiments	共	平成２１年７月	Proc.of 30th International Cosmic Ray Conference,2009	宇宙線と太陽光子との反応で新たに宇宙線の秩序が形成されるというGerasimova-Zatsepin効果を大広域観測宇宙線データに適用した。共同研究者 A.Iyono,H.Matsumoto,K.Okei,S.Tshuji, **S.Ohara,** N.Ochi,T.Konishi,N.Takahashi,I.Yamamoto,T.Nakatsuka,T.Nakamura,N.Ohmori and K.Saitoh 本人担当部分　奈良産大データの観測とまとめ
カオスで探る宇宙線源	共	平成２２年１２月	奈良産業大学情報学部創設１０周年記念号,２０１０	宇宙線空気シャワーサイズデータ１１０万イベントについてフラクタル次元を求めるカオス解析をおこない、赤径６ｈ，１２ｈ，２２ｈ付近に異方性を発見した。高エネルギーγ線源あるいはダークマターのような天体の介在が推定される。共同研究者　大原荘司、小西健陽、向井厚志　本人担当部分　奈良産業大での宇宙線測定およびカオス解析とその考察
奈良周辺の二酸化炭素濃度	共	平成２３年３月	奈良産業大学地域公共学研究所年報第１集、２０１１	奈良周辺の二酸化炭素濃度の測定をVaisala製測定機器GMP３４３で行い、世界平均や日本の南鳥島の平均値などとの比較を行った。共同研究者 藤原昇、大原荘司　本人担当部分　二酸化炭素測定条件の検討と測定
The Anisotropy of Cosmic Ray Pursued with Chaos Analysis	共	平成２３年８月	Proceeding of International Cosmic Ray Conference, Beijing,2011	エアーシャワーサイズ時系列のカオス解析で、カオス性に寄与する宇宙線を選別しその到来方向分布を求めると、Crab、Mrk421、Cyg-Xなど特定の活動銀河などに高エネルギーガンマ線宇宙線源を求めることが可能であることを見出した。　共同研究者 S.Ohara,T.Konishi,A.Mukai,M.Shimada,A.Iyono,H.Matsumoto,I.Yamamoto,N.Takahashi,T.Nakatsuka,K.Okei,S.Tsuji,N.Ochi　本人の担当部分　奈良産業大での宇宙線測定とカオス解析および考察の大部分
Searching for cosmic ray nuclei above the KNEE energies through the Gerasimova-Zatsepin effect with the LAAS experiments	共	平成２３年８月	Proceeding of International Cosmic Ray Conference, Beijing,2011	大広域エアーシャワーデータの解析に、Gerasimova-Zatsepin効果による、原子核宇宙線の崩壊家庭も考慮に入れて、いわゆるKnee領域以上の宇宙線を対象に考察した。共同研究者 A.Iyono,H,Matsumoto,K.Okei,S.Tsuji,S.Ohara,N.Ochi,T.Konishi,N.Takahashi,I.Yamamoto,T.Nakatsuka,A.Mukai,M.Shimada 本人の担当部分　奈良産業大データの観測まとめ
二酸化炭素濃度の時間変動	共	平成２４年３月	奈良産業大学地域公共学研究所年報第２集、２０１２	二酸化炭素濃度の連続測定を、２００ｍと４ｋｍ離れた２地点で同時に行い、二酸化炭素濃度の変動を確認し考察した。２００ｍ程度の距離では周辺の構造物に大きな差異があってもCO2濃度の変動に大差はなく、光合成の効果が大気中を迅速に伝搬することがわかり、４ｋｍはなれた奈良、大阪間では、大きな差異がみられた。共同研究者 大原荘司　藤原昇　本人の担当部分　測定と解析の大部分を担当した

福島原発放射能拡散状況調査	共	平成２４年３月	奈良産業大学地域公共学研究所年報第２集、２０１２	原発事故に伴うセシウムの飛散状況を関西中心に空間線量計によって確認した。また、CdZnTe半導体検出器のCs放射能検出特性を検討し、市民レベルで情報を共有するための放射能測定の要求性能を満たす有望な放射能検出器であることを展望した。共同研究者　大原荘司　藤原昇　本人の担当部分　CdZnTe検出器の導入検討など
絶対主体性	単	平成２４年１２	奈良産業大学紀要第２８集、３５－４８（２０１２）	「仏の現在性」が意味する絶対主体性は、「具体的なことを通じて絶対性を覚する主体」と規定することができる。絶対主体性の確立が大乗仏教の本旨であることを間主観性に関する緒論や久松真一の諸論文を参考に論じた。
CdZnTe検出器による原発放射能分析	共	平成２４年１２	奈良産業大学地域公共学研究所年報第３集、１－７(2012)	原発事故により汚染された福島県飯舘村の表層土壌の放射能をCdZnTe放射能分析器で分析し、Cs-134とCs-137を有限時間で分離検出するための実用的なその場分析も可能なことを実証した。
道理	単	平成２５年１２	奈良産業大学紀要第３０集、（１）-（１２）,2013	道理というものがいかなる意義を持った概念であるかについて、武門の道理、イギリス法の精神、仏教の四種道理などを参考にして論じた。
飯舘村原発放射能汚染	共	平成２６年３月	奈良産業大学地域公共学研究所年報第４集、125-136、２０１４	福島原発事故放射能の被曝を受けた飯舘村で採取した１００点近い土壌、植物、水などの試料について放射能測定を行い、セシウム-137の移行状況について論じた。
（その他）				
特記事項なし				

［注］

1 最近10年間の教育活動、研究活動について作成すること。

2 「教育活動」については、各項目ごとに年月日順に、「学会等および社会活動」については、就任年月日順に記入すること。

3 「研究活動」については、下記の点に留意すること。

① 著書・論文及びその他の順に、発表年月日順に記入すること。

② 著者が複数にわたる場合で、筆頭著者が著書・論文等において明示されている場合には、その氏名に◎印を付すこと。

③ 共著(論文)の場合、「該当頁数」の記入にあたっては、本人の分担箇所を特定できる場合は、その頁数を記載すること。

④ 最近10年間に著書・論文等の発表のなかった者についても、教員名を挙げてその部分を空欄にしておくこと。

⑤ 芸術分野や体育実技等の分野を担当する教員については、著書・論文等以外の競技会、展覧会または演奏会等での発表のうち、特に顕著な業績と認められるものについても記載すること。このほか、専門分野の特性を 考慮し、顕著な業績と認められるものがある場合もこれに含めてもよい。

教　育　研　究　業　績　書

平成26年3月31日

氏名　杵崎　のり子

研究分野	研究内容のキーワード
人文社会情報学、基礎生物学（生態・環境）	経営情報、テレワーク、情報システム学、数理生物

教育上の能力に関する事項

事項	年月日	概要
1　教育方法の実践例		
1）メーリングリストを活用した授業のサポート	平成11年4月～平成20年3月	奈良産業大学経営学部経営学科の専門科目「基礎演習（パソコンの活用）」「総合演習（パソコンの活用）」「専門演習Ⅰ（経営情報システムの研究）」「専門演習Ⅱ（経営情報システムの研究）」において、それぞれの受講生（ゼミ生）のメーリングリストを作り、教員と受講者全員（ゼミ生）を登録し、これを用いて情報提供、質問、回答、その他で交流を深めた。また、このために休みがちであった学生もゼミに参加するようになるなどの効果があった。
2）学内LANを利用した「教材フォルダ」「提出箱フォルダ」を使った課題の出題、課題提出	平成11年～現在	奈良産業大学経営学部経営学科、情報学部情報学科で担当する講義において、基本的に毎回または半期に数回の課題問題を出して学生の理解度を高める努力をしている。授業中に課題用紙を配布するだけでは、当日欠席した学生に対して十分な対応が出来ない場合が出て、時には学生が授業に出てこなくなるケースも少なからずある。そこで、学生が欠席した場合でも課題問題を学内LANからいつでも入手でき、また、提出も随時行えるようにしている。なお、電子媒体での提出が不適切な課題に関しては出題課題のみの利用。
3）e-mailを利用した卒業論文制作指導	平成11年～現在	奈良産業大学経営学部経営学科で担当する専門演習Ⅱおよび情報学部情報学科で担当する情報学演習Ⅲでは、卒業論文の指導にあたり、e-mailを利用して授業時間以外でも指導を行っている。 具体的には、学生は制作途中の論文を添付してe-mailに添付してメールに進捗や制作上の問題点、質問箇所、相談などを書いて送ってくる。それに対して、論文制作上の留意点、アドバイス等を書いて送って指導している。これにより、就職活動等により学生が授業（ゼミ）に出席できない場合や、卒業研究の山場となる冬期休業期間中でも迅速な対応、指導が効率よくできるようになった。
4）講義用補助教材の配布と小テスト実施	平成20年4月～現在	奈良産業大学情報学部情報学科において各講義科目で授業を実施するごとに課題プリントを配布して次回までに課題を行わせ、また、次回にその問題から小テストを行わせるようにして、理解度を深める工夫をしている。なお、これらの教材については、毎年見直しを行い、常に内容が情報技術上古くなっていないか、学生の能力にあっているかという観点からチェックして修正を加えている。 科目名「経営情報システム論Ⅰ」「経営情報システム論Ⅱ」「情報システム開発論」 効果：まじめに課題をやってくる学生においては、理解度も高まり成績を上げている。

2　作成した教科書，教材		
1）「経営学部へのファースト・ガイド　－基礎演習共通教材－」の作成と利用	平成13年4月～平成17年3月	奈良産業大学経営学部において毎年新入学生に対して必修科目として課する「基礎演習」において、初年次教育を行うにあたって、クラスによる内容のばらつきが無いように経営学部独自の教材を10人の専任教員で分担して作成し、利用した。 分担執筆：山上達人、冨増和彦、本多毅、杵崎のり子、藤本哲、守屋貴司、村上幸二、武居奈緒子、岡本昇、中尾泰士 本人担当部分：３章レポートの書き方 概要：大学におけるレポートの種類と概要や、書く前の準備からレポート構成、表現方法などについて簡潔にまとめる。 効果：当時、初年次教育に対する関心が高まりつつあるころであったが、まだ実践しているところは少なく、奈良産業大学では経営学部が他学部に先駆けて取り組み、現在の本学の初年次教育の先がけとなるものとなった。
2）講義用補助教材の作成	平成20年4月～現在	奈良産業大学情報学部情報学科において担当する各講義科目で理解度を深めるための課題プリントおよび小テスト問題を補助教材として作成した。なお、これらの教材については、毎年見直しを行い、常に内容が情報技術上古くなっていないか、学生の能力にあっているかという観点からチェックして修正を加えている。 科目名：「経営情報システム論Ⅰ」「経営情報システム論Ⅱ」「情報システム開発論」 効果：まじめに課題をやってくる学生においては、理解度も高まり成績を上げている。
3　教育上の能力に関する大学等の評価		
1）奈良産業大学学生による授業評価アンケートにおける評価	平成20年度～現在に至る	奈良産業大学では平成20年度より、担当科目の一部で学生による授業評価アンケートを毎年実施しており、集計結果および教員の自己評価を大学のホームページで公表している。 　奈良産業大学の情報学部情報学科の教授として担当した２年次配当の「経営情報システム論Ⅰ」や「経営情報システム論Ⅱ」においては、情報学部の学生にとって経営学的要素の強い当科目は、開講初年度の平成20年度には難しく分かりにくいという評価が過半数を占めていたが、配布資料の充実、課題問題の配布、小テストの実施等の改善を加えていくことによって、徐々に評価があがり、平成24年度にはやや難しいが、分かりやすいという回答が75%を占めるようになり、満足度においては「満足」と「やや満足」をあわせて100%を得た。
2）学長からの評価（奈良産業大学）	平成24年度	講義・演習を堅実にこなし、授業内容や授業の運営に対する学生からの評価も高く、教育能力は十分にあると考える。課外においても学生指導に熱心に取り組み、多くのゼミ生を育てている点も評価できる。また、学生支援センター長として、全学的なリメディアル教育に取り組み、課外活動としての体制作りや運営、問題点の改善に多大な貢献を果たしている。
4　実務の経験を有する者についての特記事項		
1）奈良商業高等学校 高大連携情報実習「Visual Basic　プログラミングしよう」	平成18年12月1日 平成20年11月28日 平成22年10月25日	奈良商業高校１・２年生を対象とした大学体験授業の一つとして企画された。Visual Basicを使って簡単なプログラムを体験してもらう授業で、コマンドボタンをクリックすると自己紹介のメッセージが表示されるプログラムや占いのプログラムを作成する内容とした。
2）奈良県職員研修　平成19年度能力開発研修「統計データ活用講座」	平成19年8月27･28日	奈良県自治能力開発センターが実施する奈良県職員研修「統計データ活用講座」の演習補助の講師を担当した。講師山田伊知郎氏の講義、統計の基礎、統計データの見方、データを比較する方法、検定の考え方などの後におこなわれるExcelを使った統計演習（具体的には、統計基礎、平均値とばらつきの検定、相関分析、回帰分析の演習）において、受講者の演習補助をおこない、受講者からの質問に対応することにより演習が円滑に進み、また、研修の理解を深めてもらうことができた。

３）奈良県職員研修　平成20年度能力開発研修 「統計データ入門講座」	平成20年8月1日	奈良県自治能力開発センターが実施する奈良県職員研修「統計データ入門講座」の演習補助の講師を担当した。講師山田伊知郎氏の講義の後におこなわれるExcelを使った統計演習（正規分布表の見方、一つの母平均の違いの検定など）において、受講者の演習補助をおこない、受講者からの質問に対応することにより演習が円滑に進み、また、研修の理解を深めてもらう上で効果があった。
４）奈良県職員研修　平成20年度能力開発研修 「統計データ活用講座」	平成20年8月4日	奈良県自治能力開発センターが実施する奈良県職員研修「統計データ活用講座」の演習補助の講師を担当した。講師山田伊知郎氏の講義の後におこなわれるExcelを使った統計演習、具体的には、二つの母平均の違いの検定、母分散の違いの検定、一様性の検定、相関分析の演習において、受講者の演習補助をおこない、受講者からの質問に対応することにより演習が円滑に進み、また、研修の理解を深めてもらう上で効果があった。
５）王寺町りーべるカレッジ 「少子高齢化時代の柔軟な働き方 　－在宅勤務・SOHO・在宅ワークを考える」	平成20年10月25日	王寺町りーべるカレッジの講師を担当した。テーマは「少子高齢化時代の柔軟な働き方　－在宅勤務・SOHO・在宅ワークを考える」とし、今日の少子高齢化時代にテレワークという新しい働き方に注目し、社会面、就業者の視点から、経営者の視点からみた効果について検討するという内容とした。
６）日本ドリコム主催　進路発見フェスタ体験講義 「気になるケータイ選び 　～機能＆料金体系の決まり方」	平成21年3月10日	日本ドリコム主催の「進路発見フェスタ体験講義」において講師を担当した。テーマは「気になるケータイ選び～機能＆料金体系の決まり方」として、ケータイ白書2009の高校生や中学生のケータイ電話の利用動向など、関心の高いデータを出して実態を明らかにするとともに、ケータイの使い方によるデータ送受信量の違いや料金体系などからどういう利用の仕方をすれば、利用料金を抑えることができるかという内容とした。高校生にとって関心の高いテーマでもあり、ブースがあふれるほどの参加者が来た。
７）天理高等学校の校内ガイダンスへの出張講義 「大学入試の面接について （情報・コンピュータ分野）」	平成22年1月27日	株式会社さんぽうが主催する天理高等学校向けの校内ガイダンスにおいて、大学入試の面接についての講師を担当した。テーマを「大学入試の面接試験（情報・コンピュータ）」とし、試験の種類と面接試験の重みについての講義のあと、面接試験のよく出る質問内容を実際に面接練習を織り込んで対策をおこなった。
８）三郷北小学校教職員研修 「ホームページ作成講座」	平成22年8月2日	三郷北小学校の教職員向けの研修会の講師を担当した。テーマは「ホームページ作成講座」とし、HTMLのタグを知らなくてもMS Wordなどで簡単に作る演習形式の内容で演習形式でおこない、受講者対してHTMLのタグを憶えなくても普段使い慣れたWordでホームページが簡単に作れることを理解させる効果があった。
９）奈良文化高等学校への出張講義 「Excel VBAでゲームを作ろう」	平成23年6月24日	奈良文化高校からの出張講義の依頼があり、講師を担当した。ゲームについての演習形式の授業を希望とのことから、テーマを「Excel VBAでゲームを作ろう」とし、コマンドボタンを押すと「大吉」や「吉」などが出るおみくじゲームを作る演習形式の内容とした。熱心に取り組んでもらうことができ、ゲームを作ることに深く興味を持たせる効果があった。
５　その他		
１）奈良産業大学経営学部経営学科における教育実績	平成11年4月～ 平成20年3月	奈良産業大学経営学部経営学科の専任教員および兼担教員（平成11年４月から平成18年３月まで助教授、平成18年４月から平成19年３月まで教授、平成19年４月から平成21年３月まで兼担）として、以下の科目を担当した。 「コンピュータ演習Ⅰ」半期２単位（平成11年度） 「コンピュータ演習Ⅱ」半期２単位（平成11年度） それぞれ１年次配当科目であり、コンピュータの基礎的な操作に始まり、ブラインドタッチ、Word、Excel、電子メール、インターネット検索、ホームページ作成を内容とした。

１）奈良産業大学経営学部経営学科における教育実績（続き）	平成11年4月～平成20年3月	「プログラミング論」通年４単位（平成12～16年度） 「プログラミング論」半期２単位（平成17～20年度） 「プログラム設計論」半期２単位（平成17～20年度） それぞれ２年次配当の専門教育科目であり、通年４単位の「プログラミング論」は平成17年度から半期２単位の２科目「プログラミング論」と「プログラム設計論」とに分割されたが、内容については、前期にはVisual Basicによるプログラミングの修得を中心とし、後期にはVisual Basicを前提としたプログラム設計を行ってVisual Basicのプログラミングを行う内容とした。 「データベース構築論」通年４単位（平成12～16年度） 「データベース概論」　半期２単位（平成17～20年度） 「データベース構築論」半期２単位（平成17～20年度） それぞれ２年次配当の専門教育科目であり、通年４単位の「データベース構築論」は平成17年度から半期２単位の２科目「データベース概論」と「データベース構築論」とに分割され、内容については本質的には変えずに、前期にデータベースの概要を中心として簡単なデータベース作成をAccessを使って演習形式でおこない、後期に本格的にデータベースの構築をAccessを使って演習形式でおこなう内容とした。 「人的資源管理論」　　半期２単位（平成18～19年度） ２年次配当科目の専門教育科目であり、日本における人的資源管理の概要や特徴などについて講義形式でおこなう内容とした。 「国際人的資源管理論」半期２単位（平成18～19年度） ２年次配当科目の専門教育科目であり、海外の代表的な国（アメリカ、イギリス、ドイツ、スウェーデン、中国など）の人的資源管理の枠組みや特徴などについて講義形式でおこなう内容とした。 「基礎演習」　通年４単位（平成12年度） １年次配当の専門教育科目であり、前期には初年次教育として、電子メールの使い方、ノートの取り方やレポートの書き方、プレゼンテーションの仕方などを演習形式でおこなう内容とした。後期には、WordやExcelなどを使いこなせるように適宜課題を与えて演習形式でおこなう内容とした。 「応用演習」　通年４単位（平成15､17年度） ２年次配当の専門教育科目であり、パソコンを活用するというテーマのもとで、WordやExcelを中心とした演習をおこない、Microsoft Officeスペシャリスト等の資格取得をめざす内容とした。 「専門演習Ⅰ」通年４単位（平成12～18年度） ３年次配当の専門教育科目であり、企業における情報システムの研究をテーマとし、携帯電話やワンセグなどの新しい情報技術や、企業で使われている各種情報システムなどを調査してまとめ、発表するなど、卒業研究を見据えた演習をおこなう内容とした。 「専門演習Ⅱ」通年４単位（平成13～19年度） ４年次配当の専門教育科目であり、各自で卒業論文のテーマを決めて、テーマに沿った内容の研究をおこない、卒業論文にまとめ発表をおこなうという内容で演習形式でおこなう内容とした。

２）大阪産業大学経済学部国際経済学科における教育実績	平成18年4月～現在に至る	大阪産業大学経済学部国際経済学科の非常勤講師（平成18年４月から現在まで）として以下の科目を担当した。 「コンピュータ・グラフィックス」（平成18年度） ３年次配当の専門教育科目（半期２単位）であり、前後期で２クラス展開する。OpenGLを使って３次元の簡単なグラフィックスを描く内容とする演習形式の授業である。 「ネットワーク論」（平成18～24年度） ３年次配当の専門教育科目（半期２単位）であり、平成18年度には半期につき２クラス展開で、前後期合わせて４クラス展開する。平成19年度以降は半期に３クラス展開で、前後期合わせて年間６クラス展開する。Perl言語を使ったCGIプログラミングを行い、占い、アンケート、掲示板などのWebページを作成する内容とし演習形式の授業である。
３）奈良産業大学情報学部情報学科における教育実績	平成19年4月～現在に至る	奈良産業大学情報学部情報学科の専任教員（平成19年４月から現在まで教授）として以下の科目を担当した。 「経営情報システム論Ⅰ」（平成20～24年度） 「経営情報システム論Ⅱ」（平成20～24年度） それぞれ２年次配当の専門教育科目（半期２単位）であり、企業における情報システムの役割、種類、経営情報システム、意思決定支援システム、戦略的情報システム、最近の新技術を利用したシステムなどを内容とする講義形式の授業である。 「ＧＵＩプログラミング」（平成21～23, 25年度） ２年次配当の専門教育科目（半期２単位）であり、Visual Basicによるプログラミングを行う内容とし、演習形式の授業である。 「情報システム開発論」（平成21～現在に至る） ３年次配当の専門教育科目（半期２単位）であり、情報システム開発の基本的な流れ、開発方法の種類、各工程の詳細などを内容とする講義形式の授業である。平成25年度より「ソフトウェア工学」に改名された。 「情報学演習IA」（平成20年度） １年次配当の専門教育科目（通年４単位）であり、初年次教育としての位置づけになっており、大学での基本的な学び方（各施設の利用の仕方、講義の受け方、レポートの書き方など）や、情報学部の各分野の内容の理解などを内容とした。１年次のアドバイザーとしての役割もあり、学生の生活全般に対する見守りや支援も行った。 「情報学演習ＩB」（平成21年度） ２年次配当の専門教育科目（通年４単位）であり、情報学部の複数の教員が情報学の様々な分野を半期ごとに２回リピートする演習形式で体験する内容の授業である。テーマを「インターネット関連ビジネスの将来展望を考える」とし、ネットビジネスの現状調査、分析、レポート、発表の仕方を体験的に学ぶ内容とした。 「情報学演習Ⅱ」（平成21～現在に至る） ３年次配当の専門教育科目（通年４単位）であり、卒業研究を意識した課題に取り組む演習形式の授業である。テーマを「企業における情報活用と経営情報システムの研究」とし、企業におけるMS Officeなどのアプリケーションプログラムの利用方法、経営情報システムの研究、Excel VBAを使ったプログラムの制作などを学生が主体となる演習形式の内容とした。平成25年度より「情報学ゼミⅢ」に改名された。 「情報学演習Ⅲ」（平成22～現在に至る） ４年次配当の専門教育科目（通年４単位）であり、各自でテーマを設定し、調査、分析、まとめと評価を行う流れで卒業研究に取組み、卒業論文や卒業制作をおこなうための授業である。

３）奈良産業大学情報学部情報学科における教育実績（続き）	平成19年4月～現在に至る	「プロジェクト演習Ⅰ」（平成19～22年度） １年次配当の専門教育科目（半期２単位）であり、実践的な課題に少人数で取り組む課外活動的な授業である。テーマを「資格挑戦講座」とし、ITパスポート試験や基本情報処理技術者試験の勉強方法をグループで考え、取組み、まとめ、発表させるという演習形式で行った。 「プロジェクト演習Ⅱ」（平成20～22､24～現在に至る） 「プロジェクト演習Ⅲ」（平成21～22､24～現在に至る） 「プロジェクト演習Ⅳ」（平成22､24～現在に至る） それぞれ２，３，４年次配当の専門教育科目（通年４単位）であり、「プロジェクト演習Ⅰ」を含め、同時間に開講する授業である。テーマは「資格挑戦講座」とし、「プロジェクト演習Ⅰ」と同じ内容ではあるが、各学年や学生の個性に応じてグループ内でのそれぞれの役割を持ち、協力して積極的に課題に取り組んでいく姿勢を養う効果や、実際に情報処理技術者試験を受験して合格する実績があった。なお、平成24年度より「プロジェクト演習Ⅱ」は「プロジェクト演習Ⅰ」に改名、平成25年度より「プロジェクト演習Ⅲ」は「プロジェクト演習Ⅱ」に改名された。

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
１　資格，免許		
１）中学校教諭一級普通免許（数学）	昭和57年3月	昭５６中一普第１１２９号（奈良県教育委員会）
２）中学校教諭一級普通免許（理科）	昭和57年3月	昭５６中一普第１１４３号（奈良県教育委員会）
３）高等学校教諭二級普通免許（数学）	昭和57年3月	昭５６高二普第１２４６号（奈良県教育委員会）
４）高等学校教諭二級普通免許（理科）	昭和57年3月	昭５６高二普第１１８０号（奈良県教育委員会）
５）第二種情報処理技術者試験　合格	昭和58年2月	
６）第一種情報処理技術者試験　合格	昭和59年2月	
７）商工会議所簿記検定２級　合格	昭和60年6月	
８）特種情報処理技術者試験　合格	昭和62年2月	
９）情報処理システム監査技術者試験　合格	平成元年1月	
10）オンライン情報処理技術者試験　合格	平成 4年1月	
11）修士（理学）	平成13年3月	奈良女子大学　修第２８２号 修士論文題名：「帯状分断環境における侵入生物の伝播パターンと拡大速度に関する数理的研究」
12）博士（理学）	平成16年3月	奈良女子大学　博課第２４１号 博士論文題名：「侵入生物の侵入と空間伝播に関する数理的研究」
13）初級システムアドミニストレータ試験　合格	平成16年11月	

14）ITパスポート試験　合格	平成21年 5月	
15）基本情報技術者試験　合格	平成21年11月	
２　特許等		
特になし		
３　実務の経験を有する者についての特記事項		
４　その他		
１）奈良産業大学　広報委員長	平成21年４月～ 平成23年３月	大学広報の委員長として、広報活動の円滑な運営に責任を持ち、大学のホームページやオープンキャンパスなどの小委員会活動、大学要覧の大幅な見直し、学園広報誌と連携をとった大学の広報活動などに取り組んだ。
２）奈良産業大学　学生支援センター長	平成23年４月～ 平成26年３月	学生支援センター長として、学生の学び、こころ、身体の円滑なサポートに取り組んだ。特に、学生の学びの支援として、学習室を設置し高校までの教育の専門家としての外部講師や教材を配置し、アドバイザーの協力の元でリメディアルやその他の学修支援を行う体制を整えた。また、学生相談や特別な学生支援を必要とする学生が増加していることから、教職員向けの学生相談研修会を定例的に行い、アドバイザーを中心として教職員全員による学生の見守り、支援体制を整えることに取り組んでいる。

研　究　業　績　等　に　関　す　る　事　項

著書，学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所，発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概　　要
（著書）				
１．少子化時代の多様で柔軟な働き方の創出－ワークライフバランス実現のテレワーク	共著	平成19年 9月	学文社	テレワークの効率性重視のモバイル型に対して、職住接近の在宅勤務・SOHOを再評価したうえで、少子高齢化社会において、子育てや介護と仕事の両立を可能とする豊かな働き方を追求する。 A5版　全232頁 編著：下崎千代子、小島敏宏 分担執筆：下崎千代子、柞崎のり子、加納郁也、小島敏宏、小嶌典明、脇夕希子、柳原佐智子、古賀広志、宮崎泰夫、田澤由利、佐藤彰男、川村晶子 本人担当部分：第１章「第３次テレワークブームの到来」（p.12-p.23)の単著 概要：21世紀に入ってからの国家戦略であるe-Japan戦略をきっかけとするテレワークへの注目を第３次テレワークブームと称し、その背景、取り組み内容を取り上げ、さらにテレワークの分類とその実態をまとめる。

２．「空間」の数理生物学（シリーズ数理生物学要論巻２）	共著	平成21年 5月	共立出版	「空間」次元に関わる生命現象の数理モデル研究に関するモノグラフを編集したものであり、生物個体群ダイナミクスにおける空間的非一様性の数理モデル研究、細胞集団が織りなす空間パターンに関する数理モデル研究などを収める。 B5版　全222頁 編集：日本数理生物学会　責任編集：瀬野裕美 分担執筆者：重定南奈子、川崎廣吉、杵崎のり子、難波利幸、佐藤一憲、泰中啓一、高須夫悟、関村利朗、巌佐庸、望月敦史、本多久夫、小林亮 本人担当部分：第１章「不均一環境下における生物集団の分布拡大パターン」（p.1-p.10）を共著。 2次元空間上に広がる周期的分断環境の典型として帯状環境、島状環境、コリドー環境の３つの環境を取り上げ、そこに侵入する生物の分布拡大過程について反応拡散モデルを用いて、分断構造の違いや分断スケールが伝播速度に及ぼす効果を明らかにする。 （共同研究につき本人担当部分抽出不可能。全体の立案や評価、分析については共著者全員が担当し、本研究のためのシミュレーションプログラム作成、シミュレーションの実施、データ作成については本人が主に担当。） 共著者：重定南奈子、川崎廣吉、杵崎のり子
（学術論文）				
１．Spatial dynamics of invasion in sinusoidally varying environments（査読付）	共著	平成18年 4月	Population Ecology 48:263-270	１次元の周期的に変化する環境（パッチ状環境とSin状環境）とランダムに変化する環境での侵入生物の伝播速度において、内的自然増加率と拡散係数の各パラメタが分布拡大に与える影響について考察する。 本人担当部分：共同研究につき本人担当部分抽出不可能。主に本研究のためのシミュレーションプログラム作成、シミュレーションの実施、データ作成、図表作成、論文執筆を担当。全体の立案や評価、分析については共著者全員で担当。 共著者：杵崎のり子、川崎廣吉、重定南奈子
２．The effect of the spatial configuration of habitat fragmentation on invasive spread（査読付）	共著	平成22年 9月	Theoretical Population Biology78(2010)298-308	空間の分断化が生物の侵入に及ぼす影響について、帯状、島状、コリドー状の３つの環境に反応拡散モデルを用いて数値計算をして分析することによって次の３点が明らかになった。 １）分断のスケールが十分に大きい場合には、生物が生き残るための好適環境の最小面積は島状、帯状、コリドーの順に広く必要となる。 ２）好適パッチが十分に広いときの拡散スピードはコリドーが一番速く、帯状、島状の順に遅くなる。３）３種の環境の好適パッチと不適パッチとの間の境界線をランダムにシフトさせた場合、シフト幅を広くしていくと拡散速度が上がる傾向がある。 本人担当部分：共同研究につき本人担当部分抽出不可能。主に本研究のためのシミュレーションプログラム作成、シミュレーションの実施、データ作成、図表作成、論文執筆を担当。全体の立案や評価、分析については共著者全員で担当。 共著者：杵崎のり子、川崎廣吉、重定南奈子

３．時間変動を伴うパッチ環境における侵入生物の数理モデル	単著	平成24年12月	奈良産業大学「産業と経済」第25巻第1号（奈良産業大学経済学会），31-51	不均質環境における生物の存続や侵入問題において、従来のモデルでは固定された分断環境を考えて来たが、本研究では季節変化や気候変動によってパッチ状環境のパッチサイズが時間的に変化するケースを考えた。１次元のFisherモデルを元に新たなモデルを作り、時間変動が伝播速度に及ぼす影響を数値計算によって計算し、その結果を分析し、その特性とみられる傾向を見つけた。
４．侵入生物の増殖率の空間変動が伝播速度に与える影響	単著	平成25年 2月	情報学フォーラム紀要第８巻、奈良産業大学情報学部,67-82	周期的に変化する環境における生物の侵入問題において、sin関数で増殖率や拡散係数が変化する環境での研究はされてきた。そこで本研究では、パッチ状環境における増殖率の違いによる伝播速度の違いを数学的解の公式から求め、生物の増殖率のどのような要因が伝播速度に大きな影響を与えるか、その傾向を分析した。
５．空間の分断化が侵入生物の伝播に与える影響	単著	平成25年 3月	奈良産業大学紀要第29集，53-68	周期的に変化する環境における生物の侵入問題において、侵入生物の伝播速度に大きく影響する要因が増殖率か、拡散係数か、好適パッチと不適パッチの幅なのか、その要因を探るために、シンプルなモデルとして代表的な一次元パッチモデルを使って、伝播速度を求めて、分析を行った。このとき、各変数を環境全体の基準値からの変動幅という概念で捉えた上で変数の値を設定し、伝播速度を数学的解の公式から求めた。よく使われ、多くの研究がなされてきたパッチモデルではあるが、変数の捉え方を変えることによって、これまでに予測しなかったような関係が見えてきて、増殖率や拡散係数のはたらきも、条件によっては全く逆の方向にはたらくなど、興味深い結果が得られた。
６．不均質環境における侵入生物の進行波：拡散，走性，個体群圧力の効果	共著	平成25年10月	数理解析研究所講究録1853,150-157	共著者：重定南奈子，川崎廣吉，杵崎のり子，飯沼万美子
（その他）				
「学会発表」				
１．Why isn't it Teleworking? A case of Flexible Work	共同	平成16年 9月	The 9th International Telework Workshop (Heraclion, Crete Greece)	オフィス出勤を前提とするがテレワーク企業と同様に自己裁量による労働時間により情報機器を利用した労働形態をとる企業の事例をもとに、テレワークに必要な人事システムが何かを考察する。 本人担当部分：共同研究につき本人担当部分抽出不可能。主に資料やデータのまとめ、図表の作成、プレゼンテーション資料の原案作成を担当。 共同発表者：下崎千代子、杵崎のり子、渡辺邦博、松尾純
２．周期的および非周期的変動環境における侵入生物の伝播速度	共同	平成16年 9月	第14回数理生物学シンポジウム（広島大学、広島）	１次元の周期的に変化する環境（パッチ状環境とSin状環境）とランダムに変化する環境での侵入生物の伝播速度において、内的自然増加率と拡散係数の各パラメタが伝播速度に与える影響について考察する。 本人担当部分：共同研究につき本人担当部分抽出不可能。主に本研究のためのシミュレーションプログラム作成、シミュレーションの実施、データや図表の作成、プレゼンテーション資料作成、発表を担当。 共同発表者：杵崎のり子、川崎廣吉、高須夫悟、重定南奈子

３．周期的および非周期的変動環境における侵入生物の分布拡大に与える影響	共同	平成17年 3月	第52回日本生態学会大会（大阪国際会議場、大阪	１次元の周期的に変化する環境（パッチ状環境とSin状環境）とランダムに変化する環境での侵入生物の伝播速度において、内的自然増加率と拡散係数の各パラメタが分布拡大に与える影響について考察する。 本人担当部分：共同研究につき本人担当部分抽出不可能。主に本研究のためのシミュレーションプログラム作成、シミュレーションの実施、データや図表の作成、プレゼンテーション資料作成、発表を担当。 共同発表者：杵崎のり子、川崎廣吉、高須夫悟、重定南奈子
４．製造業におけるナレッジマネジメント導入によるテレワークの可能性	単	平成17年 7月	第7回日本テレワーク学会研究発表大会（三鷹産業プラザ、三鷹）	概要：一般にテレワークの導入が困難であるといわれている製造業、特に熟練工を必要とする製造現場において、熟練工のノウハウをデータベース化しナレッジマネジメントを構築したY社の事例研究をもとにテレワークの可能性について考察する。概要：一般にテレワークの導入が困難であるといわれている製造業、特に熟練工を必要とする製造現場において、熟練工のノウハウをデータベース化しナレッジマネジメントを構築したY社の事例研究をもとにテレワークの可能性について考察する。
５．A Case of Knowledge Workers in a Small Japanese Manufacturer	共同	平成17年 8月	The 10th International Telework Workshop (Liverpool, UK)	一般にテレワークの導入が困難であるといわれている製造業、特に熟練工を必要とする製造現場においてテレワークを可能とする要因について分析する。 本人担当部分：共同研究につき本人担当部分抽出不可能。主にデータのまとめ、図表の作成、プレゼンテーション資料作成、発表を担当。全体の立案や現場のインタビュー、資料やデータの収集、考察については共同発表者全員で担当。 共同発表者：杵崎のり子、下崎千代子
６．高付加価値製造業への自己変革プロセス～ある中小製造業の事例から～	単	平成17年11月	第51回オフィス・オートメーション学会全国大会（大阪成蹊大学、大阪）	概要：大企業の下請け工場から脱却した中小製造業の事例をもとに、変革を成功に導いたプロセスを戦略的意思決定プロセスの観点から分析し、中小製造業が高付加価値製造業へと変革するための要因について考察する。

［注］

1 最近10年間の教育活動、研究活動について作成すること。

2 「教育活動」については、各項目ごとに年月日順に、「学会等および社会活動」については、就任年月日順に記入すること。

3 「研究活動」については、下記の点に留意すること。

① 著書・論文及びその他の順に、発表年月日順に記入すること。

② 著者が複数にわたる場合で、筆頭著者が著書・論文等において明示されている場合には、その氏名に◎印を付すこと。

③ 共著(論文)の場合、「該当頁数」の記入にあたっては、本人の分担箇所を特定できる場合は、その頁数を記載すること。

④ 最近10年間に著書・論文等の発表のなかった者についても、教員名を挙げてその部分を空欄にしておくこと。

⑤ 芸術分野や体育実技等の分野を担当する教員については、著書・論文等以外の競技会、展覧会または演奏会等での発表のうち、特に顕著な業績と認められるものについても記載すること。このほか、専門分野の特性を 考慮し、顕著な業績と認められるものがある場合もこれに含めてもよい。

教　育　研　究　業　績　書

平成26年3月31日

氏名　　西岡　茂樹

研究分野	研究内容のキーワード
経営情報学	経営情報システム、e-ビジネス、情報産業、ソフトウェア

教育上の能力に関する事項

事項	年月日	概要
1　教育方法の実践例		
1）DVDの視聴、Webサイトのリアルタイム提示 PowerPointの積極的活用 奈良産業大学、大阪市立大学、尾道市立大学で実践	平成8年4月～ 現在に至る	奈良産業大学に着任した時から、当時としては珍しかったPowerPointによるプレゼンテーション、インターネットによる最新の情報提供、DVD等の視聴覚教材を講義に取り入れ、情報化の現場の実態を学生に伝えられるよう、取り組んできた。
2）講義終了時に、学生からメールや紙媒体で意見を吸い上げ、それを次週にフィードバックする 奈良産業大学、大阪市立大学、尾道市立大学で実践	平成8年4月～ 現在に至る	講義終了時に、その日の感想や質問等をメールあるいはメモ用紙に書いて提出してもらい、疑問点については次回に答える。この方法により、自分の講義の不備を見つけることができる。出席管理の補助手段にもなる。
2　作成した教科書，教材		
毎年、教科書・教材を自作し、学内LANを通じて、デジタルコンテンツとして学生に提供している。平成26年度には「ネットワーク基礎」「Web System」「情報セキュリティ」の3科目を提供。	毎年更新	情報化の技術革新のスピードは著しく速いため、本を出版していると、出版時にはすでに古い情報となってしまうことがある。それを避けるため、毎年、教科書はその直前までの情報を盛り込んだデジタルデータとして配信している。
3　教育上の能力に関する大学等の評価		
4　実務の経験を有する者についての特記事項		
5　その他		
奈良産業大学の情報教育環境、インターネット環境の基礎を固めた	昭和54年～	大学着任時に、民間のIT企業と比べて、その情報教育環境が非常に遅れていたため、情報センター委員、委員長として、その整備に尽力した。またインターネットについては全くの0からの整備を担当した。

職務上の実績に関する事項

事項	年月日	概要
1　資格，免許		
1）第一種情報処理技術者	昭和55年10月	通産省が実施する情報処理に関する資格試験
2）特種情報処理技術者	昭和58年10月	通産省が実施する情報処理に関する資格試験
2　特許等		
なし		

3　実務の経験を有する者についての特記事項		
なし		
4　その他		
なし		

研究業績等に関する事項				
著書，学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所，発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（著書）				
（学術論文） 企業合併に伴う情報システム統合のリスクに関する考察～みずほ銀行の事例分析に基づく～	単	平成24年12月	「産業と経済」25巻1号奈良産業大学経済経営学会	企業合併においては情報システムの統合が不可欠であるが、通常のシステム開発と異なり、合併する企業がこれまで開発・運用してきた既存システムをいかに安全・低コストで迅速に統合するかが重要課題となる。みずほ銀行は経営統合後、2度に亘る大きなシステム障害を起こしており、その要因と企業合併プロセスの相関について考察した。
非接触型ICカード「Felica」の現状とプロジェクト演習の成果	単	平成25年2月	奈良産業大学「情報学フォーラム紀要」第8巻	非接触型ICカード「Felica」を「RFID」と「接触型ICカード」の二つの流れの融合として捉え、その位置づけを明確にすると共に、Felicaの技術要素を分析した後、Feliacアプリケーション開発に取り組み、その成果を報告した。
企業合併に伴う情報システム統合のリスクに関する考察 ：三銀行の事例分析に基づく(特集 リスクマネジメント)	単	平成25年9月	日本情報経営学会誌 34(1), 52-63	情報化が進展した企業どうしの合併においては、それらの情報システムの統合が、合併の成否を左右する。先の論文においては、みずほ銀行の合併に伴う情報システム統合の問題を扱ったが、本論では、それをさらに深化させるとともに、システム統合に成功した北洋銀行および三菱東京UFJ銀行の事例研究を加え、みずほ銀行のシステム統合がなぜ大きなトラブルを引き起こしたかを、成功事例との比較から論じている。
商品コードの標準化とその後の動態に関する考察 ： UPC、EAN、JAN、GTINを巡って	単	平成25年12月	奈良産業大学紀要第30集	今日の流通業界を支える情報システムのインフラは「共通商品コード」と「バーコードシンボル」である。これらの標準化の流れが、アメリカに始まり、それがヨーロッパ、日本、世界へと広がりを見せるなか、生じた問題点を整理し、今後の大きな潮流であるGTINの普及に際して考慮すべき注意点を述べている。

［注］

1 最近10年間の教育活動、研究活動について作成すること。

2 「教育活動」については、各項目ごとに年月日順に、「学会等および社会活動」については、就任年月日順に記入すること。

3 「研究活動」については、下記の点に留意すること。

① 著書・論文及びその他の順に、発表年月日順に記入すること。

② 著者が複数にわたる場合で、筆頭著者が著書・論文等において明示されている場合には、その氏名に◎印を付すこと。

③ 共著(論文)の場合、「該当頁数」の記入にあたっては、本人の分担箇所を特定できる場合は、その頁数を記載すること。

④ 最近10年間に著書・論文等の発表のなかった者についても、教員名を挙げてその部分を空欄にしておくこと。

⑤ 芸術分野や体育実技等の分野を担当する教員については、著書・論文等以外の競技会、展覧会または演奏会等での発表のうち、特に顕著な業績と認められるものについても記載すること。このほか、専門分野の特性を 考慮し、顕著な業績と認められるものがある場合もこれに含めてもよい。

教　育　研　究　業　績　書

平成26年3月31日

氏名　根岸　章

研究分野	研究内容のキーワード
数学、情報学、経済学	作用素論、量子ウォーク、グラフ理論、ジニ係数

教育上の能力に関する事項

事項	年月日	概要
1　教育方法の実践例		
1）小テストの実施とＬＡＮによる問題、解答の配布	平成15年４月～平成18年３月	奈良産業大学経済学部の専門科目「経済数学演習」で、小テストを毎回実施し、解答の配布を学内ＬＡＮを通じて行った。これによって、部活などで公欠した学生が、当日の授業内容を把握しやすくなり、また、課題を提出することによって休んだ回の授業内容にもついていきやすいようになった。
2）数学用ソフトウェアを用いた数学教育	平成19年９月～現在に至る	奈良産業大学情報学部の専門科目「情報数学II」において、KNOPPIX/MathのCDを配布し、フリーの数式処理ソフトウェアMaximaを用いた数学の学習活動を行った。これによって、関数のグラフをパラメータを使って動的に動かしたりが容易になり、関数の係数の意味を把握した理が容易になるなどの教育効果があった。 平成22年度からは、学内のパソコンがCDから起動できなくなり、Windows版のwxMaximaを利用するように変更した。 平成25年度は新規科目「ゲーム数理」においても、3次元曲線のパラメータ表示などの視覚化に役立てた。
3）達成度別課題演習システムの構築	平成20年４月～平成22年３月	奈良産業大学情報学部の専門科目「情報数学I」において、授業内容を課題として設定し、一つの課題に複数の同種の問題を用意して課題内容未達の学生は、繰り返し課題を行うようなシステムを構築した。学生は学内LANから自分の達成状況が分かる。また、成績評価も絡めることによって課題達成への意欲を持たせるようにした。
4）能力別クラス編成の実践	平成22年４月～平成23年３月	奈良産業大学情報学部１年次生に対し４月当初に数学についてのプレースメントテストを行い、日本人学生に関しては、多喜正城教授とクラス分けをして専門科目「情報数学I」を行った。それによって、学生の状況に応じた授業がしやすくなり、学生のやる気を高める教育効果があった。
5）「基礎数学」の科目設置	平成23年４月～現在に至る	奈良産業大学の全学共通の導入基礎科目「基礎数学I」「基礎数学II」を設置し、4月入学時に全学的に数学についてのプレースメントテストを行い「基礎数学I」から履修、「基礎数学II」から履修、「履修免除」にわけ、それぞれの科目を各学部で複数クラス開講して少人数教育にした。それによって、大部分の学生は数学力の向上が見られるなど教育効果があった。
6）講義科目「情報数学I」と演習科目「情報数学演習I」の同時受講	平成24年４月～現在に至る	奈良産業大学情報学部の平成23年度のカリキュラム改革で、主要科目において講義科目と演習科目を併設して同時受講させるようにした。平成24年度から2年次配当科目として「情報数学Ｉ」と「情報数学演習Ｉ」を同時受講させ、両科目を連携させることによって数学的内容の理解とともに計算力をつけさせるように工夫した。

２　作成した教科書，教材		
１）「経済数学入門」	平成16年４月～ 平成18年３月	奈良産業大学経済学部の専任講師として担当の「経済数学演習」（専門科目、１年次配当、通年、４単位）で使用した上記テキストを産業図書出版社にて製本したもの。 経済学の専門科目で必要とする数学の基礎的な内容を扱っている。高校数学の単なる復習ではなく、他の授業で必要な経済用語なども盛り込み、それによって、学生に興味を持たせる教育効果があった。
２）「数学入門」	平成18年４月～ 現在に至る	同志社大学文化情報学部の非常勤嘱託として担当の「数学入門」（専門科目、１年次配当、半期、２単位）で使用中の教科書。１変数関数の初歩的事項から、微積分、テーラー展開や数値積分までを扱っている。第２版では集合や命題と論理を付録として追加した。 自然数から有理数を導出する考え方と、指数が自然数のベキから小数のベキへの導出を対比させるなどして、いろいろな事項をなるべく関連させながら学習していくように工夫し、それによって、学生に１変数の解析を学習しやすくする教育効果があった。 第2版はA5全146ページ。
３）「統計学入門」	平成19年４月～ 平成24年３月	奈良産業大学ビジネス学部で兼坦した「統計学入門」（学部共通基礎科目、１年次配当、半期２単位）で使用したテキスト。 記述統計について平均や分散、相関係数などまでを扱う。平成20年度からは留学生対応としてルビをふるようにした。なるべく数式を使わずに統計学の概念の理解をさせるように工夫し、それによって、数学が苦手な学生でも統計の基礎的な概念が理解できる教育効果があった。 A4全29ページ。
４）「経済統計入門」	平成19年４月～ 平成24年３月	奈良産業大学ビジネス学部で兼坦した「経済統計入門」（学部共通基礎科目、１年次配当、半期２単位）で使用したテキスト。 インターネットで入手できる経済統計のデータについて、マクロ経済学の諸概念との関連を強調しながら入手方法や意味を扱う。実際のデータを入手したり、それを加工さるような課題を課すことによって、経済データの分析手法を学ばせる教育効果があった。経済統計のデータの更新や統計調査の名称変更などはプリントで補った。
５）「情報数学Ｉ」	平成22年４月～ 平成24年３月	奈良産業大学情報学部の専任教員として担当の「情報数学I」（専門科目、１年次配当、半期、２単位）で使用したテキスト。数学の初歩事項の復習から、２進法、ベクトルや行列の計算など情報で必要とする数学的内容を扱う。高校数学の単なる復習ではなく、学生が躓きやすい個所を強調するなどして、それによって、学生が理解しやすくする教育効果があった。 A4全50ページ。
６）「数学２」	平成23年９月～ 現在に至る	同志社大学の非常勤嘱託として担当の「数学２」（共通基礎科目、２年次配当、半期、２単位）で配布したプリント。１階常微分方程式の初等解法から演算子を用いた連立線形微分方程式の解法までを扱っている。 微積分のみならず、線形代数学との関係も重視し、数学の分野間の関連を意識させ、学生に数学についての認識を深めさせる教育効果があった。 A4全40ページ。
７）「生活の中の数学」	平成23年９月～ 現在に至る	奈良産業大学共通教育科目の平成23年度からの新カリキュラムの「生活の中の数学」（共通教育科目、１年次配当、半期、２単位）で配布したプリントや毎回行った小テストとその解答。内容は線形代数学であるが、本学の学生の学力や専門科目とのつながりを意識したものとしている。毎回小テストを実施し、その解答を学内LANで配布することにより、復習しやすい環境を作った。 全109シート。

8）「情報数学Ｉ」	平成24年４月～現在に至る	奈良産業大学情報学部の専任教員として、平成23年度から改革されたカリキュラムの「情報数学」（専門科目、2年次配当、半期、2単位）で配布したプリント。平成23年度のカリキュラム改革で設置された「基礎数学II」を修得した学生を対象とした科目内容に改めた。授業中のプレゼンテーションではカラー化したものを用意し、より興味をひきやすいようにするとともに、配布プリントはモノ黒を基調として読みやすい物にしている。 全95シート。
3　教育上の能力に関する大学等の評価		
1）特記事項なし		
4　実務の経験を有する者についての特記事項		
1）特記事項なし		
5　その他		
1）奈良産業大学経済学部における教育実績	平成12年４月～平成19年３月	奈良産業大学経済学部の専任教員（平成12年４月から平成19年３月まで専任講師）として、以下のような科目を担当した。 「統計学」（平成12年４月～平成19年３月） 奈良産業大学経済学部の専任講師として担当の「統計学」（専門科目、１年次配当、通年、４単位）において、記述統計と推測統計の内容の授業を行い、それによって、学生にデータの整理の仕方や分析方法を理解させる教育効果があった。 同科目は平成15年度からは大学でのセメスタ制導入に伴い、半期科目の「統計学I」と「統計学II」に分かれた。 「専門演習I」（平成12年４月～平成19年３月） 奈良産業大学経済学部の専任講師として担当の「専門演習I」（専門科目、3年次配当、通年、４単位）において、経済数学と関連した内容の学習とコンピュータの演習を行い、それによって、学生に経済数学の内容と、コンピュータの利用法を理解させる教育効果があった。 「専門演習II」（平成13年４月～平成20年３月） 奈良産業大学経済学部の専任講師として担当の「専門演習II」（専門科目、4年次配当、通年、４単位）において、コンピュータを利用した経済数学の学習用教材の開発を行い、それによって、学生に自ら学んだことの理解を深めるとともに、他者へ教える視点を持たせる教育効果があった。 平成19年度は情報学部所属の専任講師として兼坦した。 「経済数学演習」（平成13年４月～平成18年３月） 奈良産業大学経済学部の専任講師として担当の「経済数学演習」（専門科目、4年次配当、通年、４単位）において、経済学を学習していく上で必要となる基礎的な数学の授業を行った。それによって、学生に経済学の他の専門科目で必要な数学的な基礎知識をつけさせる教育効果があった。

２）奈良産業大学情報学部における教育実績	平成19年４月～現在に至る	奈良産業大学情報学部の専任教員（平成19年４月から平成20年３月まで専任講師、平成20年４月から平成24年３月まで准教授、平成24年４月から現在に至るまで教授）として、以下のような科目を担当した。 「情報数学演習I」（平成25年４月～現在に至る） 奈良産業大学情報学部の専任教員として担当の「情報数学演習I」（専門科目、２年次配当、半期、１単位）において、数式処理ソフトウェアを使いながら情報数学についての授業を行い、それによって、学生に数式処理ソフトウェアの使い方を学ばせ、さらに数学について自ら学んでいく態度を養う教育効果があった。 「情報数学II」（平成25年４月～現在に至る） 奈良産業大学情報学部の専任教員として担当の「情報数学ＩＩ」（専門科目、２年次配当、半期、２単位）において、数式処理ソフトウェアを使いながら、多変数関数の微積分とその計算についての授業を行った。2変数関数のグラフを視覚的に確認できることで偏微分などの知識をより理解しやすくする効果があった。 「ゲーム数理」（平成25年4月～現在に至る） 3DCGの数理的基礎知識の習得を目的として、2次元および3次元における図形の表現方法として、陰関数表示やパラメータ表示、また、座標変換や射影などの授業を行った。 「情報学ゼミIIA」（平成24年４月～現在に至る） 奈良産業大学情報学部の専任教員として担当の「情報学ゼミＩＩA」（専門科目、２年次配当、半期、２単位）において、グラフの読み取りや記述統計、推測統計への理解と、表計算ソフトの習熟を目的とした課題演習を中心としたゼミを行った。それによって、学生に統計学の基礎知識とExcelの様々な関数の利用の知識を習得させる教育効果があった。 「情報学演習III」（平成23年４月～現在に至る） 奈良産業大学情報学部の専任教員として担当の「情報学演習III」（専門科目、４年次配当、通年、４単位）において、Pythonを用いたWindows用GUIアプリケーションの開発を行った。学生にGUIアプリのプログラミングの知識を習得させる教育効果があった。
３）同志社大学工学部における教育実績	平成13年４月～平成17年３月	同志社大学工学部の非常勤嘱託として、以下のような科目を担当した。 「線形代数学I」（平成13年４月～平成17年3月） 同志社大学工学部の非常勤嘱託として担当の「線形代数学I」（専門科目、1年次配当、半期、２単位）において、行列の演算や連立1次方程式の解法、逆行列や行列式の計算などの授業を行い、それによって、学生に行列についての基礎知識を習得させる教育効果があった。 「線形代数学II」（平成13年４月～平成17年3月） 同志社大学工学部の非常勤嘱託として担当の「線形代数学II」（専門科目、1年次配当、半期、２単位）において、線形空間や線形写像とその固有値・固有ベクトルの授業を行い、それによって、学生に固有値・固有ベクトルの理解と使い方を習得させる教育効果があった。

4）同志社大学文化情報学部における教育実績	平成17年４月～現在に至る	同志社大学文化情報学部の非常勤嘱託として、以下のような科目を担当した。 「数学入門」（平成17年４月～現在に至る） 同志社大学文化情報学部の非常勤嘱託として担当の「数学入門」（専門科目、１年次配当、半期、２単位）において、１変数関数の解析を初歩からテーラー展開までを扱う授業を行い、それによって、学生に解析的な手法についての基礎知識を習得させる教育効果があった。 「数学基礎I」（平成17年４月～現在に至る） 同志社大学文化情報学部の非常勤嘱託として担当の「数学基礎I」（専門科目、１年次配当、半期、２単位）において、行列の演算から固有値・固有べとるの計算までを扱う授業を行い、それによって、学生に行列の基礎事項を習得させる教育効果があった。 「数学基礎II」（平成17年４月～平成23年３月） 同志社大学文化情報学部の非常勤嘱託として担当の「数学基礎II」（専門科目、１年次配当、半期、２単位）において、2変数関数の解析を扱う授業を行い、それによって、学生に2変数関数の解析手法を理解させる教育効果があった。 同科目は平成21年度からのカリキュラム改革で2年次配当科目になった。 「教科教育法Ｂ（数学）」（平成23年４月～現在に至る） 同志社大学の非常勤嘱託として担当の「教科教育法Ｂ（数学）」（共通基礎科目、３年次配当、半期、２単位）において、中学・高等学校の教員免許を取得する学生のための数学教育の指導を行った。学生に模擬授業をさせそれをお互いに評価しあうことにより良い授業とは何かを考えさせる教育効果があった。 「数学２」（平成23年９月～現在に至る） 同志社大学の非常勤嘱託として担当の「数学２」（共通基礎科目、２年次配当、半期、２単位）において、常微分方程式の解法についての授業を行った。それによって、学生に数学的なモデルを用いて問題を解決するという考え方を習得させる教育効果があった。

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
1　資格，免許		
1）高等学校教諭第一種免許（数学）	平成2年3月	平成高一め第四三六三号（京都府教育委員会）
2）修士（理学）	平成4年3月	理修第４０３５号（京都大学大学院）
2　特許等		
1）特記事項なし		
3　実務の経験を有する者についての特記事項		
1）特記事項なし		
4　その他		
1）特記事項なし		

研究業績等に関する事項				
著書，学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所，発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（著書）				
1. 数学入門 （再掲）	単	平成18年4月 （第1版） 平成22年3月 （第2版）	学術図書出版社	1変数の解析学を第1章の数と式から始め、初等関数の導入、これらの関数の微積分やテーラー展開、数値積分までを記述。第2版では付録として集合、命題と論理を付け加えた。 A5判　全104頁（第1版）、全146頁（第2版）
（学術論文）				
1. ジニ係数の数理的性質と実証研究例 （査読付）	単	平成23年12月	「奈良産業大学紀要」 第27集 P.79～P.94	ある集団内の格差を表す指標の一つであるジニ係数について、複数の集団のそれぞれのジニ係数と、それを合わせた全体の集団のジニ係数の関係を考察した。必要となる性質を得るため、ジニ係数の定義を拡張し、新たな定義に対し必要となる性質を定理として得た。この結果、ジニ係数の高い集団が全体の集団での比率を増しても必ずしも全体のジニ係数は増大しないことを一般的に示した。また、「国民生活基礎調査」の公開データをもとに、日本の高齢化がジニ係数の増加に与える要因分析を行った。
2. 有限グラフ上の量子ウォークについてⅠ：定義と条件	単	平成25年2月	「奈良産業大学情報学フォーラム紀要」 第8集 p.99-108	有限グラフ上の量子ウォークについて、正準基底の存在を仮定せずに一般的な形式での定義を行った。
3. 有限グラフ上の量子ウォークについてII：例と性質	単	平成25年12月	「奈良産業大学紀要」 第30集 p.57-63	有限グラフ上の量子ウォークについて、2部グラフでの解析において、半分の次数の行列を用いれば十分であることを示した。
（その他）				
「その他：研究会発表10」				

［注］

1 最近10年間の教育活動、研究活動について作成すること。

2 「教育活動」については、各項目ごとに年月日順に、「学会等および社会活動」については、就任年月日順に記入すること。

3 「研究活動」については、下記の点に留意すること。

① 著書・論文及びその他の順に、発表年月日順に記入すること。

② 著者が複数にわたる場合で、筆頭著者が著書・論文等において明示されている場合には、その氏名に◎印を付すこと。

③ 共著（論文）の場合、「該当頁数」の記入にあたっては、本人の分担箇所を特定できる場合は、その頁数を記載すること。

④ 最近10年間に著書・論文等の発表のなかった者についても、教員名を挙げてその部分を空欄にしておくこと。

⑤ 芸術分野や体育実技等の分野を担当する教員については、著書・論文等以外の競技会、展覧会または演奏会等での発表のうち、特に顕著な業績と認められるものについても記載すること。このほか、専門分野の特性を 考慮し、顕著な業績と認められるものがある場合もこれに含めてもよい。

教　育　研　究　業　績　書

平成26年3月31日

氏名　　福西　三千春

研究分野	研究内容のキーワード
芸術分野　絵画分野　油画系	油画　テンペラ　デッサン

教育上の能力に関する事項

事項	年月日	概要
1　教育方法の実践例		
1）グランデッサンの二等分法の実践	平成7年から現在に至る	奈良芸術短期大学美術科洋画コースの非常勤講師の担当の等身大デッサン（専門科目、２年次配当、通年３単位、実技）の授業で実践。大石膏を90ｃｍＸ180ｃｍの紙にデッサンをする。まず横対縦の比率を求め、枠を描く。次に見えるものの中心を求め、二等分されたグリッドを描く。形の端部と中心を2等分していき、グリッドと重なる部分を紙に記録する。グリッド全体に形の端部が記録されたらハッチングをしていく。形態が見え始めたら、ネガのスペースに墨を入れる。墨を入れることでハッチングが浮上することが理想。このグランデッサンをすることで全紙以下の大きさのデッサンは、簡単に短時間でデッサンができ、デッサン力が飛躍的に伸びた。また、画家のあらゆる問題を学生に提示できた。又、難易度の高い授業だが、学生アンケートの結果からも、学生の満足度も高い。
2）彩色デッサンの実践	平成25年4月から現在に至る	奈良産業大学情報学部情報学科の教授として担当した「色彩演習」（専門科目、４年生配当、半期、2単位、演習）において色のサン属性（明度、彩度、色相）を理解するため、彩色デッサ（具体的には紙パック、空き缶、透明なペットボトルの彩色デッサン）、の教育方法を実施したところバルール（色価）、バリューパターン（光と個有色、明度・彩度・色相の相関関係を理解できるようになった。また、学生の能力差があり、学生とディスカションをすることにより学生の問題意識を見つけアドバイスすること（個人指導）をすることにより、授業に対する興味が増し、飛躍的に伸びた学生がいた。学生アンケートの満足度も高かった。
3）クロッキーの実践	平成２5年4月から現在に至る	奈良産業大学情報学部情報学科メディアコースの教授としての担当の「基礎デッサン」（専門科目、２年次配当、半期、２単位、演習）授業で絵画的線描を引けない学生がいる。いわゆる全身運動で、呼吸が伴った線のことである。具体的には最初は５分１人、４分３分と１分と時間を短縮して描いてていく。また一人から二人、三人とモデルを増やしていく。最初は学生は困惑するが徐々に描けるようになる。デッサンを描くモードにしていく。絵コンテ、イメージ記録をマッスとしてとらえられる効果がある。効果としては、絵コンテ、イメージ記録等が簡単に描けるようになる効果がある。学生アンケートの結果からも、学生の満足どが高い。 線描を引くための練習。モチーフは室内の学生。 5分で1枚のペースで枚数を増やしていく。そして だんだんと時間を短くしていく。3分、1分と。学生 は徐々に集中し、デッサンモードになっていく。そこ で、デッサンの授業に入っていく。いわば、導入 部分ではあるが、呼吸の伴った線が引けるようになる効果がある。学生アンケートの結果からも、学生の満足度も高い。

２　作成した教科書，教材		
1）ダビンチのデッサン装置	平成１０年４月 ～現在に至る	奈良芸術短期大学美術科洋画コースの非常勤講師として担当の(デッサン、通年、２年生、実技）にて製作した教材。主としてデッサンの遠近法、形態の把握、見ることのメカニズムを理解することを目的とし、フォルムを描けない学生も、フォルムが描けるという効果、あるいはマッス、立体の構造（プロポーション、ムーブマン、面、ボリューム）をよく理解できたと考える。具体的には適当な大きさ、40ｃｍX50ｃｍ位のパネルにのぞき穴（1ｃｍ）をあけ、次に30ｃｍほどのの間隔を置き、アクリル板に十字線を引き、対象の中心を決め、合わせ、ダーマクラフトで対象物を写し取っていく装置。いわば、１本線のデッサン。今日の、ドローイングにも通ずる。
３　教育上の能力に関する大学等の評価		
1）授業評価アンケートでの評価	平成26年2月	
４　実務の経験を有する者についての特記事項		
1）特になし	平成00年0月0日	
５　その他		
1)特になし		

職　務　上　の　実　績　に　関　す　る　事　項		
事項	年月日	概　　要
１　資格，免許		
1）芸術学士	昭和５３年３月	東京芸術大学美術学部絵画科油画専攻卒業
２）中学校教諭一級普通免許（美術）昭五三中一普通第二四三一０号（東京都教育委員会）	昭和５３年３月	
３）高等学校教諭二級普通免許（美術・工芸）昭五三高二普第二五０三二号（東京都教育委員会）	昭和５３年３月	
２　特許等		
1）特になし		
３　実務の経験を有する者についての特記事項		
1）特になし		
４　その他		

研　究　業　績　等　に　関　す　る　事　項				
著書，学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所，発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要
（著書）				
1）奈良芸術短期大学研究紀要	共	平成１８年８月	奈良芸術短期大学	「練り込みテンペラの可能性について」の概説。練り込みテンペラの紹介と処方箋を記載。練り込みテンペラの呼び名のルーツについても記している。また練り込みテンペラがこれからどのように日本の風土に定着するかが問題である。湿度の高い日本の風土ではカビが発生する。防カビ剤の開発が必要である。現在、ＴＢＺを使用しているが、初期の全容量の3%の氷酢酸も使用している。今後の練り込みテンペラの問題点と可能性についての考察である。OGテンペラの処方箋にも言及している。
（その他）				
1）個展ー福西三千春展	単	平成18年7月	福西三千春展-ＢＵＤＤＨＡ-銀座スルガ台画廊（東京）	画廊企画。162ｃｍｘ390．3ｃｍの大作からＦ0号の小品まで12点の展示。材料はテンペラミスター、自製キャンバス。テーマは前回と同様にブッダの言葉を視覚化を試みた。ブッダの言葉をテーマに描き続けたいと考えがまとまってきた。特に初期仏教に興味があった。様々な経典を勉強する。いかに芸術に心が重要かを感じた作品であった。しかし、所詮、芸術は感情的なものなのか、考えさせられた個展であった。絵画とは６感で知覚したものの再現かということであった。見えないもの、非言語、見ずらさが重要と考えた作品である。
2）個展ー福西三千春展	単	平成19年2月	福西三千春展月祖素画廊（東京）	月素画廊企画のＷｅｂ上での個展形式の発表。BUDDHAシリーズ作品の中から自選した作品。すべて画廊任せの個展である。
3）個展ー福西三千春展	単	平成19年8月	福西三千春展　月素画廊（東京）	月素画廊企画の上記Ｗｅｂ上の作品を実際に柳屋（和歌山・白浜）のロビーにて個展形式で展示。ホテルのロビーに展示するもので年間、何千人も来客する。月素画廊のオーナーがすべてのことを企画する。まだ、歴史の浅い企画画廊である。作品は旧作と新作の展示で搬入は自分で行ったのみ。
4）個展ー福西三千春展	単	平成21年8月	福西三千春展-生きとし生きるものが幸せでありますように一銀座スルガ台画廊（東京）	画廊企画。162ｃｍｘ390.3ｃｍの大作を中心に12点の展示。材料は練り込みテンペラ。防カビ剤はＴＢＺ5%である。5%では奈良県天川あたりの湿度の高いところでも、異常に湿度が上がらない限りカビが発生されないことが分かった。しかし、年数がたてばどのような状態になるか予想がつかない。今後の研究に期待したい。テーマはブッダの言葉、慈経の視覚化を試みた作品である。技法研究、表現研究、造形研究が絡み始めた個展であった。
5）個展ー福西三千春展	単	平成24年8月	福西三千春展　銀座スルガ台画廊（東京）	画廊企画。162ｃｍｘ390.3ｃｍの大作を中心に12点の展示。前回と同じブッダシリーズ。材料は練り込みテンペラ、自製キャンバス（今回は膠下地を試みた）、アクリル、コットンキャンバスを使用。やはり大作がメインである。ブッダシリーズとあるが、ブッダのことばを視覚化しながら描き続けていこうと決心した個展でもある。技法研究ではテンペラミスターと油彩の混合技法、アクリル絵の具、クレヨン、油彩、水彩など描画材料の幅を広げようと試みている。また支持体の幅も広げてはと思った。東京芸術大学准教授、Ｏ　ＪＵＮが絶賛した。

＜グループ展発表＞				
1）飛鳥展	共	平成１８年８月	画廊飛鳥（奈良県）	画廊飛鳥企画の選抜展。自選した「ブッダ」シリーズ３点を出展。比留間良介、三瀬夏ノ助、森川孝浩、福西三千春、赤井正人、北村繁（漆）、岸映子（陶）など様々なジャンルの作家の出品。奈良県の南部に画廊が少なく、なら輪展のメンバーが出品。多くの来客あり。奈良県の南部のアートの活性化に期待したいが、オーナーの喜多龍ノ助氏の話では経営的に大変厳しいものがあるとのことである。奈良県の多くの作家は大阪、京都に発表をする現状がある。今後の様子を見たいし、期待したい。
2）「新しい人」２００７ピースアンデパンダン展ＩＮ浜松２００７ピースアンデパンダン展ＩＮ浜松	共	平成１９年８月	ギャラリーケイブ（静岡・浜松）	ギャラリーケイブ企画のグループ展。Ｆ10号BUDDHA050806 を１点出展。静岡県を中心に活躍する中村昌司の呼びかけで集まった現代美術家、平面、インスタレーション、立体が展示されました。「新しい人」をテーマに現代美術家の展示でしたが、初めての参加で、遠方ということもあり小品、Ｆ10の出展。出品作家、池谷豊、伊藤怜子、乾久子、今井宏、奥中章人、掛川市内高校生、高木健、多々良栄里、竹内康人、中野球一、ナカムラマサシ、丹羽勝次、福西三千春、松浦澄江、森妙子、安井寛一。公募団体、年齢は様々である。次回機会があればぜひ参加したいと思う。
3）奈良芸術短期大学研究紀要	共	平成２０年８月	奈良芸術短期大学	作品掲載発表。ブッダシリーズからＦ１50号をを発表。材料は、テンペラミスター、石膏下地、キャンバス、防かび剤はＴＢＺ。この作品は特にテンペラミスターの防カビ剤、ＴＢＺの容量の実験である。卵黄、リンシードオイル、膠等の全容量の3%を入れていたが、赤井正人（奈良芸術短期大学卒業生）の報告では、湿度の高い（奈良県・天川）ではカビがはえるとの報告があった。ＴＢＺ5%，初期の氷酢酸3%を防腐剤として入れた。一年間、観察するがカビがわずかに入る。やはり卵黄、膠のタンパク質が問題である。ワニスを塗ることで対応する。またできる限り、タンパク質、具体的には卵黄を抜いた、ものに改良が求められる。ＯＧテンペラ（カゼインテンペラの応用）も視野に入れ実験を続けたい。初期のテンペラミスターよりカビがはえにくくなっている。また実験結果は、数年後の様子を観察しなければならない赤井氏の協力で、湿度の高い天川でも観察してしている。
4）世界遺産姫路城現代美術ビエンナーレ展2010	共	平成２２年８月	主催：姫路市市民プラザ、姫路城現代美術ビエンナーレ委員会。後援兵庫県　姫路市　姫路市教育委員会、財団法人：姫路市文化交流財団助成事業	国内外の現代美術作家、立体、平面作家50人の作家作品の展示。2000名以上の来客あり。F100号、２点出品。（立体）・生島豊昭、井上京太、加藤昭男、小島弘、栄利秋、鹿間厚次郎、など１３名（平面）濱田顕、岡芙美子、コウノ真理、福西三千春、橋本清、ナガイマモル、元木昭治など、ロシア、アメリカ、メキシコの作家３７名の平面作家による２年に１回のビエンナーレ展覧会。会期中、兵庫県立美術館　館長　蓑豊　の講演が開かれた。図録あり。
5）Who’s Who ART VIVI展	共	平成２３年２月	茶屋町画廊（大阪）	画廊企画。関西の現代作家、立体、平面作品の展示。Ｆ３０号を出品。「立体」・生島豊昭、鹿間厚次郎、橋本清、笹川まさ子,水嶋康宣など１０名、「平面」井上祥子、奥村安尚、日和佐治雄、福西三千春、松本順子、よろずふきこ、竹村京子、元木昭治など２２名の現代美術家の展示。グループてんを行うと必ずというほどトラブルが出てくる。その問題を解決できるかを確かめる実験展でもある。年齢、公募団体は様々である。

6) Who's Who ART VIVI展	共	平成２３年３月	ギャラリー石彫（兵庫）	画廊企画。関西の現代作家、立体、平面作品の展示。Ｆ３０号を出品。「立体」・生島豊昭、鹿間厚次郎、橋本清、笹川まさ子,水嶋康宣など１０名、「平面」井上祥子、奥村安尚、日和佐治雄、福西三千春、松本順子、よろずふきこ、竹村京子、元木昭治など２２名の現代美術家の展示。ギャラリー菊で開催したものを別空間に展示することにより問題を別角度から検証する実験展。年齢、公募団体は様々である。
7) Corega関西展	共	平成２３年４月	ギャラリーモダン（神戸）	関西の現代作家の企画展。Ｆ５０号を出展。（立体）・生島豊昭、栄利秋、鹿間厚次郎、山田幸作、山本哲三,（平面）・奈須豊、夏目陽子、橋本清、初田寿、よろずふきこ、松下元夫、吉田哲夫、吉見敏治、よろずひきこ、米田整弘など１０人の展示。年齢、公募団体、様々である。ギャラリーモダンは、企画のみのセカンダリーギャラリーである。具象中心の画廊であるが、以上のメンバーを扱うのは、初めてであるとのことである。クオリティの高い展覧会であった。
8) Who's Who ART VIVI展	共	平成２４年２月	ギャラリー菊（大阪）	画廊企画。関西の現代作家、立体、平面作品の展示。Ｆ３０号を出品。「立体」・生島豊昭、鹿間厚次郎、橋本清、笹川まさ子,水嶋康宣など１０名、「平面」井上祥子、奥村安尚、日和佐治雄、福西三千春、松本順子、よろずふきこ、初田寿、中道紀子、夏目陽子、浜田夏子、内木孝志、中西節子、上田康宣、勝谷龍亮、竹村京子、元木昭治など２２名の現代美術家の展示。グループてんを行うと必ずというほどトラブルが出てくる。その問題を解決できるかを確かめる実験展でもある。
9) Who's Who ART VIVI展	共	平成２４年３月	ギャラリー石彫（兵庫）	画廊企画。関西の現代作家、立体、平面作品の展示。Ｆ３０号を出品。「立体」・生島豊昭、鹿間厚次郎、橋本清、笹川まさ子,水嶋康宣など１０名、「平面」安尚、日和佐治雄、福西三千春、松本順子、よろずふきこ、初田寿、中道紀子、夏目陽子、浜田夏子、内木孝志、中西節子、上田康宣、勝谷龍亮、竹村京子、元木昭治など２２名の現代美術家の展示。ギャラリー菊で開催したものを別空間に展示することにより問題を別角度から検証することができた。画廊が変わると、それぞれの作品の見え方が変わるところに興味を持った。知らない作家とグループ展をするのは大変、参考になる。
10) 世界遺産姫路城現代美術ビエンナーレ展2012	共	平成２４年７月	主催：姫路市市民プラザ、姫路城現代美術ビエンナーレ委員会。後援兵庫県　姫路市　姫路市教育委員会、財団法人：姫路市文化交流財団助成事業	国内外の現代美術作家、立体、平面作家50人の作家作品の展示。2000名以上の来客あり。F100号、２点出品。今回は、優秀賞にあたる、白鷺賞を受賞。（立体）・生島豊昭、井上京太、加藤昭男、小島弘、栄利秋、鹿間厚次郎、など１３名　（平面）生駒泰充、岡芙美子、コウノ真理、福西三千春、橋本清、ナガイマモル、元木昭治など、ロシア、アメリカ、メキシコの作家３７名の平面作家による２年に１回のビエンナーレ展覧会。会期中、美術評論家、吉村良夫の講演が開かれた。年齢、公募団体、年齢は様々である。今回は、最優秀賞の白鷺賞を受賞する。
11)スルガ台画廊開廊５０周年記念小品展	共	平成24年10月	銀座スルガ台画廊（東京）	画廊ゆかりの、現在活躍中、画壇を牽引している、若手の俊英作家の選抜企画展。小品展。Ｆ0号を出展。坂田哲也、野見山暁治、佐藤一郎、佐野ぬい、石井勢津子、小木曽誠、福西三千春、山村博男、諏訪敦、島田鮎子、木津文哉、木村克郎、寺田栄次郎,、開光一、など４２名の小品展。４２名と多いのでｆ３号までを各作家が持ち寄り画廊が展示する。画廊企画である。以上は洋画である。その2では日本画の展示がある。銀座スルガ台画廊から多くの作家が育った。最近では、松井冬子、村上隆もそうである。年齢、公募団体、ジャンルは様々である。

12)Who's Who ART VIVI展	共	平成２５年２月	ギャラリー菊（大阪）	画廊企画。関西の現代作家、立体、平面作品の展示。Ｆ３０号を出品。「立体」・生島豊昭、鹿間厚次郎、橋本清、笹川まさ子,水嶋康宣など１０名、「平面」上　順子、コウノ真理、佐藤廣子、中西節子、浜田夏子、福本美智子、堀江忠史、井上祥子、奥村安尚、日和佐治雄、福西三千春、松本順子、よろずふきこ、竹村京子、元木昭治など２２名の現代美術家の展示。グループてんを行うと必ずというほどトラブルが出てくる。その問題を解決できるかを確かめる実験展でもある。公募団体、ジャンル、年齢は様々である。
13)Who's Who ART vivi展	共	平成２５年３月	ギャラリー石彫（兵庫県・高砂市）	画廊企画。関西の現代作家、立体、平面作品の展示。Ｆ３０号を出品。「立体」・生島豊昭、鹿間厚次郎、橋本清、笹川まさ子,水嶋康宣など１０名、「平面」上　順子、コウノ真理、佐藤廣子、中西節子、浜田夏子、福本美智子、堀江忠史、井上祥子、奥村安尚、日和佐治雄、福西三千春、松本順子、よろずふきこ、竹村京子、元木昭治など２２名の現代美術家の展示。ギャラリー菊で開催したものを別空間に展示することにより問題を別角度から検証する実験展。
14)播磨文化賞美術展	共	平成２５年５月	主催：、播磨文化大賞選考委員会、播州美術賞運営委員会、ギャラリー、石彫（高砂市）	受賞者６名の平面作品のの展示。元木昭治（文化大賞）、福西三千春（文化大賞）、熊野融（美術賞）、苧玉紀夫（奨励賞）、鈴木孝典（功労賞）の作家が３点以上の作品を展示した。ノータイトルの平面作品から絵画までの内容である。ブッダシリーズ、Ｆ３０号を三点出品。年齢、ジャンルは様々である。
15)日本美術家連盟全近畿地区会員展「きのうとあすの対話Ⅱ」	共	平成25年5月から6月	兵庫県立美術館王子分館、原田の森ギャラリー、主催日本美術家連盟近畿地区、後援、大阪府、奈良県、和歌山県、京都府、滋賀県、神戸市、兵庫県教育委員会、神戸市教育委員会（公財）兵庫県芸術文化協会	日本美術家連盟全近畿地区会員展。約350名の洋画、彫刻、版画の作家達の第2回目の展覧会。各公募団体、無所属、ジャンル、年齢を超えてがコンセプトである。しかし、会場（展示室）を仕切り壁があり、見にくかった。期間中、講演会、懇親会等のイベントも開催され盛況だったが、問題も多いように思った。ジャンルを超えてとあるが、展示空間をうまく活用できず、見やすくは展示できていたが、少々、見づらくても、カテゴリーを作らづ展示をしたほうがいいのではないかと思った。色々の問題を含んだ展覧会であった。反省会でも取りざたされるであろう。しかし関西の画壇の全貌がみれたことは参考になった。
16)明日への視点	共	平成25年７月	ギャラリー菊（大阪）	ギャラリー菊の企画６人のグループ展。Ｆ100号、Ｆ30号、Ｆ10号の3点（ブッダシリーズである）を出展。出品作家は掛井五郎、古川昭芳、岡田信美、野田龍二、原田、明、福西三千春である。この画廊企画は、画廊が「明日への視点」というタイトルで６人限定の個展感覚ののグループ展という形をとっている。新鮮さと交流を目的としている。公募団体の出品者以外にもっと見てもらえる機会が欲しいという言う作家の要望に応えるという企画に賛同する作家たち６人が参加した。それぞれの作家は、面識がなく。展示に関しては６人の作家が相談して展示することになっている。一名は立体で、その他の作家は平面である。具象、抽象絵画、と問わず、公募団体の枠を超え、様々な視点を持つ作品であった。交流によって啓発がはかれ、アートの輪が広がり大変好評であった。

17）Who’s Who ART VIVI展	共	平成26年2月	ギャラリー菊（大阪）	画廊企画。関西の現代作家、立体、平面作品の展示。Ｆ３０号を出品。「立体」・生島豊昭、鹿間厚次郎、橋本清、笹川まさ子,水嶋康宣など１０名、「平面」安尚、日和佐治雄、福西三千春、松本順子、よろずふきこ、初田寿、中道紀子、夏目陽子、浜田夏子、内木孝志、中西節子、上田康宣、勝谷龍亮、竹村京子、元木昭治など２２名の現代美術家の展示。ギャラリー菊で開催したものを別空間に展示することにより問題を別角度から検証することができた。画廊が変わると、それぞれの作品の見え方が変わるところに興味を持った。知らない作家とグループ展をするのは大変、参考になる。
18）Who’s Who ART VIVI展	共	平成26年3月	ギャラリー石彫（高砂市）	画廊企画。関西の現代作家、立体、平面作品の展示。Ｆ３０号を出品。「立体」・生島豊昭、鹿間厚次郎、橋本清、笹川まさ子,水嶋康宣など１０名、「平面」安尚、日和佐治雄、福西三千春、松本順子、よろずふきこ、初田寿、中道紀子、夏目陽子、浜田夏子、内木孝志、中西節子、上田康宣、勝谷龍亮、竹村京子、元木昭治など２２名の現代美術家の展示。ギャラリー菊で開催したものを別空間に展示することにより問題を別角度から検証することができた。画廊が変わると、それぞれの作品の見え方が変わるところに興味を持った。知らない作家とグループ展をするのは大変、参考になる。

［注］

1 最近10年間の教育活動、研究活動について作成すること。

2 「教育活動」については、各項目ごとに年月日順に、「学会等および社会活動」については、就任年月日順に記入すること。

3 「研究活動」については、下記の点に留意すること。

① 著書・論文及びその他の順に、発表年月日順に記入すること。

② 著者が複数にわたる場合で、筆頭著者が著書・論文等において明示されている場合には、その氏名に◎印を付すこと。

③ 共著(論文)の場合、「該当頁数」の記入にあたっては、本人の分担箇所を特定できる場合は、その頁数を記載すること。

④ 最近10年間に著書・論文等の発表のなかった者についても、教員名を挙げてその部分を空欄にしておくこと。

⑤ 芸術分野や体育実技等の分野を担当する教員については、著書・論文等以外の競技会、展覧会または演奏会等での発表のうち、特に顕著な業績と認められるものについても記載すること。このほか、専門分野の特性を 考慮し、顕著な業績と認められるものがある場合もこれに含めてもよい。

教　育　研　究　業　績　書

平成26年3月31日

氏名　向井 厚志

研究分野	研究内容のキーワード
地球惑星科学	固体地球惑星物理学、地殻変動

教育上の能力に関する事項

事項	年月日	概要
1　教育方法の実践例		
1）授業時の配布資料及び学生作品のインターネット上での公開	平成21年9月～平成22年1月	奈良産業大学情報学部情報学科の教授として担当した３年次配当の専門教育科目「マルチメディア制作」（半期４単位）において、授業中の配布資料とともに同時間内に課題として制作したFlashコンテンツのサンプルをインターネット上に公開した。これによって、授業時間外においてもWeb上で授業内容を再確認でき、受講生が復習及び自主課題制作の参考にすることができた。授業期間内に作成した学生作品についても、受講生の了承の上でインターネット上で公開することで、他者の多様な作品に触れることが可能となり、次年度に同科目を受講する学生が自主作品を制作する際の重要な指針となった。 公開：http://www.nara-su.ac.jp/~mukai/ （左欄メニュー「マルチメディア制作」）
2）レポートの提出及び返却を通した受講生との交流	平成21年4月～現在に至る	奈良産業大学情報学部情報学科の教授として担当した１年次配当の共通教育科目「地球科学Ⅰ」「地球科学Ⅱ」「地球と環境」（いずれも半期２単位）において、授業時間の末尾10分間を用いて、当該授業で取り上げた事項についてまとめさせるとともに、授業内容で理解できなかった点及び疑問点を書かせ、毎回、レポートとして提出させた。これは、学生評価アンケートにおいて３割程度の受講生が「難易度が高い」と答えたことへの対応であり、授業ごとに学生の理解度を確認し、話し方や図表の用い方を修正する際の材料とした。また、提出されたレポートは添削するとともに、疑問点等に対して個々に返答を記述し、次回の授業時に返却することで、学生の理解度向上及び興味・関心の引き出しを図った。
3）ワークシートによる手作業を通した授業内容の理解度向上	平成22年9月～平成23年1月	奈良産業大学情報学部情報学科の教授として担当した１年次配当の共通教育科目「現代社会と地理」（半期２単位）において、毎回の授業でワークシートを配布し、聴講と並行して作図等の課題に取り組ませた。白地図に資源分布を描いたり、エラトステネスによる地球半径の計測の再現や東海道五十三次の旅行日程の作成など、ワークシート上で作図や計算を行なうことで、積極的に授業に取り組む姿勢を引き出すとともに、授業内容の理解度を向上させることができた。
2　作成した教科書，教材		
1）テキスト情報基礎演習（再掲）	平成17年4月	全体の概要： 奈良産業大学の情報系教育のために作成された教科書であり、ワープロ、表計算、HTMLによる文書構造化などのITリテラシーが学べる内容となっている。 総頁数：147頁 共著者：中尾泰士・嶋田理博・向井厚志 本人担当部分： 第３章「Office表計算演習」(pp.107-147)の執筆を担当し、表計算ソフトExcelの利用方法を解説した。Officeのバージョンアップに伴い、上記テキスト「情報基礎演習」を改訂した教科書である。
2）講義用補助教材「地球科学Ⅰ」「地球科学Ⅱ」「地球の科学」「地球と環境」「環境を考える」	平成19年4月～現在に至る	奈良産業大学情報学部情報学科の准教授又は教授として担当した１年次配当の共通教育科目「地球科学Ⅰ」「地球科学Ⅱ」「地球の科学」「地球と環境」「環境を考える」（いずれも半期２単位）において、授業時間内に使用する図表を掲載したプリントを作成し、毎回の授業で配布している。同じ図表は教室前面のスクリーンにも投影しており、受講生は手元の配布資料で詳細を確認できる。授業中、図表から読み取れる事柄について考えさせるようにしている。

３）講義用補助教材「データ解析」	平成17年4月～ 平成18年3月	奈良産業大学情報学部情報学科の助教授として担当した３年次配当の専門教育科目「データ解析」（通年４単位）において、授業時間内で取り上げる項目の概要を記したプリントを作成し、毎回の授業で配布した。プリントには練習問題の他、例題とその解法も記載することで、聴講しながら計算式の取り扱い方を確認することができ、授業内容の理解度向上を図ることができた。
４）講義用補助教材「プログラミング基礎」	平成20年4月～ 平成21年7月	奈良産業大学情報学部情報学科の准教授又は教授として担当した１年次配当の専門教育科目「プログラミング基礎」（半期２単位）において、授業時間内で扱う命令文や関数等の概要を記したプリントを作成し、毎回の授業で配布した。関数の解説時には、必要なパラメータの種類及び意味を明示し、設定可能な値の例とその効果を記すようにした。配布資料はインターネット上に公開し、自宅からでも参照できるようにした。 公開：http://www.nara-su.ac.jp/~mukai/ （左欄メニュー「プログラミング基礎」）
５）講義用補助教材「集中導入演習」	平成21年4月	奈良産業大学情報学部情報学科の教授として担当した新入生対象の「集中導入演習」（平成21年4月9日～11日の集中講義）で配布するテキストの作成及び編集を担当した。本人が執筆した項目は、同テキストの「教員紹介」「各種ガイダンス」「履修登録」「履修確認」「e-learning」「学内施設ガイダンス」「PC教室の利用」である。その日を振り返りながら授業内容を記したり、感想や質問を書き込んだりする欄を設け、毎日、担当教員にテキストを提出させた。こうした作業を通して大学生活のリズムに馴染ませるとともに、テキストを交換日記風に活用することで担当教員との交流を深めていくきっかけとなった。
６）講義用補助教材「現代社会と地理」	平成22年9月～ 平成23年1月	奈良産業大学情報学部情報学科の教授として担当した１年次配当の共通教育科目「現代社会と地理」（半期２単位）において、授業時間内に使用する図表を掲載したプリントを作成し、毎回の授業で配布した。同時にワークシートも配布し、プリントの図表を参照しながらワークシート上で作図や計算を行なうことで、授業に積極的に取り組む姿勢を引き出すとともに、授業内容の理解度向上を図った。
３　教育上の能力に関する大学等の評価		
１）学生からの評価（奈良産業大学における授業評価アンケート）	平成20年度～ 平成25年度	奈良産業大学では、担当科目の一部で学生による授業評価アンケートを毎年実施している。過去６年間のアンケート結果によると、受講生の満足度は次の通りとなった。なお、満足度の点数は、「満足」を100点、「やや満足」を66点、「やや不満」を33点、「不満」を0点とした100点満点の重み付き平均として求めた。 ①「地球科学」77点（平成20，22～25年度の平均） ②「地球と環境」76点（平成22～25年度の平均） ③「現代社会と地理」78点（平成22年度） ④「プログラミング基礎」59点（平成20～21年度の平均） ⑤「マルチメディア制作」74点（平成21～22年度の平均） 以上のように「プログラミング基礎」を除き、比較的高く評価されている。
４　実務の経験を有する者についての特記事項		
１）奈良商業高校情報教育実習「Adobe Illustratorで年賀状を描こう」	平成16年11月25日 平成17年11月17日 平成18年12月 1日 平成19年11月30日	奈良商業高校２年生を対象とした大学体験授業のひとつとして企画され、イラスト制作の授業（90分間）を担当した。Illustratorの基本操作として、基本図形やベジエ曲線の作成、変形や配色の方法等を学んだ後、来年度の干支をモチーフとしてイラストを作成してもらった。完成したイラストは年賀状に印刷し、デジタル・ファイルとともに学習成果として持ち帰ってもらった。
２）情報教育基礎研修会「HTML言語によるウェブページの制作」	平成16年8月4日	幼小中高の教職員向けの夏季講習会のひとつとして企画され、ウェブページの作成方法を学ぶ授業（午前150分間、午後150分間）を大西菊太郎教授（退職）とともに担当した。本人は午後の授業を担当し、リンクの設定やフリーウェア素材の活用、Javascriptの使い方等を教授した。課題として学校紹介のWebページを取り上げることで、受講者が自身の学校のWebサイト構築に役立てることができるようにした。

３）第11回奈良産業大学情報学部公開講座「移動する大陸」	平成16年10月16日	奈良産業大学情報学部が主催する市民向けの公開講座として開催され、大陸移動仮説の提唱からプレート・テクトニクス理論の確立に至るまでの地球科学分野における研究の流れを約90分間で紹介する内容とした。地元三郷町の市民を中心に約20名が集まり、大陸移動仮説が受け入れられていく過程や大陸が移動するメカニズムなどについて、図表を交えながら解説した。
４）教職員のための公開講座「プレゼンテーション教材の作成」	平成17年 7月29日 平成17年12月26日 平成18年 8月 4日 平成18年12月25日 平成21年 8月 5日 平成22年 8月 4日	幼小中高の教職員向けの夏季又は冬季講習会のひとつとして企画され、PowerPointによるプレゼンテーション資料の作成方法を学ぶ講座（午前150分間、午後150分間）を担当した。文字の入力や表・グラフの作成、動画の取り扱い、アニメーション効果の適用などの基本操作を学ぶ内容であり、学校現場で取り扱われる可能性のある具体的な課題（運動会の記録など）を設定することで、本講座で学んだ技術をすぐに活用できるようにした。
５）教職員のための公開講座「Flashを用いたインタラクティブな教材の作成」	平成19年8月 7日 平成20年8月 5日 平成23年8月10日	幼小中高の教職員向けの夏季講習会のひとつとして企画され、Webコンテンツ作成ソフトFlashによる教材の作成方法を学ぶ講座（午前150分間、午後150分間）を担当した。Flashの基本操作として、文字や図形の作成、アニメーションの設定、プログラミング等を学んだ後、地図パズルや英語クイズのような生徒が能動的に働きかけることのできる教材を作成した。具体的な教材の作成に取り組むことで、Flashコンテンツを自作する手順や基本的な制作技能を修得させることができた。
６）筒井小学校・夏季研修会「プレゼンテーション資料の作成」	平成19年8月8日 平成21年8月7日	大和郡山市立筒井小学校の夏季研修会として企画され、PowerPointによるプレゼンテーション資料の作成方法を学ぶ演習（150分間）を担当した。ムービーメーカーによる動画の編集も含め、動画の取り扱い及びスライドショーの活用方法を中心に演習内容を組み立てた。動画としては、様々な教科で活用できるフリーウェアの教材を紹介した。また、スライドショーでは、実際に教卓に立ち、各自が作成したスライドを用いたプレゼンテーションを行なってもらった。
７）夏休みの宿題 大学でやっちゃおう「ぐらぐら地震はどこで起こる」	平成19年8月18日	地元小学生を対象とした奈良産業大学主催の夏休み教室のひとつとして企画され、震源分布の特徴から地震の発生メカニズムを考える内容とした（約60分間）。特に日本周辺に着目し、震源分布に偏りがあることに気付かせた後、OHPシートとフロッピーディスクの透明ケースを組み合わせて震源分布の立体模型を作成した。震源が日本列島に対して斜めに潜り込んでいる様子を確認し、プレートの沈み込みに伴う地震発生のメカニズムについて解説した。
８）少年宇宙教室	平成20年8月 2日 平成21年8月 9日 平成22年8月28日 平成23年8月 7日 平成24年8月 4日 平成25年8月10日	奈良産業大学情報学部の地学系教員を主体として企画された地元小学生対象の科学教室であり、夏休み期間を中心に年数回開催してきた。本教室の目的は、子供たちがもつ地球科学及び宇宙科学への興味・関心を引き出すことにあり、本人は年数回のうち１回の教室を担当している。これまで本人が実施した教室は次の通りである。 平成20年度「ペットボトルロケットを飛ばそう」 ペットボトルロケットを組み立てた後、最も遠くまで飛ばせる打上角度を調べる。 平成21年度「月の地形をしらべる『かぐや』のしくみ」 月探査衛星「かぐや」の概要を紹介し、月面地図の模型を作りながら、月の特徴を調べる。 平成22年度「探査機『はやぶさ』で探る小惑星」 小惑星探査機「はやぶさ」の概要を紹介し、「いとかわ」の立体模型を作りながら、特徴を調べる。 平成23年度「太陽系の惑星をさぐる」 地球や土星、天王星の模型を粘土で作りながら、惑星の大きさと重さを比較し、惑星の組成を考える。 平成24年度「惑星はなぜ迷う？」 地球と火星の太陽系儀を組み立て、地球と火星の公転運動を再現しながら、火星が逆行して見える理由を実験的に確かめる。 平成25年度「探査車を作ろう」 月と火星を調べる探査車の特徴について解説するとともに、ゴムを動力とする車を厚紙で作成し、ゴムの伸びと移動距離の関係を調べた。 なお、平成20、21、23、25年度にはJSTの地域活動支援に採択された。平成21年度には、向井は実施主担当として教室の運営に当たった。

９）三郷北小学校・夏季講習会「Flashを用いたインタラクティブな教材の作成」	平成20年8月7日	三郷町立三郷北小学校の夏季講習会として企画され、Webコンテンツ作成ソフトFlashによる教材の作成方法を学ぶ演習（午前120分間、午後150分間）を担当した。Flashの基本操作として、文字や図形の作成、アニメーションの設定、プログラミング等を学んだ後、生徒が能動的に働きかけることができる教材の例として「英語クイズ」の制作に取り組んだ。本講習会を通して、教材として利用可能なFlashコンテンツを自作することができる技能を修得させることができた。
10）奈良商業高校情報教育実習「Adobe Illustratorでキャラクタを描こう～イラストによる集合写真の作成～」	平成20年11月28日 平成21年11月27日	奈良商業高校２年生を対象とした大学体験授業のひとつとして企画され、イラスト制作の授業（90分間）を担当した。Illustratorの基本操作として、基本図形やベジエ曲線の作成、変形や配色の方法等を学んだ後、自分の似顔絵を作成してもらった。完成した似顔絵はgifファイルで保存して提出してもらい、あらかじめ用意しておいたHTMLファイルに読み込ませることによって、「集合写真」のようにブラウザ上で全員の似顔絵を並べて表示できるようにした。
11）奈良産業大学公開講座・王寺町リーベルカレッジ「地球の揺らぎを捉える」	平成21年6月13日	奈良産業大学が主催する市民向けの公開講座として開催され、古代における地球半径の測定から現代の衛星測地に至る測地学の歴史を約90分間で紹介した。特に現代では、VLBIやGPSなどの宇宙測地技術を使って大陸の動きを直接測り、地震による地面のゆがみまで瞬時に視覚化できるようになった。こうした現代の様々な測地技術を紹介し、測定原理の解説を行なった。地震に伴う日本列島の変形はニュース等で取り上げられることがある。本講座を通して測定手法への理解を深め、地表変形の図表を正しく読み取る方法を周知することができた。
12）教員免許更新のための講習会「プレゼンテーション資料の作成」	平成21年8月3日 平成23年8月9日 平成24年8月9日 平成25年8月8日	教員免許更新のための講習会のひとつとして企画され、PowerPointによるプレゼンテーション資料の作成方法を学ぶ講習（午前90分間、午後180分間）を担当した。文字の入力や表・グラフの作成、動画の取り扱い、アニメーション効果の適用など、プレゼンテーション資料を作成する上で必要な基本操作を修得する内容とした。その際、図表のもととなるデータは統計局のWebサイトからダウンロードするなど、実践的な資料作成に取り組んだ。講習会の最後には課題を提示し、学習内容の修得状況の確認を行なった。
13）日本測地学会サマースクール2009 講演「坑内地殻変動観測」及び水準測量実習	平成21年9月10日 ～9月12日	日本測地学会が主催する平成21年度サマースクール（阿蘇・火山研究センター）に講師として参加し、9月10日に「坑内地殻変動観測」という題目で約60分間の講演を行なった。サマースクールには測地学の研究者を志す学部学生及び院生が参加することから、多様な坑内観測方法やその研究成果について紹介し、坑内観測の魅力を伝えるようにした。また、9月11日及び12日の水準測量実習では、実習指導及び解析指導を行ない、測地学における研究活動の基本となる測定、解析、考察、発表の流れを体験してもらった。
14）日本測地学会サマースクール2010 水準測量実習	平成22年9月8日 ～9月11日	日本測地学会が主催する平成22年度サマースクール（木津川市・国際高等研究所）の実施主担当として参加し、サマースクールの企画・運営を担当した。サマースクールには測地学の研究者を志す学部学生及び院生が参加することから、様々な測地学分野で最先端の研究を行なっている講師を集め、講演会を設定するとともに、GPSや水準、重力といった基本的な測定手法を体験してもらう内容とした。講演時間がやや長くなったものの、従来より期間が１日多く、余裕をもって実習に取り組むことができ、参加者との交流を深めることができた。
15）御所市立葛上中学校・大学体験学習「Visual StudioによるＣ言語プログラミング～ちょっと変わったウィンドウ・アプリケーション～」	平成23年10月7日	御所市立葛上中学校３年生を対象とした大学体験授業のひとつとして企画され、プログラミングを体験する授業（90分間）を担当した。プログラミングの結果が視覚的に確認しやすいウィンドウ・アプリケーションを題材に選び、マウス・イベントを利用した作図やウィンドウを丸く切り取るプログラムの作成に取り組んだ。ウィンドウの切り取りやデスクトップ上への描画等、少し変わったアプリケーションを題材に選ぶことで、プログラミングの可能性の広がりを感じ取ってもらった。
16）教職員のための公開講座「Flashによる絵本の作成」	平成23年12月26日	幼小中高の教職員向けの冬季講習会のひとつとして企画され、Webコンテンツ作成ソフトFlashを用いて絵本を作成する演習（午前150分間、午後150分間）を担当した。図形の作成方法を学んだ後、絵本「三匹のこぶた」の素材を自作し、アニメーションやシーンの切り替えを設定した。プログラミングを少なくすることで、より幅広い教職員の方々が受講しやすい内容とした。本講習会を通して、生徒向けの絵本を自作できる技能を身に付けることができた。

17）教職員のための公開講座「Phunを用いた物理シミュレーション」	平成24年8月7日	幼小中高の教職員向けの夏季講習会のひとつとして企画され、フリーウェアの物理シミュレーションソフトPhunを用いてPC上で物理実験を体験する方法を学ぶ講座（午前150分間、午後150分間）を担当した。Phunの基本操作として、物体の作成、密度の設定、物体の移動・変形等を学んだ後、落体の実験、振子やバネによる振動の実験のような授業で取り上げられる物理実験を再現した。具体的な実験素材の作成に取り組むことで、マウスを通して生徒が能動的に働きかけ、自ら繰り返し実験を行なうことのできるコンテンツを自作する手順や基本的な制作技能を修得させることができた。
18）奈良産業大学公開講座・王寺町リーベルカレッジ「大地の動きと地球環境」	平成24年10月6日	奈良産業大学が主催する市民向けの公開講座として開催され、大陸移動仮説の提唱から海洋底拡大の発見、プレートテクトニクス理論の確立までの経緯を紹介した。特にウェゲナーが提示した大陸移動仮説の証拠を検証するため、厚紙で作成した各大陸のパズルを用意し、大陸の配置を変えることで海岸線（大陸棚）の形状が一致すること、古生物の分布や氷河の分布がうまく説明できることを作業を通して確認できるようにした。
19）奈良産業大学公開講座・王寺町リーベルカレッジ「大地の歪みを測定する」	平成24年10月20日	奈良産業大学が主催する市民向けの公開講座として開催され、日本列島の変位を連続観測している国土地理院のGEONETを紹介し、その成果として2011年東北地方太平洋沖地震に伴う地表変位や通常時の地表変位速度について解説した。これら地表変位の原因として、プレートテクトニクス理論に基づく海洋プレートの沈み込みと大陸プレートの弾性的な応答について説明した。この際、OHPシートで作成した地表変位ベクトルの分布図やプレート構造、震源分布図などを用意し、複数の情報を重ね合わせることで、互いの関係性が確認できるようにした。
20）三郷町 奈良産業大学公開講座「地震活動期の日本」	平成25年3月1日	三郷町が主催する市民向けの公開講座として開催され、プレート境界型の巨大地震が繰り返し発生するメカニズムや1995年兵庫県南部地震以降の地震活動状況について解説した。海洋プレートの沈み込みに伴って大陸プレートが弾性的に歪むことをアニメーションを使って紹介し、その際に発生する大陸プレート内の破壊が内陸地震であることを説明した。このとき、大陸プレートに見立てた発泡スチロール棒を各聴講者に曲げてもらい、スチロール内部で発生する弾ける音が「内陸地震」に相当することを理解させた。最後に、公的機関が公開している震度予測図や地盤情報をインターネットから取得する方法を紹介した。
21）　奈良産業大学公開講座・王寺町リーベルカレッジ「地面の微細な変形を測る」	平成25年7月27日	奈良産業大学が主催する市民向けの公開講座として開催され、京都帝国大学の志田順教授にスポットを当て、明治時代に始まった日本の地殻変動研究の歴史を紹介するとともに、当時の研究対象のひとつである地球潮汐について解説した。また、地殻変動の測定装置として水平振子傾斜計とレーザー伸縮計を紹介し、その仕組みについて説明した。特に水平振子傾斜計に関しては、各聴講者に厚紙で作った模型を組み立ててもらい、わずかな支柱の傾きによって水平振子が大きく方向を変えることを確かめてもらった。
５　その他		
１）奈良産業大学情報学部情報学科における教育実績	平成15年4月～現在に至る	奈良産業大学情報学部情報学科の専任教員（平成15年4月から平成19年3月まで助教授、平成19年4月から平成21年3月まで准教授、平成21年4月から現在に至るまで教授）として、以下の科目を担当した。 「地球科学Ⅰ」（平成15～17，19年度～現在に至る） 「地球科学Ⅱ」（平成15～17，19～21年度） いずれも１年次配当の共通教育科目（半期２単位）であり、「地球科学Ⅰ」は太陽系の形成から現在までの地球の歴史、「地球科学Ⅱ」は大気循環や地震などの様々な自然現象について解説する講義形式の授業とした。本講義を通して、自然現象に関する報道内容を正しく理解する能力が修得できた。なお、「地球科学Ⅰ」は平成21年度より「地球科学」、平成23年度より「地球の科学」と改名された。また、平成13～14年度には、両科目を合わせた１年次配当の共通教育科目「地球科学」（通年４単位）を担当した。

		「地球と環境」（平成22年度～現在に至る） １年次配当の共通教育科目（半期２単位）であり、地震や台風などの自然災害について解説する講義形式の授業とした。自然災害を理解し、防災意識を育て、ハザードマップの活用等、防災能力を養うことができた。なお、平成23年度より「環境を考える」に改名された。さらに平成26年度より「生活と環境」に改名され、オムニバス形式となり、計15回の内８回の講義を担当した。 「現代社会と地理」（平成22年度） １年次配当の共通教育科目（半期２単位）であり、産業や資源の地域分布、古代から現代に至る文明と地理的な関係、交通網の発展などを学ぶ講義形式の授業とした。作図等、ワークシートによる手作業を組み込むことで、能動的に授業に参加させ、理解度向上を図った。社会人として必須の一般常識を身に付けることができた。 「実験で学ぶ科学」（平成23～25年度） １年次配当の共通教育科目（半期２単位）であり、光の屈折や磁力の測定、対流と熱伝導の差異などを実験を通して学ぶ授業とした。物理実験を中心に13種類のテーマを設定し、実験を通して科学への興味を引き出すようにした。毎回の授業で、実験器具の取り扱いから測定値の記録、解析、考察までを指導し、レポートを提出させることで、科学的な取り組み姿勢を養うことができた。 「実験と科学」（平成26年度） １年次配当の共通教育科目（半期２単位）であり、ガリレオによる落体実験、地球質量を測定したキャヴェンディッシュの実験、地球の自転を視覚化したフーコーの実験等、歴史的な実験を取り上げ、その目的や実験方法について解説する。科学実験を疑似体験させながら、科学的な発想や思考方法を身に付けさせる。 「物理と地学の基礎」（平成26年度） １年次配当の共通教育科目（半期２単位）であり、物理学に関する基本的な用語や法則、科学的な考え方を学んだ上で、気象現象や地震活動、天体の運行など、地球及びその周辺で発生する自然現象についての理解を深め、そのメカニズムを解明する。本講義を通して、身近な自然現象を正しく理解し、科学的に説明することができる能力を身に付ける。 「シミュレーションの世界」（平成26年度） １年次配当の共通教育科目（半期２単位）であり、自然科学の諸問題を解決する際に活用されているシミュレーションの考え方やその実施方法について学ぶ。その上で数値解法による近似解の導出、近接する時空間領域における情報の推定、数値計算の誤差評価等に関する具体的な課題への取り組みを通して、シミュレーション技術を扱う能力を身に付ける。 「キャリアゼミⅠ」（平成19～20年度） ３年次配当の専門教育科目（半期２単位）であり、就職活動に臨むにあたって自己分析を行ない、体験談や自分の考えを明確に述べる練習を講義形式で実施する内容とした。グループワークを体験したり、エントリーシートの作成や模擬面接を繰り返す中で自分の長所や欠点を認識し、就職活動に取り組む積極的な姿勢を養うことができた。 「データ解析Ⅰ」（平成19～20年度） 「データ解析Ⅱ」（平成19～20年度） いずれも２年次配当の専門教育科目（半期２単位）であり、「データ解析Ⅰ」は平均や標準偏差などの統計量、正規分布や最小二乗法、「データ解析Ⅱ」は三角関数、フーリエ展開、FFTによる計算方法を講義形式で学ぶ内容とした。解析手法の基礎を身に付け、卒業研究や実社会の中で必要となる実践的なデータ処理能力を修得させることができた。なお、平成15～17年度には、両科目を合わせた３年次配当の専門教育科目「データ解析」（通年４単位）を担当した。 「情報検索論演習」（平成18～20年度） ３年次配当の専門教育科目（半期２単位）であり、SQLを用いてデータベースを操作する方法について演習形式で学ぶ内容とした。受講生各自のノートPCにMySQLを実装し、データベースの作成、データの追加・削除、検索など、入力したコマンドに対する応答結果を確認するとともに、簡単な課題演習を繰り返すことによって、データベースの操作手順を修得させることができた。

		「情報物理」(平成23年度) １年次配当の専門教育科目（半期２単位）であり、ゲームの中で使われる物理を理解し、ゲームに適用する方法を学ぶ内容とした。速度や加速度などの運動の基礎から始め、空気抵抗を考慮した弾道計算など、ゲームのような仮想空間で現実を再現する方法について解説し、各自のノートPCでシミュレーションを行なった。力学を中心に基本的な物理現象をソフトウェアで再現する方法を身に付けさせることができた。 「プログラミング基礎」(平成20～21年度) １年次配当の専門教育科目（半期２単位）であり、ウィンドウ・アプリケーションの開発手順について演習形式で学ぶ内容とした。プログラミング初心者を対象とした科目であり、命令文の結果が視覚的に確認しやすいように描画処理を中心に、コードの記述からデバッグまでを体験する学習内容とした。プログラミングの基本的な手順を身に付けさせることができた。 「マルチメディア制作」(平成21～22年度) ３年次配当の専門教育科目（半期４単位）であり、ブラウザ上で動作するFlashコンテンツを制作する演習科目とした。Flashによる開発手順を復習した後、童話アニメーションやゲーム・プログラミングの制作に取り組んだ。個々の受講生が企画書を作成し、計画に従って制作作業を進めていった。こうした過程で、主体的に活動する態度と能力を修得させることができた。 「情報学実験応用Ⅰ」(平成24～25年度) ２年次配当の専門教育科目（半期２単位）であり、お辞儀や起立・着席などの動作をWebカメラで撮影し、その映像から関節の位置を読み取り、体の各パーツの傾きを調べることで、人らしい動きの特徴を理解する内容とした。また、本実験では、実験結果をもとに、紙で作った人形を用いてコマ撮りアニメを作成した。データの取得・整理から解析、レポート作成までの一連の実験手順の基礎を身に付けさせることができた。 「情報学実験応用Ⅱ」(平成25年度) ２年次配当の専門教育科目（半期２単位）であり、OpenCVによる画像処理の手順やソフトウェアの開発方法について学ぶ内容である。パラメータや処理手順によって結果が異なることを実験を通して体験できるようにした。 「情報学演習Ⅰ」(平成13～17年度) １年次配当の専門教育科目（通年４単位）であり、情報学部の教育を担う複数の教員が情報学の様々な分野を演習形式で体験させる授業とした。本人は、測定と解析、3DCGの作成、画像処理、プログラミングを題材として取り上げた。情報学部の専門課程で学ぶ内容に触れることで、将来の学習進路を考えさせる機会となった。なお、平成17年度に同科目は「情報学演習ＩＡ」と改名した。 「情報学演習ⅡＡ」(平成24～25年度) ２年次配当の専門教育科目（半期２単位）であり、Visual C++によるウィンドウ・アプリケーションの開発に取り組む演習形式の授業とした。１年次で学んだプログラミング技術を再確認するとともに、ボタンの配置や画像表示、イベント処理、アナログ時計の作成など、実用的な機能を実現するためのコード作成方法について学び、各々が工夫しながらアプリケーション開発に取り組むことができる能力を修得させることができた。 「情報学演習Ⅱ」(平成15～20，22～23，25年度～現在に至る) ３年次配当の専門教育科目（通年４単位）であり、卒業研究を意識した課題に取り組む演習形式の授業である。年度によってテーマは異なるが、主に位置測定やアプリケーション開発を題材に選んだ。前半は受講生全員が共通の課題に取り組み、研究方法を学んだ。その後、受講生が個々に研究テーマを設定し、研究活動を開始する。主体的に計画、調査、測定、開発に取り組むことができる姿勢と能力を修得させることができた。なお、平成25年度より「情報学ゼミⅢ」に改名された。

		「情報学演習Ⅲ」（平成16～21，23年度～現在に至る） ４年次配当の専門教育科目（通年４単位）であり、上記の「情報学演習Ⅱ」を受けて卒業研究に取り組み、卒業論文又は卒業制作を完成させる授業である。これまでの研究テーマには、「カメラ画像を用いた位置決定」，「3DCGを用いたゲーム・プログラミング」，「ピンホールカメラの開発と撮影」などがある。受講生は課外時間も含め調査および制作活動に取り組んでおり、適宜、その支援を行なった。なお、平成26年度より「情報学ゼミⅣ」に改名された。 「プロジェクト演習Ⅰ」（平成19～22，24年度） １年次配当の専門教育科目（半期２単位）であり、実践的な課題に少人数で取り組む課外活動的な授業である。主にゲーム制作をテーマとしてきたが、具体的な題材は受講生達自身が決定する。受講生達が協力して作業を進めていくことで、主体性や協調性を養うことができた。なお、平成24年度は配当年次が２年次に変更された。 「プロジェクト演習Ⅱ」（平成20～22,25年度） 「プロジェクト演習Ⅲ」（平成21～22年度） 「プロジェクト演習Ⅳ」（平成22年度） それぞれ２、３、４年次生配当の専門教育科目（通年４単位）であり、「プロジェクト演習Ⅰ」を含め、全学年が同じ時間帯に受講する。学年の垣根を越えた交流を実現し、協力して課題に取り組む姿勢を養っている。
２）京都大学高等教育研究開発推進機構における教育実績	平成18年4月～現在に至る	京都大学高等教育研究開発推進機構の非常勤講師（平成18年4月から現在に至るまで）として、以下の科目を担当した。 「地球科学実験Ａ」（平成18～25年度） １年次配当の一般教育科目（半期２単位）であり、地球科学に関する様々なテーマを複数の教員で担当する演習形式の授業である。本人は重力加速度の精密測定を担当し、可逆振子の測定原理を理解した上で重力加速度の測定に取り組ませた。測定機器の取り扱いや測定値の解析、図示、考察、レポート作成に至る実験の流れを学び、今後の学習活動及び研究活動に必要な基礎能力を修得させることができた。 「地球科学実験Ｂ」（平成22年度～現在に至る） １年次配当の一般教育科目（半期２単位）であり、地球科学に関する様々なテーマを複数の教員で担当する演習形式の授業である。本人は重力測定による地下構造の推定を担当し、可搬型重力計を用いて近隣の吉田山の密度構造の推定に取り組ませている。専門分野に進んだ後の研究活動を意識した内容であり、主体的に研究に取り組むことができる能力を身に付けさせることができた。

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
１　資格，免許		
１）高等学校教諭一種　理科	平成3年3月	高等学校教諭一種　理科 平２高１め第４２２１号（京都府教育委員会）
２）修士（理学）	平成5年3月	京都大学　第４２７１号 論文題目「１～８時間周期帯における重力スペクトルの特徴」
３）博士（理学）	平成8年3月	京都大学　第１７０６号 論文題目「重力観測に及ぼす大気変動の影響の精密な推定」
２　特許等		
なし		なし
３　実務の経験を有する者についての特記事項		
１）日本測地学会評議員	平成21年4月～平成25年3月	日本測地学会の評議員として、年３回開催される日本測地学会評議会に参加し、測地学会の運営に関する議論に加わった。特に平成22年に実施された測地学会サマースクールにおいて、準備・運営に関わる様々な事務処理を担当した。
２）日本測地学会庶務委員	平成24年4月～平成25年3月	日本測地学会の庶務委員として、測地学会のWebサイトおよびメーリングリスト等、サーバー管理を担当し、適宜、更新作業を行なった。

３）日本測地学会広報委員	平成25年4月～現在に至る	日本測地学会の広報委員として、学会の広報情報の整理及び広報活動の調整等を担当した。特に測地学会ロゴマークを制定するにあたって、学会員、評議会、デザイン会社との間で調整を行ないながら、ロゴの制作作業を進めた。
４）東濃地科学センター客員研究員	平成16年4月～現在に至る	東濃地震科学センターの客員研究員として、年２回の地殻活動研究委員会に出席し、神戸を中心とした関西地域の地殻変動に関する研究成果または研究状況を報告している。また、平成19年度には、東濃地科学センターの東濃地震科学研究所研究員と共同で研究活動を行なった。
４　その他		
１）教務委員	平成17年4月～平成19年3月	教務委員として、情報学部の講義・演習を円滑に運営するための環境整備に取り組み、科目間の調整や科目担当者の選定にあたった。また、学生に対する履修指導、ゼミの事前登録、カリキュラムの改訂等、履修に関連する様々な作業を担当した。
２）ＦＤ委員	平成19年4月～平成21年3月	ＦＤ委員として、講義・演習の改善に学生の意見を取り入れるための授業評価アンケートを導入するとともに、優れた授業運営を視察する公開授業を設定するなど、全学的な授業改善の取り組みに参加し、授業評価アンケートの作成や情報学部との意見調整を担当した。
３）入学試験実施委員長	平成21年4月～平成23年3月	入学試験実施委員長として、入試の円滑な運営に責任をもつとともに、入試方法の改善に取り組んだ。特に平成21年度から、広く日本在住の留学生を対象とした留学生試験が開始されたことから、同試験の具体的な実施方法及び評価方法の策定に取り組んだ。
４）評議員	平成21年4月～平成23年3月	評議員として、奈良産業大学の運営方針等の決定に関わり、学長を中心とする執行部の活動を支援した。また、学部の現状分析を行なったり、広報用資料を作成するなど、学部長による学部運営を支援した。
５）情報学部長	平成23年4月～平成26年3月	情報学部長として情報学部の運営に取り組み、学生に関する問題、教務上の問題、他学部や大学当局との折衝などの諸問題に対して、評議員を中心とした教職員と協力しながら、調整及び解決に向けて活動を行なった。

研　究　業　績　等　に　関　す　る　事　項

著書，学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所，発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　要
（著書）				
１）テキスト情報基礎演習	共著	平成17年4月	久美株式会社	全体の概要： 奈良産業大学の情報系教育のために作成された教科書であり、ワープロ、表計算、HTMLによる文書構造化などのITリテラシーが学べる内容となっている。 総頁数：147頁 共著者：中尾泰士・嶋田理博・向井厚志 本人担当部分： 第３章「Office表計算演習」(pp.107-147)の執筆を担当し、表計算ソフトExcelの利用方法を解説した。Officeのバージョンアップに伴う上記テキスト「情報基礎演習」の改訂版である。

著書，学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所，発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　要
（学術論文）				
１）ひずみ観測値に含まれる3.5年周期の地殻変動	共著	平成16年12月	東濃地震科学研究所報告，14，pp.19-24	淡路島800m孔で観測された歪変化から指数関数型のトレンドを取り除くと、約3.5年周期の成分が残される。国土地理院のGEONETで得られた地表変位を用いて日本全域の歪分布を計算したとき、その歪変化にも同様な3.5年周期成分が見られた。800m孔の3.5年周期の歪変化が、広域の地殻変動を表すことを示した。 共著者：向井厚志・藤森邦夫 本人担当部分：歪観測値および地表変位測定値の解析作業の大部分を担当したとともに、論文執筆を行なった。

２）地磁気擾乱を用いた淡路島800m孔歪計の測定方向の検定 （査読付）	共著	平成17年12月	地震２，第58巻，第３号，pp.225-228	淡路島800m孔に埋設された歪計の設置方向を、地磁気擾乱に対する応答を用いて再決定した。歪計は磁気センサーによって孔径変化を測定する。そのため、地磁気変化は見かけの歪変化を引き起こす。この特徴を利用して、地磁気擾乱時の歪観測値から、歪計の設置方向を正確に決定しなおした。 共著者：向井厚志・藤森邦夫 本人担当部分：歪観測値および地磁気観測値を解析し、両者を比較して歪計の設置方向を推定するとともに、論文執筆を行なった。
３）歪潮汐を用いた淡路島800m孔周辺の弾性定数の推定	共著	平成17年12月	東濃地震科学研究所報告，16，pp.77-80	淡路島800m孔で観測された潮汐歪の振幅および位相は経年的な変化を示す。これらが地質構造の変化に起因すると仮定して、応力-歪関係式の一般的な弾性定数を推定した。推定されたポアソン比は、2000年にステップ状の増大を示した。これは、800m孔の孔口密封による間隙水圧の増大によって説明できる。 共著者：向井厚志・藤森邦夫 本人担当部分：歪観測値の潮汐解析および潮汐振幅を用いて弾性定数を推定する作業を担当したとともに、論文執筆を行なった。
４）台湾・竹崎観測室で観測された非等方性潮汐歪 （査読付）	共著	平成18年6月	測地学会誌，第52巻，第2号，pp.103-113	台湾・竹崎観測点で観測された潮汐歪から、周辺岩盤の弾性定数を推定した。竹崎観測点は北東－南西に走向をもつ複数の断層に囲まれており、同方向に形成された破砕帯内部に位置する。推定された弾性定数に見られる異方性が、その破砕帯の走向に関係していることを示した。 共著者：向井厚志・竹本修三・李 民・陳 致言・高 銘健・井川 猛・黒田 徹・阿部泰介・東敏博 本人担当部分：歪観測値の前処理および潮汐解析、その結果から弾性定数を推定する作業を担当するとともに、論文執筆を行なった。
５）Tidal strain observations in Chu-Chie, Taiwan （査読付）	共著	平成18年7月	Journal of Geodynamics, 41, pp.198-204	台湾・竹崎観測点で観測された歪変化を解析し、同観測点における潮汐歪の特徴を調べた。観測された潮汐歪と理論潮汐を比較したところ、両者の間には観測誤差を上回る明確な差異がみられた。観測点は山岳地帯に位置し、近傍には断層が存在することから、その差異は観測点周辺の地形や地質構造に起因している可能性が考えられた。 共著者：S.Takemoto, M.Lee, C.Chen, M.Kao, A.Mukai, T.Ikawa, T.Kuroda, T.Abe 本人担当部分：歪観測値の前処理および潮汐解析、理論潮汐の計算を担当した。
６）地磁気擾乱を利用した淡路島800m孔歪計の設置方向の決定	共著	平成18年12月	東濃地震科学研究所報告，20，pp.29-34	淡路島800m孔に埋設された歪計の設置方向を、地磁気擾乱に対する応答を用いて再決定した。歪計は磁気センサーによって孔径変化を測定する。そのため、地磁気変化は見かけの歪変化を引き起こす。この特徴を利用して、地磁気擾乱時の歪観測値から、歪計の設置方向を正確に決定しなおした。 共著者：向井厚志・藤森邦夫 本人担当部分：歪観測値および地磁気観測値を解析し、両者を比較して歪計の設置方向を推定するとともに、論文執筆を行なった。
７）淡路島800m孔の長周期地殻変動に対する海水位変化の影響	共著	平成18年12月	東濃地震科学研究所報告，20，pp.73-76	淡路島800m孔の地殻変動観測に対する長期的な海水位変化の影響について調べた。海水位変化のデータとしてTOPEXの衛星データを利用し、日本近海の海洋荷重効果を計算した後、地殻変動観測値と比較することによって、長期的な地殻変動の一部が広域の海水位変化によって生じていることを示した。 共著者：向井厚志・藤森邦夫 本人担当部分：地殻変動観測値の解析、海水位データを用いた荷重効果の計算を担当するとともに、論文執筆を行なった。

８）淡路島800m孔における歪観測に対する孔口の開放および密封の影響	共著	平成18年12月	東濃地震科学研究所報告，20，pp.173-178	淡路島800m孔の孔口を開放または密封することによって生じた歪観測値の特徴の変化についてまとめた。800m孔では自然湧水が生じており、孔口を密封することによって周辺岩盤の間隙水圧が上昇する。密封前後で潮汐歪の振幅に顕著な変化が現れたが、これは間隙水圧変化に伴うポアソン比の変化によって説明することができる。 共著者：向井厚志・藤森邦夫 本人担当部分：歪観測値を解析し、潮汐歪から弾性定数を求める計算を担当するとともに、論文執筆を行なった。
９）In situ stress measurement by the stress relief technique with a multi-component borehole instrument （査読付）	共著	平成19年3月	Earth, Planets and Space, Vol.59, No.3, pp.133-139	地殻応力の測定方法のひとつである応力解放法は、ボアホールに埋設した歪計を周辺岩盤ごと切り離し、それに伴う歪変化から応力を推定する方法である。本稿では、岩盤、モルタル、金属の３層からなるコアをモデル化し、コアの変形を求める計算方法を開発した。この計算方法を用いて様々な応力によるコアの変形を予測し、地殻応力を推定することができた。 共著者：A.Mukai, T.Yamauchi, H.Ishii, S.Matsumoto 本人担当部分：応力解放法による歪変化を計算するための２次元３層モデルを構築し、様々な地殻応力下でのコアの変形を予測するシミュレーションを実施した。また、実際の測定結果と比較する作業を担当したとともに、論文執筆を行なった。
10）Secular Change of Permeability in Fracture Zone nearby the Nojima Fault Estimated Using Strain Changes due to Water Injection Experiments （査読付）	共著	平成19年10月	Techtonophysics, 443, pp.193-199	1997年以降、淡路島1800m孔において繰り返し注水実験が実施された。注水によって周辺岩盤の間隙水圧が上昇し、歪変化が生ずる。本稿では、拡散方程式を用いて地下水流動による間隙水圧分布の変動をモデル化し、様々な透水係数を用いて注水に伴う歪変化を予測した。この予測値と歪観測値の比較から推定された透水係数は、経年的な低下を示した。これは、野島断層の回復過程の進行を反映している。 共著者：A.Mukai, K.Fujimori 本人担当部分：注水に伴う地下水流動をモデル化し、間隙水圧分布の時間変動及びそれに伴う歪変化を予測するシミュレーションを実施した。その予測結果と歪観測値を比較して透水係数の最適値を推定する作業を担当したとともに、論文執筆を行なった。
11）応力解放法に基づく３次元的な初期応力の解析解の導出について	単著	平成19年12月	東濃地震科学研究所報告，21，pp.33-38	地殻応力の測定方法のひとつである応力解放法では、歪計をボアホール底部に埋設した後、その周囲を岩盤から切り離し、それに伴う歪変化から応力を推定する。このとき切り出されるコアは円筒形であり、３次元の地殻応力に伴って軸対称成分から外れた変形も生ずる。岩盤、モルタル、金属の３層コア・モデルを用いて、非軸対称な地殻応力によるコア内部の変形を求める計算方法を開発した。この計算方法によって、様々な地殻応力のもとで切り離されたコアの変形を予測するシミュレーションを実施し、計算方法の有効性について示した。
12）水圧感度検定による弾性定数の検証	単著	平成19年12月	東濃地震科学研究所報告，21，pp.151-156	応力解放法によって切り出されたコアの弾性定数を推定する際に、水圧感度検定を実施する。この検定では、密封容器に入れたコアに水圧を加え、水圧に対するコアの変形量を測定することで、コアの弾性定数を測定する。このとき、正確な弾性定数を求めるためには、コアの多層構造（岩盤、モルタル、金属）を考慮する必要がある。岩盤、モルタル、金属の３層コア・モデルを用いて、水平方向及び鉛直方向に一様に作用する水圧の変化に応じたコア内部の変形を予測するシミュレーションを実施した。その予測結果に基づいて、３層コア・モデルを用いた感度決定の有効性を示した。

13）測地観測における環境影響の解明とその活用（査読付）	単著	平成20年3月	測地学会誌，第54巻，第１号，pp.1-13	地表付近で行なわれる測地観測では、大気変動や地下水移動、海水位変動などの環境変動による影響が大きい。特に寄与が大きく、広範囲の周期帯にわたる大気変動の影響について概観し、重力観測及び地殻変動観測からその影響を除去する方法について解説した。また、地下水移動の影響をノイズとしてではなく、シグナルとしてとらえることで、透水係数など、周辺岩盤の物理的な特性を調べる方法についてもまとめた。
14）六甲高雄・六甲再度観測室における地殻変動観測について	共著	平成21年3月	東濃地震科学研究所報告，23，pp.133-138	神戸市の新神戸トンネル避難路に開設された六甲高雄観測室及び六甲再度観測室では、1990年頃から伸縮計及び水管傾斜計を用いて、地殻変動の連続観測が続けられている。両観測室の観測環境を紹介し、地殻変動観測データに見られる長期変動の特徴についてまとめた。 共著者：向井厚志・大塚成昭 本人担当部分：歪観測値および傾斜観測値の前処理等、解析作業の大部分を担当したとともに、論文執筆を行なった。
15）淡路島と六甲における歪観測値から得られた潮汐振幅の経年変化の比較	共著	平成21年3月	東濃地震科学研究所報告，23，pp.139-144	淡路島の800m孔と神戸市の六甲高雄観測室で観測された潮汐歪を解析したところ、潮汐振幅が経年的に変化していることが示された。両観測室は断層破砕帯の近傍に位置しており、潮汐振幅の変化の原因として、周辺岩盤の弾性定数の変化が考えられる。弾性定数の推定結果から、両観測室において周辺岩盤の破砕の固着が進行しつつあることが示された。 共著者：向井厚志・大塚成昭 本人担当部分：歪観測値の潮汐解析および潮汐振幅を用いて弾性定数を推定する作業を担当したとともに、論文執筆を行なった。
16）近海の潮位観測値を用いた六甲高雄観測室における潮汐歪の理論値の補正	共著	平成21年3月	東濃地震科学研究所報告，23，pp.145-150	六甲高雄観測室における潮汐歪の観測値と理論値を比較したとき、主要分潮の振幅で数10%、位相で数10°の差異が認められた。同観測室は複雑な海流が生ずる瀬戸内海の近傍に位置することから、その原因として、理論潮汐に用いる海洋潮汐モデルの不正確さが考えられた。実際の潮位観測値を用いて理論潮汐を修正したところ、観測された潮汐歪にやや近づいたが、完全とは言えず、他の原因の存在が示唆された。 共著者：向井厚志・大塚成昭 本人担当部分：歪観測値の潮汐解析および潮位観測値を用いた海洋荷重潮汐の計算を行ない、両者を比較する作業を担当したとともに、論文執筆を行なった。
17）宇宙線エネルギー時系列のカオスとその異方性	共著	平成21年8月	情報学フォーラム紀要 Online Journal，Vol.6，http://www.nara-su.ac.jp/ioforum/paper/ohara2009.pdf	西村・蒲田の式を宇宙線観測データに適用し、5万イベントのエアシャワーサイズについての時系列データを得た。これにカオス解析を適用し、時系列のカオス性の出現に異方性があることを見出した。 共著者：大原荘司・小西健陽・向井厚志 本人担当部分：カオス解析結果に対する考察に参加するとともに、解析結果の作図作業の一部を担当した。
18）モノアイに基づく空間座標の推定	単著	平成21年12月	奈良産業大学紀要，25，pp.31-38	写真測量は、離れた２地点で撮影した写真を比較することで、被写体の空間座標を推定する方法である。本論文では、一端に回転軸を取り付けたアームの他端にWebカメラを設置し、そのカメラで撮影した写真を用いて測量を行なう方法を論じた。アームを回転させることでカメラの位置とともに視線方向も変化するため、両者を考慮した計算式を用いる必要がある。
19）モノアイカメラを用いた被写体の空間座標の推定	単著	平成22年11月	情報学フォーラム紀要，Vol.7，奈良産業大学情報学部創設10周年記念，pp.37-45	アームの一端に回転軸、他端にWebカメラを取り付けたモノアイカメラによる写真測量システムに、ステッピングモータを用いた回転角の制御を取り入れ、半自動的に被写体の位置を計測するシステムを開発した。アームの数倍程度の距離内であれば、10cm程度の誤差で位置を測定することができる。

20) カオスで探る宇宙線源	共著	平成22年11月	情報学フォーラム紀要, Vol.7, 奈良産業大学情報学部創設10周年記念, pp.23-36	宇宙線空気シャワーサイズ時系列について、フラクタル次元を求めるカオス解析を行なったところ、赤経6時, 12時, 22時付近に異方性を発見した。高エネルギーガンマ線源あるいはダークマターのような天体の介在が推定される。 共著者：大原荘司・小西健陽・向井厚志 本人担当部分：宇宙線観測に参加するとともに、カオス解析結果に対する考察作業に加わり、解析結果の作図の一部を担当した。
21) 私立大学における地学教育の試み ～ 奈良産業大学の場合 ～	単著	平成23年3月	地学教育の現状とその改革ー防災知識の普及に向けてー, pp.42-45	奈良産業大学における地学教育の経緯と現状についてまとめた。同大学は社会科学系を主体とする文系大学であり、地学教育は教養科目として実施されてきた。現在、地学系科目は半期２科目が存在し、いずれも多くの受講生を集めている。地学分野に対する文系学生の興味・関心は高く、積極的に教育活動を進めていくことで、地学関連分野の研究活動に好意的な市民を増やしていくことができるものと考える。
22) The Anisotropy of Cosmic Ray Pursued with Chaos Analysis	共著	平成23年8月	Proceeding of International Cosmic Ray Conference, Beijing, 2011	奈良において宇宙線の連続観測を実施し、大気中への宇宙線の入射によって生ずる空気シャワーの大きさを測定している。空気シャワー・サイズの時系列データを解析し、カオス性をもつ宇宙線を抽出し、その到来方向の分布を調べた。抽出された宇宙線は、Crab、Mrk421、Cyg-X等の活動銀河から到来しており、それらの銀河が高エネルギーの宇宙線の発生源であることが示された。 共著者：S.Ohara, T.Konishi, A.Mukai, M.Shimada, A.Iyono, H.Matsumoto, I.Yamamoto, N.Takahashi, T.Nakatsuka, K.Okei, S.Tsuji, N.Ochi 本人担当部分：宇宙線観測に参加するとともに、カオス解析結果に対する考察作業に加わり、解析結果の作図の一部を担当した。
23) Searching for cosmic ray nuclei above the KNEE energies through the Gerasimova-Zatsepin effect with the LAAS experiments	共著	平成23年8月	Proceeding of International Cosmic Ray Conference, Beijing, 2011	岡山と奈良において宇宙線の連続観測を実施し、大気中への宇宙線の入射によって生ずる空気シャワーの大きさと到来方向を測定している。超高エネルギーの宇宙線の原子核と太陽光子の衝突による光分解によって生じる宇宙線をGerasimova-Zatsepin効果を考慮して選択し、超高エネルギー領域における宇宙線の強度や到来方向などの特徴について考察した。 共著者：A.Iyono, H.Matsumoto, K.Okei, S.Tsuji, S.Ohara, N.Ochi, T.Konishi, N.Takahashi, I.Yamamoto, T.Nakatsuka, A.Mukai, M.Shimada 本人担当部分：奈良産業大学での宇宙線観測に参加し、観測装置の管理を共同で担当した。
24) 淡路島800m孔における地下水流動による地殻変動について	単著	平成23年12月	奈良産業大学紀要, 27, pp.95-102	淡路島の800m孔では、1996年以降、埋設型の歪計及び傾斜計を用いた地殻変動の連続観測が続けられている。800m孔では、繰り返し注水実験に伴う歪変化の他、孔口の開放・密封に伴う歪変化も観測された。これらの観測結果から、地下水の流動に伴う歪変化の特徴を示し、周辺岩盤の透水係数の変化について考察した。
25) 奈良産業大学構内で測定された二酸化炭素濃度変化の特徴	共著	平成24年12月	奈良産業大学紀要, 28, pp.141-150	奈良産業大学構内の２点で観測された二酸化炭素濃度変化を解析し、その周波数特性について明らかにした。２時間以上の長周期帯では、両観測点とも同じシグナルを検出しているが、周囲を壁で囲まれている観測点では、応答の遅れがみられる。また、東風によって東部の森林地域から低CO2濃度の空気が送られてくる場合、夜間のCO2濃度の上昇が抑えられることを示した。 共著者：向井厚志・大原荘司・藤原昇 本人担当部分：二酸化炭素濃度の前処理およびスペクトル解析や気象観測値との比較等、解析作業を担当するとともに、論文執筆を行なった。

26）二酸化炭素濃度の日変化の風向および風速依存性	共著	平成25年2月	情報学フォーラム紀要（奈良産業大学），Vol.8，pp.109-116	奈良産業大学における二酸化炭素濃度の日変化は風向及び風速に依存しており、東風で風速が大きいほど、日変化の振幅が小さくなる傾向が見られた。一般に光合成活動が停止する夜間においては二酸化炭素濃度が上昇する。この夜間において観測地点上空で東風が吹くと、大気の流れが生駒山系に阻まれ、二酸化炭素濃度の低い上層大気が地表へ流れ込む。その結果、夜間においても二酸化炭素濃度が上昇しにくくなっていると考えられる。 共著者：向井厚志・大原荘司・藤原昇 本人担当部分：二酸化炭素濃度の前処理および風向・風速観測値と比較する解析作業を担当するとともに、論文執筆を行なった。
27）地域における地学教育の実践と課題	共著	平成25年3月	奈良産業大学紀要，29，pp.183-189	現在、地域に根差した理科教育として、サイエンスカフェや実験教室が各地で実施されている。本学でも地元住民向けの公開講座や小学生を対象とした科学教室を実施し、学外においても積極的に理科教育の振興に取り組んできた。こうした取り組みへの参加者は常に一定数を見込むことができるが、その多くはもともと科学に興味・関心を抱いていたリピーターであり、理科に関心をもたない住民の目を向けさせる工夫が必要である。 共著者：向井厚志・嶋田理博 本人担当部分：データの分析のほか、小学生向けの科学教室に関する記述の一部以外の論文執筆を行なった。
28）東北地方太平洋沖地震前後の六甲の地殻変動	共著	平成25年3月	東濃地震科学研究所報告，31，pp.27-33	神戸市の六甲高雄観測室において観測された東北地方太平洋沖地震時の歪変化および地下水位変化の特徴を概観した。地震時に観測された歪ステップは、地震断層モデルから計算される理論値と比べて、主歪の方向が10度以上ずれている。また、地震後の数ヶ月以上にわたって縮みの歪変化が現れたが、同時期に一般には歪の伸長を引き起こす間隙水圧の低下が観測された。こうした矛盾する観測結果を説明するため、断層破砕帯における地下水流動に関するモデルを構築した。 共著者：向井厚志・大塚成昭 本人担当部分：歪観測値の前処理および歪ステップの推定、地震後の地下水流動に伴う歪変化のモデル計算など、解析作業の大部分を担当するとともに、論文執筆を行なった。
29）水管式簡易比高計の開発について	単著	平成25年12月	奈良産業大学紀要，30，pp.119-126.	水準義と標尺を用いた一般的な水準測量のような高精度の標高測定を必要としない場合に、簡易に測定することができる水管式比高計を製作し、その性能評価を行なった。水管式比高計は、鉛直に立てた２つの円筒容器内の水位差を圧力センサで測定することにより、２点間の比高を求める。製作した水管式比高計の測定精度は数mmであり、その大部分は計器の傾斜に起因する。圧力センサを可能な限り地面に近い位置に配置することによって、計器の傾斜の影響を抑えることができ、非熟練者でも容易に測定することが可能となる。
30）飯館村原発放射能汚染	共著	平成26年3月	奈良産業大学地域公共学総合研究所年報，4，pp.125-136	2011年東日本大震災に伴う福島第一原子力発電所事故では、東日本の広範囲にわたって放射能汚染が生じた。放射能汚染の程度は局所的な地形や植生に強く依存している。福島県飯館村およびその周辺で土壌および植物を採取し、その放射線強度を測定したところ、表層の有機物にセシウムが捕捉されていること、植物の中ではコケ類がセシウムを強く吸着する性質をもつことが明らかにされた。これらの測定事実は、有効な除染作業方法への示唆を与える。 共著者：大原荘司・向井厚志・藤原昇 本人担当部分：放射線強度の移動観測や土壌サンプルの採取に協力するとともに、測定結果の作図に一部携わり、考察に参加した。

（その他）				
「学会発表」				
１）歪潮汐を用いて推定された弾性定数の経年変化 （口頭発表）	共同	平成17年5月	日本地球惑星科学連合2005年大会，D007-003 （幕張メッセ国際会議場）	淡路島北西部の 800m孔で観測された歪潮汐を解析したとき、各分潮の振幅および位相は経年的な変化を示した。潮汐定数の時間変化は、破砕の固着や間隙水の分布の変化など、周辺岩盤の物理的な特性の変化に起因する。歪潮汐の観測値と理論値を用いて弾性定数を推定したところ、2000年にポアソン比が急激に上昇したことが明らかとなった。800m孔では、2000年８月に孔口が密封され、強制的に湧水が抑えられた。その結果、周辺岩盤の間隙水圧が上昇し、破砕内部は間隙水で満たされ、ポアソン比が増大したと考えられる。 共同：向井厚志・藤森邦夫 発表：平成17年5月26日 担当部分：歪観測値の解析および弾性定数の推定を担当したとともに、学会発表を行なった。
２）注水実験に伴う歪変化を用いて推定された水理特性の経年変化 （ポスター発表）	共同	平成17年5月	日本地球惑星科学連合2005年大会，D007-P001 （幕張メッセ国際会議場）	淡路島北西部の 1800m孔において、1997、2000、2003および2004年に注水実験が実施された。注水実験では、野島断層の固着過程を明らかにすることを目的として、注水に伴う歪変化の観測値を用いて周辺岩盤の透水係数の経年変化が推定された。透水係数は経年的な低下がみられ、1995年兵庫県南部地震後、野島断層近傍の破砕帯において破砕の固着が進行しつつあることが示された。 共同：向井厚志・藤森邦夫 発表：平成17年5月24日 担当部分：歪変化の解析および注水に伴う歪変化のモデル計算、透水係数の推定を担当したとともに、ポスター制作および学会会場での説明を行なった。
３）地磁気擾乱を用いた淡路島800m孔歪計の測定方向の検定 （口頭発表）	共同	平成17年10月	日本測地学会第104回講演会（京都大学時計台記念館）	800m孔に埋設された歪計は地磁気変化の影響を受けるため、地磁気擾乱に伴う見かけの歪変化が生ずる。地磁気擾乱に伴う見かけの歪変化を計算したところ、歪観測値との差異が認められた。その原因として、歪計の設置方位のずれが考えられたため、計算値と観測値が一致するような歪計の設置方位を推定した。 共同：向井厚志・藤森邦夫・石井紘 発表：平成17年10月26日 担当部分：歪観測値および地磁気観測値を解析し、両者を比較して歪計の設置方向を推定するとともに、学会発表を行なった。
４）台湾竹崎で観測された歪変化に対する地形影響の推定 （口頭発表）	共同	平成17年10月	日本測地学会第104回講演会（京都大学時計台記念館）	台湾・竹崎のボアホールでは、埋設型歪計による地殻変動の連続観測が続けられている。同観測点は山間部に位置することから、潮汐歪等を解析する際に地形の凹凸による非一様な歪変化を考慮する必要がある。本発表では、有限要素法を用いて起潮力に対する地形の変形を計算し、理論的な潮汐歪をより正確に推定した。 共同：向井厚志・竹本修三・李民・陳致言・高銘健・井川猛・黒田徹・阿部泰介・東敏博 発表：平成17年10月26日 担当部分：歪観測値の前処理および潮汐解析、有限要素法による数値計算を行なうとともに、学会発表を担当した。
５）淡路島800m孔で観測された歪および傾斜変化に対する海洋荷重の影響 （口頭発表）	共同	平成18年5月	日本地球惑星科学連合2006年大会，D124-014 （幕張メッセ国際会議場）	淡路島800m孔において1996～2004年に観測された歪および傾斜変化には、約3.5年周期の成分が含まれている。また、国土地理院のGPS観測網から得られた面積歪および西日本の地震発生数の時間変化にもまた3.5年付近に卓越した周期成分が見られる。これらの歪変化の長周期成分の原因として、海洋荷重の時間的変化が考えられる。TOPEX/Poseidonの海面高データを用いて海洋荷重を計算したところ、800m孔の地殻変動に含まれる約3.5年周期成分の一部を説明することができた。 共同：向井厚志・藤森邦夫 発表：平成18年5月17日 担当部分：歪観測値の解析および海面高データに基づく海洋荷重の計算を担当したとともに、学会発表を行なった。

６）インテリジェント型歪計を用いた神岡鉱山における応力測定 （ポスター発表）	共同	平成18年5月	日本地球惑星科学連合2006年大会，S117-P006（幕張メッセ国際会議場）	直径22㎜の小口径埋設型であるインテリジェント型歪計を用いた応力解放法による初期応力測定が神岡鉱山において実施された。この初期応力測定の概要をまとめるとともに、オーバーコアリングに伴う歪変化を用いて決定された初期応力について報告した。神岡鉱山において実施された初期応力測定において得られた水平歪計４成分の歪測定値に対し、歪計、膨張セメントおよび岩盤からなる３層構造モデルを適用し、平面上の初期応力を決定したところ、水圧破砕法など、他の初期応力測定の方法と比べても概ね妥当な初期応力を推定することができた。 共同：向井厚志・小村健太朗・山内常生・石井紘・松本滋夫 発表：平成18年5月15日 担当部分：歪変化の解析および初期応力の推定を担当したとともに、ポスター制作および学会会場での説明を行なった。
７）定常的な地殻変動観測に基づく透水性構造の推定 （ポスター発表）	共同	平成18年10月	日本地震学会2006年秋季大会（名古屋国際会議場）	観測される地殻変動は、弾性定数など、周辺岩盤の物理学的な特性に依存する。例えば、地震断層の近傍では、断層の回復過程に伴う破砕の固着や地震前後の破砕形成によって透水性構造が変化し、空隙率や含水量が変わるため、地殻変動シグナルに対する応答特性も変化する。観測現場で透水係数を定常的に測定する方法として、地球潮汐や気圧応答などのシグナルを用いて周辺岩盤の透水性構造を推定する方法を提案した。淡路島800ｍ孔の地殻変動観測値に同方法を適用した結果、間隙水圧の低下および上昇に伴うポアソン比の時間的変化が検出された。 共同：向井厚志・藤森邦夫 発表：平成18年10月31日 担当部分：歪観測値の解析および弾性定数の推定作業を担当したとともに、ポスター制作および学会会場での説明を行なった。
８）2006年注水実験に伴う歪変化を用いて推定された野島断層近傍の破砕帯の透水係数 （ポスター発表）	共同	平成19年5月	日本地球惑星科学連合2007年大会，D107-P006（幕張メッセ国際会議場）	1997、2000、2003、2004および2006年に1800ｍ孔において注水実験が実施された。注入水は周辺岩盤の間隙水圧を上昇させ、歪変化を引き起こす。注水に伴う歪変化は、隣接する800ｍ孔の底部に設置された３成分の石井式歪計を用いて観測された。注入水が３次元的に一様に拡散すると仮定して、間隙水圧分布の変化による歪変化を計算し、歪観測値と比較して周辺岩盤の透水係数を推定した。透水係数は経年的に低下傾向を示しており、野島断層の固着過程の進行と矛盾しない。 共同：向井厚志・藤森邦夫 発表：平成19年5月22日 担当部分：歪観測値の解析および注水に伴う歪変化のモデル計算を担当したとともに、ポスター制作および学会会場での説明を行なった。
９）インテリジェント型歪計を用いた応力解放法による応力測定の三次元解析 （ポスター発表）	共同	平成19年5月	日本地球惑星科学連合2007年大会，D107-P005（幕張メッセ国際会議場）	インテリジェント型歪計を用いた応力解放法による初期応力測定では、まず、歪計をボアホール底部に埋設し、膨張セメントによって周辺岩盤に密着させる。次に、オーバーコアリングによって応力を解放し、その際に得られる歪変化を用いて初期応力を推定する。オーバーコアリングによって得られるコアを、歪計、膨張セメントおよび岩盤からなる３層構造で近似し、三次元的な初期応力を決定する解析方法を開発した。岐阜県神岡鉱山および静岡県菊川で実施された初期応力測定において同解析方法を適用した結果、概ね適切な初期応力が推定された。 共同：向井厚志・山内常生・石井紘・松本滋夫・浅井康広 発表：平成19年5月22日 担当部分：初期応力の解析方法の開発および歪変化の解析を担当したとともに、ポスター制作および学会会場での説明を行なった。

10）水圧感度検定に基づくコアの弾性定数の決定による応力推定の改善 （口頭発表）	共同	平成19年11月	日本測地学会第108回講演会（紀伊勝浦ホテル浦島）	地殻応力の測定方法のひとつである応力解放法では、歪計をボアホールに埋設した後、その周囲を岩盤から切り離し、それに伴う歪変化から応力を推定する。従来の応力解析では、コアが岩盤のみからなると仮定していたが、より正確な解析を行なうには、切り出したコアが岩盤、モルタル、金属（歪計）の３層構造からなることを考慮する必要がある。本発表では、コアの３層モデルに基づく解析方法を提案した。 共同：向井厚志・山内常生・石井紘・松本滋夫・浅井康広 発表：平成19年11月7日 担当部分：応力解放法による歪変化を計算するための２次元３層モデルを構築し、実際の測定結果と比較する作業を担当したとともに、学会発表を行なった。
11）六甲再度および六甲高雄観測室で観測された潮汐歪に基づく弾性定数の経年変化 （ポスター発表）	共同	平成20年5月	日本地球惑星科学連合2008年大会（幕張メッセ国際会議場）	六甲高雄観測室における潮汐歪では、北北西方向の潮汐振幅の時間的低下が顕著に現れた。これは、1995年兵庫県南部地震時に生じた万福寺断層内の亀裂が、地震後の数年以上にわたって緩やかに閉口してきたことで説明できる。実際、潮汐歪の観測値と理論値を比較することによって周辺岩盤のヤング率を推定したところ、ヤング率は経年的に上昇しており、亀裂の閉口に伴う周辺岩盤の硬化を裏付けている。 共同：向井厚志・大塚成昭 発表：平成20年5月29日 担当部分：歪観測値の潮汐解析および潮汐振幅を用いて弾性定数を推定する作業を担当したとともに、ポスター制作および学会会場での説明を行なった。
12）六甲高雄・再度観測室で観測された潮汐歪の振幅の変化に及ぼす周辺岩盤の弾性変化の影響 （ポスター発表）	共同	平成20年10月	日本測地学会第110回講演会（函館市民会館小ホール）	六甲高雄および六甲再度観測室で1993～2007年に観測された潮汐歪を解析した結果、主要分潮であるM2分潮の潮汐振幅が30％以下の範囲内で経年変化していたことが判明した。潮汐歪の観測値と理論値を用いて周辺岩盤の弾性定数を推定したところ、1999年頃にポアソン比の上昇が認められた。同時期に降水量が増大しており、それに伴う周辺岩盤の間隙水の増大によってポアソン比が上昇したと考えられる。潮汐歪から推定されたヤング率は、1995年以降に長期的な増大傾向を示しており、1995年兵庫県南部地震に関連して生じた破砕が固着しつつあることを反映している可能性がある。 共同：向井厚志・大塚成昭 発表：平成20年10月22日 担当部分：観測値の潮汐解析および潮汐振幅を用いて弾性定数を推定する計算処理、歪変化に対する降水量変化の影響についてモデル化し、学会発表を行なった。
13）六甲高雄観測室における海洋荷重潮汐の理論値の補正 （ポスター発表）	共同	平成21年5月	日本地球惑星科学連合2009年大会，D108-P002（幕張メッセ国際会議場）	神戸市の六甲高雄観測室で観測された潮汐歪と理論潮汐を比較したとき、顕著な差異が見られた。この差異が理論潮汐の計算に用いた海洋潮汐モデルの不正確さに起因する可能性を検証するため、検潮所の潮位観測値を用いて正確な海洋荷重潮汐を計算し、補正を施した。この補正によって一部改善が見られた。 共同：向井厚志・大塚成昭 発表：平成21年5月18日 担当部分：歪観測値の潮汐解析および潮位観測値を用いた海洋荷重潮汐の計算を行ない、両者を比較する作業を担当したとともに、ポスター制作および学会会場での説明を行なった。
14）六甲高雄観測室における湧水量変化の潮汐成分から推定された岩盤特性 （口頭発表）	共同	平成21年11月	日本測地学会第112回講演会（産業技術総合研究所共用講堂）	神戸市の六甲高雄観測室では、伸縮計などによる地殻変動観測とともに、湧水量計による湧水量変化の連続観測も実施されている。湧水量変化に含まれる潮汐成分を解析したところ、潮汐振幅が経年的に変化していることが示された。その潮汐振幅の変化から、周辺岩盤の透水係数の変化を推定したところ、透水性の経年的な低下が示された。 共同：向井厚志・大塚成昭 発表：平成21年11月5日 担当部分：湧水量観測値の前処理および潮汐解析、その結果から透水係数を推定する作業を担当したとともに、学会発表を行なった。

15）六甲高雄観測室における長期的な歪変化に対する地下水の影響 （ポスター発表）	共同	平成22年5月	日本地球惑星科学連合2010年大会，SSS014-P05（幕張メッセ国際会議場）	六甲高雄観測室で得られた歪観測値には，湧水量および降水量の変化に応じた数ヶ月周期の歪変化が含まれている。湧水量および降水量の増大に伴う歪の収縮は、観測室近傍の万福寺断層にほぼ直交しており、地下水による荷重の増大や間隙水圧の増大に伴う断層破砕帯の膨張によってほぼ説明することができる。 共同：向井厚志・大塚成昭 発表：平成22年5月27日 担当部分：歪および湧水量観測値の解析、地下水荷重および間隙水圧変化による歪変化のモデル計算を担当するとともに、ポスター制作および学会会場での説明を行なった。
16）六甲高雄および六甲再度観測室における湧水量観測 （ポスター発表）	共同	平成22年11月	日本測地学会第114回講演会，P-20（京都大学宇治キャンパス おうばくプラザ）	六甲高雄観測室に水位計を設置し、湧水量変化とともに地下水位変化の連続観測を開始した。水位変化と湧水量変化は高い相関を示しており、水位の上昇に伴って歪の収縮、すなわち万福寺断層近傍の膨張が認められる。水位変化の気圧応答成分は、１日以下の短周期側で気圧そのものに応答し、長周期側では気圧の変化速度に応答する。後者は、岩盤の弾性によって気圧荷重を支持することによって説明できる。 共同：向井厚志・大塚成昭 発表：平成22年11月8日 担当部分：歪、水位および湧水量観測値を解析し、気圧応答のモデル構築および計算を行なうとともに、ポスター制作および学会会場での説明を担当した。
17）六甲高雄および六甲再度観測室における長期的な傾斜変化 （ポスター発表）	共同	平成23年5月	日本地球惑星科学連合2011年大会，SS030-P07（幕張メッセ国際会議場）	六甲高雄観測室で観測された傾斜変化には、湧水量変化と高い相関をもつ季節的な変化成分が含まれている。六甲高雄観測室の傾斜変化は，湧水量変化に対して約１ヵ月先行している。雨期の降水はまず表層に貯留して傾斜変化を引き起こし、その後、地下へ浸透して湧水量の増大をもたらすと推察される。 共同：向井厚志・大塚成昭 発表：平成23年5月24日 担当部分：傾斜および湧水量観測値を解析し、降水による地殻変動のモデル計算を担当するとともに、ポスター制作および学会会場での説明を行なった。
18）六甲高雄観測室および淡路島800m孔で観測された地震に伴う歪変化 （口頭発表）	共同	平成23年10月	日本測地学会第116回講演会（高山市民文化会館）	神戸市の六甲高雄観測室において、2011年東北地方太平洋沖地震に伴う歪変化が観測された。同地震の断層モデルから推定される歪変化と観測結果を比較したところ、両者に推定誤差を上回る差異が認められた。この差異は観測室の周辺岩盤がもつ力学的な異方性によって説明できることを示した。 共同：向井厚志・大塚成昭 発表：平成23年10月27日 担当部分：地震断層モデルに基づく歪変化を計算し、歪観測値と比較する解析作業の大部分を担当するとともに、学会発表を行なった。
19）六甲高雄観測室で観測された東北地方太平洋沖地震後の短期的な透水係数の変化 （ポスター発表）	共同	平成24年5月	日本地球惑星科学連合2012年大会，SSS32-P03（幕張メッセ国際会議場）	神戸市の六甲高雄観測室において、2011年東北地方太平洋沖地震時およびその後の数ヵ月間にわたって、顕著な地下水位および湧水量変化が観測された。両観測データを組み合わせて解析することによって、水源の水圧変化ならびに周辺岩盤の透水係数の時間変化を求めた。その結果、地震に伴って一時的に透水性の上昇が見られたが、数ヶ月後には元の透水性に戻ったことが確認できた。これは空隙に粘土質が再度つまるなどしたためと考えられる。 共同：向井厚志・大塚成昭 発表：平成24年5月20日 担当部分：水位および湧水量観測値の前処理、透水係数の計算など、解析の大部分を担当するとともに、ポスター制作および学会会場での説明を行なった。

20）六甲高雄観測室で観測された東北地方太平洋沖地震に伴う歪変化および地下水流動 （口頭発表）	共同	平成24年11月	日本測地学会第118回講演会（仙台市福祉プラザふれあいホール）	神戸市の六甲高雄観測室において、2011年東北地方太平洋沖地震時およびその後の数ヵ月間、地震に伴う歪変化および間隙水圧変化が観測された。同観測室周辺の地質構造と地下水流動を表す単純なモデルを用いて、これらの観測結果をほぼ説明できることを確かめた。 共同：向井厚志・大塚成昭 発表：平成24年11月1日 担当部分：歪、水位および湧水量観測値の前処理、間隙水圧分布の時間変動モデルの構築と計算など、解析の大部分を担当するとともに、学会発表を行なった。
21）六甲高雄観測室で観測された地震後の地下水流動に伴う歪変化 （ポスター発表）	共同	平成25年5月	日本地球惑星科学連合2013年大会，SSS34-P13（幕張メッセ国際会議場）	神戸市の六甲高雄観測室では、2011年東北地方太平洋沖地震を始め、2000年鳥取県西部地震、2001年芸予地震、2004年紀伊半島南東沖地震などの大地震時に明瞭な歪ステップが観測された。これらの歪ステップは、いずれの地震においても北北東の伸びと西北西の縮みを示しており、地震断層モデルから計算される歪ステップの大きさ、方向ともに異なっている。この原因は同観測室近傍に位置する断層破砕帯の影響であり、地震動によって破砕帯が収縮するとともに周辺岩盤の間隙水圧が上昇するモデルによって説明できることを示した。 共同：向井厚志・大塚成昭 発表：平成25年5月23日 担当部分：歪観測値の前処理および歪ステップの推定、モデルの構築と計算を担当するとともに、ポスター制作および学会会場での説明を行なった。
22）断層近傍における歪変化の応答特性の局所的な分布 （口頭発表）	共同	平成25年10月	日本測地学会第120回講演会（国立極地研究所）	六甲高雄観測室の伸縮計３成分は、万福寺断層からの距離を変えて同一方向に設置されている。2011年東北地方太平洋沖地震時に伸縮計で観測された歪ステップは、断層に近いほど、大きな歪変化を示した。伸縮計の気圧応答においても、断層に近い成分が大きな気圧応答係数をもつ。これらのことは、断層近傍の破砕帯が100m程度の広がりをもっており、数倍程度のヤング率の差異が空間的に存在することを示唆している。 共同：向井厚志・大塚成昭 発表：平成25年10月29日 担当部分：歪観測値の前処理および歪ステップの推定等の解析、学会発表を行なった。
（その他）				
「研究会発表」				
１）Secular Change of Permeability near the Nojima Fault Estimated Using Strain Changes due to Water Injection Experiments （口頭発表）	共同	平成20年3月	野島断層・車籠埔断層注水実験ワークショップ（京都大学防災研究所）	淡路島の1800m孔で実施された繰り返し注水実験では、800m孔において注水に伴う歪変化が観測された。周辺岩盤の透水係数をパラメータにもつ拡散方程式を用いて間隙水圧分布の変動を計算し、注水に伴う歪変化を予測した。その予測値と歪観測値を比較することによって求めた最適な透水係数は、経年的に低下していることが示された。これは、野島断層の固着が進行しつつあることを示す。 共同：向井厚志・藤森邦夫 発表：平成20年3月13日 担当部分：注水に伴う歪変化のモデル計算を行ない、歪観測値と比較して透水係数を推定する解析の大部分を担当するとともに、研究会での発表を行なった。
２）ボアホール歪記録から見た断層強度回復過程 （口頭発表）	共同	平成20年12月	島崎シンポジウム in 京都（京都大学防災研究所）	1995年兵庫県南部地震の震源断層のひとつである野島断層の近傍に位置する富島ボアホール群において、1997年以降、繰り返し注水実験が実施された。ボアホール群のひとつである800m孔において観測された注水に伴う歪変化から周辺岩盤の透水係数を推定したところ、透水性の経年的な低下が検出された。また、潮汐歪の振幅の経年的な変化からも、周辺岩盤の強度上昇が認められ、野島断層の回復過程が進行しつつあることが示された。 共同：向井厚志・藤森邦夫 発表：平成20年12月24日 担当部分：注水に伴う歪変化のモデル計算および透水係数の推定、歪観測値の潮汐解析と弾性定数の推定など、解析作業の大部分を担当するとともに、研究会での発表を行なった。

３）地殻変動観測値を用いた周辺岩盤の力学特性の推定 （口頭発表）	共同	平成21年12月	地殻変動連続観測研究集会（京都大学防災研究所）	神戸市の六甲高雄観測室及び淡路島の800m孔における潮汐歪を解析したところ、潮汐振幅の経年的な変化が観測された。これは周辺岩盤の弾性定数の変化によって説明することができる。潮汐歪の観測値から推定されたヤング率は経年的な上昇を示しており、1995年兵庫県南部地震以降、いずれの観測点においても近傍に位置する断層強度が回復しつつあることを示す。 共同：向井厚志・大塚成昭 発表：平成21年12月3日 担当部分：歪観測値の前処理および潮汐解析、その結果に基づく弾性定数の推定など、解析作業の大部分を担当するとともに、研究会での発表を行なった。
４）私立大学における地学教育の試み－奈良産業大学の場合－ （口頭発表）	単独	平成22年9月	地学教育の現状とその改革－防災知識の普及に向けて－（京都大学防災研究所）	奈良産業大学における地学教育の経緯と現状について報告した。同大学は社会科学系を主体とする文系大学であり、地学教育は教養科目として実施されてきた。現在、地学系科目は半期２科目が存在し、いずれも多くの受講生を集めている。地学分野に対する文系学生の興味・関心は高く、積極的に教育活動を進めていくことによって、地学関連分野の研究活動に好意的な市民を増やしていくことができるものと考える。 発表：平成22年9月1日
５）地元小学生対象に実施している奈良産大の地学教育 （口頭発表）	単独	平成23年10月	地学教育の現状とその改革（東京大学地震研究所）	奈良産業大学情報学部の地学系教員を中心に実施している科学教室の取り組みについて報告した。平成20年度以降、「少年宇宙教室」として地元小学生を対象に年数回の科学教室を実施している。同教室における取り組み内容や参加者の反応などを紹介した。地学分野への興味・関心をもつ子供たちを増やしていく上で、「少年宇宙教室」のような科学教室が有効であると考えられる。 発表：平成23年10月2日
６）東北地方太平洋沖地震前後の六甲の地殻変動 （口頭発表）	共同	平成24年8月	地殻活動研究委員会（東濃地震科学研究所）	神戸市の六甲高雄観測室において観測された東北地方太平洋沖地震時の歪変化および地下水位変化の特徴を概観した。地震時の歪ステップが理論値と明瞭に異なることや、地震後に縮みの歪変化と地下水位低下という一見矛盾する変化が現れており、それらを説明するモデル候補について説明した。 共同：向井厚志・大塚成昭 発表：平成24年8月6日 担当部分：歪観測値の前処理および歪ステップの推定、地震後の地下水流動に伴う歪変化のモデル計算など、解析作業の大部分を担当するとともに、研究会での発表を行なった。
７）六甲高雄観測室の伸縮計で得られた歪変化の応答特性 （口頭発表）	共同	平成25年9月	地殻活動研究委員会（東濃地震科学研究所）	神戸市の六甲高雄観測室において観測された東北地方太平洋沖地震時の伸縮計記録を用いて、断層近傍の力学的な特性の空間分布について概観した。同じ方向に並んだ伸縮計による地震時の歪変化は、断層に近づくほど、大きな振幅をもつ。これは断層に近いほど破砕が発達しており、ヤング率が小さくなっていることを反映している。 共同：向井厚志・大塚成昭 発表：平成25年9月21日 担当部分：伸縮計の歪観測値の前処理および歪ステップの推定、潮汐解析など、解析作業の大部分を担当するとともに、研究会での発表を行なった。

［注］

1 最近10年間の教育活動、研究活動について作成すること。

2 「教育活動」については、各項目ごとに年月日順に、「学会等および社会活動」については、就任年月日順に記入すること。

3 「研究活動」については、下記の点に留意すること。

① 著書・論文及びその他の順に、発表年月日順に記入すること。

② 著者が複数にわたる場合で、筆頭著者が著書・論文等において明示されている場合には、その氏名に◎印を付すこと。

③ 共著（論文）の場合、「該当頁数」の記入にあたっては、本人の分担箇所を特定できる場合は、その頁数を記載すること。

④ 最近10年間に著書・論文等の発表のなかった者についても、教員名を挙げてその部分を空欄にしておくこと。

⑤ 芸術分野や体育実技等の分野を担当する教員については、著書・論文等以外の競技会、展覧会または演奏会等での発表のうち、特に顕著な業績と認められるものについても記載すること。このほか、専門分野の特性を 考慮し、顕著な業績と認められるものがあ

教　育　研　究　業　績　書

平成26年3月31日

氏名　門垣　一敏

研究分野	研究内容のキーワード
メディア情報学	マルチメディア情報処理、コンテンツ、芸術情報

教育上の能力に関する事項

事項	年月日	概要
1　教育方法の実践例		
1）映像技術の講義に際して ・大学のネットワークサーバーを利用した教材の配布 ・ビデオ教材や映像作品を利用した視聴覚教育 ・授業の最後には「まとめ」として小テストを行い、次回に返却して理解度を再確認する。	平成19年4月～平成26年2月	奈良産業大学情報学部情報学科の教授として担当してきた専門科目「映像技術Ⅰ」（2年次配当、半期、2単位）において、理系でない履修者も多く、机上だけではわかりにくい専門用語や映像技術・音声技術の教材や資料をサーバーに置くことでいつでもどこでも予習・復習を可能にする。またビデオ教材や映像作品を見せることによって視聴覚的に理解しやすい指導をしている。 授業の最後に「まとめ」として小テストを行い、次回に返却することで反復して専門用語の再確認ができるようにしている。これは、出席確認も確実にできて出席率も上がる。
・ビデオカメラと編集パソコンで映像作品の制作	平成19年4月～平成24年2月	「映像技術Ⅱ」（2年次配当、半期、2単位）では「映像技術Ⅰ」の知識をもとに、ビデオカメラと編集パソコンを使用して簡単な映像作品の制作を課題にしている。映像制作を楽しんで制作する動機づけになっている。
2）2コマを連続して、2人の教員が共同で各専門の講義や指導を行うオムニバス授業。	平成19年4月～平成26年2月	「映像制作Ⅰ（映像制作演習）」（3年次配当、半期×2、4単位）においては、ビデオカメラで撮影して映像作品を制作する科目であるが、企画や撮影・編集など90分では不十分な時間を2コマ連続して3時間の授業をする。このことでじっくり考えて作業をしたり、学外に出ての調査やロケ撮影も可能にする。 映像制作では企画や演出を専門とする教員とカメラなどの技術を専門とする教員が共同して、また分担して授業を行ことで、複数のグループに分かれて作業する時にはより適切な指導のできる体制がとれる。
3）大学内にあるテレビスタジオ設備を利用した映像制作	平成19年4月～平成26年2月	「プロジェクト演習（ビデオ作品の制作と研究）」（2・3・4年次、通期、4単位）、「情報学演習Ⅱ・Ⅲ」（3・4年次、通期、情報学ゼミⅡ・Ⅲ、4単位）においては、テレビスタジオ設備を利用した映像作品の制作を行っている。このスタジオは複数のカメラを使った映像スイッチングシステムや照明機器、音声ミキサーを備えた本格的なもので、リアルタイム制作の実技トレーニングができる。これらをベースに単体のビデオカメラと編集ソフトを使用したポストプロダクション技術を習得し、映像情報を制作して発信する能力を高め、卒業制作などのより高度な作品づくりができる。
2　作成した教科書，教材		
1）教材 ・音声技術概要 ・アナログ放送からデジタル放送へ ・Premiere Proを起動する ・編集するとは・・・編集のためのカメラワーク ・映像制作の道 ・3D立体視映像の作成と実験	平成19年6月 平成19年7月 平成19年9月 平成19年～23年 平成23年 平成23年9月～平成26年2月	音声技術の概要とインピーダンス・デシベルについて 地上デジタル放送の概要 Adobe Premiere Pro　1.5～CS5.0 を使う手順書 編集ソフトの概念と編集のためのカメラワーク 映像制作の企画から編集までの手順書 3D立体視映像の制作実験をする教科の手順書
3　教育上の能力に関する大学等の評価		

4 実務の経験を有する者についての特記事項		
1)株式会社毎日放送 技術局等に勤務	昭和45年4月～ 平成16年6月	主な勤務としてラジオのミキサー7年、テレビのカメラマンやテクニカルディレクターとして18年、社内で制作するラジオやテレビの番組を制作する。以後平成16年6月まで技術局の管理職として勤務。
5 その他		

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
1 資格，免許		
2 特許等		
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
4 その他		

研究業績等に関する事項				
著書，学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所，発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概要
（著書）				
（学術論文）				

［注］

1 最近10年間の教育活動、研究活動について作成すること。

2 「教育活動」については、各項目ごとに年月日順に、「学会等および社会活動」については、就任年月日順に記入すること。

3 「研究活動」については、下記の点に留意すること。

① 著書・論文及びその他の順に、発表年月日順に記入すること。

② 著者が複数にわたる場合で、筆頭著者が著書・論文等において明示されている場合には、その氏名に◎印を付すこと。

③ 共著（論文）の場合、「該当頁数」の記入にあたっては、本人の分担箇所を特定できる場合は、その頁数を記載すること。

④ 最近10年間に著書・論文等の発表のなかった者についても、教員名を挙げてその部分を空欄にしておくこと。

⑤ 芸術分野や体育実技等の分野を担当する教員については、著書・論文等以外の競技会、展覧会または演奏会等での発表のうち、特に顕著な業績と認められるものについても記載すること。このほか、専門分野の特性を 考慮し、顕著な業績と認められるものがある場合もこれに含めてもよい。

教　育　研　究　業　績　書

平成26年3月31日

山田　尚

研究分野	研究内容のキーワード
映像メディア、　映画・映像論	メディアの展開と映像の役割、映画、映像と社会の関係

教育上の能力に関する事項

事項	年月日	概要
1　教育方法の実践例		
1）映像素材の活用	平成19年4月～	映像メディア論、映像作品論では、各回のテーマに合わせ、必要に応じ映像（作品）を視聴。比較分析及び発見というキーワードから考察する。また、そこから描かれた時代や社会背景にも敷衍し、学生に映像＋社会と人間についても理解を促す。
2）時代や社会（世界）への学生の関心の涵養	平成19年4月～	映像に関するメディアや作品の分析、解釈に加え、それに関連した、大学生なら知っておくべき事象へも展開させる。それは、学生により社会への知識や関心を高め社会性を涵養することも目的の一つ。
2　作成した教科書，教材		
1）独自の教材、資料の作成	平成19年4月～	映像作品論、コンテンツ構成論、メディアを考えるの科目では、毎回の授業で独自の教材を作成、映像素材の視聴や関連資もに配布。社会の動きや最新の話題等も組み込んでいる。
3　教育上の能力に関する大学等の評価		
1）		
4　実務の経験を有する者についての特記事項		
1）		
5　その他		
1）		

職務上の実績に関する事項

事項	年月日	概要
1　資格，免許		
1）		
2　特許等		
1）		

3　実務の経験を有する者についての特記事項		
1）テレビ番組の制作	昭和43年～ ～平成17年	ワイドショー：八木治郎ショー ドラマ：東芝日曜劇場「君に捧げる歌（民間放送連盟賞）」「伝言（JNN協議会賞）」　他39作品 連像ドラマ「生きて行く私（ｷﾞｬﾗｸｼｰ賞、ATP賞）」 他　6シリーズ 帯ドラマ「ピュア・ラブ　Ⅰ,Ⅱ,Ⅲ」　他6シリーズ 単発ドラマ「開局記念・ちいさな橋を架ける（ｱｼﾞｱﾃﾚﾋﾞ賞、民間放送連盟賞）」　他３作品 情報エンタテイメント番組：「世界まるごとHOWﾏｯﾁ」 「世界ウルルン滞在記（橋田賞）」
4　その他		
1）　放送人の会・幹事 一般社団法人放送人の会・理事	平成17年～	任意団体放送人の会の幹事として「日韓中テレビ制作者フォーラム」日本組織委員会を担当、毎年3か国で持ち回る大会の企画、運営に携わる。なお、平成25年4月から、放送人の会は一般社団法人となり理事となる。
2）学内役職・委員	平成19，20年度 平成21，22年度 平成23年度 平成24年度 平成25年度	広報委員　図書館運営委員：評議員、教養教育推進委員 学生支援センター長、国際交流センター委員、 評議員、国際交流センター委員、地域連携推進委員、 自己点検委員長　国際交流センター委員 国際交流センター長　評議員

研　究　業　績　等　に　関　す　る　事　項

著書，学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所，発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　要
（著書）				
	単			
（学術論文）				
	単			
（その他）				
研究ノート 「映像と人間の認識」～人間はどのように映像をみているのか～	単	平成22年11月	奈良産業大学 情報学フォーラム紀要 情報学部創設10周年記念 P47～P57	映像は限られた枠の中の平面に描き出され、その中に時間と空間を持つという特質がある。描き出される多様な世界を、人間は生理的、心理的な働きと自らの経験により、解釈と理解が異なることを、映像の効果と演出の面から分析。

［注］

1 最近10年間の教育活動、研究活動について作成すること。

2 「教育活動」については、各項目ごとに年月日順に、「学会等および社会活動」については、就任年月日順に記入すること。

3 「研究活動」については、下記の点に留意すること。

① 著書・論文及びその他の順に、発表年月日順に記入すること。

② 著者が複数にわたる場合で、筆頭著者が著書・論文等において明示されている場合には、その氏名に◎印を付すこと。

③ 共著(論文)の場合、「該当頁数」の記入にあたっては、本人の分担箇所を特定できる場合は、その頁数を記載すること。

④ 最近10年間に著書・論文等の発表のなかった者についても、教員名を挙げてその部分を空欄にしておくこと。

⑤ 芸術分野や体育実技等の分野を担当する教員については、著書・論文等以外の競技会、展覧会または演奏会等での発表のうち、特に顕著な業績と認められるものについても記載すること。このほか、専門分野の特性を 考慮し、顕著な業績と認められるものがある場合もこれに含めてもよい。

教　育　研　究　業　績　書

平成26年3月31日

氏名　　吉村　文男

研究分野	研究内容のキーワード
教育哲学・教育人間学	人間、子ども、文化、人間形成、社会化

教育上の能力に関する事項

事項	年月日	概要
1　教育方法の実践例		
2　作成した教科書，教材		
1）教育実習の手引	平成18年4月 平成22年4月 （改訂版）	教育実習に必要な事柄について、実際に即して詳細にしたものである。（廣田英樹と共著、奈良産業大学発行、３０Ｐ）第１章教育実習の意義と目的、第２章教育実習の準備と心得、第５章教育実習を終えて担当。
3　教育上の能力に関する大学等の評価		
1）特記事項なし		
4　実務の経験を有する者についての特記事項		
1）特記事項なし		
5　その他		

職務上の実績に関する事項

事項	年月日	概要
1　資格，免許		
高等学校教諭二級普通免許状(社会)	昭和39年3月	
中学校教諭一級普通免許状(社会)	昭和39年3月	
2　特許等		
1）特記事項なし		
3　実務の経験を有する者についての特記事項		
1）特記事項なし		
4　その他		
1）特記事項なし		

研究業績等に関する事項				
著書，学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所，発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（著書）				
人間であること	編	平成18年1月 (2007)	燈影舎 311p.	人間であることの根底を問う論考を中心にして、人間であることの諸相の探求とそれの教育学的展開に関する論文からなる論文集。 （監修：上田閑照、編集：吉村文男ほか3名、執筆者11名） 第一部「人間であること―その根底と諸相」、第二部「人間であること―その教育学的展開」で構成。第一部に掲載された「読むことについて―人間学的な一つの省察」において、読解力の低下が言われる現在の状況を踏まえ、読むことを人間であることの基本現象の一つとしてその意味を探った。（pp.101～122）
学び住むものとしての人間	単	平成18年7月 (2007)	春風社 265p.	「学ぶ」ということを、人間存在の根本である「住む」ことから根本的に捉えようとした。特に「ニヒリズム」が深く根をはる現代社会において、住むことを見失った人間が「学びのニヒリズム」へと陥っている状況を解明し、そこからの脱出の道としての「学び」について考察した。
ヤスパース　人間存在の哲学	単	平成23年3月 (2011)	春風社 505p.	教育は「人間が人間になる（人間生成）」に関わる営みであるとするなら、「人間であること（人間存在）は人間になること（人間生成）である」というヤスパースの哲学を人間存在の哲学と捉えて、それを解明することは教育理解の基礎を明らかにしてゆくことになる。そうした観点から、ヤスパース哲学における人間存在の全体構造を解明した。その核心は、人間は意識の変革により「包越者」になり、さらに限界状況に直面することにおける「決断」を通じて超越的に根拠づけられた自己の自覚を通じて「実存」となる、という「二重の転換」により本来の人間になるという点にあり、このことなしには人間は対象的な存在へと陥らざるをえない。
ランゲフェルト教育学との対話―「子どもの人間学」への応答	共	平成23年6月 (2011)	玉川大学出版部 387p.	20世紀の代表的な教育学者の一人ランゲフェルトの没後20年を記念した、2回の来日などによって彼に直接接し影響を受けた日本の教育学者による論文集である。 （和田修二、皇紀夫、矢野智司編、執筆者19名） 5部から構成されるが、そのうちの第3部『「人間学」との対話』に掲載された「教育における畏敬について」において、ランゲフェルトは教育がそれとして成立するためには「権威」が不可欠であるというが、そもそも権威がほとんど崩壊したに等しい現代においてそれが妥当性をもつのかを検討した。子どもを含む人間の「存在」への「畏敬」、真理への「畏敬」に見られる「権威」なしには教育は単なる「知識伝達」、特定目的のための「人材づくり」になることを明らかにすることを通じて、若干の変容を必要とするにしてもランゲフェルトの主張を妥当性は現代においても変わりのないことを解明した。
（学術論文）				
循環型社会における知と学び	単	平成16年12月 (2004)	『奈良産業大学紀要』第20集	これからの社会としてあるべき「循環型社会」の在り様を根本から問い、そこにおける「知」とそれの「学び」の特徴を解明しようとした。近代の自然科学的知とそれの学びに対する、「もう一つの（オルタナナティブな）知」とその非対象的な学びのあり方を追求する（PP.８１～８８）
（その他）				
教育用語辞典	共	平成15年7月 (2003)	ミネルヴァ書房 547p.	「教育の目的・目標」「教員」の大項目、「ウィネトカ・プラン」「シークエンス」「スコープ」「論理的思考」など小項目１７担当。（山崎英則、片山宗二、編集代表）

［注］

1 最近10年間の教育活動、研究活動について作成すること。

2 「教育活動」については、各項目ごとに年月日順に、「学会等および社会活動」については、就任年月日順に記入すること。

3 「研究活動」については、下記の点に留意すること。

① 著書・論文及びその他の順に、発表年月日順に記入すること。

② 著者が複数にわたる場合で、筆頭著者が著書・論文等において明示されている場合には、その氏名に◎印を付すこと。

③ 共著（論文）の場合、「該当頁数」の記入にあたっては、本人の分担箇所を特定できる場合は、その頁数を記載すること。

④ 最近10年間に著書・論文等の発表のなかった者についても、教員名を挙げてその部分を空欄にしておくこと。

⑤ 芸術分野や体育実技等の分野を担当する教員については、著書・論文等以外の競技会、展覧会または演奏会等での発表のうち、特に顕著な業績と認められるものについても記載すること。このほか、専門分野の特性を 考慮し、顕著な業績と認められるものがある場合もこれに含めてもよい。

教　育　研　究　業　績　書

平成26年3月31日

氏名　菅　徹

研究分野	研究内容のキーワード
カウンセリング方法論　学生相談	解決志向アプローチ　学生相談における「チーム支援」のありかた

教育上の能力に関する事項

事項	年月日	概要
1　教育方法の実践例		
1）京都造形芸術大学 (博物館学芸員資格取得課程「教育学概論」「生涯学習概論」)(教職資格取得課程「教育相談）」	平成19年4月1日	「構成的グループエンカウンター」の手法を使って、年度当初の堅い雰囲気の教室を変化させるため、初めての出会いを演出した。これは学生および、授業担当者としての私の自己開示をすることによって、対人コミュニケーションのあり方を体験させる実習プログラムである。
2）京都造形芸術大学 (博物館学芸員資格取得課程：「教育学概論」「生涯学習概論」)	平成19年4月1日	毎回、授業終了後に学生にコメントを書いてもらい、次回授業の冒頭に疑問点に答え、各種、要望を取り入れるようにしている。
3）京都造形芸術大学 (教職資格取得課程：「教育相談の理論と方法」)	平成19年4月1日	上記、「構成的グループエンカウンター」を使用して実習をするために、進め方のテキストを作成し、このテキストに即して、８０分の授業を構成した。また、２コマ連続でカウンセリングの基礎とそれに基づいたロールプレーを実施した。次いで、自己主張訓練（アサーショントレーニング）を実施して、自己理解、他者理解、相互理解の過程をロールプレーによって、訓練した。
4）京都造形芸術大学 (教職資格取得課程：「教育心理学」)	平成19年4月1日	M・セリグマン博士の「楽観度テスト」を実施し、「うつ病」への対策として、論理療法のロールプレーを実施した。
5）奈良産業大学 (教職資格取得課程：「教育相談の理論と方法」)	平成23年6月1日	授業内容として、事例研究法として「インシデント・プロセス法」を取り上げた。筆者が過去の行った面接事例の概略を５分ほど述べる。次に、内容について、自由に学生から質問を受ける。ねらいは、事例に対する学生のイメージを膨らませることにある。これによって、自分だったら、どのような対応をするだろうかと考えさせることができる。よって、他人の事例ではなく身近に感じることができる。
2　作成した教科書，教材		
1）奈良産業大学 教育実習の手引き	平成21年4月1日	担当した内容は、第３章、３の教科外教育の指導 （６）教育相談　Ｐ２６～２９　教育相談の定義。生徒と担任教師の関係性。学年や学校全体の有機的連携組織の構築及び活性化などについて記した。また、生徒との個別相談の三類型を示した。すなわち、「相談室登校」でのカウンセリング実践について述べたものである。そのルートは、Aルート　養護教諭から教育相談係、Bルート担任・部顧問から教育相談係、教育相談係による生徒への直接的なアプローチである。
3　教育上の能力に関する大学等の評価		
1）「教育学概論」の授業に対する学生の評価	平成19年9月25日	高等学校の現場教育に携わる傍ら、兵庫教育大学大学院修士課程へ内地留学し「学校教育学」の修士学位を取得した。現場復帰後、奈良県、東大阪市を中心に高校生、保護者、教員を対象に教育相談活動を展開している。京都造形芸術大学では、学芸員課程の「教育学概論」を担当し、青年期の課題・生徒指導・や教育改革・を講じている。学生の授業評価では、身近に感じる生きた授業を受け、非常に興味深く理解しやすいと信頼も厚い。

２）教員免許状課程認定申請：「教育心理学」	平成21年4月1日	京都造形芸術大学　新学科（こども芸術学科・キャラクターデザイン学科）において、教員免許状課程認定申請を文部科学省の認定委員会に提出し、通過した。教科：「教育心理学」
３）教員免許状課程認定申請：「教育相談の理論と方法」	平成21年4月1日	奈良産業大学教職課程において、教員免許状課程認定申請を文部科学省の認定委員会に提出した。教科：「教育相談」
４）教員免許状課程認定申請：「教育心理学」	平成24年3月1日	奈良産業大学教職課程において、教員免許状課程認定申請を文部科学省の認定委員会に提出した。教科：「教育心理学」
４　実務の経験を有する者についての特記事項		
１）平成21年度奈良産業大学（学生支援センター主催）第１回学生相談研修会「学生に対応するには」	平成21年5月	「多様な問題を抱える本学の学生に対する接し方」について、教育相談の初歩的な内容を講義した。学内の全教職員に参加を呼びかけた結果、約40名が参加した。
２）平成23年度奈良産業大学（学生支援センター主催）第２回学生相談研修会「学生に向き合うとは」	平成22年5月	『学生の声をこころで聴く』実際的方法論として、参加した教職員が、学生役、生徒役になって、ロールプレイすることによって、分かってくれない、対話や、分かる対話の違いを体験してもらった。
３）平成23年度奈良産業大学（学生支援センター主催）第３回学生相談研修会　「学生と向き合うこと」と「自分自身を知ること」	平成23年2月	
４）　新入生への入学前教育 構成的グループエンカウンター　「～友だちづきあいと自己発見～」	平成23年3月12日	奈良産業大学の新入学生約100名に対して、構成的グループエンカウンターの手法で、出会いの演出を行った。百人規模の仲間作り実習は工夫を必要とするが、新入生からは、「入学前に、この容易な体験ができてよかった」等、好評であった。
５）奈良産業大学　　高等学校対象出張講座	平成23年5月10日	奈良県立王寺工業高等学校は人権教育の一環として、「仲間づくり」の人権学習教育を目指している。全学６００名を対象に、カウンセリングの手法を使って、「自分のことが好きですか」という切り口で講演と実習を行った。体育館に座っている生徒の間に入り、「自分のどんなところが好きですか？」と、自己開示を迫った。これ以後、担任教師がどのようにクラスで展開されるか、楽しみである。
６）平成23年度奈良産業大学「学生相談定期研修会」（学生支援センター主催）	平成23年5月～平成24年2月	学内の教職員に対して、連続９回の定期研修会を実施した。その内容や参加者の感想等を、学生相談だより、「三室山」に掲載した。第１回～9回の研修内容は、毎回テーマを設定し、大学臨床で必要な基礎的な内容を講義すると共に、グループワークやロールプレイを取り入れた。
７）　新入生への入学前教育　構成的グループエンカウンター　「～友だちづきあいと自己発見～」	平成24年3月24日	奈良産業大学の新入学生約100名に対して、構成的グループエンカウンターの手法で、出会いの演出を行った。百人規模の仲間作り実習は工夫を必要である。今回は構成員の関係もあって、筆者が意図していたような結果にはならなかった。今後の課題である。
8)奈良産業大学入試課主催 高等学校対象出張講座	平成２４年 １０月	奈良県立西和清陵高等学校の「総合的な学習の時間」一環として、１・２年生３００名の生徒対象に、「仲間づくり」の実習を行った。筆者は構成的グループエンカウンターの手法を使って、二人組でまず、①「出会いのあいさつ」をおこなった。次に、②好きな季節は（春夏秋冬）？　③クラス別ごとに誕生日順に並ぶ。④「二人一組で，お互いに知りたいことを聞く」⑤「四人組で、他者紹介」⑥「振り返り用紙の記入」をおこなった。このことを通して、「自己理解」と「他者理解」を促進するすることを目指している。今後、担任の先生方が、どのように自分のクラスを作られるかが楽しみである。
５　その他		
１）特記事項なし		

職　務　上　の　実　績　に　関　す　る　事　項		
事項	年月日	概　　要
1　資格，免許		
1）高等学校教諭　専修免許状　地理歴史	平成８年　５月	（奈良県教育委員会）
2）高等学校教諭　専修免許状　公民	平成８年　５月	（奈良県教育委員会）
3）中学校教諭　　専修免許状　社会	平成８年　５月	（奈良県教育委員会）
4）認定学校カウンセラー　「平成22年３月まで」	平成11年　４月	日本学校教育相談学会
5）臨床心理士資格認定（12955号）「現在に至る」	平成17年　４月	（財）日本臨床心理士資格認定協会
2　特許等		
1）特記事項なし		
3　実務の経験を有する者についての特記事項		
1）　平成23年度奈良産業大学 「学生相談だより　三室山」定期発行	平成23年5月（現在に至る）	学内の教職員に対して、連続９回の定期研修会を実施した。その内容や参加者の感想等を、学生相談だより、「三室山」に掲載した。他には、その時々の学生相談に関するトピックを広報した。対象は、学内で学生に関わる全教職員に対してである。平成23年度は11回発行した。
平成23年度奈良産業大学 「学生相談定期研修会　①～⑨」	平成23年5月～平成24年２月	①「学生相談とは？（大学での教育相談活動）」 ②「事例研究（学生援助シートの活用）]講義・実習 ③「発達障がい（学生の困りごとの実態）」 ④「発達障がい（就労・学業・生活等具体的支援等）」 ⑤「解決のための面接技法Ⅰ」講義・実習 ⑥「解決志向ブリーフセラピー」によるカウンセリング ⑦　ｱｻｰｼｮﾝ（自己主張）のわーくⅠ」 ⑧　ｱｻｰｼｮﾝ（自己主張）のわーくⅡ」 ⑨『学生が思わず本音を語る、学生相談を目指して』
独立行政法人日本学生支援機構　平成２３年度近畿地区メンタルヘルス研究協議会	平成23年11月	第３分科会「『 チーム援助』による学生相談のすすめ方」助言者（司会）
奈良産業大学出張授業　奈良県立西和清陵高等学校	平成24年5月	総合的な学習の時間 「仲間作りの“演習”」 講義･実習
平成24年度奈良産業大学 「学生相談定期研修会」	平成24年４・10･12月	①学生相談室３年間(2009～2011）の歩みと本年の取り組み ③「全国の大学における障害学生に対する支援と本学の現状」 ④障害学生支援についての教職員プログラムについて
奈良県立郡山高等学校スクールカウンセラー	平成25年5月～	月2回、毎回13:00～18:00（現在に至る）
奈良県立郡山高等学校保護者向き教育相談研修会	平成25年6月	『青年期の高校生と親の関係性について』
奈良県立郡山高等学校教職員教育相談研修会	平成25年11月	「インシデント・プロセス法」を用いた事例研究会
第2回奈良県北部高等学校教頭会	平成25年12月	「学校教育相談の枠組み」講演

平成25年度奈良産業大学 「学生相談定期研修会　①～⑤」	平成25年5月～平成26年２月	①学生相談室４年間(2009～2012）の歩みと本年の取り組み ②『学生が思わず本音を語る、学生相談方法論』講義・実習 ③“解決志向ブリーフセラピー”によるカウンセリング方法論” ④「大人の発達障害」 ⑤「学生の心理的問題」　統合失調症とうつ病　講義・実習
４　その他		
１）特記事項なし		

研究業績等に関する事項				
著書，学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所，発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（著書）				
（学術論文）				
1）「教育相談体制の整備と相談室登校生への支援」－高等学校における６年間の試み－	単	平成20年11月	京都造形芸術大学紀要２００７	高等学校での教育相談活動について、①教職員・保護者・生徒に対する予防的・開発的教育相談の実際が述べられた。②「相談室登校」の運営について、実践内容を検証した。今後の課題として、「教師カウンセラー」の力量形成と後継者の育成を図るための方策を追求していくことが必要であることが述べられた。
2）独立行政法人日本学生支援機構　平成２１年度近畿地区メンタルヘルス研究協議会報告書	共	平成22年3月	第４分科会「発達障害学生への支援」	＜1日目＞助言者（菅）より発達障害を疑われる学生について、事例を提示した。質疑応答を行ったあと、各大学の取り組みについて、自由な発言を促された。 ＜2日目＞助言者（多喜）から、障害学生に対しての具体的な支援と就労支援について、絞った論議をするように指示された。そこで、各大学から、取り組み内容と課題が述べられた。
3）小規模な大学における学生支援の試み -奈良産業大学学生相談室の活動から-	単	平成22年12月	奈良産業大学紀要第２６集	平成２１年度の学生相談活動を総括した。「学生支援の３階層モデル」を元に本学の学生相談の在り方について考察した。初めに本学の活動内容について述べた。次に、教職課程の教員と専任カウンセラー（臨床心理士）を兼務している。その活動の様子を述べた。課題は、「発達障がいのある」学生に対する支援の在り方とした。
4）独立行政法人日本学生支援機構　平成22年度近畿地区メンタルヘルス研究協議会報告書	共	平成23年3月	第４分科会「発達障害学生への支援」	＜1日目＞助言者（中村）より、プール学院大学における学生支援ＧＰ「発達障害を有する学生に対する支援活動」の取り組みの概要が示された。 ＜２日目＞「チーム援助」での実践上で起こった事態の対応が語られた。発達障害のある学生への支援については、協力者を見つけて、関わり合う地道な実践によって乗り越えていくしかない。と結ばれた。
５）小規模な大学における学生支援の試み（２） -奈良産業大学学生相談室の活動から-	単	平成23年12月	奈良産業大学紀要第２７集	平成２２年度の学生相談活動における、個別学生相談件数について概略を述べた。学生の相談内容で「発達障害のある学生」からの相談件数が３６回で、総相談件数の約３８％を占めていることが特徴的であった。学生相談活動の推進活動として、教職員に対する、「相談研修会」を２回開催した。

６）奈良産業大学学生相談だより「三室山」№1-11	単	平成23年5月～平成24年2月	奈良産業大学学生支援センター学生相談室 発行「三室山」№1-11(現在に至る)	毎月の教育相談研修会の案内と前回参加者のメッセージ、感想等を広報して次につなげるために、毎月１回発行した。（Ａ４版２頁）
７）独立行政法人日本学生支援機構　平成23年度近畿地区メンタルヘルス研究協議会報告書	共	平成24年3月	第３分科会「『チーム援助』による学生相談のすすめ方」	＜１日目＞　昨年に引き続き、学生相談の「チーム援助」に焦点が絞られた。「学生支援」の目指すべき方向は、「すべての学生に対する支援」という観点であり、「授業のユニバーサルデザイン」を確立することが出発点である事を確認した。 ＜２日目＞奈良産業大学の取り組み内容を発表した。本人の可能性を発見し、誉めて情報を引き出す努力が必要であることを確認した。
奈良産業大学 学生相談だより 「三室山」№1-11	単　著	平成２３年５月１４日～２月１０日	奈良産業大学学生支援センター　学生相談室 「三室山」№1-11(現在に至る)	学生相談定期研修会の内容、学生相談に関する、トピック。外部での研修会のお知らせ等、多彩な内容で、大学における学生相談の啓蒙を行っている。
小規模な大学における 学生支援の試み(3) -奈良産業大学学生相談室(平成23年)の活動から-	単　著	平成２３年12月	奈良産業大学紀要　第28集	
小規模大学における 学生支援の試み -奈良産業大学学生相談室3年間(2009～2011)の活動から-	単　著	平成２４年２月	奈良産業大学情報学フォーラム紀要　第8巻	
小規模な大学における 学生支援の試み(4) -奈良産業大学学生相談室(平成24年)の活動から-	単　著	平成２４年12月	奈良産業大学紀要　第30集	
困りごとはありませんか？	単　著	平成22年3月	NEWSLETTER №8	
（その他）				
１）「王寺町りーべるカレッジ」 当講座の対象は奈良県生駒郡王寺町の町民である。	単	平成22年7月	青年期のこころと家庭教育　－青年期とは？－	E・H　エリクソンの『ライフサイクル論に基づく発達論』は人生を八段階に分けて、発達の特徴を説明している。人は死ぬまで発達していくとするものであるとしている。例えば、第一段階の乳児期では「基本的信頼」を得られるか、「不信」に陥るかの“対”よって、その後の生き方に影響を与えるとしている。

［注］

1 最近10年間の教育活動、研究活動について作成すること。

2 「教育活動」については、各項目ごとに年月日順に、「学会等および社会活動」については、就任年月日順に記入すること。

3 「研究活動」については、下記の点に留意すること。

① 著書・論文及びその他の順に、発表年月日順に記入すること。

② 著者が複数にわたる場合で、筆頭著者が著書・論文等において明示されている場合には、その氏名に◎印を付すこと。

③ 共著(論文)の場合、「該当頁数」の記入にあたっては、本人の分担箇所を特定できる場合は、その頁数を記載すること。

④ 最近10年間に著書・論文等の発表のなかった者についても、教員名を挙げてその部分を空欄にしておくこと。

⑤ 芸術分野や体育実技等の分野を担当する教員については、著書・論文等以外の競技会、展覧会または演奏会等での発表のうち、特に顕著な業績と認められるものについても記載すること。このほか、専門分野の特性を 考慮し、顕著な業績と認められるものがある場合もこれに含めてもよい。

教　育　研　究　業　績　書

平成26年3月31日

氏名　　桑原　祐子

研究分野	研究内容のキーワード
言語学	日本語学　日本文学　正倉院文書

教育上の能力に関する事項

事項	年月日	概要
1　教育方法の実践例		
1）日本語の文法研究の成果を生かした実践的授業	平成7年 ～平成22年	摂南大学非常勤講師として担当の留学生の「日本語上級作文」の授業。中国語圏の留学生にとって習得の難しい助詞の機能について、文法研究における構文論の研究成果を取り入れ、日本語文の構造には様々な層があることを解説し、身近な文を分析しながら実践的教育を行った。また、日本語の歴史的変化を具体的に示しながら、現代の日本語の実態を分析することも試みた。その結果、日本語の作文能力の向上が見られた。
2）実地見学を取り入れた授業	平成22年11月	奈良産業大学准教授として担当した「詩歌の発生と展開」の授業に於いて、万葉集・正倉院を中心に授業を行った。そこで、東大寺の奈良時代の遺構の実地見学及び正倉院外構の見学を行った。写真では実感できない構造物の大きさや、機構の規模などが実感でき、概ね良好な反応が得られた。
3）所見カードによる問題意識の啓発	平成22年～24年	奈良産業大学准教授として担当した「奈良の文学と風土」（平成22年～24年）、「日本の文学」（平成24年）では、毎回の授業で２～３の問を提示し、これに答える形で講義をすすめている。授業の最後の10分間で、所見カードに、この問に対する答えを記入させ、疑問や質問も主体的に記入させている。これによって、受講生の理解の度合いが認識でき、また受講生理解向上が図れ、問題意識の啓発に資することができた、と認識される。記入された質問・疑問については、翌週の講義で取り上げて解説を加えている。
2　作成した教科書，教材		
1）講義用教材「奈良の文学と風土」	平成22年～24年	奈良産業大学准教授として担当した一般教養科目「奈良の文学と風土」において、授業時間内に使用する文学作品・文字資料などを毎回授業で配布している。できる限り、当時の文字の姿や文章の書き方が視覚的に捉えられるように、原本・写本の写真を掲載するように努めている。また、パワーポイントを使用して、古代の文物をできるだけ閲覧できるようにしている。
3　教育上の能力に関する大学等の評価		
1）学生による評価	平成18年1月	奈良女子大学における「評価アンケート」では「授業の目的の明確さと纏まり・説明の適切さ」の項目について、4.7・4.5（5段階評価）の評価を得た。「学生の理解度の認知とその対応」では、4.5の評価であった。学生からの多くの意見として、「模擬授業によって授業の成果が形になったことに充実感を感じた」とあった。実践的内容は学生に様々な実感を与えることが明確となり、今後の授業計画の一つの指針となった。
2）奈良産業大学学生による授業評価アンケートにおける評価	平成24年度	奈良産業大学では、毎年学生による授業アンケートを実施している。平成24年度のアンケート結果によると、受講生の満足度に関して、「かなり満足」「やや満足」と答えた学生は、「日本語コミュニケーション」は68％・「日本の文学」は89％、「日本語（上級作文）は93％であり、比較的高い評価を得たものと認識している。

4　実務の経験を有する者についての特記事項		
1）放送大学面接授業　奈良学習センター　講師 「古代日本の文字資料を読む」	平成19年11月	日本古代の文字資料として、正倉院文書と木簡資料を訓読し、そこからどのような日本語の世界が浮かび上がってくるのかということを講義した。また、原本の写真を観察することによって、確かな古代の漢字の字形が復原できることも講義した。
2）ひょうご震災記念研究機構学術交流センター　ひょうご講座2009「古代史最前線」　講師　「正倉院文書からみる下級官人の言語生活」	平成21年7月	ひょうご講座2009「古代史最前線」での講座を担当した。奈良時代の紙の利用の仕方から意外な文書の事実が分かること、古代の下級官人の人間関係がどのように言葉遣いに反映するかということを講義した。
3）2009年若手支援プログラム「正倉院文書を考える」の特別講師「正倉院文書の国語学的アプローチ」	平成21年8月	奈良女子大学古代学学術研究センターと万葉文化館主催による、2009年若手研究者支援プログラム「正倉院文書を考える」での特別講義。正倉院文書を国語資料として使うときの工具類及び工具の使い方を紹介すると共に、正倉院文書を奈良時代の姿に復原する手続きを講義した。
4）京都府立国語科研究会（山城支部）研修会　講師 「正倉院文書にみる下級官人の国語―石山寺造営関係資料―」	平成22年3月	現代の日本語の中には和製漢語が数多くある。その中に「早速」という言葉がある。この言葉は正倉院文書の中にしばしば見られる。特に、下級官人達がある特定の場面で専ら使用している。そのことから、新しい言葉が誕生する背景や使用者の言語に対する意識について講義を行った。
5）朝日カルチャーセンター芦屋教室公開講座「東アジアと萬葉集」講師 「正倉院と正倉院文書」	平成22年9月	朝日カルチャーセンター芦屋教室公開講座「東アジアと万葉集」の第4回目の講座の講師として講義を行った。奈良正倉院と正倉院文書の紹介を行い、正倉院文書の分析を通して古代の下級官人の勤務の実態について講義を行った。
6）奈良産業大学公開講座・王寺町りーべるカレッジ講師　「正倉院文書の世界―古代官人の世界―」	平成23年11月	正倉院に残された古代官人たちの書いた文書の分析を通して、役所で彼らがどのような仕事をしていたのか、給料はどのくらいだったのか、出勤状況はどのようにして把握されていたのか、ということを解説した。また、謝金の証文から役人たちの住居の場所が明らかになることや、下級官人たちの書いた文書がなぜ正倉院に残ったのかということについて解説を行った。
7）帝塚山大学公開講座「奈良学への招待」講師 「正倉院文書と古代日本語」	平成23年11月	奈良の正倉院には華麗な宝物とともに一万数千点の文書が残されている。これらは、8世紀の日本語を知るための極めて重要な言語資料である。『万葉集』や『古事記』とは異なった、古代の生の言語生活を知ることができる。古代の官人たちが書いた休暇届や欠勤届を分析しながら、病気の治療・回復をどのように表現していたのかということを講義した。また、彼らが母語である和語と外国語である漢語をどのように意識して使い分けていたのかということも、具体的に紹介した。
8）奈良県大学連合主催「なら講座」講師 「正倉院と正倉院文書」	平成24年12月	古都奈良の秋に開催される正倉院展には、1250年の時を越えて伝えられた聖武天皇遺愛の宝物や東大寺ゆかりの品々が展示される。これらの特色を解説すると共に、それなの中にあって、思いがけない情報を我々に語ってくれる一大文書群、正倉院文書を紹介し、当時の役人が、どのような場合にどのような言葉を生み出していったかということを、解説した。
9)三郷町文化振興財団主催『カルチャーサロンさんごう』文学・歴史・経済セミナー講師　「正倉院文書と木簡の世界」	平成25年11月	正倉院正倉（奈良市、国宝）が南倉、中倉、北倉と三室に分かれていること、「東大寺献物帳」（目録）が添えられていたため北倉の品々は、史料的価値が高いことなど、正倉院に関する基礎知識を説明し、東大寺写経所が残した正倉院文書（給料の請求書、欠勤届他）や平城宮跡出土木簡などに書かれた漢文を現代語訳しながら、当時の役人や写経生の仕事内容や仕事ぶりを解説。また、漢字の「怠（おこたる）」を取り上げて当時の人々の生きた言語生活を紹介した。
5　その他		
1）学位（博士）論文指導実績	平成24年10 月～12月	愛知県立大学大学院国際文化研究科日本文化専攻に所属する大学院生の博士論文について3人の審査員のうちの副査として審査を担当。指導テーマは「古代東アジアにおける漢字文化の研究」である。その内容は、中国・韓国日本の第一次資料を用いて、古代東アジア諸国の異体字研究を通して、漢字がどのように受容・定着したかということを明らかにする研究である。

2）摂南大学における教育実績	昭和61年4月～平成22年3月	摂南大学の非常勤講師（昭和61年4月から平成22年3月まで）として以下の科目を担当した。 「国語学」（昭和61年～平成13年度） 通年の一般教養科目（通年4単位）である。日本語の歴史を中心に講義し、音韻と文字がどのように関わるのか、語彙は古代語から近代語にどのように変化するのかということを実例に則して解説した。本講義によって、言語に関する知識を習得させることができた。 「国語学」の担当については、昭和62年8月に摂南大学法学部法律学科　兼任講師として、大学設置審議会教員資格審査判定に合格。 同じく平成4年8月に摂南大学経営情報学部経営環境情報学科兼任講師として、大学設置審議会教員資格審査判定に合格。 「文学」（平成8年～平成10年度） 通年の一般教養科目（通年4単位）である。日本の古典文学の根幹を成す和歌について講義した。前期は古代から近現代に亘る恋の歌を取り上げ、恋愛観がどのように変わっていくのかということを学んだ。後期は『万葉集』『古事記』平安朝文学に表れる日本人の自然観・死生観を解説し、言語に託された人間の思想・心情を学んだ。本講義によって、文学への理解を深めることができた。 「日本語表現Ⅰ」（平成14年～平成21年度） 「日本語表現Ⅱ」（平成14年～平成21年度） いずれも半期の一般教養科目（半期2単位）である。 音声言語と文字言語による日本語表現を分析的に学び、実践を通して日本語の運用能力を伸ばすことを目指す授業を行った。「日本語表現Ⅰ」では、音声言語による表現、特に敬語表現を中心に実践演習をさせた。この実践演習を通して、正しい敬語表現の運用と敬語表現の背後にある日本の文化的背景の理解が可能となった。 「日本語」（平成1年～13年度）留学生対象の科目（通年4単位）である。主に2回生以上の学生を対象とした科目である。前期は日本語の基礎的な語彙・文法の能力の向上を目指して自薦演習を行った。後期は、様々な分野の専門的な文章の読解を行い、課題の設定・文章の構成・レポート作成を行った。以上の実践演習によって、大学における専門科目の講義を聴く能力・レポートの作成能力を習得させることができた。 「日本語」の担当につては、平成4年8月に摂南大学経営情報学部経営環境情報学科兼任講師として、大学設置審議会教員資格審査判定に合格。 「日本語上級作文Ⅰ」（平成14年～平成21年度） 「日本語上級作文Ⅱ」（平成14年～平成21年度） いずれも留学生対象の科目（半期2単位）である。主に2回生以上の学生を対象とした科目である。 「日本語上級作文Ⅰ」では、語彙・文法の知識を深めるため、単文の作成を中心に実践練習を行った。 「日本語上級作文Ⅱ」では、専門的な文章の読解を中心に据え、文章構成の型・レポート作成の基本的技術を学び、与えられたテーマにそった文章作成を行った。この実践練習によって、大学における専門科目の講義を聴く能力・レポートの作成能力を習得させることができた。 「日本語上級会話Ⅰ」（平成14年～平成21年度） 「日本語上級会話Ⅰ」（平成14年～平成21年度） いずれも留学生対象の科目（半期2単位）である。主に2回生以上の学生を対象とした科目である。 「日本語上級会話Ⅰ」では、日常生活の様々な場面を設定し、複数の学生に実践練習をさせ、口頭言語の背後になる日本特有の文化や具体的な表現の諸相を習得させた。 「日本語上級会話Ⅱ」では、先ず日本語特有の敬語表現を大系的に学び、次に実際に様々な場面を想定し、具体的な敬語表現の実践練習を行った。合わせて、敬語表現を生み出した日本語話者の感性・思想・人間関係のとらえ方なども学ばせた。本授業によって、基本的な日本語の運用能力の向上をはかることができた。

		「コミュニケーション論」（平成18年～21年度） 薬学部の学生を対象にした一般教養科目。特に薬学専門家として患者や地域社会の人たちと円滑にコミュニケーションを図るための具体的な知識や技術を身につけさせることができた。
3）京都光華女子大学における教育実績	平成4年4月～平成24年3月	京都光華女子大学の非常勤講師（平成4年4月から平成24年3月まで）として以下の科目を担当した。 「国語表現」（平成4年～平成17年度） 「言葉の理解」（平成18年～平成22年度） 「言葉と表現」（平成18年～平成23年度） いずれも1回生対象の一般教養科目（半期2単位）である。「国語表現」は、平成18度から名称変更によって、「言葉の理解」（前期2単位）・「言葉と表現」（後期2単位）となった。 「言葉の理解」（平成18年～平成22年度） 日本語の特徴を学び、日本語話者の文化的背景を学ぶと共に、実践的な日本語の運用能力を養うことを目指し、基本的な語彙の習得をさせた。更に、正しい敬語表現を身につけるための実践練習を行った。これらの実践練習によって、社会人として適切な日本語の運用能力を習得させることができた。 「言葉と表現」（平成18年～平成23年度） 日本語の表現のうち、書き言葉の表現技術の向上を目指して実践練習を行った。様々な文章を書く練習を行い、大学におけるレポート作成・小論文作成の能力を身につけることができた。 「文学と人生」（平成13年～平成14年度） 『万葉集』の中から、特に古代史を彩った様々な人物の歌を取り上げ、歌の背後にある古代史の出来事を解説し、古代の人々の人生を考える授業を行った。言語芸術である文学作品から何が読み取れるのかということを考えさせた。本講義によって、文学を鑑賞する力をつけることができた。
4）奈良女子大学における教育実績	平成17年4月～平成20年3月	奈良女子大学の非常勤講師（平成17年4月から平成20年3月まで）として以下の授業を担当した。 「中等教科教育法　国語Ⅰ」（平成17年4月～19年度） 「中等教科教育法　国語Ⅱ」（平成17年4月～19年度） 教員免許取得のための教職科目（半期2単位）である。 「中等教科教育法　国語Ⅰ」では、国文学研究・国語学研究の成果に基づく教材分析を行い、国語という教科では、何をどのように分析して教授するのかということを実際の教材を使って講義した。 「中等教科教育法　国語Ⅱ」では、受講生による模擬授業を通して、授業の組み立て方、発問の仕方、情報機器の使い方、教材開発の仕方等を学ばせた。以上の実践を通して国語科の教師としての知識と技術を養うことができた。
5）奈良産業大学における教育実績	平成22年4月～現在に至る	奈良産業大学の専任教員（平成22年から現在に至るまで准教授）として、以下の科目を担当した。 「日本語コミュニケーションⅠ」（平成22年～24年度） 「日本語コミュニケーションⅡ」（平成22年～24年度） １年次配当の共通教育基礎科目（半期2単位）である。 「日本語コミュニケーション」Ⅰでは、話し言葉を中心に実践的な日本語の運用能力を習得させることができた。時に敬語の背景にある日本語話者の文化的背景についても蘆花医を深めることができた。 「日本語コミュニケーション」Ⅱでは、書き言葉を中心に学習し、レポート作成・小論文作成のための実践的能力を養うことができた。 「奈良の文学と風土」（平成22年～24年度） 共通教育科目（半期2単位）である。万葉集の歌と正倉院文書から明らかになる古代の人々の生きた姿を講義形式で紹介した。できるかぎり現存する文書の写真や木簡の写真を使って、古代言語生活を具体的に学んだ。加えて正倉院に伝世した宝物を通して東西文化の交流を学んだ。本講義を通して、奈良という地域の特性を正しく具体的に理解することができた。

		「詩歌の発生と展開」（平成22年～23年度） 共通教育科目（半期2単位）である。日本文学の中で重要な位置を占める詩歌について、万葉集・記紀歌謡・古今和歌集の歌を講義形式で解説した。特に、万葉集では漢字だけで以下に日本語を表現する工夫をしたのかということも学んだ。本講義を通して、平仮名の発生や詩歌に対する知識を養うことができた。 「日本の文学」（平成24年度） 共通教育科目（半期2単位）である。古事記・万葉集の韻文を中心に講義形式で行った。古事記を題材として、神話に語られた自然現象、韻文の始まりを語った物語などを紹介し、また、万葉集の歌を通して、人間の心のあり方を、喜びや悲しみをいかにして表現したのかということを学んだ。本講義を通して文学先品を鑑賞する能力を養うことができた。 「日本語　上級作文Ⅰ」（平成22年～平成24年度） 「日本語　上級作文Ⅱ」（平成22年～平成24年度）平成22年度は「日本語　文章表現」の名称での講義であったが、23年度から「日本語　上級作文」に名称変更された。留学生の2年次生を対象にした共通教育科目（半期2単位）である。「日本語上級作文Ⅰ」では、基礎段階として、単文の作成を中心に実践的授業を行い、基本的な日本語文の作成能力を習得することができた。「日本語上級作文Ⅱ」では、応用のレベルとして専門的な内容を含む長文の読解を行い、加えてテーマを設定してレポート作成を行った。この実践的授業を通して、レポート作成の知識と技術を身につけることができた。

職　務　上　の　実　績　に　関　す　る　事　項

事項	年月日	概　　要
１　資格，免許		
1）中学校教諭一種免許状	昭和54年3月	中学校教諭一種免許　国語 昭和53中一種第880号（奈良県教育委員会）
2）高等学校教諭専修免許状	昭和56年3月	高等学校教諭専修免許　国語 昭和55高専修56号（奈良県教育委員会）
3）修士（文学）	昭和56年3月	奈良女子大学204号 論文題目「正倉院文書に於ける上代特殊仮名遣」
4）博士（文学）	平成16年12月	奈良女子大学第124号 論文題目「正倉院文書の国語学的研究」
２　特許等		
特記事項なし		
３　実務の経験を有する者についての特記事項		
1）奈良女子大学21世紀ＣＯＥプログラム「古代日本形成の特質解明の研究教育拠点」研究員	平成16年10月～平成19年3月	奈良女子大学21世紀ＣＯＥプログラム「古代日本形成の特質解明の研究教育拠点」は、6つの研究グループを組織し考古学・歴史学・国語学・国文学・地理学・建築史学・生活文化史学などの諸学を統合し、奈良という地理的条件を生かして古代日本の形成過程とその特質を解明し、古代学を体系化しようとするプログラムである。この中の「古代日本の言語文化」グループの研究員として、研究活動を行った。
・21世紀ＣＯＥプログラム関連授業「日本アジア文献資料論」（博士後期課程）の受講生に対して、正倉院文書の基本的な取り扱い方についての事前指導。	平成16年10月～18年3月	21世紀ＣＯＥプログラム関連授業「日本アジア文献資料論」（博士後期課程）は、正倉院文書を中心資料とする授業であるが、正倉院文書はその扱い方が極めて複雑である。ばらばらになってしまった古文書の断簡を奈良時代の姿に復原するための工具類の使い方や技術的指導は不可欠である。受講生の中には、古代史を専攻する学生のみならず、国語国文学専攻の学生や留学生もいたので、正倉院文書の断簡の基本的な考え方と奈良時代の姿に復原する方法について、事前指導を行った。

・学術振興会科学研究費補助金（研究成果促進費）を申請。課題は「正倉院文書における国語学的研究」。	平成16年11月	平成17年4月に採択され、平成17年12月に『正倉院文書における国語学的研究』を思文閣出版より出版。内容は以下の通り。正倉院文書は、従来日本古代史の史料としてのみ扱われてきた、と言っても過言ではない。まだ仮名が用いられず、全て漢字のみで表記されてきた史料であることが、正倉院文書を古代日本語研究の素材として用いることを困難にしてきた。本書「正倉院文書の国語学的研究」は、国語学的研究の可能性を手探りから始め、徐々にその方法論を確立し、正倉院文書が古代日本語・奈良時代の日本語を研究する上での重要な資料であることを論証していく過程を示しており、この分野での初めてのまとまった著作である。また、これは奈良女子大学への学位請求論文である。本書の書評は、平成19年3月『日本歴史』及び同6月『萬葉』に掲載。日本語学会の学術雑誌『日本語の研究』通巻226号（平成18年6月）の日本語学界の展望で評価された。
・国際シンポジウム「東アジアにおける古代都市・宮殿―その形態と機能―」・国際講演会「東アジアの古代都市」の運営委員	平成17年3月19日～同17年3月20日	ＣＯＥのプログラムとして、東アジア各国の古代都城や宮殿の形態と機能の比較検討のため、中語・韓国・ベトナムから発掘調査・歴史研究の第一線の研究者を招き、日本の歴史研究者を加えての国際シンポジウムである。更にその成果を広く一般公開すべく、国際講演会を一般市民の方を対象に開催した。開催にあたり、シンポジウムの諸準備・外部機関との交渉・通訳の充当・資料の準備・報告書作成のための記録等々の仕事を行う事務局を担当した。
・柿本人麻呂伝承調査の調査研究委員。	平成17年3月4日～同17年3月6日	柿本人麻呂伝承を現代まで語り継ぐ島根県益田市高津にある戸田柿本神社と高津柿本神社において、伝承調査を行った。「語（かたらい）家」と称する宮司の方からの聞き取り調査及び古文書の調査、所蔵資料の写真撮影を行った。特に、人麻呂千年忌の前後に奉納された江戸時代の和歌等の資料調査・写真撮影を行った。ＣＯＥの「古代日本の言語文化」グループによる調査である。
・季刊ニューズレター「奈良と古代」２号（奈良女子大学21世紀ＣＯＥプログラム発行）の編集委員。	平成17年3月	平成16年度のＣＯＥプログラムの活動の内、17年3月開催の国際シンポジウム・国際後援会の報告記事の編集、現地調査（太宰府条坊・柿本人麻呂伝承調査）のレポートの編集を行った。平成17年1月～3月の活動報告及び今後の活動予定を掲載した。
・国際シンポジウム「古代日本の言語文化」の運営委員。	平成17年8月20日～同17年8月21日	『万葉集』成立1200年記念のシンポジウムとして「日本古代の言語文化」のメンバーを中心に、アメリカ・カナダ・韓国・台湾の日本古代文学研究者を招き、『万葉集』の成立、古代日本語の表記の問題、海外における日本古代文学の受容の実態について議論を行った。開催にあたり、事前準備、外部機関との交渉、報告書作成ための資料作成・記録等を行った。
・若手研究者支援プログラム「古代日本の言語文化」の運営委員。	平成17年8月22日～24日	若手研究者の支援事業として、日本古代文学・言語にか関する特別講義及び正倉院、藤原宮跡において実地講義を開催した。開催にあたり、事前準備、外部機関との交渉、実地講義のための引率、報告書作成ための資料作成・記録等を行った。
・季刊ニューズレター「奈良と古代」4号（奈良女子大学21世紀ＣＯＥプログラム発行）編集委員。	平成17年9月	国際シンポジウム「古代日本の言語文化」・若手支援プログラム「古代日本の言語文化」の開催報告記事の執筆と編集を行った。平成17年6月～9月の研究活動報告及び今後の活動予定を掲載した。
・『正倉院文書の訓読と注釈―請暇不参解編（一）―』（ＣＯＥ報告集vol，４）の執筆と編集。	平成17年12月	ＣＯＥ研究員として発足当初より蓄積してきた、正倉院文書読解のための基礎研究を刊行したものである。企画・執筆・編集を行った。日本古代都市の政治・経済・国家機構の運営を支える情報伝達の「言葉」の解明をその目的として、正倉院文書に残っている下級官人の休暇願・欠勤届238通について、写真・釈文を提示し、それに訓読文と注釈を施した。更に、国語学的観点から問題となる事項については補注において分析を行った。（一）では、120通を収録。『史学雑誌』（東京大学　史学会）の回顧と展望において取り上げられた。
・季刊ニューズレター「奈良と古代」６号（奈良女子大学21世紀ＣＯＥプログラム発行）編集委員。	平成18年3月	古代学学術研究センター発足の記事、シンポジウム「古代遺跡の復元と整備」の報告記事を編集した。報告集vol．４～６の紹介記事を執筆し、平成18年1月～3月の研究活動報告及び今後の活動報告を掲載した。

・シンポジウム「正倉院文書にみる古代日本語」運営委員とパネリスト。	平成18年6月24日	『正倉院文書の訓読と注釈―請暇不参解編（一）―』（ＣＯＥ報告集vol，４）の刊行を受け、古代学における正倉院文書研究についてのシンポジウムを開催した。このシンポジウムの企画・準備及びパネリストとして、「請暇解の表現をめぐって―桑内真公と丸部大人―」と題して研究報告を行った。
・若手研究者支援プログラム「古代日本の散文をめぐって」の運営委員。	平成18年8月26日～8月28日	若手研究者の支援事業として、『日本霊異記』『日本書紀』『古事記』に関する講義・公開講演会、飛鳥・葛城・吉野を実地踏査する臨地講義を開催。開催にあたって、事前準備、外部機関との交渉、実地講義のための引率、報告書作成ための資料作成・記録等を行った。
・季刊ニューズレター「奈良と古代」８号（奈良女子大学21世紀ＣＯＥプログラム発行）編集委員。	平成18年9月	若手研究者支援プログラム「古代日本の散文をめぐって」の開催記事の編集を行った。報告集vol．７の紹介記事、奈良国立博物館共催行事夏季講座「聖武天皇と奈良」の報告記事の編集をした。平成18年7月～9月の活動報告及び今後の活動予定を掲載した。
・日本学術振興会　科学研究費補助金（基盤研究Ｃ）「正倉院文書訓読による古代言語生活の解明」を申請。	平成18年11月	従来国語資料としては、評価されていなかった正倉院文書の訓読を通して、古代日本語の実用世界における言語生活を解明することを目的として、申請を行い、平成19年4月に採択された（研究課題番号19520396）。研究代表者である。
・国際シンポジウム「古代都市の空間構造と思想―その現代的展開を目指して―」の運営委員。	平成18年11月11日～11月12日	「古代的景観」について、その思想と形成、現代におけるその継承をテーマに、イタリア・中国・韓国の研究者を招いて、古代遺跡の復原、復原整備事業の位置づけなどについて、討論を行った。開催にあたり、事前準備、外部機関との交渉、通訳の充当、報告書作成ための資料作成・記録等を行った。
・『正倉院文書の訓読と注釈―請暇不参解編（二）―』（ＣＯＥ報告集vol,9）の執筆と編集。	平成19年3月	企画・執筆・編集を行った。「正倉院文書の訓読と注釈－請暇不参解編（一）」の続編。（一）の残り118通の写真・釈文・訓読・注釈を提示した。加えて、正倉院文書に関わる7編のコラムを掲載した。(一)・(二)ともに、国語史の資料として極めて高い価値を持ち、古代日本語の解明に貢献するところは大きいとの評価を得ている。『古典語研究の焦点』（武蔵野書院　平成22年）の中の「奈良時代の下層識字層のことばと平安時代語」（長沼英二）は、全面的に本報告書の成果を生かした論考として刊行されている。さらに、乾善彦氏は、「正倉院文書請暇解の訓読語と字音語」（『国語語彙史の研究』30　平成23年）、「文字をめぐる思弁から－文章と文字との対応関係についての覚え書き－」（関西大学『国文学』93　平成21年）の2本の論考を、本報告書の成果によって発表している。
2）奈良女子大学古代学学術研究センター協力研究員	平成19年～21年	奈良女子大学古代学学術研究センターは、古代日本の中心であった奈良に立地する奈良女子大学の特色を生かし、東アジアという広い視野の中で日本古代の歴史・文学・言語を学際的に研究する拠点として平成17年に設置された。このセンターにおいて、平成19年～21年までの間、科学研究費補助金（基盤研究Ｃ）「正倉院文書訓読による古代言語生活の解明」（研究課題番号19020396）の研究代表として、研究活動を行った。合わせて、前年度までのＣＯＥ研究員として企画を行った報告集の作成も行った。ＣＯＥ関連授業における博士課程の受講生に対する事前指導を引き続き行った。
・『正倉院文書にみる古代日本語』（ＣＯＥ報告集vol,11）に論文「請暇解の表現をめぐって―桑内真公と丸部大人―」を執筆。	平成19年6月23日	企画と編集を担当し、同報告書に論文「請暇解の表現をめぐって―桑内真公と丸部大人―」を執筆した。論文の概要は以下の通り。正倉院文書には、奈良時代の下級官人等の休暇願や欠勤届が238通余り残っている。この請暇不参解（休暇願・欠勤届）の中のどのような表現に着目すれば、仮名を持たなかった奈良時代の日本語を明らかにするための資料として、正倉院文書が位置づけられるのかということを、具体的に指摘し分析を試みた研究である。文字の形・人称代名詞の有無・親族名の諸相・前置詞の用法を手掛かりにして分析を行い、上代の文学資料では得られない生きた日常言語の実態を明らかにすることができた。

・ＣＯＥ発行の論文集『古代文化とその諸相』に論文「請暇不参解の表現―桑内真公の請暇解と不参解―」を執筆	平成19年9月	正倉院文書には238通の古代下級官人たちの休暇願と欠勤届が残されており、同一人物が書いた休暇願と欠勤届も多数存在する。休暇願と欠勤届は文書としての機能は共通している。しかし、同一人物が書いた両者の文書には、書き手の状況・心理に明らかな相違が見られる。その状況の相違・心理の相違が、それぞれの文書の表現の特色として現れていること、また、そこに日本語特有の敬意表現や曖昧表現が顕現することを明らかにした。
・第60回萬葉学会全国大会で研究発表。タイトルは「正倉院文書にみる古代言語生活―「回復」と「治療」を表す表現―」。	平成19年10月21日	ＣＯＥの報告集として刊行した『正倉院文書の訓読と注釈―請暇不参解編（一）―』『同（二）』の成果に基づいて、万葉学会で研究発表を行った。概要は以下の通り。　正倉院文書及び奈良時代の文献資料（文学資料・歴史資料）中の病気の回復・治療を示す言葉をすべて調査し、その具体的な音形式を提示した。さらにそこに見られる表現の位相差を指摘した。この調査によって、新たに奈良時代まで遡らせることのできる語を提示し、合わせて正倉院文書の国語資料としての可能性を実証した。
・ＣＯＥと協同で平成19年度より企画を進めていた『正倉院文書の訓読と注釈―啓・書状編（一）―』の編集委員。	平成20年3月6日	古代における啓・書状は、古代の都市が、人間の集積地として機能していくうえで、情報伝達のツールとして重要な役割を果たした。この啓・書状を分析することで古代の人々がどのようにして、自らの思いを紙の上に載せて運ぶことを可能にしたかを探るための基礎作業として行った訓読と注釈である。
・釜山大学主催の日本学講演会の招聘を受け講演。タイトルは「正倉院文書と墨―韓国と日本の交流―」。	平成21年3月26日	正倉院文書から明らかにされる日本古代官人の言語生活に関する講演を行った。正倉院宝物中の新羅関連宝物の紹介と、それにまつわる文字資料の紹介を行い、特に新羅墨の形状にも関わる墨の助数詞「船」と「挺」の実態の調査についての報告を行った。墨の形状を反映していると考えられていた助数詞「船」は、ある特定の人物が使用していた助数詞であったことを報告した。合わせて、物を通じて日韓の交流についても言及した。
・奈良女子大学古代学学術研究センター発行の学術雑誌『古代学』第1号に論文「古代官人の言語生活―病気回復を表す表現―」を執筆。	平成21年3月30日	正倉院文書に多く現れる病気回復表現に着目し、正倉院文書を中心にして、日本律令・日本書紀・続日本紀などの上代文献の病気回復表現を調査した。その調査によって、奈良時代の病気回復表現を分類すると共に、その用法の分析をおこない、日本語を漢字で書き表す場合の創意工夫の実態と病気回復表現の位相を明らかにした。また、平安朝以降にしか見られないといわれていた「おこたる」について、奈良時代の確例を指摘した。
・奈良女子大学研究推進プロジェクト「正倉院文書からみた日本語表記の成立過程に関する研究」の研究分担者。	平成21年4月	上代の文献（万葉集・古事記など）・木簡・正倉院文書を用いて、日本語表記成立過程を明らかにする事を目指した研究プロジェクトである。研究代表は奈良女子大学の奥村悦三教授である。このプロジェクトの主に木簡と正倉院文書を研究分担した。
・奈良女子大学古代学学術研究センター主催の若手支援プログラム「正倉院文書を考える」の特別講師。	平成21年8月5日	特別講義「正倉院文書の国語学的アプローチ」を行った。正倉院文書中の写経生の書状を取り上げ、文書の断簡をどのようにして復原するのかという方法と研究工具の使い方を講義した。合わせて、年紀の記されない書状の年代を明らかにし、書状の書かれた背景を、様々な帳簿類を検討することで明らかにしていく手法を示した。
・学術振興会　科学研究費補助金（基盤研究（ｃ））を申請。課題は「正倉院文書訓読における日本語表記成立過程の研究」。	平成21年11月	平成22年4月に採択された（研究課題番号22520467）。研究代表者。本研究の目的は、正倉院文書に代表される実用の言語生活の中に、後世の日本語表記システム(漢字仮名交じり文)が成立していく契機があることを、具体的な事例に基づいて実証的に解明することである。そのため、正倉院文書の中に散見する下級官人や在野の技術者・非官人に光を当て、彼らの言語生活を明らかにすることである。
・科研基盤研究（ｃ）「正倉院文書訓読による古代言語生活の解明」（研究課題番号1920396）の報告書3冊を刊行。	平成22年3月	3冊は以下の通り。報告書Ⅰ『正倉院文書の訓読と注釈―造石山所寺解移牒符案（一）―』（研究代表者桑原祐子執筆）・報告書Ⅱ『正倉院文書の訓読と注釈―啓・書状―』（研究分担者黒田洋子執筆）・報告書Ⅲ『正倉院文書からたどる言葉の世界（一）』（連携研究者中川ゆかり執筆）。以上の報告書の企画・編集を行い、報告書Ⅰの執筆を行った。

4　その他		
1）奈良女子大学国語国文学会報第8号 「正倉院文書こぼれ話」執筆「再掲」	平成16年11月	奈良女子大学国語国文学会が発行する「国語国文学会報」に、21世紀ＣＯＥ研究員として、正倉院文書研究の一端を紹介した。下級官人の仕事を細かく再現し、彼らの言語生活を具体的事実に基づき紹介した。
2）読売新聞社『知ってる？正倉院』　取材協力	平成17年10月	読売新聞社が子ども向けに刊行している楽しくわかるガイドブック「知ってる？」シリーズの第１回目の編集に際し、21世紀ＣＯＥ研究員として、担当記者の取材を受けた。正倉院の宝物と文書についての関係等について話をした。
3）表現学会『表現研究』83号 「長田久男氏追悼」執筆「再掲」	平成18年3月	表現学会理事であった長田久男氏の追悼にあたって、身近に接した者の一人として、氏の研究に対する姿勢、その研究が他に及ぼしたエピソードなどを紹介した。
4）奈良女子大学国語国文学会報第10号 「書いた本」執筆「再掲」	平成18年10月	奈良女子大学国語国文学会が発行する「国語国文学会報」に、会員の出版物を紹介するコーナー「書いた本」があるので、ここに著書『正倉院文書の国語学的研究』（思文閣出版　平成17年）の概要を紹介した。
5）思文閣出版『鴨東通信』№63 「人文科学の最前線」執筆「再掲」	平成18年10月	21世紀ＣＯＥ研究員として、思文閣出版社からの依頼を受け思文閣出版の四季報『鴨東通信』の「人文科学の最前線」第1回において、奈良女子大学21世紀プログラム「古代日本形成の特質解明の研究教育拠点」の概要及び成果などについて紹介を行った。
6）大阪市立大学日本史学会『市大日本史』第14号 「栄原ゼミと私」執筆「再掲」	平成23年5月	日本古代史学界の中で正倉院文書研究を牽引してきた栄原永遠男先生の退任を記念して特集が組まれた。その中の一編として、最新の正倉院文書研究の場である「栄原ゼミ」の存在意義について国語学の立場から述べたものである。栄原ゼミで10年間研究をしてきた経験に基づき、ゼミが有意義な存在であることを述べた。

研　究　業　績　等　に　関　す　る　事　項

著書，学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所，発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要
（著書）				
1　正倉院文書の国語学的研究 （博士論文）	単著	平成17年12月	思文閣出版	正倉院文書は、従来日本古代史の史料としてのみ扱われてきた、と言っても過言ではない。まだ仮名が用いられず、全て漢字のみで表記されてきた史料であることが、正倉院文書を古代日本語研究の素材として用いることを困難にしてきた。本書「正倉院文書の国語学的研究」は、国語学的研究の可能性を手探りから始め、徐々にその方法論を確立し、正倉院文書が古代日本語・奈良時代の日本語を研究する上での重要な資料であることを論証していく過程を示しており、この分野での初めてのまとまった著作である。また、これは奈良女子大学への学位請求論文である。A4判　全298頁
（学術論文）				
1)　文字の形と語の識別―「参」の二つの字形― （査読付）	単	平成16年11月	木簡学会誌 「木簡研究」第26号 P.295～P.319	奈良時代の第一等の国語資料である正倉院文書・木簡を資料として、現在「参」の形で定着している文字について、その字形と表記する語との関連を調査した。その結果、現在の「参」の形は無く、使用される形は、「叅」と「叅」とであること、これらの間には語に対応する明確な使い分けが存在することを明らかにした。さらに、その使い分けが、天平六年を境により徹底したものになること、その背景に文字の形に対する人為的操作が加えられたことを明らかにした。
2)　請暇解の表現をめぐって―桑内真公と丸部大人―	単	平成19年3月	奈良女子大学21世紀ＣＯＥプログラム報告集 Vol.11「正倉院文書にみる古代日本語」 P.2～P.39	正倉院文書には、奈良時代の下級官人等の休暇願や欠勤届が238通余り残っている。この請暇不参解（休暇願・欠勤届）の中のどのような表現に着目すれば、仮名を持たなかった奈良時代の日本語を明らかにするための資料として、正倉院文書が位置づけられるのかということを、具体的に指摘し分析を試みた研究である。文字の形・人称代名詞の有無・親族名の諸相・前置詞の用法を手掛かりにして分析を行い、上代の文学資料では得られない生きた日常言語の実態を明らかにすることができた。

3)　請暇不参解の表現―桑内真公の請暇解と不参解―（査読付）	単	平成19年8月	奈良女子大学21世紀ＣＯＥプログラム報告集 Vol.15「古代文化とその諸相」 P.1～P.26	正倉院文書には238通の古代下級官人たちの休暇願と欠勤届が残されており、同一人物が書いた休暇願と欠勤届も多数存在する。休暇願と欠勤届は文書としての機能は共通している。しかし、同一人物が書いた両者の文書には、書き手の状況・心理に明らかな相違が見られる。その状況の相違・心理の相違が、それぞれの文書の表現の特色として現れていること、また、そこに日本語特有の敬意表現や曖昧表現が顕現することを明らかにした。
4)　古代官人の言語生活―病気回復を表す言葉―（査読付）	単	平成21年3月	奈良女子大学古代学学術研究センター・奈良女子大学21世紀ＣＯＥプログラム 「古代学」第１号 P.1～P.12	正倉院文書に多く現れる病気回復表現に着目し、正倉院文書を中心にして、日本律令・日本書紀・続日本紀などの上代文献の病気回復表現を調査した。その調査によって、奈良時代の病気回復表現を分類すると共に、その用法の分析をおこない、日本語を漢字で書き表す場合の創意工夫の実態と病気回復表現の位相を明らかにした。また、平安朝以降にしか見られないといわれていた「おこたる」について、奈良時代の確例を指摘した。
5) 上代写経識語注釈（その一）大般若経（長屋王願経・和銅経）（査読付）	単	平成22年4月	続日本紀研究会誌「続日本紀研究」第385号 P.26～P.44	日本には、飛鳥・奈良時代（７世紀～８世紀）に書き写された経典が現存している。これらの経典には経典を写した人物・年月日・写経に込めた願いを書き込んだ写経識語がある。この制作動機などを記している識語を手がかりにして、当時の人々の思考や社会背景、仏教語の受容の実態、仏教思想や仏教語の文学に与えた影響などを目指す研究である。特に本稿で取り上げた識語は現存する識語の中で、奈良時代のごく初期の写経経典でありながら、各地に点在する、極めて貴重なものである。
6) 写経生の書状―正倉院文書にみる古代官人の実態―	単	平成22年11月	奈良産業大学除法学部「情報学フォーラム紀要」 P.1～P.8	いつ何のために何を書いたか不明であった写経生の書状について、その紙背文書の分析から書かれた年代を特定し、その時の写経所の状況、写経生等の勤務状況を明らかにし、仕事を依頼するための書状であったことを指摘した。そこには、漢字漢文では表現できない日本語特有の敬意を含んだ言葉が表出することをも合わせて指摘した。
7)　正倉院文書の「笑」と「箟」	単	平成23年6月	釜山大学校日本研究所「日本研究」12輯 P.7～P.31	正倉院文書の造営資料や木簡等の一次資料、律令公文・延喜式などの歴史史料、万葉集などの文学資料、及び古辞書に見える「笑」と「箟」の使用実態を調査し、「笑」を、ヤダケを意味する和語「の」とよませる漢字用法は、漢字本来の意義から逸脱する日本的用法（国訓）であることを明らかにし、日本的漢字用法が、どのような人々によってどのような理由で生じるのか、その要因をさぐった。
8)　上代写経識語注釈（その九）十輪経（五月一日経）（査読付）	単	平成23年8月	続日本紀研究会誌「続日本紀研究」第394号 P.33～P.44	日本には、飛鳥・奈良時代（７世紀～８世紀）に書き写された経典が現存している。これらの経典には経典を写した人物・年月日・写経に込めた願いを書き込んだ写経識語がある。この制作動機などを記している識語を手がかりにして、当時の人々の思考や社会背景、仏教語の受容の実態、仏教思想や仏教語の文学に与えた影響などを目指す研究シリーズの第9である。特に本稿で取り上げた五月一日経（一切経）は、その写経の過程を知る文書・帳簿が正倉院文書に多量に残存し、経典そのものも大量に残存する世界的にも希有な資料群である。

9)　上代写経識語注釈（その十）千手千眼陀羅尼経（玄昉願経） （査読付）	単	平成23年8月	続日本紀研究会誌 「続日本紀研究」 第393号 P. 36～P. 49	日本には、飛鳥・奈良時代（７世紀～８世紀）に書き写された経典が現存している。これらの経典には経典を写した人物・年月日・写経に込めた願いを書き込んだ写経識語がある。この制作動機などを記している識語を手がかりにして、当時の人々の思考や社会背景、仏教語の受容の実態、仏教思想や仏教語の文学に与えた影響などを目指す研究シリーズの第10である。本稿で取り上げた玄昉願経は、正倉院文書によってその写経の過程を知ることのできる写経経典の一つであり、この識語の分析によって、東大寺創建・国分寺建立にも深く関わる内容であることを指摘した。
10)　正倉院文書の「堪」と「勘」―古代下級官人 爪工家麻呂の学習― （査読付）	単著	平成24年9月	萬葉語文研究会 『萬葉語文研究』第８集 和泉書院 p. 121～p. 147	8世紀の原本が残る正倉院文書の分析を通じて、当時の下級官人の言語生活を記述した研究である。同一人物の作成した文書・帳簿を写経事業毎に選別し、特定の人物の置かれた状況・仕事内容を明らかにして上で、役人としての基本的な語彙をどのようにして習得したのかということを明らかにした。つまり、外国語である漢字・漢文を、日本語を母語とする人々がいかにして習得したかということを明らかにすることは、異文化を享受しながら独自の文字システムを構築してきた日本語のあり方を知ることに繋がる。
11)　正倉院文書の「早速」―和製漢語のうまれる場面―　（査読付）	単著	平成25年3月	奈良女子大学文学部国文学会誌「叙説」第40号 p. 33～p. 57	漢籍に例を見ない「早速」が和製漢語であることを正倉院文書・木簡の悉皆調査によって明らかにした。類義の副詞「早・速・急・火急」と比較対照させることによって、奈良時代の人々が、どのような場面で、誰に対して、どのような事情がある時に「早速」を使用するのかということを分析した。合わせて文学資料における使用実態も調査し、和製漢語がどのような場面で生まれるのかという、言葉の発生のプロセスを明らかにした。
12）道豊足の人事―あいまいな表現の背景―	単著	平成25年10月	正倉院文書研究会会誌 『正倉院文書研究』13	石山寺造営関係資料の中には、人員の派遣に関する様々な文書や、勤務実態を明らかにする文書・帳簿が多く残存している。本稿では、道豊足の派遣を要請する文書の日付や要請理由、派遣を許諾した文書のあいまいな表現に注目し、文書間の整合性を保つために周到な準備をしていたことを確認した。さらに、道豊足の勤務実態と要請理由との間に生じた矛盾が、許諾文書のあいまいな表現の要因になったということを明らかにした。
（その他）				
「研究報告書」 1）正倉院文書の訓読と注釈－請暇不参解編（一）	単著	平成17年12月	奈良女子大学21世紀ＣＯＥプログラム報告集 Vol. 4	日本古代都市の政治・経済・国家機構の運営を支える情報伝達の「言葉」の解明をその目的として、正倉院文書に残っている下級官人の休暇願・欠勤届238通について、写真・釈文を提示し、それに訓読文と注釈を施した。更に、国語学的観点から問題となる事項については補注において分析を行った。（一）では、120通を収録。『史学雑誌』（東京大学　史学会）の回顧と展望において取り上げられた。 Ａ4版163頁

2）正倉院文書の訓読と注釈－請暇不参解編（二）	単著	平成19年3月	奈良女子大学21世紀ＣＯＥプログラム報告集 Vol.9	「正倉院文書の訓読と注釈－請暇不参解編（一）」の続編。（一）の残り118通の写真・釈文・訓読・注釈を提示した。加えて、正倉院文書に関わる7編のコラムを掲載した。(一)・(二)ともに、国語史の資料として極めて高い価値を持ち、古代日本語の解明に貢献するところは大きいとの評価を得ている。『古典語研究の焦点』（武蔵野書院　平成22年）の中の「奈良時代の下層識字層のことばと平安時代語」（長沼英二）は、全面的に本報告書の成果を生かした論考として刊行されている。さらに、乾善彦氏は、「正倉院文書請暇解の訓読語と字音語」（『国語語彙史の研究』30　平成23年）、「文字をめぐる思弁から－文章と文字との対応関係についての覚え書き－」（関西大学『国文学』93　平成21年）の2本の論考を、本報告書の成果によって発表している。 A4版161頁
3）正倉院文書訓読による古代言語生活の解明	共著	平成22年3月	平成19年度科学研究費補助金基盤研究（C）（課題番号1920396）研究成果報告書　（平成19年～21年）　研究代表：桑原祐子	平成19年度科学研究費補助金　基盤研究（C）（課題番号1920396）の3カ年の研究報告書である。以下の3冊からなる。 Ⅰ　正倉院文書の訓読と注釈―造石山寺所解移牒符案（一）― 日本最古の寺院造営資料のうち、造石山寺所と他機関との文書のやり取りを記録した解移牒符案の写真・釈文を提示し、訓読文と注釈を施した。一部補説も加えた。正倉院文書を国語国文研究の研究資料として用いるときの基礎的研究となるものである。 （執筆　桑原祐子）A4版161頁 Ⅱ　正倉院文書の訓読と注釈―啓・書状― 正倉院文書中の啓・書状をすべて収録し、写真・釈文を提示し、訓読文と注釈を施した。 啓・書状を内容によって分類し、関連資料の解説も合わせて行った。日本の書状の歴史研究、書道史の研究のための基礎研究となるものである。 （執筆　黒田洋子）A4版360頁 Ⅲ　正倉院文書からたどる言葉の世界 正倉院文書の中から、国語国文学研究の観点から重要である語彙を取り上げ、その語を含む文書の訓読と注釈を行い、注目すべき語の考察を行った。文書の写真・釈文を提示している。更に、正倉院文書と日本古代の文献との比較研究に関わる論考2編を収録した。 （執筆　中川ゆかり）A4版95頁 以上の研究は、『日本語の研究』（日本語学会）第8巻3号の日本語学界の展望において注目された。
4）正倉院文書による日本語表記成立過程の解明	共著	平成26年3月	平成22年度～25年度科学研究費補助金基盤研究（C）（課題番号22520467）研究成果報告書　研究代表：桑原祐子	平成22年～25年度科学研究費補助金　基盤研究（C）（課題番号22520467）の4カ年の研究報告書である。以下の２冊からなる。 Ⅰ　正倉院文書の訓読と注釈―造石山寺所解移牒符案（二）― 注釈篇は、日本最古の寺院造営資料のうち、造石山寺所と他機関との文書のやり取りを記録した解移牒符案の写真・釈文を提示し、訓読文・現代語訳と注釈を施した。一部補注も加え、注目すべき語法について考察を行った。正倉院文書を国語国文研究の研究資料として用いるときの基礎的研究となるものである。論考篇には、これらの資料に関わる４編の論考を収録した。 （執筆　桑原祐子）A4版179頁 Ⅱ　正倉院文書からたどる言葉の世界（二） 正倉院文書の中から、5通の文書を取りあげ、写真・釈文・訓読文・現代語訳を施し、その文書の背景を解説し、国語国文学研究の観点から注目すべき語の考察を行った。更に、正倉院文書と日本古代の文献や漢籍との比較研究に関わる論考2編を収録した。 （執筆　中川ゆかり）A4版142頁

「依頼原稿」 1）正倉院文書こぼれ話	単著	平成16年11月	奈良女子大学国語国文学会報第8号	奈良女子大学国語国文学会が発行する「国語国文学会報」に、21世紀ＣＯＥ研究員として、正倉院文書研究の一端を紹介した。下級官人の仕事を細かく再現し、彼らの言語生活を具体的事実に基づき紹介した。
2）長田久男氏追悼	単著	平成18年3月	表現学会 『表現研究』83号	表現学会理事であった長田久男氏の追悼にあたって、身近に接した者の一人として、氏の研究に対する姿勢、その研究が他に及ぼしたエピソードなどを紹介した。
3）書いた本	単著	平成18年10月	奈良女子大学国語国文学会報第10号	奈良女子大学国語国文学会が発行する「国語国文学会報」に、会員の出版物を紹介するコーナー「書いた本」があるので、ここに著書『正倉院文書の国語学的研究』（思文閣出版　平成17年）の概要を紹介した。
4）人文科学の最前線	単著	平成18年10月	思文閣出版 『鴨東通信』№63	21世紀ＣＯＥ研究員として、思文閣出版社からの依頼を受け思文閣出版の四季報『鴨東通信』の「人文科学の最前線」第1回において、奈良女子大学21世紀プログラム「古代日本形成の特質解明の研究教育拠点」の概要及び成果などについて紹介を行った。
5）栄原ゼミと私	単著	平成23年5月	大阪市立大学日本史学会 『市大日本史』第14号	日本古代史学界の中で正倉院文書研究を牽引してきた栄原永遠男先生の退任を記念して特集が組まれた。その中の一編として、最新の正倉院文書研究の場である「栄原ゼミ」の存在意義について国語学の立場から述べたものである。栄原ゼミで10年間研究をしてきた経験に基づき、ゼミが有意義な存在であることを述べた。
「学会発表」 1）正倉院文書にみる古代言語生活－「回復」と「治療」を表す表現－	単独	平成19年10月	第60回萬葉学会全国大会 （於大阪市立大学）	正倉院文書及び奈良時代の文献資料（文学資料・歴史資料）中の病気の回復・治療を示す言葉をすべて調査し、その具体的な音形式を提示した。さらにそこに見られる表現の位相差を指摘した。この調査によって、新たに奈良時代まで遡らせることのできる語を提示し、合わせて正倉院文書の国語資料としての可能性を実証した。
2）道豊足の人事―「正倉院文書の訓読と注釈」の作業から	単独	平成22年10月	正倉院文書研究会 第29会大会 （大阪市立大学）	近江石山寺造営資料における文書・帳簿の分析を通して、古代の下級官人の人事システムと人事の実態のずれを明らかにし、その背景には、律令文書主義の中で文書の整合性を保つための様々な調整が行われたことをも、文書の訂正状況や表現の差異から分析検討を行った
3）正倉院文書の「早速」―和製漢語の生まれる場面―	単独	平成23年12月	国語語彙史研究会 第99回大会 （大阪大学）	漢籍に例を見ない「早速」が和製漢語であることを正倉院文書・木簡の悉皆調査によって明らかにした。類義の副詞「早・速・急・火急」と比較対象させることによって、奈良時代の人々が、どのような場面で、誰に対して、どのような事情がある時に「早速」を使用するのかということを分析した。合わせて文学資料における使用実態も調査し、和製漢語がどのような場面で生まれるのかという、言葉の発生のプロセスを明らかにした。
「シンポジウム」 1）請暇解の表現をめぐって－桑内真公と丸部大人－	単独	平成18年6月	奈良女子大学ＣＯＥシンポジウム「正倉院文書にみる古代日本語」 （於奈良女子大学）	平成17年12 月のＣＯＥ報告集Vol. 4 「正倉院文書の訓読と注釈－請暇不参解編（一）」の刊行をうけ、請暇不参解の訓読を通じて、これまで注目されなかった実用文書の世界から、古代日本語の新たな実態が明らかにされる可能性を指摘した。

2）正倉院文書と墨―韓国と日本の交流―	単独	平成21年３月	正倉院文書の文字と文化（於釜山大学）	正倉院宝物中の新羅関蓮宝物の紹介と、それにまつわる文字資料の紹介を行い、特に新羅墨の形状にも関わる墨の助数詞「船」と「挺」の実態の調査についての報告を行った。墨の形状を反映していると考えられていた助数詞「船」は、ある特定の人物が使用していた助数詞であったことを報告した。合わせて、物を通じて日韓の交流についても言及した。
「招待講演」 1）古代言語資料としての正倉院文書	単独	平成23年3月	釜山大学日本研究所主催（於釜山大学）	漢籍に例を見ない漢字熟語が正倉院文書の中には、しばしば見られる。このような漢字熟語について、誰がどのような場面で、誰に向かって使用したかということを分析していくと、使用者の心情や心理が明らかになり、和製漢語が生じる背景を考察することが可能になるということについて報告を行った。
「科研費申請」 韓国研究財団　土台基礎研究「日本正倉院文書と韓国文字資料の物品名の研究―物品の用度、単位、書体のＤＢ構築」	共同	平成23年8月	韓国研究財団 土台基礎研究	釜山大学日本研究所の研究チームが中心になって申請した研究プログラムである。日本の正倉院文書と韓国古代文字資料に見える物品名の用例を分析し、物品の用度・単位・書体をＤＢに構築し、古代日韓両国の文字文化と言語生活及び生活様式を再解釈できる基礎をつくり、後続研究の土台の提供を目的とする。日本側の一般協同研究員として参加した。

［注］

1 最近10年間の教育活動、研究活動について作成すること。

2 「教育活動」については、各項目ごとに年月日順に、「学会等および社会活動」については、就任年月日順に記入すること。

3 「研究活動」については、下記の点に留意すること。

① 著書・論文及びその他の順に、発表年月日順に記入すること。

② 著者が複数にわたる場合で、筆頭著者が著書・論文等において明示されている場合には、その氏名に◎印を付すこと。

③ 共著（論文）の場合、「該当頁数」の記入にあたっては、本人の分担箇所を特定できる場合は、その頁数を記載すること。

④ 最近10年間に著書・論文等の発表のなかった者についても、教員名を挙げてその部分を空欄にしておくこと。

⑤ 芸術分野や体育実技等の分野を担当する教員については、著書・論文等以外の競技会、展覧会または演奏会等での発表のうち、特に顕著な業績と認められるものについても記載すること。このほか、専門分野の特性を 考慮し、顕著な業績と認められるものがある場合もこれに含めてもよい。

教　育　研　究　業　績　書

平成26年3月31日

氏名　　嶋田　理博

研究分野	研究内容のキーワード
天文学、科学教育	光学赤外線天文学、恒星物理学、自然科学教育（理科、地学、情報）

教育上の能力に関する事項

事項	年月日	概要
1　教育方法の実践例		
1）		
2　作成した教科書，教材		
1）テキスト情報基礎演習	平成17年4月	奈良産業大学 情報学部 専門科目 「HTML演習」「文書構造化演習」教科書
3　教育上の能力に関する大学等の評価		
1）		
4　実務の経験を有する者についての特記事項		
1）		
5　その他		
1）王寺町りーべるカレッジ「さよなら冥王星、ようこそエリス～天文学の進歩と広がる太陽系～」講演	平成19年9月29日	主催：王寺町、共催：奈良産業大学 2006年に国際天文連合が、冥王星を「準惑星」と定義したのを受け、18世紀末の天王星の発見から現在に至るまでの人類の太陽系観の変遷を振り返った。観測技術の進歩が太陽系を拡大してきたこと、地球から遠く離れた太陽系外縁の天体を知ることが人類にどのように関わってくるか、という観点から現在の太陽系天文学を解説した。
2）少年宇宙教室「太陽をさぐる」講師	平成20年8月23日	独立行政法人 科学技術振興機構 地域科学技術理解増進活動推進事業 平成20年度 地域活動支援企画No.20183 後援：三郷町教育委員会 地域の小学生とその保護者を対象とした科学教室を開催した。過去の太陽黒点数の変化から、太陽黒点が11年周期で変化していることを紹介し、現在、そして参加者の誕生年には太陽がどのような状態にあったかを考察してもらった。また、過去の太陽表面のスケッチや撮像写真を公開データベースから取得し、参加者や家族の生まれた頃の太陽がどのような状況であったかを印刷した簡単な冊子を制作してもらった。
3）奈良県公共図書館・大学図書館 横断検索システムの制作と管理・運営	平成20年9月 ～現在	本学情報学部 中尾准教授（当時）とともに、ゼミ学生を指導し、奈良県内の公共図書館・大学図書館を串刺しにして検索するシステムを開発・公開した。当時、公共図書館だけの横断検索や大学図書館だけの横断検索は例があったが、両方を横断する検索はほとんど例がなく、先駆的であった。また、GoogleMapsと連携し、図書館の所在が地図上に示されるのも特徴である。 http://www.nara-su.ac.jp/~rihaku/library/search.html

４）少年宇宙教室「星の光のふしぎ」講師	平成20年10月18日	独立行政法人 科学技術振興機構 地域科学技術理解増進活動推進事業 平成20年度 地域活動支援企画 No.20183 後援：三郷町教育委員会 　地域の小学生とその保護者を対象とした科学教室を開催した。レプリカグレーティングと紙箱を使い、簡易分光器の製作を指導した。製作した分光器を通して、身近にある様々な光源を観察し、光源によってスペクトルが違うこと、太陽（青空）のスペクトルには吸収線が見えることに気づいてもらい、分光観測によって、対象の物理状態を知ることが出来ることを解説した。
５）教職員のための公開講座2008「パーソナルコンピュータの製作」講師	平成20年12月25日	主催：奈良産業大学 後援：大阪府教育委員会、奈良県教育委員会 　幼稚園、小・中・高等学校、支援学校の教職員研修のための公開講座を開催した。市販のパーツを組み合わせて、コンピュータを製作するとともに、各パーツの働き、コンピュータの動作原理を解説した。組み立てたパソコンにはLinuxをインストールし、ネットワーク接続の設定や、各種ユーティリティーソフトの使い方を解説し、ウェブサーバソフトをセットアップするまでを実習した。
６）奈良県高等学校体育連盟テニス専門部ウェブサイトの制作と管理・運用	平成20年12月 ～現在	平成21年に奈良県で高校総体（「近畿まほろば総体」、テニス競技開催地は奈良県）が開催されるにあたり、奈良県高体連テニス部から、テニス競技のウェブサイトを開設したいとの要請を受けた。ゼミ学生を指導し、サーバレンタル契約やドメイン名取得から始め、ウェブサイトをゼロから構築した。現在も更新業務を行い、維持・管理中である。 http://hsaf.nara-tennis.org/
７）教職員のための公開講座2009「パーソナルコンピュータの製作」講師	平成21年8月5日	主催：奈良産業大学 後援：大阪府教育委員会、奈良県教育委員会 　幼稚園、小・中・高等学校、支援学校の教職員研修のための公開講座を開催した。市販のパーツを組み合わせて、コンピュータを製作するとともに、各パーツの働き、コンピュータの動作原理を解説した。組み立てたパソコンにはLinuxをインストールし、ネットワーク接続の設定や、各種ユーティリティーソフトの使い方を解説し、ウェブサーバソフトをセットアップするまでを実習した。
８）少年宇宙教室「手作り望遠鏡で観測する木星とその衛星」講師	平成21年10月24日	独立行政法人 科学技術振興機構 地域の科学舎推進事業 平成21年度 地域活動支援企画No.21120 世界天文年2009公認イベント No. 2900601 後援：三郷町教育委員会 　地域の小学生（主に低学年）とその保護者を対象とした科学教室を開催した。「世界天文年2009」の公認イベントの1つとして、400年前にガリレオ・ガリレイが天体観測に用いたのと同口径の口径4cmの望遠鏡の製作を指導した。あいにく曇天だったため、天体は観測できず、ポインティング、ピント合わせなど望遠鏡の操作法を練習した。あわせて、ガリレオが発見した木星の４大衛星の運行について、模型を用いて解説した。
９）少年宇宙教室「手作り望遠鏡で観測する夜空の星々」講師	平成21年11月28日	独立行政法人 科学技術振興機構 地域の科学舎推進事業 平成21年度 地域活動支援企画No.21120 世界天文年2009公認イベント No. 2900602 後援：三郷町教育委員会 　「世界天文年2009」の公認イベントの1つとして、10月に開催した「少年宇宙教室」に引き続き、参加者が製作した望遠鏡を用いて、月、木星とその衛星の観測を行った。あわせて、望遠鏡の結像の仕組みを数十cmサイズのフレネルレンズを使った模型を使って解説した。また、星座早見盤も製作した。

１０）教職員のための公開講座2009「パーソナルコンピュータの製作」講師	平成21年12月25日	主催：奈良産業大学 後援：大阪府教育委員会、奈良県教育委員会 　幼稚園、小・中・高等学校、支援学校の教職員研修のための公開講座を開催した。市販のパーツを組み合わせて、コンピュータを製作するとともに、各パーツの働き、コンピュータの動作原理を解説した。組み立てたパソコンにはLinuxをインストールし、ネットワーク接続の設定や、各種ユーティリティーソフトの使い方を解説し、ウェブサーバソフトをセットアップするまでを実習した。
１１）教職員のための公開講座2010「パーソナルコンピュータの製作」講師	平成22年8月4日	主催：奈良産業大学 後援：大阪府教育委員会、奈良県教育委員会 　幼稚園、小・中・高等学校、支援学校の教職員研修のための公開講座を開催した。市販のパーツを組み合わせて、コンピュータを製作するとともに、各パーツの働き、コンピュータの動作原理を解説した。組み立てたパソコンにはLinuxをインストールし、ネットワーク接続の設定や、各種ユーティリティーソフトの使い方を解説し、ウェブサーバソフトをセットアップするまでを実習した。
１２）少年宇宙教室「探査機『あかつき』でさぐる宇宙」講師	平成22年8月21日	主催：奈良産業大学、後援：三郷町教育委員会 　地域の小学生（主に低学年）とその保護者を対象とした科学教室を開催した。金星探査機「あかつき」の打ち上げに関連し、地球とは全く異なる金星の物理状態・気象状態、そして金星探査機「あかつき」のミッションと期待される観測成果について紹介した。また、金星がなぜ満ち欠けして見えるかを理解するために、太陽・地球・金星とそれらの位置関係を再現する模型の製作を指導し、地球の位置から見た金星が満ち欠けし、大きさも変化することを解説した。
１３）教職員のための公開講座2010「パーソナルコンピュータの製作」講師	平成22年12月27日	主催：奈良産業大学 後援：大阪府教育委員会、奈良県教育委員会 　幼稚園、小・中・高等学校、支援学校の教職員研修のための公開講座を開催した。市販のパーツを組み合わせて、コンピュータを製作するとともに、各パーツの働き、コンピュータの動作原理を解説した。組み立てたパソコンにはLinuxをインストールし、ネットワーク接続の設定や、各種ユーティリティーソフトの使い方を解説し、ウェブサーバソフトをセットアップするまでを実習した。
１４）奈良学園登美ヶ丘小中高　天体観望会　講師、講演「星の一生と星雲・星団」	平成23年3月12日	主催：奈良学園登美ヶ丘小中高 　奈良市、生駒市、木津川市、精華町在住の小学生と保護者対象の公開講座において、天体観望会に先立って講演を行った。当日参加者が望遠鏡で観望する星雲・星団は星の生死と関係があり、それらを観測することによって星が誕生してから最期を迎えるまでの物理が分かることを紹介した。
１５）少年宇宙教室「太陽を回る星々」全３回 実施主担当者	平成23年8月7日 平成23年8月20日 平成23年10月16日	独立行政法人 科学技術振興機構 科学コミュニケーション連携推進事業 平成23年度　機関活動支援 企画No.2300217 後援：三郷町教育委員会 　地域の小学生とその保護者を対象とした科学教室を開催した。「太陽を回る星々」をテーマに、 ・太陽系の８惑星 ・海王星以遠の小天体 ・太陽系外の惑星 のそれぞれを実験や体験を通じて学ぶ全３回の科学教室を実施責任者として企画・実施した。

１６）少年宇宙教室「300年ぶりの天文ショー 金環日食を見よう」講師	平成24年5月19日	主催：奈良産業大学 後援：三郷町教育委員会 　地域の小学生とその保護者を対象とした科学教室を開催した。奈良県下では282年ぶりに見られる平成24年5月21日の金環日食について、日食の起こる原理や観測方法を解説し、日食観測用のサングラスを製作した。あわせて、近年活発になりつつある太陽活動のダイナミズムを、太陽観測衛星「ひので」や「SDO」の画像を交えて紹介した。当日の活動は奈良新聞5月20日版にて取り上げられた。
１７）王寺町りーべるカレッジ「宇宙の誕生と加速膨張」講演	平成24年9月1日	主催：王寺町、共催：奈良産業大学 　人類が歴史上どのように星や銀河までの距離を測り、宇宙の大きさを測ってきたのか、について紹介し、宇宙膨張が発見された経緯や当時の宇宙観への影響について解説した。また、2011年にノーベル物理学賞を受賞した宇宙の加速膨張の発見とその意義について論じた。
１８）王寺町りーべるカレッジ「もう一つの地球を探す」講演	平成24年9月15日	主催：王寺町、共催：奈良産業大学 　1995年に初めて発見されて以降、現在、700個以上の太陽系外惑星が発見されている。これら太陽系外惑星を発見する観測手段を解説するとともに、見つかった太陽系外惑星の特徴や、地球に似た惑星が存在する可能性について論じた。
１９）教職員のための公開講座2010「プレゼンテーションツールPrezi講座」講師	平成24年12月25日	主催：奈良産業大学、後援：奈良県教育委員会 　PowerPointのような紙芝居的なプレゼンではなく、キャンバス上に二次元的に配置された素材の間を移動・ズーミングしてプレゼンするツールとして脚光を浴びているPreziの講習を行った。Preziのアカウント取得方法を始め、基本的な活用から、グループワークへの応用までを実習を交えて解説した。
２０）少年宇宙教室「宇宙を調べるモノづくり」実施主担当者および講師	平成25年8月10日 平成25年8月31日 平成25年10月12日	主催：奈良産業大学 情報学部 後援：三郷町教育委員会 助成：独立行政法人 科学技術振興機構（平成25年度 科学技術コミュニケーション推進事業：企画No.250068） 　地域の小学生とその保護者を対象とした科学教室を開催した。「宇宙を調べるモノづくり」をテーマに、 ・惑星探査車 ・ロケット ・天体望遠鏡 のそれぞれを実験や体験を通じて学ぶ全３回の科学教室を実施責任者として企画・実施した。また第３回の望遠鏡をテーマに取り上げた回では、講師を務めた。

職　務　上　の　実　績　に　関　す　る　事　項

事項	年月日	概　　要
１　資格，免許		
１）		
２　特許等		
１）		
３　実務の経験を有する者についての特記事項		
１）		
４　その他		
１）		

研　究　業　績　等　に　関　す　る　事　項				
著書，学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所，発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要
（著書）				
１）テキスト情報基礎演習（再掲）	共著	平成17年4月	久美出版（ISBN:9784907757946）	奈良産業大学 情報学部 専門科目「基礎演習Ⅰ」「基礎演習Ⅱ」「HTML演習」「文書構造化演習」教科書 B5版、全147頁 共著者：中尾 泰士、向井 厚志 本人担当部分：「第２章 文書構造化演習」（pp.63-106）を単著 当時W3Cにより標準化されていたHTML4.01およびCSS2を用い、W3Cの仕様に厳密に従い、非推奨の属性を用いず、論理構造とデザインを分離してウェブページを制作する作法を詳説した。
（学術論文）				
１）The Anisotropy of Cosmic Ray Pursued with Chaos Analysis	共著	平成23年8月	Proceeding of International Cosmic Ray Conference, Beijing, 2011, Vol.1, 70.	エアシャワーサイズ時系列のカオス解析において、カオス性に寄与する宇宙線を選別し、その到来方向の分布を求めた。その結果、Crab, Mrk421, Cyg-Xなど、特定の活動銀河が高エネルギーガンマ線宇宙線源である可能性を示すことができた。 共著：S.Ohara, T.Konishi, A.Mukai, M.Shimada, A.Iyono, H.Matsumoto, I.Yamamoto, N.Takahashi, T.Nakatsuka, K.Okei, S.Tsuji, N.Ochi
２）Searching for cosmic ray nuclei above the KNEE energies through the Gerasimova-Zatsepin effect with the LAAS experiments	共著	平成23年8月	Proceeding of International Cosmic Ray Conference, Beijing, 2011, Vol.1, 170.	Gerasimova-Zatsepin効果による原子核宇宙線の崩壊過程を考慮して、大広域エアシャワーデータを解析し、Knee領域以上の宇宙線について考察した。 共著：A.Iyono, H.Matsumoto, K.Okei, S.Tsuji, S.Ohara, N.Ochi, T.Konishi, N.Takahashi, I.Yamamoto, T.Nakatsuka, A.Mukai, M.Shimada
３）情報学部プロジェクト演習における「フィジカルコンピューティング」教育の実践	単著	平成25年2月	情報学フォーラム紀要（奈良産業大学），8, 131-140.	2009年度から2012年度の４年間、情報学部「ラジコン製作プロジェクト」において、「フィジカルコンピューティング」教育を実践した。教材としてSun SPOTまたはArduinoを主に用い、合計７つのシステムを製作し、各年度の学園祭に出展した。自らハードウェアとソフトウェアの設計を行い、部品の選定・購入から始めてシステムを完成させる体験は、学生にとって有意義な学修であったと考える。
４）太陽系外惑星発見と情報学	単著	平成25年2月	情報学フォーラム紀要（奈良産業大学），8, 159-164.	1995年に初めて発見されて以降、700個以上発見されている太陽系外の惑星について、それらを発見する観測手段や、見つかった惑星の特徴、地球に似た星が存在する可能性について論じた。これらの成果には、ＣＣＤなどの受光素子の技術革新による性能向上や、コンピュータによる自動観測、画像の自動解析など、情報技術の進展による寄与が大きい。
５）奈良県 公共図書館・大学図書館横断検索システムの構築	共著	平成25年3月	奈良産業大学紀要，29, 69-75.	平成20年度、奈良県図書館協会大学・専門図書館部会の依頼を受け、奈良県内の公共図書館および大学・研究所図書館の蔵書を検索できるシステムを開発し、インターネット上に公開した。従来の検索システムと異なり、地図上で図書館の位置が確認できることと、専門図書館を含めた大学図書館と公共図書館を一括して検索できるのが特徴である。 共著：嶋田理博、中尾泰士

６）地域における地学教育の実践と課題	共著	平成25年3月	奈良産業大学紀要，29，185-191.	現在、地域に根差した理科教育として、サイエンスカフェや実験教室が各地で実施されている。本学でも地元住民向けの公開講座や小学生を対象とした科学教室を実施し、学外においても積極的に理科教育の振興に取り組んできた。こうした取り組みへの参加者は常に一定数を見込むことができるが、その多くはもともと科学に興味・関心を抱いていたリピーターであり、理科に関心をもたない住民の目を向けさせる工夫が必要である。 共著：向井厚志・嶋田理博
（その他）				
「学会発表」				
１）プロジェクト型演習を通じたアプリケーション開発の学習	共同	平成20年12月	平成20年度　情報教育研究集会 （於福岡県北九州市）	共同発表者：嶋田理博、中尾泰士、向井厚志 情報学部のプロジェクト型演習「ITシステム構築プロジェクト」において、平成19年度に行った、ウェブサーバとRDBMSの構築、それらを連携させた掲示板、ストリートビューシステム、教室使用状況表示システムの制作について報告した。
２）小学生を対象とした天文教育活動「少年宇宙教室」の報告	共同	平成21年9月	日本天文学会 2009年秋季年会 （於山口大学）	共同発表者：中尾泰士、嶋田理博、向井厚志 地域の小学生を主たる対象とした地球・宇宙分野の体験型講座「少年宇宙教室 ～ロケット・太陽・スペクトル～」を企画し、科学技術振興機構の「平成20年度　地域科学技術理解増進活動推進事業　地域活動支援」の支援活動の1つとして採択された。参加した子供達とその保護者に対して行ったアンケートなどをもとに、われわれの活動について報告した。
３）小学生向け体験型天文教室「少年宇宙教室」の報告２：「宇宙を調べる」	共同	平成22年9月	日本天文学会 2010年秋季年会 （於金沢大学）	共同発表者：嶋田理博、向井厚志、中尾泰士 2009 年度には科学技術振興機構の支援を得て開催した体験型講座「少年宇宙教室」について報告した。「宇宙を調べる」をテーマとした全４回の講座は、望遠鏡の製作とそれを使っての月・木星の観測を行い、観測の楽しさや宇宙に対する興味を感じてもらえるなど、参加者の満足度の高いものだったと考える
４）小学生向け科学教室『少年宇宙教室』の活動	共同	平成22年11月	第54回 宇宙科学技術連合講演会 （於静岡県静岡市）	共同発表者：嶋田理博、向井厚志、中尾泰士 2008年度から地域の小学生を対象として開催している科学教室「少年宇宙教室」について報告した。子ども達が楽しみながら学べるよう、講義ではなく、工作や実験などの体験を中心とした内容は、科学や宇宙に関心のある参加者に対してはもちろん、初参加の子供や、関心のなかった保護者に対しても興味を引き出すことに成功していると言える。
５）The Anisotropy of Cosmic Ray Pursued with Chaos Analysis	共同	平成23年8月	Proceedings of 32nd International Cosmic Ray Conference, Vol.1 ,70-71. （at Beijing, China）	共同発表者：大原荘司、小西健陽、向井厚志、嶋田理博、伊代野淳、松本宏樹、山本勲、高橋信介、中塚隆郎、桶井一秀、辻修平 越智信彰 宇宙線時系列データについて、観測粒子密度分布より一次宇宙線エネルギーを算出し、エネルギー時系列データ約５万イベントのカオス解析を行った。エネルギー範囲に対応するカオスの出現頻度の解析から、5.0×10^15～7.5×10^15eVの範囲のエネルギーをもった一次宇宙線が、300イベント連続する時系列データのカオス性の出現にもっとも寄与していることが見出された。

［注］

１ 最近10年間の教育活動、研究活動について作成すること。

２「教育活動」については、各項目ごとに年月日順に、「学会等および社会活動」については、就任年月日順に記入すること。

３「研究活動」については、下記の点に留意すること。

① 著書・論文及びその他の順に、発表年月日順に記入すること。

② 著者が複数にわたる場合で、筆頭著者が著書・論文等において明示されている場合には、その氏名に◎印を付すこと。

③ 共著（論文）の場合、「該当頁数」の記入にあたっては、本人の分担箇所を特定できる場合は、その頁数を記載すること。

④ 最近10年間に著書・論文等の発表のなかった者についても、教員名を挙げてその部分を空欄にしておくこと。

⑤ 芸術分野や体育実技等の分野を担当する教員については、著書・論文等以外の競技会、展覧会または演奏会等での発表のうち、特に顕著な業績と認められるものについても記載すること。このほか、専門分野の特性を 考慮し、顕著な業績と認められるものがある場合もこれに含めてもよい。

教　育　研　究　業　績　書

平成26年3月31日

氏名　宮崎（竹田）治美

研究分野	研究内容のキーワード
近代語彙史　日中比較言語学　異文化教育	中国語語彙史・文法史　宋代語録

教育上の能力に関する事項

事項	年月日	概要
１　教育方法の実践例		
1）日中通訳・翻訳の科目における効果的な活用と教材の開発	平成17年４月～平成21年3月	駿台観光・外国語学校の非常勤としての授業。具体的な実用性を考え、場面を想定して基本から旅行・商談・学習・生活などのニーズを応じる。また、間違いやすい文法と言葉をはじめ、基礎編と応用編に分けて、徹底的に役に立つ指導することを工夫した。単に言葉を直訳するではなく、言語の背後にある生活習慣、地域性、国民性と言語の関連性とつなぎ、価値観の違いを理解するうえで、授業内容や教材などを考えた。 留学生の日本語科目（語彙・文法）において、かつて自らの学習経験を生かし、生活言語と学習言語を平行線形式で考え、独自に教材を開発した。その結果、日本語能力試験の合格率が向上し、大きな成果がみられたといえる。
2）中国語科目における実用性を高めるための取り組み	平成18年9月～21年3月	天理大学中国語学科非常勤講師として担当した「中国語表現」「中国文学概論」「異文化コミュニケーションと情報」「中国語（文法・読解）において、イラスト、歌謡、漫画、文学作品、映画、料理などの補助教材を用いて目や肌で感じさせた。また、留学生との「ジャーナル指導法」（学生との交換日記）、Ｘチェンジ学習方法などを行った。その他、日本と中国の大学の間で知名度の高い歌コンテストに学生を指導・派遣し、優秀な成績を獲得した。また、学生の中国語の演劇の指導などにも携わり、7年連続台湾で上演し、斯界から好評を受けた。
3）留学生日本語科目の取り組み （語彙・読解）（作文）（日本語表現）	平成21年4月～平成25年	奈良産業大学両学部の共通教育科目としての留学生の日本語科目において、自ら学生時代日本語能力試験400満点に近い点数を突破したことや平成１１年のJ・testには９５０点（1000点満点）をとり、当時の最高点数であったなどの経験を生かして、漢字圏の学生にとって最も間違いやすい語彙を解説し、効率的な学習方法を指導した。その結果、良好な成績が見られた。また、より効果的な学習ができるよう四段階レベルに分けて、目標を決めて確実に進めた。留学生専用教材と中学生の教科書を用いて、日本の言語・社会・生活と文化について幅広く学べるように工夫した。また、異文化の角度から日本語を分析、理解しやすく指導した。
4）遠隔技術の利用	平成21年4月～平成22年3月	授業以外、学外の語学学習にも重視し、インターネットのチャット利用を試み、週三回3時間ほどの体勢で質問を受け、日本語の指導、作文や小論文の添削など行い、また、生活、進路などにも相談にも応じた。現在、日本語学習指導以外に関する相談は継続している。
5）ITリテラシーにおける活用の取り組み	平成21年4月～平成24年3月	奈良産業大学情報学部の基礎科目ITリテラシー（留学生）において、最も理解しにくい外来語などを動画やイラストと用いて分かりやすく解説し、留学生にとって不利なところを有利になるよう実用性を考え、内容を工夫した。その結果、カリキュラムより大幅に進み、全学の行事ポスター、『国際交流センター記録文集』の表紙などすべて留学生が作成し、学習の活用につながっている。
6）情報学ゼミ演習	平成21年4月～平成25年	奈良産業大学情報学部の専任講師及び准教授として、４年間連続1年次のアドバイザーを担当した。１年次生が大学生活がスムーズに進めるよう学外オリエンテーションや学習指導、研究発表、生活、履修指導、家庭訪問などを行った。
7）中国語科目における効果的な学習方法及び海外語学研修	平成23年4月～24年3月	奈良産業大学専任講師及び准教授として共通教育科目「中国語会話Ⅰ・Ⅱ」を担当した。受講生が数名しかいない中国語科目を復活させた。興趣性などを重視し、常に就職進路や国際的意識を強めさせ、物事を多方面から考える柔軟性を重視した。その結果、短期語学研修などを希望する学生も増えつつ、夏季短期語学研修が認定科目として認定された。

２　作成した教科書，教材		
1）「日本語表現―文法編」 （駿台観光・外語専門学校応用語学専科　専用）	平成18年4月～平成21年3月	学習者のニーズに応じて、日本語能力試験N2、Ｎ１を目指す学習者が効率よく自習できるよう工夫した。機能語を意味によって分類して構成を考え、できるだけ簡単明瞭に文法的性格を解説しようと試みた。
2）『会話と文法を学ぶ初級中国語』 （再掲）	平成20年3月	古都奈良などを題材に、日本の生活に密着し、日本の地名や観光地などを中国語で話せるように工夫した。学習効果を考慮して語彙・表現・文法など最も使用頻度の高いものを用いるようにした。また、中国語の全体像を掴むために、文法の知識を増やすと同時に、実際の使用頻度が高い表現を集中的に、対話文形式で覚えこむことを第一義としている。
3）『漢字ドリル３０００』 （奈良産業大学日本語科目専用）	平成２１年４月～現在に至る。	生活言語、学習言語の習得及び日本語能力試験N1を目指す留学生のために「読む力」「書く力」を確実に身につけられるよう工夫した。漢字を音読みと訓読みや字形、部首、意味などグループ別に構成し、効率的に習得できることを目指した。また過去数年間の能力試験１級に出題された漢字、語彙問題を徹底的に分析し、画数順に単元を配列して、日常学習の段階から最適な試験勉強ができるよう工夫した。その他、漢字圏の留学生にとって落とし穴である同形語をの用例を加えた。
4）「日本語表現――作文・小論文編」 （奈良産業大学日本語科目専用）	平成22年4月～平成23年3月	新しい作文の練習法で文章の構築力をつける練習帳である。留学生不得意な受け身、副助詞、接続詞で表現力をアップする練習帳である。
5）「コンピューター用語辞典（留学生用）」 情報学部向井教授と共同作成	平成22年4月～現在に至る。	留学生が最も理解しにくい情報学に関する専門用語を中国語に翻訳し、専門科目の授業内容の理解度を向上させることができた。（簡体字と繁体字二種類を作成）
３　教育上の能力に関する大学等の評価		
1）奈良産業大学情報学部　学生による評価	平成21年～現在に至る	高い出席率を維持していて、大半の学生の受講意欲が高く、「理解しやす、大変熱意を感じる」と学生から評価を受けた。課外活動やクラブ活動、ボランティア活動、地域活動など学生と共に参加した。学習のみならず生活指導なども行い、学生から高い評価を受けた。特に留学生に対して、携帯電話の番号、メールアドレス、チャットIDを公開し、学習のみならず、生活、進路、自宅訪問などの相談を２４時間体制で受ける。大学を断念した留学生を大学に戻るように説得し、現在全員優秀な成績を修得している。留学生から多大な信頼を得ている。
４　実務の経験を有する者についての特記事項		
1）地域市民講座 （財）奈良県経済クラブ　中国語講座	平成15年4月～現在に至る	地域の経済連合会主催の語学講座の講師を務めた。また、本学と社会人向けの「奈良駅前大学」という地域連携事業にの協力のかけ橋を務めた。コンサートや料理教室などを主催し、本学の学生、留学生との交流を活発にさせた。本講座は、2013年に10周年を迎える。毎年、語学研修、コンサート、特色のあるイベントなど開催し、地域から「民間大使」と言われ、多大な評価を受け、中国大阪総領事館からも賞状を授与された。
2）講演など 「大地の子どもたち―何故中国残留孤児が生まれたのか」講演	平成16年7月	中国残留孤児の歴史背景や、来日後の位置付け、国家の行政などについて分析し講演した。
「中国現代情報について - スローガンから見る中国」講演	平成17年1月	中国のスローガンから中国の行政、政治、地域特徴などから中国を見る。
「中国現代情報について - レシートからのビジネス」講演）	平成17年4月	専門の調査機関が実施した調査の結果から、中国市場および中国社会の最新動向・トレンドを探る。
「長安の日本人－阿倍仲麻呂と漢詩－」　講演	平成22年5月	日本の歴史上、アジアとの関係構築に一生を捧げたわが国最古の留学生として、奈良から中国・長安に旅立ったことで遣唐使阿倍仲麻呂の異郷での生涯を紹介した。
「中国の子どもたちと家庭教育―異文化の視点から」	平成25年6月	中国の幼・小・中・高・大の教育の全体像を紹介した上、現在中国の家庭教育や地域教育の差を紹介した。また、中国人と日本人の価値観や文化の差異の視点から現在の日本の学校教育における外国人児童・生徒に対する対応を考察する。

５　その他		
1）学内業務 国際交流委員として	平成21年～現在に至る	国際交流委員として本学の海外協定校国立台湾屏東科技大学、蘇州科技大学、青島理工大学、東方学院、南京郵電大学の協定の実現に努め、夏季短期留学生、特別聴講生の受け入れを提案し、実行を推した。協定校にて説明会などを行い、日本への留学の意欲を増進させた。
2）留学生のイベント指導	平成21年～現在に至る	４年間連続留学生の日本語スピーチコンテストの担当として、作文・演説の指導を行った。また、『国際交流センター記録文集』を企画・提案し、４年編集を務めた。
3）日本人学生の語学研修	平成23年～現在に至る	平成23年度から中国青島理工大学琴島学院へ夏季短期語学研修に引率した。その結果、学生たち自ら積極的に国際交流活動を行い、異なった文化に興味を持つようになった。

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
１　資格，免許		
1）高等学校教諭一級普通免許（音楽）（中国で取得）	平成４年9月	内920068号　（内モンゴル自治区教育庁）
2）NAFL日本語教師養成プログラムLD	平成20年12月	株式会社アルクの主催する通信講座にて、420時間相当する日本語教師養成講座を受け、最終試験を受けて終了。
3）修士（教育学）	平成15年3月	奈良教育大学大学院　（奈良教育大学第957号） 論文題目　中国帰国児童･生徒の内部葛藤とアイデンティティの模索―ライフ･ヒストリ―からの考察―
4）博士（文学）	平成20年9月	奈良女子大学大学院　（奈良女子大学博課第393号） 博士論文題目　宋代語録における副詞研究
２　特許等		
なし		
３　実務の経験を有する者についての特記事項		
1）NOVAグループ　株式会社　講師	平成15年3月～ 平成16年8月	インストラクターの指導、研修などに携わり、教材開発・編集を担当した。
2）天理大学　広報・国際交流部　職員	平成17年4月～ 平成18年3月	留学生に関する業務全般、日本人学生の海外渡航、留学、海外協定校などの業務を担当した。
４　その他		
奈良産業大学　学内委員会 1）国際交流センター運営委員	平成21年度～ 現在に至る	留学生の生活、学習の支援・指導、留学生の引率、留学生行事、特別聴講生、短期留学生の指導、日本人学生の語学研修、海外協定校に関する業務全般を担当した。また、国際交流事業の企画、提案など、「国際交流センター記録」の編集などを担当留学生科目の担当の提案など。
2）全学共通・教養教育推進会委員	平成22年度～ 平成23年度	留学生及び特別聴講生の日本語科目、中国語科目などを適切に履修することができるよう提案する。またクラス編成、協定校との調整などの全般業務に携わる。
3）学生支援センター運営委員 4）学生委員会委員	平成23年度～ 平成24年度	学生の生活、学習の支援、指導、大学行事の協力及び企画、実施を行う。
5）紀要編集委員など	平成22年度～ 平成23年度	奈良産業大学紀要第27号の編集など。
6）入学試験委員会・編入学実施小委員	平成25年度～26年度	大学の入学試験に関する業務全般。

7)地域連携推進委員	平成25年度～26年度	大学が持っている物的・人的資源を社会に提供する企画・実施などを行う業務全般。

研究業績等に関する事項				
著書，学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所，発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（著書）				
(1) 『会話と文法を学ぶ初級中国語』	共著	平成20年3月	白帝社	古都奈良などを題材に、日本の生活に密着し、日本の地名や観光地などを中国語で話せるように工夫し、学習効果を考慮して語彙・表現・文法など最も使用頻度の高いものを用いるようにした。 B5判（全72頁） 共著：羅東耀・張敏・劉慶・何穎・郭斐映・竹田治美 （原稿の一部を執筆のほか全体の編集などを行ったため分割不可能）
(2) 『宋代語録における副詞研究』	単著	平成24年12月	白帝社	本書は、著者のこれまでの中古・近古副詞や文法についての研究と、博士論文「宋代語録における副詞研究」をまとめたものである。 近年、中古・近古の文法や語彙、音韻の研究において個別の語彙について分析及び考察する研究があるものの、史的研究はきわめて少ない。 著者は、古代言語及び歴史的考察を中心とした研究に取り組んできた。本書は、史的な角度から宋代の言語状況を概観し、宋代語録の定義、起源、形成について論じ、総計436副詞の個々の使用状況、特徴、性質について考察を加え、宋代語録における副詞の特徴を明らかにした。 宋学語録における副詞の研究は、これまでの宋学語録研究が閑却してきた部分に着目し、近古語彙史の基礎研究を補完するものとして、学術的な意義は大きい。 A6判（全298頁）
（学術論文）				
（1）「日中同形類義語」について（査読付）	単著	平成17年3月	奈良女子大学人間文化研究年報 第20号pp. 335-342	日中の漢字の表現が同じことであることよって、日中言語の学習者は容易であるという先入観が生じやすい、それによって時にはコミュニケーションギャップを生じる要因にもつながり、大きな誤解を生じる場合もしばしばある。 本論はその要因について、比較的な角度から用例を分析し、その意味、用法、さらに言葉の背後にある文化的な背景や生活習慣、社会体制などと関わらせながら、考察した。
（2）『捜神記』における程度副詞について	単著	平成19年3月	天理大学中国文化研究第23号 pp. 43-60	晋末宋初に著された志怪小説『捜神記』における程度副詞に焦点を合わせて、分析した。程度副詞体系の構築、機能を検討し、言語学的な側面に重点をおいて考察し、その文体的特徴を明らかにした。
（3）『朱子語類輯略』における「得」について	単著	平成20年3月	天理大学中国文化研究第24号 pp. 35-56	「得」の形態構造を取り上げ、機能と特徴を考察し、述語と補語の関係を結ぶ機能を持ち、動作性の強いものから感受性の強い動詞へ変遷した。「得」の働きによって、補語になる他の品詞が使用範囲も拡大した。さらに複句・複文の発展にも影響を与えた。
（4）『朱子語類輯略』における程度副詞について （査読あり）	単著	平成20年3月	奈良女子大学人間文化研究年報 第23号pp. 25-37	南宋は多くの優れた口語的な通俗文学作品が誕生し、言語も著しく変化した。特に副詞を含めて虚詞の機能の変化が顕著に見られる。その比較を示す程度副詞を取り上げ、その機能を考察し、さらに歴史的に構築を論じた。
（5）宋代語録における副詞の研究（博士学位論文）	単著	平成20年8月	奈良女子大学大学院	宋代における五つの宋学語録175巻を対象として、副詞を６つに分類し、435種類副詞の特徴や諸性格について考察を行った。更に、音節構造からみた宋代副詞を検証し、その変遷と諸性格を明らかにした。 （400字詰原稿用紙　1020頁）

（６）宋学語録についての一考察	単著	平成21年3月	天理大学中国文化研究第25号　pp.47-76	宋学の代表的な語録を中心に、宋学語録の定義、起源、形成及び盛行の原因、さらに現存版本などについて考察するものである。
（７）音節構造からみた宋代副詞（査読あり）	単著	平成21年3月	白帝社 中国語研究第51号 pp.76-91	大部の書である宋学の五つの語録をテキストとして、副詞を中心にその特徴や諸性格に着目し音節について考察した。 テキストとして宋学の語録合計175巻、総文字数は約2,720,000字であり、副詞は述べ435種類にのぼる。 2010年　NO.62日本中国学会報「歴史的文法分野」に取り上げられ、高く評価を受けた。
（８）　日本語学習における諸問題	単著	平成22年9月	奈良産業大学紀要 25集 pp.　73－77	留学生の日本語学習の習得課程における諸問題を分析し、その結果にも基づき、中級レベル学習者に日本語を習得させるための方法を探ることである。中級レベルの学習者においては、共通の問題として、文法・助詞・動詞などの混同、誤用などの問題点を考察し、教室における日本語指導を通して、講義中や作文、レポートなどの誤用例を収集し、これらの問題に焦点を絞って、分析・考察を行う。
（９）宋代語録における語気副詞について	単著	平成23年9月	奈良産業大学紀要26集 pp.35-43	宋学語録を焦点に合わせ、語気副詞を考察した。語気副詞は数が多く、複音節化が顕著され、宋代の語気副詞は既に副詞の機能のみを担うものが多いということが分かる。一部の語気副詞は宋代以後も強い生命力を持って、現代漢語に定着し、口語表現として頻用されている。
(10) 日本語コースカリキュラムと指導について	共著	平成24年9月	奈良産業大学紀要28集 pp.　161-166	近年、短期留学生が急速に増加している中、日本語短期研修を実施する際、教材の選択・使用、クラス編成、プログラム計画、教員配置などのあり方について、本学の夏季短期を事例として考察し、オムニバスで一つの講座を担当する際も、担当者間で目標についての共通理解、指導項目の意見交流や指導方法、指導内容のあり方を考える。また、研修生の教育効果を高めるために、学生の日本語レベルを含めた事前調査や全体像の構成から部分内容の調整までの確認など、望ましいコースカリキュラムの作成と指導のあり方について模索する。 （原稿の構成や問題意識の提起、講義の担当など全体にかかわったため分割不可能） 共著者：竹田治美・廣田直俊・加納巧
(11) 外国人児童･生徒の内部葛藤とアイデンティティの模索 ―学校の多文化教育に向けて―	単著	平成24年9月	奈良産業大学紀要28集 pp.　129-139	本論は、2003年から10年間にわたり、外国人児童・生徒の日本語学習や母語環境、学校生活などについて調査した。国別では中国、ブラジル、フィリピン、ベトナム、韓国、台湾になる。子どもたちの学校生活と家庭環境に焦点をあて、その背景､実態から見えてくるものを考察する。学校における日本語学習と日本語カリキュラムの位置付けを指摘する。また、来日時間の浅い児童と日本で生まれた子どもの違いを分析する。さらに、子どもたちをめぐる諸問題を明確にするためには、その問題の所在について日本の学校や社会を中心に徹底的な個別調査を行うことが必要である。そして、問題解決のために日本の学校、地域、社会が改善すべき点を具体的に提言する。
(12) 第二言語としての日本語習得について ―人称代名詞の認識と運用をめぐって―	単著	平成25年2月	奈良産業大学情報フォーラム第８集 pp.89-98	第二言語習得（second language acquisition/SLA）研究に基づきながら、留学生の日本語習得における人称代名詞の認識と運用について検討したものである。第二言語としての日本語の人称代名詞を通して第二言語習得研究の中、特に教室における指導がどのように学習者に影響を与えるかについて考察し、より効果的な指導方法を探っていく。 日本語学習者が「人称代名詞」を習得する過程において抱える課題について分析し、日本語習得においての課題を明らにすることを目指す。

(13) 日本語短期研修のカリキュラムとその周辺について	単著	平成25年3月	奈良産業大学紀要28集（続編）pp. 77-82	日本語短期研修における留学制度の現状とその課題について考察する。また、学習者の多様性と多面性にこたえる日本語教育の有り方について検証する。さらに、短期研修プログラムの実施やカリキュラムの編成には、より多様な内容で対応する必要があることと、多様なニーズに対応できる受け入れシステムの構築と今後の発展性について述べる。
（その他）				
「研究報告書」 (1) 日本の大学における職業教育と大学生の職業意識（査読あり）	単著	平成23年8月	中国教育科学「十一五」計画　教育部重点研究課題 職業教育と企業文化との結合研究と実験（研究課題番号：GJA104009） 中期研究成果論文集 中華職業教育出版社 pp. 367 - 372	中国教育部職業技術教育センター研究所からの要請で日本の大学におけるキャリア教育及び大学生の就職意識について考察、具体的なデータを挙げ分析した。また、その背景にある歴史的な原因、社会要素などについて明らかにした。海外から投稿論文の中、唯一入選されたものである。
「翻訳」 (1) 『台風雑記』	共著	平成22年3月	東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所出版	百年前、台湾植民統治時代に当時の官僚である佐倉孫三氏が漢文で記録した『台風雑記』を翻訳した。また、『台風雑記』と著者について紹介し、被植民者の思いと本書の意義についての論文の翻訳を担当した。担当部分「植民者による植民地の風俗記録」 A6判（全220頁）（12頁-30頁を担当）、その他、原稿全体の編集など。 三尾裕子監修　台湾の自然と文化研究会　編訳木村自、李春子、山田仁史、王厳隈、福浦厚子、林美杏　竹田治美
「口頭発表」 （1）日本の大学における職業教育と大学生の職業意識		平成23年8月	中国キャリア教育国際シンポジウム（青島）	日本の大学におけるキャリヤ教育及び大学生の就職意識について考察、具体的なデータを挙げ分析した。また、その背景にある歴史的な原因、社会要素などについて分析した。さらにインターンシップ制度と実施及び現状と課題を考察した。
（2）近世漢語における副詞の音節変遷について	単	平成24年9月	北京大学　古代漢語研究会	副詞は、最も複雑の品詞であり、数が多く、多様性を持っているのが特徴である。本発表は音節の角度から、中古・近世漢語の音節変遷について考察し、その機能と性質及び個々の使用状態を分析した。副詞の分節化の多重性からその意味と統語的な機能と構造と関連させ、系統性を試みる。
（3）『祖堂集』における程度副詞について	単	平成25年10月	日本中国学会第65回大会	現存の最古の禅宗史総集『祖堂集』の程度副詞の機能、用法、特徴などを考察し、中古から近古にわたって程度副詞の体系そのものがそのように変遷したのか、また歴史的にどのように構築されていったかに考察する。

［注］

1 最近10年間の教育活動、研究活動について作成すること。

2 「教育活動」については、各項目ごとに年月日順に、「学会等および社会活動」については、就任年月日順に記入すること。

3 「研究活動」については、下記の点に留意すること。

① 著書・論文及びその他の順に、発表年月日順に記入すること。

② 著者が複数にわたる場合で、筆頭著者が著書・論文等において明示されている場合には、その氏名に◎印を付すこと。

③ 共著(論文)の場合、「該当頁数」の記入にあたっては、本人の分担箇所を特定できる場合は、その頁数を記載すること。

④ 最近10年間に著書・論文等の発表のなかった者についても、教員名を挙げてその部分を空欄にしておくこと。

⑤ 芸術分野や体育実技等の分野を担当する教員については、著書・論文等以外の競技会、展覧会または演奏会等での発表のうち、特に顕著な業績と認められるものについても記載すること。このほか、専門分野の特性を 考慮し、顕著な業績と認められるものがある場合もこれに含めてもよい。

教　育　研　究　業　績　書

平成26年3月31日

氏名　　片岡　英己

研究分野	研究内容のキーワード
デジタル・アーカイブ	デジタル・アーカイブ

教　育　上　の　能　力　に　関　す　る　事　項

事項	年月日	概　　要
1　教育方法の実践例		
1）プロジェクト演習	平成17年9月～平成24年3月	「高取城」「藤原京」「郡山城」の3つのCG再現プロジェクトを通して、関わった学生達は、通常の一方向的な授業では学ぶ事のできなかった、技術の向上や知識の習得に並ぶ大切な、信頼関係を築くことの大切さ、得意分野を持つことで存在意義が確立される重要さ、期限を決めてそれを確実に達成する計画の大切さ、全員で作り上げたものが実際の地域現場で活用され喜ばれているのを見ての達成感を得ることにつながった。結果、学生達に社会性を基礎にした向上心が芽生えた。
2）コンピュータ操作教育における学習の確実性を高める工夫「3回操作」	平成20年4月～現在	コンピュータの操作教育の確実な学習成果を得る為に、目的の操作を行わせる際、「3回操作」を行っている。これは、一度その操作を見ただけではわからない学生がいるなかで、まず一回目はその操作を見るだけ、2回目は一緒にやってみる、3回目は2回目ででもついてこられなかった者に対してもう一度その操作を見せるといったもので、これにより授業についてこられなかった学生も確実に操作を覚えることになり、授業がスムーズに進めらることと、アンケート結果からも学生の授業に対する満足度が上がった。 【関連授業科目：教育方法技術論（初等）（中等）】
3）ティーチング・アシスタントの活用	平成20年4月～現在	授業のなかで、ティーチング・アシスタントを配置することにより、わからない学生に対するサポートの迅速性が上がった。またこのアシスタントの人選も、前年度にその授業で頑張っていたり、他の学生のサポートを積極的にする学生を優先的に採用するよう手配した。
4）電子ネットワーク上にある「教材箱」と「提出箱」の活用	平成20年4月～現在	担当科目全般で、電子ネットワーク上にある「教材箱」と「提出箱」の活用をした。このことにより、授業終了後の教室や自宅からの教材の閲覧、課題の提出にも役立ち、教材を予習や復習にも活用できるようにした。 【関連授業科目：教育方法技術論（初等）（中等）】
2　作成した教科書，教材		
1）講義用教材「３次元CG」	平成20年4月～現在	奈良産業大学　情報学部　情報学科の助教として担当の「３次元CG」（専門科目、2年次配当、通年、選択4単位）において使用している。内容は、3次元のＣＧで作成する基本的なテーマ「工業製品」「建築」「キャラクター」「ロボット」を作る方法から始め、最後には自分のオリジナル作品が作れるような流れになっている。教材は電子ネットワーク上にある「教材箱」に回ごとにデジタルデータで提供するが、プリントアウトしてファイルに綴じる事も可能。
2）講義用教材「デジタルアーカイブ」	平成20年4月～現在	奈良産業大学　情報学部　情報学科の助教として担当の「デジタルアーカイブ」（専門科目、2年次配当、半期、選択2単位）において使用している。内容は、「デジタルアーカイブとは何か」「情報管理と著作権」「アーカイブの計画」「撮影技術」「データベースの構築」など、デジタルアーカイブの知識と技術がバランスよく学べるような教材である。教材は、電子ネットワーク上にある「教材箱」に回ごとにデジタルデータで提供するが、プリントアウトしてファイルに綴じる事も可能。

3）講義用教材「コンピュータグラフィックス」	平成20年4月～現在	奈良産業大学　情報学部　情報学科の助教として担当の「コンピュータグラフィックス」（専門科目、2年次配当、半期、選択2単位）において使用している。内容は、実際に世の中で使用されている商業デザインを教材に、その技術的な工夫や制作意図を考える教材にしている。教材は、電子ネットワーク上にある「教材箱」に回ごとにデジタルデータで提供するが、プリントアウトしてファイルに綴じる事も可能。
4）講義用教材「基本パソコン演習Ⅰ」	平成22年4月～現在	大阪学院大学　非常勤講師として担当の「基本パソコン演習Ⅰ」（必修科目、１年次配当、半期ごと、選択2単位）において使用している。内容は、マイクロソフトの「word」「PowerPoint」の基本や電子メールの使い方や原理、情報倫理など。教材は電子ネットワーク上にある「教材箱」に回ごとにデジタルデータで提供するが、プリントアウトしてファイルに綴じる事も可能。 【関連授業科目：教育方法技術論（初等）（中等）】
5）講義用教材「基本パソコン演習Ⅱ」	平成22年4月～現在	大阪学院大学　非常勤講師として担当の「基本パソコン演習Ⅱ」（必修科目、１年次配当、半期ごと、選択2単位）において使用している。内容は、マイクロソフトの「Excel」の基本や応用など。教材は電子ネットワーク上にある「教材箱」に回ごとにデジタルデータで提供するが、プリントアウトしてファイルに綴じる事も可能。 【関連授業科目：教育方法技術論（初等）（中等）】
6）「使って覚える基本Photoshop」（プリント冊子）	平成17年4月1日	・奈良産業大学　情報学部　情報学科　平成１７年度の科目「情報学演習ＩA」に使用 ・パソコンソフト「Photoshop」初心者の為の画像処理基礎教育のテキスト ・初心者でもわかりやすい様に基本操作に特化して作成したこともあり、学生には達成感が得られた。
7）「使って覚える基本Illustrator」（プリント冊子）	平成17年4月1日	・奈良産業大学　情報学部　情報学科　平成１７年度の科目「情報学演習ＩA」に使用 ・パソコンソフト「Illustrator」初心者の為の画像処理基礎教育のテキスト ・初心者でもわかりやすい様に基本操作に特化して作成したこともあり、学生には達成感が得られた。 【関連授業科目：教育方法技術論（初等）（中等）】
8）「画像処理とデジタルアルバム作成」（プリント冊子）	平成17年8月1日	・奈良産業大学　夏休みの短期特別講座に使用 ・POAYパソコン教室（高齢者のパソコン教室）に使用する為のテキスト ・高齢者向けに、文字や画像をかなり大きめに作成したこともあり、高齢者には好評であった 【関連授業科目：教育方法技術論（初等）（中等）】
9）「準デジタル・アーキビスト養成講座テキスト」（プリント冊子）	平成19年8月16日	・年２回行われる資格試験「準デジタル・アーキビスト」養成の為の教材
3　教育上の能力に関する大学等の評価		
1）		
4　実務の経験を有する者についての特記事項		
1）高取城CG再現プロジェクト完成発表会講演	平成18年11月26日	奈良県高市郡高取町のリベルテホールにて、一般の方約300名に対しCG完成発表会を行った
2）藤原京ＣＧ再現プロジェクト中間発表講演	平成20年3月3日	奈良県橿原市のかしはら万葉ホールにて、一般の方約800人に対しCG完成中間発表会を行った
3）「デジタル・アーキビストについて」講演	平成20年9月17日	奈良産業大学図書館にて、奈良県内の大学・専門図書館関係者に向けてデジタル・アーキビストについての講演を行った

４）教職員のための公開講座　講師	平成20年12月25日	大阪、奈良の小学、中学、高校の教員向けに３ＤＣＧの講座を行った 【関連授業科目：教育方法技術論（初等）（中等）】
５）「超時空フォーラム　シルクロードから藤原・平城京へ」講演	平成21年3月15日	帝塚山大学にてＮＰＯ法人ユニバーサロン主催のフォーラムで、藤原京ＣＧ再現の取り組みについて講演を行った
６）「コンピュータグラフィックスでよみがえる藤原京」講演	平成21年11月7日	奈良産業大学主催「2009なら講座」で、奈良学園登美ヶ丘キャンパスで講演を行った
７）「遺構で残る歴史遺産の観光への活かし方」 講演	平成21年11月19日	「地域紹介・観光ボランティアガイド全国大会」の第４分科会「遺構で残る歴史遺産の観光への活かし方」での藤原京の例の発表とアドバイザーとして参加
８）平城遷都1300年記念講座　講演	平成21年11月23日	「コンピュータグラフィックスでよみがえる藤原京」と題し、東京奈良まほろば館で講演を行った
９）藤原京ＣＧ再現プロジェクト完成発表 講演 「藤原京再現CG完成記念シンポジウム」	平成22年2月28日	イオンモール橿原アルルにて、プロジェクトメンバーと共に一般の方対象に藤原京CGの完成発表を行った
１０）近畿工業高等学校科長連絡協議会総会での講演 演題：「藤原京CG再現プロジェクトと学生達」	平成22年6月11日	奈良文化財研究所　平城京跡資料館　大講堂にて藤原京CG再現プロジェクトの取組みについて講演を行った
１１）王寺町りーべるカレッジ　講演 演題「文化遺産ＣＧ再現によって見えてくる世界」	平成22年10月23日	奈良産業大学の地域貢献として地元地域の方々に対して行う公開講座で講演を行った
１２）　奈良県立高田高等学校 演題「文化遺産ＣＧ再現によって見えてくる世界」	平成23年9月14日	高田高等学校にて、歴史を学ぶ生徒達に対しＣＧ再現プロジェクトについて講演を行った
１３）　奈良産業大学 「大和郡山城CG発表展示会」	平成24年3月17日 ～20日	大和郡山市から依頼があり始まった郡山城CGプロジェクトの完成したCGの発表展示会を行った
５　その他		
１）特記事項なし		

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
１　資格，免許		
１）上級デジタル・アーキビスト	平成20年　3月	文化の基礎、文化情報の収集、管理・流通・利用の処理および、知的財産権・プライバシーなどを理解し、実践できるものに与えられる資格
２　特許等		
１）特記事項なし		
３　実務の経験を有する者についての特記事項		
１）特記事項なし		
４　その他		
１）特記事項なし		

研　究　業　績　等　に　関　す　る　事　項				
著書，学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所，発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要
（著書）				
特記事項なし				
（学術論文）				
1.「藤原京の３ＤＣＧ再現による万葉歌の視覚再現とその教育的利用方法について」（修士論文）	単著	平成20年3月	岐阜女子大学	万葉集は日本最古の歌集で、多くの歌人により数々の傑作が生み出された。この研究では実際に歌が詠まれたであろう風景をＣＧ（コンピュータグラフィックス）で再現し、万葉歌がどのような状況で詠われたものかを映像として検証し、その成果によって、万葉集を学ぶ為の教材としての活用方法を提示する。 ここでは研究の対象を「藤原京」に関する歌２首を例に研究を行ったA4判　全47頁
2.「文化遺産のCG再現とそれを活用した地域振興について」（査読付）	共著	平成22年3月	文化経済学　第7巻1号（通算28号）P.33～P.40	歴史的建造物等の文化遺産の中には、現在では損壊や消失の結果、当時の様子がわからない状態にある物が多く存在する。本研究論文は、これらを史実や調査に基づいて3次元ＣＧのプログラムを用いたデジタル・アーカイブとして再現することで、当時の様子を甦らせ、地域振興や観光促進に活用することで、現地を訪れた訪問者に、より一層の文化遺産の価値を感じてもらい、交流人口の増加に繋げていく事の可能性について検討した。
3.「藤原京CG再現プロジェクト」	単著	平成22年10月	奈良産業大学　情報学フォーラム10周年記念誌P.65～P.73	藤原京CG再現プロジェクトについて、学生の制作活動を中心にまとめた活動記録。
4.「郡山城CG再現プロジェクトの活動記録」	単著	平成25年2月	奈良産業大学　情報学フォーラム紀要P.33～P.39	郡山城CG再現プロジェクトについて、学生の制作活動を中心にまとめた活動記録。
（その他）				
「学会発表」 1.「デジタル・アーキビスト養成コースの設置について」	単独	平成19年8月20	日本教育情報学会2007年次大会（於　常磐大学）	「デジタル・アーキビスト養成コースの設置について」と題して本学での取り組みの学会発表を行った。
「学会発表」 2.「文化遺産のCG再現とそれを活用した地域振興について」	単独	平成20年8月	文化経済学会〈日本〉2008年次大会（於　北海道大学）	現存しない歴史遺産をCGで復元することにより、観光資源として地域の観光促進に繋げていけることの可能性を追求した
「情報教材作成」 1.講義用教材「３次元CG」	単独	平成20年4月～現在		奈良産業大学　情報学部　情報学科の助教として担当の「３次元CG」（専門科目、2年次配当、通年、選択4単位）において使用している。内容は、3次元のＣＧで作成する基本的なテーマ「工業製品」「建築」「キャラクター」「ロボット」を作る方法から始め、最後には自分のオリジナル作品が作れるような流れになっている。教材は電子ネットワーク上にある「教材箱」に回ごとにデジタルデータで提供するが、プリントアウトしてファイルに綴じる事も可能。
「情報教材作成」 2.講義用教材「デジタルアーカイブ」	単独	平成20年4月～現在		奈良産業大学　情報学部　情報学科の助教として担当の「デジタルアーカイブ」（専門科目、2年次配当、半期、選択2単位）において使用している。内容は、「デジタルアーカイブとは何か」「情報管理と著作権」「アーカイブの計画」「撮影技術」「データベースの構築」など、デジタルアーカイブの知識と技術がバランスよく学べるような教材である。教材は、電子ネットワーク上にある「教材箱」に回ごとにデジタルデータで提供するが、プリントアウトしてファイルに綴じる事も可能。

「情報教材作成」 3.講義用教材「コンピュータグラフィックス」	単独	平成20年4月～ 現在		奈良産業大学　情報学部　情報学科の助教として担当の「コンピュータグラフィックス」（専門科目、2年次配当、半期、選択2単位）において使用している。内容は、実際に世の中で使用されている商業デザインを教材に、その技術的な工夫や制作意図を考える教材にしている。教材は、電子ネットワーク上にある「教材箱」に回ごとにデジタルデータで提供するが、プリントアウトしてファイルに綴じる事も可能。
「情報教材作成」 4.講義用教材「基本パソコン演習Ⅰ」	単独	平成22年4月～ 現在		大阪学院大学　非常勤講師として担当の「基本パソコン演習Ⅰ」（必修科目、１年次配当、半期ごと、選択2単位）において使用している。内容は、マイクロソフトの「word」「PowerPoint」の基本や電子メールの使い方や原理、情報倫理など。教材は電子ネットワーク上にある「教材箱」に回ごとにデジタルデータで提供するが、プリントアウトしてファイルに綴じる事も可能。 【関連授業科目：教育方法技術論（初等）（中等）】
「情報教材作成」 5.講義用教材「基本パソコン演習Ⅱ」	単独	平成22年4月～ 現在		大阪学院大学　非常勤講師として担当の「基本パソコン演習Ⅱ」（必修科目、１年次配当、半期ごと、選択2単位）において使用している。内容は、マイクロソフトの「Excel」の基本や応用など。教材は電子ネットワーク上にある「教材箱」に回ごとにデジタルデータで提供するが、プリントアウトしてファイルに綴じる事も可能。 【関連授業科目：教育方法技術論（初等）（中等）】
「情報教材作成」 6.「使って覚える基本Photoshop」 （プリント冊子）	単独	平成17年4月～ 現在		・奈良産業大学　情報学部　情報学科　平成１７年度の科目「情報学演習ＩA」に使用 ・パソコンソフト「Photoshop」初心者の為の画像処理基礎教育のテキスト ・初心者でもわかりやすい様に基本操作に特化して作成したこともあり、学生には達成感が得られた。
「情報教材作成」 7.「使って覚える基本Illustrator」 （プリント冊子）	単独	平成17年4月～ 現在		・奈良産業大学　情報学部　情報学科　平成１７年度の科目「情報学演習ＩA」に使用 ・パソコンソフト「Illustrator」初心者の為の画像処理基礎教育のテキスト ・初心者でもわかりやすい様に基本操作に特化して作成したこともあり、学生には達成感が得られた。 【関連授業科目：教育方法技術論（初等）（中等）】
「情報教材作成」 8.「画像処理とデジタルアルバム作成」 （プリント冊子）	単独	平成17年8月～ 現在		・奈良産業大学　夏休みの短期特別講座に使用 ・POAYパソコン教室（高齢者のパソコン教室）に使用する為のテキスト ・高齢者向けに、文字や画像をかなり大きめに作成したこともあり、高齢者には好評であった 【関連授業科目：教育方法技術論（初等）（中等）】
「情報教材作成」 9.「準デジタル・アーキビスト養成講座テキスト」 （プリント冊子）	単独	平成19年8月～ 現在		・年２回行われる資格試験「準デジタル・アーキビスト」養成の為の教材
「情報教材作成」 10.「図書館十進分類法に基づく図書検索のホームページ作成方法」	単独	平成20年4月～ 現在		奈良産業大学　情報学部　情報学科の担当の「デジタルアーカイブ」（専門科目、2年次配当、半期、選択2単位）において使用している。

［注］

1 最近10年間の教育活動、研究活動について作成すること。

2 「教育活動」については、各項目ごとに年月日順に、「学会等および社会活動」については、就任年月日順に記入すること。

3 「研究活動」については、下記の点に留意すること。

① 著書・論文及びその他の順に、発表年月日順に記入すること。

② 著者が複数にわたる場合で、筆頭著者が著書・論文等において明示されている場合には、その氏名に◎印を付すこと。

③ 共著（論文）の場合、「該当頁数」の記入にあたっては、本人の分担箇所を特定できる場合は、その頁数を記載すること。

④ 最近10年間に著書・論文等の発表のなかった者についても、教員名を挙げてその部分を空欄にしておくこと。

⑤ 芸術分野や体育実技等の分野を担当する教員については、著書・論文等以外の競技会、展覧会または演奏会等での発表のうち、特に顕著な業績と認められるものについても記載すること。このほか、専門分野の特性を 考慮し、顕著な業績と認められるものがある場合もこれに含めてもよい。

教　育　研　究　業　績　書

平成26年3月31日

氏名　　玉野　哲也

研究分野	研究内容のキーワード
Visual Communication Design	Art Direction, Creative Direction, Planning Direction, Graphic Design, C.I Planning, Editorial Design, Web Design, Graphical User Interface Design, Infographic, Design Consulting, Design Education, Design Research, Workshop, 医療, 国際支援, 危機管理, NPO/NGO, 地場産業, 商品開発.

教育上の能力に関する事項

事項	年月日	概要
1　教育方法の実践例		
1）スクーリング授業における指導の実践	平成14年7月から現在に至る	武蔵野美術大学 通信教育学部 デザイン情報学科 コミュニケーションデザインコースの非常勤講師として担当の「グラフィックデザイン基礎1」（専門科目/1年次配当/夏秋期添削課題/必修１単位）におけるスクーリングの実践例は以下の通りである。　スクーリング初日午前に前提講義を行い、課題説明、過去の参考作品の紹介、参考資料による「情報の線分編集」の説明を行う。また、前提講義に於いて、以下の事を学生に伝える。 １.スタートラインに於いてアイデアが悪いものに対しては決して制作許可を出さない。 ２.作品提出に於いてクオリティーの低いものには決して提出許可を出さない。 ３.提出時間は厳守しなくてはならない。 ４.課題参加者全員による自由投票で評価が決まる。 課題制作の進行過程に於いて「アイデア出し」「提出」の２ヶ所に、非常に厳しいチェックポイントを設けた。スクーリング初日午後より学生をグループに分け、アイデア出しを開始する。初日のアイデアにOKが出ない場合、通称「１００出し」と呼ばれるアイデア出しのトレーニング（学生の状況に応じて、アイデアを最大で１００案考えさせる宿題）を行う。翌日に宿題のチェックを行うが、指定されたアイデアの数が揃っていない場合、揃うまでアイデアチェックを行わない。 最終日に講師による最終チェックを経て、提出にOKが出た学生から順次提出。午後２時を作品提出時間とするが、提出時間に間に合わぬ学生には、10分遅れるごとにマイナス1点のペナルティーが科せられる。午後４時までに必ず提出出来るようにきめ細かく指導を行う。 講評は、まず、課題参加者全員に付箋３枚（３票）を渡し、「自分が好きな作品３つ」に無記名での投票を行なわせる。得票数1位の学生には時間無制限、投票数上位（５名程度）の学生には３分、その他の学生には１分の時間を与え、課題参加者全員にプレゼンテーションを行わせる。プレゼンテーションの内容も点数の評価対象とする。　以上の教育実践を行う事は、学生の「限界の壁」を短期間で突破させる事に役立ち、またクリエイティブに対する学生自らの適性を知る事に役立っている。

２）添削課題における指導の実践	平成14年9月から現在に至る	武蔵野美術大学 通信教育学部 デザイン情報学科 コミュニケーションデザインコースの非常勤講師として担当の「グラフィックデザイン基礎2」（専門科目/２年次配当/冬期添削課題/必修１単位）における添削の実践例は以下の通りである。 添削１回目に於いては、学生にビジュアルのアイデアスケッチ３点、及び、そのアイデア（テーマ）に対する簡単な文章説明を別紙にて提出させる。 提出されたビジュアルのアイデアスケッチ（文章説明は伏せる）を、３名の講師（原則誰でも良い）に見せ、以下の２点を記してもらう。 １,「画面から視覚的に何を認知・認識する事が出来るか」を即物的に抽出。 ２,「その認知・認識出来る情報から、何についてのテーマを表現しているか」を推測。 添削1回目に於いて重要な事は、「あなたの表現は他者に伝わっていない」「見る側が制作意図と全く違う捉え方をしている」という状況を、まず、学生に理解させる事にあり、返却時に添付される別紙指導書、及び、提出テーマに関する様々な資料をもとに、他者に的確に視覚伝達するために必要な物事の考え方、また、アイデア出しのヒント（ヴィジュアル・グラマー／添削課題用補助教材／別紙指導書／平成18年より配布）などを学ぶ。 添削1回目は殆どの場合、再提出とし、添削２回目以降に於いては、前回提出のアイデアや表現との比較により、表現に進歩性が見受けられた時点で最終提出指示を出す。 以上の教育実践を行う事により、最終提出物のクオリティーの向上、並びに、学生の課題理解に繋がっている。
３）各学生に適切な教科書を授業内で制作させる実践	平成23年4月から現在に至る	奈良産業大学情報学部情報学科の専任講師として担当の「ウェブデザイン基礎／HTML演習」（専門科目/1年次配当/半期/2単位）、「ウェブデザイン／Webサイト開発演習」（専門科目/2年次配当/通年授業/2単位）において、教科書を使用せずに、直接的にウェブサイトデザインを行いながら、「オンデマンド教科書」を制作させる課題を実践している。これは、各学生の理解度やスキルの差により教科書選定が困難な事が理由に挙げられる。そこで、各学生にとって最も適切な教科書は授業内で自ら制作したものであるという実務経験上の判断に基づき、学生自らの教科書を授業内で制作する演習形態を採っている。結果として、学生の理解度やスキルに応じた適切な教材を、授業内で効率良く制作する事が出来ている。
４）自分自身を加工していく楽しさの中で画像処理技術を身に付ける課題の実践	平成23年4月から現在に至る	奈良産業大学情報学部情報学科の専任講師として担当の「デジタル表現入門／画像処理入門」（専門科目/1年次配当/半期/2単位）において「デジタル・デッサン」と題する、自分の顔写真（セルフポートレイト）を用いた画像加工演習を行っている。１年次の最初の授業にてスタジオ撮影した自分自身の顔写真が、授業で毎回、Adbe Photoshopによって加工されていく事により、学生は授業を楽しみながら画像処理の基本的なスキルを身につける事が出来ている。
５）自分自身を再発見していく過程の中でエディトリアルデザインを身に付ける課題の実践	平成23年4月から現在に至る	奈良産業大学情報学部情報学科の専任講師として担当の「情報学演習Ⅰb／情報学ゼミⅡA」（専門科目/2年次配当/半期/2単位）において「マインド・パンフ」と題する自らの紹介を兼ねた、文字組が縦組横組双方向のパンフレット制作を行っている。自らを構成する人や物、子供の頃の思い出、将来の夢などをディスカッション形式でグループ発表し、それらの情報を編集した上で一つの表現物として制作する課題である。制作の過程で、自らの過去と今と将来の追求して行く事により、エディトリアルデザインのスキルを習得するだけでなく、学生の自分自身の再発見に繋がっている。

2　作成した教科書，教材		
1）スクーリング課題用補助教材	平成18年9月から現在に至る	武蔵野美術大学 通信教育学部 デザイン情報学科 コミュニケーションデザインコースの非常勤講師として担当の「グラフィックデザイン基礎1」（専門科目/1年次配当/夏秋期添削課題/必修１単位）に於いて使用している。また、奈良産業大学情報学部情報学科の専任講師として担当の「情報学演習Ⅱ（グラフィックデザイン）」（専門科目/3年次配当/通年授業/必修４単位）にて使用している。内容は以下の通り。 「情報の線分編集」 情報の線的編集、情報の面的編集、情報の立体編集、線分要素の性質について。
2）添削課題用補助教材	平成18年9月から現在に至る	武蔵野美術大学通信教育学部デザイン情報学科コミュニケーションデザインコースの非常勤講師として担当の「グラフィックデザイン基礎2」（専門科目/２年次配当/冬期添削課題/必修1単位）に於いて使用している。また、奈良産業大学情報学部情報学科の専任講師として担当の「情報学演習Ⅱ（グラフィックデザイン）」（専門科目/3年次配当/通年授業/必修４単位）にて使用している。　６項目から構成される教材であり、項目は以下の通り。 1，共通の認識は何かを探る 2，視覚表現に用いる要素の多面的な意味を探る 3，発信側から受信側への表現伝達と理解のプロセスを探る 4，なぜ伝わる？なぜ伝わらない？を探る 5，視覚表現の文法的構造を探る（ヴィジュアルグラマー） 6，参考作品からヒントを得る 付録として国語辞書8万語から選び出したアイデア出しに役に立つ3000語のリストを添付。
3　教育上の能力に関する大学等の評価		
1）特記事項なし		
4　実務の経験を有する者についての特記事項		
1）特記事項なし		
5　その他		
1）特記事項なし		

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
1　資格，免許		
1）特記事項なし		
2　特許等		
1）医療具用容器及び医療キット PCT/JP2009/058679 特願2011-512285	平成21年5月	発明者及び出願人：玉野哲也 外科手術、分娩、その他の医療処置に用いられる医療具を収容する医療具用容器及び医療処置に用いられる医療キットに関する発明。震災などの緊急時に医療対処法を熟知しない者でも、清潔かつ安全に、複数の医療器具を用いて複雑な医療対処を行う事が出来る医療キットを提供する事を目的とした発明。主に緊急時に於ける出産、分娩時の使用を想定。また、清潔な出産、分娩が困難な発展途上国への支援物資としての機能も兼ねる。

3　実務の経験を有する者についての特記事項		
1）fibercity／アートディレクター	平成18年4月から平成20年3月まで	平成18年より、東京大学の大野秀敏研究室（工学部建築科、大学院新領域創成科学研究科）の研究テーマである「fibercity」（縮小する都市に於ける都市計画研究）に、アートディレクターとして参加。 主に院生の研究課題や、研究成果を出版物や展示パネルなどとして発表する際に、グラフィックデザインに於ける基礎を指導、また、デザイン上でのテクニカルアドバイスを行う。また、大学院新領域創成科学研究科の必修科目である「サバイバルシェルター」の課題講評時には講師（オブザーバー）として参加。 制作を行った主な出版物は,「JA63／fibercity」（新建築社）、「シュリンキング・ニッポン」（鹿島出版）。 主な展覧会は、 Shrinking Cities×fibercity @ akihabara(2006/UDX), Hong Kong & Shenzhen Bi-City Biennale Festival of Urbanism Architecture(2007/Hong Kong).
4　その他		
1）「夾竹桃物語―わすれていてごめんね」読書感想絵画・感想文コンクール	平成12年10月から現在に至る	全国の小中学生を対象とした毎年夏に開催される読書感想絵画・感想文コンクール。広島の原爆で亡くなった動植物の命の大切さを再考し、地球環境と平和を考える。コンクールの立ち上げには女優の吉永小百合さんも参加協力。受賞作品は毎年8月6日に広島平和記念資料館にて展示、その後、全国巡回展を行う。平成16年から最優秀賞には文部科学大臣奨励賞を与えている。広報、展示、作品集制作、受賞者と保護者を平和記念式典に招いてのワークショップ、作品審査などの全体的な運営に関わる。事務局代表者：福田昇二（会社社長）。
2）HBP（Hope for Birth Project）	平成19年9月から現在に至る	地場産業と国連との産業/支援スキーム構築。７ヶ月妊産婦への配布を想定した震災等の緊急時に於ける安全で清潔な出産キット（医療キット）の開発と、未使用キット回収及び発展途上国に於けるキット支援プロジェクト。国連によるMDGs（国連ミレニアム開発目標）が目標達成期限の中間にあたる平成19年の段階で、期限内での達成が困難である事が報告された。そこでこの個人研究企画が「市民から国連への提案」としてNPOを通じて国連に提案され（平成20年12月に早稲田大学にて『デザイン現場からの提案』として発表）、それに伴い、企画全体が発展した経緯がある。現在は国連機関、NGO、NPO、地方自治体、企業や個人の協力によって進行しているプロジェクトであり、また、Oliviero Toscani氏も呼びかけに呼応している。 プロジェクトは、NGO、NPO及び日本ユニセフを通じて行われる。プロジェクト内容は、平成21年に、UN:国連/TICAD本部（NewYork）TICAD代表 池亀美枝子氏、国連開発計画：UNDP（Geneva）MDGs担当局長 Adam Rogers 氏によって一定の評価を受け、現在、国連児童基金：UNICEF（NewYork）に、プロジェクトに対する非公式担当者が存在している。　平成23年2月に第2衆議院議員会館にて代議士（前・首相補佐官）に企画プレゼンテーションを行い、現時点でプロジェクトへの協力を取り付けている。 制作した支援キットは特許出願中。 (商標登録5169915号,意匠登録134803号6,特願2011-512285,PCT/JP2009/058679)
3）ことのはこプロジェクト	平成21年5月から現在に至る	独立行政法人中小企業基盤整備機構、越中越後越前の地場産業「越の国倶楽部」、弁護士チームとの連携による玉野哲也の発案企画である「遺言書保存箱～ことのはこプロジェクト」。地場産業の製造販売流通スキーム、及び遺言書に於けるデータ管理サービスシステムの構築。 （商標に於ける役務の区分（第16類）内での指定役務、新定義の確立「遺言書保管箱・遺言書管理箱」登録5271038号）

研　究　業　績　等　に　関　す　る　事　項				
著書，学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所，発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　要
（著書）				
特記事項なし				
（学術論文）				
特記事項なし				
（その他）				
特記事項なし				

［注］

1 最近10年間の教育活動、研究活動について作成すること。

2 「教育活動」については、各項目ごとに年月日順に、「学会等および社会活動」については、就任年月日順に記入すること。

3 「研究活動」については、下記の点に留意すること。

① 著書・論文及びその他の順に、発表年月日順に記入すること。

② 著者が複数にわたる場合で、筆頭著者が著書・論文等において明示されている場合には、その氏名に◎印を付すこと。

③ 共著（論文）の場合、「該当頁数」の記入にあたっては、本人の分担箇所を特定できる場合は、その頁数を記載すること。

④ 最近10年間に著書・論文等の発表のなかった者についても、教員名を挙げてその部分を空欄にしておくこと。

⑤ 芸術分野や体育実技等の分野を担当する教員については、著書・論文等以外の競技会、展覧会または演奏会等での発表のうち、特に顕著な業績と認められるものについても記載すること。このほか、専門分野の特性を 考慮し、顕著な業績と認められるものがある場合もこれに含めてもよい。

教　育　研　究　業　績　書

平成26年3月31日

氏名　　羽太　広海

研究分野	研究内容のキーワード
メディア芸術	コンピュータグラフィックス、インタラクティヴアート、アニメーション、地域アートプロジェクト

教育上の能力に関する事項

事項	年月日	概要
1　教育方法の実践例		
1）国際映画祭への学生参加による教育実践	平成24年8月	奈良産業大学情報学部情報学科の専任講師として担当している「情報学演習Ⅲ」において、自身がプロジェクト実行委員として活動している広島国際アニメーションフェスティバルに学生を参加させた。国内外の一流の作家や作品に触れる機会となり、国際コンペティションという場の雰囲気を実際に肌で感じることができた。学生は自らの視野を広げることができ、目標となる将来の希望や意欲の増進を得ることができた。自身が運営するプログラムにおいて、ウォルト・ディズニー社のアニメーターMATSUNE SUZUKIさんと人材開発のディレクターDawn Rivera-Ernsterさんを招き開催したワークショップでは、ウォルトディズニーの現場での制作ノウハウを学ぶ貴重な機会となり学生にも大変好評であった。また、制作会社や配給会社などの業界関係者が集まる場でもあるので、作品を持参した学生が企業の方と交流することで、その後の就職活動につながる出会いもあった。
2）プレゼンテーションと作品発表の実践教育	平成24年6月 平成24年8月	奈良産業大学情報学部情報学科の専任講師として担当している「情報学演習Ⅲ」において制作した学生作品を、公開の場で学生自身がプレゼンテーションするよう指導を行った。広島国際アニメーションフェスティバルにおいて、「プロを目指す若者のための、持ち込み作品上映と情報交換の場」で、作品の上映とプレゼンテーションを行った。また、奈良県立図書情報館で行われた「佐保川の春 音楽の日・アートの日」におけるプログラム、奈良の表現者たちによるプレゼンテーション大会「omote-butai」において、作品の上映とプレゼンテーションを行った。社会経験の乏しい学生が人前で発表する機会を増やすことで、その技術の向上を支援する。また、アニメーション制作の専門家やプロのデザイナーからの助言や指導は貴重であり、本人の意欲や反省など作品の客観的な評価につながった。
3）SNSを利用した学生指導	平成23年4月～現在	奈良産業大学情報学部情報学科の専任講師として担当している「情報学演習Ⅱ」「情報学演習Ⅲ」において、Facebookのグループ機能を利用して学生指導を行った。授業の諸連絡をはじめ、コンテスト情報や見ておくべき企画展の情報、関連技術のニュースなど、最新の動向をリアルタイムで、その都度もれなく発信することができた。今や学生は皆スマートフォンなどの情報端末を所持しており、校内の掲示板に貼り出すよりもアクセスの利便性が高い。また、学生との間で直接コミュニーケーションすることで、個々の学生へのきめ細かい対応を行うことができた。

４）向上心の高い学生に対しての特別授業の開設	平成24年6月～現在	奈良産業大学情報学部情報学科においては、ほとんどが美術教育を受けたことのない学生である。コンピュータグラフィックでの作品制作においてアイデアと技術があるものの、デッサン力がないために作品の質が向上しない例が多々あった。そこで、全体の底上げのため、新たに石膏像やイーゼルを配置した自由に利用可能なデッサン教室を構築し、技術的な指導と共に意欲ある学生が学べる環境を提供した。
５）プロジェクト室によるCG制作環境の整備と指導	平成23年4月～現在	奈良産業大学情報学部情報学科の専任講師として担当している「情報学演習Ⅱ」「情報学演習Ⅲ」において、授業とは別に学生が自由に利用できるプロジェクト室の整備を行った。プロジェクト室には、MAYAやPremier、Photoshopなどの制作に必要なソフトと、３次元コンピュータグラフィックスには不可欠なレンダリングを高速に行えるコンピュータを配備し、学生が思う存分制作に没頭できる環境を提供した。自身の研究室のすぐ隣に置くことで、制作中に生じた学生の質問や意見は積極的に聞きにくるよう指導し、進捗の確認とともにきめ細かい指導を行うことができた。学生も意欲的に利用し、授業がない日にも登校し、作品の制作に勤しむ姿が見られ、結果、海外のコンテストに入賞した作品や、就職活動でCGプロダクションの就職につながる作品を制作することができた。
２　作成した教科書，教材		
１）講義用補助教材「CG概論」	平成15年4月～平成21年3月	学校法人東京工学院専門学校の専任講師として担当した１年次配当の専門科目「CG概論」において、CGアニメーションにおける映像表現の方法論のプリントを作成し配布した。CG、映像表現を初めて学ぶ学生に対して、画面構成をする上での基本事項を盛り込み、黄金比による画面構成から、CGの歴史、重要先行作品の解説、絵画、美術、現代アートからの影響、ミニマルアートからの影響、国際映画祭、コンペティションの入賞作品を解説する内容とした。アイデア、企画、絵コンテを作成する上で重要な内容を盛り込み、加えて国内の学生コンテストの近況を紹介し、コンテストへのチャレンジを促す内容とした。
２）講義用補助教材「CG実習Ⅰ」「CG実習Ⅱ」	平成15年4月～平成21年3月	学校法人東京工学院専門学校の専任講師として１年次配当の専門科目「CG実習Ⅰ」において、CG制作アプリケーションMAYAを活用し、CG制作の初心者がモデリングを行う際に手際よく作業を進めることができる手順を簡潔に示した補助教材を作成した。通常モデリングの習熟には半年ほど掛かるが、三ヶ月ほどでモデリング技術を習得できるよう工夫した。「CG実習Ⅱ」の補助教材はマテリアル設定及び、ライティング設定に関する作業手順の習熟を図る内容とし、美しいレンダリングを効率よく行い仕上げる能力を習得できるようにした。
３）講義用補助教材「情報学演習Ⅱ」（CG制作技術）	平成23年4月～現在	奈良産業大学情報学部の専任講師として担当した３年次配当の専門教育科目「情報学演習Ⅱ」（3年次ゼミ）において、CGモデリングを行う際に有効なメルスクリプトのConnect Poly Shapeを用いたモデリングの資料、ならびに、高度なレンダリングを行う為のマテリアル設定及びライティング設定に関する資料を配布した。モデリングの技術レベルを向上させるために活用し、短期間にモデリングできる能力の習得を意図した。CG制作技術を学び始めたばかりの学生でも、動植物などの有機的なモデリングを効率よく行い、きめ細かいレンダリングによって作品の完成度を上げる技術が習得できるようにした。

4）講義用補助教材「情報学演習Ⅱ」（映像表現）	平成23年4月～現在	奈良産業大学情報学部の専任講師として担当した３年次配当の専門教育科目「情報学演習Ⅱ」（3年次ゼミ）において、CGアニメーションにおける映像表現の方法論に関する資料を作成し、配布した。黄金比による画面構成、CGの歴史、重要先行作品の解説、ミニマルアートからの影響、国際映画祭・コンペティションの入賞作品の解説などを含む内容とした。アイデアから企画を練り上げ、絵コンテを作成する上で重要なポイントを盛り込み、加えて国内の学生CGコンテストの近況を紹介し、コンテストへのチャレンジを促す内容とした。
5）講義用補助教材「情報学演習Ⅲ」	平成24年4月～現在	奈良産業大学情報学部の専任講師として担当した4年次配当の専門教育科目「情報学演習Ⅲ」（4年次ゼミ）において、植物の成長を表現するようなCGアニメーションの制作に関する資料を配布した。卒業制作作品に高度なアニメーション技術を盛り込む為、植物や雲などの生成シーケンスを活用できるように工夫をこらした。学生が卒業制作にこの生成シーケンスを活用し、作品の充実を図れるよう配慮した。
6）講義用補助教材「マルチメディア演習」	平成23年4月～現在	奈良産業大学情報学部の専任講師として担当した２年次配当「マルチメィア演習」において、Flashアニメーション制作の基礎技術として、ドローツールを利用した描画方法に関する資料を作成した。加えて、スケルトンツールを利用したキャラクターアニメーションの制作技術に関する資料も作成し、キャラクターの動きを追求するアニメーション制作に取り組めるよう意図した。さらに最終的なアニメーションシーンの構築を行う為の手順を記した。レイヤー構造とオブジェクトの配置、３D回転アニメーション、サウンドの配置等について解説し、アニメーションを完成させることを目指した。
7）講義用補助教材「マルチメディア表現」	平成24年4月～現在	奈良産業大学情報学部の専任講師として担当した２年次配当の専門教育科目「マルチメディア表現」において、Flashアニメーションの制作方法に加えて、映像編集アプリケーション「iMovie」及びサウンド制作アプリケーション「GarageBand」を取り扱うための資料を作成した。「GarageBand」の簡易作曲機能を利用することによって、Flashアニメーションにオリジナルのサウンドを加える事が可能となる。既成曲を利用するのではなく、サウンドに対してもオリジナリティーを意識して作品制作に臨むことを意図した。
8）講義用補助教材「映像制作演習」	平成24年4月～平成25年3月	奈良産業大学情報学部の専任講師として担当した3年次配当の専門教育科目「映像制作演習」において、ストップモーションアニメーションを撮影する為の方法を記した資料を作成し配布した。デジタル一眼カメラの絞り、感度、シャッタースピードの管理、フルHDフォーマットでの撮影等を解説し、初心者の学生でも、PCからのリモート撮影によるコマ撮り撮影を効率よく進めていけるよう意図した。
9）講義用補助教材「情報学実験応用Ⅱ」	平成24年9月～現在	奈良産業大学情報学部の専任講師として担当した２年次配当の専門教育科目「情報学実験応用Ⅱ」において、モーションキャプチャの資料を作成し、毎回の授業で配布した。Kinectセンサーによる被験者運動情報の取得方法と、取得したモーションデータの活用事例を示した。授業内で取得したモーションデータを人体のCGアニメーションとして再構築する方法を解説し、学生自ら活用方法を考えさせるヒントを示すことで、授業に積極的に取り組める内容とした。
3　教育上の能力に関する大学等の評価		
1）奈良産業大学生による授業評価アンケートにおける評価	平成24年度	奈良産業大学では、担当科目の一部で学生による授業評価アンケートを実施している。アンケート結果によると、受講生の満足度は「マルチメディア表現」で64点、「映像制作演習」で70点と、比較的高く評価されている。（「満足」を100点、「やや満足」を66点、「やや不満」を33点、「不満」を０点とした100点満点の重み付き平均）

４　実務の経験を有する者についての特記事項		
１）第13回広島国際アニメーションフェスティバル・アニメーションクリエイター支援事業　ワークショップ「コンピュータ・アニメーション・メーキングワールド」講師 （支援：文化庁メディア芸術人材育成支援事業）	平成22年8月7日 ～ 平成22年8月11日	第13回広島国際アニメーションフェスティバルのワークショップ「コンピュータ・アニメーション・メーキングワールド」（文化庁メディア芸術人材育成支援事業）にて、アニメーション制作アプリケーション「PICMO」を利用したコンピュータアニメーション制作のワークショップを企画し開催した。広く一般の来場者や親子連れ、地域住民など、普段アニメーション制作に触れる機会のない人でも制作できるよう工夫し、ドローツールで描画した絵に動きを付けアニメーションさせる楽しみを味わえる内容とした。制作したアニメーションは広島国際アニメーションフェスティバル関連のWebに掲載し、本ワークショップの制作作品として広く発表し、多くの人々が鑑賞できる場をつくり出して提供した。
２）三郷町立三郷北小学校教員研修会「パソコンを活用した映像編集」講師「再掲」	平成23年8月8日	三郷町立三郷北小学校の教員に対し、教員研修会を実施した。「パソコンを活用した映像編集」を担当し、Windowsの基本アプリケーションを利用した映像編集の方法を中心に演習形式で展開した。家庭用DVカメラでの撮影を想定し、iLinkを用いて映像をパソコンへキャプチャーする方法、Windowsムービーメーカーによるカット割り編集、タイトル、エンドーロールの作成等、小学校教員が学校行事を記録する際に活用できる内容とした。デジタルビデオカメラを用いて実際に撮影を行い、DVDへ記録する作業を体験させることで、実践的な映像制作技術を習得させる研修とした。
３）大和郡山市立筒井小学校教員研修会「初心者向けパソコン入門」講師「再掲」	平成23年8月12日	大和郡山市立筒井小学校の教員に対し、教員研修会を実施した。「初心者向けパソコン入門」として、Windows7の基本操作を扱った。テキストエディターの使い方、ファイル形式、ファイルのコピー、圧縮・解凍、画像ファイルの観覧等について演習形式で展開した。加えて、Googleを活用したインターネット検索についても触れ、テキスト検索、画像検索、ルート検索、ストリートビューの使い方を学び、小学校教員にとって必要なITスキルを学べる受講内容とした。
４）準デジタル・アーキビスト資格取得講座「巻物画像の接続」講師「再掲」	平成23年8月8日	画像編集ソフトのPhotoshopを使って文化財をデジタル情報化する方法を実習形式で展開した。長い巻物を数回に分けてスキャンした画像をコンピューター上で繋ぎあわせ、実際の巻物と見間違えるようになるまで加工を繰り返しす行程を行った。受講者は自然に繋ぎあわせる方法を工夫しながら作業を進める受講内容とした。
５）高大連携教育会・奈良県立奈良朱雀高等学校「ストップモーションアニメーションの制作」講師「再掲」	平成23年9月13日	奈良県立奈良朱雀高等学校情報ビジネス科の生徒37名に対し、高大連携教育として「ストップモーションアニメーションの制作」を実施した。ビデオカメラをPCから操作し、一コマづつ撮影する「コマ撮り」の手法を用い、人形アニメーションとピクシレーションの技法を実習形式で体験できるプログラムとした。撮影台を利用した人形アニメーションを制作する３グループと、スタジオで人物の撮影をするピクシレーションの３グループに別れ、各々のグループが短編アニメーションを完成させた。
６）和歌山県立日高高等学校「コンピュータグラフィックス講座」講師「再掲」	平成24年3月6日	和歌山県立日高高等学校の2年生を対象とした大学授業体験の出張講義として企画され、コンピュータグラフィックスを紹介する講義を行うとともに、モーションキャプチャを体験する授業を担当した。「Kinectセンサー」を利用した簡易モーションキャプチャーシステムを教室に設置し、受講者に被験者となってもらい、被験者運動情報の取得と3DCGアニメーションへの応用過程を解説した。加えて、CGアニメーションの制作過程を紹介し、人の動きを活用して3DCGのスケルトン（骨格）を制御する方法について解説した。

７）大和郡山市立筒井小学校教員研修会「Windows7環境でのファイル操作・基礎実習」講師	平成24年8月9日	大和郡山市立筒井小学校教員に対し、教員研修会を実施した。「Windows7環境でのファイル操作・基礎実習」として、Windows7の基本操作を扱った。テキストエディターの使い方、ファイル形式、ファイルのコピー、圧縮・解凍、画像ファイルの観覧等について演習形式で展開した。また、Mac等、異なったOS上でファイルを開くための保存形式などについても解説した。更にGoogleを活用したインターネット検索についても触れ、テキスト検索、画像検索、ルート検索、ストリートビューの使い方を解説した。
８）高大連携教育会・奈良県立奈良朱雀高等学校「Flashアニメーションの制作」講師	平成24年9月11日	奈良県立奈良朱雀高等学校情報ビジネス科の生徒40名に対し、高大連携教育としてWebコンテンツやアニメーション制作に活用されるAdobe Flashを用いた「Flashアニメーションの制作」を実施した。ペンツールを利用した独特のドロー描画方法を紹介した。オニキススキンやモーショントゥイーンなどによって、描画した絵をアニメーションさせる技法を用い、絵に動きを付けた。加えてスケルトン（骨格）によるキャラクターアニメーションも紹介し、オブジェクトを変形させる方法を習得させた。最終的に短編アニメーションを完成させた。
９）第一学院高等学校奈良校教育実習「モーションキャプチャを使ってボーカロイドを動かしてみよう」講師	平成24年11月9日	第一学院高等学校奈良校の３年生を対象とした大学授業体験の出張講義として企画され、モーションキャプチャを体験する授業を担当した。「Kinectセンサー」を利用した簡易モーションキャプチャーシステムを教室に設置し、受講者に被験者となってもらい、被験者運動情報の取得と3DCGアニメーションへの応用過程を解説した。加えて、CGアニメーションの制作過程を紹介し、人の動きを活用して3DCGのスケルトン（骨格）を制御する方法について解説した。
１０）京都造形芸術大学通信教育部 特別公開講義「映像とインタラクション」講師	平成25年3月10日	京都造形芸術大学通信教育部主催の特別公開講義の講師として「映像とインタラクション」の題目で講義を行った。「Kinectセンサー」「プロジェクションマッピング」を利用したインタラクティヴアートの制作方法を解説した。その具体的な作品例として、「奈良町家の芸術祭HANARART2013」で展示した作品「波紋の蚊帳」「光の染め物」２点を紹介した。奈良の地場産業である「奈良晒」を用いた「蚊帳」をスクリーンにみたて「プロジェクションマッピング」を用いたインタラクティヴインスタレーション作品の解説を行った。また、キュレーターとして、地域NPO団体とどのような関わり方で地域アートプロジェクトや展覧会を作り上げたかを紹介した。指定文化財である町家の会場は釘等の使用が不可能で、歴史的建造物を破損することができない。このような難しい状況で町家と現代アート作品をどのように調和させたかという具体的な事例を紹介した。
１１）カンボジア・香港短期研修　担当教員	平成25年2月13日 ～ 平成25年2月25日	カンボジア・メコン大学と香港・城市大学専上学院への短期研修において引率教員として関わった。研修前には、現地の風土・食・思想・歴史などを学ぶ事前指導を行い、研修中は現地の学生とともにフィールドワークを行った。帰国後は研修内容のレポート冊子作成、国際交流の経験と成果をまとめる指導と研修報告会を行った。本研修は国際交流、人材育成の面で、学生たちにとって大変有意義なものであった。

５　その他		
１）学校法人東京工学院専門学校の専任講師としての教育実績	平成15年4月～ 平成21年3月	「ＣＧ実習１」「ＣＧ実習２」において、AliasMayaを活用したアニメーション制作指導を行った。作品のテーマと芸術性を重視した指導方針を実践し、コンテストへの積極的な応募を奨励した。自身の担当授業だけでなく、他の授業との連携をコーディネートし、チームティーチングの体制を整えた。その結果、学生の作品の完成度が向上し、コンスタントに様々なコンテストで受賞する状況となった。 以下、指導の結果として担当学生のコンテスト受賞実績を列記する。 ＜平成15年度＞ (1) 文化庁メディア芸術祭学生CGコンテスト 最終選考ノミネート 「Solid Puzzle」土屋裕志 (2) 東レ・デジタル クリエイション アワーズ (DCA) 入選 「深海の晩餐」溝口圭太 (3) サーティファイグランプリ2004　デジタルアート部門 優秀賞 「深海の晩餐」溝口圭太 (4) ひょうご“IT&A″学生グランプリ2003　シニア・動画部門 優秀賞 「Cube」大坐畠和己、溝口圭太 (5) ひょうご“IT&A″学生グランプリ2003　シニア・静止画部門 優秀賞 「深海の晩餐」溝口圭太 (6) デジタルコンテンツグランプリ東北2004 部門賞 「Order」溝口圭太
２）学校法人東京工学院専門学校の専任講師としての教育実績（続き）	平成15年4月～ 平成21年3月	＜平成16年度＞ (7) JGASCG-ART展 動画部門 佳作 「OASIS」山原康寛 (8) JGASCG-ART展 静止画部門 佳作 「Tokyo Color」榎本江里 (9) アジアデジタルアート大賞 カテゴリーB 静止画部門 優秀賞 「organic」川島ゆかり (10) アジアデジタルアート大賞 カテゴリーB 静止画部門 優秀賞 「針鏡世界」久保田淳 (11) アジアデジタルアート大賞 カテゴリーB 動画部門 佳作 「命、張ってます」中野悠 (12) 学生デジタルコンテスト 大学部門 最優秀賞 「MOB RULE」溝口圭太、山原康寛 (13) 学生デジタルコンテスト 大学部門 推薦賞 「Absolute Regel」大坐畠和己・塩沢昌也

		＜平成17年度＞ (14) ユナイテッドシネマ CGアニメーションフィルムフェスティバル 最終選考ノミネート 榎本江里・篠原敦子 (15) 文化庁メディア芸術祭 CG-ARTS協会主催 第11回学生CGコンテスト 最終選考ノミネート 「moment-life-air-move」川島ゆかり ＜平成18年度＞ (16) アジアデジタルアート大賞 カテゴリーB 静止画部門 入賞「GOSHIKI」黒崎恭平 ＜平成19年度＞ (17) 文化庁メディア芸術祭 CG-ARTS協会主催 第13回学生CGコンテスト 静止画部門 佳作入賞 「井戸」古谷理沙 (18) アジアデジタルアート大賞 カテゴリーB 静止画部門 入賞 「井戸」古谷理沙 (19) アジアデジタルアート大賞 カテゴリーB 静止画部門 入賞 「1から10の階段」淡路遼介 ＜平成20年度＞ (20) 文化庁メディア芸術祭 CG-ARTS協会主催 第14回学生CGコンテスト 静止画部 最終選考ノミネート 「透明人間」鈴木麻里乃 (21) アジアデジタルアート大賞　カテゴリーB　静止画部門 入賞 「無題」横塚啓太 (22) アジアデジタルアート大賞 カテゴリーB 静止画部門 入賞 「chaos～顔す～」松本 昂 (23) アジアデジタルアート大賞 カテゴリーB 静止画部門 入賞 「4色の湖」唐澤祐人

３）奈良産業大学情報学部の専任講師としての教育実績	平成23年4月～ 現在に至る	奈良産業大学情報学部の専任講師として、以下の科目を担当した。 「映像制作演習」 コマ撮りアニメーションの制作演習を行った。撮影にはデジタル一眼カメラを活用し、PCでのリモート撮影を行い、画像精度を上げる制作指導を行った。学生は、何枚もの絵が連続して動く絵になるという、アニメーションの基本的な仕組みを理解することができ、次年度の３次元コンピューターアニメーションへの取り組みへの足がかりにもなった。受講した学生には、最終的に各自オリジナルの作品を提出することを求めたので、受け身ではなく、自ら作業を楽しみながら意欲的に取り組む姿勢がみられるようになった。 「マルチメディア演習」 Webコンテンツ作成ソフト、AdobeFlashを活用した制作演習を行った。オニキススキン、モーショントゥィーン、スケルトン等の技法を活用し、アニメーション制作指導を行った。Webコンテンツのアニメーションを作成する業界標準のソフトウエアの基本的な技能と、スケッチからコンテンツを書き出し公開する形にするまでの手順を習得させることができた。本科目は、平成24年度より「マルチメディア表現」に改名された。 「情報学実験応用Ⅱ」 Kinectセンサーによる被験者運動情報の取得と、取得データによるモーションキャプチャデータの人体モデルへの適用を演習形式で行った。人体モデルには学生がよく知るアニメのキャラクターを採用し、センサーによる情報取得という無味乾燥な内容を、学生が興味を持ち感覚的に入り込みやすいよう工夫した。センサーを使用したコンピュータグラフィックスの応用方法や活用方法を習得することができた。市販の情報機器を組み合わせることで多様な表現ができることを知り、受け身ではなく何かを生み出したいという欲求と創造力を培うことができた。 「情報学演習Ⅱ」 ３年次配当の専門教育科目であり、卒業制作を意識した課題に取り組む演習形式の授業である。前半はAliasMayaの基本操作を学び、後半は各自作品のテーマを決め、制作に入る。作品のテーマと芸術性を重視した指導方針を実践し、コンテストへの積極的な応募を奨励した。就職活動を意識したポートフォリオ作成の指導も合わせて行った。平成25年度より「情報学ゼミⅢ」に改名された。 「情報学演習Ⅲ」 ４年次配当の専門教育科目であり、上記の「情報学演習Ⅱ」をうけて卒業制作に取り組み、完成させる授業である。 以下、「情報学演習Ⅱ」及び「情報学演習Ⅲ」の指導の結果として担当学生のコンテスト受賞実績を明記する。 ＜平成24年度＞ （英国）EAST-WEST ART AWARD COMPETITION 2012 Video/Animation部門 ファイナリスト展参加 ベストスチューデント賞「Soul of Gray」楊暁東

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
１　資格，免許		
１）中学校教諭一種免許状（美術）	平成8年3月	平８中１第１２２３３号（東京都教育委員会）
２）高等学校教諭一種免許状（美術）	平成8年3月	平８高１第１２２３５号（東京都教育委員会）

２　特許等		
なし		
３　実務の経験を有する者についての特記事項		
４　その他		
１）図書館運営委員	平成23年4月～平成24年３月	図書館運営委員として学生用推薦図書の選書を行った。また、県立奈良図書情報館より依頼のあった選書協力、情報学部における取りまとめを行った。
２）オープンキャンパス実行委員	平成23年4月～平成24年３月	オープンキャンパス実行委員として学部紹介、模擬授業、キャンパスツアーの円滑な進行に取り組んだ。また「モーションキャプチャとCGアニメーション」と題した模擬授業を担当した。
４）情報センター運営委員	平成23年4月～平成24年３月	奈良産業大学の情報機器やネットワークの管理・運用に関する問題を検討し、情報センターの職員とともに解決に向けて取り組んだ。
５）ホームページ企画実行委員長	平成24年4月～平成25年３月	ホームページ企画実行委員長として奈良産業大学公式サイトのリニューアルに取り組んだ。サイトトップのFlashアニーションの刷新によるクオリティーアップを計った。トップページのデザイン変更（学生の顔が見え、ホスピタリティーのある公式サイトへ）、サイト階層の見直しによる重要情報へのアクセス、クリックを減らす改善をした。オープンキャンパス情報への動線の変更、アクセス解析による来訪者の動的な来訪動向の確認。新規セッション（来訪者）のUPに向けた対策に取り組んだ。前年度と比較し、一年を通じて一割り程の来訪者の増加が確認された。
６）学生委員会・学生支援センター委員	平成25年４月～現在	三室祭におけるイベント等における、各団体の出演者手配の紹介、企画等のサポートを行った。

研究業績等に関する事項				
著書，学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所，発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（著書）				
なし				
（学術論文）				
1）CGとセンサー、奈良晒、蚊帳生地を用いたインタラクティブアート	単著	平成25年2月	奈良産業大学情報学部「情報学フォーラム紀要」第８巻，5-14	「奈良町屋の芸術祭HANARART2012」で発表したインタラクティブアート作品、「Dye in the particle 光の染物」「Mosquito net Ripples 波紋の蚊帳」の紹介を通して、テクノロジーとアートの新しい表現方法を提示し、CGとKinectセンサー、サウンドと地域の伝統産業の「奈良晒」を組み合わせた作品事例と方法について述べた。加えて「プロジェクションマッピング」を活用した蚊帳への映像投影方法を解説した。また、キュレーターとして、地域NPO団体とどのような関わり方で地域アートプロジェクトや展覧会を作り上げたかを紹介した。指定文化財である町家の会場は釘等の使用が不可能で、歴史的建造物を破損することができない。このような難しい状況で町家と現代アート作品をどのように調和させたかという具体的な事例を取り上げ論じた。
2）問題解決型の地域アートプロジェクト、文化・コミュニケーションの現状と課題「広島国際アニメーションフェスティバルと奈良町家の芸術祭HANARARTから」	単著	平成25年2月	奈良産業大学情報学部「情報学フォーラム紀要」第８巻，15-32	広島国際アニメーションフェスティバル、奈良町家の芸術祭HANARART、国際映画祭、地域アートプロジェクト等を企画運営し、また自らのアート作品を提供してきた。その経験にもとづき、アートを活用した地域振興、地域活性化の難しさと問題点を、作家の立場と運営企画の立場という二つの視点から、それぞれ対比させ比較検討を行った。観光資源、ツーリズムとして付加価値を持たせ相乗効果を狙った地域アートプロジェクトが数多く開催されているが、価値観、期待値の異なる関係者には文化的な共通理解を見いだす困難が存在することを明らかにした。加えて、アートプロジェクトを介したコミュニケーションの限界性を述べた。
3）メディアアートにおけるコンピュータグラフィックスとサウンドの設計、ミニマリズムを中心として	単著	平成25年4月	「奈良産業大学紀要」第29集，77-87	メディアアートにおけるコンピュータグラフィックスとサウンドについての関係性を、ミニマルアート、ミニマルミュージックとの対比を交え、創作の可能性について論じた。メディアアート作品を制作するうえで、コンピュータグラフィックスとサウンド、インタラクションを統合的に設計することは作品の総合性を高めるうえで、とても有効な手段である。五感に訴えかけることがメディアアートの趨勢となってきており、統合された制作環境の構築、重要性について解説した。加えてKinecセンサー、Quartz Conposer、DTMアプリケーション等を用いたシステムの構築と、総合的にメディアアート作品を組み上げる方法を論じた。
（その他）				
「受賞作品」				
1）神戸ビエンナーレ2013「アート イン コンテナ」国際コンペティション	共同	平成25年10月	神戸市メリケンパーク（神戸市中央区）	神戸ビエンナーレ2013「アート イン コンテナ」国際コンペティション　奨励賞 輸送用コンテナの特性を活かし、平面・立体・映像・インスタレーション、さらには伝統芸術やインタラクティブ・アートなど、自由な発想と方法でアートの力と可能性を追求する現代アートの国際コンペティションにおいて、CGとセンサーを用いたインタラクティヴアートで入選となった。 羽太広海　羽太祐子

（その他）				
「展覧会・発表作品」				
１）３ＤＣＧアニメーション「Distortion」 第１０回広島国際アニメーションフェスティバル・現代日本のアニメーション	共同	平成16年8月	アステールプラザ（広島県広島市）	第１０回広島国際アニメーションフェスティバルの、今日の日本のアニメーション制作者による優秀作品を特集して上映するプログラム「現代日本のアニメーション」において、自身の作品である３ＤＣＧアニメーション「Distortion」が上映された。
２）インタラクティヴアート「Draw a Firefly 蛍」 奈良産業大学　情報学部若手研究者の会	単独	平成23年9月	奈良産業大学スタジオ（奈良県生駒郡）	奈良産業大学　情報学部若手研究者の会においてProcessingよるCGとクラフト素材、作曲したサウンドを複合的に組み合わせたインタラクティヴアート「Draw a Firefly 蛍」を展示発表した。
３）インタラクティヴアート「Dye in The particle・光の染物」 第１４回広島国際アニメーションフェスティバル・ASIFA-Japan３０周年記念展示	単独	平成24年9月	アステールプラザ（広島県広島市）	1981年に設立した国際アニメーションフィルム協会日本支部（ASIFA-JAPAN）の、３０周年記念イベントとして開催されたＡＳＩＦＡ－ＪＡＰＡＮ会員の活動を紹介する展覧会において、自身の作品であるKinectセンサー、Quartz ComposerによるCG、サウンドを用いた体験型インタラクティヴアート「Dye in The particle・光の染物」の展示を行った。
４）奈良・町屋の芸術HANARART2012	共同	平成24年11月	まちや館（奈良県五條市）	奈良の町家を現代アートで彩るという、地域型アートプロジュエクト「奈良・町屋の芸術祭HANARART2012」において、五條新町まちや館会場のキュレーター兼出展作家として参加。キュレーターとして歴史的な町家建築や開催地域のサイトスペシフィックを意識した展示の企画立案を行う。また、作家としてKinectセンサーとQuartz ComposerによるCG、サウンドを使用した体験型インタラクティブアート「Dye in The particle・光の染物」「Mosquito net Ripples 波紋の蚊帳」「Swimming Words 泳ぐ言葉」の３作品を展示した。 （主催：奈良・町屋の芸術祭HANARART2012実行委員会、共催：奈良県） 羽太広海　羽太祐子
５）Art Space 金魚空間	単独	平成25年1月	Art Space 金魚空間（台湾台北市）	台湾台北市大同區承德路にある企画画廊「Art Space 金魚空間」において、Kinectセンサー、Quartz ComposerよるCG、サウンドを作曲し複合的に用いた体験型インタラクティヴアート「Mosquito net Ripples 波紋の蚊帳」の展示を行った。
６）奈良・町屋の芸術HANARART2013	共同	平成24年9月	奈良町物語館（奈良県奈良市）	奈良の町家を現代アートで彩るという、地域型アートプロジュエクト「奈良・町屋の芸術祭HANARART2013」において、奈良町物語館におけるプレイベント企画展としてインタラクティヴ映像展を開催した。歴史的な町家建築や開催地域のサイトスペシフィックを意識した展示の企画立案を行う。また、作家としてKinectセンサー、LaepMotionセンサー、Quartz Composer、ProcessingによるCG、サウンドを使用した体験型インタラクティブアート「Dye in The particle・光の染物」「Mosquito net Ripples 波紋の蚊帳」「Swimming Words 泳ぐ言葉」「触覚の可能性」の4作品を展示した。 （主催：奈良・町屋の芸術祭HANARART2013実行委員会、共催：奈良県） 羽太広海　羽太祐子

7）神戸ビエンナーレ2013「アート イン コンテナ」国際コンペティション	共同	平成25年10月	神戸市メリケンパーク（神戸市中央区）	神戸ビエンナーレ2013「アート イン コンテナ」国際コンペティション 輸送用コンテナの特性を活かし、平面・立体・映像・インスタレーション、さらには伝統芸術やインタラクティブ・アートなど、自由な発想と方法でアートの力と可能性を追求する現代アートの国際コンペティションにおいて、CGとセンサー、サウンドを用いたインタラクティヴアートでと奨励賞なった。 羽太広海　羽太祐子
「CD発表」				
1）didgeridoo roccai「Breath Language Communication」	共同	平成23年3月	jomon setp recordings	ディジュリドゥ奏者roccaiによるCDアルバムに楽曲を提供した。作曲、編曲、演奏を担当した。オーストラリアの民族楽器にDTMよる作曲をを組み合わせたポピュラーミュージックである。作曲を担当するとともに民族楽器以外の全ての楽器を演奏し、DTMアプリケーションを活用し制作した。
（その他）				
「国際映画祭の委員」				
1）第１２回広島国際アニメーションフェスティバルプロジェクト委員	共同	平成20年8月	アステールプラザ（広島県広島市）	第１２回広島国際アニメーションフェスティバル （主催：広島市、共催：国際アニメーションフィルム協会日本支部、公認：国際アニメーションフィルム協会） アヌシー、オタワ、ザグレブと並ぶ世界4大アニメーションフェスティバルの一つである国際的映画祭において、プロジェクト委員として携わる。映画祭における企画のなかでパネルディスカッションの司会（羽太広海）も務めた。 パネラー：ラオ・ヘイドメッツ（エストニアアニメーション監督、タトゥル美術大学）、相原信弘：アニメーション作家（京都造形大学教授）、西本企良（アニメーション作家、武蔵野美術大学教授）
2）第１３回広島国際アニメーションフェスティバルプロジェクト委員	共同	平成22年8月	アステールプラザ（広島県広島市）	第１３回広島国際アニメーションフェスティバル （主催：広島市、共催：国際アニメーションフィルム協会日本支部、公認：国際アニメーションフィルム協会） アヌシー、オタワ、ザグレブと並ぶ世界4大アニメーションフェスティバルの一つである国際的映画祭において、プロジェクト委員として携わる。
3）第１３回広島国際アニメーションフェスティバル文化庁メディア芸術人材育成支援事業　「コンピュータ・アニメーション・メイキングワールド」の企画、運営	共同	平成22年8月	アステールプラザ（広島県広島市）	第１３回広島国際アニメーションフェスティバル期間中、文化庁メディア芸術人材育成支援事業「コンピュータ・アニメーション・メイキングワールド」の企画、運営を行う。アニメーションソフト「PICMO」等を利用したアニメーション制作体験を企画し、実施した。
4）第１４回広島国際アニメーションフェスティバルプロジェクト委員	共同	平成24年8月	アステールプラザ（広島県広島市）	第１４回広島国際アニメーションフェスティバル （主催：広島市、共催：国際アニメーションフィルム協会日本支部、公：認国際アニメーションフィルム協会） アヌシー、オタワ、ザグレブと並ぶ世界4大アニメーションフェスティバルの一つである国際的映画祭において、プロジェクト委員として携わる。

５）第１４回広島国際アニメーションフェスティバルASIFA-Japan３０周年記念展示委員	共同	平成24年8月	アステールプラザ（広島県広島市）	第１４回広島国際アニメーションフェスティバルおいて、１９８１年に設立した国際アニメーションフィルム協会ASIFA-Japanの３０周年記念展示が企画され、委員として展覧会に携わった。ASIFA-Japan日本を代表するアニメーション監督や作家等を中心に、プロデューサー、撮影、編集、評論などアニメーション関係者によって構成されている。会員一人一人の優れた仕事や活動を一挙に紹介した。
（その他）				
「講演・シンポジウム」				
１）ＣＧアニメーションの世界	単独	平成24年6月	リーベルカレッジ（奈良県王寺町）	奈良産業大学が主催する市民向け公開講座としてCGアニメーションの歴史について講演を行った。コンピュータグラフフィックスの発展の歴史を技術と作品の両面から９０分で紹介した。コンピュータグラフフィックスにおける表現の発展をエポックメイキングとなった作品から紹介し、モデリング、アニメーション、レンダリング技術の変遷を解説した。また、「Kinectセンサー」とノートPCを利用した簡易モーションキャプチャーシステムを会場に設置し、聴講者にも被験者となってもらい被験者運動情報の取得と、3DCGへの応用過程を解説した。
２）奈良町家の芸術祭ＨＡＮＡＲＡＲＴ、シンポジウム　「ＨＡＮＡＲＡＲＴ こあ キュレーターからの提言」	共同	平成24年11月	旧川本邸（奈良県郡山市）	HANARART2012の振り返りから、地域型アートイベントの未来予想図、サイトスペシフィックとキュレーター制度について、日本の現代美術界への提言などを、キュレーターや出展作家などにより公開ディスカッションを行った。約７０名が傍聴するなか、それぞれの立場から活発な意見が出された。キュレーターと作家を兼任した立場からの指摘や、展示のサイトスペシフィックについての考えを提示した。 出演者：加藤孝朗　谷川恵子　谷口和正　千葉淳一　西田隆彦　羽太広海　林和音　伴野久美子　平田剛志　山中俊広（以上、HANARART こあ キュレーター）中島麦（HANARARART こあ 出展作家代表）奥中章人（HANARARART もあ 出展作家代表）増井正哉（奈良女子大学教授）三瀬夏之介（東北芸術工科大学准教授）小吹隆文（美術ライター）野村ヨシノリ（HANARART実行委員 アートコーディネーター）
３）奈良町家の芸術祭ＨＡＮＡＲＡＲＴ、アーティストトーク　「町家回想ー五條新町にて」	共同	平成24年11月	まちや館（奈良県五條市）	出展作家とキュレーター、地域の受け入れ団体であるNPO法人大和社中の方により、町家でアートを展示する意義や、苦労した点などをディスカッションした。歴史的な町並みに現代アートという異質なものが入ることにより、従来とは違う価値観が生まれ、地域コミュニティやまちづくりに新たな可能性を広げるということを確認した。また、アートをギャラリーではなく町家という日本の生活空間で展示する時の「もてなす」「しつらえる」という様式について説明した。 出演者：羽太広海（キュレーター、出展作家）大西宏志（出展作家、京都造形芸術大学准教授）菅原布寿史（出展作家）花岡伸宏（出展作家）平田剛志（キュレーター、京都国立博物館研究補佐員）米田征司（NPO法人大和社中）

（その他）				
「報告書」				
1）平成23年度情報学部活動報告書 ①三郷町立三郷北小学校教員研修会「パソコンを活用した映像編集」	単著	平成25年3月	平成23年度情報学部活動報告書 実習「パソコンを活用した映像編集」（教員研修： 三郷北小学校） pp.32-33	三郷町立三郷北小学校の教員を対象に情報研修を行った。「パソコンを活用した映像編集」を担当し、Windows に標準搭載されているWindowsムービーメーカーを利用し、学校行事等の記録映像を編集作成することを想定した演習形式での講座とした。編集に利用する映像を撮影する為、スタジオにおいてハンディーカメラを利用し、映像を二人一組となりビデオ撮影を行った。この際、特段の映像の制限は設けず、編集作業の中で必要な素材を各自撮影する形式の演習として実施した。
②大和郡山市立筒井小学校教員研修会「初心者向けパソコン入門」	単著		実習「初心者向けパソコン入門」（教員研修：大和郡山市立筒井小学校） p.35	大和郡山市立筒井小学校の教員を対象に情報研修を行った。「初心者向けパソコン入門」を担当し、「Windows7環境でのファイル操作　基礎実習」としての講座とした。OSの基本操作から確認することをスタートとし、過去のWindowsとWindows7の仕様の違いや、異なったパソコン間でファイルを開くための保存形式などの説明、OSの基本操作を解説した。加えて、インターネット検索の有効的な利用も内容として盛り込み、Google検索の目的に応じた検索の方法を解説した。
③準デジタル・アーキビスト資格取得講座「巻物画像の接続」	単著		実習「巻物画像の接続」（準デジタル・アーキビスト資格取得講座） pp.11-12	画像編集ソフトのPhotoshopを使って文化財をデジタル情報化する方法を実習形式で展開した。長い巻物を数回に分けてスキャンした画像をコンピューター上で繋ぎあわせ、実際の巻物と見間違えるようになるまで加工を繰り返しす行程を行った。受講者は自然に繋ぎあわせる方法を工夫しながら作業を進める受講内容とした。
④高大連携教育会・奈良県立奈良朱雀高等学校「ストップモーションアニメーションの制作」	単著		実習「ストップモーション・アニメーションの制作」（奈良朱雀高校） pp.21-22	奈良県立奈良朱雀高等学校情報ビジネス科の生徒37名に対し、高大連携教育として「ストップモーションアニメーションの制作」を実施した。ビデオカメラをPCから操作し、一コマづつ撮影する「コマ撮り」の手法を用い、人形アニメーションとピクシレーションの技法を実習形式で体験できるプログラムとした。撮影台を利用した人形アニメーションを制作する３グループと、スタジオで人物の撮影をするピクシレーションの３グループに別れ、各々のグループが短編アニメーションを完成させた。
⑤和歌山県立日高高等学校「コンピュータグラフィックス講座」	単著		講義「コンピュータグラフィックス」（出張：日高高校）　pp.18-19	和歌山県立日高高等学校の2年生を対象とした大学授業体験の出張講義として企画され、コンピュータグラフィックスを紹介する講義を行うとともに、モーションキャプチャを体験する授業を担当した。「Kinectセンサー」を利用した簡易モーションキャプチャーシステムを教室に設置し、受講者に被験者となってもらい、被験者運動情報の取得と3DCGアニメーションへの応用過程を解説した。加えて、CGアニメーションの制作過程を紹介し、人の動きを活用して3DCGのスケルトン（骨格）を制御する方法について解説した。
（その他）				
「書籍掲載」				
１）奈良・町家の芸術祭HANARART2012 GUIDE BOOK	共著	平成24年10月	奈良県土木部まちづくり推進局地域デザイン推進課　発行／奈良・町家の芸術祭HANARART　実行委員会　編集	HANARARTこあ・もあの作品紹介と、キュレーター紹介、自身が担当した五條新町のキュレーション内容と作家として展示した作品が掲載された。

２）奈良・町家の芸術祭HANARART2012図録	共著	平成25年3月	奈良県土木部まちづくり推進局地域デザイン推進課　発行／奈良・町家の芸術祭HANARART　実行委員会　編集	HANARARTこあ・もあの作品紹介と、特にキュレーターに焦点を当てたアート図録において、自身が担当した五條新町のキュレーション内容と作家として展示した作品が掲載された。
３）神戸ビエンナーレ2013「公式ガイドブック」	共著	平成25年９月	株式会社美術出版社	アートインコンテナ国際展の項目に自身が制作した「波紋の蚊帳」がが掲載された。
４）奈良・町家の芸術祭HANARART2013図録	共著	平成26年2月	奈良県土木部まちづくり推進局地域デザイン推進課　発行／奈良・町家の芸術祭HANARART　実行委員会　編集	奈良の町家を現代アートで彩るという、地域型アートプロジュエクト「奈良・町屋の芸術祭HANARART2013」の図録に、奈良町物語館におけるプレイベント企画展として開催されたインタラクティヴ映像展の作品が掲載された。

［注］

1　最近10年間の教育活動、研究活動について作成すること。

2「教育活動」については、各項目ごとに年月日順に、「学会等および社会活動」については、就任年月日順に記入すること。

3「研究活動」については、下記の点に留意すること。

① 著書･論文及びその他の順に、発表年月日順に記入すること。

② 著者が複数にわたる場合で、筆頭著者が著書･論文等において明示されている場合には、その氏名に◎印を付すこと。

③ 共著(論文)の場合、「該当頁数」の記入にあたっては、本人の分担箇所を特定できる場合は、その頁数を記載すること。

④ 最近10年間に著書･論文等の発表のなかった者についても、教員名を挙げてその部分を空欄にしておくこと。

⑤ 芸術分野や体育実技等の分野を担当する教員については、著書･論文等以外の競技会、展覧会または演奏会等での発表のうち、特に顕著な業績と認められるものについても記載すること。このほか、専門分野の特性を 考慮し、顕著な業績と認められるものがある場合もこれに含めてもよい。

教　育　研　究　業　績　書

平成26年3月31日

氏　名　米川　雅士

研究分野	研究内容のキーワード
情報学、社会・安全システム科学、制御工学	ソフトウェア、社会システム工学・安全システム、航空宇宙工学、森林情報システム工学、衛星測位工学

教育上の能力に関する事項

事項	年月日	概要
1　教育方法の実践例		
1）授業利用教材のインターネット上での公開	平成22年4月～平成26年3月	奈良産業大学情報学部情報学科の教員として担当の「プログラミング基礎」（専門科目、１年次配当、半期、選択２単位）「HTML演習」（専門科目、１年次配当、半期、選択２単位）「オブジェクト指向言語」（専門科目、３年次配当、半期、選択２単位）「ネットワークプログラミング」（専門科目、２年次配当、半期、選択２単位）「ヒューマンインタフェース」（専門科目、２年次配当、半期、選択２単位）「キャリアゼミ」（専門科目、３年次配当、半期、選択２単位）「プログラミング入門」（専門科目、１年次配当、半期、選択２単位）「日本事情Ⅱ」（専門科目、１年次配当、半期、選択２単位）「オペレーティングシステム基礎」（専門科目、２年次配当、半期、選択２単位）「ネットワーク基礎」（専門科目、２年次配当、半期、選択２単位）「ネットワーク基礎演習」（専門科目、２年次配当、半期、選択２単位）「情報ネットワーク概論」（専門科目、２年次配当、半期、選択２単位）「UNIX入門」（専門科目、２年次配当、半期、選択２単位）において、学生が家庭でも授業の復讐を行えるように授業で利用したパワーポイント資料をネット上に公開したところ、授業で学んでもらいたいポイントを確実に理解するようになった。
2）学生の授業外勉強促進の取り組み	平成23年4月～平成26年3月	奈良産業大学情報学部情報学科の教員として担当の「プログラミング基礎」（専門科目、１年次配当、半期、選択２単位）「プログラミング入門」（専門科目、１年次配当、半期、選択２単位）「オペレーティングシステム基礎」（専門科目、２年次配当、半期、選択２単位）「ネットワーク基礎」（専門科目、２年次配当、半期、選択２単位）「情報ネットワーク概論」（専門科目、２年次配当、半期、選択２単位）「UNIX入門」（専門科目、２年次配当、半期、選択２単位）において、学生が授業外での勉強を行わなくてはいけない状況を作るために、授業時に１週前の授業で学んだことについて小テストを実施した。これにより、家庭での復讐を徹底することができたために、実施前と後では期末テストの平均点が向上した。
3）マルチメディア機器を活用した授業時間外のフォロー	平成23年4月～平成26年3月	奈良産業大学情報学部情報学科の教員として担当の「プログラミング入門」（専門科目、１年次配当、半期、選択２単位）「オペレーティングシステム基礎」（専門科目、２年次配当、半期、選択２単位）「ネットワーク基礎」（専門科目、２年次配当、半期、選択２単位）「ネットワーク基礎演習」（専門科目、２年次配当、半期、選択２単位）「情報ネットワーク概論」（専門科目、２年次配当、半期、選択２単位）「UNIX入門」（専門科目、２年次配当、半期、選択２単位）において、学生にはiPodtachが配布されているため、時間外でも気軽に勉強に触れることができ、疑問点はみんなで解決させるようにしむけるためにツイッターを利用した。頻繁に利用する学生ほど成績が向上した。

４）向上心の高い学生に対しての特別カリキュラムシステムの構築	平成23年11月～平成26年3月	奈良産業大学情報学部情報学科の授業では満足できない学生の学力向上を考え、授業外のカリキュラムを１年生から４年生までで実施することで、幅広い知識と高度な専門性を学ばせるシステムを構築した。学生のヤル気を維持させる仕組みとして短期と長期の目標を設定する。短期目標として、数学検定、TOEIC、日本語検定、学会発表、コンテスト出品を設置し、長期目標として各学生の将来像を明確に定めさせ、学生が抱いている将来像に一番専門性が近い教員が専任となり教育を実施する。これにより、短期目標である各試験で受験者の平均よりも大幅に高い合格率を実現している。また、参加した学生も満足度が高く１年間のカリキュラムを終えた学生は翌年も参加を希望する。
５）プレゼンテーションの導入	平成23年4月～平成26年3月	奈良産業大学情報学部情報学科の教員として担当の「情報学演習１B」（専門科目、2年次配当、半期、選択2単位）「情報学演習Ⅱ」（専門科目、3年次配当、通年、選択4単位）「情報学演習Ⅲ」（専門科目、4年次配当、通年、選択4単位）「情報学ゼミⅡB」（専門科目、2年次配当、半期、選択2単位）「情報学ゼミⅢ」（専門科目、3年次配当、通年、選択4単位）において、学生が自己の考えを第3者に説明できるように資料を可視化させることで、資料作成の難しさや大変さを理解することで授業中の私語が激減した。
６）手書き課題の導入	平成23年4月～平成26年3月	奈良産業大学情報学部情報学科の教員として担当の「情報学実験基礎Ⅰ」（専門科目、１年次配当、半期、選択２単位）において、実施した実験のレポートを手書きにした。これにより、実験関連知識への理解度向上と家庭学習の定着化を目指した。これは、親御さんの報告により家庭学習を行なっていることが複数人の学生について確認ができたため成果があったといえる。
７）短期プロジェクトの導入	平成22年4月～平成25年3月	奈良産業大学情報学部情報学科の教員として、学生にシステムへの興味と理解を深めてもらうため、学外から依頼のあったシステム構築を実践してもらう実学を導入した。学生には短期目標を設定する事により、勉強時間が数倍に増えた事、最終的に自分が作ったシステムが運用されている時の喜びを得る事が体験でき、参加学生の授業への取り組み方が向上する。また、学生自身に社会に出ても誇れる事を学生の間に実現をしたというプライドを持ってもらう事として、積極的に学会で発表を進め、平成23年11月開催の第6回パーソナルコンピュータ利用技術全国大会において、新人奨励賞を受賞した。 立ち上げた5つの短期プロジェクトを以下に記述する。 ・バスロケーションシステムの構築（依頼主：奈良文化女子短期大学付属幼稚園、期間：平成22年度）：幼稚園バスの位置をパソコンから確認ができるシステムの構築 ・情報学部HP作成（依頼主：奈良産業大学情報学部、期間：平成22年度）：情報学部のHPを見やすく且つわかりやすいものを作成する。 ・バスロケーションシステムの拡張（依頼主：奈良文化女子短期大学付属幼稚園、期間：平成23年度）：2つの機能について拡張した。1つめは、バスの位置情報取得送信装置として携帯電話を利用していた事から測位精度が悪かったため新アルゴリズムを実装した。2つめは、携帯電話からもバスの位置を確認できるようにした。 ・GISの設計書おこし（依頼主：奈良県、期間：平成23年度）：奈良県から県有林を借用し、新しいGISについて研究を進めている。基幹となるフリーGISのプログラムから設計書をおこした。なお、利用するフリーGISはGRASSであり、約55万ステップのプログラムである。 ・ビジュアル型SNSシステムの構築（依頼主：奈良産業大学国際交流センター、期間：平成24年度）：学生が交流する場としてSNSが重要なシステムとなってきた昨今、文字のみでのコミニュケーションに限界が言われるようになってきた。よって、写真などの画像データを基に学生間のコミュニケーションを促進する新しいシステムの構築する。

2　作成した教科書，教材		
1）授業での学習教材作成	平成22年4月～ 平成26年3月	奈良産業大学情報学部情報学科の教員として担当の「プログラミング基礎」（専門科目、1年次配当、半期、選択2単位）「HTML演習」（専門科目、1年次配当、半期、選択2単位）「オブジェクト指向言語」（専門科目、3年次配当、半期、選択2単位）「ネットワークプログラミング」（専門科目、2年次配当、半期、選択2単位）「ヒューマンコンピュータインタラクション」（専門科目、2年次配当、半期、選択2単位）「キャリアゼミ」（専門科目、3年次配当、半期、選択2単位）「プログラミング入門」（専門科目、1年次配当、半期、選択2単位）「日本事情Ⅱ」（専門科目、1年次配当、半期、選択2単位）「オペレーティング基礎」（専門科目、2年次配当、半期、選択2単位）「ネットワーク基礎」（専門科目、2年次配当、半期、選択2単位）「ネットワーク基礎演習」（専門科目、2年次配当、半期、選択2単位）「情報ネットワーク概論」（専門科目、2年次配当、半期、選択2単位）「UNIX入門」（専門科目、2年次配当、半期、選択2単位）「アルゴリズムとデータ構造」（専門科目、2年次配当、半期、選択2単位）「アルゴリズムとデータ構造演習」（専門科目、2年次配当、半期、選択2単位）の授業を進める上で、教科書のみでは知識が不足している学生の理解力が向上しないため、教科書以外の必要な知識を記述したパワーポイントを作成した。教材を電子データ化することで、学生が自宅で効率的な復讐を実施できる。
2）理解度確認小テスト	平成23年4月～ 平成26年3月	奈良産業大学情報学部情報学科の教員として担当の「プログラミング基礎」（専門科目、1年次配当、半期、選択2単位）「プログラミング入門」（専門科目、1年次配当、半期、選択2単位）「オペレーティング基礎」（専門科目、2年次配当、半期、選択2単位）「ネットワーク基礎」（専門科目、2年次配当、半期、選択2単位）「情報ネットワーク概論」（専門科目、2年次配当、半期、選択2単位）「UNIX入門」（専門科目、2年次配当、半期、選択2単位）「アルゴリズムとデータ構造」（専門科目、2年次配当、半期、選択2単位）「ヒューマンコンピュータインタラクション」（専門科目、2年次配当、半期、選択2単位）において、理解度確認用の小テストを各講義14回分を作成した。これにより、学生の理解が薄いところを確認することができ、授業中にフォローが可能となる。
3）実験・実習用指導マニュアル	平成23年4月～ 平成25年3月	奈良産業大学情報学部情報学科の専任講師として担当の「情報学実験基礎Ⅰ」（専門科目、1年次配当、半期、選択2単位）において、実験後に提出するレポートの書き方と実験マニュアルを作成した。レポートの書き方については章構成と記述内容から、図表の書き方、記述例、参考文献の調べ方（HPによる関連論文の検索方法、図書館の利用方法）までを記述し4年生に作成する卒業論文を見据えた記述マニュアルにしてある。実験マニュアルについては、通信の歴史と技術について学んでもらいたいと考え、手旗信号の形と文字を関連づける実験から、有線通信でより遠くに早く通信ができるようになったことの実感、無線通信で通信の自由度が高くなった事に触れさせ、最後に宇宙通信になっても通信の基幹技術は変わらない事を学べるようなマニュアルを作成した。また、理解度を深めてもらうために必ず各実験の最後に課題と考察する項目をもうけて、授業外での勉強時間を増やす工夫をした。
3　教育上の能力に関する大学等の評価		
1）学生の授業評価アンケート結果	平成26年3月	専門教科にも関わらず、全授業の評定平均3.40と高ポイントであり、多くの学生においては満足のいく授業を実施している。また、質問の各項目においてもほぼ全項目で平均以上の評価を学生から受けている。
2）学長評価	平成25年3月	高大連携や地域協力の講演などに積極的に講師として参加し、学内外で大きく大学に貢献している。また、研究においても外部の様々な機関と共同研究を積極的に行い。コンスタントに外部で発表を行っている。

4　実務の経験を有する者についての特記事項		
1）三郷北小学校教員研修会 研修会講師	平成22年8月2日	三郷町立三郷小学校の教員に対し、教員研修会を実施した。研修会は午前と午後の2部構成で開催し、午前中はインターネットが取り巻く世界と最新情報を踏まえて危険な世界である事、携帯電話を小学生に持たせない方がよいという内容を技術的な観点から講演した。午後はWindows7の新機能とExcel初級と定義して簡単な関数の利用方法について実習を行なった。研修会開催時間として午前10：00～12：00、午後13：00～15：00で開催し、参加数は約20名だった。
2）筒井小学校教員研修会 研修会講師	平成22年8月5日	大和郡山市立筒井小学校の教員に対し、教員研修会を実施した。研修会は午前と午後の2部構成で開催し、午前中はWindows7のAeroプレビュー、Aeroシェイク、スナップ、ライブタスクバープレビューなどの新機能を実際に触れながら体験し、ネットワークとセキュリティの設定まで学んだ、午後はExcel2010を利用して実際に使える出席簿と成績表を作成した。研修会開催時間として午前の部10：00～12：00、午後の部13：00～15：00で開催し、参加数は約20名だった。
3）高校キャリアガイダンス 講師	平成23年2月16日	奈良産業大学情報学部情報学科の教員として奈良県立高円高等学校の2年生対象に情報学部を卒業した際の就職先について講演を行った。講演内容は情報学部で学ぶ分野の説明から将来の就職が可能な職種を説明し、現在、各業種には何人の業務従事者がいるのか、それぞれの分野の給料はどれくらいなのかなどを踏まえて説明をした。講演時間は13：30～16：30で開催し、参加者は約20名程度だった。
4）教育講演会 講演講師	平成23年6月19日	奈良文化女子短期大学付属幼稚園の保護者向け日曜参観において、特別講演講師として「幼少期の夢が将来の仕事に繋がる」と題して、保護者160名に対して講演を行った。講演内容としては、子育てには多くの時間をかけること、子供を萎縮させてしまう怒り方はしてはいけないこと、褒めるときは大げさに褒めてあげる事などいくつかの実例を踏まえて説明をした。また、自分自身の体験も踏まえて小さい頃に持った将来の夢が今の職業につながっていることを話した。講演時間は10：00～11：20で開催した。
5）地域貢献市民講座王寺町り～べるカレッジ 講演講師	平成23年7月2日	王寺町地域交流センターにおいて、王寺町が進める「出会いとにぎわいの街づくり」構想の一環として生活を科学するシリーズにおいて「宇宙を利用する生活」と題し、一般聴講者65人に対し、宇宙で開発された技術について講演を行った。一般の方々が聴講者のメインとなることから、宇宙に親しんでもらうことを主題において講演を行った。 最初は日本の宇宙開発について歴史を追って説明を行い、国の宇宙開発機関の統合、各部門での開発の枠組みと研究の方向性について説明を行った。続いて、日本の宇宙開発の流れを理解してもらい、宇宙で開発された技術が普段の生活用品にどのように利用されているのか、実例を挙げ説明を行った。実例としてはリニアモーターカーの開発期間短縮の裏話、家に利用されるペンキ、カーナビゲーションシステムなど最新のテクノロジーを感じさせる技術から、枕や布団に利用されている素材、消臭下着まで普段の生活では近すぎて宇宙のイメージが持てない物まであることを話した。
6）高大連携教育会 講義講師	平成23年8月9日 平成23年8月11日	奈良県立奈良情報商業高等学校総合情報科の学生約30名に対し、高大連携教育としてパーソナルコンピューターの制作実習を実施し、その実習の講師を務めた。実習内容はパーソナルコンピューターの制作、オペレーティングシステムのインストール、ネットワークの設定、各種ソフトウェアーのバージョンアップ、セキュリティソフトのインストール、webサーバーの設定、ホームページ作成と公開までを実施した。オペレーティングシステムにはLinuxのディストリビューションであるUbuntuを利用したことにより、初めて体験した学生も多く全てがフリーソフトで実装できることを体験してもらった。

７）教職員のための公開講座 講義講師	平成23年8月10日	奈良県立の教職員約30名に対し、教職員のための公開講座としてパーソナルコンピューターの制作実習を実施し、その実習の講師を務めた。実習内容はパーソナルコンピューターの制作、オペレーティングシステムのインストール、ネットワークの設定、各種ソフトウェアーのバージョンアップ、セキュリティソフトのインストール、webサーバーの設定、ホームページ作成と公開までを実施した。オペレーティングシステムにはLinuxのディストリビューションであるUbuntuを利用したことにより、初めて体験した受講者も多く全てがフリーソフトで実装できることを体験してもらった。
８）筒井小学校教員研修会 研修会講師	平成22年8月12日	大和郡山市立筒井小学校の教員に対し、教員研修会を実施した。研修会は午前と午後の2部構成で開催し、午前中はExcel2010を利用して実際に使える出席簿と成績表を作成した。午後はPowerPoin2010を利用してアニメーションの組み込み方、画像と動画の取り込み方を学んだ後に「自分」と題して5分程度の発表資料を作成した。研修会開催時間として午前の部10：00～12：00、午後の部13：00～15：00で開催し、参加数は約10名だった。
９）大学体験授業　講義講師	平成22年10月14日	奈良県立朱雀高校情報工学科2年生を対象に「携帯電話は便利だが危険」と題して講義を行った。最初に携帯電話とスマートフォンをどれくらいの学生が保有しているか確認から始めた。情報工学科の学生らしく、携帯電話・スマートフォンの保有者数は高校生の全国平均を上回る結果となった。ここから、携帯電話・スマートフォンの利用状況について話を進め、ほぼ全員が携帯電話・スマートフォンからHPの閲覧やゲーム、音楽などのデータをダウンロードして利用していることを確認した。殆どの学生がパソコンと同じような利用方法で携帯電話・スマートフォンを利用しているにもかかわらず、パソコンではOSのセキュリティーパッチを更新したり、セキュリティソフトをインストールしている学生が多く見られたが、携帯電話・スマートフォンでは全くセキュリティ対策が実施されていないことを学生たちに認識させた。この状況を元に現在スマートフォンの普及状況とウィルスの確認状況を学生たちに話し、スマートフォンもパソコンと変わらないこと、情報の重要性から言えばスマートフォンのほうがより強固なセキュリティ対策が必要なことを説明した。最後に一般的に知っている人が少ないのだが、普通のHPを閲覧する場合は個人情報を提供していることについて話した。HPから情報を貰うのはただではないことを理解しておくこと、使いやすく便利なHPほどこれら個人情報が悪用される可能性が高いことについても話した。
１０）高大連携教育会 講義講師	平成24年2月15日	奈良県立朱雀高等学校情報工学科の学生約20名に対し、高大連携教育としてパーソナルコンピューターの制作実習を実施し、その実習の講師を務めた。実習内容はパーソナルコンピューターの制作、オペレーティングシステムのインストール、ネットワークの設定、各種ソフトウェアーのバージョンアップ、セキュリティソフトのインストール、webサーバーの設定、ホームページ作成と公開までを実施した。オペレーティングシステムにはLinuxのディストリビューションであるUbuntuを利用したことにより、初めて体験した学生も多く全てがフリーソフトで実装できることを体験してもらった。
１１）高大連携教育会　講義講師	平成24年4月13日	奈良県立朱雀高校情報工学科2年生を対象に講義を実施した。携帯電話やカーナビゲーションなどで注目を浴びている衛星を使った位置情報サービスにおいて、実際の受信機を使って、受信実験を行い。自分の歩いた経路をホームページ上に公開するページを作成させた。これにより衛星を利用した位置情報に関連する技術とホームページの知識を学ぶことができる。
１２）オープンキャンパス模擬講義講師	平成24年8月25日	奈良産業大学オープンキャンパスにおいて、高校生に対し「情報学≠パソコン」ではない事を説明し、情報学で学ぶ事の幅広さの説明と実例としてGISの入力データとして利用できる空中写真撮影用の自動航法ラジコンヘリコプターの実物を見せ情報学の広さを実体験させた。

１３）高大連携教育会　講義講師	平成25年2月5日	奈良県立奈良情報商業高等学校総合情報科の学生約30名に対し、高大連携教育としてパーソナルコンピューターの制作実習を実施し、その実習の講師を務めた。実習内容はパーソナルコンピューターの制作、オペレーティングシステムのインストール、ネットワークの設定、各種ソフトウェアーのバージョンアップ、セキュリティソフトのインストール、webサーバーの設定、ホームページ作成と公開までを実施した。オペレーティングシステムにはLinuxのディストリビューションであるUbuntuを利用したことにより、初めて体験した学生も多く全てがフリーソフトで実装できることを体験してもらった。
１４）地域貢献市民講座王寺町り～べるカレッジ 講演講師	平成25年7月13日	王寺町地域交流センターにおいて、王寺町が進める「出会いとにぎわいの街づくり」構想の一環として生活を科学するシリーズにおいて「宇宙から自分の位置を知る」と題し、一般聴講者65人に対し、人間は大航海時代から宇宙の星を見て自分の位置を導き出しています。何世紀も経ち技術が進化した現在でも自分の位置を導き出すのに宇宙からの情報を使っている。本講座では昔の測位方法から最新の測位方法を学び、知っていれば得をする位置情報を利用した最新技術について講演を行った。
１５）奈良県立郡山高等学校 キャリア教育　講義講師	平成25年11月11日	奈良県立郡山高等学校の学生に対し、実際に仕事をしている人から仕事内容と仕事に必要な知識は何か公演することで、学生の勉強意欲と将来就きたい職業への知識を高める講演会の講師として公演を行った。 公演内容としては、大学の情報学部で学ぶ学生が多く就職する情報サービス業界での仕事内容と大学でどのようなことを学ぶのか研究成果から公演を行った。また、SEにはコミュニケーション能力が重要な要素だとわかってもらうために簡単な体験課題の実施も併せて行った。
５　その他		
１）奈良産業大学情報学部情報学科における教育実績	平成22年4月～ 平成26年3月	奈良産業大学情報学部情報学科の教員（平成22年4月から現在にいたるまで専任講師）として以下のような科目を担当した。 「プログラミング基礎」（平成22年4月～平成23年3月） 奈良産業大学情報学部情報学科の専任講師として担当の「プログラミング基礎」（専門科目、１年次配当、半期、選択２単位）において、情報学部の学生として、必要な基礎知識について学び、最も実社会で利用されているVC++、HTML、JAVAのプログラミングに触れる内容の授業を行い、それによって、学生にプログラミングの種類がなぜ沢山あるのか、自分の将来に必要な知識、学ばなくては行けない知識を理解させる教育効果があった。 「オブジェクト指向言語」（平成22年4月～平成24年3月） 奈良産業大学情報学部情報学科の専任講師として担当の「オブジェクト指向言語」（専門科目、３年次配当、半期、選択２単位）において、オブジェクト指向言語としてJAVAによるシステム開発の内容で授業を行い、それによって、学生にオブジェクト指向とは何か、オブジェクト指向が考えられた理由を理解させる教育効果があった。 「HTML演習」（平成22年4月～平成23年3月） 奈良産業大学情報学部情報学科の専任講師として担当の「HTML演習」（専門科目、１年次配当、半期、選択２単位）において、最新のHTMLバージョン5、スタイルシート、JavaScriptでの実社会での制作に近い内容の授業を行い、それによって、学生にホームページ作成方法を理解させる教育効果があった。

１）奈良産業大学情報学部情報学科における教育実績の続き		「ネットワークプログラミング」（平成22年4月～平成26年3月） 奈良産業大学情報学部情報学科の専任講師として担当の「ネットワークプログラミング」（専門科目、２年次配当、半期、選択２単位）において、ソケット、パケット通信、TCP/IPを理解させるためにチャットシステム、掲示板をPHPで作成させる内容で授業を行い、それによって、学生にネットワークを利用するプログラミング作成時に必要な知識を理解させる教育効果があった。 「ヒューマンコンピュータインタラクション」（平成22年4月～平成26年3月） 奈良産業大学情報学部情報学科の専任講師として担当の「ヒューマンコンピュータインタラクション」（専門科目、２年次配当、半期、選択２単位）において、システム設計の際に今後重要となるヒューマンインタフェースを考えた設計方法とIT技術がどのように進化しているのか理解させるように授業を行い、それによって、学生にヒューマンインタフェースを意識した設計方法について理解させる教育効果があった。 「キャリアゼミ」（平成22年4月～平成25年3月） 奈良産業大学情報学部情報学科の専任講師として担当の「キャリアゼミ」（専門科目、３年次配当、半期、選択２単位）において、就職に向けての情報と自己に足りない物を認識させる内容の授業を行い、それによって、学生に就職活動への不安軽減と強い意気込み持たせる事を実現させ、就職活動へ必要な知識を身につけさせる教育効果があった。 「基礎数学Ⅱ」（平成23年4月～平成24年3月） 奈良産業大学情報学部情報学科の専任講師として担当の「基礎数学Ⅱ」（共通科目、１年次配当、半期、選択1単位）において、数学検定3級～5級の内容の授業を行い、それによって、学生に前期中等教育までの必要最低限の知識を理解させる教育効果があった。 「情報学実験基礎Ⅰ」（平成23年4月～平成25年3月） 奈良産業大学情報学部情報学科の専任講師として担当の「情報学実験基礎Ⅰ」（専門科目、１年次配当、半期、選択２単位）において、実際の実験機材を使い通信の歴史を確認させる内容の授業を行い、それによって、学生に通信とはどのような意図で考えられ、技術的にどのような内容になっているのかを理解させる教育効果があった。 「プログラミング入門」（平成23年4月～平成25年3月） 奈良産業大学情報学部情報学科の専任講師として担当の「プログラミング入門」専門科目、１年次配当、半期、選択２単位）において、情報学部の学生として、必要な基礎知識について学び、最も実社会で利用されているVC++、HTML、JAVAのプログラミングに触れる内容の授業を行い、それによって、学生にプログラミングの種類がなぜ沢山あるのか、自分の将来に必要な知識、学ばなくては行けない知識を理解させる教育効果があった。

１）奈良産業大学情報学部情報学科における教育実績の続き		「日本事情Ⅱ」（平成23年4月～平成24年3月） 奈良産業大学情報学部情報学科の専任講師として担当の「日本事情Ⅱ」（専門科目、１年次配当、半期、選択２単位）において、留学生に日本の携帯電話技術と事情について理解させる内容の授業を行い、それによって、学生に日本の事を理解させる教育効果があった。 「情報学演習ＩB」（平成23年4月～平成25年3月） 奈良産業大学情報学部情報学科の専任講師として担当の「情報学演習ＩB」（専門科目、２年次配当、通年、選択4単位）において、測位衛星のシステム構成を理解し、自分の考えたシステムが実現できるかためす内容の授業を行い、それによって、学生に新しい分野への探究心と学び方を理解させる教育効果があった。 「情報学演習Ⅱ」（平成23年4月～平成25年3月） 奈良産業大学情報学部情報学科の専任講師として担当の「情報学演習Ⅱ」（専門科目、3年次配当、通年、選択4単位）において、測位衛星の情報から自分の位置を求めるプログラム作成の内容の授業を行い、それによって、学生にC言語の実践的なプログラムと測位衛星に関わる基本的知識を理解させる教育効果があった。 「オペレーティングシステム基礎」（平成24年4月～平成26年3月） 奈良産業大学情報学部情報学科の専任講師として担当の「オペレーティングシステム基礎」（専門科目、２年次配当、半期、選択２単位）において、世の中にあるオペレーティングシステムの特徴と役割についてシステム的な観点で理解させる内容の授業を行い、それによって、学生にオペレーティングシステムについて理解させる教育効果があった。 「ネットワーク基礎」（平成24年4月～平成25年3月） 奈良産業大学情報学部情報学科の専任講師として担当の「ネットワーク基礎」（専門科目、２年次配当、半期、選択２単位）において、ネットワークを利用するのに必要な最低限の知識を学ばせる内容の授業を行い、それによって、学生にネットワークの基礎知識を理解させる教育効果があった。 「ネットワーク基礎演習」（平成24年4月～平成26年3月） 奈良産業大学情報学部情報学科の専任講師として担当の「ネットワーク基礎演習」（専門科目、２年次配当、半期、選択２単位）において、ネットワーク環境を利用するプログラミングを作成させ理解度を深める内容の授業を行い、それによって、学生にネットワーク環境を利用したプログラミング方法を理解させる教育効果があった。 「情報ネットワーク概論」（平成24年4月～平成25年3月） 奈良産業大学情報学部情報学科の専任講師として担当の「ネットワーク基礎」（専門科目、２年次配当、半期、選択２単位）において、ネットワークを利用するのに必要な最低限の知識を学ばせる内容の授業を行い、それによって、学生にネットワークの基礎知識を理解させる教育効果があった。 「UNIX入門」（平成24年4月～平成25年3月） 奈良産業大学情報学部情報学科の専任講師として担当の「オペレーティングシステム基礎」（専門科目、２年次配当、半期、選択２単位）において、世の中にあるオペレーティングシステムの特徴と役割についてシステム的な観点で理解させる内容の授業を行い、それによって、学生にオペレーティングシステムについて理解させる教育効果があった。 「情報学演習Ⅲ」（平成24年4月～平成25年3月） 奈良産業大学情報学部情報学科の専任講師として担当の「情報学演習Ⅲ」（専門科目、4年次配当、通年、選択4単位）において、自分で考えた研究を進める内容の授業を行い、それによって、学生が研究というものについて理解させる教育効果があった。

1）奈良産業大学情報学部情報学科における教育実績の続き		「情報学ゼミⅡB」（平成24年4月～平成25年3月） 奈良産業大学情報学部情報学科の専任講師として担当の「情報学ゼミⅡB」（専門科目、2年次配当、半期、選択2単位）において、ゼミ室紹介の側面があり宇宙工学の関連技術を理解する内容の授業を行い、それによって、学生に宇宙工学を理解させる教育効果があった。 [情報学ゼミⅢ」（平成25年4月～平成26年3月 奈良産業大学情報学部情報学科の専任講師として担当の「情報学ゼミⅢ」（専門科目、3年次配当、通年、選択4単位）において、卒業研究に必要な知識を身に着ける。宇宙工学の関連技術を理解する内容の授業を行い、それによって、学生が4年生になった時に自分自身で卒業研究を決めれる知識を身に着けた。
2）奈良工業高等専門学校電子制御工学科における教育実績	平成23年4月～ 平成26年3月	「電子回路」（平成23年4月～平成24年3月、平成25年4月～平成26年3月） 奈良工業高等専門学校電子制御工学科の非常勤講師として担当の「電子回路」（必修科目、4年次配当、半期、選択2単位）において、様々な電子回路とオペアンプで作成できる回路について理解する内容の授業を行い、それによって、学生に電子回路への理解を深めさせる教育効果があった。

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
1　資格，免許		
1）修士（工学）	平成12年 3月	学位番号：第0093号 論文題名：衛星システムによる測位方式のデータ選択方法
2　特許等		
1）GPSによる自律測位方法、自立航法装置及びコンピュータプログラム 登録番号　特許第3651678号	平成17年 3月	公開種別：公開特許公報 公開番号：2004077228 出願番号：2002236137 出願日：平成12年8月13日 出願人：キーウェアソリューションズ株式会社 出願人識別番号：598109095 発明者：米川雅士 要約：GPSを利用した測位結果には誤差が含まれる。この誤差を最小に抑える事ができる方法として搬送波の利用がある。しかし、搬送波を利用する測位には多くの制約があり、一般的にはリアルタイム性を重要視していない測量の分野でしか利用されていない。本特許はこの搬送波を利用した新しい測位方法についての特許である。搬送波測位の制約事項として、正確に位置のわかっている地上局から補正データを取得する必要がある。地上局と離れての測位はできない。同一衛星を連続補足しないと測位ができなくなる等、多くの制約事項がある。この制約事項をなくすために、仮想地上局をソフトウェア上で再現することによって1回搬送波測位をおこなってしまえば、制約なく高精度な搬送波測位を継続可能な手法である。
3　実務の経験を有する者についての特記事項		
1）キーウェアソリューションズ株式会社 社員	平成12年4月～ 平成18年3月	6年間にわたり宇宙関連のソフトウェア設計・開発とシステムの運用に従事した。 平成12年6月から平成14年3月まではスタッフとして、4機の衛星について地上局の各装置、宇宙機シミュレーション装置、衛星情報公開用HP、各地上局とアンテナ局のネットワーク制御関連装置の開発と運用リーダーを務めた。開発利用言語としてはC++、Perl、JavaScript、HTMLを利用した。平成14年4月から平成18年3月まではシニアスタッフとしてプロジェクトリーダーを勤めシステムの開発だけではなく、部下の配置とスケジュール管理、お客様との開発費用調整も実施し、6機の衛星について上記同様の業務と仕様検討、宇宙機取得データ（放射線関連、μG関連）の解析・評価を産学連携で実施した。

２）慶應義塾大学２１世紀ＣＯＥプログラム「知能化から生命へのシステムデザイン」研究員	平成19年4月～ 平成20年3月	現代社会のシステムとしてバランスを確保し、人間や環境との共生のメカニズムを裏付け、全く新しいプロダクトイノベーションに結びつくようなシステム化技術の構築を目指して研究を進めていた。衛星を利用した測位技術は平成5年に一般利用が認められてから20年が立つが、カーナビゲーション、携帯電話、測量の分野以外の利用例は殆どない、これはいくつか利用制約があり使い勝手の悪さから一般的なシステムとして利用が広がらない。私の研究としてこれら制約の中で、使い勝手の良い高精度衛星測位を確立する事を目指して研究を実施し、各システムの情報インフラストラクチャーとなる事を目指して研究を進めていた。
３）慶應義塾大学グローバルCOEプログラム「環境共生・安全システムデザインの先導拠点」研究員	平成20年4月～ 平成22年3月	戦後から日本は大きな発展を遂げたが、これは従来の工学が要素還元論的な発送の基で構築されてきたが、現代社会に置いてシステムの大規模化、複雑化が進み適切且つ安全なシステムデザインが困難になってきている。 よって、人工物システムから社会システムまで、構築してきたあらゆるシステムの綻びを自ら解決するとともに、同種の問題解決ができる研究者・技術者の育成について研究を進めていた。私はシステムデザイン学の方法論を学び、衛星を利用した測位システムの構築を目指して研究を進めた。衛星を利用した測位が一般のシステムに普及するために必要な理由として重要な事柄を「リアルタイム性」「軽量化」「高精度測位」の3つと定義し、今まで利用されていた測位アルゴリズムとは異なる新しいアルゴリズムについて研究を進めていた。
４）平成23年度JR西日本あんしん社会財団研究助成金「災害時の状況把握用空中写真取得のための安価な自動航法ラジコンヘリコプター開発と実現」	平成22年11月	研究種目：研究助成金 申請期間：1年 申請金額：1,300,000円 申請結果：採用 申請内容：災害時に一番注意を払わないといけない事は2次災害である。これを防ぐために重要な情報は現場の正確な状況である。そのために誰もが安価でスピーディーに空中写真を取得する事は重要である。よって、本研究助成金の申請は誰もが安価でスピーディーに空中写真を取得できる方法として、自動航法ラジコンヘリコプターを制作する研究を実施した。 研究し作成した自動航法ラジコンヘリコプターはgoogleMAPを利用し感覚的に人が飛行経路を設定し、最も難しい姿勢制御と離着陸も含めて自動で行なう事を目的としている。
４　その他		
１）広報委員会委員	平成22年4月～ 平成23年3月	広報委員として大学の広報活動全般について業務を行った。特に学校パンフレットの作成についてはデザインのコンペを実施することを提案し、全教員参加型の学校パンフレット選定システムの構築に貢献した。
２）オープンキャンパス実行小委員会委員	平成22年4月～ 平成23年3月	オープンキャンパスに参加した高校生に大学で実施している研究活動をわかりやすく説明するために全教員にポスター作製を提案し、高校生への研究説明をスムーズに行えるようにした。
３）入学試験委員会委員	平成23年4月～ 平成24年3月	各種入学試験の運営と管理業務を実施した。また、新しい環境になれることが難しい学生も多くいることから、入学前教育を月に一回実施し、参加者には学内のシステムを学ばせることでリメディアル教育と友達作りを同時に実施することができるシステムを提案し実施した。また、自分で調べる課題を毎月出題することで大学で勉強するモチベーションを高めることも合わせて実施した。
４）情報学部ダブルスクール取りまとめ	平成23年10月～ 現在に至る	勉強をやる気のある学生を対象に講義以外で週12コマの授業を実施して、4年間で外部で研究発表を行えるレベルに教育するシステムを提案し、全運用と管理を行なっている。
５）就職委員会委員	平成24年4月～ 現在に至る	学生の就職支援として各種セミナーを計画・実施している。また、学生が就職活動のモチベーションを維持できるように情報提供と活動支援を行なっている。また、就職活動への不安を取り除くために外部講師を招聘し、就職活動模擬体験を多く実施できるように計画し実行した。

6）スポーツ振興委員会副委員長	平成24年4月～現在に至る	各種スポーツクラブの奨学金運営・推薦入学者協議など、各クラブが必要なバックアップを実施している。本委員会の副委員長という立場から委員長の補佐役を実施している。
7）教務支援検討グループ委員	平成24年4月～現在に至る	情報学部では、出口の明確に向けてシステムコースとメディアコースに2年生から分かれるが、学生が両コースのビジョンが明確になっていないため、各コースの教員により講義以外で、様々な体験学習を実施する事を計画する。例えば、外部の企業の人を呼んできて仕事へのイメージを付ける事や、各コースに必要な技術の短期集中講義を実施したりしている。この検討グループの発起人である。
8）学校法人奈良学園高等教育改革推進委員会社会科学関係部会会員	平成24年4月～平成25年3月	奈良産業大学において新学部設置に関する検討ワーキンググループのメンバーとして社会科学系学部の検討を行った。
9）学校法人奈良学園(仮称) 奈良学園大学設置準備委員会現代社会学部会会員	平成25年4月～現在に至る	奈良産業大学を改組し新大学を設立するにあたって社会科学系学部の内容を検討する部会のメンバーとなった。

研　究　業　績　等　に　関　す　る　事　項

著書，学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所，発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　要
（著書）				
特記事項なし				
（学術論文）				
1.RATIONS BETWEEN POSITIONING RESULT AND EACH ERROR FACTOR IN GPS（査読付き）	共著	平成18年10月	SICE-ICASE International Joint Conference 2006, pp.1361-1365	GPSを利用した測位には衛星から受信機までの擬似距離と衛星の座標が必要である。そのため測位精度を改善するために、擬似距離に含まれている誤差を補正するのが一般的に行われている。しかし、測位環境と衛星の見え方によっても擬似距離へ悪影響を及ぼしている。つまり地平線上の衛星と天頂方向の衛星では擬似距離の長さが変わることで付加される誤差の量が変わる。そこで著者が提案した方法は衛星座標の移動方向によって補正を行う事と擬似距離の長さによって補正を同時に行うことで新しい測位精度改善方法についての提案を行った。 本人担当分：システム提案・構築から実験結果の論理的に評価し、論文のとりまとめを行なった。 共著者：米川雅士，田中敏幸
2.Improvement of GPS positioning accuracy by ionospheric delay correction（査読付き）	共著	平成19年 9月	SICE Annual Conference 2007, pp.1766-1769	GPSを利用した測位を行った際に付加される誤差原因はいくつかあるが、最大の誤差要因は電離層における信号の遅延が上げられる。GPSの衛星は異なる周波数を同一電波源から送信しているため、その2周波を受信できる受信機を使って電離層遅延量について測定し、さまざまな角度から検討し、電離層の補正方法として利用されているクロブッチャモデル、コサインモデル、2周波受信などの補正を行った結果について比較し報告している。 本人担当分：解決方法の提案と宇宙工学的な見地から評価し、研究指導を行なった。 共著者：秋山奈緒，米川雅士，田中敏幸

3.GPS Orbit Determination using Several Reference （査読付き）	共著	平成19年 9月	SICE Annual Conference 2007, pp.1770-1773	GPSを利用した測位精度はさまざまな要因によって、精度の劣化を招く。ここでは、衛星に起因する誤差の軽減を目指し研究を進めた。レンジアンドレンジレートで求めた真のGPS軌道と衛星から送信されたデータに含まれている軌道情報の誤差に注目して、衛星に起因する誤差の精度改善を試みた。一般的なレンジアンドレンジレートでは衛星の軌道を求めるのに時間がかかるため、複数基準局を用いて、GPS衛星軌道の補正をする方法について提案をおこなった。 本人担当分：解決方法の提案と宇宙工学的な見地から評価し、研究指導を行なった。 共著者：野村昌史，米川雅士，田中敏幸
4.GPS Positioning Method under Condition of Only Three Acquired Satellites （査読付き）	共著	平成20年 8月	SICE Annual Conference 2008, pp.3487-3490	GPSを用いた測位には最低でも4衛星からの直接信号を同時に受信する必要がある。しかし、一般的に利用される街中では建物や道幅の狭さから4機の衛星情報を同時に受信する事は難しい。そこで、著者らは新たな計算アルゴリズムの開発によって，3衛星を用いた測位アルゴリズムについて提案した。本手法は3機の衛星情報を連続した時間で取得し、6機の衛星が見えていると仮定し測位に利用したアルゴリズムである。 本人担当分：解決方法の提案と宇宙工学的な見地から評価し、研究指導を行なった。 共著者：野村昌史，米川雅士，田中敏幸
5.The Possibility and Practicality of A High Precision Positioning System using The Carrier （査読付き）	共著	平成20年 8月	SICE Annual Conference 2008, pp.3491-3495	世界中で自分の位置がわかるという事から、信頼性と利便性が高いとされている衛星を利用した測位技術が注目を集めている。しかし，測位方法には「空が見えていないと行けない」「同時に4機以上の衛星を補足しなくてはならない」「測位結果には誤差が含まれる」など様々な制約があるため一般的な利用があまり普及していない。そこで著者らは，制約事項の少ない測位方法を目指して、搬送波による高精度測位法の実現に向けたアルゴリズムの提案を行っている。 本人担当分：システム提案・構築から実験結果の論理的に評価し、論文のとりまとめを行なった。 共著者：米川雅士，田中敏幸
6.Recovery Method from Cycle Slip in GPS Positioning （査読付き）	共著	平成20年 8月	SICE Annual Conference 2008, pp.3496-3499	市街地でGPSを利用した場合，高層建築物にさえぎられて，一時的にGPS衛星からの直接信号が受信できなくなることがある。これをサイクルスリップという。本論文では，サイクルスリップから測位計算を復帰させるアルゴリズムに関する報告を行っている。サイクルスリップが起きる前の測位状況からサイクルスリップ発生時の測位結果予測と、他衛星の擬似距離の変化による測位点の補正をすることで、サイクルスリップ復旧後に即座に高精度な測位が開始できる。 本人担当分：解決方法の提案と宇宙工学的な見地から評価し、研究指導を行なった。 共著者：秋山奈緒，米川雅士，田中敏幸
7.High Accuracy Positioning of Two-Wheeled Vehicle at High Speed teraveling using GPS （査読付き）	共著	平成20年 8月	SICE Annual Conference 2008, pp.3500-3503	衛星を利用してリアルタイムに自分の位置を求めようとすると測位結果には大きな誤差が付加される。本研究では高速走行中の二輪車の位置をGPSで計測する新しい手法について提案している。高速走行中の二輪車は，カーブを曲がる際に車体を大きく傾けるためアンテナの指向方向が変わるため補足できる衛星の状態が時々刻々変化する。そのために測位結果が悪くなってしまう。測位結果から二輪車の挙動をモデル化し事後処理で測位結果を改善するアルゴリズムの提案を行なった。 本人担当分：解決方法の提案と宇宙工学的な見地から評価し、研究指導を行なった。 共著者：林昌輝，米川雅士，田中敏幸

8.Improvement accuracy in measurement of long baseline DGPS （査読付き）	共著	平成20年 8月	SICE Annual Conference 2008, pp.3504-3508	正確な位置がわかっている基準局から補正情報を受け取り測位精度向上を目指した方法であるDGPSは基準局と受信機の距離が長が長くなるほど同一誤差成分が違ってくるために精度が悪くなるという問題を持っている。DGPSにおける同一誤差成分は殆どが疑似距離に含まれる誤差なので衛星仰角に対する重み付け最小二乗法を用いて、受信機位置からの水平方向におけるバイアスを設定する事で誤差補正を行ない，長基線DGPSの測位精度向上を行った。 本人担当分：解決方法の提案と宇宙工学的な見地から評価し、研究指導を行なった。 共著者：松下孝，米川雅士，田中敏幸
9.A Study of The Possibility of Positioning Using Small Number of Satellite （査読付き）	共著	平成21年 8月	ICCAS-SICE 2009, pp.1785-1789	衛星を利用した測位を行う場合は最低4機の衛星が同時に見えなければ測位を行うことはできない。しかし、日本の街中での特徴として建物が高い、道が狭いということが上げられるため、一般的な街中で測位衛星を4機以上補足できる割合は全国の土地面積から考えると約60％しかない。そのため著者は測位衛星が補足できる機数が4機以下でも測位が可能なアルゴリズムについて提案を行った。通常測位は3次元の空間において測位アルゴリズムを解くが、一般的に利用される情報は緯度経度である。よって、著者らは２次元の平面を求める新しい測位アルゴリズムの提案を行なった。 本人担当分： 共著者：米川雅士，田中敏幸
10.Method for accuracy improvement of GPS measurement in the city （査読付き）	共著	平成21年 8月	ICCAS-SICE 2009, pp.3966-3969	衛星を利用した測位を行った場合、衛星からの電波を直接受信するのではなく、ビルなどからの反射波を受診してしまい。測位結果に大きな誤差が含まれる場合がある。これをマルチパスというが衛星を利用した測位を最も多く利用する街中ではこのマルチパスが大きな問題となっている。そのため著者らは衛星からの電波を連続受信する事でマルチパスか直接波かを判断し、マルチパスの場合は連続受信電波に付加される同一誤差を補正する事で、マルチパスを軽減する新しい方法を提案した。 本人担当分：解決方法の提案と宇宙工学的な見地から評価し、研究指導を行なった。 共著者：松下孝，米川雅士，田中敏幸
11.Implementation of an Efficient High-Accuracy Model for Personal GPS Receivers （査読付き）	共著	平成22年 5月	SICE Journal of Control, Measurement, and System Integration, Vol.3, No.3, pp.206-212	衛星を利用した測位結果には誤差が含まれる。この誤差の原因は様々ある。この誤差を軽減もしくは取り除くための研究が世界中で行なわれているが、測位環境についての測位誤差の研究を行っている研究者は殆どいない。本研究では、受信機から衛星の見え方についての補正モデルを提案した。補正モデルとしては衛星の仰角と太陽風の影響を加味したモデルである。これにより、通常の単独測位で利用できる補正方法より高精度な測位結果を得る事ができる。 本人担当分：システム提案・構築から実験結果の論理的に評価し、論文のとりまとめを行なった。 共著者：米川雅士，田中敏幸
12.簡易型バスロケーションシステムへの取り組み	単著	平成22年 11月	情報学フォーラム紀要，奈良産業大学情報学部創設10周年記念，pp.59-63	位置情報を提供するサービスはネットワークの普及と共に注目をあびている。しかし、システムを組むとなると大変なコストがかかる。本研究は幼稚園バスの位置情報を保護者に通知するシステムを低コストで作成した。サーバーシステムにはフリーソフトとPC、位置情報通知装置には携帯電話を利用した。刻一刻と変わる位置情報を自動で取得するために携帯電話でHPにアクセスする事で問題を解決した。

13.衛星を利用した測位を林業へ応用する場合の課題	単著	平成23年 3月	奈良産業大学地域公共学総合研究所年報，第1集，pp.59-72	日本は世界最先端のIT国家を目指して制定されたe-Japan戦略に基づき「超高速ネットワークインフラ整備及び競争政策」を実施している。この中に国民へGISを利用した情報共有と提供が記述されている。しかし、GISには300以上の機能があり、様々な事ができるため専門家しかシステムを操作する事ができなくなったという問題点がある。著者は奈良県から県有林を借用しGISの問題点を解決しGISを中心とした産業の確立を行なうシステムを提案した。GISを誰でも利用できるために情報収集からGISと考えた。この情報収集に衛星を利用した位置情報をキーとして複数の情報を自動で関連づける方法を提案した。
14.山林における衛星を利用した高精度測位手法の提案	単著	平成24年 3月	奈良産業大学地域公共学総合研究所年報，第2集，pp.39-52	GISを林業に利用する場合、作業場所は山岳地帯である。山岳地帯は山の傾斜、周りにある他の山、木々によって衛星からの受信状況が悪い環境である。そのため林業ではなかなか衛星を利用した位置情報は利用されてこなかった。著者は人間の徒歩速度から移動共分散をモデル化し最適な測位アルゴリズムを提案した。これにより、他の測位アルゴリズムと比べも安定した測位結果を得る事ができる。
15.新しいGISの提案と林業への応用	単著	平成24年12月	奈良産業大学地域公共学総合研究所年報 第3集，pp.17-33	GISは地理情報をベースに様々な分野の情報を統合管理でき、それら情報を使って評価・解析など様々な機能を有している。しかし、様々な機能を有しているがため専門家でなければ利用することが困難なシステムになっている。この問題に対し、私は一般的な人が利用するためにGPSの位置情報を軸に自動的に全てのデータを統合するGISを提案した。その提案したGISの基本となる地理情報（地図と空中写真）の自動統合について研究を行った。
16.新しい出欠管理システムに向けた提案	単著	平成25年2月	奈良産業大学情報学フォーラム紀要 第8巻，pp.141-157	文部科学省による大学設置基準と通達により、授業時間についての厳格化が求められるようになった。これにより授業への参加が殆どの大学で義務化されている。しかし、出欠確認には時間がかかるためシステムを利用する動きが加速する中、様々な問題も生まれてきている。そこで測位技術を利用した出欠管理システムについて提案する。本論文には室内での携帯電話、スマートフォンの衛星受信状況から、携帯電話、スマートフォンが利用している独自の測位アルゴリズムの評価を行い、提案システムに利用できるか検討し、緯度経度の情報を複数人数集めることで統計的に処理することにより高精度な測位結果を得ることが出来た。
17.携帯端末によるシステム構築	単著	平成25年3月	奈良産業大学紀要 第29集，pp.199-206	平成24年にはスマートフォンの普及率が39.8%になり前年比で普及率は倍増している。また、近年はタブレット端末なども急速に普及していることから、システム構築を考える上で携帯端末の利用は必要不可欠な状態となってきている。しかし、携帯端末は今までのコンピュータと違い、利用者のネットワーク環境が整っていればどこからでもアクセスができ、またGPS受信機、加速度センサー、タッチパネルなど様々なセンサー類も装備していることから、構築できるシステムの幅が大きく広がったことは言うまでもない。この携帯端末を使ってシステムを構築する場合にどのようなシステムが構築可能か検証するため、各種センサー類の精度、ネットワーク環境におけるデータ通信量と安定度について評価し、システム構築の可能性について論じた。

（その他）				
「口頭発表」				
1.地域公共交通におけるＬＢＳ	—	平成18年11月	第23回誘導制御シンポジウム，pp. 81-84 （於宇宙航空研究開発機構 航空宇宙技術センター飛行場分室）	福島県いわき市、常磐交通と共に産学連携で地方公共交通のあり方について研究を行った結果を発表した。地方の公共交通機関は国から地方への交付金削減、若い世代の都会への流出、一般企業のサービス向上などにより公共交通機関が利用されなくなってきた。利用されないため本数の削減、より一層の利用率低下と地方交通は負のスパイラルに陥り倒産が相次いでいる。よって、バスを路線と考えず路面と考えて運行する事を試験的に実施した。バスの位置はネット環境から確認ができ、利用者がいるバス停のみを結ぶような路線をシステムで毎回決定するようなフレキシブル路線システムを導入したバス運行を実現した。これにより、駅前の商店街でバスが車での間飲食をする人が増え、町の活性化に繋がった。 本人担当分：本運用システムの開発責任者とシステムによる評価担当 共著者：浅井義彦，米川雅士，高橋輝，星野宇宙，西村敏充
2.電離層遅延補正によるGPS測位精度の向上	—	平成18年11月	GPS／GNSSシンポジウム 2006，p.214 （於東京海洋大学）	GPSを利用した測位には誤差が必ず付加される。様々な要因があるが、最も大きな要因は電離層である。そのため世界中で多く研究されている分野の1つである。最も一般的な補正方法はクロブッチャーモデルの利用である。これは、GPS衛星から送信されてくるデータに補正に必要な情報が格納されているからである。このクロブッチャーモデルは日照時間による影響で電離層の誤差料を計算し補正する方法である。本発表ではクロブッチャーモデルに衛星の仰角を加味した新しいモデルの提案について発表した。これは、仰角が低ければ電波が電離層を通過する距離が長くなる事を差している。 本人担当分：解決方法の提案と宇宙工学的な見地から評価し、研究指導を行なった。 共著者：秋山菜穂，米川雅士，田中敏幸
3.複数基準局を用いたＧＰＳ衛星の軌道誤差低減	—	平成18年11月	GPS／GNSSシンポジウム 2006，p.217 （於東京海洋大学）	通常の軌道決定は長時間衛星と地上局の距離を観測して予測する。しかし、GPSにおいては日本国内に国土地理院管轄の地上局が1500カ所以上設置してある。また、測位位置精度2mm程度なら５時間程度の連続受信で求める事ができるため、正確な座標の地上局は簡単に定義する事ができる。この地上局を複数利用する事でGPS衛星の軌道と位置を正確に求めるためのアルゴリズムについて発表した。本方法で正確なGPS衛星の軌道と位置を求める事ができれば、そのデータから別の受信機の測位精度向上も望める。 本人担当分：解決方法の提案と宇宙工学的な見地から評価し、研究指導を行なった。 共著者：野村昌史，米川雅士，田中敏幸
4.測位衛星システム複数併用による測位精度の向上	—	平成18年11月	GPS／GNSSシンポジウム 2006，p.220 （於東京海洋大学）	電離層の補正には経度緯度方向を5°毎の格子点に分けて広域の補正値を求めるIGPという手法があるが、これは複数の地上局とその補正値を送信するための設備が必要となる。本発表は２周波受信である程度の予測値を立て、そこから単独地上局で正確なIGPを導きだす方法について発表した。また、キーポイントして同一方向の衛星を利用するとIGPの精度が上がる事から、ロシアの測位衛星システムGLONASSを併用している。 本人担当分：解決方法の提案と宇宙工学的な見地から評価し、研究指導を行なった。 共著者：清水聡，米川雅士，田中敏幸

5.搬送波を利用した高精度衛星測位方法の可能性と実現	—	平成19年10月	第24回センシングフォーラム資料，1A2-3，pp.37-41 （於東北文化学園大学）	搬送波を使った測位は擬似距離を伝送路時間から計算するのではなく搬送波の波の数をカウントすることでより正確な擬似距離を求めるられるため正確な測位結果を得ることができる。しかし、この正確な波の数を求めるために様々な制約がある。受信機とは別に正確な位置がわかっている地上局が必要である。地上局の側でないと高精度な測位はできない。受信開始に時間がかかる。受信を開始しだしたら同一衛星を測位に利用し続けなくてはならないなどあるが、本発表では通常の単独測位で利用されている各誤差軽減手法と受信状況を加味したモデルによる補正によって高精度に擬似距離を求めることが可能となった。これにより短時間で擬似距離の波の数を求めることができるか可能性について発表した。 本人担当分：システム提案・構築から実験結果の論理的に評価し、論文のとりまとめを行なった。 共著者：米川雅士，田中敏幸
6.少衛星数下における測位方法の提案	—	平成19年11月	GPS／GNSSシンポジウム2007，p.283 （於東京海洋大学）	衛星を利用した測位は同時に4機以上の衛星から受信して測位を行なっている。しかし、一般的な街中で宇宙を飛行している衛星を4機以上補足できないことが多い。そのため 本人担当分：解決方法の提案と宇宙工学的な見地から評価し、研究指導を行なった。 共著者：野村昌史，米川雅士，田中敏幸
7.単一基準局を用いた長基線DGPSの測位精度向上	—	平成19年11月	GPS／GNSSシンポジウム2007，p.286 （於東京海洋大学）	正確な位置がわかっている基準局から補正情報を受け取り測位精度向上を目指した方法であるDGPSは基準局と受信機の距離が長くなるほど同一誤差成分が違ってくるために精度が悪くなるという問題を持っている。DGPSにおける同一誤差成分は殆どが疑似距離に含まれる誤差なのか検討を行い、長基線DGPSの測位精度向上の可能性について発表した。 本人担当分：解決方法の提案と宇宙工学的な見地から評価し、研究指導を行なった。 共著者：松下孝，米川雅士，田中敏幸
8.GPSを用いた二輪車走行時の測位計算法	—	平成19年11月	GPS／GNSSシンポジウム2007，p.287 （於東京海洋大学）	高速走行中の二輪車にGPS受信機を設置した際、測位精度が大きく悪くなる事がわかった。そのためどのような場合に測位精度が悪くなるのか検証を行った。悪くなる点としては、カーブを曲がるときであり、アンテナの指向方向が変わるため補足できる衛星の状態が時々刻々変化する。そのために測位結果が悪くなってしまう事がわかり、これについて発表を行った 本人担当分：解決方法の提案と宇宙工学的な見地から評価し、研究指導を行なった。 共著者：林昌輝，米川雅士，田中敏幸
9.サイクルスリップ時における最適な測位復元手法	—	平成19年11月	GPS／GNSSシンポジウム2007，p.288 （於東京海洋大学）	搬送波を利用した衛星測位において1つの制約事項であった「測位が開始された場合、同一衛星を利用し続けなければならない」について、この事象をサイクルスリップというが、これは波の数を求めた衛星と受信機の間に建物などが入り受信が途切れてしまうことを言う。通常はサイクルスリップが起きた場合は、波の数を最初から求め直さなくてはならないが、本発表で提案したサイクルスリップ復元方法を利用すれば、ある程度おサイクルスリップが起きても高精度な測位が復旧できる、これは実測値と予測値の開き方に規則性があったため、式による補正で実現させた。 本人担当分：解決方法の提案と宇宙工学的な見地から評価し、研究指導を行なった。 共著者：秋山菜穂，米川雅士，田中敏幸

10.GPSを用いた３衛星下における測位アルゴリズム	—	平成20年 9月	第25回センシングフォーラム資料，2C1-1，pp.263-267（於佐賀大学）	GPSを用いた測位には最低でも4衛星からの直接信号を同時に受信する必要がある。しかし、一般的に利用される街中では建物や道幅の狭さから4機の衛星情報を同時に受信する事は難しい。そこで、著者らは新たな計算アルゴリズムの開発によって，3衛星を用いた測位アルゴリズムについて提案した。本手法は3機の衛星情報を連続した時間で取得し、6機の衛星が見えていると仮定し測位に利用したアルゴリズムである。 本人担当分：解決方法の提案と宇宙工学的な見地から評価し、研究指導を行なった。 共著者：野村昌史，米川雅士，田中敏幸
11.搬送波を利用した新測位方法の提案	—	平成20年 9月	第25回センシングフォーラム資料，2C1-3，pp.272-277（於佐賀大学）	搬送波を使った測位は擬似距離を伝送路時間から計算するのではなく搬送波の波の数をカウントすることでより正確な擬似距離を求めるられるため正確な測位結果を得ることができる。しかし、この正確な波の数を求めるために様々な制約がある。受信機とは別に正確な位置がわかっている地上局が必要である。地上局の側でないと高精度な測位はできない。受信開始に時間がかかる。受信を開始しだしたら同一衛星を測位に利用し続けなくてはならないなどあるが、本発表ではこの波の数を受信機単独でカウントするアルゴリズムについて発表を行った。波の数を数える前に高精度なモデルによる擬似距離の補正を行い。その議事距離を元に波の数を予測し、正確な波の数に高速で絞り込む手法を提案した。 本人担当分：システム提案・構築から実験結果の論理的に評価し、論文のとりまとめを行なった。 共著者：米川雅士，田中敏幸
12.街中でのＧＰＳ搬送波測位アルゴリズム	—	平成20年 9月	第25回センシングフォーラム資料，2C1-5，pp.283-287（於佐賀大学）	衛星を利用した測位の中で、最も高精度な測位は搬送波を利用した測位である。しかし、搬送波を利用した測位はなかなか利用されない。それは市街地で利用した場合，高層建築物にさえぎられて，一時的にGPS衛星からの直接信号が受信できなくなることがある。これをサイクルスリップという。街中ではこのサイクルスリップが多発するため利用が困難になっている。よって本発表はサイクルスリップから高速で復旧する方法について発表している。 本人担当分：解決方法の提案と宇宙工学的な見地から評価し、研究指導を行なった。 共著者：秋山菜穂，米川雅士，田中敏幸
13.街中でのGPS単独測位の精度改善法	—	平成21年 9月	第26回センシングフォーラム資料，2C1-3，pp.289-293（於東京工業大学）	衛星を利用した測位を行った場合、衛星からの電波を直接受信するのではなく、ビルなどからの反射波を受診してしまい。測位結果に大きな誤差が含まれる場合がある。これをマルチパスというが衛星を利用した測位を最も多く利用する街中ではこのマルチパスが大きな問題となっている。そのため著者らは衛星からの電波を連続受信する事でマルチパスか直接波かを判断し、マルチパスの場合は連続受信電波に付加される同一誤差を補正する事で、マルチパスを軽減する新しい方法を提案した。 本人担当分：解決方法の提案と宇宙工学的な見地から評価し、研究指導を行なった。 共著者：松下孝，米川雅士，田中敏幸

14.少衛星による測位実現の可能性について	—	平成21年 9月	第26回センシングフォーラム資料, 2C1-5, pp.300-304 (於東京工業大学)	衛星を利用した測位を行う場合は最低4機の衛星が同時に見えなければ測位を行うことはできない。しかし、日本の街中での特徴として建物が高い、道が狭いということが上げられるため、一般的な街中で測位衛星を4機以上補足できる割合は全国の土地面積から考えると約60%しかない。そのため著者は測位衛星が補足できる機数が4機以下でも測位が可能なアルゴリズムについて提案を行った。通常測位は3次元の空間において測位アルゴリズムを解くが、一般的に利用される情報は緯度経度である。よって、著者らは２次元の平面を求める新しい測位アルゴリズムの提案を行なった。 本人担当分：システム提案・構築から実験結果の論理的に評価し、論文のとりまとめを行なった。 共著者：米川雅士, 田中敏幸
15.衛星による奈良県林業モニターに関する研究	—	平成23年 3月	平成22年度研究所経過報告会 (於奈良産業大学)	奈良県の歳入は下がり続けており雇用も減少している。このような状況で全国7位の森林保有率を誇る奈良県として林業を1つの産業として確立する事は、産業の確立、環境問題、資源問題にもよい結果をもたらす事について発表した。その方法として感覚と経験で運用している林業を情報統合しハウスメーカーまで共有の情報を知る事ができるシステムであるGISを利用する方法を提案した。また、GISには問題点がありその問題点を解決する方法についても話した。
16.抵コスト位置測位システム構築とソフトウェアによる補正方法の提案	—	平成23年11月	第6回パーソナルコンピュータ利用技術学会全国大会 (於大東文化大学)	位置情報を提供するサービスはネットワークの普及と共に注目をあびている。しかし、システムを組むとなると大変なコストがかかる。本研究は幼稚園バスの位置情報を保護者に通知するシステムを低コストで作成した。しかし、低コストで仕上げたために測位精度の悪さ、補正情報の取得の難しさから、簡易受信機による補正を提案した。 本人担当分：解決方法の提案と宇宙工学的な見地から評価し、研究指導を行なった。 共著者：斎藤悟志, 米川雅士
17.山林における作業状況情報収集について	—	平成24年 3月	平成23年度研究所経過報告会 (於奈良産業大学)	提案する森林データ統合利用型GISは今までのGISと違い、利用しやすさと運用のしやすさを追求するために入力データ取得から1つのシステムとして考える考え方を提案している。よって、私は地上と空中のデータ取得方法について提案手法と結果を発表した。地上のデータ取得は林業に利用する場合、作業場所は山岳地帯である。山岳地帯は山の傾斜、周りにある他の山、木々によって衛星からの受信状況が悪い環境である。そのため林業ではなかなか衛星を利用した位置情報は利用されてこなかった。そのため最適な作業場所を見つけ出す方法として最適フィルタの設計を行ない、一般的に利用されている最小二乗法と比較した。空中のデータ取得は誰でも簡単にが重要であるため、人間が直接操縦しなくてもよいように自動航法ラジコンヘリコプターの制作を進めている事を発表した。想定している機材は全てそろった事も合わせて報告した。
18.自動オルソ化に向けた空中写真の新しい高精度測位アルゴリズムの提案	—	平成24年10月	地理情報システム学会 第21回研究発表大会 (於広島修道大学)	GISで基本となる地理情報（空中写真と地図情報）の取得には大変な労力とお金がかかる。そのためGISの地理情報は古いままで利用している事が多々ある。私は空中写真を自律航法ができるラジコンヘリコプターを安価で作成し、手軽に空中写真を取得する方法とその空中写真の連続性から空中写真の取得位置を高制度化させる新しい測位アルゴリズムを提案し、様々な速度と高度において新しいアルゴリズムが正しく測位ができるのか報告した。 また、本大会では司会者を努め発表者の審査委員の一人としても参加した。

19.自動航法ラジコンヘリコプターによる空中写真取得と高精度位置情報取得方法の提案	―	平成25年 3月	平成24年度研究所経過報告会 （於奈良産業大学）	近年GISを使った情報共有が急速に進んでいるが、GISには多くの評価、解析、情報統合など約300種類以上の機能が備わっているため、専門家以外には利用が難しいシステムとなっている。そこでGISを誰でも利用できるシステムとするために研究を進めている。本発表では2種類の成果を発表した。1点目はGISの基本データの1つとなる空中写真を安価で取得するために自動航法ラジコンヘリコプターを制作した事。2点目は自動航法ラジコンヘリコプターが取得した空中写真の自動オルソ化に向けて写真に付加する位置情報を高精度化するために新しい測位アルゴリズムを構築した事を報告した。
20.スマートフォンを用いた星座鑑賞用ARアプリケーション	―	平成25年 12月	第8回パーソナルコンピュータ利用技術学会全国大会 （於大阪国際大学）	スマートフォンには各種センサが標準装備されており、スマートフォンによる様々な新しい利用用途が日々発表されている。そこでスマートフォンの各種センサとカメラを並列で利用することにより、カメラに仮想の星空を映し出すことで、都市部などでもきれいな星空を観測できる事を目的として発表した。 この研究は、朝や夜も関係なく、天気に左右されることもなく、また街の明かりなども気にすることなく、身近に星空を感じることができ教育など利用することが期待できる。

［注］

1 最近10年間の教育活動、研究活動について作成すること。

2 「教育活動」については、各項目ごとに年月日順に、「学会等および社会活動」については、就任年月日順に記入すること。

3 「研究活動」については、下記の点に留意すること。

① 著書・論文及びその他の順に、発表年月日順に記入すること。

② 著者が複数にわたる場合で、筆頭著者が著書・論文等において明示されている場合には、その氏名に◎印を付すこと。

③ 共著（論文）の場合、「該当頁数」の記入にあたっては、本人の分担箇所を特定できる場合は、その頁数を記載すること。

④ 最近10年間に著書・論文等の発表のなかった者についても、教員名を挙げてその部分を空欄にしておくこと。

⑤ 芸術分野や体育実技等の分野を担当する教員については、著書・論文等以外の競技会、展覧会または演奏会等での発表のうち、特に顕著な業績と認められるものについても記載すること。このほか、専門分野の特性を 考慮し、顕著な業績と認められるものがある場合もこれに含めてもよい。

教育・研究業績書

地域公共学総合研究所

教　育　研　究　業　績　書

平成26年3月31日

氏　名　　井上　眞理子

研究分野	研究内容のキーワード
社会学(Sociology)	子ども虐待，child abuse，心神喪失者等医療観察法，人工授精・体外受精，artifificial insemination，in vitro fertilization，企業犯罪とその統制，corporate crime and regulation of it

教育上の能力に関する事項

事項	年月日	概要
1　教育方法の実践例		
1）臨床社会学的観点から、理論の応用・実践の現場を学生が知る機会を設けている。	平成12年4月～現在	＊京都家庭裁判所の見学と家庭裁判所調査官の講演（毎年実施している）。 ＊京都府子ども家庭総合センターの見学。 ＊少年院法務教官や障害児教育専門家等を招き、講演会の実施。
2　作成した教科書，教材		
3　教育上の能力に関する大学等の評価		
1）前任校である京都女子大学における「学生による授業評価」の結果は良好であった。また非常勤校における「学生による授業評価」の結果は良好であった。	平成12年～現在	一例をあげると平成24年度後期現代社会学部専門科目「臨床社会学」において、「全体としてこの授業に満足できた」という設問に対して学生の評価の平均は4.5であり、これに対して大学平均は4.2であった。また「教員の授業に対する熱意を感じた」では4.6であり、大学平均は4.3であった。非常勤では平成25年度後期大谷大学文学部・大学院対象科目「現代家族論」において総合評価4.6であったが、これに対して全授業平均総合評価は4.2であった。」
4　実務の経験を有する者についての特記事項		
特記事項なし		
5　その他		
特記事項なし		

職務上の実績に関する事項

事項	年月日	概要
1　資格，免許		
修士（文学）	昭和48年3月	京都大学　文修第１２８０号
博士（文学）	平成17年3月	京都大学 論文博第４８３号 論文題目：「ファミリー・バイオレンスの臨床社会学的アプローチ：子ども虐待問題を具体的論題として」
2　特許等		
特記事項なし		

3　実務の経験を有する者についての特記事項		
京都家庭裁判所家事調停委員	平成14年4月 ～現在	平成14年4月より現在に至るまで京都家庭裁判所家事調停委員を務め、様々な家事事件（夫婦関係調整・離婚・離婚に伴う親権者の指定・養子縁組・遺産相続等）の調停を行った。社会学的な理論・概念を活用して多くの家事事件を成功裡に調停して当事者から感謝されている。
4　その他		
特記事項なし		

研　究　業　績　等　に　関　す　る　事　項

著書，学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所，発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　要
（著書）				
1．現代家族のアジェンダ－親子関係を考える－	共著	平成16年10月	世界思想社	現代の親子関係に関するいくつかのアジェンダ（少子化、生殖補助医療、子ども虐待等）を取り上げ学際的かつ総合的な把握を試みた。担当部分pp.1-27「現代の親子関係を考える」，pp.91-119「生殖補助医療における親子関係」。井上眞理子編、共同執筆者：井上眞理子、中川淳他7名
2．社会的コントロールの現在－新たな社会的世界の構築を目指して－	共著	平成17年3月	世界思想社	精神障害者の「犯罪」の処遇について、「リスク社会における社会統制」という観点からの分析を行った。担当部分pp.263-280「社会的コントロールとしての保安処分」。宝月誠・進藤雄三編。共同執筆者：宝月誠、進藤雄三他25名。
3.現代生殖医療－社会科学からのアプローチ－	共著	平成17年4月	世界思想社	生殖補助医療技術の進歩によって発生した「生殖の家族からの分離」現象を取り上げ、社会的・法的対応について論じた。 担当部分pp.78-99「生殖の家族からの分離」。上杉富之編。共同執筆者：上杉富之、出口顕他９名。
4．ファミリー・バイオレンス―子ども虐待発生のメカニズム―	単著	平成17年5月	晃洋書房	子ども虐待の発生のメカニズムおよび有効な対応・防止について論じた。2005年3月に京都大学に提出した博士論文を刊行したものである。A5版、総頁数202.
5．学問の小径	共著	平成18年5月	世界思想社	臨床社会学の方法論における問題点とその改善について論じた。担当部分pp.123-137「臨床社会学について考える」。大橋良介、高橋三郎、高橋由典編。共同執筆者：阿部哲三、井上俊他20名
6．医療化のポリティクス－近代医療の地平を問う	共著	平成18年9月	学文社	2003年に成立した「心神喪失者等医療観察法」を保安処分との関連で論じた。担当部分pp.97-112「制裁としての医療―心神喪失者等医療観察法と保安処分」。森田洋司・進藤雄三編、共同執筆者：市野川容孝、斉藤環他16名。
7．子ども虐待への臨床社会学的介入	単著	平成19年5月	平成16年度～17年度科学研究費補助金（基盤研究C）研究成果報告書	全国の都道府県における、地域社会に基盤をおいた子ども虐待への対応・防止の取組みに対してアンケート調査を実施し、その結果を分析したものである。A4版、総頁数44.
8．リスク・ファミリー－家事調停の現場から見た現代家族－	単著	平成19年7月	晃洋書房	家庭裁判所家事調停委員としての経験に基き、現代家族の諸問題と家庭裁判所、家事調停のあり方について論じた。四六版、総頁数188.
9．子ども虐待への対応における家族介入的方法の有効性と問題点	単著	平成21年3月	平成18年度～19年度科学研究費補助金（基盤研究C）研究成果報告書	全国の児童養護施設のうちから系統抽出法で抽出した100施設に対して行った質問紙調査「虐待を受けた子どもと児童養護施設」の結果を分析し、家族介入的方法の有効性と問題点を論じた。A4判、40頁。

10. 家族社会学を学ぶ人のために	共著	平成22年2月	世界思想社	変化し多様化する家族を「病理的形態」ではなく、問題解決に取組む「開かれたシステム」と位置づけ分析した。総頁数３０８．担当部分pp.1-27「1、はじめに―家族は～であるなんてきめつけられない―」、pp.176-201「ファミリー・バイオレンス」。井上眞理子編、共同執筆者・西川祐子、岩井八郎他9名。
11. 社会学事典（日本社会学会社会学事典刊行委員会編）	共著	平成22年6月	丸善株式会社	「ファミリー・バイオレンス」について解説した。担当頁pp.680-681
12. 家庭内暴力発生のダイナミックスと有効な対応：平成20～平成22年度科学研究費補助金（基盤研究（C））研究成果報告書	単著	平成23年5月	京都女子大学	全国の都道府県警少年課及び少年による家庭内暴力問題に取り組んでいる65の民間団体に対して「少年による家庭内暴力」についての質問紙調査を実施し、調査結果に基づいて家庭内暴力発生のダイナミックスと有効な対応について検討した。
13. 命題コレクション社会学（文庫版）	共著	平成23年12月	筑摩書房	本書は社会学を代表する50の命題についてその面白さを解説したものである。井上はそのうち「文化としての性差（M.ミード）」と「アイデンティティとモラトリアム（E.H.エリクソン）」について説明を行った。
14.家族社会学を学ぶ人のために（第2刷）	共編著	平成25年4月	世界思想社	第1刷の内容に修正・加筆した。
15.社会調査事典	共著	平成26年1月	丸善出版	「家族病理」について解説した。担当pp.410-411
16.共生社会を考える：奈良産業大学公開シンポジウム2013	共著	平成26年3月	奈良産業大学	「現代家族の脆弱さと共生社会」について問題提起を行い、またパネルディスカッションに参加した。
（学術論文）				
1. リスク社会における「犯罪」の創出	単著	平成16年5月	『フォーラム現代社会学』第3号（関西社会学会）	U.ベックの「リスク」概念に依拠しながら、現代社会におけるリスクの「個人化」また「危険化」現象を批判した。pp.3-8
2. 「心身喪失者等医療観察法」をめぐる問題	単著	平成16年12月	『日本犯罪社会学会第31回大会報告集』	「心神喪失者等医療観察法」について「リスク社会論」的観点から批判的に分析した。Pp.21-25.
3. 防犯のまちづくりと人権	単著	平成17年2月	『広報みき』第671号（兵庫県三木市）	性犯罪歴に関する情報公開の問題を人権の観点から論じた。
4. ファミリーバイオレンスへの臨床社会学的アプローチ－子ども虐待問題を具体的課題として－（博士論文）	単著	平成17年3月	博士論文として京都大学文学部に提出。	臨床社会学の方法論的特性を明らかにした上で、子ども虐待の発生メカニズムの解明およびその防止と対応への臨床社会学の適用を試みた。本論文により、2005年3月23日京都大学博士（文学）の学位を授与された。A4版、総頁数128.
5. 愛と暴力の迷路として家族	単著	平成18年1月	『分陀利華』第280号（京都女子大学宗教部）	子ども虐待への家族介入的対応の必要性と問題点を論じた。
6. 子ども虐待と人権	単著	平成18年2月	『広報みき』第686号（兵庫県三木市）	子どもの権利条約によりつつ「子どもの人権」の侵害という観点から子ども虐待について論じた。
7. 書評に応えて－『ファミリー・バイオレンス－子ども虐待発生のメカニズム』	単著	平成18年10月	『犯罪社会学研究』第31号	拙著『ファミリー・バイオレンス』への書評に対して応えたものであり，拙著における理論的立場と主張をさらに明確にしたものである。Pp.164-165.
8. 書評に応えて－『ファミリー・バイオレンス－子ども虐待発生のメカニズム』	単著	平成19年2月	『ソシオロジ』第51巻3号	拙著『ファミリー・バイオレンス』への書評に対して応えたものであり、拙著における理論的立場と主張をさらに明確にしたものである。Pp.173-177.

9. 現代日本の家族と人権－家事調停の現場から－	単著	平成20年1月	『広報みき』第732号（兵庫県三木市）	家事調停委員としての経験から、現代日本の家族における女性と子どもの人権について論じた。
10. 書評に応えて『リスク・ファミリー－家事調停の現場から見た現代家族』	単著	平成20年5月	『ソシオロジ』第53巻第1号	拙著『リスク・ファミリー』への書評に対して応えたものであり、拙著における理論的立場と主張をさらに明確にした。 Pp. 171-175
11. 子ども虐待発生のメカニズム	単著	平成20年8月	『第29回堺女性大学講座』 （堺市教育委員会）	子ども虐待発生を説明するさまざまな理論的アプローチについて紹介した。
12. 少年非行と「広汎性発達障害」	単著	平成21年1月	『日本犯罪社会学会第35回大会報告要旨集』	「広汎性発達障害」の概念を明らかにした後、広汎性発達障害と犯罪・非行に関する文献レビューを行い、それらを踏まえて近年の少年事件を分析した。pp. 34-36
13. 現代日本の少年非行	単著	平成21年3月	『隣保館だより』第333号（兵庫県三木市）	データに基づきながら少年非行が「激増」も「凶悪化」もしていないことを論じた。
14. 子ども虐待に対して地域社会は何ができるか？	単著	平成21年8月	『第30回堺女性大学講座』 （堺市教育委員会）	子ども虐待や虐待致死の多発という現状に対して、学校、市民、民生委員等が子ども虐待の早期発見と予防について果たす役割について論じた。
15. シンポジウムへのコメント	単著	平成22年12月	『家族療法研究』27巻3号	「リスク」概念を用いて現代家族論を論じた。6頁 pp. 265-270
16. 家族と暴力：ファミリー・バイオレンスの発生とそれへの対応	単著	平成23年6月	『フォーラム現代社会学』第10号（関西社会学会）	ファミリー・バイオレンス発生を説明する理論とファミリー・バイオレンス対応との照応を論じた。
（その他）				
1. 「リスク社会における精神障害者の『犯罪』と処遇」	―	平成16年10月	日本犯罪社会学会第31回大会	保安処分は行為者の過去の行為に対する責任非難とは直接関係なく、将来に予測される「危険性」を根拠としてその除去のために行われる。この観点から心神喪失者等医療観察法について検討した。
2. 「“家族神話”とファミリー・バイオレンス」	―	平成19年5月	第6回日本フェミニストカウンセリング学会全国大会	子ども虐待の問題を加害者のパーソナリティやトラウマに還元せず、家族機能・法・制度等社会学的観点から考察した。
3. 「家族と暴力：ファミリー・バイオレンスの発生とそれへの対応」	―	平成22年5月	関西社会学会第61回大会	ファミリー・バイオレンスの説明理論の変遷と子ども虐待への現実の対応の変遷とが対応していることについて検討した。
4.「シンポジウム＜リスク・ファミリーの臨床＞へのコメント」	―	平成22年6月	日本家族研究・家族療法学会第27回大会	「リスク」概念と関連づけてひきこもり・家庭内暴力等の現代の家族問題を考察した。
5.「ファミリー・バイオレンス：適応失敗的暴力か、規範同調的暴力か」	―	平成23年10月	日本社会病理学会第27回大会	ファミリー・バイオレンスを家族システム論に代表される「適応失敗的暴力」と入れ子型エコロジカル理論に代表される「規範同調的暴力」に区別して検討した。
6.「現代日本の家族の脆弱さと共生社会」	―	平成25年11月	奈良産業大学公開シンポジウム 2013	家族は「福祉の制度」のひとつと考えられてきたが、現代日本の家族の脆弱化を踏まえ。家族福祉と共生社会について論じた。
「新聞記事」 1. 60歳の憲法と私	―	平成19年7月	『朝日新聞』2007年7月16日朝刊	憲法24条「改正」の動きについて論じた。
「シンポジウム司会・コメンテーター」 1.「社会病理・社会問題」	―	平成17年5月	関西社会学会第56回大会	「社会病理・社会問題」部会で司会を務め、報告に基づく討論を深めた。
2.「性・ジェンダー」	―	平成18年10月	第79回日本社会学会大会	「性・ジェンダー」の部会で司会を務め、報告に基づいて議論を深めた。
3.「格差社会と犯罪研究」	―	平成18年10月	第33回日本犯罪社会学会	シンポジウム「格差社会と犯罪研究」のコーディネーター・司会を務め、報告に基づいて議論を深めた。

4.「環境メディアの誕生と社会」	ー	平成20年5月	関西社会学会第59回大会	シンポジウムのコーディネーターと司会を共同で務めた。
5.「少年非行と『広汎性発達障害』」	ー	平成20年10月	日本犯罪社会学会第35回大会	シンポジウムの「少年非行と『広汎性発達障害』」のコーディネーターと司会を務めた。

［注］

1 最近10年間の教育活動、研究活動について作成すること。

2 「教育活動」については、各項目ごとに年月日順に、「学会等および社会活動」については、就任年月日順に記入すること。

3 「研究活動」については、下記の点に留意すること。

① 著書・論文及びその他の順に、発表年月日順に記入すること。

② 著者が複数にわたる場合で、筆頭著者が著書・論文等において明示されている場合には、その氏名に◎印を付すこと。

③ 共著（論文）の場合、「該当頁数」の記入にあたっては、本人の分担箇所を特定できる場合は、その頁数を記載すること。

④ 最近10年間に著書・論文等の発表のなかった者についても、教員名を挙げてその部分を空欄にしておくこと。

⑤ 芸術分野や体育実技等の分野を担当する教員については、著書・論文等以外の競技会、展覧会または演奏会等での発表のうち、特に顕著な業績と認められるものについても記載すること。このほか、専門分野の特性を 考慮し、顕著な業績と認められるものがある場合もこれに含めてもよい。

教　育　研　究　業　績　書

平成26年3月31日

氏名　　宇津木　成介

研究分野	研究内容のキーワード
心理学	実験心理学、感情心理学、認知心理学

教育上の能力に関する事項

事項	年月日	概要
1　教育方法の実践例		
・コミュニケーション・ペーパーの配布	平成20年頃から	授業において「コミュニケーション・ペーパー」を配布し、質問、読書や他の授業等で得ている知識の提示を求める。翌週以降、そこに書かれた質問等に対する回答を配布し、学生の授業内容理解を援助している。これによって学生は、質問に対する答えを知るだけでなく、他の学生がどのような疑問をもっているかについて知ることができる。
・映像教材の積極的使用	平成20年頃から	著名な心理学実験に関する当時の映像記録の提示。例として、代理母実験において、F.H.ハーロゥがインタビューに答えて愛とはなにかを説明している画像。あるいはP.エクマンが作成したアクションユニットのデモ画像。また社会的参照に関するカンポスが行っている説明、マシュマロテストのデモ画像、攻撃行動の模倣に関するバンデューラのデモ画像など、著作権に配慮しながら提示している。本務校における「非言語コミュニケーション論」の授業においては、ほとんどの学生は初見であり、上記のコミュニケーション・ペーパーによるフィードバックによって、学生が授業のテーマに興味を持つことがわかる。
・基礎演習授業における実物教育	平成18年頃から	本務校は文系の学部であるため、学生は「計る、測る」ということに対して体験を持たない者が少なくない。そこで基礎の演習授業では履修者全員に電気回路計とストップウォッチを渡し、「何でもよいからはかって報告書を書いて来るように」指示している。正面階段を運動靴で上るときとハイヒールで上るときの所要時間を比べた学生、携帯電話を使用する乗客の数を朝と夕方で比較した学生など、「自分の手で数えたり測ったりすること」に対して動機づけが可能であると考える。
・演習授業における統計学の宿題	平成20年頃から	演習では心理学の領域で卒業論文を書く準備という目標を立てているが、心理学で使用する統計学の教育には時間が足りない。そこでｔ検定、χ２乗検定、ピアソン相関程度まで、配付資料とエクセルによる計算を義務づけて、レポートを提出させている。大学院に進学した学生からは、学部の演習で配布された資料を頼りに統計処理をしているというフィードバックをもらったことがある。統計学教育の充実に効果があると考えている。
2　作成した教科書，教材		
・パワーポイント教材の作成	平成18年頃から	授業はパワーポイントと映像、音声資料を併用して行っている。１回90分の授業に対し、平均60枚のスライドを準備するとともに、著作権のある画像を削除した24枚から48枚のスライドを印刷物として毎回配布している。
・心理学教科書の執筆	平成18年４月 平成21年４月 平成23年11月 平成24年４月 平成26年４月	授業の資料を生かすかたちで、心理学の概論書、入門書において感情心理学やコミュニケーションに関する章を執筆し、本務校に限られない初年時教育、教養教育に貢献している。

3　教育上の能力に関する大学等の評価		
4　実務の経験を有する者についての特記事項		
5　その他		

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
1　資格，免許		
2　特許等		
3　実務の経験を有する者についての特記事項		
4　その他		

研究業績等に関する事項				
著書，学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所，発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（著書）				
ポジティブ心理学	共著	平成18年4月	ナカニシヤ出版	本書は近年になって注目を浴びるようになってきたポジティブ心理学について書かれた本邦で最初の著作である。 A5版　全278頁 編者：島井哲志。 分担執筆：青木多寿子、浅川希洋志、穴井千鶴、宇津木成介、大石繁宏、大竹恵子、長田久雄、木村登紀子、小玉正博、島井哲志、鈴木直人、M.E.P.セリグマン、園田直子、大坊郁夫、津田彰、C.ピーターソン、堀毛一也。 担当部分「第2部第7章　ポジティブ感情心理学と情動知能」（pp.99-113）を単著 　まず幸福感においては、大きな利益を得ることより、大きな損失を回避することが重要であるという行動経済学の考え方に触れ、ついで感情心理学の立場から快感情の維持が効率的な情報処理の遂行を援助すること、物質的豊かさと幸福感の関連について、GNPやPPP（購買力平価）を指標とすると、日本人の幸福感が世界の標準からは逸脱して低いことを述べたあとで、P.サロベイらに端を発する「情動知能」の概念を紹介し、情動知能の高さが適応的行動と関わっていることについて、医学部の学生と留学生の情動知能に関する研究を例にとって論じた。

心理学・臨床心理学入門ゼミナール	共著	平成18年4月	北大路書房	本書は心理学の初等教科書であり、一冊で基礎心理学と臨床心理学の領域をカバーすることを企図したものである。 （A5版全286頁） 編者：島井哲志・池見陽 分担執筆：浅野浩子、安住伸子、生野照子、池上知子、池見陽、石谷真一、井上和臣、宇津木成介、大竹恵子、川崎弥生、岸本陽一、黒木賢一、児島達美、齋藤文夫、坂本真佐哉、島井哲志、高地知子、武知優子、田島孝一、玉木健弘、冨永良喜、中里浩明、本多雅子、増田千景、松永理恵、松本剛、三浦欽也、水田一郎、三井知代、三宅麻希、森永康子、山口素子、山祐嗣。 担当部分「第8章　感情・情動」（pp.66-74）を単著。 感情と情動の心理学について、初等教科書レベルの解説を行った。特徴は、感情の過程をまず心の問題よりさきに行動としてとらえ、従って、コミュニケーション行動の一つとして説明した点である。その後に、感情の認知理論として評価過程について説明し、その後に感情体験について述べた。また進化論的見地から、感情反応が適応的である場合について述べた。章末において、ジェームズ・ランゲ説とキャノン・バード説について歴史的観点から説明を加えた。
基礎から学ぶ心理学・臨床心理学	共著	平成21年4月	北大路書房	本書は心理学の初等教科書である。 A5版　全268頁 編者：山祐嗣、山口素子、小林知博 分担執筆：山祐嗣、水田一郎、武知優子、松永理恵、堀下智子、小林知博、川崎弥生、三浦欽也、宇津木成介、岸本陽一、池上知子、水本誠一、森永康子、出口宏、小林哲郎、山口素子、國吉知子、杉原保史、石谷真一、生野照子、三井知代、高地知子、奥紀子、田島孝一、玉木健弘、井上和臣、池見陽、坂本真佐哉、大利一雄、安住伸子、本多雅子、齋藤文夫、黒木賢一。 担当部分「第8章　動機づけと情動」（pp.62-74）を単著。 本章においては、動機づけと情動について概要を説明した。まず生理的な動因について述べ、次いで誘因と快不快の判断について説明した。またマズローの欲求の階層構造を例にとり、二次的欲求と社会的欲求について解説した。動因や欲求が行動主体の内部における欠如と関わるのに対し、感情や情動は、外部における何らかの状況や存在がその行動主体に対して都合がよい状態であるかどうかによって、それに対処するために生じることを説明した。適切な対処に必要な生理的反応があること、反応の一部はコミュニケーションとして機能していることを述べた。

わかりやすさとコミュニケーションの心理学（朝倉実践心理学講座５）	共著	平成22年2月	朝倉書店	本書は、「わかりやすいコミュニケーションとはどのようなものか」をテーマに書かれたものである。 A5版　全177頁 編者：海保博之。 分担執筆：宇津木成介、岡本真一郎、海保博之、加藤隆、向後千春、嶋田英明、冨永敦子、深田博己、松見法男。 担当部分「第4章　非言語的コミュニケーションの心理学」（pp. 62-86）を単著。 まずコミュニケーションの基礎となるコード系について説明した。また、感度・選択度について説明した。次いで心理学の分野で伝統的に非言語コミュニケーションとして取り扱われてきた現象について、近年の動物学の知見から、コミュニケーション行動と知覚とを区別して考える立場について論じた。また、非言語コミュニケーションにおける「わかりやすさ」として、メッセージの宛先について論述した。最後に典型的な非言語コミュニケーションについて例示しながら説明した。
脳とこころの視点から探る心理学入門	共著	平成23年11月	培風館	本書は心理学の初等教科書であるが、脳神経系の知見を基礎に書かれている点が特徴的である。 A5版　全229頁 編者：松本絵理子 分担執筆：木村貴彦、伊丸岡俊秀、松本絵理子、内藤智之、十河宏行、森下正修、関口貴裕、林良子、辻本悟史、石松一真、大坪庸介、宇津木成介、米谷淳、山田真希子 担当部分「4-2 コミュニケーションの心理学」（pp. 159-171）を単著 通信工学的なコミュニケーションについて述べ、次いで生物学的立場から他個体の行動を制御するコミュニケーションについて、コード系を信号検出理論の立場から記述した。最後に社会において「わかりあう」コミュニケーションについて、言語コミュニケーション、非言語コミュニケーション、説得コミュニケーションについて記述した。またコミュニケーションによって成立する他者の利益について述べた。そこでは、分業、愛他行動について述べ、最後に模倣と共感について説明した。
心理学概論-基礎から臨床心理学まで-	共著	平成24年4月	ふくろう出版	本書は大学における心理学の概論授業での使用を念頭において、15回の授業で基礎から臨床心理学的な話題までをカバーするように編さんされたものである。A5版　全260頁 編者：宇津木成介、橋本由里。 共著者：宇津木成介、田中裕、橋本由里、飯塚一浩、川中淳子、飯塚雄一、飯塚由美、他4名（コラム記事執筆者）。 担当部分「第1章　心理学とは」（pp. 1-9）「第4章　学習」（pp. 42-61）「第6章　言語と思考」（pp. 82-100）「第7章　動機づけと感情」（pp. 101-120）いずれも単著。 筆者が執筆した各章のうち、「感情心理学」にかかわる第７章においては、まず動機づけについて概説し、生理学的動因、社会的欲求、マズローの欲求階層モデルに言及した。次いで感情現象について、歴史的観点からデカルトの感情理論に、生理的反応の観点からジェームズとキャノンに、認知心理学的観点からラザルスに、コミュニケーション論的観点からはエクマンに言及した。また臨床心理学的見地から感情の異常に言及し、教科書後半の臨床的な諸章への橋渡しを行った。

心理学概論-基礎から臨床心理学まで-（第二版）	共著	平成26年4月	ふくろう出版	平成24年4月に出版した教科書の第二版である。初版を使用した教員からのフィードバックと、2年間の間に生じた行政的変化を反映した。図版を増やし、説明を新しくするなどした。初版は260頁であったが、第二版は本文が10頁増えたほか、索引をつけたことで277頁となった。 A5版　全277頁 編者：宇津木成介、橋本由里。 共著者：宇津木成介、田中裕、橋本由里、飯塚一浩、川中淳子、飯塚雄一、飯塚由美、他4名（コラム記事執筆者）。 担当部分「第1章　心理学とは」（pp. 1-9）「第4章　学習」（pp. 45-65）「第6章　言語と思考」（pp. 86-105）「第7章　動機づけと感情」（pp. 106-125）いずれも単著。 筆者が執筆した各章のうち、特に第6章は図版を増やし、説明を詳しくして改善を行った。
（学術論文）				
日本版主観的幸福感尺度（Subjective Happiness Scale: SHS）の信頼性と妥当性の検討 （査読付）	共著	平成16年10月	日本公衆衛生雑誌　51巻10号 pp.845-853.	島井哲志、大竹恵子、宇津木成介、池見陽、Sonja Lyubomirsky どのようなネガティブな状況においても幸福感を持ち続けることのできる人びとの特性について検討するため、Lyubomirskyら（1999）によって開発された主観的幸福感尺度「Subjective Happiness Scale (SHS)」の日本語版を作成した。大学生男女364名を対象に、作成した日本語版SHSのほか、GHQ,自尊感情尺度等を同時に実施し、あわせて信頼性、妥当性の検討を行った。オリジナルの英語版の他、すでにロシア後版、スペイン語版が作成されており、国際的な幸福感比較研究において使用されることが期待される。第5著者が作成した英語版を日本語に訳し、調査を実施するなどについて第一著者から第四著者が均等に関与した。論文作成は第一著者の島井が担当した。
約束とコミュニケーション	単著	平成17年2月	近代（神戸大学近代発行会）94号 pp.21-39.	本論文は、コミュニケーションが成立するための前提として、何らかの約束が存在することが必要であることを述べた上で、コミュニケーションにおいては「メッセージの本体（意味）」と、「本体と約束によって結びついている記号」とが必要であること、また、記号は一般に本体に比べて軽量であることについて論じた。例えば「はしか」においては、発疹が記号であり、意味は「はしか」という病気それ自体である。
ヒトの視線と矢印記号による視覚的注意喚起（査読付）	共著	平成17年12月	人間工学 41巻6号 pp. 337-344.	橋本由里・宇津木成介 第二著者の指導のもとに第一著者が実験と結果の整理を行い、両著者が共同で考察を加えたものである。本論文は、ヒトの視線刺激が自動的注意を喚起するというFriesen & Kingstoneの知見を検証するとともに、彼らが人為的な記号と見なした矢印についても、視線刺激と同等以上の注意喚起効果が見られることを示した。これらの効果は100msの短いSOA（Stimulus onset asynchrony）の下でも観察され,矢印視線も自動的な注意喚起効果を持つことが確かめられた。第一著者の博士論文の一部を構成する実験の雑誌掲載論文である。

顔線画の表情と視覚的注意の定位 −口の形状が視線による手掛かり一致効果に及ぼす影響− （査読付）	共著	平成18年3月	感情心理学研究　13巻1号 pp.13-21.	橋本由里・宇津木成介 第二著者の指導のもとに第一著者が実験と結果の整理を行い、両著者が共同で考察を加えたものである。本論文は、ヒトの視線方向が自動的に観察者の視覚的注意を引くという先行研究に基づいて、人物の表情（線画）を操作し、ポジティブ感情表現とネガティブ感情表現によって注意喚起の様態が変化するかどうかを調べた。表情が怒りである場合には特別な情報処理がなされるという別の先行研究結果にもかかわらず、怒り表情の効果は有意ではなかった。むしろポジティブ感情表現の場合に注意喚起の変化が見られた。第一著者の博士論文の一部を構成する実験の雑誌掲載論文である。
ジェームズの感情理論：教科書にあらわれるその根拠と論理	単著	平成19年2月	国際文化学研究 27号 pp.1-27.	多くの心理学の初等教科書の感情に関する章や節では、「ウィリアム・ジェームズは、それまでの常識に反して、悲しいから泣くのではなく、泣くから悲しいのだと主張した」と述べた後、「その後にキャノンらによって批判された」と書かれていることが少なくない。しかしジェームズの主張については、その根拠が示されていることは少ない。本論考はこの問題に関して内外の心理学の教科書の記述を比較するとともに、ジェームズの心身二元論の考え方について論じた。
ウェブ上における「ふるさと」の所在	単著	平成19年10月	近代 99号 pp.29-55.	本研究は、ウェブ上に書かれた情報において、「ふるさと」と年号をキーワードとした検索を行い、「ふるさと」概念と特に密接に関わる年号が存在するかどうかについて調べた。そのような年号は明治の初期とともに、市町村合併が盛んな時期に多く見られた。一般には検索時期に近づくにつれて検索された件数は等比級数的に増加したが、検索の時点を越えた年号と関わる「ふるさと」概念はほどんど見られなかった。「ふるさと」は過去と強く関わる概念であり、未来との関わりは乏しいことが結論された。
基本的情動の数について	単著	平成19年12月	国際文化学研究 29号 pp.73-91.	英語のemotionは我が国においては情動あるいは感情と訳されるが、少し前までは情緒と訳されていた。その内容は、喜怒哀楽という４つ、あるいは七情という７つのの代表的な情動によって示される。ここでは19世紀末から20世紀中葉までの心理学者が考えていた「基本的情動」について、その数を数え、比較することを試みた。ウィリアム・ジェームズはその複数の著書の中で「標準的な情動７つ」と「粗大な情動８つ」について述べているが、単語レベルで見ると共通するのは２つだけである。プルーチックは全ての情動を８つの基本的情動の加算によって説明しようとした。最少はワトソンが考えた３つ、最多はマクドゥーガルの18であった。
女子大生の就職活動における情動知能の役割（査読付）	共著	平成19年12月	経営行動科学 20巻3号 pp.317-324	島井哲志・大竹恵子・宇津木成介 著者らが開発した情動知能尺度（EQS)を用いて女子大学生104名の情動知能を測定し、その後の就職内定数との関連を調べた。内定を得た学生と内定を得なかった学生を比べると、はっきりとした得点の差がみられた（$p<0.002$)。さらに２社以上から内定を得た31名は１社かのみら内定を得た35名にくらべて情動知能が高い傾向にあり、このことから、大学における社会的技能、情動的技能の訓練が大学生の将来設計や自己実現に資する可能性が示唆された。第一著者と第二著者の企画により調査が行われた。第三著者は考察に関与した。

ウィリアム・ジェームズと反射	単著	平成20年7月	国際文化学研究　30号 pp.31-57.	本論文はウィリアム・ジェームズの「What is an emotion? (1884)」において示唆された「反射」概念について、論文発表当時の神経学の知識をもとに検討した。ジェームズは、「一つの心的状態が直接に他の心的状態を生み出すことはない」と述べているのであるが、その説明はなく、従って当時の人々はある程度まで、その主張を当然のことと考えていた可能性がある。ジェームズがこの論文を執筆したころには脳における機能の局在を示す資料が提出されていたが、ジェームズ自身は脳における機能局在を、少なくとも大脳のレベルでは信じていなかった。そしてジェームズは、情動の体験が生じるためには、反射的な身体の運動が必要であると考えていた。しかし多くの批判をうけたジェームズは、脳内の信号のみによって感情体験が生じる可能性を示唆している。本論文ではまた、ジェームズの考えと条件反射との関連についても言及した。
中国と日本の大学生における接触行動の発達的変化-主観的評定値に基づく比較-（査読付）	共著	平成20年9月	国際文化学　第19号 pp.17-28.	呉　映妍・宇津木成介 第二著者の指導のもとに第一著者が研究計画を立案し、両者が調査を行い、次いで第一著者が結果の整理を行い、両著者が共同で考察を加えたものである。中国の５カ所、日本の３カ所の大学において、接触行動の発達に関するアンケート調査を行った。両親に対する接触行動には国の間で大きな違いがあったが、それぞれの国の内部における違いは少なかった。一方、恋人に対する接触行動については、それぞれの国内において差が認められた。第一著者の博士論文の一部を構成する研究の雑誌掲載論文である。
行動科学におけるコミュニケーションの機能と定義について	単著	平成21年12月	国際文化学研究　33号 pp.11-37.	社会科学や行動科学においては、コミュニケーションの用語が必ずしも明確に定義されることなしに使用されている。本論文においては、社会科学の分野においてはハーバーマスの著書を参考にしつつ、行動科学においては生物学の分野で用いられているコミュニケーションの定義、すなわち、メッセージによって受け手の行動が送り手に利益をもたらす方向に変化する現象として捉えることが最も適切であると結論した。また、ウソによって利益が得られることから、ウソつき行動とコミュニケーションの関連について言及した。
ディビッド・ヒューム『人性論』第2分冊に関する読書ノート（その1）	単著	平成22年7月	近代　103号 pp.71-105.	ディビッド・ヒュームの人性論（A treatise of human nature）は今日的な目で眺めると、認知心理学について書かれた本のように見える。とりわけ第2分冊では、今日的に情動と呼ばれる心的現象を取り扱っているので、心理学の立場から読むことには意味があると考えられた。アダム・スミスが感情論を共感性から始めたのに対し、ヒュームは自尊心から話を始める。ヒュームは特定の刺激が自動的に、つまり反射や本能によって、特定の情動を生じさせると考えるものの、特定の事物が特定の情動を生じさせることはないと述べる。つまりｎ個の事物が特定の情動反応を引き起こすとすれば、それはｎ個の事物に共通な特性Xによるのであって、決してｎ個の反射が存在するわけではないという。ここでは第2編第1部第1節から第6節までの読書ノートを含めた。

模擬エレベーター内における音楽と同乗者の存在が女性搭乗者の不安に与える影響（査読付）	共著	平成22年9月	行動医学研究　16巻 1号 pp.1-11.	鈴木智草・宇津木成介 第二著者の指導のもとに第一著者が実験と結果の整理を行い、両著者が共同で考察を加えたものである。近年の都市の安全性の観点から、女子が見知らぬ人物と２名、もしくは単独でエレベーターに搭乗するという条件を設定し、模擬エレベーター内に流される音楽の効果について検討した。従属変数として、心拍を測定し、また状態不安を質問紙によって測定した。音楽によって心拍の増加が抑制される知見を得たほか、エレベーター内に閉じこめられるような事態においては、見知らぬ同乗者の存在が不安の源泉ではなく、逆に安心感をもたらすという知見が得られた。第一著者の博士論文の一部を構成する実験の雑誌掲載論文である。
ディビッド・ヒューム『人性論』第2分冊に関する読書ノート（その2）	単著	平成22年12月	近代　104号 pp. 47-80.	前掲のディビッド・ヒュームの人性論に関する読書ノートの続きである。ここでは第7節から第12節までの読書ノートを含めた。まずヒュームは、他者の自尊は不快であり、他者の自卑は快であると述べる。つまり一般的に自尊心は善であるということはなく、自分の自尊心だけが善であるということである。その後でヒュームは、「快不快には理由がない」と述べているが、これは認知心理学者であるザイオンスの主張を彷彿させる。さらにヒュームは「快の予想はそれ自体が快である」と述べているが、これは現代の神経経済学のテーマであると言ってよいであろう。なお第12節では、動物の感情について述べられている。「無神論者」であったヒュームが人と動物の間を区別していなかったことが明瞭に示されている。
コミュニケーションと擬態	単著	平成22年12月	国際文化学研究 35号 pp.127-155.	上掲25の「行動科学におけるコミュニケーションの機能と定義について」の中で「ウソ」によって発生する利益について触れた。ここでは、ウソつき行動の起源を動物に求めた。ダーウィンは「人の子どもはある程度成長するとウソをつくようになる」と述べている。動物がつく最もポピュラーなウソとして「擬態」をテーマに論考した。人の世界ではウソは、ウソをつく者とウソをつかれる者の二者関係であると考えられているが、動物の世界では真似をして利益を得る者、真似される者、真似によって損失を蒙る者の三者関係としてとらえられる。生態学においては、ベイツ型擬態、ミュラー型擬態、メルテンス的擬態が区別される。擬態をコミュニケーションとして捉えれば、そこにコード系を見て取ることができる。
From SNARC to SQUARC: Universal Mental Quantity Line?（査読付）	共著	平成24年6月	International Journal of Psychological Studies 4巻2号 pp.217-227.	アタナス・キルイヤコフスキ、宇津木成介 (Kirjakovski,A. & Utsuki,N.) 空間において量的に大きなものは向かって右側に配置され、小さいものは左側に配置される傾向がある。また、大きな数字（例えば９）を正面に提示すると実験参加者の注意は右側に向き、小さな数字を提示すると注意は左側に向く。このような傾向が脳内の数量の処理と関わっているという仮説について検討した。実験１は主観的等量の水コップのうち右に配置されたコップのほうが重いという知見であり、実験２ではグラスの中のワインが多い場合には視覚的注意が右に向かうという知見である。 実験１は第二著者の指導のもとに第一著者が実験を行った結果であり、第２著者の修士論文の主要部分をまとめたものである。また実験２については第二著者の助言のもとに第一著者が実施したものである。内容は認知心理学に属するものであるが、実験２は上掲17の視覚的注意の論文と同様に、Posnerのパラダイムを使用している。

看護学生の感情知能に関する縦断的研究（査読付）	共著	平成25年2月	ヒューマン・ケア研究 13巻2号 pp. 89-99.	宇津木成介、島井哲志、橋本由里、菅佐和子 看護師には共感性や相他心が求められていると考えられる。本研究においては、看護師を目指す看護学生の感情知能の変化について縦断的に調査を行った結果について報告した。調査参加者は４年制の看護学科に素属する76名の学生であり、４年間を通じて計３回の調査に協力した女子31名の結果について考察した。４年間の教育の中葉において愛他心や共感性がいったん低下する傾向が見られた。この傾向は、先行研究においても見られるものであり、また、実務についている看護師において、新人に比べて経験者のほうが愛他心が低下する傾向とも類似している。本研究はこれまで行われてきた横断的研究の結果をおおむね追認する結果となった。４名の共同研究であるが、論文の執筆は第一著者が行った。
人はなぜ集団をつくるのか、あるいはつくらねばならないのか	単著	平成26年3月	奈良産業大学地域公共学総合研究所年報第4集 pp.109-123.	ヒトが社会集団をつくって生活する動物であることは論をまたないが、なぜ集団をつくるのかを説明する明確な理論はない。本論文においては、利他心、愛他心といわれる行動傾向が、自己の利益を増加させようとする傾向（利己心）のみよって説明できるかどうかを検討した。自己の利益を増加させようとする傾向によって、愛他的に見える行動が出現しうることはホッブスによって主張された。生物学、ゲーム理論においては、同様に個体の利益だけで愛他的行動の説明が行われる。一方、ロックやヒューム、あるいはスミスは、利己心とは別に、当初から他者に対して配慮する心の働きがあると述べられる。近年の脳機能研究においては、後者の立場を支持するように見える結果も得られている。
「翻訳」				
W.ジェームズ 「情動とは何か？」	単著	平成19年4月	近代　98号 pp.35-68	原書名：What is an emotion? (W. James, Mind 誌 1884) 本論文については昭和31年に今田恵による訳が出ているが、現在かんたんに利用できる状況ではないと判断し、新たな訳を公表することにした。また、今田訳にはジェームズが付録としてつけたシュトリンペルによるドイツ語論文の英語訳の部分が訳出されていないことも理由の一つである。Emotionを身体の反応として、feelingをその身体反応の感覚としてとらえるという、ジェームズの思想が端的に表れている論文である。ジェームズが情動を大脳皮質における反射の結果であると考えていたことが推察できる。（神戸大学付属図書館リポジトリから無償でダウンロード可能）
W.ジェームズ 情動の身体的基礎	単著	平成19年10月	近代　99号 pp.1-28.	原書名：The physical basis of emotion. (W. James, Mind 誌 1894)」 本論文はジェームズの1884年の論文に加えられた批判に応えて書かれたものである。ヴントの批判に対してはヴントの統覚論を批判している。また例えばウスター博士は、夕立が来て雨宿りのために走って逃げる人はなぜ恐怖を感じないのか、と問う。これに対するジェームズの回答はかなり哲学的であるが、フランスの精神医学者であるソイエ博士の無感情の患者の症例を長く引用して、末梢からの感覚的フィードバックが失われると情動欠如（inemotivity）が生じると反論している。

ウォルター・B・キャノン ジェームズ・ランゲの情動理論：その検証と代替理論	単著	平成20年7月	近代 100号　pp.43-70.	原書名：The James-Lange Theory of Emotions: A critial examination and analternative theory (W.B.Cannon, American Journal of Psychology誌 1927)」 　キャノンはもっぱら生理学の立場から、ジェームズ＝ランゲ説のうち、内臓要因について５つの点から批判を加えている。次いで、情動の中枢があるかないかという問題（ジェームズはそのような中枢の存在を仮定する必要はないと述べている）について、視床がその中枢であると述べている。もっとも簡明には、中脳レベルで中枢神経を切断しても、視床への刺激によってネコに情動反応が生じるという反例である。また、偽性球麻痺の症状と左右差に関する記述は、今日の視点から見ても非常に興味深い。
チャールズ・ダーウィン著『一人の子どもの伝記的素描』	単著	平成21年12月	近代 102号 pp.15-33.	原書名：A Biographical Sketch of an Infant (Darwin,C., 1877) 本論文はダーウィンの長男が生まれたあとにつけていた日記を37年後にMind誌に投稿したものである。まずダーウィンは新生児がかなり多様な反射的、本能的な活動を行うことについて述べている。また生後２週間で、驚がく反射としての瞬目が生じたと述べている。機嫌が悪いときに他者にものを投げつけるという動作については、性差があることを観察している。また、生後5ヶ月の時点で、「観念の連合」（学習）が生じたと述べている。
「辞典」				
新・心理学の基礎知識	共著	平成17年1月	有斐閣	中島・繁桝・箱田（編）（A5版全546頁） 担当部分：表情のコミュニケーション機能 pp.257-258を単著 （辞典項目につき共著者名と概要を省略）
感情と思考の科学辞典	共著	平成22年4月	朝倉書店	竹村・北村・住吉（編）（A5版全472頁） 担当部分：EQ：情動知能　pp. 208-209を単著 （辞典項目につき共著者名と概要を省略）
最新心理学辞典	共著	平成25年12月	平凡社	藤永保（監修）（B5版全870頁） 担当部分：「意志」 pp.9-pp.10 を単著 「感情研究の歴史」　pp.88-pp.89 を単著 （辞典項目につき共著者名と概要を省略）
（その他）				
「口頭・ポスター発表」				
視線による注意喚起について―他人種効果の検討―	共著	平成16年9月	日本心理学会第６８回大会（関西大学・吹田市）	（ポスター発表）橋本由里・宇津木成介 　顔と視線による注意喚起効果に他人種効果があるかどうかを検討するため、コーカサス人、黒人、アジア人の顔刺激を用いて実験を行った。注意喚起効果においては実験参加者の性別が有意であったが、写真人物の条件については、注意喚起効果に違いは認められなかった。写真人物がアジア人女性の場合に、手がかりとは無関係に反応時間が早かった。本研究は第一著者の博士論文の一部を構成するものである。
他者の視線による空間的注意喚起―Single subjectによる方法論的検討―	共著	平成16年9月	日本心理学会第６８回大会（関西大学・吹田市）	（ポスター発表）宇津木成介、橋本由里 Posnerのパラダイムを用いて視線刺激の注意喚起を調べる研究は少なくないが、検討すべき条件が多数、手つかずに残っている。本研究では被験者を１名とするかわりに非常に多様な条件を比較した。検討したのは、Foreperiod effectの有無、inhibition of retrun の有無、異なったSOA条件を試行ブロック内で混在させることによる影響、顔のサイズの影響、注意喚起効果に及ぼすターゲット位置の効果などである。

エレベータ・ミュージックと個人空間	共著	平成17年5月	日本感情心理学会第13回大会（名古屋大学・名古屋市）	（ポスター発表）鈴木智草・宇津木成介 音楽の不安軽減効果について、エレベーターから自由に出ることができる条件と、一定時間は出ることができない条件で、不安の程度を測定した。音楽の効果は、自由に出ることができない場合には有意であったが、自由に出ることができる条件では有意ではなかった。
視線による注意喚起ー口と眉の形状が与える影響ー	共著	平成17年5月	日本感情心理学会第13回大会（名古屋大学・名古屋市）	（ポスター発表）橋本由里・宇津木成介 橋本・宇津木（2004）では顔表情が注意喚起に影響する結果が得られたが、不快感情表出の強度が弱い可能性が指摘された。そこで不快表情の強度を増して実験を行ったが、顔表情が視線による注意喚起効果に対する影響は認められなかった。快感情において、注意喚起の立ち上がりが早い傾向が認められた。
方向指示刺激による空間的注意喚起ー視線刺激との比較ー	共著	平成17年9月	日本心理学会第６９会大会（慶應義塾大学・東京）	（ポスター発表）橋本由里・宇津木成介 Friesen & Kingstone(1998)の実験をもとに、視線の線画以外に、顔写真、矢印、英文字（RL)、漢字（左右）、単眼などを用いて視覚的注意喚起効果を検討した。矢印でも注意喚起効果が得られること、英文字では効果がないこと、漢字では若干の効果がみとめられることがわかった。単眼は矢印と同様の強い注意喚起効果が認められた。
大学生の国内移動と異文化適応	共著	平成17年10月	第２１回日本精神衛生学会大会（秋田看護福祉大学・大館市）	（ポスター発表）宇津木成介・鈴木智草 カルチュア・ショックに関する質問紙の中国語版と韓国語版を作成した。それぞれ中国または韓国からの留学生の協力を得て作成した。日本語版において重要な項目であった「地元のテレビが見られない」は、韓国においては不適切項目となるなど、国際比較を行う場合の特殊性について報告した。
閉所空間における音楽の効果	共著	平成17年10月	第２１回日本精神衛生学会大会（秋田看護福祉大学・大館市）	（ポスター発表）鈴木智草・宇津木成介 エレベーター内における音楽の提供が同乗者に起因する不安感と心拍に影響して不安低減効果があることを報告した。心拍数（RR間隔）は音楽がない場合に5分間に4拍低下したが、音楽を提示した場合には6拍低下した。特性不安（STAI）の変化が有意であり、エレベーター内滞留時間の主観評価は音楽ありの場合に200秒であったのに対し、音楽なしでは300秒であった。本研究は第一著者の博士論文の一部を構成するものである。
動物の心的機能に関する大学生の認知（1）	共著	平成18年5月	日本感情心理学会第14回大会（広島修道大学・広島市）	（ポスター発表）橋本由里・鈴木智草・宇津木成介 動物にどれほどの心的能力があると人びとが考えているかという問題についてはRasmussen（1993）らの研究がある。ここではペット飼育経験の有無が心性評価に与える影響について検討した。ペット飼育経験の主効果はみられなかったが、ペット飼育経験と心的能力の交互作用が有意であった。ペット飼育経験者は感覚機能を高く評価する反面、量の保存など高次の心的機能は低く評価した。
動物の心的機能に関する大学生の認知（2）	共著	平成18年5月	日本感情心理学会第14回大会（広島修道大学・広島市）	（ポスター発表）鈴木智草・橋本由里・宇津木成介 上述の研究に加え、質問紙において調査対象動物としてイルカを加えた。またイルカの位置をサルの直後または魚の直前におくことによって、系列位置効果による心性評価の異同について検討を行った。イルカの評価はイヌ、ネコより低かった。イルカの位置が魚の直前にあると、魚の心的能力が高く評価された。

国内外の移動による異文化適応のプロセス	共著	平成18年11月	日本心理学会70回大会（九州大学・福岡市）	（ポスター発表）宇津木成介・坂本千代・島袋恒男 大学生活を新たに始める場合には自国内にあってもカルチュアショックに類似した事象が生じる。本研究では中国の５都市において大学生活への適応度に関する調査と情動知能検査（EQS）の項目を中国語にしたものとを実施した。武漢では、日本における結果と同様に、実家に戻るための時間や費用が大きいほど不適応感が有意に高かった（r=0.24）が、北京では逆に実家までの距離が近いほど不適応感が高かった（r=0.29）。
視線による注意喚起-口と眉の形状が与える影響(2)-	共著	平成18年11月	日本心理学会70回大会（九州大学・福岡市）	（ポスター発表）橋本由里・宇津木成介 Friesen & Kingstone(1998)の実験に口の形状を変えて表情の効果を加えて検討した橋本・宇津木（2006）に、さらに眉の形状を変えて検討を加えた。手がかり一致効果と表情の交互作用は見られなかったが、表情の主効果が有意であった。
非言語コミュニケーション技能とEQS得点	共著	平成19年5月	日本感情心理学会第15回大会（大阪学院大学・吹田市）	（ポスター発表）宇津木成介・橋本由里・鈴木智草・島井哲志・大竹恵子 情動知能検査（EQS）得点と、非言語コミュニケーションの技能との相関について調べた。エクマンの表情写真の正答率（エクマンの基準）と「愛他心」との間に有意な相関（r=.27）が見られた。状況対応得点とは無相関（r=0.06)であった。対人状況における「好ましくない行動」を行うものほどEQS得点が低いこと、同一サークル内で「居心地のよい人」と評価される者ほどEQS得点が高いことが認められた。
音楽を携帯する-その不安低減効果と安全性-	共著	平成19年9月	日本心理学会第71回大会（東洋大学・東京）	（ポスター発表）鈴木智草・宇津木成介 携帯型音楽再生装置（PMP）の所有頻度と使用目的、使用上の安全性について大学生を対象に調査を行った。PMPの使用によって快が得られると答えた群とそれ以外の群を比較したところ、快が得られると答えた群では音楽聴取目的が95%を占めたのに対し、他群では89%に止まった。これらの結果は第1著者の博士論文において記述された。
心的機能に関する大学生の認知-BAQとEQSとの関連-	共著	平成19年9月	日本心理学会第71回大会（東洋大学・東京）	（ポスター発表）橋本由里・宇津木成介 動物の心的機能に関する大学生の認知の仕方について検討した。攻撃性と情動知能をBAQとEQSによって検討した。対象となる動物（子どもを含む）に心性を認める者ほどBAQの言語攻撃傾向が有意に高かった。また、動物以外の無生物に心性を認める者ほどBAQの敵意が低かった。例外はトリであって、トリに心性を認めるものは敵意得点が高かった。EQSに関しては、状況対応得点が高いほど動物と無生物の区別が明瞭であった。対人対応得点が高いと植物に心性を認めていた。
身体接触行動の中日比較	共著	平成19年9月	日本心理学会第71回大会（東洋大学・東京）	（ポスター発表）呉映妍・宇津木成介 中国と日本において、接触行動の違いを比較した。中国人は日本人よりも接触行動が多いと想定して調査を行ったが、結果的に日中の差はごく小さく、接触が生じる場（公的場面と私的場面）や性別の要因が大きかった。

国内外の移動による異文化適応のプロセス（2）	共著	平成19年9月	日本心理学会第71回大会（東洋大学・東京）	（ポスター発表）宇津木成介・島袋恒男・橋本由里・鈴木智草・呉映妍 中国の５カ所（北京、南京、武漢、厦門、蘭州）と韓国の２カ所（釜山、蔚山）、日本の２カ所（那覇、神戸）において調査を行った。大学生活への一般的満足度（GSF)と個々の生活上の問題との相関を検討した。親しい友人の存在や教員とのよい人間関係はGFSと有意な正の相関があった。GFSとの相関係数を測定箇所間で比較したところ、釜山、那覇、神戸はよく似た傾向を示した（r=.76-.85）。中国国内では北京と蘭州は他の地域とは異なった傾向を示した(r=0.2)。韓国内の釜山と蔚山の類似度は低かった（r=0.35）。
強制選択法による新しい情動知能尺度の作成	共著	平成19年9月	日本心理学会第71回大会（東洋大学・東京）	（ポスター発表）島井哲志・宇津木成介・内山喜久雄 著者らが開発した情動知能検査（EQS）では個人の情動知能の水準を相対的に測定することを主目的にしている。ここでは特定の状況において自己対応的、対人対応的、状況対応的な３つの選択肢を準備し、いずれかを強制的に選択させることによって、個人内の情動知能のストラテジーの特徴を検出することを試みた。
文字による注意喚起-漢字と英文字の比較-	共著	平成20年9月	日本心理学会第72回大会（北海道大学・札幌市）	（ポスター発表）橋本由里・宇津木成介 顔視線が視覚的注意を引く現象について、文字を用いて検討した。SOAが200 msの時点で、顔視線刺激においては注意喚起効果が認められたが、文字刺激では注意喚起効果は認められなかった。
「ふるさと」までの距離」	共著	平成20年9月	日本心理学会第72回大会（北海道大学・札幌市）	（ポスター発表）宇津木成介・橋本由里 大学生に対して「ふるさと」を刺激語として連想する言葉を記述させた。245の反応語中、「海」を答えた者は皆無であった。自宅から山が見えていた学生は30名、海が見えていた学生は11名いた。それぞれ23名、8名は山や海までの距離は徒歩30分以内と回答していた。ふるさと概念と海とは乖離しているようであるが、一方、google検索においてふるさとと山または海を検索語とした場合、95万件、86万件と大きな違いは見られなかった。
対人コミュニケーションにおける視線の役割	共著	平成22年5月	日本感情心理学会第18回大会（広島大学・東広島市）	（ポスター発表）王翼・宇津木成介 等身大写真の顔面の抽象度を変化させ、また視線の向きを変化させた。実験参加者はこの写真の前額部に提示されている英数字を記憶する課題が与えられた。顔の抽象度が増すほど人物写真までの距離（対人距離）は短くなった。また視線に関して、左視線では記憶成績が低下する現象が観察された。
看護学生のEQS得点の傾向	共著	平成22年9月	日本心理学会第74回大会（大阪大学・豊中市）	（ポスター発表）橋本由里・宇津木成介 看護専門学校の学生35名の情動知能（EQS得点）を先行研究の結果と比較した。看護学生では共感性の得点が一般の大学生に比べて高いことが再確認された。
新奇視覚刺激に対する瞬目反応	共著	平成22年9月	日本心理学会第74回大会（大阪大学・豊中市）	（ポスター発表）宇津木成介・山崎明音 2枚の連続するスライドにおいて、両者が同じである場合と異なる場合の瞬目生起について計測した。同一の場合に比べて異なる場合には２枚目のスライドに対する瞬目が増加した。同一スライドの場合には、１枚目スライドに対して0.9秒後に生じる瞬目ピークは２枚目に対しては観察されなかった。異なったスライドの場合、２枚目に対して0.5秒後に瞬目のピークが生じた。
看護学生の情動知能（EQS）に関する縦断的研究(2)	共著	平成23年7月	ヒューマンケア心理学会大13回大会（大阪市立大学・大阪市）	（ポスター発表）島井哲志・宇津木成介・橋本由里・菅佐和子 国内の看護学生の情動知能（EQS)について、新入生から卒業までその変化を縦断的に追跡した。

看護学生の情動知能（EQS）に関する縦断的研究(3)	共著	平成23年7月	ヒューマンケア心理学会大13回大会（大阪市立大学・大阪市）	（ポスター発表）宇津木成介・島井哲志・橋本由里・菅佐和子 上記追跡結果を分析したところ、入学時よりも2年次において共感性等が低下する傾向が見られた。これらの結果については、学術論文によって公表した。
看護学生の情動知能-日米比較の試み-	共著	平成23年9月	日本心理学会第75回大会（日本大学・東京）	（ポスター発表）橋本由里・平井由佳・宇津木成介 情動知能検査（EQS)について質問項目を英語化したものを米国の看護学生等83名に対して実施した。その結果を日本の看護学生80名と比較した。他専攻の学生と比較して、日本の看護学生は共感性の得点が高いが、米国の看護学生は「自己決定」「目標追求」などにおいて他専攻学生より高かった。また得点は一般に米国の学生が高かったが、これには翻訳の問題、また年齢の要因がかかわっている。
Spatial Shifts of the Covert Attention Cued by Symbols of Nondigital Nature: Possible SQUARC Effect	共著	平成23年9月	日本心理学会第75回大会（日本大学・東京）	（ポスター発表） 宇津木成介・キルリヤコフスキ　アタナス（Narisuke Utsuki & Atanas Kirjakovski） 第2著者の博士論文における第1実験の結果について発表したものである。
矢印の色が注意喚起に及ぼす影響	共著	平成24年6月	日本人間工学会第53回大会（九州大学・福岡市）	（ポスター発表）橋本由里・宇津木成介 矢印はヒトの視覚的注意を矢の示す方向に強く引くが、矢印の色が注意喚起力と関連するかどうかについては調べられていない。本研究では赤、青、緑、黒の４色の矢印について、ポスナーのパラダイムを用いて注意喚起力を比較した。その結果、色の主効果が認められ、緑色は黒色に比べて注意喚起力（ゲイン）が低いことが分かった。しかし赤や青の色彩は黒にくらべて注意喚起力に有意な差はなかった。背景が白色であったことから、コントラストの効果の存在が推察された。
大学生のソーシャルネットワーキングサービスの利用とEQSの相関	共著	平成25年5月	日本感情心理学会第21回大会（東北大学川内キャンパス）（主催；東北大学）	（繁野茜、松本絵理子と共著） ソーシャル・ネットワークサービス（SNS)を行っている大学生を対象に、その感情知能についてEQSを用いて測定した。有効回答者は162名。EQS対人対応領域の得点が高い群では、他者の発言（メッセージの書き込み）に対するコメントが多かった。また、友人数が多かった。 メッセージの書き込み頻度とEQS得点との相関は有意ではなかった。このことは、SNSにおける発言それ自体は対人的行動ではなく、発言に対するコメントが対人行動であると考えられた。
Effects of different stimulus onset asynchronies on visual attention shifts	共著	平成25年8月	第37回ECVP（The 37th European Conference on Visual Perception）(Bremen, Germany)	（ポスター発表）Hashimoto,Y. & Utsuki, N. 顔線画、矢印、英文字、漢字による方向指示手がかりについて、空間的注意の自動性を検討した。SOA条件は、50msから1000msまでである。統計的に有意な量の反応時間ゲインが得られたのは顔線画と矢印であった。矢印のゲインに比較すると、顔線画のゲインはわずかであった。これらのゲインは、手がかり一致による反応の促進によるのではなく、手がかり不一致による反応の遅延によって生じていた。
心理学学術用語の初期の訳語について-明治期に試みられた英語からの翻訳語-	単著	平成25年9月	日本心理学会第77回大会（主催：北海道医療大学）	（ポスター発表）宇津木成介 明治初期に西周によって、ジョセフ・ヘイヴン（Joseph Haven）の手になる教科書（Mental Philosophy）が「心理学」として翻訳された。翻訳において用いられた語について、原語（英語）との対応を比較検討した。あわせて、西村茂樹による心理学用語の訳語についても言及した。

（国際学会口頭・ポスター発表）				
Handling another culture: A step-by-step adaptation model.	共著	平成18年10月	2nd International Conference of the Asian Philosophical Association, (Busan National University Busan,Korea)	（口頭発表） Utsuki,N., Sakamoto,C., & Shimabukuro,T. 異文化適応のプロセスは、多文化のコアを了解することによって進展するのではなく、遭遇する一つ一つの問題に対処していくことで徐々に進むことを日中韓の大学生のデータをもとに論証。（口頭発表者）
Effects of Native Language on Visual Attention Shifts.	共著	平成21年8月	The 117th Annual Convention of the American Psychological Association (Toronto, Ontario, Canada)	（ポスター発表）Hashimoto,Y. & Utsuki,N. 視線や矢印のみならず、方向を示す文字として漢字の「右」「左」英文字の「R」「L]の提示後に、空間的注意が文字の意味する方向に向けられるかどうかを検討した。その結果、これらの文字提示によっても、多少の注意喚起効果があることが示された。ただしその量は矢印と比較するとわずかであった。
Emotional Intelligence of Japanese University Students and Employment Offers.	共著	平成21年8月	117th Annual Convention of the American Psychological Association (Toronto, Canada)	（ポスター発表）Tanaka,J. & Utsuki,N. 感情知能が大学生の就職と強く関連することを示した。大学生の感情知能をEQSによって測定し、その後の就職活動の経緯との関連を調べたところ、感情知能得点の高い学生ほど、知名度の高い企業から内定をもらう傾向があることが示された。
Effects of different stimulus onset asynchronies on visual attention shifts	共著	平成25年8月	第37回ECVP (The 37th European Conference on Visual Perception) (Bremen, Germany)	（ポスター発表）Hashimoto,Y. & Utsuki, N. 顔線画、矢印、英文字、漢字による方向指示手がかりについて、空間的注意の自動性を検討した。SOA条件は、50msから1000msまでである。統計的に有意な量の反応時間ゲインが得られたのは顔線画と矢印であった。矢印のゲインに比較すると、顔線画のゲインはわずかであった。これらのゲインは、手がかり一致による反応の促進によるのではなく、手がかり不一致による反応の遅延によって生じていた。
（シンポジウム）				
		平成21年11月	第14回神戸大学国際文化学研究科国際シンポジウム（南あわじ市）	シンポジウム「文化情報リテラシーで読み解く地域文化-南淡路における民族芸能の展開-」（パネリスト）
		平成24年5月	日本感情心理学会第20回大会（神戸大学・神戸市）	第20回大会記念シンポジウム「世界の人びとの感情」（学会大会委員長、企画者）
		平成24年11月	神戸大学設立110年記念・国際文化学部設立20周年記念シンポジウム（神戸大学統合研究拠点コンベンションホール・神戸市）	宇宙文化学の創造性　（ディスカッション・コメンテーター）
		平成25年5月	日本感情心理学会第21回大会（東北大学川内キャンパス）（主催；東北大学）	シンポジウム「感情概念の領域横断的検討：研究の歴史と方法の観点から」においてシンポジストをつとめた。「感情の概念を巡って（訳語の問題）」の題目で、感情にかかわる基本的な語の使われ方、その日本における訳語の問題について解説した。
		平成25年9月	日本心理学会第77回大会（主催：北海道医療大学）	「こころの健康・臨床、健康支援、発達障がい者支援に役立つまばたき研究」シンポジウムにおいて指定討論者をつとめた。シンポジストの発表についてコメントを加えた。
（セミナー）				
		平成26年3月	日本心理学会研究セミナー（主催：名古屋大学）	「ルール・道徳・感情」において指定討論者をつとめた。ルールを順守する行動について、心理学の立場からルール遵守が自動的に利益を生じることを述べ、他の発表者の発表にコメントを加えた。

（ワークショップ）				
		平成17年5月	日本感情心理学会第13回大会（名古屋大学・名古屋市）	心理学の国際化に向けて−国際学会発表，英文論文投稿，海外留学のススメ− （企画・司会・話題提供）
		平成18年11月	日本心理学会第70回大会（九州大学・福岡市）	視覚ー運動系反応の体系化　まばたきから頭部運動まで （指定討論者）
		平成19年9月	日本心理学会第71回大会（東洋大学・東京）	ポジティブ心理学の最前線（4）（指定討論者）.
		平成20年9月	日本心理学会第72回大会（北海道大学・札幌）	笑いの心理学（指定討論者）
		平成21年8月	日本心理学会第73回大会（立命館大学・京都）	まばたきと笑いの進化心理学（指定討論者）
		平成21年8月	日本心理学会第73回大会（立命館大学・京都）	特殊環境下での心理と生理　（指定討論者）
		平成22年9月	日本心理学会第74回大会（大阪大学・豊中市）	瞬目研究のあらたな萌芽（指定討論者）

［注］

1 最近10年間の教育活動、研究活動について作成すること。

2 「教育活動」については、各項目ごとに年月日順に、「学会等および社会活動」については、就任年月日順に記入すること。

3 「研究活動」については、下記の点に留意すること。

① 著書・論文及びその他の順に、発表年月日順に記入すること。

② 著者が複数にわたる場合で、筆頭著者が著書・論文等において明示されている場合には、その氏名に◎印を付すこと。

③ 共著（論文）の場合、「該当頁数」の記入にあたっては、本人の分担箇所を特定できる場合は、その頁数を記載すること。

④ 最近10年間に著書・論文等の発表のなかった者についても、教員名を挙げてその部分を空欄にしておくこと。

⑤ 芸術分野や体育実技等の分野を担当する教員については、著書・論文等以外の競技会、展覧会または演奏会等での発表のうち、特に顕著な業績と認められるものについても記載すること。このほか、専門分野の特性を 考慮し、顕著な業績と認められるものがある場合もこれに含めてもよい。

教　育　研　究　業　績　書

平成26年3月31日

氏名　　岡部　修一

研究分野	研究内容のキーワード
バレーボール、現代スポーツ、ゴルフ	フェアプレー，　スポーツの功罪

教育上の能力に関する事項

事項	年月日	概要
1　教育方法の実践例		
1）バレーボール指導における ３コンタクトステップアップ習得法の確立	平成17年4月 ～ 平成26年3月	バレーボールに必要不可欠なボールコントロールとパスの能力、およびパス・トス・アタックの３コンタクトリズムの感覚を習得させる練習法を考案した。３コンタクトするパートナーを１人→２人→３人→４人→６人、コートも６ｍ四方→バドミントンコート→バレーコートとステップアップさせていく。この練習方法によって学生のプレーがリズミカルで攻撃的となった。大阪体育大学、大阪教育大学のバレーボール実技で実施した。
2）バレーボール指導における スカウティング作業の導入	平成19年4月 ～ 平成26年3月	バレーボールの６チーム、８チームのリーグ戦において、相手チームの戦力分析（スカウティング）を導入。ローテーションごとのサーブの特徴、サーブレシーブの弱点、中心的攻撃の種類とボールコース、守備陣形などについてのデータ収集をさせ、当該チームとの対戦時にデータに基づいた作戦を立てゲームを行わせた。スポーツにおけるデータ分析の一端を経験させ、ゲームに対するモチベーションも著しくアップした。大阪体育大学、大阪教育大学のバレーボール実技で実施した。
3）ソフトボール授業でのボールパークイメージ導入	平成12年4月 ～ 平成17年3月	奈良産業大学選択スポーツのソフトボール授業において、ホームベースを通常の野球場２塁付近に設定、外野フェンスを用いた「ボールパークゲーム」のイメージ化を図った。打球が外野手の間を抜けても、走者との緊迫したインプレー状況が続き、またオーバーフェンスのホームラン感覚を体験させることが可能となり、ゲームの面白さが増し、個人通算記録に対する学生のモチベーション喚起に成功した。
4）ゴルフ授業での ターゲット意識をメインとした指導法	平成14年4月 ～ 平成17年3月	奈良産業大学選択スポーツのゴルフ初心者の学生に対し、パッティング→短いアプローチ→長いアプローチ→１００ﾔｰﾄﾞショットと段階的に距離を伸ばす指導において、スイング理論よりも目標に対するターゲット感覚を重視した。その際ターゲットからの距離によるポイント制を導入、個人およびグループ単位で競うゲーム形式で上達へのモチベーションを高めた。スイング理論も取り入れつつターゲット感覚を重視することで、クラブの振り幅や力の入れ方について常にターゲットを意識した体の使い方を養うことができる。
5）女子に対する基本ボール運動の指導	平成20年4月 ～ 平成22年3月	奈良文化女子短期大学幼児教育学科の保健体育実技において、保育士、幼稚園教諭をめざす学生たちが将来幼児たちとボール遊びを上手く実践できるよう投げる・捕る・蹴る・打つという基本運動能力習得を目標とし、バレーボール、ドッジボール、ソフトテニスボール、イレギュラーバウンドボールなどを用いて基本からキックベースやＴ－ボールのゲーム実践まで、ボールに馴染めるよう指導した。特に女子はボール競技経験の有無により能力差が大きいが、経験無しの学生に顕著な能力向上がみられた。
2　作成した教科書，教材		
1）特記事項なし		

3　教育上の能力に関する大学等の評価		
1）特記事項なし		
4　実務の経験を有する者についての特記事項		
1）特記事項なし		
5　その他		
1）特記事項なし		

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
1　資格，免許		
1）特記事項なし		
2　特許等		
1）特記事項なし		
3　実務の経験を有する者についての特記事項		
1）バレーボールのチーム指導	平成元年4月 ～ 平成17年3月	奈良産業大学バレーボール部監督 就任時、関西４部リーグのチームを平成３年春季リーグ３部昇格、平成４年春季リーグ２部昇格させた。 １部昇格をめざしたが最高成績は平成11年度春季・秋季リーグでの２位（入替戦敗退）
4　その他		
1）特記事項なし		

研究業績等に関する事項				
著書，学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所，発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（著書）				
特記事項なし				
（学術論文）				
1. スポーツに内在する問題について　ースポーツの功罪を考えるー	単	平成17年12月	奈良文化女子短期大学紀要 第36号 pp. 81～87	スポーツは努力や忍耐の大切さを教え、人々に夢や希望、感動を与えるものとして評価されている。親たちは子供がスポーツに取り組むよう望み、プロになることを期待することも少なくない。しかしスポーツとは、それほど賞賛と憧れに値するものなのであろうか。世の中の人びとに対し、スポーツへの過度の礼賛と期待を戒め、スポーツの功罪を問うものである。
2. スポーツに内在する問題について（２）　ースポーツに期待されるものを考えるー	単	平成18年12月	奈良文化女子短期大学紀要 第37号 pp. 75～82	反社会的な行動や考え方の目立つ現代において人々はスポーツに、清々しさ、潔さ、ひたむきさなどを期待している。しかし現代社会同様、スポーツ界でも選手を取り巻く大人たちの影響あるいは選手自身の想像力、規範意識の欠如によって、反倫理的、反社会的な振る舞いや言動が頻発している。スポーツの存在意義やよりよい発展のためには、指導者、親をはじめとするスポーツ選手周辺の大人たちの責任は大きい。

3. スポーツに内在する問題について（３）	単	平成19年11月	奈良文化女子短期大学紀要 第38号 pp. 117～124	人々に夢を与えるプロスポーツ選手は世の花形である。野球やサッカー、ゴルフなどのプロスポーツにおいては子どもの時代からプロをめざした英才教育が行われることも珍しくない。だがプロスポーツ選手として活躍し、賞賛され、自立して生活設計できるのは、ほんの一部に過ぎないという厳しい現実がある。親がわが子をプロスポーツ選手にさせたいと安易に考える風潮には、賛同できない。
4. スポーツに内在する問題について（5） －スポーツ選手の倫理観－	単	平成21年12月	奈良文化女子短期大学紀要 第40号 pp. 41～48	頻発する大学の体育会運動部員の不祥事、刑事事件によって大学スポーツ界の根幹が揺らいでいる。スポーツマンシップやフェアプレー精神に象徴されるルール（法令）遵守や自律、規範意識はどこにいったのか。いとも簡単に悪事に手を染めてしまう風潮には、大学スポーツに特有の理由、要因もある。そこに着目しながら現在のスポーツ界や日本の社会が抱える問題を考えていく。
5. スポーツに内在する問題について（5） －キレるスポーツ選手たち－	単	平成22年12月	奈良文化女子短期大学紀要 第41号 pp. 87～95	社会の中で問題化する「キレる」という概念による衝動的な行動が、スポーツ界でも多発している。勝利に執着し過ぎるなどの理由によって、常に冷静であるべきスポーツ選手が、短絡的あるいは粗暴な行為に走ってしまう。世の人々に理解され、スポーツを文化として未来に伝えゆくためにもスポーツ選手の熟成が求められる。
6. ゴルフは紳士のスポーツか	単	平成23年 3月	奈良産業大学地域公共学総合研究所年報 第１集 pp. 95～104	紳士のスポーツとされるゴルフは、富裕層や特権階級の贅沢なお遊び、賭けゴルフ、自然破壊などネガティブなイメージも強い。しかしゴルフは生涯スポーツや障害者スポーツとしての存在価値もあり、他人とのコミュニケーションツールとしても有効である。紳士のスポーツと標榜されるゴルフについて、その実像を明らかにするために、まず現状と問題点をあげる。
7. 現代スポーツを考える －なでしこＪＡＰＡＮについて－	単	平成23年11月	奈良文化女子短期大学紀要 第42号 pp. 137～146	今夏のワールドカップにおいて、代表チーム「なでしこジャパン」が優勝する偉業を成し遂げた日本女子サッカー界は、すでに2012ロンドン五輪でのメダル獲得をめざしている。なでしこジャパンを生んだ日本女子サッカー界の歴史と現状についてまとめ、さらに同じ団体球技であるバレーボールの現状をあげて、今後の展望について考えてみる。
8. 世界バレーボール界トップ４の変遷	単	平成24年 3月	奈良産業大学地域公共学総合研究所年報 第２集 pp. 89～99	かつて日本が世界トップの座にあったバレーボールについて、世界大会が始まった１９６０年代から現在までの世界トップ４チームの変遷と、エポックメーキングとなった革新的技術や戦術についてまとめた。およそ５０年間にわたる世界バレーボール界のトップレベルチームについて考察する。
9. 現代スポーツを考える －スポーツ選手の入れ墨－	単	平成24年11月	奈良文化女子短期大学紀要 第43号 pp. 175～183	昨今、オリンピックやワールドカップなど注目を集めるスポーツ世界大会で、身体に入れ墨をした外国人スポーツ選手が顕著である。それらはＴＶ映像画面を通して露出し、青少年を含め多くの人々が目にすることとなる。日本でもファッションの一環として気軽に入れ墨をする風潮が起こっており、外国人スポーツ選手の間の入れ墨の流行が、日本の社会やスポーツ文化に与える影響について考える。
10. フェアプレー精神を考える	単	平成24年12月	奈良産業大学地域公共学総合研究所年報 第３集 pp. 77～86	スポーツの根幹を成すフェアプレーの精神について、最近起こったいくつかの事象を取り上げながら、その問題点を考察する。

11.現代スポーツを考える ー野球のUn Written Rules についてー	単	平成25年11月	奈良文化女子短期大学紀要 第44号 pp.155～162	野球にはルールに明文化されてはいない暗黙の了解ともいうべき不文律が存在する。これは主に相手に対する敬意やプライドの尊重に基づくものであるが、あまり固執してしまうとフェアプレー精神との矛盾が生じることとなる。野球独特のUn Written Rules について考察を加える。
12.JVISを用いたバレーボール技術成績の分析について（１） ー関西、東海、関東学連の男女１部リーグのデータを対象としてー	共	平成25年12月	奈良産業大学紀要第30集 pp.15～22	日本バレーボール協会制定の技術統計JVIS（Japan Volleyball Information System ）を用いたゲーム分析方法についての検討、考察の第１報である。関西、東海、関東の３学連での大学男女１部リーグについて、チーム技術成績からアタック決定率と失点率、サーブの得点率と失点率および効果率、サーブレシーブ成功率についてデータ処理し、それぞれのリーグにおける傾向や男女による技術差などに関する考察を行った。
（その他）				
13.現代スポーツを考える ー歓喜の表現や祝福の方法についてー	単	平成22年12月	奈良産業大学紀要第26集 pp.81～88	想像を絶するパフォーマンスで世間を魅了する一流プロスポーツ選手は、勝利や得点場面では歓喜を表現しチームメイトの祝福を受ける。それは雰囲気を盛り上げるパフォーマンスやファン、サポーターとの歓喜を共感する側面もあるが、昨今歓喜や祝福が過熱傾向にあり、見苦しさを感じさせたり負傷するケースもある。スポーツにおける歓喜の表現や祝福の方法について考える。
14.日本バレーボール界の変遷（１） ートップレベルリーグ４０年の変遷についてー	単	平成23年12月	奈良産業大学紀要第27集 pp.157～167	日本のバレーボールは男女共にかつて世界一となった歴史があり、世界の頂点に立つ国民的スポーツとして野球に次ぐ人気を誇っていた。しかし男女とも世界レベルでの弱体化や経済不況による企業チームの休廃部により、現状の日本バレーボールは長期低落傾向に陥っている。栄華を誇った時代から現在までのトップレベルリーグの歴史的変遷をまとめた。
15.ＦＩＶＢランキングに関する一考察	単	平成24年12月	奈良産業大学紀要第28集 pp.161～171	FIVBランキングは、世界バレーボール連盟が制定する対象大会での成績を一定基準のポイントを与えることで評価し、ランキングづけをしたものである。現状、日本女子は世界３位という上位ポジションを得ているが、公平性などの点では疑問があるとされている。現状のFIVBランキングの問題点をあげて考察する。
16.日本スポーツ考える ～相手に対する敬意について～	単	平成26年3月	奈良産業大学地域公共学総合研究所年報 第４集 pp.147～154	体罰問題で揺れる日本スポーツ界。勝利追求が重視されがちではあるが、人間性陶冶という教育的側面をもつスポーツにおいて指導者たちは何を教え、何を伝えるべきか。スポーツの場において重要と思われる対戦相手への敬意（リスペクト）に関して考察した。

［注］

1 最近10年間の教育活動、研究活動について作成すること。

2 「教育活動」については、各項目ごとに年月日順に、「学会等および社会活動」については、就任年月日順に記入すること。

3 「研究活動」については、下記の点に留意すること。

① 著書・論文及びその他の順に、発表年月日順に記入すること。

② 著者が複数にわたる場合で、筆頭著者が著書・論文等において明示されている場合には、その氏名に◎印を付すこと。

③ 共著(論文)の場合、「該当頁数」の記入にあたっては、本人の分担箇所を特定できる場合は、その頁数を記載すること。

④ 最近10年間に著書・論文等の発表のなかった者についても、教員名を挙げてその部分を空欄にしておくこと。

⑤ 芸術分野や体育実技等の分野を担当する教員については、著書・論文等以外の競技会、展覧会または演奏会等での発表のうち、特に顕著な業績と認められるものについても記載すること。このほか、専門分野の特性を 考慮し、顕著な業績と認められるものがある場合もこれに含めてもよい。

教　育　研　究　業　績　書

平成26年3月31日

氏名　　川本　正知

研究分野	研究内容のキーワード
西アジア史・中央アジア史	イスラム教、西アジアの国民国家、中央アジアの国民国家、遊牧民、オアシス都市

教育上の能力に関する事項

事項	年月日	概要
1　教育方法の実践例		
1）特記事項なし		
2　作成した教科書，教材		
1）特記事項なし		
3　教育上の能力に関する大学等の評価		
1）特記事項なし		
4　実務の経験を有する者についての特記事項		
1）特記事項なし		
5　その他		
1）特記事項なし		

職務上の実績に関する事項

事項	年月日	概要
1　資格，免許		
1）日本語教師資格	平成23年3月	専門学校にて、年間420時間の日本語教師養成講座を受けて日本語教師資格を取得。現在、留学生向けの日本語授業を担当。
2　特許等		
1）特記事項なし		
3　実務の経験を有する者についての特記事項		
1）特記事項なし		
4　その他		
1）特記事項なし		

研究業績等に関する事項				
著書，学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所，発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（著書）				
１．マウラーナー・シャイフとして知られる弟子編著『15世紀中央アジアの聖者伝 マカーマーテ・ホージャ・アフラール』（ペルシア語テキスト）	単	平成16年12月27日発行	東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所イスラム文化研究叢書第78集，xxx＋157頁 ISBN4-87297-898-6	15世紀の中央アジアの聖者ホージャ・アフラール（1404-90）についてペルシアで書かれた聖者伝『マカーマーテ・ホージャ・アフラール』の現存する５つの写本がウズベキスタン、トルコ、インドに存在することが知られていた。1997年以来、各地を訪問し、それら５写本全て集めて、校合して、ペルシア語の校訂本を作成し出版した。上記博士論文の第Ｉ章にあたる。解題として５写本の現存状況、著作の成立についての研究を付した。
２．マウラーナー・シャイフとして知られる弟子編著『15世紀中央アジアの聖者伝 ホージャ・アフラールのマカーマート』（訳注）	単	平成17年12月27日発行	東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所イスラム文化研究叢書第80集，xxiii＋155頁 ISBN4-87297-921-4	上記ペルシア語聖者伝校訂本をもとにした日本語訳注。特に、ホージャ・アフラールの政治的な活動に関して詳細な注を施した。上記博士論文の第Ⅱ章にあたる。解題として、ホージャ・アフラールの誕生、修業時代、資産、死について他の聖者伝からの引用によって述べ、当聖者伝の記述との比較を行った。
3.モンゴル帝国の軍隊と戦争	単	平成25年11月	山川出版社	13世紀に世界を変えたモンゴル帝国。大モンゴル・ウルスという集団とその定住民支配のあり方から遊牧民の築いた帝国の実像に迫る。
（学術論文）				
１.15世紀中央アジアの聖者伝『ホージャ・アフラールのマカーマート』の研究（博士論文）	単	平成17年7月学位取得	京都大学文学部	上記著作２冊を第Ｉ章 「ペルシア語テキストの校訂」、第Ⅱ章 「日本語訳注」として一書とし、博士論文として提出した。
２.16世紀中央アジアのソユルガル下賜文書	単	平成18年3月	堀川徹編『中央アジアにおけるムスリム・コミュニティーの成立と編成に関する歴史学的研究　平成14～平成17年度科学研究費補助金（基盤研究（A）（1）課題番号14201037）研究成果報告書』, pp. 63-79.	旧ソ連のチェホビチによって出版されたホージャ・アフラールに関する文書集から、トルコ語で書かれた文書16を取り上げて、翻訳し解説を加えた。この文書は、いわゆるソユルガル下賜文書であり、同時期のイランのサファヴィー朝における同種の文書との比較を行うことにより、チェホビチの翻訳の誤りと分析の不十分さを指摘した。
３.ナクシュバンディー教団の修業法について（２） ---アブド・アッラフマーン・ジャーミー『ホージャガーンの修業法についての論考』より---(査読付)	単	平成20年9月	『西南アジア研究』69, pp. 1-32	アブド・アッラフマーン・ジャーミー『ホージャガーンの修業法についての論考』を翻訳し、それについてコメントを加え、その内容から再度ナクシュバンディー教団の修行法について論じた。
４.モンゴル帝国における戦争(査読付)	単	平成22年9月	『アジア・アフリカ言語文化研究』80号, pp. 113-51	モンゴル帝国の戦争の有り様を、その軍隊の形成と国家の形成が同じものであったという視点から､もう一度とらえ直した論文。また、モンゴル帝国における定住民支配も軍隊の形成と全く同じ過程を経て行われていたことを論証し､遊牧民の支配の一貫性を論証した。
５.バハー・ウッディーン・ナクシュバンドの生涯とチャガタイ・ハン国の終焉(査読付)	単	平成24年3月印刷中	『東洋史研究』70-4	バハー・ウッディーン・ナクシュバンドの伝記を紹介した後、彼のトルコ人の師であったハリール・アタという人物はハリール・スルタンと呼ばれる最後のチャガタイ・ハンであったことを、従来あまり使われることのなかったコイン研究を利用しての論証し､併せてなぜ最後のチャガタイ・ハンの在位年代がティムール朝の年代記では誤って伝えられていたのかを論証した。
６.中央アジアにおける聖者崇拝の実態	単	平成24年9月刊行予定	帯谷知可・北川誠一・相馬秀廣編集『朝倉世界地理講座　第５巻　中央アジア』第４章４．２節	西アジアにおけるイスラム教聖者崇拝の拡がりを論じた後、中央アジアの主な聖者廟(トゥルキスタンのアフマド・ヤサヴィー廟、サマルカンドのシャーヒー・ジンダ廟、ブハラのバハー・ウッディーン・ナクシュバンド廟）の謂われ（「歴史」）を紹介し、それによって中央アジアのイスラム教のトレンドの時代的変遷を述べた。

（その他）				
「批評・紹介」				
1.赤堀雅幸・東長靖・堀川徹［編］『イスラーム地域研究叢書７ イスラームの神秘主義と聖者信仰』東京大学出版会、2005年1月	単	平成17年10月	『イスラム世界』65, pp. 114-126	同年出版された表題のイスラム神秘主義と聖者崇拝についての論文集の内容を一つひとつ紹介して、論評した後、今後の当研究分野の展望を述べた。
「学会発表」				
1．「15世紀中央アジアの聖者伝『マカーマーテ・ホージャ・アフラール』について」	単	平成16年11月13日	第53回羽田記念館講演会（京都大学）	15世紀中央アジアの聖者伝『マカーマーテ・ホージャ・アフラール』を東京外国語大学から出版するに先立ち、このテキストの序文の内容、すなわち報告者がなぜこのテキストを出版するようになったのか、またどのようにして現存する5写本を集めたのかを報告した。次に、解題として、当テキストの1. 著作名 2. 写本 3. 刊本 4. 編著者 5. 構成 6. 成立 について順次説明した。
2．「「ホージャ・アフラールの資産とワクフ」再考」	単	平成17年2月5日	東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所「イスラーム写本・文書資料の総合的研究」平成16年度第3回研究会（東京外国語大学）	当研究発表においては、チェホビチが出版した15世紀のナクシュバンディー教団のシャイフとして最も有名なホージャ・ナースィル・ウバイド・アッラーフ・アフラール(1404-1490)の資産とワクフに関する文書集『サマルカンド文書集』所収の文書から、かつて取り上げることができなかった16世紀以降に書かれた６文書のなかの５文書を取り上げ、その内容を紹介し、それらの歴史的な意味を考察した。この研究発表の要旨は、『アジア・アフリカ言語文化研究所通信』114号、2005年，7月，pp. 52-53にある。

［注］

1 最近10年間の教育活動、研究活動について作成すること。

2 「教育活動」については、各項目ごとに年月日順に、「学会等および社会活動」については、就任年月日順に記入すること。

3 「研究活動」については、下記の点に留意すること。

① 著書・論文及びその他の順に、発表年月日順に記入すること。

② 著者が複数にわたる場合で、筆頭著者が著書・論文等において明示されている場合には、その氏名に◎印を付すこと。

③ 共著（論文）の場合、「該当頁数」の記入にあたっては、本人の分担箇所を特定できる場合は、その頁数を記載すること。

④ 最近10年間に著書・論文等の発表のなかった者についても、教員名を挙げてその部分を空欄にしておくこと。

⑤ 芸術分野や体育実技等の分野を担当する教員については、著書・論文等以外の競技会、展覧会または演奏会等での発表のうち、特に顕著な業績と認められるものについても記載すること。このほか、専門分野の特性を 考慮し、顕著な業績と認められるものがある場合もこれに含めてもよい。

教　育　研　究　業　績　書

平成26年3月31日

氏名　　多喜　正城

研究分野	研究内容のキーワード
情報工学、教育学	情報工学、教育情報システム、国際ボランティア

教育上の能力に関する事項

事項	年月日	概要
1　教育方法の実践例		
1）奈良工業高等専門学校情報工学科での実践教授内容である。特に、コンピュータリテラシと、プログラミングやアルゴリズムの効率化に関する情報数学関連の教育を実践し、学生たちにわかりやすく教授した。とくに、各科目とも、小テストを行い、理解を確実なものとすることに努めた。	昭和62年4月～平成19年3月	計算機概論(本科1学年)、情報実験(２～５学年)、データベース教育(本科5学年)、グラフ理論教育(本科3学年)、論理数学教育(本科2学年)、情報処理基礎、離散数学教育(専攻科1学年)、その他,情報系各教科及び,卒業研究(本科),特別研究(専攻科),特別実験(専攻科)、電子工学概論、工業外国語、情報処理、オペレーティングシステム、情報数学、計算機言語概論等を教授
2）奈良産業大学情報学部では、数学を受験しないで入学してくる学生が多いため、なるべく数式を用いずに、言葉と文章により理解をさせる工夫をした。教科書を用いて行うと、読まないで、話も聞かない学生が多くみられるため、Power Pointを用い、学生たちに板書をさせて、試験には、板書ノートのみの持ち込みを許した。これは、板書時と試験時のノートを読むことにより、少なくとも2回以上勉強する機会があり、確実に理解をすることができる。	平成19年4月～現在まで	プログラミング言語（C言語のﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞ実習）、データベース概論（Accessによるデータベース作成実習）、オペレーティングシステムⅠ（OSの基礎講座）、オペレーティングシステムⅡ（OSの各種管理システム）、情報数学（論理数学と組み合わせ数学）、情報演習（観光情報と情報観光）、プロジェクト演習（観光情報のデータベース）
2　作成した教科書，教材		
1）その他の教材 情報工学実験手引書 データベース教材 情報工学実験手引書 電子情報工学実験手引書 計算機言語概論 オペレーティングシステム教材 Table of Contents of Basic Experiment	 昭和62年4月 平成2年4月 平成4年4月 平成5年4月 平成12年4月 平成19年4月 平成21年2月	 電子回路実験、センサー工学実験 Power Pointによる講義用教材 Excelによるシミュレーション実験 心理情報分析プログラムの作成とその活用 Power Pointによる講義用教材 Power Pointによる講義用教材 Rwanda共和国の電子工学実験書
3　教育上の能力に関する大学等の評価		
1）情報工学科の教員組織、教育改善への取り組み	平成16年10月	学位取得評価(自己点検･評価報告書2004年10月(独法)国立高等専門学校機構奈良工業高等専門学校)
4　実務の経験を有する者についての特記事項		
2）	平成00年0月0日	
5　その他		
1）JICAプロジェクト：Rwanda共和国 Tumba Colage of Technology (TCT)の教育プロジェクトに、教育運営と電子通信情報専門家として参加。Rwanda国とIndonesia国との南南協力への橋渡し。	平成20年2月	2007年8月に第1セメスターが開始されたので、その第1セメスター終了後の電子通信工学科のカリキュラムや、シラバスの進捗状況の調査と、時間割編成の修正等のアドバイスを行う。また、TCTにIndonesiaのEEPIS教員による電子通信専門教育指導を要請するため、Indonesia教育省と交渉し、実現する。
2）JICAプロジェクト：Rwanda共和国 Tumba Colage of Technology (TCT)の教育プロジェクトに、教育運営と電子通信情報専門家として参加。 Rwanda国とIndonesia国との南南協力	平成21年2月	前回の南南協力実現により、Indonesia教員との電子通信専門教育の協同指導を行う。また、Rwanda教員をIndonesiaに派遣するにあたり、電子電機基礎実験項目と手引書の作成と、Lecture Planの作成を強く勧める。また、講義は、黒板による板書が主体なので、Power Pointを用いることを指導する。

３）JICAプロジェクト：Rwanda共和国 Tumba Colage of Technology (TCT)の教育プロジェクトに、教育運営と電子通信情報専門家として参加。 Rwanda国とIndonesia国との南南協力	平成21年8月	第1、第3セメスターが終了したが、Lecture Planが作成されていなかったので、講義日誌をつけるように指導する。また、代替エネルギー学科、電子通信学科、情報工学科共通のシラバスの統一作成するための指導を行い、同時に、3学科共通の電機系基礎実験手引の作成。FDの導入も指導。
４）JICAプロジェクト：Rwanda共和国 Tumba Colage of Technology (TCT)の教育プロジェクトに、教育運営と電子通信情報専門家として参加。 Rwanda国とIndonesia国との南南協力	平成22年2月	相変わらず、講義中心の授業が続くので、実験実習を積極的の行わさせるため、南南協力を確実にする必要があり、カウンターパートシステムの導入を行う。そこで、IndonesiaにTCT校長を伴い、EEPISでの教育方法の打ち合わせを行った。その他、学校管理の事務方の教育も必要であるので、日本での研修を勧める。
５）JICAプロジェクト：Rwanda共和国 Tumba Colage of Technology (TCT)の教育プロジェクトに、教育運営と電子通信情報専門家として参加。 Rwanda国とIndonesia国との南南協力	平成22年8月	教員のサボタージュや、授業開始時刻の遅延を防止するため、学校全体に、クラス担任と、学生による学級日誌の導入を実施する。学生や教員の専門知識活用のため、学校内に、修理専門工場を作ることを提案し、とりあえず、情報処理関連のサテライト分校を作る。卒業研究の充実のため、EEPIS教員の協力を要請する。

職務上の実績に関する事項

事項	年月日	概要
１　資格，免許		
１）運転免許	昭和45年4月	普通自動車
２）統計官・統計主事資格	昭和60年3月	文部省認定現代統計実務講座修了認定
３）C級スポーツ指導員(サッカー)	昭和61年10月	財団法人日本体育協会公認スポーツ指導者
４）合気道参段	平成3年3月	大東流合気柔術琢磨会
5）博士（工学）	平成16年3月	奈良先端科学大学院大学:博第99号 論文題目「Algorithms For Independent Set In Some Kinds Of Graphs And Its Applications 」
２　特許等		
なし	昭和00年0月	
３　実務の経験を有する者についての特記事項		
	昭和00年0月	
４　その他		
１）全国公立大学メンタルヘルス研究協議会運営委員	平成16年４月	協議会運営会議と協議分科会での座長

研究業績等に関する事項

著書，学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所，発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（著書）				

（学術論文）				
1.　Application of Transitive Graph for Education Support System	単著	2005.03	奈良工業高等専門学校研究紀要第40号	入学を頂点ｓ、卒業を頂点ｔとした、st有向グラフとして表し、グラフの推移的性質が、教育システムに応用できることを、理論的に示し、卒業単位取得の為の必修科目を決定する為の方法を提案
2.観光振興に寄与する人材の育成と大学の使命	単著	2007.05	奈良産業大学紀要	観光立国推進基本計画(平成19年6月25日閣議決定)を元に、大学の役割(第2節)を述べ、大学の使命は、国際観光学科を作り、大学院の設置と国際交流について述べている(第3節)。
3.産業連携による実践型人材育成事業---サービス･イノベーション人材育成---	単著	2008.12	奈良産業大学紀要	これは、平成２０年度文部科学省において、ビジネス知識、IT知識、人間系知識等の分野融合的な知識を兼ね備え、サービスに関して高いレベルの知識と専門性を有するとともに、サービスにおいて生産性の向上やイノベーション創出に寄与しうる資質を持った人材を育成するための教育プログラムの開発に委託する「産学連携による実践型人材育成事業－サービス・イノベーション人材育成－」を実施することの、公募要領に従い作成したプロジェクト内容である。
4.国際協力への参加: ルワンダの技術教育プロジェクト	単著	2011.03	奈良産業大学 地域公共学総合研究所年報	かつて、インドネシア共和国での技術教育プロジェクト（情報工学教育担当）に携わり、今回再び国際協力への要請を受け、ルワンダ共和国での技術教育プロジェクトTumba College of Technology(TCT)（電子通信教育及び学校運営）に携わることになった。このプロジェクトも、５分の３が経過し、完成に近付いてきたので、これまでの経過等を報告する。初めに、ルワンダという国のことと、JICAについて報告し、TCTの経過報告と、これからの課題等を述べる。
5.大学の国際化とグローバル人材育成に関する一考察	単著	2012.12	奈良産業大学 地域公共学総合研究所年報	少子高齢化に伴い、大学への全入学時代を迎え熾烈な学生獲得競争が始まっている。現在、一部の大学を除き、国公私立を問わず定員割れを起こしている大学が多くみられる。もはや、国内の学生獲得のみにこだわっていては、大学の存続すら危ぶまれる。ここでは、文部科学省高等教育局「大学の国際化について」の課題について、本学の可能な改革について、検討提言を行う。
（その他）				
観光学から観光科学への橋渡し(上)、(下)	単著	2009.04	毎日新聞	観光が時代とともに変化し、観光に対する考え方も変わってきている。観光に関する環境や、人間行動を社会現象として捉えた社会学としての観光に、情報技術（IT）の導入を用いて、観光科学の構築を試みようとするのが、この狙いでる。では、観光とは何？　科学って何？ ITって何？を簡潔に説明して、それらの関係を明らかにし、社会学としての従来型観光学に、ITを導入して観光科学になる意味を追求した、わかりやすい説明書。
奈良の観光を科学する(上)、(下)	単著	2010.06	毎日新聞	平城京遷都1300年記念行事に関して、奈良で行われる総合観光学会での「観光を科学する」をテーマにした研究内容の紹介。
国際協力の重要性を知ってください(上)(下)	単著	2011.03	毎日新聞	インドネシア共和国での技術教育プロジェクト：電気電子ポリテクニック（EEPIS；情報工学教育担当）に携わり、今回再び国際協力機構（JICA）への要請を受け、ルワンダ共和国での技術教育プロジェクト：ツゥムバ高等技術専門学校（TCT；電子通信教育及び学校運営担当）に携わることになった。このプロジェクトについて報告。

東日本災害ボランティアへの参加・奈良県と3大学連携の学生ボランティア(上)(下)	単著	2011.09	毎日新聞	3月11日に起こった、東日本大災害と、7月29日～30日にかけて福島県会津地方を襲った記録的豪雨災害への復旧に向けてのボランティア活動に、学生たちを連れて参加した。その報告と、感想、今後の取組等について、私見。
大学教育の国際化と学生中心の国際交流 大学の国際化	単著	2012.11	毎日新聞	大学教育の国際化の必要性について、具体的に述べる。
大学教育の国際化と学生中心の国際交流 学生中心の国際交流	単著	2012.12	毎日新聞	大学の国際化には、学生の国際交流が伴わなければならないことと、実際に行われた国際交流について述べる。
「学会発表」				
1.奈良県のデジタル遺跡地図データベース作成に関する研究	共著	2005.03	教育情報システム学会	第19回学生によるコンピュータ利用研究発表会：細見、多喜；　奈良県にある、万葉集に出てくる地名のGIS利用法
2.歴史的風土特別保存地区帳票のインターフェース開発に関する研究	共著	2005.03	教育情報システム学会	第19回学生によるコンピュータ利用研究発表会：東田、多喜；歴史的風土地域における土地情報ﾃﾞｰﾀｰﾍﾞｰｽ開発3版
3.奈良高専の地理情報システムのデータベースに関する研究	共著	2005.03	教育情報システム学会	第19回学生によるコンピュータ利用研究発表会：エディソン、多喜；GIS の各種データをArcGISに取り込むソフト開発
4.ＧＩＳを用いた地震が奈良県の歴史的遺産に及ぼす影響に関する研究	共著	2005.03	教育情報システム学会	第19回学生によるコンピュータ利用研究発表会：坂本、多喜；地震による、奈良県内の活断層と、寺院建築物との関係
5.ＡｒｃＧＩＳを用いた奈良県の地理情報システムの開発，及びそのシステムのＷＥＢ公開	共著	2005.03	教育情報システム学会	第19回学生によるコンピュータ利用研究発表会：西口、多喜；学校周辺の案内図情報
6.Making your country shoud be to train your yong people.	単著	2008.02	Work Shop：Electronic & Telecommunications of TCT. at Hotel Des Mille Collin, Kigali in Rwanda	ルワンダは、日本と同様に、資源の乏しい国である。この国が、発展するには、人間の能力すなわち、ソフトスキルの向上である。鉱工業的資源がなくても人的資源がある、そして、TCTが行おうとしている、エネルギー、通信、情報は、これから、ますます重要に成ってくる。これを活用する人を育てることは、大変重要なことである。国を築くことは、後に続く青年を育てることである。
7.Why, From EEPIS to TCT?	単著	2009.09	Work Shop：TAG Meeting of TCT. at Novotel Umubano Hotel, Kigali in Rwanda	インドネシアのEEPISは、JICAプロジェクトの中でも最高に成功した教育プロジェクトであり、そこの教員には、すでに多くの工学博士が誕生している。この成功例を、今度は、TCTの教員に、肌で感じてもらい、EEPIS教員による技術教育をマスターし、近い将来、発展途上国でありながら、世界に貢献していく国つくりをしてもらいたい。

［注］

1 最近10年間の教育活動、研究活動について作成すること。

2 「教育活動」については、各項目ごとに年月日順に、「学会等および社会活動」については、就任年月日順に記入すること。

3 「研究活動」については、下記の点に留意すること。

① 著書・論文及びその他の順に、発表年月日順に記入すること。

② 著者が複数にわたる場合で、筆頭著者が著書・論文等において明示されている場合には、その氏名に◎印を付すこと。

③ 共著(論文)の場合、「該当頁数」の記入にあたっては、本人の分担箇所を特定できる場合は、その頁数を記載すること。

④ 最近10年間に著書・論文等の発表のなかった者についても、教員名を挙げてその部分を空欄にしておくこと。

⑤ 芸術分野や体育実技等の分野を担当する教員については、著書・論文等以外の競技会、展覧会または演奏会等での発表のうち、特に顕著な業績と認められるものについても記載すること。このほか、専門分野の特性を 考慮し、顕著な業績と認められるものがある場合もこれに含めてもよい。

教　育　研　究　業　績　書

平成26年3月31日

氏名　竹山　理

研究分野	研究内容のキーワード
確率過程論、数理ファイナンス	確率微分方程式、マルチンゲール理論、派生証券、裁定価格

教育上の能力に関する事項

事項	年月日	概要
1　教育方法の実践例		
1）里山保全短期プロジェクト演習	平成１９年10月～平成23年7月	プロジェクト演習とは明確な目標をもつ社会活動への参加の機会を学生に提供し、学生は活動を通して社会認識と自己認識を育て深めることができる課題探究型の教育である。テーマを里山保全とし、市民の立場から里山保全に取り組んでいるＮＰＯ法人里山倶楽部とＮＰＯ法人奈良ネイチャーネットの活動に参加した。毎年、活動報告書をＡ４版５０ページ程度に作成した。学生は里山保全という個別の問題に取り組むなかで、問題解決には社会の仕組みの多様な側面が関係することを学習することができた。（ビジネス学部「短期プロジェクト演習」）
2）地域参画プロジェクト演習	平成２１年10月～平成２５年３月	地域が抱える問題に市民の立場から取り組んでいる活動に継続的に参加し、課題解決のプロセスを実践的に学習することを目的とした演習である。テーマは地球環境に関する問題とし、ＮＰＯ法人奈良ストップ温暖化の会とＮＰＯ法人森づくりならクラブに団体入会して、継続的に活動に参加できるようにした。この演習は２年半の長期にわたるので、課題発見するところからはじめて、計画立案から計画実行、中間報告、計画見直し、課題解決までプロジェクトマネジメントを経験することで、社会人としての中核能力を養成するものである。（ビジネス学部「プロジェクト演習」）
2　作成した教科書，教材		
1）経済数学入門（再掲）	平成16年4月1日	経済学部経済学科専門科目「経済数学」（３年次配当、通年、４単位）の講義用教科書である。経済学の現場で数学がどのように使われているかを理解してもらうことを目的とした、経済数学の入門書でもある。第１部は「経済数学への準備」として、「関数とグラフ」「方程式」「数列」「微分」を取り上げた。第２部は「経済数学の基礎」として、「行列と行列式」「一変数関数の微分」「二変数関数の微分」を取り上げた。様々な数学の道具が経済理論の展開にどのような役割を果たしているかに焦点を当てて解説した。（経済学部「経済数学入門」）
2）経済統計入門	平成19年4月1日	ビジネス学部専門基礎科目「経済統計入門」（１年次配当、半期、２単位）の講義用教科書である。経済統計データを読み解くために必要なマクロ経済学の基礎事項を解説しながら、代表的な経済統計を「財・サービスの消費」「労働と雇用」「財・サービスの生産」「国の財政」「物価と通貨」という項目に区分して取り上げて、最後に国民経済計算体系を取り扱った。（ビジネス学部「経済統計入門」）
3）ベーシック数理Ⅰ・Ⅱ	平成19年4月1日	ビジネス学部共通基礎科目「経済統計入門」（１年次配当、半期、必修１単位×２）の講義用教科書である。ベーシック数理Ⅰでは、社会で生じる問題解決において必要となる判断推理と数的処理の中から、その基礎となる方法と論理を解説した。具体的には、条件文の論理関係、情報をクロス表で整理する手法と対応関係の判断、数的処理としては整数の約数・倍数と剰余、等差数列と等比数列を現実問題の解決の利用することを解説した。ベーシック数理Ⅱでは数量化の方法を中心に据え、割合、関数、方程式による解法を解説した。（ビジネス学部「ベーシック数理」）

3　教育上の能力に関する大学等の評価		
1）学長からの評価	平成25年3月	人権教育・研究推進委員。学生委員会主催のリメディアル教育活動への講師参加。
4　実務の経験を有する者についての特記事項		
1）教職員のための公開講座	平成20年8月6～7日　平成21年8月5～6日　平成22年8月4～5日	大阪府、奈良県の教職員を対象にして、夏季休暇の期間に１泊２日の公開講座「吉野の自然と林業」を企画担当した。第１日目は、自然観察を中心した講座であり、特に清流における水生生物の観察学習をした。第２日目は、吉野林業を中心とした講座であり、現地の林業家の協力で、山上の私有林における森林の現状を見て、林業の現状を理解してもらうと同時に、実際にヒノキの枝打ちを体験してもらう内容であった。
2）教職員のための公開講座	平成24年8月8日	大阪府、奈良県の教職員を対象にして、公開講座「総合的な学習とプロジェクト・ベース学習」を担当した。アクティブラーニングに取り組んでいる大学の現状をサーベイし、特に、プロジェクト・ベース学習と総合的な学習との連続性を探求し、その可能性を参加者と共に追求した。
3）高大連携セミナー	平成24年12月8日	ＥＲＰ研究会主催「高大連携セミナー」において、大学の学部教育におけるアクティブラーニングの事例として、「里山保全プロジェクト演習」と「地域参画プロジェクト演習」の実践を報告した。プロジェクト演習では、社会活動への参画、他者との協同による学習経験、専門知識の活用、課題の探求を必須の構成要件とし、「目的のある活動に学生が自ら協同して取り組むことを通じて深い学びの経験を積む」ことの可能性を提示した。
4）高大連携セミナー	平成25年6月2日	高校大学を通した「学び・育ち」研究会主催「高校大学連携フォーラム」のパネルディスカッション「アクティブラーニングの創造・実践と展望」においてコーディネーターを担当した。アクティブラーニングを知識定着型と課題探究型に区別して、高校・大学を通じた主体的学びの仕組みづくりに向けて、高校現場と教育委員会、大学関係者から実践例を報告をしてもらい、今後の可能性を追求する議論を展開した。
5）三郷町公開セミナー	平成25年9月3日	三郷町主催公開セミナー「カルチャーサロンさんごう」において、「社会的ジレンマの数理」をテーマに講演をした。社会的ジレンマとは具体的にどのような現象なのかを、「出し抜き型」と「ただ乗り型」に区別して確認したうえで、現象の背後にある数理的構造を抽出して、「囚人のジレンマ」としてモデル化をした。続いて、ジレンマを解消するための３つの要因（強制力・選択的誘因・利他的利己主義）について、具体的な数値例を用いながら解説をおこなった。
5　その他		
1）奈良産業大学経済学部経済学科における教育実績	平成9年4月～平成19年3月	専任教員（平成9年4月～平成14年3月まで助教授、平成14年4月～平成19年3月まで教授）の専門教育担当として、以下の科目を担当した。
		「経済数学」（副題：関数の微分とその応用）高校で履修した「数と式の計算」だけを前提にして、経済学で用いられる数学の中でも最も重要な関数の微分とその応用に焦点を絞り解説した。多変数関数の制約条件付極値問題の解法と、その経済学における応用までを目標とした。
		「経済学特講」（副題：金融工学）資本の効率化とリスクの再配分をもたらす新たな金融商品は、どのような理論に基づいて開発されているのだろうか。この問いに答えるのが金融工学である。資産運用におけるポートフォリオ理論の基本的な考え方を解説し、代表的なデリバティブ取引（先渡、先物、オプション）を紹介して、不確実性にともなうリスクを移転するための手法であることを説明した。さらにデリバティブの価格付は裁定機会（リスクなしに確実に利益が得られる機会）が生じないように決まることを説明し、株式オプションのブラック・ショールズ公式を導くことを目標とした。

		「専門演習Ⅰ・Ⅱ」　テーマは、ファイナンス理論を取り上げた。ファイナンス理論の主要な事項は２つあり、資産選択理論（ポートフォリオ理論）と派生証券（デリバティブ）の価格付け理論である。これらに取り組むには、マクロ経済学とミクロ経済学の理論を道具として駆使する必要があるので、それぞれの初歩的知識を簡潔に整理しながら、ファイナンスのための経済学を学ぶという趣旨の文献を講読すると同時に、短答形式の演習問題も併用して、積極的に参加できる専門演習と実施した。最後にⅡでは、卒論の指導を個別におこなった。
２）奈良産業大学ビジネス学部ビジネス学科における教育実績	平成19年4月～平成22年3月	専任教員（平成19年4月～平成22年3月まで教授）の専門教育担当として、以下の科目を担当した。
		「リスクマネジメント」　日々の社会生活の中で私たちはリスクに取り囲まれていることを認識することから始めて、リスクをマネジメントするプロセス、リスクをコントロールする手法を解説した上で、伝統的なリスク移転の手法である「保険」と代替的なリスク移転の手法である「派生証券」について解説する。さらに、社会的リスクを分散する制度である「社会保障」を考える講義をおこなった。
		「経済統計入門」　個々の経済活動を集計した経済統計データを、目的に応じて統計処理をおこなった経済指標を読み解く内容の講義である。経済統計は集計量を扱うので、マクロ経済学の知識が必須であるから、マクロ経済学の基礎知識も同時に学習しながら、主要な経済指標の見方を提示した。
３）同志社大学理工学部における教育実績		担当科目「線形代数学Ⅰ・Ⅱ」　線形代数学の基本事項である行列と行列式を導入し、その演算と性質を解説してから、線形代数学Ⅰでは、連立１次方程式の解法と一般解の構造を導出した。次に、線形変換の性質を調べるために、変換を行列で表現し、固有値・固有ベクトルの求め方とその性質、および対角化の条件等を解説した。射影行列の組による単位の分解と部分空間の組による空間の直和分解の対応を説明してから、線形変換のスペクトル分解を解説し、特に対称変換のスペクトル分解の応用として、２次形式の標準化とその応用までを講義した。
		担当科目「数理統計学」　実際に統計的手法が必要となるケースを想定し、多変量データ解析への入門をおこなった。具体的には、２変量データのまとめ方から始めて、その相関と相関係数を説明してから、単回帰分析、重回帰分析の目的・方法・結果を解説し、統計的推測に必要な確率論の基礎知識を補足しながら、回帰分析における統計的推測問題を取り扱った。次に、判別分析と主成分分析およびその数量化を取り上げ、どのような目的で用いられ、どのような解析結果が得られるのかを明確にしながら講義した。
		担当科目「応用解析」　微分積分学と線形代数学の知識を前提にして、微分方程式論とベクトル解析の基礎事項を講義した。微分方程式論では、方程式を解く意味を述べてから、求積法で解ける１階微分方程式の解法、２階線形微分方程式の階の構造定理、定数係数２階線形微分方程式の解法、特解の積分核表示、初期値問題と境界値問題の違いと、代表的な境界値問題の解法までを解説した。ベクトル解析では、ベクトル値関数に関する様々な微分演算子、線積分、面積分を導入し、ガウス・グリーンの定理、ストークスの定理といった積分定理の内容とその応用までを講義した。

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
１　資格，免許		
１）高等学校教諭一級普通免許（数学）	昭和60年10月1日	昭六〇高一普め第二一号　京都府教育委員会
２）中学校教諭一級普通免許（数学）	昭和62年3月31日	昭六〇中一普め第四四六一号　京都府教育委員会

３）京都大学理学修士	昭和56年3月23日	理修第２４７６号、論文題名「正則行列上のBrown運動のLyapunov数」
２　特許等		
なし		
３　実務の経験を有する者についての特記事項		
１）研究助成	平成23年	ＪＲ西日本あんしん社会財団研究助成「災害時の状況把握用空中写真取得のための安価な自動航法ラジコンヘリコプター開発と実現」共同研究者（代表者：奈良産業大学情報学部　米川雅士）、研究費 1300千円
４　その他		
１）奈良産業大学評議員	平成17年４月～平成19年3月	

研　究　業　績　等　に　関　す　る　事　項

著書，学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所，発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　要
（著書）				
１．経済数学入門	共	平成16年4月	産図テキスト	経済学の現場で数学がどのように使われているかを体験しながら学習できることを目的とした、経済数学の入門書である。第１部は「経済数学への準備」として、「関数とグラフ」「方程式」「数列」「微分」を取り上げた。第２部は「経済数学の基礎」として、「行列と行列式」「一変数関数の微分」「二変数関数の微分」を取り上げた。様々な数学の道具が経済理論の展開にどのような役割を果たしているかに焦点を当てて解説した。Ｂ５版全140頁、共著者：竹山理、根岸章、福留和彦、本人担当部分：「第５章 行列と行列式」「第６章 １変数関数の微分」「第７章 ２変数関数の微分」（55頁～140頁）
２．統計学講義ノート	単	平成25年3月	開成出版	統計学を講義する場合に、実際のデータ解析の手法と確率論に基礎をおく理論とを、どのように配分するかに苦慮するが、第１部では、１変量データの整理の仕方から多変量データの回帰分析までを、確率論からの基礎知識は必要に応じた最低限度に限り、実際の解析手法に重点をおきつつ講義したノートをまとめたものである。第２部は、確率論の基礎理論をある程度準備した上で、と統計的推測の理論を線形代数学と解析学の知識を前提に講義したノートをまとめたものである。Ｂ５版112頁。
（学術論文）				
１．『貨幣経済の動学理論』精読Ｉ	単	平成17年12月	奈良産業大学経済経営学会「産業と経済」第20巻第4号P. 123～P. 134	小野善康著『貨幣経済の動学理論』を精読して、そのモデル構成を確認し、分析の前提事項と導出結果を明確に区別し、完全均衡の不存在と不況定常状態の存在可能性を導出する論理展開を、詳細に読み解いた。さらに、小野の導出結果をケインズ『一般理論』第17章の記述と比較検討した。
２．法的推論における「視線の往復」過程の解明	共	平成17年12月	名城大学法学会「名城法学」第55巻第3号P. 109～P. 148	自然言語における条件文の意味論と語用論に関する認知言語学の成果を参考にしながら、法的推論の基本モデルを提示した。法的推論領域の確定は、事実認定の可能性と法的効果の適合性を判断して遂行されることを論じた。さらに、法的スキーマの構成を論じ、法的推論における「視線の往復」過程で、法的スキーマがどのような役割を果たすかを考察した。本人担当部分「２．問題設定」（141頁～145頁）、「４．法的推論の基本モデル」（131頁～137頁）、「６．事例による「視線の往復過程」の解明」（117頁～125頁）、共著者：辻博明、竹山理

３．プロジェクト演習の可能性	単	平成23年12月	「奈良産業大学紀要」第27集P. 19～P. 38	プロジェクト演習とは、社会的実践への参加としての学習を実現するものであり、授業構成では、社会参画、グループワーク、課題探究、知識活用を共通要件とする。この論文では、社会科学系大学の学部教育において、プロジェクト演習にどのような可能性があるかを考察した。まず、大学教育の現状を踏まえて、その射程を再考するための手がかりを探索し、次に活動における体験が教育的に価値ある経験になるための要件を考え、その要件をプロジェクト演習でどのように具体化できるかを例示した。さらに、４年間の教育実践内容を報告し、社会問題をテーマとしたプロジェクト演習が、大学教育において「活動的で協同的で反省的な学び」を目指す「学びの共同体」のひとつの形態となると結論づけた。
４．プロジェクト演習の設計	単	平成26年3月	奈良産業大学地域公共学総合研究所年報第４集P. 67～P. 84	プロジェクト演習を実践するための前提とすべき理論として、エンゲストロームの活動理論と田中智志の様態論を概観した上で、社会科学系の大学教育課程において、プロジェクト演習を具体化するための設計指針を提示した。プロジェクト演習における学生の学習経験領域を、社会認識、学問知、実践知、表現の４領域に区分して、４領域ごとに探究目的に即した学習内容、探究課題の一覧を提示することを提案した。また、学生が主体的に活動を遂行する仕組み、および専門科目の知識獲得と関連づける仕組みを提示した。
５．デューイの教育哲学における「経験」と今日の大学教育	共著	平成26年3月	奈良産業大学地域公共学総合研究所年報第４集P. 85～P. 1084	デューイの教育哲学、なかでも「経験」概念が、今日の日本の大学教育に示唆するものを論じた。本人担当部分は、「Ⅱ．デューイの「経験」の再検討」（P. 95～P. 102）である。戦後新教育におけるデューイの受容において、「経験」概念がゆがめて理解されていたことを具体的に示す４つの現象について、主にデューイの著書『経験と教育』から論拠となる部分を引用して検証した。共著者：吉村文男、竹山理、日下耕三。

［注］

1 最近10年間の教育活動、研究活動について作成すること。

2 「教育活動」については、各項目ごとに年月日順に、「学会等および社会活動」については、就任年月日順に記入すること。

3 「研究活動」については、下記の点に留意すること。

① 著書・論文及びその他の順に、発表年月日順に記入すること。

② 著者が複数にわたる場合で、筆頭著者が著書・論文等において明示されている場合には、その氏名に◎印を付すこと。

③ 共著(論文)の場合、「該当頁数」の記入にあたっては、本人の分担箇所を特定できる場合は、その頁数を記載すること。

④ 最近10年間に著書・論文等の発表のなかった者についても、教員名を挙げてその部分を空欄にしておくこと。

⑤ 芸術分野や体育実技等の分野を担当する教員については、著書・論文等以外の競技会、展覧会または演奏会等での発表のうち、特に顕著な業績と認められるものについても記載すること。このほか、専門分野の特性を 考慮し、顕著な業績と認められるものがある場合もこれに含めてもよい。

教　育　研　究　業　績　書

平成26年3月31日

氏名　平尾　透

研究分野	研究内容のキーワード

教育上の能力に関する事項

事項	年月日	概要
1　教育方法の実践例		
1）特記事項なし		
2　作成した教科書，教材		
1）法と政治	平成17年3月	学内1回生向けオムニバス講義用（その第8講）
2）現代社会入門	平成18年3月	学内1回生向けオムニバス講義用（その第5講）
3　教育上の能力に関する大学等の評価		
1）特記事項なし		
4　実務の経験を有する者についての特記事項		
1）特記事項なし		
5　その他		
1）特記事項なし		

職務上の実績に関する事項

事項	年月日	概要
1　資格，免許		
1）特記事項なし		
2　特許等		
1）特記事項なし		
3　実務の経験を有する者についての特記事項		
1）特記事項なし		
4　その他		
1）特記事項なし		

研究業績等に関する事項				
著書，学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所，発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（著書）				
1.『統合主義ー政治の基本原則』	単	平成21年7月	ミネルヴァ書房	オリジナルな歴史理論である「統合史観」に基いて、人類の幸福を実現するための普遍的政治原則を打ち出した。 またそうした「統合主義」の観点から、日本にとって重大な「国民国家」および「日本帝国主義」の問題についても本格的に論じられている。A4判303頁。

［注］

1 最近10年間の教育活動、研究活動について作成すること。

2 「教育活動」については、各項目ごとに年月日順に、「学会等および社会活動」については、就任年月日順に記入すること。

3 「研究活動」については、下記の点に留意すること。

① 著書・論文及びその他の順に、発表年月日順に記入すること。

② 著者が複数にわたる場合で、筆頭著者が著書・論文等において明示されている場合には、その氏名に◎印を付すこと。

③ 共著（論文）の場合、「該当頁数」の記入にあたっては、本人の分担箇所を特定できる場合は、その頁数を記載すること。

④ 最近10年間に著書・論文等の発表のなかった者についても、教員名を挙げてその部分を空欄にしておくこと。

⑤ 芸術分野や体育実技等の分野を担当する教員については、著書・論文等以外の競技会、展覧会または演奏会等での発表のうち、特に顕著な業績と認められるものについても記載すること。このほか、専門分野の特性を 考慮し、顕著な業績と認められるものがある場合もこれに含めてもよい。

教　育　研　究　業　績　書

平成26年3月31日

氏名　　松田　智子

研究分野	研究内容のキーワード
教育学	体験学習と学び、学校と地域社会 特別活動の指導・生活科の指導

教育上の能力に関する事項

事項	年月日	概要
1　教育方法の実践例		
(1)地域の子育て事業への参加体験を通しての地域社会との連携の具体的促進	平成19年9月～平成21年3月	学生を地域の児童館学童保育へボランティアとして参加させ、地域の子育て支援事業との連携を授業に組み込んだ。これにより放課後の子どもの姿を観察できた。また、地域の祭りや催しへの参加を通し、保護者や地域住民の願いに触れ、「地域に貢献できる大学」について考える契機となった。地域住民からの感謝のが、学生の達成感と満足感を高め、教育職への就労意欲を喚起した。京都光華女子大学短期大学部こども保育学科の実践である。
(2)学生の相互評価を導入した成績評価の開発	平成19年9月 平成21年3月	保育者として求められる感性及び表現力を育成するにあたり、学生の相互評価を導入した成績評価を実施した。事前の学生との討議で具体的な評価基準を作成し、他者のスピーチを相互に評価した。その成果及び課題を発表者に返す作業を行うことにより切磋琢磨の気風が醸成され、個々の観察力がさらに細かく具体的となった。表現の工夫では、具体物使用や身体表現が広がる等の効果が出た。京都光華女子大学短期大学部こども保育学科の実践である。
(3)形成的な評価を活用した授業計画の開発	平成21年４月 ～現在に至る	シラバス作成時に授業の形成的評価を計画に位置付け、それを基に授業の改善を行う。また、それぞれの授業終了時に３段階の満足度評価（学習者と指導者二者を対象とする）及び自由記述形式のアンケートを実施し、その集計結果を次回の授業でフィードバックして、自己評価に活用する。これにより授業改善のみならず学生とのコミュニケーションツールとしての役割も果たした。 環太平洋大学次世代教育学部学級経営学科の実践である。
(4) 生活科の体験を通した気づきを表現する過程で言語力を育てる系統的指導	平成21年9月 ～現在に至る	児童は直接体験を伝え合う中で自分の気付きと友達のそれとを比較し、共通点や相違点を発見する。これは相手意識と目的意識を備えた活動でなければ効果は望めない。そこで生活化の体験と国語科の低学年の「話す・聞く」の能力を系統的に指導する中で子どもの言語力を育てることを紹介した。朝のスピーチを連続的・系統的に取組み気づきの質を高める言語力指導を具体的に提示した。 環太平洋大学次世代教育学部学級経営学科の実践である。
2　作成した教科書，教材		
(1)学校マネジメント8月号　共著（明治図書） 「現場主義で読み解く“新教育課程”の方向」 学習意欲UP－授業のどこを変えるか【再掲】	平成18年8月	児童生徒の学ぶ意欲は発達年齢により異なり、その意欲を継続するには，教師の発達を意識した指導が不可欠である。 兵庫県芦屋市立潮見中学校校内研修に使用した。
(2)現代教育科学　№604　　共著（明治図書） 免許更新制度で教員の質は向上するか	平成19年1月	免許更新制度の趣旨と予想される効果を論じた。環太平洋大学次世代教育学部学級経営学科「教育実習事前事後指導」で参考書として使用した。

(３)道徳と特別活動　№24　　共著（文溪堂） 保護者対応の現在	平成19年8月	保護者等の苦情・抗議・クレームを分析し、学校と保護者と地域が連携する方策を示した。 京都光華女子大学短期大学部こども学科「総合演習」の授業で参考書として使用した。
(４)教育フォーラム〔41〕　　共著（金子書房） 新しい学習指導要領 -カリキュラム改革の理念と課題－【再掲】	平成20年2月	新学習指導要領の説明を、設置の背景及び各教科の観点から述べた。 環太平洋大学次世代教育学部学級経営学科「教育実習の事前事後指導」の補助資料として使用した。
(５) 言語力を育てる授業作り ―新学習指導要領対応―【再掲】 共著（図書文化）	平成21年9月	今までの学習指導要領の教育の問題点を洗い出し、新たなカリキュラム改革が目指す理念と課題を明確にした。 環太平洋大学次世代教育学部学級経営学科生活科指導法で参考書として使用した。
(６) 教育フォーラム[46]　　共著（金子書房） ―言葉の力を育てる―　【再掲】	平成22年8月	各教科で新学習指導要領の要請される言語力を育てる方策について述べたものである。 芦屋市幼稚園教育研究会の教育課程の学習会で資料として配布し論議を深めた。
(７) 実践教育評価事典【再掲】 共著（文溪堂）	平成22年8月	環太平洋大学次世代教育学部教育経営学科のゼミナールで、学習指導要領の歴史を把握する際の教科書として使用した。
(８) 不登校生支援ハンドブック【再掲】 （学研エディケーショナル）	平成22年12月	子どもの不登校の事例を挙げて、それについての取り組みおよびその取り組みへの評価を述べたものである。 環太平洋大学次世代教育学部教育経営学科「生活の理解」の事例資料として使用した。
(９) 教育フォーラム[46]　　共著（金子書房） －〈こころ〉を育てる―【再掲】	平成23年3月	個々との教育とは何かを論じ、各教科での心の教育への取り組みの在り方を述べたものである。 環太平洋大学次世代教育学部学級経営学科「学級経営ゼミナール」資料として活用した。
(１０)次世代教職入門【再掲】 共著（大学教育出版）	平成23年5月	教師としての在り方についてその理念、研修や服務および仕事の内容について述べた。 環太平洋大学次世代教育学部教育経営学科「教育実習事前事後指導」で確認のための資料として使用した。
(１１) 教育フォーラム[50]　　【再掲】 共著（金子書房） －〈やる気〉を引き出す〈やる気〉を育てる―	平成24年8月	子どものやる気とは何か、各教科におけるやる気の引き出し方について論じた。 環太平洋大学次世代教育学部教育経営学科「教育実習事前事後指導」の参考書として使用した。
３　教育上の能力に関する大学等の評価		
(1)学生による自己評価委員会アンケート 京都光華女子大学短期大学部こども保育学科 平成19年度前期授業評価	平成19年8月	「生活と文化」「保育課程総論」の全体を通して５段階で3.9の評価を受けた。特に授業の進め方の工夫や授業内容では高い評価を受けた。
(2)京都光華女子大学短期大学部学生による自己評価委員会アンケート 平成19年度後期授業評価アンケート	平成20年2月	「生活と文化」「学齢児保育」の全体を通して５段階で平均4.0以上の評価を受けた。特に授業の進め方の工夫では高い評価を受けた。
(3)京都光華女子大学短期大学部学生のアンケートによる平成19年度卒業生 の満足度評価	平成20年3月	学生の満足度は、授業74．2%、先生86．4%、自己の成長度78．3%、友人関係96．2%であった。 総合満足度は80．0%と大学の学科の中で一番高い満足度を示した。
(4)京都光華女子大学平成19年度大学内自己点検教員評価結果	平成20年6月	学長及び学部長から、研究・教育・社会貢献・学内運営のすべての領域において「相当である」との評価を受けた。
(5)京都光華女子大学短期大学部学生による自己評価委員会アンケート 平成20年度前期アンケート	平成20年8月	「保育課程総論」の全体を通して5段階で平均4.2以上の評価を受けた。特に授業の説明の分かりやすさや教材教具の準備では高い評価を受けた。
(6) 環太平洋大学次世代教育学部教授として採用においての評価	平成21年４月	学校法人創志学園、大橋博理事長から、授業指導の能力のみならず、校長経験や教育委員会で身に着けたマネージメント能力を高く評価され、環太平洋大学の学級経営学科学科長として新規に採用をされた。
(7)環太平洋大学平成21年度後期学生による授業評価アンケート	平成22年3月	学生による授業評価12項目の平均評価は3.52（満点は４）である。特に専門基礎である「学校と社会」が3.77と高い評価であった。

(8)環太平洋大学平成22年度前期学生による授業評価アンケート	平成22年9月	学生による授業評価「生活の理解」満足度4.00中の3.85、「学校学級文化の受容力」満足度4.00中の3.97であり、高い評価である。
(9) 環太平洋大学教職センター長としての評価	平成23年3月	学長大橋博より、公立学校の教員採用試験の合格者を倍増するように指示を受け、目標を達成した。大学内に教師を目指す組織である「大志会」を設立し、学生の自学自習の支援システムと教職センターの組織を確立したことが高く評価された。
(10) 環太平洋大学平成22年度後期学生による授業評価アンケート	平成23年3月	「生活科教育法」3コマのそれぞれの学生満足度は4.00中の3.76、3.90、3.84であり高い評価を得ている。「学校と社会」満足度4.00中の3.35である。
(11)環太平洋大学平成23年度前期学生による授業評価アンケート	平成23年9月	「生活の理解」2コマの学生の授業満足度は4.00中の3.91と3.70である。特に3.91という評価では授業方法が適切で興味が持てる授業展開の項目が4.00と高い評価であった。
(12)環太平洋大学平成23年度後期学生による授業評価アンケート	平成24年3月	「生活科教育法」3コマのそれぞれの学生満足度は4.00中の3.90であり高い評価を得ている。特に学習指導案の作成に高い評価を付けた。
(13) 環太平洋大学キャリアリアセンター長としての評価	平成24年3月	学長梶田叡一から地方の私立大学である環太平洋大学が、岡山県及び全国を上回る就職率96，06%を達成したことを高く評価された。特に、キャリアセンターを学生の進路別に4つの室に編成し、キャリア支援のシステムを構築したことを評価された。
(14)環太平洋大学の学長補佐としての評価	平成24年3月	学長梶田叡一から理事長と学長と理事との意思疎通を図るパイプ役を務めるように指示され、その役割を果たした。大学の経営方針作成や新設学科設立の企画に参加し、マネージメント力を学長から評価され、新学長の下でも学長宇補佐を続けるように推薦された。
(15) 環太平洋大学平成24年度前期、学生による授業アンケート	平成24年9月	「生活の理解」2コマの学生の授業満足度は4.00中3.8以上であり、具体的な楽興驚異の実践的な事例と結びつけた授業なので、教員養成に役立つとの意見が多かった。
(16)環太平洋大学平成24年度後期、学生による授業評価アンケート	平成25年3月	「生活科教育法」3コマの学生の最も高い満足度は4.00中3.77である。具体的な模擬授業や、児童への発問、児童への評価としての褒め言葉などがとても参考になったという意見が多かった。
４　実務の経験を有する者についての特記事項		
(１)文部科学省の総合的な学習の時間コーディネータ養成研修（和歌山県）の講師 「特別活動職場体験と総合的な学習の時間」	平成18年8月	総合的な学習の時間の目的と内容を学習指導要領の総則を基に確認した。その中で総合的な学習の意義について確認するため具体例としてキャリア教育との関連で特別活動における職場体験活動を取り上げ、特に中学生の時期に培うべき力について説明した総合と特別活動の違いについても過去の経緯から説明した。また、小学校と中学校の学びの内容と方法、連続性のあり方について、実践例をあげて説明した（対象：中学校の総合的な学習担当者及び学年主任約200名）。
(２)兵庫県芦屋市立朝日ヶ丘小学校生活科校内研究会指導助言者	平成18年10月	生活科「秋を見つけよう」という単元で公開授業が行われた。季節の変化を自分の生活経験と結びつけながら学ぶ授業である。秋が来ると紅葉するという既成概念にとらわれているため、ありのままの自然を体感できていない児童に対する指導の手立てを助言した。自然を見る際に場所・時間・距離などが違うと見え方が異なること、身の回りの環境への愛着の育み方について指導した。
(３)兵庫県芦屋市立朝日ヶ丘小学校全国発表会の生活科部会助言者	平成19年2月	生活科の自尊感情を育てる単元「あしたへジャンプ」「楽しかったこと教えるよ」の公開授業後の指導助言を行う。子どもが、自分の成長を「人・もの・こと」との関わりの中で認識するためには、教師の指導や声のかけ方はどうあるべきかについて具体的に提案した。自己認識の深化は個人差が大きく、それゆえ児童一人一人の内面を理解し、それに応じた指導が不可欠であることも指導した。

(４)第14回実践教育フォーラム分科会講師 「保護者対応の現在」	平成19年6月	マスコミ等で学校教育の弊害と報道されているクレームを、その様態から３つに分類し、それへの基本的な対応について話した。保護者と学校が児童・生徒を中心して向き合うことにより、クレーマーは学校の支持者に転換する可能性を示した。クレームの背後にある思いに共感し、スピード感を持って誠実に対応することが重要であることや、法的な対抗手段についても熟知する必要性を述べた。
(５)　静岡県浜松市教科等研修会 生活科部会講師 「生きる力と生活科」	平成19年7月	新学習指導要領における生活科の変更箇所についての実践上の課題について述べつつ、今回の改訂の柱である理科分野と健康安全面が重視されることになった社会的な背景についての理解を促した。理科分野重視は国際学力調査ＰＩＳＡと関連付けて説明し、健康安全面では阪神淡路大震災の経験と関連付けながら登下校時における児童の自立の必要性を述べた。生活科の教科書に登下校の安全に関する記述がもっと必要であることを主張した。（対象：小学校生活科担当教員約100名）
(６)文部科学省の総合的な学習の時間第２回 コーディネータ養成研修（和歌山県）の講師 「特別活動と総合的な学習の時間Ⅱ」	平成19年8月	総合的な学習のコーディネータの役割を小学校との学習の連続性に関連づけて述べた。総合的な学習の時間の目的と内容を学習指導要領の総則を基に確認した。その中で特に中学生の時期に培うべき力について、キャリア教育との関連で特別活動における職場体験活動を具体例として取り上げて、総合的な学習の意義について確認した。（対象：中学校の総合的な学習担当者及び教務主任約200名）。
(７)日本教育新聞社主催「教育セミナー関西2008」パネリスト 「学習指導要領改訂とこれからの学校教育」	平成19年8月	加藤明・角屋重樹・成山治彦・松田智子で「授業力・学校力・人間力の向上をめざして-学習指導要領の改訂とこれからの学校教育-」をテーマにパネルディスカッションを行った。保護者・地域から学校の姿が見えるように工夫することや、説明責任を果たさなければ、公立学校は生き残れないことを法的な根拠を基に説明し、そのためのオープンスクールや学校評価の活用の仕方について述べた。
(８)兵庫県芦屋市立朝日ヶ丘小学校校内研究会の特別活動指導助言者 「学校の集団生活における特別活動の役割」	平成19年10月	小学校特別活動の学級会の授業を参観し、事後研究会で指導助言を行った。学級の目標を決定し、その取り組みの反省を行うことを通して児童に話合いの基本的なルールの定着を図る授業であった。特別活動における学級活動の目標を確認するとともに、対話と会話の差異、対話の類型について話した。学校教育では共感的な対話が重要であり、これは計画的継続的な学級活動を通して積み上げることが必要であると具体的に指導した。
(９)ベネッセコーポレーション主催 「第１回教師塾」講師 「地域・保護者との連携について」	平成19年10月	学校において、最近増加している保護者のクレーム対応のワークショップを行った。小さなトラブルを大きなクレームにしない対応として「スピード+面談+共感」が求められる。特に保護者の話を共感的に聴くための対話法について具体的に指導した。また起きてしまったトラブルには組織的な対応が不可欠であることを強調した。作成したクレーム対応チェックシートも活用して参加者の学校の危機管理意識の見直しを図った。
(10)兵庫県立芦屋高等学校授業研究会 全体会講師「学力向上の授業づくり」	平成19年11月	兵庫県教育委員会指定「学力向上フロンティアハイスクール事業」を受けての授業研究会である。高等学校の授業は高い専門性を有するため知識伝達型授業が多くなる傾向にあることを踏まえ、教師と生徒の双方向の交流がある授業づくりの意義について話した。また、単元の目的分析や、それに基づく形成的な評価を単元導入前より授業計画の中に適切に配置する必要性を述べた（対象：兵庫県高等学校教員約50名）。
(11)兵庫教育文化研究所講師 「総合学習で培う学力」	平成20年2月	2007年度の全国学力・学習状況調査における結果分析と総合学習との関連について講演し、基礎基本の学力低下が総合学習に起因するような論調について反論した。また、家庭の教育力が学力に及ぼす影響についても触れつつ、学校と家庭との連携が不可欠であることを主張するとともに、教育には学力保障と成長保障の両立が求められることを国際学力調査ＰＩＳＡの問題と関連付けながら述べた（対象：兵庫県内の教職員約200名）。

(12)兵庫県芦屋市立朝日ヶ丘小学校全国研究会の特別活動部会助言者 「特別活動と総合的な学習の時間の連携」	平成20年2月	新学習指導要領における特別活動の意義を道徳及び総合的な学習の時間との関連に焦点を当てつつ指導助言を行った。特別活動を通して受容的な学級文化を形成することが重要であると説明した。現状の特別活動が「満足度や楽しさとは深く関わっているが、資質や能力の育成に十分繋がっていない」との批判も子どもの自発的自治的な活動の克服できると論じた。新内容としての清掃当番の扱いについてその意義と具体的な取り組みを助言した。
(13)大阪市平野区人権教育実践交流会パネラー 「地域全体で取り組む人権教育」	平成20年2月	平野地区教職員及び地域住民を対象に、学力には子どもの学習環境としての地域の果たす役割が大きいことを全国学力学習状況調査を基に話した。地域の文化を受け継ぎ地域に愛着を持つ子どもを育成することが地域活性化の鍵となること、災害時等に子どもの命を守ることにつながることを論じた。この力を培うことが重要であり、「総合的な学習」「特別活動」における体験学習等と「基礎基本」は相反するものではないことを具体例とともに示した。
(14)兵庫県西宮市立中学校教頭研修会講師 「地域・保護者との連携における教頭の役割」	平成20年2月	保護者のクレームが学校に大きな影響を与えている。教育活動を日常的に行う学校園にとって「不測の事態」は避けられないものと捉え、クレームをチャンスとして活かす方策としてクレームに対応する基本姿勢「スピード・面談・誠意」の重要性を述べた。また、学校組織の鍋蓋的な構造を乗り越え、組織的に対応することの重要性を説明した。
(15)兵庫県芦屋市立山手小学校研究会の総合的な学習の時間の助言者 「日本一の学校給食」	平成20年6月	山手小学校の教職員を対象に助言を行った。テーマ「日本一の学校給食」の課題を児童が決定する過程の公開授業を参観し、授業後の研究協議会において指導を行った。あわせて総合的な学習における言語活動の位置付けについて今後の方向を例示した。
(16)兵庫県芦屋市朝日ヶ丘幼稚園園内研修会 指導助言 「学校評価と日常の保育との関係」	平成20年6月	朝日ヶ丘幼稚園の教職員を対象に指導した。全クラスの保育参観を行った後の研究会では、それぞれの幼児の発達年齢に応じた内容であるかどうかを踏まえて助言した。また学校評価を園の教育目標と関連付けて実施する必要性について提言した。
(17)兵庫教育文化研究所教育課程編成講座講師 「各学校独自のカリキュラム編成の留意点」	平成20年7月	兵庫県下の教職員約50名を対象としたカリキュラム編成の講座である。兵庫県の小学校５年生で実施される１週間の自然学校を総合的な学習として位置づける上での留意点として、自然学校における各校のねらいに沿った活動内容や指導方法が必要であることを指導助言した。「体験主義」に陥り「学び」がない体験は経験化されないことを強調した。
(18)大阪府生駒市青少年健全育成協議会講師 「地域・保護者との連携への視点」	平成20年8月	大阪府生駒市内の公立小中学校の教職員約100名を対象に「保護者と手を繋ぐために」をテーマに講演をした。学校に苦情や要望を述べる保護者が増加した社会的な背景を述べるとともに、学校内部の組織的な弱点を分析と指摘を行った。あわせて、保護者との「共感」とは具体的にどのように振る舞うことであるかにつきロールプレイを活用して提案した。
(19)兵庫県芦屋市朝日ヶ丘幼稚園園内研修会 助言者 「環境構成と教師の役割」	平成20年10月	年少と年長クラスの保育の参観と事後の協議会において幼稚園の教育要領の５領域と現実の保育内容を関連付けて指導助言を行った。あわせて、幼児教育の「環境を通して行う」意味の再確認と、今日求められている「規範意識の芽生え」を支える保育の方向性について提言を行った。
(20)兵庫県芦屋市立幼稚園教育研修会講師 「新幼稚園教育要領の改訂のポイント」	平成20年10月	芦屋市公立幼稚園の園長と主任・行政担当者の約20名を対象に、新幼稚園教育要領の改訂のポイントと小学校学習指導要領の関連性について講演した。その中で、教育課程編成上の留意点及び、具体的な編成手順について指導した。特に幼稚園では、教育課程の評価が進んでいない点を指摘した。

(21)京都市私立幼稚園新規採用教員研修会講師 「幼稚園の教師入門」	平成20年10月	私立幼稚園新規採用教員約120名を対象に「教員の使命感と職務遂行能力とは」をテーマに講演をした。教員の成長を日本の伝統文化継承の過程「守・破・離」に例え、現在学ぶべきことを具体的に話した。また、幼稚園教育は生涯学習の入口であり、ますます重要となる仕事であることを強調した。
(22)兵庫県芦屋市山手小学校国語科校内研究会 助言者 「国語教育における新しい言語活動」	平成20年11月	小学校４年生国語科文学教材「一つの花」の授業参観と事後の研究協議会で指導を行った。新学習指導要領の重要課題である言語活動を、国語科の中で具体的にどのように指導するかを助言した。また、文学作品における視点と読者の関係について教材研究する必要性を提案した。さらに、確かな教材研究に基づかない話し合い活動は、児童の論理的な思考を妨げる危険性があることを指摘した。
(23)兵庫県芦屋市立山手小学校研究会の国語科 の指導助言 「国語教育における新しい言語活動」	平成20年11月	小学校３年生の国語科説明文「ズームとアップ」の授業参観と事後の研究協議会の指導を行った。説明文教材であり、論理的に考えを示すのに適切な教材であり、児童の表現を相互評価し、さらにより良い表現を作り上げる授業であった。ただ、相互評価をさせる以前に、子どもに相互評価の規準や評価の視点を指導しなければ妥当な評価は出来ないことを指導した。
(24)兵庫県芦屋市立朝日ヶ丘小学校全国研究会の総合的な学習の時間の指導助言 「総合的な学習で福祉を取り扱う留意点」	平成21年2月	福祉教育で地域の高齢者とのかかわりをテーマとして授業参観と事後の研究協議会取り扱った授業 である。歳を重ねて高齢になることをマイナスにとらえがちである児童が多いが、ふれあい体験や探究活動を通して、歳を重ねることの素晴らしさを体感させる取り組みである。体験を文字化して児童が、自分自身の変化をメタに認知できるような場面が必要であると指導した。
(25)兵庫県芦屋市立山手小学校全国発表会総合的な学習の時間の指導助言 「総合的な学習と環境教育」	平成21年2月	芦屋川の環境をテーマに、地域住民や専門家と連携した「環境サミット」を子どもたちが開催した。能動的に環境に働きかける姿が事後研究会で参加者より高い評価を受けた。保護者や地域住民、行政関係者等が一体となり児童の当事者意識を高めることができた。総合的な学習と国語科の書く力を連携させ、芦屋川新聞等を発行の機会を多く持ち、日常的に言語力を育成することの重要性を指導した。
(26)兵庫県河辺郡猪名川町立公立幼稚園長及び校長研修会の講師 「保護者・地域との連携」	平成21年2月	危機管理の視点から保護者の意見や苦情が学校や園の教育活動へ与えている影響を論じた。またそのような社会的な背景も考察した。教育活動には「不測の事態」は避けられないが、傾聴する姿勢が不可欠である。クレームに対応する基本姿勢「スピード・面談・誠意」の重要性を述べた。また、組織的に対応し、教訓を継承することの重要性を説明した。
(27)兵庫県芦屋市立公立幼稚園園長及び主任研修会の講師 「言語活動と幼小連携」	平成21年3月	新学習指導要領及び教育要領の実施に伴い、今後もとめられる言語活動の重視及び体験的な活動と知識理解との関係について論じた。県大会で発表する芦屋市の教育課程基底の枠組みについて指導した。また小学校教育との連携をどのように保育のなかに取り入れるかについて説明した。遊びを学びとしてとらえるための指導と評価を提案した。
(28)兵庫県芦屋市公立幼稚園研修会全体講師 「幼稚園教育要領の改定と芦屋の特色」	平成21年3月	幼稚園教育要領の改訂のポイントと、その内容が小学校・中学校の教育内容にどのように継続しているのかを解説した。芦屋市の地域性を全校学力状況調査の結果と結び付けて説明した。比較的学力の高い地域に求められる「心をたがやす保育」の方向を提示した
(29)兵庫県芦屋市立朝日ヶ丘幼稚園園内研修講師 「幼児期における言語活動」	平成21年6月	5領域の「言語」に焦点をしぼった公開保育と事後研究会を行った。豊かな体験を基本とした絵本の読み聞かせ教育を通して、子どもの感性を磨くことに重点をおいた公開保育であった。体験の言語化を援助する教師の指導について、幼児期から小学校低学年までの幼児児童の発達の特徴と関連付けながら論じた。

(30)兵庫県芦屋市立西山幼稚園園内研修講師 「幼稚園の教育評価と保育内容」	平成21年6月	幼稚園の教育課程の意義について論じた。例年通りの踏襲になりがちである次年度教育課程には、評価が不可欠であることを述べた。さらに教育評価では地域住民や保護者からの声を反映し、次年度へ返していくPDCAのサイクルについて論じた。外部評価の有効な活用方法について、例示しながら説明した。また、道徳性的な実践力を身につけるためにコミュニケーション活動を重視した保育の研究方法についても論じた。
(31) 第17回授業実践フォーラム生活科部会講師 「新学習指導要領の言語活動と生活科」	平成21年6月	新学習指導要領において生活科の中で言語活動が取り入れられた。それに伴い一部の実践で「見つける・比べる・たとえる」の「たとえる」ことが強調されすぎ、体験感動・内面の納得を伴わない言葉遊びになる危険性があることを指摘した。重要なことは「知的な気づき」であることを再確認し指導した。
(32)奈良市立幼稚園教員研修会 「保護者・地域との連携を支える共感」	平成21年8月	奈良市立公立幼稚園教諭の約60名を対象に「保護者の要望にこたえるために」をテーマに講演をした。園に苦情や要望を述べる保護者が増加した社会的な背景を述べるとともに、園独特の組織的な弱点と強み分析し、それを活かした保護者対応を指導した。幼稚園独特の「共感」とは何かをロールプレイで提案した。
(33) 兵庫県阪神地区小学校教科等研修会生活科部会講師 「生活科における言語活動」	平成21年8月	兵庫県阪神地区の小学校生活科担当教諭150名を対象に「生活科における言語活動とはー新学習指導要領に基づいてー」の講演を行った。また当日提案された生活科のレポートへの指導助言も行った。生活科の活動や体験が、身近な地域を対象に工夫されているが、その目標が明確でないことを助言した
(34) 兵庫県猪名川町教職員研修会講師 「保護者・地域との連携」	平成21年8月	兵庫県猪名川町の教職員約50名社会的な背景とともに、保護者の意見や苦情が学校や園の教育活動へ与えている影響を論じた。現在の経済状況において公的な仕事の従事者に対し厳しい目が向けられることへの自覚を促した。教育活動には「不測の事態」は避けられないが、傾聴する姿勢が不可欠であり、クレームに対応する基本姿勢「スピード・面談・誠意」の重要性を述べた。
(35)平成21年度免許更新講習会講師 「求められる資質と職務遂行能力」	平成21年8月	新教育課程を実践するうえで教師として求められる「資質」と「職務遂行能力」について講義をした。20代から50代までの年代別に，教員経験年数に伴う，学校の校務分掌の中で果たすべき役割について論じた。特に新任教師が増加している今日，教職10年を経過する教師はミドルリーダーとして，学校運営に参画することが求められていることを述べた。
(36) 兵庫県芦屋市立西山幼稚園園内研修会講師 「道徳性の芽生えと幼稚園教育要領」	平成21年9月	芦屋市立幼稚園教諭約10名を対象に指導助言を行った。新学習指導要領の道徳教育重視の流れを受けて、幼稚園での道徳性の芽生えを図ることの重要性を述べた。集団的な体験活動での葛藤や、その後の話し合い活動など、幼稚園としてふさわしいものは何かを提案した
(37)兵庫県芦屋市立朝日ヶ丘幼稚園園内研修会講師 「幼稚園における言語活動と環境構成」	平成21年10月	芦屋市立朝日ヶ丘幼稚園等の教諭約10名を対象に指導助言を行った。新学習指導要領の小学校の言語力育成を受けて、幼稚園としてふさわしい学力は何かを提案した。幼稚園でも「話す・聞く」活動を系統的実施する必要性を助言した。
(38)兵庫県芦屋市立西山幼稚園園内研修会講師 「保育における話し合い活動の指導」	平成21年11月	芦屋市立西山幼稚園等教諭約10名を対象に指導助言を行った。話し合い活動を通して思考力を育てる事を目標とした公開保育が実施された。子どもの葛藤場面を保育の中で取り上げ、教師 が適切な価値の方向性を示すことの重要性を指摘した。
(39)兵庫県教育研修集会教育課程部会指導助言 「新学習指導要領と授業時間数の増加」	平成21年11月	兵庫県内の教職員約50名を対象に指導助言をした新学習指導要領が先行実施されて、授業時数の増加指導内容の増加など、教員にとって研修の必要性が高くなっていることを助言した。教科書と教育課程とを同一視していることはいけないこと、教員が各単元の目標分析をすることを提言した

(40)兵庫県芦屋市立朝日ヶ丘小学校全国研究発表会全体会講師 「言語力を育成する授業の在り方」	平成22年2月	全国の教員約450名を対象に講演した。携帯電話が子どものコミュニケーションを阻害している実態について話した。携帯電話の弊害を乗り越える正しい言語力を育成するための、授業に求められる話し合い活動について、また対話が成立する学級・学校文化の重要性を提案した。
(41)兵庫県芦屋市立朝日ヶ丘幼稚園園内研修講師 「絵本の幼稚園教育における役割」	平成22年2月	芦屋市立朝日ヶ丘幼稚園等の教諭約10名を対象に指導助言を行った。絵本読み聞かせや親子絵本の会の実施に取り組んでいることの意味づけを行った。絵本に親しむことで、豊かなイメージを持ち、言葉の感覚を養うことを話した。幼児期に培われた言葉が小学校教育にどのように継続されるかも具体例を挙げて論じた。
(42)兵庫県神戸市小学校教科等研修会総会における生活科講師 「新学習指導要領と生活科の変更点」	平成22年3月	神戸市の生活科担当者約60名に講話をした。新学習指導要領の変更点について説明する。算数や理科の指導内容が多くなり、生活科の影が薄くなりがちであるが、体験に支えられた納得・実感・本音の理解の仕方が重要であることを再度確認した。また、幼小学校の段差である小１プロブレムを解消するため、入学時のスタートカリキュラムの重要性について提案した。
(43)兵庫県芦屋市朝日ヶ丘幼稚園園内研修講師 「幼児期にふさわしい言葉の指導」	平成22年5月	芦屋市立朝日ヶ丘幼稚園等の教諭約10名を対象に指導助言を行った。４・５歳児の「遊びの中で言葉の力を育む」を狙いとした保育参観も行った。５領域は，幼児期に育てたいことを幼児自身の発達の側面から取り上げたものであるのであること。各領域の内容は総合的に指導するものであり，幼児を取り巻く環境を構成する視点でもある。幼児の活動は「言葉」という領域に偏った指導は好ましくないことを例示した。
(44)兵庫県芦屋市立西山幼稚園園内研修講師 「子どもの人間関係を豊かにする指導」	平成22年5月	芦屋市立西山幼稚園で４・５歳児の保育を参観しその後，教諭約10名を対象に指導助言を行った。友達や教師と安定した人間関係が築かれることにより情緒が安定すること。幼児が「友達」を理解する過程やその中で育つ他者を思いやる気持ちについて話した。また，そのための保育者の役割を具体的な保育の場面を例に挙げた。
(45)兵庫県芦屋市幼稚園教育課程研修会講師 「幼稚園と小学校のカリキュラムの連続性」	平成22年7月	芦屋市立幼稚園教諭100名を対象に「幼稚園と小学校の教育課程の連続性」についての講演を行った。特に幼児期の子どもが，小学校のような形式的な文字の指導なしに，日常生活の中で文字を読み書きできるという現状を認識した保育が重要であることを話した。また，反対に幼児期から字の形や書き順になどを指導する一斉指導は問題があり、幼児期の言葉は知的能力の指標としてとらえがちであるが，日々の豊かな経験に基づく総合的な発達の中で言葉が育つことの重要性を指導した。
(46)兵庫県加古川市教頭研修会講師 「地域・保護者との連携と教頭の役割」	平成22年8月	兵庫県加古川市立学校教頭等50名を対象に「信頼される学校園」をテーマに講演を行った。信頼される学校園づくりには，子どものことを第一におき，何をどのように解決するべきかを保護者とともに考えることを強調した。いわゆる「モンスターピアレント」という呼称が持つ否定的な意味ではなく信頼関係を築く方策を助言した。
(47)奈良市小学校教員夏季研修会講師 「地域・保護者と連携する教師の在り方」	平成22年8月	奈良市立小学校教諭等30名を対象に「保護者と信頼関係を築くためにやるべきこと」をテーマに講演を行った。奈良市内小学校で起きている具体的事例を取り上げながら，ロールプレーで演習を行い，問題解決への過程を示した。保護者の苦情をや訴えを聞き取り，その裏にある思いや願いを読み取ることの重要性を指導した。学校ができること出来ないことを明確にしつつ対応することが不可欠であることを話した。
(48)兵庫県芦屋市山手小学校校内人権教育研修会講師 「男女平等教育の歴史と学校のジェンダー」	平成22年8月	芦屋市立山手小学校教員２０名を対象に，人権教育の中で特に男女平等教育に係る授業実践のための基本的な理念について指導助言を行った。ジェンダー問題の歴史及び男女平等教育の現状さらに学校教育における課題について話した。特に教育課程を編成にあたり，意図的計画的に位置付け教育活動全体を通して男女平等教育を推進することや教師自身の研修が重要であることを提案した。

(49) 兵庫県阪神地区小学校教科等研修会生活科部会講師 「心を育む生活科の在り方」	平成22年8月	兵庫県阪神地区生活科教育担当者200名を対象に実践への指導助言と講演を行った。テーマは「心豊かにたくましく生きる力を育む生活科の実践」である。伊丹市と芦屋市の幼稚園と小学校の連携をねらいとした実践の発表があった。両者の連携はともするとイベントになりがちなので，双方の教育課程に位置付け継続的に関わりを持つことを助言した。講演では，小学校低学年における教科横断的・総合的な指導の必要性を強調した。
(50) 兵庫県教育研修集会教育課程部会指導助言 「教育課程と総合的な学習の時間」	平成22年11月	生活科及び総合的な学習の時間の単元構成について，兵庫県の小学校教員50名に指導助言した。総合的な学習の時間が新学習指導要領で時間数減となるが，それは意義やねらいの後退ではないことを論じた。従来の総合的な学習の時間の問題点である単なる体験活動を乗り越えて，課題解決的な 追求的な学習に高めることを事例を挙げながら説明した。
(51)全国女性校長会近畿地区大会分科会指導助言 「学校運営と女性校長の指導性」	平成22年11月	近畿小中学校の女性校長50人を対象に，分科会で指導助言を行った。テーマは「新しい時代を拓く学校経営と校長の指導性―家庭・地域・学校の連携と，学校運営への協働・参画―」である。女性校長の数が全国的に減少する中で，女性の特性を生かした学校運営の在り方を，大学における学科運営の具体例を挙げながら話した。公的な学校で常識と考えられている様々な習慣が，世の中の動きに合わなくなっていることを自覚する必要を指導した。細やかな配慮などは、女性校長の特質であるかのようなステレオタイプを乗り越えて、学校経営にあたること示唆した。
(52)兵庫県芦屋市立西山幼稚園園内研修指導助言 「豊かな人間関係を育てる保育」	平成23年1月	芦屋市立西山幼稚園で４・５歳児の「豊かな人間関係を育てる」をねらいとした保育を参観しその後，教諭約10名を対象に指導助言を行った。道徳性の芽生えを培うには，幼児が他の幼児と関わる中で他人の存在に気づき相手を尊重して行動することが大切であること。また，身近な動植物に親しむことにより豊かな感情が育つことを話した。特に信頼感や思いやりは一直線に育つのではなく，葛藤やつまずきを通してそれを乗り越える体験で育つものであることを助言した。
(53)兵庫県芦屋市教育研修所教員研修会講師 「保護者・地域との連携をはかるために」	平成23年2月	兵庫県芦屋市立小学校・幼稚園教諭等20名を対象に「保護者との信頼関係を大切にする学校園づくり」をテーマに講演を行った。学校園と地域社会・保護者との関係に変化が起きた社会的な背景を，具体例を挙げながら解説した。社会や国民全体の権利意識の高揚や保護者の経験した学校生活などが，大きな要因になっているので，学校の教員の意識改革も不可欠であることを説明した。
(54) 兵庫県芦屋市教育委員会指定研究会講師「自分らしさを発揮し友だちと響きあう幼児」	平成23年6月	芦屋市教育委員会の指定研究発表大会である。幼稚園教員約１５０人を対象に講演を行った。テーマは「自分らしさを発揮し友達と響き合う幼児」である。４歳児と５歳児の自我の発達と，他児とのコミュニケーション力の発達に着目して，遊びの中での子どもの心の葛藤とひきだす保育の意義について話をした。また，児童が葛 藤しこころを成長させるための，環境としての保育者の役割，その他の環境構成のあり方の重要性について話をした。またこれが，幼児期の道徳性の芽生えであることも指摘した。
(55) 兵庫県芦屋市立朝日ヶ丘幼稚園園内研修指導助言 「異年齢交流と協同学習①」	平成23年6月	朝日が丘幼稚園の保育を参観しその後，園の教育方針と保育の方向性の妥当性について，教員6名を対象に指導助言した。本園は4歳児1クラス5歳児1クラスの，単学級の園である。本来ならばさびしくなるところであるが，単学級の利点を生かして，日常的に徹底的な異年齢交流を実施して，子どもを育てている。特に体を動かして 異年齢で教え合う昔の遊びを活用して，5歳児に責任ある行動やおもいやりの心を育むことの意義を論じた。

(56) 岡山県総合教育センター研修講師 「新しい生活科の具体的な授業づくり」	平成23年8月	岡山県内３０人の生活科担当教員対象に「児童の気付きを深めたり広げたりするための，少子の支援の在り方」について，講演と演習を行った。まず，児童の気付きとは何かを学習指導要領の解説書を基に説明した。次に具体的な子どものシートを用いて，「気付きを深める声掛け」「気付きを広げる声掛け」を演習として実施した。広げる深める声掛けも。あくまで単元全体や本時の狙いに沿ったものでないと「いいね」「すごいね」という一般的抽象的なものになり，目標に沿った授業が成立しないと指摘した。
(57) 「あしや教育フェスティバル」生活科部会 指導助言 「若い先生でもできる生活科」	平成23年8月	生活科の2年生の授業「私の町の素敵をおしえよう」の実践報告の指導助言を行った。芦屋市の生活科担当の教員20名を対象としていた。小学校は若い教師が増え，生活科の狙いや学習スタイルが理解できていない。そのため，教科書をそのままなぞる授業が増加している。そこで，生活科が新教科として設置された社会的な背景や，理念について指導助言した。教員の若返りが進行する学校現場で，生活科や総合的な学習の時間の指導が困難になる危機を指摘した。
(58)京都中央看護専門学校研修会講師 「主体的に学ぶ学生集団作りについて」	平成23年9月	看護師を養成する専門学校の教員50人を対象の研修会で「主体的に学ぶ学生集団をつくる学級担任の役割」について講演した。看護学校の授業は基本は40人以下で実施されており，個別の対応に配慮はされている点は評価できる。しかし，授業が講義や実習にしても一方的なものが多くみられる。双方向の授業であっても，教師と学生が1対1で双方向に取り組んでいるにすぎない。学生を集団として学ばせる学習集団の育成が遅れていることを指摘した。
(59) 兵庫県教育研修集会教育課程部会指導助言「新教育課程と総合学習」	平成23年11月	兵庫県の各地から総合的な学習の時間のレポートが３０本報告をされた。兵庫県内の総合的な学習は，3年生では兵庫県が自然体験補助金を出しているため，安易な体験あって学びなしといわれる学習が目につくことを指摘した。自然体験だけ終わるのでなく，振り返る学習とセットで取り組むことが重要であることを指摘した。高学年では，新学習指導要領の伝統文化の重視の方向性を受けて，地域の伝統文化をテーマに取り組む総合的な学習が多く見られた。
(60) 兵庫県芦屋市立朝日ヶ丘幼稚園園内研修指導助言 「異年齢交流と協同学習②」	平成23年11月	本園は4歳児1クラス5歳児1クラスの，単学級の園である。単学級の利点を生かして，日常的に徹底的な異年齢交流を実施して，子どもを育てている。特に体を動かして異年齢で教え合う昔の遊びを活用して，5歳児に責任ある行動やおもいやりの心を育むことを狙いとしている。異年齢交流を通しての子どもの協同学習に焦点を当て，教師が共通理解しながら子どもの保育にあたるという姿勢は良い。園の方針を教員が共通理解することを指導助言した。
(61)兵庫県芦屋市立西山幼稚園園内研修講師 「自分らしさを発揮し友だちと響きあう幼児」	平成24年1月	芦屋市立西山幼稚園の教員6名を対象に園内研修の指導助言を行った。2月の生活発表会の出し物を選んでその表現活動を行っている保育を参観した。最後は保護者に見せる作品に完成するため，物語の主題とずれた箇所で，子どもの表現を無理に引き出そうとしている教師の意図の誤りを指摘した。幼児の意識より，生活発表会の流れが重視されると困ることを指導した。
(62)兵庫県芦屋市立潮見中学校 総合的な学習の時間の講師 「進路選択ためのキャリア教育」	平成24年2月	芦屋市立潮見中学校の2年生120人を対象に，「今の中学校2年生に伝えたいこと」という「生き方」をテーマに講演会を行った。2年生は中学校の中で中だるみに時期であり，進路についてまだしっかりとした意識付けができていない時期である。この時期の生徒に，大学で学ぶには基礎的な学力と，夢を持ち続けるということの大切さを話した。
(63)兵庫県芦屋市立朝日ヶ丘幼稚園 園内研修講師 「教育目標を日常の保育に反映させる」	平成24年5月	芦屋市立朝日ヶ丘幼稚園教諭６人を対象に指導助言をおこなった。進級や入園間もないクラスで、学級づくりの途中のクラスの保育を参観した。４歳児は園の決まりを身につけ。５歳児は年長としての自覚を育成している時期である。この時期に、園としての教育目標を各保育にどのように反映するかを、具体的な保育を事例に指導した。

(64) 平成24年度免許更新講習会講師 「今求められる資質と職務遂行能力」	平成24年8月	新教育課程を実践するうえで教師として求められる「資質」と「職務遂行能力」について教員４０人を対象に講義をした。年代別に，教員経験年数に伴う，学校の校務分掌の中で果たすべき役割について論じた。特に新任教師が増加している今日，ミドルリーダーとして，学校運営に参画することが求められていることを述べた。また、学校としてのチームワークの重要性が今後ますます求められることを指摘した。
(65) 「あしや教育フェスティバル」生活科部会 指導助言 「国語科の書くことと生活科の関連」	平成24年8月	兵庫県芦屋市の教員１５名を対象に、生活科で事実をとらえる目を養うために国語科と合科的に扱った指導実践例の報告があった。国語科指導で事実を見る目や書く力は育っているが、生活科の自分との関係性において植物の成長をとらえる視点の弱さを指摘した。
(66)兵庫県芦屋市立岩園小学校人権教育研修会講師「男女共生教育と教育実践」	平成24年10月	岩園小学校の教員30名を対象に、男女共生教育について校内研修会の講師を務めた。男女共生教育の歴史とともに、この教育は道徳のみでなく、各教科と連携して、学校教育全体で扱うべきだと助言した。特に隠れた潜在的なカリキュラムに注意するよう指導した。国語科の言葉にこだわって、男女共生の授業実践を提示した。
(67) 兵庫県芦屋市立朝日ヶ丘幼稚園 園内研修講師 「　　「異年齢交流と協同学習③」	平成24年11月	朝日ヶ丘幼稚園の教員6人を対象に指導助言を行った。異年齢交流での協同遊びと、その後の話し合い活動の参観をした。話し合い活動では、友だちの良い点を取り上げて発言させ、人間関係を気付いていた。さらに、聞くという姿勢を徹底的に指導されていることを評価した。
(68)兵庫県教育研修集会教育課程部会 指導助言「新教育課程と総合学習」	平成24年11月	兵庫県の教員40名に対して実践発表を取り上げ指導助言を行った。総合的な学習の体験の部分がクローズアップされ、探究の部分が消えていることに対し警鐘をならした。総合も年月を重ね、活動がパターン化していると指導した。
(69)兵庫県芦屋市立岩園小学校人権教育 校内研究会講師	平成25年1月	男女共生教育の4年生の授業を参観し、その後教職員20人を対象に、事後研修会を行った。国語の男子や女子を形容する形容詞や形容動詞に焦点を当てて、児童がもっているステレオタイプの考え方を、学校教育でどのように指導するかを話した。また、男女共生教育を巡る隠れたカリキュラムについて、具体例を挙げて説明した。
(70) 兵庫県教育研修集会教育課程部会 指導助言「新教育課程と総合学習」	平成25年11月	兵庫県の教員40名に対して実践発表を取り上げ指導助言を行った。東日本大震災から防災教育が教育課程の中に新たに取り込まれる事例が増えた。総合的な学習や特別活動ので実践が増加したが、各教科とも連携し意識的に教育課程に組み込む必要性を助言した。
(71)神戸市立小学校生活科研究会 講師	平成26年１月	1年生の成長単元の授業参観を行い、その後幼稚園・小学校の教員60人を対象に講話を行った。生活科の成長単元は児童の自尊感情を育み周囲に感謝の気持ちをもたせることがねらいであること。これは命を大切にすることに繋がることをアンケート調査を基に説明をした。子どもの死生観の境目を意識して教育に当たる必要を述べた。
５　その他		
１　大学設置・学校法人審議会における教員組織審査による判定	平成18年12月	京都光華女子大学短期大学部こども保育学科教授として「生活と文化」「保育課程総論」「基礎演習」「総合演習」「教育・保育実習指導」の科目が可と認定
２　大学設置・学校法人審議会における教員組織審査による判定	平成21年2月	環太平洋大学次世代教育学部学級経営学科教授として「生活科教育法」「生活の理解」「特別活動の指導法Ａ（初等）」「特別活動の指導法Ｂ（中等）」「学校･学級文化の受容力」「学校と社会」「総合演習」「教育実習事前･事後指導（初等）」「教育実習Ⅰ（小学校）」「教育実習Ⅱ（小学校）」「教育実習Ⅱ（中学校･高等学校）」「教育実習Ⅱ（中学校）」「学級経営学ゼミナールⅠ（基礎）」「学級経営学ゼミナールⅡ（応用）」「卒業研究」の科目可と認定

3　大学設置・学校法人審議会における教員組織審査による判定	平成25年10月	奈良学園大学人間教育学部教授として「生活の理解」「特別活動の指導法Ａ（初等）」「特別活動の指導法Ｂ（中等）」「教育原理（初等）オムニバス」「教育原理（中等）オムニバス」「教職実践演習（幼・小）」「教職実践演習（中・高）」「教育実習事前･事後指導（幼）」「教育実習事前･事後指導（中・高）」「教育実習Ⅰ（幼）」「教育実習Ⅱ（幼）」「教育実習Ⅰ（中･高）」「教育実習Ⅱ（中学校）」「人間教育学ゼミナールⅠ（基礎）」「人間教育学ゼミナールⅡ（応用）」「卒業研究」の科目可と認定
4　文部科学省課程認定委員会における判定	平成26年2月	「生活の理解」「特別活動の指導法Ａ（初等）」「特別活動の指導法Ｂ（中等）」「教育原理（初等）オムニバス」「教育原理（中等）オムニバス」「教職実践演習（幼・小）」「教職実践演習（中・高）」「教育実習事前･事後指導（幼）」「教育実習事前･事後指導（中・高）」「教育実習Ⅰ（幼）」「教育実習Ⅱ（幼）」「教育実習Ⅰ（中･高）」「教育実習Ⅱ（中学校）」担当可と判定

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
1　資格，免許		
(1)小学校教諭２種免許 (2)小学校教諭1種免許 (3)小学校教諭専修免許 (4)修士（教育学）	昭和52年4月 平成　5年4月 平成10年3月 平成10年3月	昭52め第2263号（京都府教育委員会） 平5小１第22号（兵庫県教育委員会） 平9小専第2035号（大阪府教育委員会） 大阪教育大学　実践教育学専攻　証第20号 論文題目：「生活科新生の試み－新たな防災教育を中心に－」
2　特許等		
なし		
3　実務の経験を有する者についての特記事項		
(1)兵庫県阪神地区中学校生徒指導連絡協議会幹事	平成17年4月～平成19年3月	2年間，芦屋市生徒指導担当校長として阪神地区６市１町の生徒指導校長及び神戸市校長と定期的に情報交換を行い，生徒指導上の問題解決に尽くした。また定期的に，研修会を行い教員の生徒指導上の能力向上に尽力した。
(2)芦屋市小中学校生徒指導連絡会会長	平成17年4月～平成19年3月	市内の生活指導担当者が毎月一回、集まって情報交換や問題解決の方策を話し合い、効果をあげた。また神戸市等の近隣の学校の校長及び生徒指導担当者と研修会を実施して生徒指導の能力の向上に努めた
(3)第57回兵庫県造形教育研究大会事務局長	平成17年4月～平成18年3月	大会テーマは「感動・創造」、各部会テーマはそれぞれ幼稚園が「出会い」、小学校が「ふくらみ」，中学校が「深まり」である。兵庫県下から700人の図工及び美術教育に関わる教員が参加し、幼稚園から中学校まで全学年の公開授業が実施され事後研究会がもたれた。
(4)平成18年度兵庫県中学校教科等研究会国語部会幹事	平成18年4月～平成19年3月	10月に兵庫県教科等研究会中学校国語部会阪神地区大会を開催した。中学校国語関係者100名が参加し、授業研究会と事後研究会を実施した。全体会では地域住民である作家の小川洋子さんと中学生の交流の場を設定し、読書の楽しさを学ぶ機会を設けることが出来た。
(5)国立大学法人兵庫教育大学と株式会社ベネッセコーポレーションとの協同研究総括チーム委員	平成20年10月～平成22年3月	「活用型学習」の指導方法及び評価方法等の研究を行う。本研究では習得・活用・探求の意味づけを行い，各教科ごとに活用型学習の開発を行う。研究は各教科に分かれて実施されたが，各教科に属することなく，全体を総括する評価や指導についての研究を行った。
(6)兵庫県芦屋市学力向上推進委員会委員	平成20年11月～平成22年3月	平成19・20年度の全国学力状況調査の結果を受け、市内の学力向上のためのシステムを提案することを目的とする学識経験者２名、小中の校長２名、教諭２名、行政関係者６名により構成される委員会において、学力向上のために、研究会の充実と小中の連携が不可欠であることを提案した。

(7) 兵庫県猪名川町教育委員会「猪名川の教育・点検・評価報告書（平成19～24年度対象）」作成協力者	平成21年9月～平成25年3月	猪名川町教育委員会の学校教育の各項目について目標達成度さらに今後の課題について、外部委員として点検評価を行った。学識経験者として，点検評価に4年間にわたり関わり指導をした。特色ある学校づくりを目指した猪名川の今後の5年間にわたる教育基本構想の基盤となるものである。毎年この評価報告書は，市民に対して公開されている。
(8)兵庫県猪名川町教育基本計画策定委員	平成22年5月～平成24年3月	平成18年に改定された教育基本法を受けて兵庫県教育委員会策定の「兵庫教育策定プラン」に基づいて猪名川町独自の今後10年間の教育のプランを策定するものである。猪名川町における教育の振興方針と施策の体系を示し，町全体の教育振興を図るための基本計画を策定するものである。委員として学識経験者，保護者，学校関係者10名で構成されたが，副委員長を務めた。
(9) 兵庫教育大学ベネッセ教員育成研究奨学生選考委員	平成22年4月～平成24年3月	ベネッセコーポレーションが兵庫教育大学の教職大学院で学ぶ学生に対して研究助成を行い，その奨学生の選考を行うものである。毎年初めに，計画書を審査し，年度末にその成果を提出発表をすることとなっている。
(10) 兵庫県立芦屋高等学校の学校評議員及び学校関係者評価委員	平成21年4月～平成２６年3月	兵庫県立芦屋高校の学校評議員及び学校関係者評価委員を4年間勤めた。兵庫県立芦屋高等学校の学校行事及び学力向上研究会等に参加し、年度末に学校評価点検を実施し、保護者地域等に公開している。委員は保護者、地域住民、学識経験者、学校関係者など8名で構成されている。
(11)三田市教育振興基本計画検討委員会委員	平成23年6月～平成24年9月	三田市民や保護者・学校関係者・学識経験者を含む１０名で委員会は構成されている。副委員長として、委員長を補佐し会の運営にあたった。教育基本計画は，三田市の今後10年間の教育の方向性を検討する基盤案であり，その作成に尽力した。
4　その他		
(1)環太平洋大学における役職	平成21年4月～25年3月	次世代教育学部学級経営（教育経営）学科の学科長を4年間勤めた。また教職センター長を兼務し，1期生を卒業させ，約70％の学生が教育関係への進路を確保した。さらに平成23年から2年間は，教育経営学科長とキャリアセンター長，学長補佐を兼務した。卒業生の進路は、毎年全国平均を上回り、就職に強い大学として社会的評価を得た。学長補佐として事務職員と教員の連携を強化した。

研　究　業　績　等　に　関　す　る　事　項

著書，学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所，発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　要
（著書）				
(1)学校マネジメント8月号「現場主義で読み解く“新教育課程”の方向」	共著	平成18年8月	明治図書	これからの教育課程について，様々な立場からその方向性と可能性について論じたものである Ｂ5版　全77頁　　編者：明治図書 共著者：八重樫憲一・菱村幸彦・長尾章夫・森下恭光・影浦攻・田中博史・田中義之・加藤幸次・田中耕治・片上宗二・小森茂・田近洵一・森一夫・角屋重樹・楚阪博・田中統治・高階玲治・天笠茂・北俊夫・生越昭二・松田智子・他21名（担当：p.44～p.45を単著） 中央教育審議会の指摘を受けて、学習意欲をアップする方策について述べた。児童生徒の学ぶ意欲は教えるという営みなしには成立しない。また学校での学びが私的な家庭教育と一線を画する意味は、その多様性にあるといえる。低学年は「面白そう」という個人的意欲でも育つが、高学年では「大切だからやろう」という社会的な意欲も育てなければならない。また、学ぶ意欲は持続しないので、絶えず学ぶことの意義を子どもに納得させる取り組みも必要であることを論じた。

(2)道徳と特別活動№24	共著	平成19年8月	文溪堂	道徳と特別活動の充実には家庭・保護者との連携は欠かせない。その方策について論じた。 Ａ５版　全63頁 編者　文溪堂 共著者：堺正之・倉持雅夫・山田悦子・長谷留理子・長谷川勝一・古門雅司・松田智子・長谷徹・畠山由香里・大橋健一・杉田洋・谷田増幸・八巻寛治・新井邦二朗・志鎌正敏・他4名） （ｐ25～29保護者対応の現在の部分を単著） 様々な児童生徒の教育活動を日常的に行う学校園にとって「不測の事態」は避けられないものと捉え、保護者のクレームをチャンスとして活かす方策を述べた。保護者と手をつなぐことをねらいとして、クレームに対応する基本姿勢「スピード・面談・共感」の重要性を述べた。共感するには、教師や児童・生徒が保護者や地域と連携するために、社会の実際に目を向ける必要があること、学校として組織的に行動することの重要性を提案した。そのためには特別活動における学校行事や社会体験などを内容に含む特別活動の役割は大きいことを述べた。
(3) 教育フォーラム〔41〕新しい学習指導要領-カリキュラム改革の理念と課題	共著	平成20年 2月	金子書房	新学習指導要領が出され、各教科の配当時間も変わった。今後の各教科のカリキュラム作成に対する基本的な姿勢について論じたものである。 Ａ5版　全150頁 編集：梶田叡一 共著者：加藤明・浅田匡・二瓶弘行・硲茂樹・田中博史・矢野英明・直山木綿子・松田智子・上月敏子・勝見健史・鎌田首治朗・善野八千子 （担当：p.89～p.99　総合的な学習の部分を単著） 中学校特別活動の学校行事に位置付けられている職場体験活動を総合的な学習と連携して学ぶ指導方法について述べた。さらに総合的な学習のコーディネータの配置の重要性とその役割について述べた。また中学における特別活動を、総合的な学習と連携するために、職場体験と言う実践例をあげ改善ポイントとともに提案した。中学校における特別活動と総合的な学習の時間の関係について、安易に特別活動を総合的な学習に読み替えることへの現状と課題を示した。
(4)「学力」こどもからはじまる教育	共著	平成20年3月	兵庫教育文化研究所 「子どもと教育」No128	文部科学省が実施した悉皆の国語と算数の学力テストをどのように受け止めて、今後の目指す学力形成への方法論に結び付けていくかについて調査資料とともに論じたものである。 Ａ４版　全74頁 編者：兵庫教育文化研究所 共著者：桂正孝、福田誠司、遠藤幸弘、神田章吉　　松田智子 (担当：p19～20「全国学力学習状況調査」の問題を授業改善に生かすの部分を単著) 単に学力調査を学力テストと決めつけ児童生徒を序列化するものとして反対をするのはよくないことを論じた。新学習指導要領は入り口であり、「目的」からの授業改善を目指しており、学力テストは「評価」からの授業改善と捉えるべきであると提案した。学力調査の問題を研究し、自らの日常の授業を改善する必要性を論じた。

(5)「言語力」を育てる授業づくりー新学習指導要領対応ー	共著	平成21年9月	図書文化	学習指導要領の改訂で言語力の育成が重要な課題として提示された。その意義と各教科における取組について論じたものである。 Ａ５版　全157頁 編者：梶田叡一・甲斐睦朗 共著者：梶田叡一・甲斐睦朗・加藤明・吉川芳則・棚橋尚子・岩田一彦・清水静海・角屋重樹・松田智子・琉田直・高橋美由紀・新富康央 （担当：P,162～167生活科の部分を単著） 生活科における言語力育成の部分を担当執筆した。生活科においては体験の言語化が重要になる。具体的には小学校の入門期において国語科の「話す・聞く」という領域と連携しながら系統的に継続的に、生活科のスピーチを取り組む過程を紹介した。ものごとをたとえたり比較したりして見ることにより，さらにそれらを言語化して表出することにより，気づきの質が高まることを提示した。そして、文字化したものを、仲間と交流することにより、異なった感じ方に触れ、再度自分の気付きを深めることができるという過程も提案した。
(6)　教育フォーラム[46] 　　―言葉の力を育てる―	共著	平成22年8月	金子書房	新学習指導要領に基づき、言語力をどのように育成するかについて各教科からの提案である。 Ａ５版　全146頁 編者：梶田叡一 共著者：梶田叡一・加藤明・伊崎一夫・鎌田首治朗・増井眞樹・勝見健史・汐海治美・谷本寛文・中島繁雄・金澤緑・米田豊・浅田匡・松田智子・他12名） （担当：P,136～146幼児期の言葉部分を単著） 「幼児期にふさわしい学力を考える―言語力の育成を通して―」をテーマに言葉を中心にした幼稚園の教育課程について論じた。言語の役割として伝達としての機能と思考力の機能の二つがあることを提案した。年長児における合意形成を目指した言語活動の経験が自己をコントロールする力や思考力を身につけることを事例を挙げながら論じた。また幼児期につけたい言葉の力として，その特徴と獲得させたい基本的な語彙を幼児の認識力と関連付けながら述べた。
(7)不登校生支援ハンドブック 　事例研究からのアドバイス「校内連携」	共著	平成22年12月	学研エディケーショナル	不登校生を支援するために書かれた，学校の教師とスクールカウンセラーのための著作である。具体的な事例を挙げ，その対策を述べている。 Ｂ５版　全207頁 監修：近藤靖弘 共著者：杉村省吾・富永良喜・本多修・小谷一良・大橋節子・勝田麻津子・倉光修・斎藤文夫・内田伸子・新井肇・亀田憲治・松田智子他9名） （担当：P,12～19　第1章1節校内連携部分単著） 不登校生に対応する際に，担任教師が個人的に対応するのでなく学校がチームとして対応する必要性を論じた。中学校では教科外の特別活動や総合的な学習を学年単位で行うので、不登校を乗り越えるために，校内の意識を変革する必要を論じた。担任個人の対応から校内チームで不登校生に対応することにより、その数を激変させた具体例を挙げながら分析した。また、生徒と年齢の近い学生ボランティアを教科外の特別活動や総合的な学習の時間に活用する必要性を論じた。

(8) 教育フォーラム[47] ―こころを育てる―	共著	平成23年3月	金子書房	心を育てることの意味と、どのような指導が必要であるかについて論じたものである。 Ａ5版　全150頁　監修：梶田叡一 共著者：梶田叡一・加藤明・渡辺満・松田智子・鎌田首冶朗・山本美紀・中村哲・大野光二・高橋真理・江渕弘明・蔵あすか・中家淳悟・増尾慶裕 （担当：P,38～47総合的な学習で心を育てる部分を単著） 総合的な学習の時間などの教科外活動で心を育てるための単元構成の基本について述べた。探求課題を設定する際には，教師の指導性とともに児童生徒の中の必然性が必要であることを論じた。教科外活動が心を育む根拠として、その活動形態が協同的な集団学習であることや、体験を通してなすことにより学ぶ学習スタイルを具体例とともに例示した。さらに地域住民のニーズを取り上げて課題とすることが多いため，地域全体の振興に役立ち，地域として子どもの心を育てる契機となると提案した。
(9)次世代の教職入門	共著	平成23年5月	大学教育出版	教員の資質向上と研修が求められる社会的な背景を教育基本法等の改正や学習指導要領の改訂と関連付けながら論じたものである。 Ａ5版　全297頁 編者：中田正浩 共著者：鎌田首冶朗・中田正浩・松田智子　・大野光二・山本正・大石隆夫・中田律子・伊崎一夫・住本克彦・杉田郁代・筒井愛知） （担当：P,61～102　第3章「教員の資質向上と研修」、4章「教員の身分と服務」部分を単著） 教員の研究と教師の身分と服務の部分を担当執筆した。教員研修については、初任者研修・大学院修学研修・10年目研修・指導改善研修等について意義と現状について述べた。教員の身分と服務については、地方公務員法や教育公務員特例法を基にしながら、具体的な事例を挙げて論述した。将来教員になる者にとって不可欠である、職務上の義務や身分上の義務については、過去の判例を提示しながら教員としての服務の特徴を示した。
(10)　教育フォーラム[48] ―国際教育の展望と課題	共著	平成23年8月	金子書房	子どもに真の国際性を育てるための教育の指針について述べたものである。 Ａ5版　全158頁監修：梶田叡一 共著者：梶田叡一・見上一幸・松田智子・松田公平・鎌田首冶朗・前田洋一・川崎由花・古川治・善野八千子・筒井愛知・山本美紀・加藤明） （担当：ｐ27～p37　日本における多文化の歴史部分を単著） 国際教育の今後の課題として「多文化共生社会と日本語教育」の焦点を当てて論じた。日本の国際的な政治・経済状況を背景として進行している多文化の実情を述べた。次に日本における日本語教育と多文化共生の歴史を，戦後の韓国・朝鮮人への日本語教育から現在のニューカマーと言われる人々への日本語教育の連続性について考察した。多文化共生という快い言葉に隠された両面性について課題を提示した。さらに，日本語教師が現在の日本で果たすべき役割を，その資質と関連付けながら論じた。

(11)　教育フォーラム 50号 （やる気）を引き出す （やる気）を育てる	共著	平成24年8月	金子書房	日本の子どもの学習意欲の低さに焦点を当て、子どもに真のやる気を育てるための各教科での取り組みについて述べたものである。 Ａ5版　全169頁 監修：梶田叡一 共著者：梶田叡一・加藤明・松田智子・善野八千子・金山憲正・勝見健史・久田孝・錦織彰・住友克彦・野田健司・中田正浩・前田洋一・中村哲・瀧明千恵子・浅田匡 （担当：ｐ24～33　総合的学習の部分を単著） やる気に関する２つの全国調査をもとに、子どもがやる気を出すときについて分析した。そのための要素として「体験」と「学習課題の質」と「学び方」について述べた。体験については活動で終わることなく探究活動と結びついたものとなること、学習課題については、子どもの必要感と興味関心と結びついていること、学び方では、探究が広がり深まるような言葉かけと指導が必要であること、最後には、体験の振り返りが重要であることを提案した。
(12)次世代の教育原理	共著	平成24年10月	大学教育出版	教育の基本原理と教育思想の歴史、日本の教育行政教育課程と出口であるキャリア教育等について教育の一般原理について述べた。 Ａ5版　全153頁 編著：中田正浩、松田智子 共著者：中田正浩・松田智子・中田浩司・鎌田首治朗・住本克彦・岡野聡子・久田孝 （担当：ｐ29～44、ｐ119～134　第3章日本の教育思想、第4章教師の仕事の部分を単著） ３章では、日本の教育思想について古代から近代に至るまでを述べた。特に古代から近世の種々の学校制度と戦後の民主的な教育制度の確立については、その社会的、経済的な背景と関連付けながら詳しく論じた。４章では教師の仕事に内容や目的について論じた。教師の仕事は何か、そのための養成制度の実情、そして採用後の研修制度について述べた。さらに、最近導入された免許更新制度の狙いについても論じた。最後に答申に基づいて、これからの義務教育を担う教員にとっての必要とされる資質について提案した。
(13) 子どもと生活―知的好奇心を育む環境づくり―	共著	平成25年3月	ふくろう出版	子どもたちの知的好奇心を育む教育について、幼稚園教育要領の環境及び小学校学習指導要領の生活科を軸として、述べたものである。 Ａ5版　全170頁 編著：岡野総子 共著者：岡野総子、松田智子、吉村啓子、大野純子、筒井愛知、平松、金光、辻野、岡田、アンソニー、土谷長子 （担当：ｐ12～21）第１章２節「幼稚園・保育所と小学校の連携を踏まえた教育」の部分単著 幼稚園教育は環境を通して行われると言われているが、その真の意味について問い返した。その過程で、幼稚園保育所の教育と小学校生活科における教育の連続性について問題を提起した。幼児から児童にと環境が大きく変化することにより、子供に及ぼす影響をかんがみ、小学校入学期の子どものスタートカリキュラムの在り方について論じた。具体例として、生活科の単元「学校探検」を例に挙げ、幼小で共通の授業を作り上げていく事例を紹介した。

(14)「学校安全」 ー長尾先生と考える36のナラティブー	共著	平成26年6月	教育出版	子どもたちの命を守り安全で安心できる生活の為に学校は何をできるかを、語り（ナラティブ）の」形で作成したものである。 B5版　全157頁 編著：長尾彰夫 共著者：長尾彰夫、松田智子、小林忠三、浜條信彦松井典夫、若狭孝太郎、神田英幸、前馬晋策、丸山涼子、植木美佳、砂田信夫、中井尚人、佃繁、伊原正俊、藤田大輔、諏訪清二、村川雅博、立田慶裕 担当：（ｐ100～101）「帰ってきたキャロリン」（ｐ104～107）「武庫川大橋の向こうは世界が違う」（ｐ112～117）「この町で生き続ける子どもとともに」の部分単著阪神淡路大震災の当時1年生を担任していた筆者の目から、被災地の子どもや教師の生活現状を当事者の立場で述べるとともに、その危機を乗り切るための生活科の授業の特質を生かして取り組んだ「町探検」の実践を述べたものである。東日本大震災から3年が来ようとしているが、被災地の故郷を子どもがどのように把握しているかが、震災復興の要になると論じたものである。
（学術論文）				
(1)免許更新制度を校長として考える 「免許更新制度は学校の教師力アップの契機となるか」	単著	平成19年1月	明治図書 現代教育科 学№604 p. 62～p. 64	現職教員の免許更新制度を、教師の生涯学習という視点から論じた。教師の資質能力の保持向上を教員の自己研鑽と現場研修に任せていくのは、教職員の多忙な現実を考慮すると困難が多い。教師の授業力のアップは個人のやる気とか資質というレベルでは解決できない。教師が生涯学び続けることができるようなシステムづくりが重要である。免許更新制度を効果あるものにするために、時期や方法、内容の検討、経済的・人的な保障などが重要になることを論じた。
(2)公立義務教育学校における保護者対応の現在 ー保護者の要望・抗議・クレームの分析を中心にー	単著	平成20年12月	京都光華女子大学短期大学部研究紀要第46集 ｐ167～194	公立の義務教育学校で増加している保護者の要望・抗議・クレームについての社会的な背景を分析した。また、保護者と教員双方のそれらの問題についての認識のずれを、現代社会の様相と関連付けて明らかにした。各学校で起きているその様態をもとに「要望・抗議・クレーム」を整理して分類した。さらにその論点を踏まえて、学校組織としての鍋蓋構造の弱点を指摘するとともに、予防策や対応について例示した。また、教師一人一人が保護者と連携するだけでなく、学校組織として日常的に顔を合わせて交流できるシステムづくりが必要であることなど、学校の将来的なあり方も具体的に提案した。
(3) 幼稚園教育課程編成の現状と課題（１） ーＡ市立公立Ｂ幼稚園の教育課程の現状を通してー	共著	平成24年12月	環太平洋大学研究紀要 第6号 (p135～p140)	幼稚園における教育課程の意義を説明し、その具体的な活用についてＡ市の教育課程の基底及びＢ幼稚園の教育課程指導計画を分析し報告したものである。Ａ市の教育課程基底が各幼稚園に及ぼす影響を平成22年から23年にかけてのＢ幼稚園の研究紀要をもとに明らかにした。公立幼稚園では教育課程が文言化されているが、それが現実の日常の保育にどのように効果的に作用しているかを分析した。また、教育課程のＰＤＣＡサイクルの実情についても言及した。結果として、私立の幼稚園が、教育課程を言葉として残すことが困難である要因も分かった。 （松田智子・土谷長子） 担当部分：Ａ市のＢ幼稚園に3年間継続的に保育参観に入り、教育目標が保育にどのように具現化しているか観察し分析した。Ａ市の教育課程の基底の改定に対して指導助言者として参画した。

(4)特別活動の防災行動に果たす役割の一考察	単著	平成25年4月	環太平洋大 学研究紀要 第7号 (p151～ｐ162)	防災教育の目的と、それに対しての特別活動の位置づけと役割を明確にした。さらに防災教育を巡る日本国民の意識の現状を示した。その低さを克服するために、初等・中等義務教育機関が特別活動を通して防災教育に果たす役割について具体的に述べた。また、初等・中等の義務教育の特別活動の内容項目や目的と関連付けながら、防災避難行動について東日本大震災の釜石市の中学生の避難行動具体例を挙げながら論じた。さらに現状の避難訓練の効果と特別活動の改善点とに焦点を当てて、防災教育の充実方策を提案した。今後の防災教育については、小学校から中・高校までその発達段階に応じた取り組みを紹介し、特別活動と各教科の関連性を論じた。さらに特別活動や総合的な学習を通し地域と日常的に結びつく広範な活動の重要性も論じた。地域といかに、人間関係一体感を持てるかが、災害時の子どもの生死を分けることも述べた。
(5) 特別活動で築く 人関関係力 - 防災教育の実践を通して -	単著	平成25年4月	教育PR0第 43巻第9号 (P6～P10)	特別活動の特質・特性である「集団活動であること」「なすことによって学ぶ」この２つが、地震大国日本に住む国民にとって、命を守るうえで重要な役割を果たすことを述べた。上記の特色をもつ特別活動の狙いである望ましい人間関係の構築が、学校内にとどまらず地域住民まで広がり、地域と連携する防災を下支えすることも述べた。さらに望ましい人間関係を形成する能力を育成するための方法とその過程について言及した。最後に、特別活動は体験活動が重視されるため、イベント的に終わってしまう危険性があり、活動の後に振り返り、子ども一人一人が内省化する必要があることを具体的に例示した
(6) 内面世界の形成を促す人間教育原理への一考察 - ソクラテスの問答法に焦点を当てて -	単著	平成26年4月	「人間教育学研究」 創刊号 奈良学園大 学人間教育 学部 （ｐ7～ｐ14)	教育という言葉の意味を東洋と西洋の歴史的な起源から追求した。東洋では孟子により、西洋ではギリシアのアテネで初めてこの言葉が登場する。この時代は人類文化の思想的な夜明けという社会的な背景があった。教育の目的は「子どもたちを善くしようとする働きかけ」であり、それは今日も同様である。ソクラテスの対話により「無知の知」を相手に自覚させる「問答法」は、内面世界に配慮した教育の実現への示唆を含んでいる。ソクラテスの問答法を段階的に分析し、今後の日本の教育の在り方について述べた。

その他				
「事典」 (1) 実践教育評価事典	共著	平成22年8月	文渓堂	教育評価の意味と各教科での評価のあり方と、評価用語の詳しい解説を述べたものである。 Ｂ５版　全261頁 監修：梶田叡一・加藤明 共著者：梶田叡一・加藤明・長谷浩也・吉村希至・土田圭子・石井雅幸・上之園公子・尾崎友美・鎌田首治朗・金澤緑・米田豊・角谷重樹・北川達夫・菅千索・勝見健史・松田智子・他15名 （担当：P,126～129・P,138～139・P,190～191 教育評価の基礎知識「教育評価史（日本）」「教育評価史（西洋）」「学習指導要領と指導要録」「カリキュラム評価・カリキュラム改善」の用語概略と説明を単著） 日本の教育界に残る心情や印象で教育を語る実践を乗り越えるために本書は執筆された。「結果」を重視した地に足を着けた教育をするために各用語についての基本的な解説を行った日本と西洋の教育史では、それぞれの学習の評価の方法や観点に焦点を当てて、評価の歴史を論じた。学習指導要領と指導要録の項では，社会的な背景と明治以降の日本の教育界動向を関連付け，なぜ学習指導要領が変遷してきたかを述べた。学習評価と指導の改善に視点を当てて論じた。カリキュラムの項ではPDCAサイクルについて述べた。
「報告集」 (1)教育セミナー２００７ 報告集	共著	平１９年10月	日本教育新聞社 P56～p82	「授業力・学校力・人間力の向上を目指して一学習指導要領の改定とこれからの学校教育」についてセミナーをおこなった記録である。 B5版　全205頁 共著者：加藤明、角谷重樹、成山治彦、松田智子 浅田匡、布村幸彦、梶田叡一、他6名 (担当はp62～66、p76～78) 学習指導要領の目標を実現するために必要なことはたとえ大学であっても教職員集団としてのチーム力が求められることを具体的に話した。また公立学校の校長だった立場から、公立高校だからこそできる挑戦と、教職員間のコミュニケーション力をアップする方策について具体的に論じた。また保護者・地域住民との連携にもコミュニケーション力が重要であることを論じた。そのためには、学校と地域が相互に参画するシステムづくりが、学校管理職の役割であることも述べた。
「指導助言資料」 (1)特別活動の学級活動の公開授業の助言レジメ 「対話で子どもが高め合うとは」	単著	平成19年2月	兵庫県芦屋市立朝日ヶ丘小学校 Ａ４　４頁	小学校5年生特別活動の学級活動の授業を参観後、レジメを参加者に配布し分科会で指導を行った。授業の題材は「5年１組さよならパーティーをしよう」である。参観後、対話と会話の違いについて焦点をあて、相互共感的な行為を誘発する対話の在り方を論じた。さらに、集団として、ともに創造する対話を成立させる３つの力として、「聴く力」「要約力」「プレゼン力」が求められることを論じ、そのための教師の役割として、環境設定としての共感し合える学級文化づくり、子どもの発言に対しての教師のコメント力を強調した。よりよい人間関係を構築するには、特別活動の学級活動を通して、話し合ったり、共通点や違う点を見つけたり、折り合いをつけたりする子どもの心の動きを、洞察しながら、教師が具体的にアドバイスすることが重要である指導した。

(2) 生活科における言語力育成―幼稚園・保育所とのつながりに視点を置いて-	単著	平成22年8月	阪神地区小学校生活科教育研究会（伊丹市立産業情報センター） A 4,10頁	話し言葉が中心の幼稚園から書き言葉が中心の小学校へ幼児が進級した場言に起きる小1プロブレムを言語活動に焦点を当てて論じた。幼稚園では語を単位とした指導になりがちで、語数の質を高めるには、活動や体験を通して、その後の意味や背景を考えさせることが重要であることを述べた。これには「絵本」を通しての指導が有効であることや、「聴く指導」といっても、だまって静かに読み聞かせを聞くことだけを是とする考え方を改めるように注意した。絵本を通して論理的な思考を育む必要性も論じ、そのための読み聞かせの在り方を話した。
「学会発表」 (1)教師主導のトライやるウィークから生徒の意欲と目的意識を生かした体験活動への改善視点	単独	平成19年2月	人間教育研究協議会 第６回京都フォーラム （京都・京都ノートルダム女子大学）	中学校特別活動の職場体験における、生徒の主体的な選択能力育成の取り組みについて提案した。「トライやる・ウィーク」は兵庫県教育委員会が10年をかけて中学２年生全員に実施している職場体験であり、生徒・保護者・地域の支持が高い。調査でも生徒に良い影響が出ている。しかしキャリア教育との位置付けの違いや教師間の共通理解の不足によりマンネリ化傾向を生み出している。生徒が自ら主体的に職場を選択し、目的意識を高めることによる体験活動の改善方策を提案した。現在は教育課程上、中学校の特別活動として位置付けられているが、他教科や総合的な学習と連携すること、さらに体験だけになりがちである特別活動にこそ、活動途中でなされる形成的な評価が必要だと論じた。
(2)保育士養成における人間力育成	共同	平成19年9月	全国保育士養成協議会 第46回大会 （鹿児島・城山観光ホテル）	短期大学１年における基礎演習をキャリア教育基礎講座と位置付けて「人間力養成講座」とした。京都独自の和文化体験・箸育・掃除道・日本語検定・日常のマナー等を取り入れた基礎教育内容を紹介した。学生の評価等も提示した。担当部分は、講義中の学生の評価観察記録の整理分析である。 （吉村啓子・松井裕子・松田智子・土谷長子・智原江美・高橋浩輔・下口美穂・岡野総子）
(3)平成19年度全国学力・学習状況調査の分析	単独	平成20年2月	人間教育研究協議会主催「第７回京都フォーラム2008」 （京都・京都ノートルダム女子大学）	文部科学省が平成19年度に実施した全国学力・学習状況調査におけるＢ問題について、その問題の出題意図と結果分析及び授業改善について提案した。国際学力調査ＰＩＳＡとの共通性及び差異について具体的な問題を例示しながら述べた。児童生徒に学力をつけるために，学習指導要領が入口の狙いを明確にする役割を担い，そして今回の学習状況調は出口らの目標を意識させる役割を担っていることを強調した。B問題は、思考力や判断力が求められ、従来までの暗記中心の学習では対応できないことを強調した。教科外の総合的な学習や特別活動などで培った、話し合いの力を基盤において、その上に教科の力が必要と論じた。
(4)保育士養成教育と卒業時の満足感との関係	共同	平成20年9月	全国保育士養成協議会 第47回大会 （北海道・函館国際ホテル）	免許・資格取得のための独自教科のみならず「基礎演習」で掃除の仕方や箸育や礼儀作法等を実施している。また伝統文化（歌舞伎・西陣織・正しい日本語）等の授業を行っている。この特徴あるカリキュラムに対する実証的な検証を行った。こども保育学科の学生の満足度評価を行い大学全体の結果との比較を参考にしながら特徴を明らかにした。担当部分は、学生満足度評価の実施分析である。（吉村啓子・松井裕子・松田智子・土谷長子・智原江美・高橋浩輔・下口美穂・岡野総子）。

(5)「今なぜ命の教育が必要か」パネラーとして提案発表	共同	平成22年12月	第2回いのちの教育実践交流会 （大阪・御堂会館）	幼稚園や小学校特別活動のウサギの飼育当番を通して「いのちを大切にする幼児・小学校低学年教育」の実践例を報告した。多くの幼稚園や小学校では小動物の飼育活動をしている。そして当番活動は特別活動の係の仕事として、教師が順番に決めていることが多い。本実践は，自主的なウサギ当番と学級活動の話し合い活動を通して「ウサギの世話は命を預かることである」と気付きへの経過を具体化した。話し合いを通して子どもが高まるには、教師の指導性が不可欠であることを、強調した。 （古川治，松田智子，久保弘子，津田一司，山口光一，渡邉満，市川真奈美）
(6)メンタリングの実際と課題 パネラーとして提案発表	共同	平成23年2月	日本教師学学会第12回大会 （兵庫・甲南大学）	多様な領域での「教師」の成長・発達を対象とした本学会では，他領域で実践・研究が進められているメンタリングに着目し，教師教育・看護教育・学校経営・eラーニングの立場からシンポジウム形式で発表をした。発表のテーマは「学校におけるメンタリング機能の実際」であり，担当部分は公立学校の初任者研修における指導教員と初任者との関係をメンタリングの視点から分析である。現状の初任者研究は1年で終了だが、メンタリングの観点からは、3年ほどの継続が望ましいことを提言した。 （田村由美・松田岳士・河村美穂・石原逸子・松田智子）
(7)幼稚園と小学校低学年対象の命を大切にする教育とは パネラーとして提案発表	共同	平成24年1月	第3回いのちの教育実践交流会 （兵庫・六甲荘）	いのちの教育のカリキュラム化について提案した。幼稚園児の命の教育は「小動物の飼育」や「植物の栽培」を通して行われることが多い。これらは，親しみを持つだけでなく，自分の心を癒しおちつけ，いたわりの気持ちを持つようになるからである。その心の働きが命を大切にする契機となると提案した。一方、生活科では，学習指導要領改訂の趣旨に登場する「安全教育を充実」することに着目し、通学路をテーマに取り上げた単元を構成し提言した。具体的には「寄り道のすすめ」を生活科の中に取り入れることを提案した。担当部分は、幼稚園・小学校低学年の指導部分である。 （古川治，松田智子，津田一司，山口光一，三木澄子）
(8) 生活科における命の教育の単元開発	単独	平成24年6月	日本生活科・総合的学習教育学会第21回大会（徳島・徳島大学）	東日本大震災の教訓として地域全体での防災教育の大切さが確認された。生活科は小学校1年生で学校での安全の一部として通学路を教材とする。現状では、通学路の扱いは安全な登校を目指すものであり、取り扱う時間が少ない。通学路の安全と限定するのでなく、地域のよく使用する道や避難通路や避難場所も組み入れた単元を構成する必要性を提案した。モデルとして「楽しい帰り道」という単元計画を例示した。現在の生活科の教科書で提示されている通学路の危険が、大雨や不審者等に偏っている傾向があり、東日本大震災の津波に対する記述も求めた。
(9)領域「環境」における授業研究 ～体験活動と授業後の発展学習を重視した授業の展開～	共同	平成24年9月	全国保育士養成協議会第51 回大会(京都・京都文教大学)	授業の中に自然や環境に触れ合う体験活動を組み入れ、さらに発展学習として関係する課題を与えた。提出された課題に対するフィードバックを通して学生同士が交流するための時間を毎回確保した。このような学習サイクルの繰り返しが、学生の意欲をどのように刺激し、授業への参加態度等が変化させるかを検証したものである。「環境」の授業における、学生の授業への参加態度や課題等への取組態度の分析を担当した。 （岡野聡子・松田智子）

(10)防災からいのちの教育を考える分科会のコーディネーター	共同	平成25年2月	第４回いのちの教育実践交流会 （兵庫・六甲荘）	東日本大震災が起こった際に、学校にいた子どもを100％救助することができた体験と教訓について、多賀城市教育委員会学校教育課長から提案発表があった。 それを受けて大震災発生の場合における学校と地域との望ましい関係の構築について舞子高校の防災担当諏訪教諭から助言があった。従来のワンパターンの退屈な避難訓練を特別活動と考えるのは、時代錯誤であると助言があった。 コーディネーターとして、会場の参加者の意見と提案者と助言者の意見をまとめた。特別活動の学校行事を核としつつ、自主的集団避難行動をうながすような「これからの防災教育の方向性について」のまとめを行った。 （麻生川敦・諏訪清二・松田智子）

［注］

1 最近10年間の教育活動、研究活動について作成すること。

2 「教育活動」については、各項目ごとに年月日順に、「学会等および社会活動」については、就任年月日順に記入すること。

3 「研究活動」については、下記の点に留意すること。

① 著書・論文及びその他の順に、発表年月日順に記入すること。

② 著者が複数にわたる場合で、筆頭著者が著書・論文等において明示されている場合には、その氏名に◎印を付すこと。

③ 共著（論文）の場合、「該当頁数」の記入にあたっては、本人の分担箇所を特定できる場合は、その頁数を記載すること。

④ 最近10年間に著書・論文等の発表のなかった者についても、教員名を挙げてその部分を空欄にしておくこと。

⑤ 芸術分野や体育実技等の分野を担当する教員については、著書・論文等以外の競技会、展覧会または演奏会等での発表のうち、特に顕著な業績と認められるものについても記載すること。このほか、専門分野の特性を 考慮し、顕著な業績と認められるものがある場合もこれに含めてもよい。

教　育　研　究　業　績　書

平成26年3月31日

氏名　　三毛　美恵子

研究分野	研究内容のキーワード
医歯薬学　看護学分野	看護技術　基礎看護教育　看護学実習　骨密度　実習教育

教育上の能力に関する事項

事項	年月日	概要
1　教育方法の実践例		
1）看護技術習得に向けた学習の動機づけ	平成12年4月～平成20年3月	奈良県立医科大学看護短期大学部において、基礎看護技術Ⅰ・Ⅱで、事前に演習計画を学生に明示し、患者の条件に沿った事前学習ができるように促した。患者の条件を読んでも援助方法及び演習のイメージができない学生は、VTR視聴、図書の活用、技術の予習を事前に行い、演習内容の把握をして授業に望むため、技術の習熟が容易で、かつスムーズに演習を進行することができた。学生自らの質問も多く、積極的に演習に参加した。
2）学内演習と臨地実習をリンクさせた指導体制の導入	平成12年4月～平成23年3月	学生のレディネスの把握や個々の特性を踏まえた指導を目的とし、奈良県立医科大学看護短期大学部において基礎看護技術Ⅰ・Ⅱと、基礎看護学実習Ⅰ、基礎看護学実習Ⅱをリンクさせ、同一教員が同一学生を担当し指導する体制を構築した。教員に対する学生の過度な緊張が減り、積極的な質問や行動につながった。また、基礎看護技術と基礎看護学実習Ⅰをリンクさせて、技術演習終了後１～２週間以内に臨地実習を実施することで、提示した学習目標の到達度が高くなった。
3）学生の主体性を引き出す取り組み	平成10年4月～平成24年3月	奈良県立医科大学看護短期大学部において、基礎看護学実習Ⅰ・Ⅱで、教員や臨床実習指導者の説明ではなく、病棟内を積極的で自由に見学し、見たこと、気づいたことを確認・質問する方法で学ぶ指導方法を導入した。学生は、自ら積極的に看護場面を観察し、質問する学生の姿勢は、指導者の指導意欲を触発し、指導者自身の看護体験を積極的に語ってもらえる機会が増えた。学生の看護に対する興味・関心が深まり、さらなる学習に向けて意欲を彷彿させることができた。
4）看護過程の展開授業に看護援助の実施、評価を導入	平成17年4月～平成20年3月	奈良県立医科大学看護短期大学部、及び医学部看護学科における看護過程論で、ペーパーペイシェントを活用した看護過程の展開の授業に情報収集から実施、評価まで導入した。援助の実際を行うことで、評価が可能となり、また、援助の実際場面をＶＴＲで撮影し、映像による実際・対象者の反応を確認することで、評価が容易となった。導入前までの学習目標の達成度に比べ、導入後の学習目標達成度が高くなった。
5）1年次生の実習直後に面接を導入することで看護学的意味付けの充実を図る取り組み	平成16年4月～平成19年3月	奈良県立医科大学看護学科において、基礎看護学実習Ⅰを5回に分けて実施している。各回終了直後に、実習記録を参考にしながら面接を行った。臨地での学生の経験を看護学的に意味づけることで、学習を深められるようにした。学生は、教師との面接を手掛かりにして、カンファレンス、ケアの見学場面、対象者との会話などを想起しながら考えることで経験の意味づけができた。面接による教師と学生の個別的な対話に、看護を意味づける効果がみられた。

６）根拠に基づいた看護を提供する能力の育成	平成16年4月～ 平成20年3月	奈良県立医科大学、看護学科で、基礎看護技術Ｉの姿勢・体位とバイタルサインズ、罨法などの各ユニットの演習において、すでに学習した技術を組み合わせて、実験研究的要素を取り入れた演習を取り入れた。例えば、運動によるバイタルサインの変化、腋窩密着の有無と体温の関係、ベッドメーキング時の看護者としての安全・安楽な姿勢、温度刺激が生体に与える影響などを研究的な視点で看護技術に取り組むことで、根拠に基づいた看護を提供する能力の育成の一助となった。
７）主体性、科学的思考育成の取り組み	平成16年4月～ 平成20年3月	奈良県立医科大学看護学科における、基礎看護技術Ｉで、単に授業を受けるといった受動的な学習方法ではなく、各ユニットごとに課題を設け、各学期の始業時に明示し、レポート提出を求めた。学習した知識を基に、文献等を参考にしながらまとめる力および主体的・科学的思考の育成を図ることを目的に取り入れた。優先順位を考えながら計画的に課題に取り組む主体的能力、科学的思考を育むことができた。
８）コンピューター・視聴覚機器を導入したビュジュアルな授業展開の導入	平成16年4月～ 平成24年3月	奈良県立医科大学看護学科において、基礎看護技術Ｉ、基礎看護技術Ⅱ、基礎看護実習Ｉでの講義、演習、グループワーク時に、PC （パワーポイント）、ＯＨＣ、ＶＴＲなどの教材を活用した授業を展開した。視聴覚機器の導入によるビジュアルな授業展開で、学生の興味・関心を喚起し、理解力の向上に役立てることができた。
９）参画型学習機会の導入	平成20年4月～ 平成23年3月	奈良県立医科大学看護学科において、学生の主体的学習を促すために、ユニットの一部分を学生による授業や演習のデモンストレーションを導入した。学生には、事前に担当ユニットやデモストレーションユニットを提示し、学生が計画的に学習できるようにするとともに、数週間前から学生の知識・技術を質問形式で確認した。デモンストレーションにおいては、学生同士事前に練習してもらい、教員が最後に確認するなどして、精度を高めた。導入した科目は以下にあげる3科目である。「基礎看護技術Ｉ」「基礎看護技術Ⅱ」「看護過程論」
２　作成した教科書、教材		
＜教科書＞		
１）『生活支援技術介護過程』（再掲）	平成22年5月 黎明書房	介護の対象者が自立した生活が送れるようにするための住居環境の整備や日常生活における実践的な介護の方法を初学者でもわかるように解説した。介護過程の意義から介護の実践的な過程やチームアプローチの在り方について紹介した。 分担執筆者：守本とも子、星野政明、川口ちずる、山形力生、今村美幸、岡崎大資、横井賀津志。高畑進一、新谷奈苗、三毛美恵子、他9名 本人担当部分は第7章　118-134、自立に向けた排泄の介護、第11章　170-174　介護過程の意義
２）『老年看護学』（再掲）	平成22年12月 ピラールプレス	老年看護の実践に向けた図書として、看護学生、コメディカル、介護福祉士などが活用できる内容とした。第1章では社会の中の高齢者の理解、第2章では高齢者の心と身体について、第3章では高齢者にとっての健康の意義、第4章では高齢者の主な疾病、第5章では、主な治療法、第6章では老年看護における看護の役割について分担し紹介した。 分担執筆者：今村美幸、上平悦子、岡崎大資、岡本啓子、奥百合子、川口ちずる、三毛美恵子、他10名 本人担当部分は104-111事故・災害時の援助

3　教育上の能力に関する大学等の評価		
1）基礎看護技術Ⅰ講義・演習（1年次生） 平成18年度入学生の授業評価	平成18年度 入学生	奈良県立医科大学医学部看護学科１年次科目の１つである基礎看護技術Ⅰの演習において、研究的な要素を取り入れた授業を行った。バイタルサインと姿勢、ベッドメーキングとバイタルサインの関係、車いすの設置場所と患者の安楽性など数項目を学生に提示する。実験の具体的な方法については学生が相談しながら決定し、各種方法から得られた結果を比較・考察する。ビデオやコンピュータ、OHPなどを用いて発表し、学生同士ディスカッションをした。学生からは単に技術の習得のみでなく、研究的な視野が広がると好評であった。
2）実習指導（1年次生） 平成16年度～平成19年度入学生の授業評価	平成16年度～ 平成19年度 入学生	奈良県立医科大学医学部看護学科1年次の履修科目である基礎看護学実習Ⅰにおける指導で、1回の実習が終了する毎に、学内において教員との面接時間を確保し、ケア場面を振り返りる機会を設けている。学生からは面接をとおしてケアやカンファレンス、記録といった場面を振り返ることで、看護師や自己の言動を想起し、看護の意味づけができたと評価を得た。
3）看護学特論指導（3年次生） 18年度に本科目を受講したゼミ生の授業評価	平成18年度 ゼミ生	看護における問題から研究課題を抽出し、抽出した研究課題についての文献検索・検討を行った。担当学生の授業評価結果より、学生の満足度が高く、翌年度の領域希望調査においても多くの学生が希望した。
4　実務の経験を有する者についての特記事項		
（関係機関で実施した講義）		
1）奈良県実習指導者講習会	平成13年10月～ （5年間）	奈良県、社団法人奈良県看護協会共催実習指導者講習会において約80名を対象に講師を務め、「実習指導の実際」を担当した。看護基礎教育において重要な位置づけにある臨地実習を担当する実習指導者の育成にむけて、実習指導案作成のための基本的な知識や、指導案作成のためのノウハウを講義した。
2）奈良県実習指導者講習会	平成20年9月～ （3年間）	奈良県実習指導者講習会の講師として、受講生約80名を対象に、「看護教育課程」の看護師教育課程について講義を行った。目的は看護師教育に関するカリキュラムの変遷や現在のカリキュラムについて理解し、実習指導に活かすため、看護教育に関連する近年の情報を盛り込みながら概説した。
5　その他		

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
1　資格，免許		
1）准看護婦免許	昭和50年	第2950号
2）看護婦免許	昭和52年5月	第321341号
3）看護教員養成	平成2年11月	第27号
4）看護管理者（ファーストレベル）	平成7年3月	第103号
5）修士（学術）	平成15年3月	第3294号

2　特許等		
特記事項なし		
3　実務の経験を有する者についての特記事項		
（関係機関で実施した看護研究指導）		
1）市立奈良病院における看護研究指導に従事	平成16年4月～（7年間）	毎年、入職３年目の約15名程度の看護師を対象に、看護研究の基礎的な知識について、約3時間程度の講義を行った。受講を終えた看護師に対して個人またはグループ毎に、研究テーマ・目的の設定、データの収集、整理、分析方法、論文作成、発表までを年間4～5回にわたり指導をおこなった。病院内における発表の講評を行い、収録集作成、学外発表にむけてアドバイスを行い、いくつかの研究は学外発表に至った。
2）平井病院における看護研究指導に従事	平成16年5月～（2年間）	病院に勤務する各病棟の看護師20名に対して、看護研究の基礎的な知識を講義後、各テーマ毎に看護研究指導を行った。毎年約7～8の研究指導を行い、病院内発表、近畿地区発表にむけて年5～6回の指導を行った。発表会後には、研究に向けての今後の課題や質の向上をめざして講評を行った。
3）奈良県立医科大学附属病院における看護研究指導に従事	平成19年4月～（1年間）	奈良県立医科大学附属病院に勤務する病棟看護師に対して、1つの研究テーマについて、研究テーマの決定から、院内研究発表までを年間4～5回に分けて研究指導を行った。
4）奈良県看護協会主催の「看護研究の実際」講師として指導に従事	平成24年6月～現在に至る	平成24年度より新事業として、奈良県看護協会主催で看護研究の実際が開催された。奈良県内の各病院における看護師を対象にして、研究計画書の作成および研究の指導を行った。
（短期大学･高校･専門学校の学生及び生徒への講義）		
1）奈良文化高校専攻科に従事	平成20年4月～現在に至る	奈良文化高等学校衛生看護専攻科の生徒約60名を対象に、研究テーマの設定、文献検索、研究の種類、データーの収集・分析、論文作成、学会発表など看護研究に関する基礎的な知識の講義を30時間行った。
2）田北看護専門学校に従事	平成24年4月～現在に至る	田北病院付属看護専門学校の生徒約40名を対象に、研究テーマの設定、文献検索、研究の種類、データーの収集・分析、論文作成、学会発表など看護研究に関する基礎的な知識の講義を10時間行った。
4　その他		
（看護協会活動）		
1）近畿地区看護研究学会準備委員	平成20年4月～（2年間）	看護協会主催の近畿地区看護研究学会委員に任命され、学会開催に向けて活動を行った。活動内容は、年6回程度会議に出席し、開催に向けた協議、発表者選定に向けた査読、会場準備、当日の運営を行った。
2）第41回日本看護学会老年看護学術集会準備委員	平成21年4月～（2年間）	日本看護学会老年看護学学術集会開催に向けて、会議を年6回程度行った。発表者決定のための査読、発表グループ編成、当日の準備委員、運営にあたった。学会当日は、口演会場の司会を務め、スムーズに発表会を終了することができた。
（奈良県からの依頼）		
1）奈良県准看護師試験委員	平成20年11月～（2年間）	奈良県医師看護師確保対策室より准看護師資格試験のための委員に任命され、年度の試験方針、作問に関する説明などの年2回開催される会議への参加、作問及び採点を行った。
大学看護学科内委員会		
1）学生生活部会　委員	平成16年～（3年間）	奈良県立医科大学医学部看護学科において、学生部会委員として、学生の健康管理に対応、校外学習の企画・運営、進路に関する調査などを担当し、学生の大学生活のサポート及び指導を行った。

2）実習部会　委員	平成14年～ （2年間） 平成18年～ （5年間）	奈良県立医科大学看護短期大学部において実習部会委員として、臨地実習の計画・調整、実習要綱の編集などに携わった。 奈良県立医科大学医学部看護学科において実習部会委員として、臨地実習の計画・調整・グループ編成、実習要綱の編集などに携わった。
3）紀要編集部会　委員	平成18年～ （4年間）	奈良県立医科大学医学部看護学科において、看護学科の紀要作成にかかわる会議に出席し、編集委員として査読などに携わった。
4）看護師等就職促進部会　委員	平成19年～ （2年間）	奈良県立医科大学医学部看護学科において、看護師等就職促進部会委員として、学生生活部会が実施した調査を基に、その年度における動向を分析するなどメンバーとして活動した。
5）研究倫理委員会　委員	平成22年～ （2年間）	奈良県立医科大学医学部看護学科において、看護研究倫理委員会委員として、学生の卒業研究計画書の倫理に関する審査を行った。
大学内委員会		
1）敷地内禁煙ワーキング委員会	平成20年4月～ （1年間）	奈良県立医科大学において、敷地内禁煙ワーキング委員会委員の看護学科の代表として、敷地内禁煙対策に関する意見発言など、委員としての活動を行った。
2）看護師看護学生就職ワーキング	平成22年4月～ （2年間）	奈良県立医科大学医学部看護学科において、看護師看護学生就職ワーキングメンバーとして活動し、学生及び既卒生に対する就職に関するニーズ調査を実施した。これまで明らかにされていなかった、学生の就職に対するニーズが明確になり、確保対策の一助となった。

［注］

1　最近10年間の教育活動、研究活動について作成すること。

2「教育活動」については、各項目ごとに年月日順に、「学会等および社会活動」については、就任年月日順に記入すること。

3「研究活動」については、下記の点に留意すること。

① 著書・論文及びその他の順に、発表年月日順に記入すること。

② 著者が複数にわたる場合で、筆頭著者が著書・論文等において明示されている場合には、その氏名に◎印を付すこと。

③ 共著（論文）の場合、「該当頁数」の記入にあたっては、本人の分担箇所を特定できる場合は、その頁数を記載すること。

④ 最近10年間に著書・論文等の発表のなかった者についても、教員名を挙げてその部分を空欄にしておくこと。

⑤ 芸術分野や体育実技等の分野を担当する教員については、著書・論文等以外の競技会、展覧会または演奏会等での発表のうち、特に顕著な業績と認められるものについても記載すること。このほか、専門分野の特性を 考慮し、顕著な業績と認められるものがある場合もこれに含めてもよい。

教　育　研　究　業　績　書

平成26年3月31日

氏名　　守本　とも子

研究分野	研究内容のキーワード
看護学	在宅脳卒中患者、在宅酸素療法患者、介護者、QOL

教育上の能力に関する事項

事項	年月日	概要
1　教育方法の実践例		
1) 視聴覚教材のための資料作成	平成20年4月～ 現在に至る	関西学院大学人間福祉学部人間福祉研究科の非常勤講師として視聴覚教材のための資料を作成した。具体的には人体解剖・人体機能、疾病や加齢について、難解な用語の解説や重要事項のまとめなどを資料として作成し、各授業ごとに資料の配布を行った。
2　作成した教科書、教材		
―教科書―		
1）先天性疾患と家族心理臨床 「家族のための心理学」（再掲）	平成17年4月 保育出版社 B5版 全233頁	第8章1節　P.142-P.146 「身体的疾病と家族の心理臨床」 家族の身体的疾病の羅患事態において生ずる家族の心理臨床的な問題を取り上げ、それへの適切な対策をとり、家族の精神的健康の維持向上を促すことについて、具体的な事例を示して実践に役立つように理解を図った。 単著
2）QOLを高める専門看護、介護を考える(上巻) （再掲）	平成17年4月 中央法規 B5版 全136頁	第4章　P.97-P.116 第5章　P.119-P.132 本書は利用者のQOLを高める看護・介護領域での専門援助に焦点を絞り、広く国内外の最新の研究成果や実践例などを取り上げて紹介するとともに、高齢者施設での看護と介護の専門援助についてその内容・方法を具体的に解説した。保健医療現場の第一線として看護・介護実践に従事する者が、対象者のニーズに応じた専門援助の知識と技術をより一層高めることを目的とした。 監修：アンドレア・ストレイト・シュライナー 編集：守本とも子、　星野政明
3）QOLを高める専門看護、介護を考える(下巻) （再掲）	平成17年8月 中央法規 B5版 全138頁	第7章1節1　P.19-P.20 第8章　P.76-P.84 第10章　P.111-P.123 本書は上巻の続編として、広く国内外の最新の研究成果や実践例などを取り上げて紹介するとともに、高齢者施設での看護と介護の専門援助についてその内容・方法を具体的に解説した。保健医療現場の第一線として看護・介護実践に従事する者が、対象者のニーズに応じた専門援助の知識と技術をより一層高めることを目的とした。 監修：アンドレア・ストレイト・シュライナー 編集：守本とも子、星野政明

4）介護概論 ―利用者へのサービスの質の向上を目指して―（再掲）	平成18年11月 黎明書房 B5版 全260頁	第4章2節 P.58-P.70 3節 P.82-.P89 4節 P.89-P.97 第5章1節 P.133-P.138 第7章1節 P.186-P.192 社会福祉基礎構造改革後の福祉サービスの最大のテーマのひとつに「利用者へのサービスの質の向上」がある。福祉サービスの質のもっとも重要な要素は、サービスを提供する人的資源の質の向上であると考えられる。利用者の意思・意欲を十分に把握した支援の構築と具現化に向けて、高い専門性に裏付けられた専門職としての能力の確立を目指すことを目的とした。 編著:守本とも子、星野政明
5）系統看護学講座　専門分野1 「基礎看護技術Ⅱ基礎看護学[3]」 第14版第1刷（再掲）	平成18年5月 医学書院 全348頁	第5部　第1章　A「生活環境を整える」P.64-P.74 本章では生活環境を整えるための技術の習得を通して、病床環境を多角的にとらえ、患者の安全・安楽への配慮を具体的な行為として実践できる力を養う。同時に、患者の病床環境に対していつも自然に目配りができ、安全や安楽を阻害する因子を早期に発見し、即座に対応できる感性を養う。 第5部　第1章　C「衣服を用いる」P.121-P.127 本章では人間生活の基盤となる三大要素の一つである衣生活への援助について述べる。衣生活には生理的意義、社会的意義、心理的意義があることを理解する。また、対象に応じた衣生活をアセスメントし、適切な援助ができるための方法を習得する。 共著
6）事例から学ぶ 子どもを育む母親援助の実際（再掲）	平成19年3月 保育出版社 全175頁 P.133-P.135	Case39「体が弱い」P.133-P.135 本書は保育者を養成する大学の教員と豊富な保育経験者により、保育状況で起こりやすい問題について想定し、保育者を目指す学生や現場の保育者の母親援助の実践に役立つ援助技術について解説した。 共著
7）コンパクト福祉系講義 医学一般（再掲）	平成19年3月 金芳堂 全211頁	第23章Ⅰ 「施設入所認知症高齢者に対する緩和ケアモデル」 P.156-P.160 医療と福祉の接点である介護について、介護者のQOLを考えた援助ができるような深い専門知識を身につけるとともに、現代社会での医療・医学にマッチした医学一般についての教本として制作した。 共著
8）看護学実践 ―Science of Nursing― 老年看護学（再掲）	平成19年4月 日本放射線技師会出版会 全261頁	Chapter 2　高齢者の理解　「加齢と老化」 高齢者の心と身体について加齢現象の視点から理解するとともに、高齢者の特徴を十分できるように記述した。 P.45-P.52 監修：川野雅資 編者：守本とも子
9）系統看護学講座　専門分野1 「基礎看護技術Ⅱ基礎看護学[3]」 第14版第6刷　（再掲）	平成20年4月 医学書院 全348頁	第5部 第1章 A「生活環境を整える」P.64-P.74 本章では生活環境を整えるための技術の習得を通して、病床環境を多角的にとらえ、患者の安全・安楽への配慮を具体的な行為として実践できる力を養う。同時に、患者の病床環境に対していつも自然に目配りができ、安全や安楽を阻害する因子を早期に発見し、即座に対応できる感性を養う。 第5部 第1章 C「衣服を用いる」P.121-P.127 本章では人間生活の基盤となる三大要素の一つである衣生活への援助について述べる。衣生活には生理的意義、社会的意義、心理的意義があることを理解する。また、対象に応じた衣生活をアセスメントし、適切な援助ができるための方法を習得する。 共著

10）系統看護学講座　専門分野1 「基礎看護技術Ⅱ基礎看護学[3]」 第15版第1刷（再掲）	平成21年2月 医学書院 全495頁	第2部 第1章 B「病床環境の調整」P.22-P.32 本章では生活環境を整えるための技術の習得を通して、病床環境を多角的にとらえ、患者の安全・安楽への配慮を具体的な行為として実践できる力を養う。同時に、患者の病床環境に対していつも自然に目配りができ、安全や安楽を阻害する因子を早期に発見し、即座に対応できる感性を養う。 第2部 第5章 C「病床での衣生活の援助」P.185-P.192 本章では人間生活の基盤となる三大要素の一つである衣生活への援助について述べる。衣生活には生理的意義、社会的意義、心理的意義があることを理解する。また、対象に応じた衣生活をアセスメントし、適切な援助ができるための方法を習得する。 共著
11）国際看護への学際的アプローチ（再掲）	平成21年3月 日本放射線技師会出版社 全211頁	第1章「異文化理解のための看護理論」P.7-P.18 世界でトピックとなっている健康課題とその背景を国際保健医療活動の実例を交えながら紹介し、看護の国際的な活動に必要な知識や思考について述べた。 監修：守本とも子 編者：堀内美由紀
12）新・QOLを高める専門看護、介護を考える （再掲）	平成21年3月 中央法規出版(株) 全204頁	第2章「高齢者への痛みへのアプローチ」P.61-P.91 第3章「高齢者の嚥下困難へのアプローチ」P.113 第5章第1節1「高齢者施設入居中の認知症高齢者へのアプローチ」P.169-P.178 第6章「認知症高齢者への安全テクニック」P.169-P.175 高齢者の生活に視点をあて、最新の研究報告などをもとに、日常生活支援から高齢者への安全対策、さらにQOLを高める方策としての遊び療法について述べた。 監修：アンドレア・ストレイト・シュライナー 編著：守本とも子、星野政明 編集
13）介護の基本・コミュニケーション技術 （再掲）	平成22年9月 黎明書房 全202頁	本書は介護の考え方について理解するとともに、介護を必要とする対象者を生活の視点からとらえ、介護を適切に行う能力と態度を養うことを目的とする。 編者：守本とも子、星野政明
14）生活支援技術・介護過程（再掲）	平成22年6月 黎明書房 全219頁	第10章「終末期の介護」P.159-P.168 終末期における介護の意義と目的、対象者のアセスメント、医療との連携、ブリーフケアについて述べ、終末期にある高齢者の最も安楽で威厳に満ちた死を可能にする方法を探る。 編者：守本とも子、星野政明（編著）
15）老年看護学 Geriatric Nursing （再掲）	平成22年12月 PILAR PRESS 全288頁	第2章　高齢者の理解　「加齢と老化」P.2、P.57-P.65 本書は高齢者の身体的・心理的特徴を十分把握したうえで高齢者のQOLの向上を目指した看護実践を意識的に取り上げた「老年看護学」（監修:川野雅資、編集：守本とも子,2007年）の改訂版である。国家試験対策のテキストとしても活用されてきた旧版の内容をさらに掘り下げ、高齢者の疾病構造の変容、健康に関連した高齢者のニーズの多様性などを考慮して、老年看護の実践に向けて、看護学生の必携のテキストとなっている。 監修：川野雅資 編著：守本とも子

16）医療福祉学の道標（再掲）	平成23年1月 金芳堂 全200頁	第2章 C「生活の変化と保健･医療･福祉の統合」P.23-P.26 第13章 A 「少子高齢社会での医療福祉」P.163-P.165 C 「介護福祉から医療介護福祉へ」P.170-P.172 G 「情報化社会における医療福祉」P.184-P.185 　本書は現代医療の課題を探求・解決していこうとすると同時に医療というフィールドにおける「社会福祉的視点の意義」について考察する。また、医療ソーシャルワーカの側から今日の医療・福祉に存在する課題を解明し、生活問題に制度的にも心理的にも対応できる「ソーシャルワーク」「ソーシャルワーカー」のあり方と方法を解説する。 監修：日野原重明他2名 編集：星野政明他2名 共著
17）子ども家庭のウェルビーイング（再掲）	平成23年3月 金芳堂 全128頁	第1章 A「少子化の進行と家庭・地域の変容」P.1-P.5 第3章 B「子ども家庭福祉の実施体制」P.39-P.41 　現代社会における子どものウェルビーイングを追及するため、子供を取り巻く社会福祉的問題や今日的課題を明らかにするとともに、子ども家庭福祉のあり方と支援策について解説する。 編集代表：星野政明 編集：真鍋顕久、三友雅夫 共著
18）系統看護学講座　専門分野1 「基礎看護技術Ⅱ基礎看護学[3]」第15版第8刷 （再掲）	平成24年2月 医学書院 全495頁	第2部 第1章 B「病床環境の調整」P.22-P.32 　本章では外部環境を病床環境に限定し、「病床環境の調整」と「ベットメーキング」「リネン交換」についての技術を習得する。病床環境の調整には、病床の温度と湿度。光と音、病室の色彩、空気の清浄性とにおい、人的環境の調整のほか、ベットのマットレスやまくらなどの寝具も含まれる。 第2部 第5章 C「病床での衣生活の援助」P.185-P.192 　本章では本章では人間生活の基盤となる三大要素の一つである衣生活への援助について述べる。衣生活には生理的意義、社会的意義、心理的意義があることを理解する。また、対象に応じた衣生活をアセスメントし、適切な援助ができるための方法を習得する。 共著
19）介護実習入門（再掲）	平成24年3月 黎明書房 全128頁	本書において対象者への実際的な福祉的援助の方法を学び、専門職としての基盤を構築することが可能であると考える。 編集：守本とも子、星野政明
20）系統看護学講座　専門分野1 「基礎看護技術Ⅱ基礎看護学[3]」第16版 （再掲）	平成25年2月 医学書院 全508頁	第1章　A「環境調整技術」P.9-P.21 　本章では療養生活の環境を構成する要素を理解し、病室・病床のアセスメントと調整について学ぶ。また、ベット周囲と病床の環境整備、ベットネーキング、リネン交換の実際について学ぶ。 第6章　B「清潔・衣生活援助」P.192-P.200 　衣類を用いることの生理的・社会的・心理的意義を理解する。また、衣生活に関するニーズのアセスメントや援助の実際について学ぶ。 共著
―教材―		
３　教育上の能力に関する大学等の評価		
特記事項なし		

4　実務の経験を有する者についての特記事項		
―海外研修学生引率―		
1）アメリカ　ロサンゼルス UCLA Hospital, USC-Children's Hospital	平成17年8月	奈良県立医科大学医学部看護学科　海外研修学生引率 プログラムオリエンテーション レクチャー：癌治療について、異文化看護について スタディビジット：USC-Children's Hospital、アサートン、UCLA－Hospital
2）タイ　チェンマイ市 チェンマイ大学看護学部　学術交流	平成18年8月	奈良県立医科大学医学部看護学科　海外研修学生引率 プログラムオリエンテーション レクチャー：Health care delivery system in Thailand、Psychiatric and mental health nursing in Thailand、Current HIV/AIDS situation in Thailand 他 スタディビジット：Chiang May Psychiatric Hospital、Local health care service Office of the Education Ministry(HIV/ AIDS Mission)、Church of Christ in Thailand 他
3）タイ　チェンマイ市 チェンマイ大学看護学部　学術交流	平成19年8月	奈良県立医科大学医学部看護学科　海外研修学生引率 プログラムオリエンテーション レクチャー：Introduction of nursing midwifery education in the Faculty of Nursing, Chiang Mai University、Reproductive health in Thailand 他 スタディビジット:Local health care service (khun Kong Health Care Clinic) Community reproductive facilities、Location Clinic Chiang Mai Health promotion Hospital 他
4）タイ　チェンマイ市 チェンマイ大学看護学部　学術交流	平成20年8月	奈良県立医科大学医学部看護学科　海外研修学生引率 プログラムオリエンテーション レクチャー: Elderly in Thailand、Health status of children in Thailand、 Health care service and health promotion of children in Thailand 他 スタディビジット：Elderly club at Faculty on nursing、 Day care center FON CMU, Pediatric Units, Pediatric Intensive Care Unit, Nursery, and Well baby clinic at university hospital、 Traditional Thai Massage Center 他
―講演―		
1）島根県看護協会 島根県看護協会教育事業委員会研究会　講師	平成16年8月28日	島根県看護協会の教育事業委員会研究会の講師を務め、「高齢者の摂食・嚥下障害患者へのアプローチ」と題した講演を行った。 会場：島根県看護協会看護研修センター（島根県松江市）
2）箕面市競艇事業部　研修会　講師	平成17年3月3日	箕面市競艇事業部主催の研修会で講師を務め、「職場で気持ちよく働くために―快適な職場環境づくり―」と題した講演を行った。 対象：職員約400名 会場：住之江競艇場中央ホール（大阪府箕面市）
3）奈良県天理市　講演会　講師	平成17年9月7日	奈良県天理市主催の講演会で講師を務め、「高齢者とのかかわり方～高齢者の特徴を知ろう～」と題した講演を行った。 会場：天理市保健センター
4）社団法人奈良県放射線技師会 生涯学習セミナー　講師	平成17年12月4日	社団法人奈良県放射線技師会主催の生涯学習セミナーで講師を務め、「看護学」と題した講演を行った。 対象：奈良県立医科大学医学部看護学科　50名

5）奈良県社会教育センター　友の会 「高齢者のこころと身体をよく知ろう」	平成18年5月25日	奈良県社会教育センター友の会の講演会で講師を務め、「高齢者のこころと身体をよく知ろう」と題した講演を行った。 参加者：150名 会場：葛城市社会教育センター
6）(財)健康管理・開発センター 平成18年度富田林市介護予防事業認知症予防講演会　講師	平成19年3月18日	(財)健康管理・開発センター主催の平成18年度富田林市介護予防事業認知症予防講演会で講師を務め、「わかりやすい脳の働き　一人の記録と認知症」と題した講演を行った。 大阪府富田林市
7）(財)健康管理・開発センター 平成18年度和泉市ヘルスアップサポーター養成講座　講師	平成19年3月26日	(財)健康管理・開発センター主催の平成18年度和泉市ヘルスアップサポーター養成講座でスーパーバイザーとして講師を務めた。 大阪府和泉市の住民を対象に個別的な健康相談を受けた。実施後のアンケート調査の 結果、相談内容は壮年期にあっては健康問題が多く、高齢者においては特に独居老人 にメンタルな問題が多かった。 大阪府和泉市
8）(財)健康管理・開発センター　健康講話 講師	平成19年10月11日	(財)健康管理・開発センター主催の健康講和で講師を務め、「女性のうつ　特徴を知ろう」と題した講演を行った。 会場：住之江競艇場（大阪府住之江区）
9）(財)健康管理・開発センター　講演会 講師	平成21年2月24日	(財)健康管理・開発センター主催の講演会で講師を務め、「たばこの害について」と題した講演を行った。 会場：住之江競艇場（大阪府住之江区）
―講習会―		
1）三重県立尾鷲総合病院看護部 看護研究研修会　講師	平成16年5月～ 平成17年3月	三重県立尾鷲総合病院看護部主催の看護研究研修会において、講師および研究指導を担当した。 三重県立尾鷲総合病院の看護師対象に昨年に引き続き「看護研究とは」「看護研究に関する倫理」「看護研究方法」等について講演した。また、看護研究を行った病棟（ICUを含む）の研究代表者と面談を持ち継続的な研究指導を行った。研究発表会では講評を行った。 会場：三重県立看護大学および三重県立尾鷲総合病院
2）社団法人奈良県看護協会 実習指導者講習会　講師	平成17年9月14日 平成17年9月15日	社団法人奈良県看護協会主催の実習指導者講習会において、「看護の概念」「看護論」の講義を行った。 会場：奈良県看護研修センター（奈良県橿原市） 時間：9時間
3）社団法人奈良県看護協会 実習指導者講習会　講師	平成18年9月	社団法人奈良県看護協会主催の実習指導者講習会において、「看護論」の講義を行った。 会場：奈良県看護研修センター(奈良県橿原市) 時間：6時間
4）社団法人奈良県看護協会 実習指導者講習会　講師	平成19年9月	社団法人奈良県看護協会主催の実習指導者講習会において、「看護論」の講義を行った。 会場：奈良県看護研修センター(奈良県橿原市) 時間：3時間
5）社団法人奈良県看護協会 実習指導者講習会　講師	平成20年9月	社団法人奈良県看護協会主催の実習指導者講習会において、「看護論」の講義を行った。 会場：奈良県看護研修センター(奈良県橿原市) 時間：3時間

6）社団法人奈良県看護協会 実習指導者講習会　講師	平成21年9月8日	社団法人奈良県看護協会主催の実習指導者講習会において、「看護論」の講義を行った。 会場：奈良県看護研修センター(奈良県橿原市) 時間：6時間
7）社団法人奈良県看護協会 実習指導者講習会　講師	平成22年9月	社団法人奈良県看護協会主催の実習指導者講習会において、「看護論」の講義を行った。 会場：奈良県看護研修センター(奈良県橿原市) 時間：6時間
8）社団法人奈良県看護協会 実習指導者講習会　講師	平成23年9月	社団法人奈良県看護協会主催の実習指導者講習会において、「看護論」の講義を行った。 会場：奈良県看護研修センター(奈良県橿原市) 時間：6時間
9）社団法人岐阜県看護協会 実習指導者講習会　講師	平成24年6月13日 ～7月11日	社団法人岐阜県看護協会主催の実習指導者講習会において、「看護理論」の講義および演習指導を行った。 専任教員養成講習会受講生：30人 会場：社団法人岐阜県看護協会特別研修室、岐阜県県民ふれあい会館第1棟5階（岐阜県岐阜市） 時間：15時間（講義）、15時間（演習指導）
10）日本保健医療行動科学会　講師	平成24年6月	日本保健医療行動科学会主催の講習会において、「医療系大学におけるチーム医療教育の実際―医療のパラダイムシフトに向けて―」についての講義を行った。 会場：じゅうろくプラザ（岐阜県岐阜市）
11）社団法人奈良県看護協会 実習指導者講習会　講師	平成24年9月	社団法人奈良県看護協会主催の実習指導者講習会において、「看護師教育課程」の講義を行った。 会場：奈良県看護研修センター(奈良県橿原市) 時間：6時間
12）社団法人奈良県看護協会 実習指導者講習会　講師	平成25年8月	社団法人奈良県看護協会主催の実習指導者講習会において、「看護師教育課程」の講義を行った。 会場：奈良県看護研修センター(奈良県橿原市) 時間：6時間
―教員養成講座講師―		
1）大阪府看護協会 大阪府看護教員養成講習会　講師	平成22年	大阪府看護協会主催の大阪府看護教員養成講習会において、「看護論演習」の講義を行った。 受講生：79人 時間：30時間 大阪府看護協会桃谷センター（大阪市天王寺区）
2）社団法人岐阜県看護協会 岐阜県看護教員養成講習会　講師	平成23年6月13日 ～7月27日	社団法人岐阜県看護協会主催の岐阜県看護教員養成講習会において、「看護論」「看護論演習」の講義を行った。 専任教員養成講習会受講生：30人 時間：15時間（講義）、15時間（演習指導） 会場：社団法人岐阜県看護協会特別研修室、岐阜県県民ふれあい会館第1棟5階（岐阜県岐阜市）
3）社団法人岐阜県看護協会 岐阜県専任教員養成講習会　講師	平成25年5月20日 ～6月4日	社団法人岐阜県看護協会主催の岐阜県専任教員養成講習会において、「専門領域別看護論演習・老年看護学」の講義を行った。 専任教員養成講習会受講生：19人 時間：18時間 会場：社団法人岐阜県看護協会特別研修室、岐阜県県民ふれあい福寿会館第1棟5階（岐阜県岐阜市）

4）社団法人奈良県看護協会 奈良県専任教員養成講習会　講師	平成25年7月29日 平成25年12月4日 ～12月12日	社団法人奈良県看護協会主催の奈良県専任教員養成講習会において、「専門領域別看護論演習・老年看護学」の講義を行った。 専任教員養成講習会受講生：30人 時間：14時間 会場：奈良県看護研修センター、奈良県看護協会ホームナーシングセンター（奈良県橿原市）
5　その他		
―担当教科―		
1）「老年看護学概論」の担当	平成16年4月～ 平成22年3月	奈良県立医科大学医学部看護学科の学生を対象に「老年看護学概論」を担当した。「老年看護学概論」は必修科目で2単位（2時間×15回）の半期科目である。講義内容は「加齢に伴う変化」と老年期の人々のQOLの向上をめざす理論と技術についてである。
2）「老年看護学援助論」の担当	平成17年4月～ 平成22年3月	奈良県立医科大学医学部看護学科の学生を対象に「老年看護学援助論」を担当した。「老年看護学援助論」は必修科目で2単位（2時間×30回）の通年科目である。講義内容は老年期にある人の健康の増進、疾病の予防といった看護実践の理論と技術についてである。
3）「社会福祉学」の担当	平成17年4月～ 平成22年3月	奈良県立医科大学医学部看護学科の学生を対象に「社会福祉学」を担当した。「社会福祉学」は必修科目で2単位（2時間×30回）の通年科目である。講義内容は社会保障・社会福祉の理念や原理及び障害者・高齢者の生活問題の現状を把握し、それに対する社会福祉制度と最近の政策動向についてである。
4）「国際看護論」の担当	平成17年4月～ 平成22年3月	奈良県立医科大学医学部看護学科の学生を対象に「国際看護論」を担当した。「国際看護論」は選択科目で2単位（2時間×30回）の通年科目である。講義内容は学際的視点から世界で展開する看護活動について理解を深め、実際に外国での看護教育・看護活動の演習を通して、新しい看護の視点と可能性を探る。
5）「看護研究概論」の担当	平成18年4月～ 平成22年3月	奈良県立医科大学医学部看護学科の学生を対象に「看護研究概論」を担当した。「看護研究概論」は必修科目で1単位（2時間×7回）の半期科目である。講義内容は看護研究を進めていく上での基礎的能力を育成するとともに研究的態度および看護観及び研究の意義、研究課題の立て方、研究方法、研究結果のまとめ方、考察、発表の方法についてである。
6）「看護学特論」の担当	平成18年4月～ 平成22年3月	奈良県立医科大学医学部看護学科の学生を対象に「看護学特論」を担当した。「看護学特論」は必修科目で1単位（2時間×15回）の半期科目である。講義内容は国内外における看護研究の動向と課題及び国内外で関心のある看護問題や課題についての研究計画書を作成する方法についてである。
7）「介護概論」の担当	平成20年4月～ 平成25年3月	関西学院大学人間福祉学部の学生を対象に「介護概論」を担当した。「介護概論」は必修科目で1単位（2時間×15回）の半期科目である。講義内容は、介護の主たる対象となる高齢者を理解しながら、介護の目的、方法、専門職としての役割を学ぶ、また、それらを基に実践と自己研鑽を積むことのできる専門性を育てることを目的とする。
8）「介護技術」の担当	平成20年4月～ 平成25年3月	関西学院大学人間福祉学部の学生を対象に「介護技術」を担当した。「介護技術」は必修科目で1単位（2時間×15回）の半期科目である。講義内容は、障害や疾病あるいは加齢により、他の人の支援を必要とする対象者のQOLを高める介護上の援助技術について、その考え方および身体的状況に応じたよりよい介護技術を学ぶ。授業は講義と演習であり、全体の1/2は体験的学習で構成する。

９）「からだのしくみと生活」の担当	平成20年4月～ 平成25年3月	関西学院大学人間福祉学部の学生を対象に「からだのしくみと生活」を担当した。「からだのしくみと生活」は必修科目で1単位（2時間×15回）の半期科目である。講義内容は、対象の自立支援にむけて必要なこころとからだの基礎的な知識を学び、適切な介護の実践ができる能力を養うことを目的とする。
10）「加齢と障害の理解」の担当	平成20年4月～ 平成25年3月	関西学院大学人間福祉学部の学生を対象に「加齢と障害の理解」を担当した。「加齢と障害の理解」は必修科目で1単位（2時間×15回）の半期科目である。講義内容は、人間の成長と発達における心理や身体機能の変化を学び、それらが日常生活に与える影響について理解することを目的とする。
11）「看護学原論」の担当	平成22年4月～ 平成25年3月	岐阜医療科学大学保健科学部看護学科の学生を対象に「看護学原論」を担当した。「看護学原論」は必修科目で1単位（2時間×15回）の半期科目である。講義内容は、看護学における主要概念を理解し、看護の本質と専門職としての役割を学ぶ。そのために、看護の対象である人間を全人的にとらえる知識と感性を養う。また、自己の看護観を形成し、発展させる能力を養うことを目的とする。
12）「国際看護論」の担当	平成22年4月～ 平成25年3月	岐阜医療科学大学保健科学部看護学科の学生を対象に「国際看護論」を担当した。「国際看護論」は必修科目で1単位（2時間×15回）の半期科目である。講義内容は、国際社会の動向を知り、グローバルな視点で活動できる教養を養うことを目標とする。それぞれの国の分化、資源、環境など、多角的な視点について考え、異文化を持つ人々への看護の在り方に対する理解を深めていく。
13）「ターミナル看護」の担当	平成22年4月～ 平成25年3月	岐阜医療科学大学保健科学部看護学科の学生を対象に「ターミナル看護」を担当した。「ターミナル看護」はは必修科目で1単位（2時間×15回）の半期科目である。講義内容は、ターミナルケアの意味を理解し、看護者自身の生死観が確立できる基礎を養う。また、ターミナルケアを実践するうえでの知識と技術を学ぶ。
14）「看護理論」の担当	平成22年4月～ 平成25年3月	岐阜医療科学大学保健科学部看護学科の学生を対象に「看護理論」を担当した。「看護理論」は必修科目で1単位（2時間×15回）の半期科目である。講義内容は、看護の見方・考え方の基礎として、様々な看護理論が現れてきた社会背景を知り、看護理論を学ぶ。代表的な理論家の理論が看護実践の根拠になることや、その活用方法を知る。さらに、理論を研究に活用するための方法について理解する。
15）「チーム医療論」の担当	平成22年4月～ 平成25年3月	岐阜医療科学大学保健科学部看護学科の学生を対象に「チーム医療論」を担当した。「チーム医療論」は必修科目で1単位（2時間×15回）の半期科目である。講義は3学科の教員で行う。チーム医療における協調性、責任感、コミュニケーション能力の向上は必須である。また専門分野以外の学習も「学際性」を伸ばすために必要である。3学科共通の科目を持ち学科の壁を越えて本科目を履修することにより医療現場において必要とされる資質を習得することを目的とする。
16）「看護学概論」の担当	平成25年4月～ 平成25年9月	岐阜医療科学大学保健科学部看護学科の学生を対象に「看護学概論」を担当した。「看護学概論」は必修科目で1単位（2時間×15回）の半期科目である。講義内容は、看護学における主要概念を理解し、看護の本質と専門職としての役割を学ぶ。そのために、看護の対象である人間を全人的にとらえる知識と感性を養う。また、自己の看護観を形成し、発展させる能力を養うことを目的とする。

17) 「早期体験演習」の担当	平成26年4月～現在に至る	奈良学園大学保健医療学部看護学科の学生を対象に「早期体験演習」を担当した。「早期体験演習」は必修科目で1単位15時間の半期科目である。講義内容は、看護の対象となる人々や医療チームのメンバーと信頼を築くための基本となるコミュニケーション方法を観察し、その内容について討議を行う。また、外来患者、入院患者、看護師と共に行動し、入院までの流れや病院の仕組み、看護の機能を学習し、将来医療に従事する者として看護の在り方を考える。
18) 「保健医療学概論」の担当	平成26年4月～現在に至る	奈良学園大学保健医療学部看護学科の学生を対象に「保健医療学概論」を担当した。「保健医療学概論」は必修科目で1単位15時間の半期科目である。講義内容は、全人的ケアに主眼をおいた保健医療学について、その背景や基本的な考え方、諸外国及び日本における現状と実践例、クオリティ・オブ･ライフ（QOL）の視点を含む医療と看護の原点などについて幅広く学び、その後の主体的な学習の礎とする。
19) 「看護理論」の担当	平成26年4月～現在に至る	奈良学園大学保健医療学部看護学科の学生を対象に「看護理論」を担当した。「看護理論」は必修科目で1単位15時間の半期科目である。講義内容は、代表的な理論家の理論がどのような医療環境や社会背景のもとに構築されてきたかを知る。また、それらの理論が看護実践の根拠となることを理解し、看護過程の展開に有効に活用する方法を学ぶ。
20) 「チーム医療論」の担当	平成26年4月～現在に至る	奈良学園大学保健医療学部看護学科の学生を対象に「チーム医療論」を担当した。「チーム医療論」は必修科目で1単位15時間の半期科目である。講義内容は、チーム医療の重要性、看護領域におけるチーム医療の変遷について学ぶ。そして現在のチーム医療のなかでの看護師の位置づけおよび看護師が果たす役割について理解する。また、チーム医療における看護の在り方および今後の課題について考察する。
21) 「基礎看護学実習Ⅰ」の担当	平成26年4月～現在に至る	奈良学園大学保健医療学部看護学科の学生を対象に「基礎看護学実習Ⅰ」を担当した。「基礎看護学実習Ⅰ」は必修科目で1単位15時間の半期科目である。講義内容は、看護の対象となる人々が生活する様々な環境を把握し、対象者のニーズについて考える。また、看護師のシャドーイングを行い、対象者とのコミュニケーション場面や援助場面の観察を通して、日常生活への理解を深め、看護の機能や役割について考える。
22) 「成人看護学概論」の担当	平成26年4月～現在に至る	奈良学園大学保健医療学部看護学科の学生を対象に「成人看護学概論」を担当した。「成人看護学概論」は必修科目で2単位30時間の半期科目である。講義内容は、人間の成長発達課題における成人期の特質について、身体的・精神的・社会的側面から理解する。また、成人期にある人々の様々な健康障害の原因や要因を学び、健康の回復、あるいは健康の保持増進に向けての看護援助の方法について学ぶ。
23) 「ターミナルケア論」の担当	平成26年4月～現在に至る	奈良学園大学保健医療学部看護学科の学生を対象に「ターミナルケア論」を担当した。「ターミナルケア論」は選択科目で1単位15時間の半期科目である。講義内容は、ターミナルについての概念、およびターミナル期にある対象へのケアの在り方について学ぶ。各ライフサイクルにおけるターミナルケアの意味を理解するとともにターミナルケアを実践する上での知識と技術を学ぶ。

24) 「国際保健医療看護演習」の担当	平成26年4月～ 現在に至る	奈良学園大学保健医療学部看護学科の学生を対象に「国際保健医療看護演習」を担当した。「国際保健医療看護演習」は選択科目で1単位15時間の半期科目である。講義内容は、国際保健医療の第一線で活躍する専門家の報告などから世界の健康問題の動向と取り組みを学ぶ。また、伝統や風習などによる健康への意識と健康行動の違いを理解し、そこに求められる保健医療を考える。
25) 「卒業研究Ⅱ」の担当	平成26年4月～ 現在に至る	奈良学園大学保健医療学部看護学科の学生を対象に「卒業研究Ⅱ」を担当した。「卒業研究Ⅱ」は必修科目で1単位15時間の半期科目である。講義内容は、研究計画書の作成、文献レビューを中心に研究の一連の流れを理解する。また、研究を実施する際は担当教員の指導を受けながら「研究倫理」を十分把握したうえで実施する。今後の看護実践の場での看護研究に向けての素地を養う。
26) 「社会福祉学」の担当	平成26年4月～ 現在に至る	奈良学園大学保健医療学部看護学科の学生を対象に「社会福祉学」を担当した。「社会福祉学」は必修科目で1単位15時間の半期科目である。講義内容は、社会福祉の歴史的経緯と今日に至った社会福祉の概念やその背景となる社会の発達、人々を支える価値について学び、理解を深める。さらに、地域における社会福祉職と医療職との連携・協働のあり方と社会福祉援助技術、マンパワーについて学び、社会福祉の基礎的理解を進める。
27) 「社会福祉」の担当	平成26年6月～ 平成26年9月	大和高田市立看護専門学校の学生を対象に「社会福祉」を担当した。「社会福祉」は必修科目で１単位（2時間×15回）の半期科目である。講義内容は、社会保障・社会福祉の理念や原理及び障害者・高齢者の生活問題の現状を把握し、それに対する社会福祉制度と最近の政策動向について学ぶ。
28) 「ターミナルケア論」の担当	平成26年10月～ 平成27年3月	岐阜医療科学大学保健科学部看護学科の学生を対象に「ターミナルケア論」を担当した。「ターミナルケア論」はは必修科目で1単位（2時間×15回）の半期科目である。講義内容は、ターミナルケアの意味を理解し、看護者自身の生死観が確立できる基礎を養う。また、ターミナルケアを実践するうえでの知識と技術を学ぶ。

29）「国際看護論」の担当	平成26年10月～ 平成27年3月	岐阜医療科学大学保健科学部看護学科の学生を対象に「国際看護論」を担当した。「国際看護論」はは必修科目で1単位（2時間×15回）の半期科目である。講義内容は、国際社会の動向を知り、グローバルな視点で活動できる教養を養うことを目標とする。それぞれの国の分化、資源、環境など、多角的な視点について考え、異文化を持つ人々への看護の在り方に対する理解を深めていく。
―実習指導―		
1）老年看護学実習	平成18年10月～ 平成22年3月	奈良県立医科大学医学部看護学科の3年次学生を対象に「老年看護学実習指導」（指導人数95人、指導期間10週）を担当した。指導内容は老年期にある人の看護、主に高齢者施設における老年看護の視点とその方法を実践的に学び、老年看護の役割・機能を理解させる。
2）総合実習	平成19年5月～ 平成22年3月	奈良県立医科大学医学部看護学科の4年次学生を対象に「総合実習指導」（指導人数11人、指導期間10週）を担当した。
―学位論文指導―		
―その他―		

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
1　資格、免許		
1）幼稚園教諭2級普通免許	昭和53年3月31日	昭52幼2普第3230号
2）保母資格	昭和53年3月21日	第保755
3）看護婦免許	昭和61年5月14日	第568532号
4）養護学校教諭1級普通免許	昭和63年9月25日	昭63養学1普め第10号
5）看護教員資格	平成3年11月29日	第946号 平成3年度厚生省認定による看護教員養成講習会
6）修士（学術）	平成9年3月25日	大阪教育大学第2090号
7）博士（社会福祉学）	平成15年10月15日	関西学院大学（甲社第十四号）
2　特許等		
特記事項なし		
3　実務の経験を有する者についての特記事項		
―看護師―		
4　その他		
10）岐阜医療科学大学 研究倫理審査委員長	平成22年4月～ 平成24年9月	岐阜医療科学大学保健科学部看護護学科、放射線技術学科、臨床検査技師学科合同の研究倫理審査委員会において研究倫理審査委員長を務めた。

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（著書）				
１．先天性疾患と家族心理臨床「家族のための心理学」	共著	平成17年4月	保育出版社	家族危機の今日的な問題について臨床心理学的な立場から焦点をあて、合わせて生涯発達的、生活環境的な諸要因を視野に入れ、家族と家族関係の心理と病理に関する基本的な問題に対して理論と実践の両面からの知見を紹介している。 B5判　全233頁 編者：小林芳郎 共著者：小林芳郎、榎本博明、守本とも子（他37名） 本人担当部分:8章1節「身体的疾病と家族の心理臨床」P.142-P.146を単著。家族の身体的疾病の羅患事態において生ずる家族の心理臨床的な問題を取り上げ、それへの適切な対策をとり、家族の精神的健康の維持向上を促すことについて、具体的な事例を示して実践に役立つように理解を図った。
２．QOLを高める専門看護、介護を考える(上巻)	共著	平成17年4月	中央法規	利用者のQOLを高める看護・介護領域での専門援助に焦点を絞り、広く国内外の研究成果も含め、実践例を取り上げて紹介するとともに、高齢者施設での看護と介護と介護の専門援助についてその内容と方法を具体的に解説している。 B5判　全136頁 監修：アンドレア・ストレイト・シュライナー 編者：守本とも子、　星野政明 本人担当部分:（部分執筆） 第4章「高齢者の痛みについて」　P.97-P.116を単著。 日本における高齢者の痛みの考え方について述べた。また、痛みのアセスメントの方法と痛みの緩和、薬剤治療と看護について述べた。 第5章「高齢者の燕下困難へのアプローチ」P.119-P.132を単著。 燕下障害のメカニズムと観察及び援助方法について述べた。
３．QOLを高める専門看護、介護を考える(下巻)	共著	平成17年8月	中央法規	2000年の社会福祉基礎構造改革による大きな変化に伴い、保健医療分野での制度・施策も急速に変化してきたことを踏まえ、現場の第一線としての看護と介護の実践に従事する専門職者の知識と技術を高めるための内容・方法を具体的に解説している。 B5判　全138頁 監修：アンドレア・ストレイト・シュライナー 編者：守本とも子、星野政明 本人担当部分：（部分執筆） 第7章1節1「認知症高齢者の入浴テクニック」P.19-P.20を単著。 認知症高齢者の特徴とそれを踏まえた適切な入浴の援助方法について述べた。 第8章「認知症高齢者への安全テクニック」P.76-P.84を単著。 認知症高齢者の日常生活における事故の防止について述べた。 第10章「高齢者施設における終末期ケアの改善」P.111-P.123を単著。 緩和ケアモデルへの提言として、緩和ケアへの実践について述べ、POLSTの紹介、チームワークの重要性について述べた。

４．統看護学講座　専門分野1「基礎看護技術Ⅱ基礎看護学[3]」第14版第1刷	共著	平成18年5月	医学書院	本書は看護技術の教科書として最新の方法を紹介している。単なる手順の方法ではなく看護職者が最も重要と考える「臨床判断」の過程を含めて解説し、卒業までのすべての領域実習で手引書として活用できる内容としている。 B5判、全348頁 共著者：守本とも子、藤崎　郁、任和子、有田清子、井川順子、石賀奈津子、岡本啓子、尾崎章子、小林優子、茂野香おる、竹林直紀　(他10名) 本人担当部分: 第1章A「生活環境を整える」P.64-P.74を共著。 主に療養生活の環境（病室、人的環境など）のアセスメントと調整及びベットメーキングについて述べた。 共著者：岡本啓子、吉村雅世 第1章C「衣服を用いる」P.121-P.127を共著。 主に衣類を用いることの意義、衣生活に関するニーズのアセスメント、病衣の選び方，病衣交換の方法について述べた。 共著者：岡本啓子、吉村雅世
５．介護概論―利用者へのサービスの質の向上を目指して―	共著	平成18年11月	黎明書房	利用者へのサービスの質の向上を目指した方策を意識的に取り上げ、高い専門性に裏付けられた能力の確立に向けて、とりわけ、介護領域での専門援助について内容と方法を具体的に解説している。 A5判　全260頁 編者:守本とも子、星野政明 本人担当部分：編集 第4章2節「加齢が及ぼす身体的変化」P.58-P.70を単著。 加齢が高齢者に及ぼす影響と加齢から生じる疾患及びその看護について述べた。 第4章3節「高齢者の痛みについて」P.82-P.89を単著。 高齢者の痛みの症状と観察のポイント。適切な痛みへの援助について述べた。 7第4章4節「燕下障害」P.89-P.97を単著。 主に燕下障害の観察とアプローチについて述べた。 第5章1節「高齢者の終末期介護」P.133-P.138を単著。 緩和ケアとターミナル期におけるコミュニケーションについて述べた。 第7章1節「認知症患者のための各種の療法」P.186-P.192を単著。 主にレクレーション療法と活動プログラムの立案について述べた。
６．事例から学ぶ 子どもを育む母親援助の実際	共著	平成19年3月	保育出版社	保育士を目指す学生の教科書として、また現場の保育士が母親援助の実際に役立つように、保育状況の中で起こりやすい問題を取り上げ、解決方法を理解しやすく解説した。 B5判、全175頁 共著者：守本とも子、今井章子、上野恭裕、浜崎隆司、米谷光弘、田中昭夫、水野道子、五十嵐敦子、富田久枝、上村加奈、他(24名) 本人担当部分:Case39「体が弱い」P.133-P.135を単著。 心臓に疾患を持つ子どもに対する母親の対応のあり方と具体的な対応策について述べた。

７．コンパクト福祉系講義 医学一般	共著	平成19年3月	金芳堂	本書は現代医学の入門書として現代社会での医学・医療にマッチした「福祉専門職を目指す人のための教本」の製作を目的としている。 B5判、全211頁 監修：日野原重明 共著者：守本とも子、藤崎　郁、任和子、有田清子、井川順子、石賀奈津子、岡本啓子、尾崎章子、小林優子、茂野香おる、竹林直紀　(他10名) 本人担当部分:第23章Ⅰ「施設入所認知症高齢者に対する緩和ケアモデル」P.156-P.160を単著。 緩和ケアモデルとして主に個別ケア、事前ケア計画、チームワークについて述べた。
８．看護学実践 -Science of Nursing- 老年看護学	共著	平成19年4月	日本放射線技師会出版会	時代のニーズに応える実践的な看護の教科書として、サブテキストとして、実習の参考書として、臨床で調べる丁寧な辞書として、など多様に活用できることを意識して製作された。 A5版　全261頁 監修：川野雅資 編者：守本とも子 本人担当部分:編集 Chapter 2　高齢者の理解「加齢と老化」P.4、P.45-P.52を単著。 高齢者の心と身体について加齢現象の視点から理解するとともに、高齢者の特徴を十分できるように記述した。
９．住居医学	共著	平成19年	米田出版	本書は「病室環境改善」についての調査・研究の成果をまとめたものである。より、現実に即したニーズをとらえ、現存の病室環境をいかに改善するかを考案していくことを目的としている。 四六判、全211頁 監修：吉田修 共著者：吉田修、三村浩史、筏　義人、大崎茂芳、内山巌雄、尾崎二郎、細井裕司、喜多英二、和中明生、守本とも子、車谷典男 本人担当部分:第10章「デンマークの優れた高齢者住居」P.177-P.192を単著。 日本の現状を背景に、北欧諸国の中でも「高齢者住居」について独自な発展を遂げ、1987年に施設建設を凍結するという政策転換（法律公布）に踏み切ったデンマークの高齢者住宅と日本の画期的な高齢者共生住宅の事例を取り上げ、新しいステージに突入した日本の高齢者住居の有り様を検討した。

10. 系統看護学講座　専門分野1 「基礎看護技術Ⅱ基礎看護学[3]」 第14版第6刷	共著	平成20年4月	医学書院	本書は看護技術の教科書として最新の方法を紹介している。単なる手順の方法ではなく看護職者が最も重要と考える「臨床判断」の過程を含めて解説し、卒業までのすべての領域実習で手引書として活用できる内容としている。 B5判、全348頁 共著者：守本とも子、藤崎　郁、任和子、有田清子、井川順子、石賀奈津子、岡本啓子、尾崎章子、小林優子、茂野香おる、竹林直紀(他10名) 本人担当部分: 第1章A「生活環境を整える」　P.64-P.74を共著。 主に療養生活の環境（病室、人的環境など）のアセスメントと調整及びベットメーキングについて述べた。 共著者：岡本啓子、吉村雅世 第1章C「衣服を用いる」P.121-P.127を共著。 主に衣類を用いることの意義、衣生活に関するニーズのアセスメント、病衣の選び方、病衣交換の方法について述べた。 共著者：岡本啓子、吉村雅世
11. 系統看護学講座　専門分野1 「基礎看護技術Ⅱ基礎看護学[3]」 第15版第1刷	共著	平成21年2月	医学書院	本書は看護技術の教科書として最新の方法を紹介している。単なる手順の方法ではなく看護職者が最も重要と考える「臨床判断」の過程を含めて解説し、卒業までのすべての領域実習で手引書として活用できる内容としている。 B5判、全495頁 共著者：守本とも子、藤崎　郁、任和子、有田清子、井川順子、石賀奈津子、岡本啓子、尾崎章子、小林優子、茂野香おる、竹林直紀(他10名) 本人担当部分： 第2部　第1章 B「病床環境の調整」P.22-P.32を共著。 主に療養生活の環境（病室、人的環境など）のアセスメントと調整及びベットメーキングについて述べた。 共著者：岡本啓子、吉村雅世 第2部　第5章 C「病床での衣生活の援助」P.185-P.192を共著。 主に衣類を用いることの意義、衣生活に関するニーズのアセスメント、病衣の選び方、病衣交換の方法について述べた。 共著者：岡本啓子、吉村雅世
12. 国際看護への学際的アプローチ	共著	平成21年3月	日本放射線技師会出版社	本書は世界でトピックとなっている健康課題とその背景について、国際保健医療活動の実例を紹介し、今後の国際的な活動に必要な知識や思考を深める機会を提供することを目的とした。 B5判、全211頁 監修：守本とも子 編者：堀内美由紀 本人担当部分:（部分執筆） 第1章「異文化理解のための看護理論」P.7-P.18を単著。 世界でトピックとなっている健康課題とその背景を国際保健医療活動の実例を交えながら紹介し、看護の国際的な活動に必要な知識や思考について述べた。

13. 新・QOLを高める専門看護、介護を考える	共著	平成21年3月	中央法規出版(株)	本書は高齢者への理解を深めるため、加齢が及ぼす身体的・心理的変化を学び、加齢が高齢者にどのような影響を及ぼすのか、また、結果としてどのような障害が起こってくるのかを理解する。そして高齢者のQOLを高める日常生活援助について学ぶ。 B5判、全204頁 監修：アンドレア・ストレイト・シュライナー 編者：守本とも子、星野政明 本人担当部分:（部分執筆） 第2章　「高齢者の痛みへのアプローチ」P.61-P.80を単著。 第1節「高齢者の痛みについて」高齢者の痛みの特徴を述べた。第2節「痛みの特定」痛みの特定方法につい主訴、動作、疾患との関連について述べた。第3節「痛みのアセスメントスケール」痛みの質と強さのアセスメントについて著者らが作成したVASスケールを紹介した。第4節「痛みの治療とケアプラン」非薬物、薬物的介入と痛み治療薬の主要なタイプ、ケアプランについて述べた。第5節「倫理的責任」痛みの治療におけるガイドラインと倫理的課題について述べた。
				第3章「高齢者の嚥下困難へのアプローチ」P.81-P.94を単著。 第1節「嚥下障害とは」嚥下の生理、嚥下障害のタイプと原因、観察のポイントとチームアプローチについて述べた。第2節「嚥下療法の工夫と技術」食物形態の改善、嚥下方法、筋肉強化訓練、緊急時の対処について述べた。第3節「スタッフの役割」嚥下・食事評価スケールを紹介した。 第5章「QOLを高める日常生活動作への援助」P.113-P.123を単著。 第1節「認知症高齢者の入浴テクニック」入浴中の不穏を低下させるプロトコールと安全策について述べた。 第6章「認知症高齢者への安全テクニック」P169-P.177を単著。 第1節「認知症高齢者について」認知症についての概要と特徴について述べた。第2節「認知症高齢者の行動特性と対策」認知症高齢者の特徴的な行動とそれに対する対処方法を述べた。 第7章「QOLを高める高齢者の遊び療法」P179-P.201を単著。 第1節「遊び療法とボランテイア活動」ボランテイアの集め方、活動の説明について述べた。第2節「遊びマニュアルの使い方」レクレーション遊具のつくり方と使い方及び遊具を紹介する際の注意点について述べた。
14. 介護の基本・コミュニケーション技術	共著	平成22年9月	黎明書房	本書は介護の考え方について理解するとともに、介護を必要とする対象者を生活の視点からとらえ、介護を適切に行う能力と態度を養うことを目的とした。 A5判、全202頁 編著：守本とも子、星野政明 本人担当部分：編集

15. 生活支援技術・介護過程	共著	平成22年6月	黎明書房	専門職としての基盤を構築することを目的とした。心身の状況に応じた介護を実践するための生活支援の方法とそれらを展開していくための一連の過程として「介護過程の展開」について具体的な内容を盛り込んだ。 A5判、全219頁 編著：守本とも子、星野政明 本人担当部分: 第10章「終末期の介護」P.159-P.168を単著。 終末期における介護の意義と目的、対象者のアセスメント、医療との連携、ブリーフケアについて述べ、終末期にある高齢者の最も安楽で威厳に満ちた死を可能にする方法を探った。
16. 老年看護学 Geriatric Nursing	共著	平成22年12月	PILAR PRESS	本書は高齢者の身体的・心理的特徴を十分把握したうえで高齢者のQOLの向上を目指した看護実践を意識的に取り上げた「老年看護学」（監修:川野雅資、編集：守本とも子,2007年）の改訂版である。国家試験対策のテキストとしても活用されてきた旧版の内容をさらに掘り下げ、高齢者の疾病構造の変容、健康に関連した高齢者のニーズの多様性などを考慮して、老年看護の実践に向けて、看護学生の必携のテキストとなっている。 本人担当部分：編著 第2章 2. 高齢者の理解 「加齢と老化」P.2、P.57-P.65を単著。 高齢者の生理的機能の変化、疾患の特徴、感覚機能の変化（視覚、聴覚、味覚、嗅覚、触覚、痛覚）また、その他の諸機能として、加齢による心臓、血管、血液、外皮系について述べた。そして、加齢がもたらす精神的変化と社会的変化についても述べた。
17. 医療福祉学の道標	共著	平成23年1月	金芳堂	本書は社会福祉学の視点から現代医療の課題を探求、解決していこうとすると同時に医療というフィールドにおける社会福祉的視点の意義への接近を試みた。医療の分野における社会福祉的なものとは何か、という課題に迫ろうとしている。①クライエントの心身の健康、②クライエントの住む時代と社会の状況、③クライエント個人（家族）の生活実態と生活背景と地域の状況、④医療と福祉の援助専門職の理論と技術、⑤医療と福祉の援助専門職の価値観、⑥援助専門職の連携について、の道標を明示することを目的としている。

				B5判、全200頁 監修：日野原重明、西三郎、前原澄子、秋山智久 編集：星野政明、高内克彦、土田 耕司 本人担当部分: 第2章 C 生活の変化と保健･医療･福祉の統合 P.23-P.26を単著。 生活の変化として家計の動向、家族形態の変化、介護問題について解説したうえで生活を支える保健・医療・福祉の統合の意義について述べた。 第13章 A 少子高齢社会での医療福祉 P.163-P.165を単著。 今日抱える医療福祉の課題として少子高齢化社会での医療福祉のあり方について述べた。特に高齢者の一人暮らしに焦点をあて、現状と対策について考察した。 C 介護福祉から医療介護福祉へ P.170-P.172を単著。 介護福祉から医療介護福祉へのパラダイムシフトの必要性について述べた。特に介護の専門性について再度考察し、今後の介護福祉士のあり方と課題について考察した。 G 情報化社会における医療福祉 P.184-P.185を単著。 情報化社会における医療福祉について、特に医療福祉とIT (Information Technology) との関連で述べた。今後、医療福祉のどの分野においてITがどのように活用されていくのか、その意義について考察した。
18. 子ども家庭のウェルビーイング	共著	平成23年3月	金芳堂	近年、子どもの成長、発達を阻害する社会的因子や子どもへの虐待問題など、多くの課題が明らかになっている。子どものウェルビーイングを目ざした子ども家庭福祉のあり方と支援策について解説している。 B5判、全128頁 編集代表：星野政明 編集：真鍋顕久、三友雅夫 （部分執筆：守本とも子他） 本人担当部分: 第1章 A 少子化の進行と家庭・地域の変容 P.1-P.5を単著。 少子化の現状と家庭・地域の変容について概説した。また、現代社会における家庭・地域で生活する子どもの生活課題と対策について考察した。 第3章 B 子ども家庭福祉の実施体制 P.39-P.41を単著。 子ども家庭福祉について、どのような目的でどのような施策が実施されているのか、その現状について述べるとともに、今後の課題についても考察した。

19. 系統看護学講座　専門分野1 「基礎看護技術Ⅱ基礎看護学[3]」 第15版第8刷	共著	平成24年2月	医学書院	本書は「第1部　看護技術総論」「第2部　16領域の看護技術」の2部構成としている。第1部では看護技術の4つの基本原則とその優先順位について説明を行い、第2部では看護技術を16の領域に分けて説明している。改定にあたっては、それぞれの技術についてできるだけ、最新の方法を紹介し、その根拠を示すように心がけている。 B5判、全495頁 本人担当部分： 第2部　第1章 B「病床環境の調整」P.22-P.32を共著。 主に療養生活の環境（病室、人的環境など）のアセスメントと調整及びベットメーキングについて述べた。 共著者：岡本啓子、吉村雅世 第2部　第5章 C「病床での衣生活の援助」P.185-P.192を共著。 主に衣類を用いることの意義、衣生活に関するニーズのアセスメント、病衣の選び方、病衣交換の方法について述べた。 共著者：岡本啓子、吉村雅世
20. 介護実習入門	共著	平成24年	黎明書房	本書は介護の現状について述べ、介護の倫理、介護の原則についてわかりやすく説明している。また、介護施設の概要と入所者の特徴について述べている。次にそれらの知識を踏まえ、介護実習前の基礎知識として、まず、介護実習の意義と目的について述べ、介護を専門職とする人のための姿勢、そしてコミュニケーションの基本とコミュニケーションの実際について知識と技術が同時に学ぶことができるように工夫されている。 最後に介護過程について事例をもとにわかりやすく解説し、介護に必要な援助技術について述べている。 A5判、全128頁 編集：守本とも子、星野政明 本人担当部分：編集
21. 系統看護学講座　専門分野1 「基礎看護技術Ⅱ基礎看護学[3]」 第16版	共著	平成25年1月	医学書院	本書は、多くの写真やイラストによって看護技術の手順をわかりやすく解説した。また、主な看護技術の手順については、動画で見られるように工夫し、動画の活用によって技術習得が容易となり、より効率的・効果的に技術レベルが向上することが期待される。 B5判、全528頁 共著者：有田清子、有田秀子、井川順子、岡本啓子、尾崎章子、小林優子、坂下貴子、茂野香おる、立野淳子、田中靖代、田村富美子、内藤知佐子、任和子、林静子、比田井理恵、平松八重子、三富陽子、守本とも子、屋宜譜美子、山勢博彰、吉村雅世 本人担当部分： 第1章 A 「環境調整技術」P.9-P.21を共著。 主に療養生活の環境（病室、人的環境など）のアセスメントと調整及びベットメーキングについて述べた。 共著者：岡本啓子、吉村雅世 第6章 B 「清潔・衣生活援助」P.192-P.200を共著。 主に衣類を用いることの意義、衣生活に関するニーズのアセスメント、病衣の選び方，病衣交換の方法について述べた。 共著者：岡本啓子、吉村雅世

（学術論文）				
１．　終末期看護学実習による看護学生の終末期看護についての意識変化 （査読付）	共著	平成17年7月	日本医学看護学教育学会誌　第14巻 P.50-P.56	本研究の目的は終末期看護学実習による看護学生の終末期看護についての意識変化を明らかにすることである。終末期看護学講義終了後の看護大学看護学科の3年次生104名に対し、実習の前後に終末期において大切だと考えられるケアについての意識調査をおこなった。結果として、「痛みがないこと」「呼吸困難に陥らないこと」など、実習現地で直接目にし、体験した項目に有意な意識変化がみられた。 本人担当部分：研究の総括をおこなった。 共著者:新谷奈苗、守本とも子
２．　看護学生の行動特性 （査読付）	共著	平成17年10月	リハビリテーションと行動分析学　第2巻 P.10-P.13	本研究の目的は看護系学生の行動特性を明らかにし、学生生活における適切な指導のあり方を見出すことにある。対象は4年制看護系大学1学年（平成10年～13年)455名であった。自己記入式の質問紙調査（SCT）をおこなった。その結果、4つのカテゴリーが見出された（①解決型、②非解決型、③中間型、④解決不能型）。特に解決不能型のタイプの学生への生活指導の必要性が示唆された。 本人担当部分：研究の総括をおこなった。 共著者:新谷奈苗、守本とも子、久保田愛
３．　Assessing family caregiver's mental health using a statistically derived cut-off score for the Zarit Burden Interview （査読付）	共著	平成18年3月	Aging & Mental Health 10(2) P.107-P.111	本研究の目的は日本の家族介護者の精神的な健康を評価するためのカットオフ・スコアを明らかにし、引いては家族介護者の鬱の危険性や介入の必要性の指標を見出すことである。スケールはZBI（ザリット介護負担スケール）及びGDS（Geriatric Depression　Scale）を使用した。対象は①脳卒中後遺症患者の介護者（n=80）、②慢性閉塞性呼吸不全患者の介護者（n=48）、③一般的な身体障害を持つ患者の介護者（n=70）の三つの異なったグループに実施された。その結果、カットオフ・スコア24-26は介護者の鬱の危険性を示唆することが明らかになった。 本人担当部分：調査及び解析をおこなった。 共著者:Andrea Streit Schreiner、T.Morimoto、Y.Arai、S.Zarit
４．　脳卒中患者のQOLに影響を及ぼす要因の研究動向 （査読付）	単著	平成18年3月	奈良県立医科大学医学部看護学科紀要　Vo2. P.58-P.64	近年の脳卒中後遺症患者の疾患の回復とQOLに影響を及ぼす要因について、主に①身体的機能の喪失，②認識機能の喪失、③情緒不安定、④社会的機能喪失の4領域にわけて述べた。

５．　精神学的障害者の気分アセスメント～ヴィスアルアナローグ気分スケールの日本語版の妥当性～ （査読付）	共著	平成21年5月	日本福祉工学会誌 11(1) P.42-P.48	本研究の目的はヴィスアルアナローグ気分スケールの日本語版(VAMS)の妥当性を調べることにある。 VAMスケールは、脳卒中、アルツハイマーあるいは外傷脳などの神経学的障害をもつ患者の気分を調べるために開発された。典型的な心の健康と気分を測定するスケールは被験者の言語能力を基礎にしている。しかし、これらの検査は神経学的障害者にはしばしば不適切である。したがって、VAMスケールはこの母集団の気分を評価するために開発されたものであり、被験者の認識能力および/あるいは発言能力に依存しているスケールよりも、いくつかの点において有利である。 VAM スケールの妥当性は高齢者の二つの母集団を対象に調査された。 対象は1.ある民間の精神病院から抽出した重症あるいは軽症の鬱病と診断された高齢者（37人）と、2.地域のレクレーションセンターから抽出した精神病の既往歴のない高齢者（74人）であった。 担当部分：統計解析と考察をおこなった。 共著者:守本とも子、Andrea S. Schreiner、早川浩、馬場孝明
６．　Factors Relating to Life Satisfaction and Subjective Healthy Feelings in Respiratory Patients During Home Oxygen Therapy （査読付）	共著	平成21年3月	Journal of Information and Behavioral Science for Health and Welfare vo.1 No.1 March 2010 P.5-P.12	在宅酸素療法中の呼吸不全患者（32名）を対象に面接とBaseline Dyspnea Index(BDI)、Geriatric Depression Scale（GDS）、Modified Barthel Index（MBI）などの質問紙票調査を行い、主観的健康感と生活満足度に有意相関を持つ項目を探索した。主観的健康感は自信、呼吸困難感、疲労感と有意相関を示し、生活満足度は収入、呼吸困難感、日常抱える課題と有意相関を示した。GDS平均値は7.6と高値を示し鬱傾向にあった。以上より主観的健康感の低下は自信喪失とうつ状態を惹起し、呼吸困難は主観的健康感と生活満足度の両者に影響することが示唆された。症状軽減が在宅酸素療法患者の健康関連QOLを向上させると考えられた。 本人担当部分：統計解析及び研究の総括をおこなった。 共著者:守本とも子、下内章人、馬場隆明
７．　部屋の住み心地に及ぼす物理的・感覚的因子の組み合わせ解析 ―ファジィニュートラルネットワークによる住居環境解析― （査読付）	共著	平成21年6月	日本感性工学会論文誌 Vol.9 No.1 P.97-P.102	本研究により、住居環境、すなわち住居に関する物理的因子(室内環境や室内空間)や感覚的因子(部屋から受ける情感)が住む人の満足感に深く関連していることが明確となった。今回FNN解析により選択された項目から、住居環境を工夫して整えること(例えば、新しいカーテンを取り入れて部屋の色彩を変える、寝室用のフロアライトやテーブルライトの購入により夜間照明を変え、くつろげる雰囲気を作るなど)が、住む人のQOLを高めるために重要な要因であることを示唆していると考えられる。 本人担当部分：統計解析及び研究の総括をおこなった。 共著者:牛田泰徳、加藤竜司、守本とも子、本多裕之

８． Restraint Plus Water-immersion Stress (RWIS)-induced Stomach Ulsers in Mice are Depressed by a Conditioning Heat Treatment （査読付）	共著	平成21年9月	Thermal Medicine vol.25, No.3 September 2009 P.81-P.87	温熱耐性として、あらかじめの温熱処理が重篤な温熱誘導生物影響を抑制することはよく知られている。本論文において、われわれはあらかじめの温熱処理が水浸拘束ストレス(RWIS)による胃壁の損傷を抑制するかどうかを確かめた。RWISによる胃潰瘍は42%発生したのに対して、あらかじめ37℃で温熱処理をすると9%に抑制された。さらに、胃におけるRWIS誘導アポトーシス頻度は13%であったのに対して、あらかじめ温熱処理をすると8%に抑制された。温熱ショックタンパク質(HSP)誘導剤のゲラニルゲラニルアセトン(GGA)も胃潰瘍の発生を抑制したことから、あらかじめの温熱によるHSPがアポトーシス誘導の抑制を介してRWISによる胃壁の損傷を抑制していることが示唆された。 本人担当部分:統計解析及び研究の総括をおこなった。 共著者:Rikio Yamagata、Akihisa Takahashi、Xiaoming Su、Tomoko Morimoto、Takeo Ohnishi
９． Factors Relating to Life Satisfaction and Subjective Healthy Feelings in Respiratory During Home Oxygen Therapy （査読付）	共著	平成22年3月	Journal of Information and Behavioral Science for Health and Welfare vo.1 No.1 P.5-P.12	在宅酸素療法中の呼吸不全患者(32名)を対象に面接とBaseline Dyspnea Index(BDI)、Geriatric Depression Scale(GDS)、Modified Barthel Index(MBI)などの質問紙票調査を行い、主観的健康感と生活満足度に有意相関を持つ項目を探索した。主観的健康感は自信、呼吸困難感、疲労感と有意相関を示し、生活満足度は収入、呼吸困難感、日常抱える課題と有意相関を示した。GDS平均値は7.6と高値を示し鬱傾向にあった。以上より主観的健康感の低下は自信喪失とうつ状態を惹起し、呼吸困難は主観的健康感と生活満足度の両者に影響することが示唆された。症状軽減が在宅酸素療法患者の健康関連QOLを向上させると考えられた。 本人担当部分：統計解析及び研究の総括をおこなった。 共著者:守本とも子、下内章人
10. Effects of a Stuffed Animal Designed for Nursing Care （査読付）	共著	平成22年9月	Proceedings of 6th International Conference of Health Behavioral Science P.260-P.262	本研究の目的は、施設入居高齢者の癒しとQOLの向上を考慮した「温かい介護用縫いぐるみ」の効用を検討することである。コーエンマンスフィールド(CMAI)調査票をもとに縫いぐるみ使用前・後の高齢者の行動の変化を比較した。結果として「同じことを繰り返し言う（質問する）」に有意な差がみられた。 本人担当部分：研究の総括をおこなった。 共著者:守本とも子、新谷奈苗
11. Effects of a Stuffed Animal Designed for Nursing Care(査読付き)	共著	平成22年9月	Sustainable Health Promotion: Dialogue on Well-being & Human Security in Environmental Health P.260-P.262	本研究は高齢者の癒しとQOLの向上のための温かい介護用縫いぐるみを考案し、認知症高齢者が実際に縫いぐるみを使用した後、どのような変化が見られたかをコーエンマンスフィールド（CMAI）スケールを使用して検討した。縫いぐるみを使用する前後1週間の観察をもとに比較検討した。変化の見られた行動は、同じことを繰り返し質問する、机を何度も叩く、といった行動が有意に減少した。高齢者が温かい縫いぐるみを身近におくことは高齢者の癒しに効果をもたらすことが示唆された。 本人担当部分：データーの解析、研究の総括をおこなった。 共著者：Tomoko Morimoto、Nanae Shintani

12. Discussion of emergency notification device for elderly people （査読付）	共著	平成22年11月	Ergonomics for All：Celebrating PPCOE'S 20years of excellence－Lin&Chen(eds) P.495-P.501	高齢者の緊急時の不安を軽減し安心して暮らせる社会を実現すべく，各市町村では家庭用緊急通報機器の貸与による支援をおこなっており、これにより高齢者の不安解消と安全確保，QOL向上を目指している。しかしながらますます需要の拡大が予測されているにも関わらず実際は低い普及率である。本研究ではH市に居住する在宅高齢者を対象に聞き取り調査をおこない，緊急通報機器の使用状況を明らかにし，高齢者にとって活用しやすい機器の開発や，運用方法の改善につなげることを目的とした。 その結果，緊急通報機器の使い方の理解や緊急通報機器の形状について改善すべき点が明確になった。 本人担当部分：調査および結果の考察をおこなった。 共著者:Nanae Shintani、Hiroyasu Nagaoka、Kazuko Horiguchi、Tomoko Morimoto
13. A questionnaire to determine Nursing and Child care students` Understanding of welfare equipment （査読付）	共著	平成22年11月	Ergonomics for All：Celebrating PPCOE'S 20years of excellence－Lin&Chen(eds) P.529-P.532	子どもと大人の主要な福祉用具への認識について、看護と保育を学ぶ学生間の比較を目的に調査を行った。その結果、認識の違いはカリキュラム等の教育の内容によって影響を受けていることが考えられた。また、因子分析の結果により、双方とも「遊び」が重要なキーワードであることが考えられた。 本人担当部分：研究の企画および結果の考察をおこなった。 共著者:Tomoko Morimoto、Shoko Kamimotono、Nanae Shintani
14. Study of quality of life (QOL) in home oxygen therapy patients and related factors of actual life situation （査読付）	共著	平成23年10月	East Asian Ergonomics Federation Symposium 2011 (EAEFS 2011) Ergonomics In Asia:Development, Opportunities, and Challenges P.295-P.300	在宅酸素療法は種々の在宅医療の中で最も普及し、その効果は単に患者の生命予後を延長するばかりでなく、人間的な生活とQuality of Life（QOL）を保証するものとして高く評価されている。しかし反面、社会的・精神的・身体的煩わしさのため、社会活動が制限され、閉じこもりがちとなることで抑うつ症状となり，急性増悪を招くという報告もある。そこで生活実態とQOLとの関係をより深め明らかにするため、患者のQOLに影響を及ぼす生活実態の関連要因を検討することを本研究の目的とした。結果、「患者活力」と「患者心の健康」が「肺理学療法理解度」に有意に関連していた。肺理学療法の理解度が高い者は、認知能力も高く自己管理ができており、これが自分の疾患を前向きに受けとめ、活力を維持することにつながっていると考えられ、自己管理能力を身につけるための患者教育を繰り返し行ない、普及させていくことの必要性が示唆された。 本人担当部分：研究の総括を行った。 共著者：Nanae Shintani、Tomoko Morimoto

15. Relationship between life satisfaction and sympathovagal balance in healthy elderly males at home at night （査読付）	共著	平成24年10月	Health Vol.4 No.11 2012 P.1068-P.1072	夜間自宅で起床中の健常高齢男性39名の心拍変動（RR間隔）と身体加速度を計測した。 身体加速度の低い時間についてのみ、心拍変動データの高周波帯域パワーの規格値（値が高いほど副交感神経優位）を算出した。その値と質問紙より点数化した生活満足度との間に統計的有意な負の相関を確認した。この結果より、生活満足度の高い健常高齢男性ほど、夜間自宅で起床安静時に交感神経系優位にあることが示唆された。 本人担当部分：データー解析と論文の構成を担当した。 共著者：Kohzoh Yoshino、守本とも子、Takahiro Itagaki、shigetaka Iketani、 Masami Nagata、Morihiro Thujishita
16.医療系大学におけるチーム医療の実際ー医療のパラダイムシフトに向けてー （査読付）	単著	平成24年6月	日本保健医療行動科学学会雑誌 Vol.28 No.1 2013 P.2-P.6	チーム医療教育は岐阜医療科学大学の建学の精神である「人間性」「学際性」「国際性」の向上を目的とし、本学の特色を活かした独自のプログラムである。 チーム医療に最も必要とされる資質を担保し、現在の医療現場で通用する”医療人”となることを目標とした教育の充実について考察した。
17. Difficulties of Continuing Work While Getting Chemotherapy for Breast Cancer Patients （査読付）	共著	平成25年6月	医療福祉情報行動科学研究　第3号 2014　P.1-P.8	本研究では、初発の乳がん患者で、手術療法の後に化学療法の2回目を終了した以降の患者から、仕事を継続している患者を対象とし、「仕事を継続してく上での困難」について個別に半構造的インタビューを行った。 この結果、7つのカテゴリー、「治療の副作用からくる身体的苦痛」「仕事に穴をあけることに対する申し訳なさ」「再発への不安から仕事をセーブする」「職場の配慮不足」「受診のしにくさ」「治療の副作用から仕事の能力が落ちているのではないかという不安」「病名告知により同僚に気を遣われる辛さ」で構成されていた。 本人の担当：研究の総括を行った。 共著者：新谷奈苗、小池恵理子、守本とも子

（その他 ）				
―研究報告書―				
1.　「各種高齢疾患における介護支援特性の比較研究」	共著	平成16年8月	平成14年度　三井住友海上火災福祉財団調査研究研究助成８巻　研究報告書 P.151-P.154	本研究は高齢者における代表的な疾患のうち、身体的障害を伴う疾患と内部障害を伴う疾患について焦点をあてた。これらの2種類の疾患の介護負担における相違点を明らかにした。また、それら結果を基礎資料として介護支援の方策を検討し、それぞれの疾患に適した介護支援策を検討した。 本人担当部分：調査および、調査結果の分析を行った。 共著者：下内章人、守本とも子
2.　「高齢者向けの快適住居環境作りとその臨床的評価」	共著	平成19年3月	平成19年度住居医学共同研究成果報告集 奈良県立医科大学　住居医学大和ハウス寄附講座 P.1-P.11	本研究では、住居環境要因と心理的・身体的QOLの関係性を分析するための基礎資料として住居の快適性評価スケールを作成する。 本人担当部分:統計解析及び研究の総括をおこなった。 共著者:守本とも子、青山美智子、浅見恵梨子、上平悦子、岡本啓子、勝井伸子、三毛美恵子、吉村雅世
3.　「部屋の住み心地に及ぼす物理的・感覚的因子の組み合わせ解析」	共著	平成20年3月	平成20年度住居医学共同研究成果報告集 奈良県立医科大学　住居医学大和ハウス寄付講座 P.1-P.9	本研究は実際に住まいする住環境の住み心地と部屋の物理的データーとの因果関係の調査をおこなった。具体的には自宅で睡眠時を除き最も長時間過ごしている部屋の住み心地として30項目の部屋の物理的因子や感覚的因子をVsual　Analog Scale法によってアンケート調査しニューラルネットワークの一手法であるファジーニューラルネットワークで解析した。 本人担当部分：統計解析及び研究の総括をおこなった。 共著者：守本とも子、吉村雅世、上平悦子、三毛恵美子、吉野公三、本多裕之
4.　チエンマイ大学看護学部海外研修報告書	共著	平成20年3月	奈良県立大学医学部看護学科紀要　Vol.2 P.63-P.70	看護系大学に於ける海外研修の概観を述べた。また、本学での国際看護論の位置づけと変遷について述べ、実際の海外研修の体験をもとに、今後の国際看護論の展望について議論した。 本人担当部分:統計解析及び研究の総括をおこなった。 共著者:勝井伸子、守本とも子、Phanida Juntasopeepun

5.　「健常高齢男性の住居内QOLと自立神経活動との関連性」	共著	平成21年3月	平成21年度住居医学共同研究成果報告集 奈良県立医科大学　住居医学大和ハウス寄付講座 P.115-P.116	本研究の目的は、健常高齢男性の暮らし・部屋全般や各住居内環境因子に対する主観的評価度と生活の自立神経活動との間の関連性を明らかにすることである。研究結果より、「くらし・部屋」全般に関する項目の中では生活に満足している被験者ほど、HFnuの値が低い傾向が確認された。「住居内環境因子」に関する項目と心拍変動指数との間には統計的有意な相関を示す組み合わせはなかった。これらの結果から、生活に満足している健常高齢男性ほど、夜間20:00時から20:50までの在宅・覚醒・低運動時に交感神経系有意（精神的にアクティブな状態）にある傾向が示唆された。 本人担当部分：統計解析および研究の総括をおこなった。 共著者：守本とも子、吉村雅世、吉野公三、上平悦子、三毛美恵子、板垣孝寛、 池谷茂隆、永田昌美、辻下守弘
6.「乳がん患者のワーク・トリートメントバランスを支える患者支援プログラムの開発」	共著	平成26年3月	文部科学省学術振興会 文部科学省科学研究費助成金（基盤研究C）研究成果報告書 （平成23年～平成25年） A4判、全27頁	本研究では、乳がんを患い外来で化学療法を受けているものの就労を継続している者を対象として、対象者の抱えている苦悩や課題をインタビューにより明らかにした。またその結果をもとに、患者支援の関係機関が集まり、援助のあり方についての検討を行った。 本人担当部分：統計解析および研究の総括をおこなった。 共著者：新谷奈苗、守本とも子、立川茂樹、岩永誠、堀口和子、中村百合子、小池恵理子、永岡裕康、新谷昌也
―総説―				
1．　痴呆性高齢者の施設における緩和ケアモデルへの提言―アメリカナーシングホームの実践を通して―	共著	平成16年9月	看護実践の科学 看護の科学社 29(10) P.59-P.66	アルツハイマー型痴呆高齢者の施設における緩和ケアモデルについて、個別ケア、事前ケア計画を中心にアメリカのナーシングホームの例をあげて述べた。また、終末期コミュニケーションのあり方について述べた。 本人担当部分:統計解析及び研究の総括をおこなった。 共著者:Andrea Streit　Schreiner、守本とも子、原等子、寺門とも子
2．　高齢者施設における認知症患者のための活動療法	共著	平成18年3月	看護学雑誌 医学書院（東京） Vol.70 No.3 P.233-P.237	高齢者施設における認知症患者のためのレクレーションの意義及び効果について述べた。主要な活動療法としてペット療法、音楽療法、コラージュ療法、回想療法、化粧療法及び身体的レクレーションについて述べた。 担当部分:統計解析及び研究の総括をおこなった。 共著者:Andrea Streit　Schreiner、守本とも子
3．　アルツハイマー病患者家族介護者へのサポートグループを用いた対処技術指導について	共著	平成20年9月	看護実践の科学 看護の科学社 VOL.33 NO.10 P.72-P.80	対処技術を指導する上でのサポートグループ利用法に注目し、支援グループを指導する看護師のグループセラピーの方法について述べる。特に支援グループを始める前のグループセラピー理論とその技術の必要性を述べる。 本人担当部分:統計解析及び研究の総括をおこなった。 共著者:アンドレア・S・シュナイザー、佐伯あゆみ、守本とも子

４．　地域で生きるデンマークの高齢者住居	単著	平成22年5月	大阪保険医雑誌 大阪府保険医協会 第38巻522号 P.30-P.35	北欧諸国のなかでも「高齢者住居」について独自な発展を遂げ、1987年に施設建設を凍結するという政策転換に踏み切ったデンマークの高齢者住居と日本の画期的な高齢者共生住宅の事例を取り上げ、新しいステージに突入した日本の今後の高齢者住居の在り方を検討した。
―国際会議発表―				
１．　The development of a Faculty Development program in Japanese nursing college by Mutual class evaluation	共同	平成16年8月	17rd Annual Pacific nursing Research Conference (Honolulu, Hawaii)	三重県立看護大学のFD活動は、学内教員の参考授業検討を通して教授方法の開発を中心に実施されてきた。これらの成果を踏まえて本研究では、看護教育評価の開発とその獲得を目指し、教育評価についての先行研究の検討、授業・演習・実習の教育評価に関しての方法論について検討することを目的とした。 担当部分:統計解析及び研究の総括をおこなった。 (P.201) 共同発表者:Kozo Fujimoto、Masashi Kawano、Tomoko Morimoto、Noriko kawahara、Kana Nakamura
２．　Comparative studies on care-giving for the patients with chronic respiratory failure or sequelae of cerebral strokes	共同	平成16年	Am J Resir Crit Care Med 169(7):A725 (Orland, Florida)	本研究の目的は慢性閉塞性呼吸不全患者と脳卒中後遺症患者の介護者の介護負担について比較検討することである。調査結果として、主な脳卒中後遺症患者の介護者の主な介護負担は、「介護者自身の自由な時間がない」ことであり、慢性閉塞性呼吸不全患者の介護者の介護負担は「患者から依存されている」という精神的負担であった。 本人担当部分:統計解析と考察をおこなった。 共同発表者:Morimoto T、Shimouchi A、Asano H
３．　Effects of a Stuffed Animal Designed for Nursing Care	共同	平成22年9月	6th International Conference of Health Befavioral Science Sustainable Health Promotion:Dialogue on Well-being & Human Security in Environmental Health (Kuala Lumpur, Malaysia)	本研究の目的は、施設入居高齢者の癒しとQOLの向上を考慮した「温かい介護用縫いぐるみ」の効用を検討することである。コーエンマンスフィールド（CMAI）調査票をもとに縫いぐるみ使用前・後の高齢者の行動の変化を比較した。結果として「同じことを繰り返し言う（質問する）」に有意な差がみられた。 担当部分：研究の総括をおこなった。(P.86) 共同発表者:守本とも子、新谷奈苗
４．　Study about quality of life(QOL) of home oxygen therapy patient and related facters of actual life situation	共同	平成23年10月	Proceeding of the 2nd East Asian Ergonomics Federration Symposium (EAEFS 2011)National Tsing Hua University, Hslnchu Taiwan, 4-8 October 2001　P.48	在宅酸素療法患者の生活実態とQOLの関連を明らかにするために、患者のQOLに関連する生活実態の要因を検討した。その結果、患者の活力や心の健康に肺理学療法の理解度が高いことが明らかになった。肺理学療法の理解度が高い患者は認知能力も高く、自己管理ができており、疾患があっても前向きな生活を送っていることが明らかになった。自己管理能力を身につけるためにも理学療法などを積極的に行う患者教育の重要性が示唆された。 本人担当部分：研究データーの解析、総括をおこなった。 共著者：Nanae　Shintani、Tomoko Morimoto

5. Difficulty in continuing job for breast cancer patients getting chemotherapy	共同	平成24年3月	30th Congress of the International Commission on Occupational Health (ICOH 2012),Cancun center (Mexico)	乳がんの治療は化学療法を含むことから、副作用による身体的苦痛を伴う。しかし外来通院で治療を受けながら仕事をこなしている患者が多いことから、通院により化学療法を受けている乳がん患者の仕事と治療を継続していく上での困難を明らかにすることを研究の目的とする。 A県内のがん拠点病院で乳がんと診断され、化学療法を受けている患者で仕事を継続している患者6名を対象とし、「仕事を継続していく上での困難」について半構造的インタビューを行った。結果から７つのカテゴリが抽出された。カテゴリは【治療の副作用からくる身体的苦痛】【仕事に穴をあけることに対する申し訳なさ】【再発への不安から仕事をセーブする】【職場の配慮不足】【病院のシステム上の不便】【治療の副作用から仕事の能力が落ちているのではないかという不安】【病名告知により同僚に気を遣われる辛さ】で構成されていた。 本人担当部分：研究の総括を行った。 共同発表者：Nanae Shintani、Tomoko Morimoto
―国内学会発表―				
1. 「ターミナルケアの質の改善に向けての検討―第2報―」	共同	平成16年6月	第19回日本保健医療行動科学会学術大会抄録集（大阪府羽曳野市）	本研究の目的は学生、看護師、医師の意識調査をもとにターミナルケアの質の改善に向けての検討をおこなうことである。調査結果より、今後さらなる調査をおこない、職種による認識の違いを明らかにしチームワークを充実させていくことの必要性が明らかになった。 本人担当部分：研究の総括をおこなった。(P.59) 共同発表者:守本とも子、シュライナーアンドレア、新谷奈苗
2. 「看護学生におけるアイデンティティについて」	共同	平成16年8月	教育医学第50巻第1号（兵庫県）	本研究の目的は看護学生のアイデンティティの構成要因を明らかにすることである。調査結果により、看護学生のアイデンティティに親子関係が重要な要因であることが明らかになった。 本人担当部分：研究の総括をおこなった。(P.34-P.35) 共同発表者:守本とも子、久保田愛子、新谷奈苗
3. 「看護学生におけるQOLの構成要因について」	共同	平成16年10月	第52回日本社会福祉学会全国大会報告要旨集（東京都）	本研究の目的は看護学生におけるQOLの構成要因について明らかにすることである。調査結果より、アイデンティティの構成要因と同様、親子関係や家庭環境が重要な要因であることが明らかになった。(P.154) 本人担当部分：研究の総括をおこなった。 共同発表者:守本とも子、新川泰弘、星野政明

４．「看護学生の行動特性」	共同	平成16年12月	リハビリテーションのための行動分析学研究会抄録集 （広島県）	本研究の目的は看護系学生の行動特性を明らかにし、学生生活における適切な指導のあり方を見出すことにある。対象は4年制看護系大学1学年（平成10年～13年）455名であった。自己記入式の質問紙調査（SCT）をおこなった。その結果、4つのカテゴリーが見出された（①解決型、②非解決型、③中間型、④解決不能型）。特に解決不能型のタイプの学生への生活指導の必要性が示唆された。 本人担当部分：研究の総括をおこなった。(P.10-P.11) 共同発表者:新谷奈苗、守本とも子、久保田愛子
５．介護福祉専攻学生におけるアイデンティティの構成要因について	共同	平成17年6月	第20回日本保健医療行動科学会大会抄録集 （東京都）	本研究の目的は、介護福祉専攻学生におけるアイデンティティの構成要因を明らかにし、効果的な援助内容・方法を探ることである。調査対象は、介護福祉を専攻する短大生92名であった。質問紙は守本ら（1998）の研究から、アイデンティティに関連すると考えられるものを用いた。因子分析の結果、介護福祉専攻学生のアイデンティティを構成する要因として「自己同一性因子」「自己肯定感にもとづく自己実現因子」が明らかになった。これらの因子に着目して、介護福祉専攻学生に対する援助内容・方法を検討する必要が示唆された。 本人担当部分：主に統計解析をおこなった。 (P.56) 共同発表者:富永尭史、新川泰弘、守本とも子
６．介護福祉専攻学生における生活満足度の構成要因について	共同	平成17年6月	第20回日本保健医療行動科学会大会抄録集 （東京都）	本研究の目的は、介護福祉専攻学生における生活満足度を構成する要因を明らかにし、介護福祉教育効果の向上を目指すことにある。調査対象は、介護福祉を専攻する短大生92名であった。質問紙は守本ら（1998）の研究から、生活満足度に関連すると考えられるものを用いた。因子分析の結果、「円満な家庭・家族関係因子」「良好な学校生活因子」「自己効力感因子」「健康的な生活と合目的的活動因子」が抽出された。介護福祉を専攻する学生の生活満足度の向上に向けて、これらの因子に着目する必要性が示唆された。 本人担当部分：主に統計解析をおこなった。 (P.57) 共同発表者:新川泰弘、富永尭史、守本とも子
７．こども学専攻学生におけるアイデンティティの構成要因について	共同	平成17年8月	第11回日・韓健康教育シンポジウム 兼　第53回日本教育医学会大会 教育医学 第51巻　第1号 （ソウル市）	本研究の目的は子ども学専攻学生におけるアイデンティティの構成要因を明らかにすることで、学生のアイデンティティを高める要因を見出し、学生生活指導の方策を検討することである。調査結果より学生間での友人関係と家庭環境が重要な要因であることがわかった。 本人担当部分：主に統計解析をおこなった。 (P.99) 共同発表者:富永尭史、吉弘淳一、新川泰弘、守本とも子

８．　こども学専攻学生における生活満足度の構成要因について	共同	平成17年8月	第11回日・韓健康教育シンポジウム 兼　第53回日本教育医学会大会 教育医学 第51巻　第1号 （ソウル市）	本研究の目的は子ども学専攻学生における生活満足度の構成要因を明らかにすることである。生活満足度を高める要因を見出し、学生生活指導の方策を検討した。調査結果より学生間での友人関係と家庭環境が重要な要因であることがわかった。 本人担当部分：主に統計解析をおこなった。 (P.137) 共同発表者:新川泰弘、吉弘淳一、富永尭史、守本とも子
９．　こども学専攻学生を取り巻く環境とストレス耐性度について	共同	平成17年8月	第11回日・韓健康教育シンポジウム 兼　第53回日本教育医学会大会 教育医学 第51巻　第1号 （ソウル市）	本研究の目的はこども学専攻学生の生活環境要因とストレス耐性の関係を明らかにすることである。ストレス耐性度と環境要因の満足度を点数化し、双方の関係を分析した。調査結果より、友人関係、クラブ活動がストレス耐性度に影響を及ぼす要因であることが示唆された。 本人担当部分：主に統計解析をおこなった。 (P.139) 共同発表者:新川泰弘、吉弘淳一、富永尭史、守本とも子
10.　介護用縫いぐるみの効用	共同	平成19年3月	日本医療福祉情報科学会第2回大会　大会妙録集 （神戸市　甲南女子大学）	本研究の目的は、施設入居高齢者の癒しとQOLの向上を考慮した「温かい介護用縫いぐるみ」の効用を検討することである。コーエンマンスフィールド（CMAI）調査票をもとに縫いぐるみ使用前・後の高齢者の行動の変化を比較した。結果として「同じことを繰り返し言う（質問する）」に有意な差がみられた。 本人担当部分：研究の総括をおこなった。(P.11) 共同発表者:守本とも子、吉村雅世、岡本啓子、星野政明、新谷奈苗、馬場孝明
11.　高齢者むけの快適住居環境作りとその臨床的評価	共同	平成20年3月	「住居医学」共同研究成果報告会抄録集 （奈良県　奈良医科大学）	高齢者向けの快適な環境作りのための快適性を評価する指標を作成する。快適性を表現すると思われる項目についてアンケート調査（220名）を行い、因子分析をおこなった。結果として三つの因子が抽出された。 本人担当部分:統計解析及び研究の総括をおこなった。 共同発表者:守本とも子、吉野公三、本多裕之、吉村雅世、三毛恵美子

12.　住居における快適性評価スケールの開発	共同	平成20年11月	日本福祉工学会第12回学術講演会講演論文集 山梨大学（甲府市）	本研究では、住居環境要因と心理的・身体的QOLの関係性を分析するための基礎資料として住居の快適性評価スケールを作成した。その結果、3因子が抽出され、第1因子は“空間”、第2因子は“光”、第3因子は“情緒”と解釈された。また信頼性の検討のため、クローンバックのα係数を算出したところ、各下位尺度とともに0.78以上の内部一貫性がみられた。(P.89-P.90) 本人担当部分:統計解析及び研究の総括をおこなった。 共同発表者：守本とも子、青山美智代、浅見恵梨子、上平悦子、岡本啓子、勝井伸子、三毛美恵子、吉村雅世、星野政明
13.　看護・保育学生の福祉用具に対する認識の検討	共同	平成20年11月	日本福祉工学会第12回学術講演会講演論文集 山梨大学（甲府市）	福祉用具に対する認識状況を知るため、保育学生（専門課程110名、短大生110名）、看護学生（大学3年次80名）に対し、質問紙調査により福祉用具、離乳食、調理された食品及び遊び道具について高齢者、小児どちらに使用する認識が高いかについて検討した。看護と保育専門課程の学生は類似の傾向を示し、ほとんどの項目において高齢者が使用するという認識が高かった。保育短大生においては遊びに関して子どものものと認識していた。 本人担当部分:統計解析及び研究の総括をおこなった。 共同発表者：上本野昌子、守本とも子
14.　在宅酸素療法患者と介護者のQOL ～ 国民標準値との比較～	共同	平成21年3月	日本医療福祉情報行動科学会 第４回大会抄録集 （兵庫県　甲南女子大学）	患者と介護者の在宅生活をよりよい健康生活へ導く方策を検討するために、SF-36v2 質問紙をもちいて、患者と介護者のQOL を把握し、性、年代それぞれの国民標準値と比較した。 本人担当部分:統計解析及び研究の総括をおこなった。(P.15) 共同発表者:新谷奈苗、守本とも子
15.　脳血管障害患者の心理適応面の数量化について ～障害受容スケールの作成と臨床的応用～	共同	平成21年3月	日本医療福祉情報行動科学会 第４回大会抄録集 （神戸市）	医療者の経験などによらない客観性の高い、簡便な評価法の検討が必要と考え、脳血管障害患者について障害受容スケールによる数量化の可能性と臨床的応用について述べた。 本人担当部分:統計解析及び研究の総括をおこなった。(P.16) 共同発表者:山形力生、 櫻井秀雄、守本とも子

16.　QOL of home oxygen therapy patients and caregivers comparison with standard value	共同	平成21年8月	第13回日韓健康教育シンポジウム 兼　第57回日本教育医学会大会抄録集 （ソウル市）	本研究では、患者と介護者の在宅生活をよりよい健康生活へ導く方策を検討するために、SF-36V2質問紙をもちいて、患者と介護者のOQLを把握し、性別、各年代それぞれの0-100得点標準値と比較し検討した。 対象者は40歳以上で広島県T市の訪問看護ステーションとH市の総合病院に通院している在宅酸素療法患者とその介護者30組であり、訪問による面接調査を実施した。 本人担当部分:統計解析及び研究の総括をおこなった。(P.77) 共同発表者:新谷奈苗、守本とも子
17.　あらかじめの温熱刺激によるストレス防御効果について	共同	平成23年3月	日本医療福祉情報行動科学会第6回大会抄録集 （岐阜市）	精神的ストレスの一種として、マウス個体に対する水浸拘束ストレスによる胃潰瘍発生モデルを用い、あらかじめの温熱刺激がその後のストレス暴露への防御効果を示すことを検討した。免疫染色法の解析結果で、あらかじめの温熱処理群では8.2%のアポトーシスの減少がみられた。(P.11) 本人担当部分：結果の分析をおこなった。 共同発表者:山形力生、高橋昭久、守本とも子、大西武雄
18.　地域における福祉講演「QOLを高める高齢者の生き方」（１）―「ストレスに関する学びの検討を中心に―	共同	平成23年6月	日本保険医療行動科学会第26回学術大会抄録集 （大阪府高槻市）	本研究の目的はQOLを高める高齢者の生き方をテーマとした地域住民のために企画した福祉講演への参加による地域住民の学びの成果を検討した。福祉講演での学びを今後の生活の中で具体的に活用していこうと考えているとともに、福祉講演会に参加したことが今後の生きる糧になっていたことが推測された。 本人担当部分：福祉講演会の講師であり、講演後のアンケートの分析を行った。 共同発表者：新川泰弘、守本とも子
19.　在宅酸素療法患者のQOLに影響を与える介護者の支援方策の検討	共同	平成24年3月	日本医療福祉情報行動科学会第7回大会抄録集 （大阪市　メルパルク大阪）	不可逆的に進行する肺病変がある慢性呼吸不全患者の在宅療養生活を維持するためには、気道感染の予防や日常生活活動の適切な制限といった患者自身の自己管理に加え、それを支える介護者の役割が重要である。本研究では、患者のQOLに影響を及ぼす介護者への支援方策を検討することを目的とした。(P.12) 本人担当部分：統計解析及び研究の総括をおこなった。 共同発表者：新谷奈苗、守本とも子
20.　看護師国家試験の出題基準に沿った講義内容の検討	共同	平成24年6月	日本保健医療行動科学会第27回　抄録集 （岐阜市）	本研究では、看護師国家試験出題基準に沿った小項目に対する講義の有無を明らかにし、教授内容の過不足や効果的な教授について検討することを目的とした。(P.78) 本人担当部分：研究の総括を行った。 共同発表者：渡邊美幸、奥百合子、小平由美子、箕浦文枝、守本とも子

―シンポジウム―				
1．　第6回QOL研究会夏期セミナー シンポジウム「QOLの基本と応用」		平成16年7月	主催：Quality of Life(QOL)研究会 奈良県橿原市 奈良県立医科大学大講堂	シンポジスト 演題：「在宅酸素療法とQOL」
2．　第10回奈良緩和医療研究会		平成16年10月	共催：奈良緩和医療研究会/奈良県医師会精神神経科部会/日本化薬(株) 奈良県橿原市 奈良県医師会館	一般演題Ⅰ　座長
3．　第21回日本保健医療行動科学会学術大会		平成18年6月	主催：日本保健医療行動科学会事務局 大阪府大東市 大阪産業大学	一般演題ポスター発表　座長
4．　奈良県医科大学・大和ハウス 「住居医学」寄付講座設立記念講演会 シンポジウム		平成18年6月	主催：奈良県立医科大学 奈良県文化会館　国際ホール	シンポジスト 演題：「デンマークの福祉住居」
5．　日本医療福祉情報科学会　第2回大会		平成19年3月	主催：日本医療福祉情報科学会 兵庫県神戸市 甲南女子大学	シンポジスト 演題：「介護用縫いぐるみの効用」
6．　第23回日本保健医療行動科学会学術大会		平成20年6月	主催：日本保健医療行動科学会事務局 山梨県甲府市 山梨学院大学	一般演題発表　座長
7．　第56回教育医学会学術大会		平成20年8月	主催：教育医学会 大阪府柏原市 大阪教育大学	一般演題発表　座長
8．　第25回　日本保健医療行動科学会学術大会		平成22年6月	主催：日本保健医療行動科学会 群馬県前橋市　前橋プラザ元気21	一般演題発表　座長
9．　第41回日本看護学会老年看護　学術集会		平成22年9月	主催：日本看護学会 奈良県奈良市 なら100年会館　大ホール	演題：「高齢者のQOLを追及する―今果たすべき看護の役割」 コーディネーター
10.　6th International Conference of Health Befavioral Science		平成22年9月	主催：International Conference of Health Befavioral Science マレーシア クアラルンプール	演題:"Religious Hypnosis" ファシリテーター
11.　第26回　日本保健医療行動科学会　学術大会		平成23年6月	主催：日本保健医療行動科学会 大阪府高槻市 大阪医科大学看護学部	基調講演：「災害とリスクコミュニケーション」 座長 ポスター発表　座長
12.　第27回　日本保健医療行動科学会　学術大会		平成24年6月	主催：日本保健医療行動科学会 岐阜県岐阜市 じゅうろくプラザ	基調講演：「医療系大学におけるチーム医療教育の実際―医療のパラダイムシフトに向けて―」 講師

13.　第9回　日本フットケア学会　岐阜セミナー		平成24年9月	主催：日本フットケア学会 岐阜県岐阜市 じゅうろくプラザ	一般講演：「フットケアのための足の解剖とケアそして歩行」 座長
―マスコミ―				
1.　新聞	単独	平成19年3月	朝日新聞(株) フロンテイアエイジ	介護用縫いぐるみの効用についての研究結果に関する記事。 施設入所高齢者を対象にコーエンマンスフィールド不穏調査票を用いて縫いぐるみ使用前と使用後の行動の変化を調査した。研究結果と施設のスタッフに対する施設入所高齢者の行動の変化についてのインタビューの内容が新聞に報道された。
2.　新聞	単独	平成20年8月	奈良新聞社 ならリビング	高齢者の住まいに関する記事。これから必要なのは、生きる主体として高齢者を考えることであり、自分の人生は自分でデザインすることが大切である。
3.　新聞	単独	平成20年9月	毎日新聞	介護用縫いぐるみの効用についての研究結果に関する記事。認知症高齢者に遊び療法の必要性を述べた。
文部省科学研究費およびその他の研究助成金				
１．　早稲田大学大学院博士後期課程特別奨学金	個人	平成17年	早稲田大学	研究題名：高齢者のQOL向上を目指した癒し効果機器（縫いぐるみ）の開発 研究助成金：500千円
２．　大和ハウス「住居医学」研究奨励金	代表	平成19年	大和ハウス	研究題名：高齢者向けの快適住居環境作りとその臨床的評価 研究助成金：1,500千円
３．　大和ハウス「住居医学」研究奨励金	代表	平成20年	大和ハウス	研究題名：高齢者向けの快適住居環境作りとその臨床的評価 研究助成金：1,300千円
４．　大和ハウス「住居医学」研究奨励金	代表	平成21年	大和ハウス	研究題名：高齢者向けの快適住居環境作りとその臨床的評価 研究助成金：1,500千円
５．　文部科学省科学研究費補助金　基盤研究C	分担	平成23年～ 平成25年	文部科学省	研究題名：乳がん患者のワーク・トリートメントバランスを支える患者支援プログラムの開発 研究助成金：4,200千円

［注］

1　最近10年間の教育活動、研究活動について作成すること。

2「教育活動」については、各項目ごとに年月日順に、「学会等および社会活動」については、就任年月日順に記入すること。

3「研究活動」については、下記の点に留意すること。

① 著書・論文及びその他の順に、発表年月日順に記入すること。

② 著者が複数にわたる場合で、筆頭著者が著書・論文等において明示されている場合には、その氏名に◎印を付すこと。

③ 共著(論文)の場合、「該当頁数」の記入にあたっては、本人の分担箇所を特定できる場合は、その頁数を記載すること。

④ 最近10年間に著書・論文等の発表のなかった者についても、教員名を挙げてその部分を空欄にしておくこと。

⑤ 芸術分野や体育実技等の分野を担当する教員については、著書・論文等以外の競技会、展覧会または演奏会等での発表のうち、特に顕著な業績と認められるものについても記載すること。このほか、専門分野の特性を 考慮し、顕著な業績と認められるものがある場合もこれに含めてもよい。

教　育　研　究　業　績　書

平成26年3月31日

氏名　吉岡　隆之

研究分野	研究内容のキーワード
健康・スポーツ科学、社会医学、看護学	応用健康科学、衛生学・公衆衛生学、臨床看護学

教育上の能力に関する事項

事項	年月日	概要
1　教育方法の実践例		
1）キッズ・フィーリングアーツ （国内外の子どものための教育・福祉・医療施設における実践例）	平成16年4月～ 現在に至る	フィーリングアーツは、絵画と光彩と音楽を融合させた体感型の統合芸術である。児童養護施設、養護学校、療育施設、院内学級、保育園や子育て支援施設、児童館、子どものための博物館等での国内講演、インドネシア、ケニア、ベトナム、バングラデシュ、韓国、パキスタンの小学校や孤児院での海外講演など、子ども向けのプログラムとして「キッズ・フィーリングアーツ」を行っている。子どもたちを対象とした公演では、単に鑑賞するだけでなく、コントローラーによる調光操作で、光の三原色による色彩の変化を体験する。また、体感後に、感じた色や形を絵に描き、芸術的才能や感性を開花する機会となる。子どもたちの情緒を安定させ、感性を引き出す効果があると高い評価を得ている。 ※北村義博、吉岡隆之 ※共同実践につき本人担当部分抽出不可能
2）特別支援学校における芸術の総合学習 （大阪教育大学教育学部附属養護学校中学部の総合学習の授業における実践例）	平成16年11月～ 12月	「フィーリングアーツ(FA)」は、音楽と光彩と抽象絵画による統合芸術である。障がいの程度に関わらず、あらゆる障がいをもつ子どもたちが調光操作を容易に行え、主体的に参加できるキッズ・インタラクティブ・アーツ・システムを開発し、特別支援学校中学部の生徒を対象に、そのシステムを用いて「FA」の総合学習（鑑賞，操作体験，描画など）を行った。生徒自身にとっては、光と音楽が融合したアートに「感動」を覚え、様々な色の光を操作し、また自由に抽象画を描き、自らの感性を発揮する「楽しい」体験となり、日ごろ生徒の様子をよく知る教員から「感性」「集中力」「積極性」「満足感」「落ち着き」等のポジティブな情動や意志を培うことが可能であると評価を得た。 ※北村義博、吉岡隆之、戸島章雄、吉村治、福嶋美津子、内布敦子、大倉正造 ※共同実践につき本人担当部分抽出困難
3）アートセラピー・フィーリングアーツ （大阪医療福祉専門学校「アートセラピー・フィーリングアーツ」の授業における実践例）	平成17年10月～ 平成20年3月	絵画と光彩と音楽を融合させた統合芸術である「フィーリングアーツ(FA)」について、実践内容及び効果について学習し、その後、実際に、医療・福祉・教育施設等における「FA」の講演活動を体験する。また、「FA」を学習・体験する前と後に、自由に絵を描き、前後の絵を比較する。体験後に描かれた絵は明らかに調和的な作品であり、その作品の変化と体験したことを自ら考察することによって、心が調和的になり、優しく明るくなる傾向がみられる。 ※北村義博、吉岡隆之 ※共同実践につき本人担当部分抽出不可能

4）感性・身体表現 （神戸市看護大学看護学部看護学科の看護学の基盤となる科目Ⅰ「感性・身体表現」（2年次配当、選択、2単位30時間）の授業における実践例）	平成19年4月～平成24年9月	音楽、光彩（抽象画のステンドグラス風スライド）及び自らの身体を使って、自らの感性・イメージを表現する。具体的には、まず、自らの感性で描いたステンドグラス風スライドを一人あたり50～100枚程度、作製する。次に、各自のイメージに合った衣装を和紙で作製する。最終的に、自らがモデルとなり、各自のイメージに合った音楽に合わせながら、映写機を用いてステンドグラス風スライドによる光彩を、和紙の衣装を着飾った自らの身体に連続的に投射する。 ※北村義博、吉岡隆之 ※共同実践につき本人担当部分抽出不可能
２　作成した教科書，教材		
1）障がいをもつ子どもたちのための「キッズ・インタラクティブ・アーツ・システム」（教材）	平成16年4月～12月	特別支援学校等の総合学習のための教材として、障がいの程度に関わらず、あらゆる障がいをもつ子どもたちが調光操作を容易に行え、主体的に参加できるインタラクティブ（双方向性のある）型のフィーリングアーツのシステムを開発した。このシステムの開発により、障がいの程度に関わらず、あらゆる障がいをもつ子どもたちが授業の教材としてFAを用いることができ、その感性の開発や心のケアに資することが可能になった。大阪教育大学教育学部附属養護学校（特別支援学校）中学部の総合学習の授業において使用した。 ※戸島章雄、内布敦子、北村義博、吉岡隆之、吉村治，福嶋美津子、大倉正造 ※共同開発につき本人担当部分抽出不可能 ※平成16～17年度（財）テクノエイド協会・福祉用具研究開発助成「（障害児施設向け）障害の程度に関わらず，主体的な参加が可能な『キッズ・インタラクティブ・アーツ』システムの開発」による研究の一部として開発
2）ダウン症児「身体発育曲線」及び「縦断型発育基準チャート」作成コンピュータソフト （Excel 2003, Windows XP 対応版）（教材）	平成18年4月	前掲の「ダウン症候群の出生から18歳の身長･体重縦断的成長曲線（教材）」及び「ダウン症学齢期縦断型身長・体重発育チャート（教材）」を基に、ダウン症児と健常児双方の「身長と体重の発育基準曲線」及び「学齢期縦断型身長・体重発育チャート」の上に、自身のグラフが描けるコンピュータソフト（Excel 2003, Windows XP 対応版）を作成した。神戸市看護大学看護学部看護学科の看護学の基盤となる科目Ⅱ「ヘルスプロモーション論」（1年次配当、必修、1単位30時間）の授業で使用していた。また、大阪成蹊短期大学児童教育学科の「小児保健Ⅰ（子どもの保健Ⅰ）」の授業等でも使用している。 ※吉岡隆之、藤田弘子 監修 ※共同監修につき本人担当部分抽出不可能 ※大橋博文，藤田弘子 編著，『ダウン症児すこやかノート―成長発達の手引きと記録―』，メディカ出版，大阪（平成18年4月）に付属（後掲）
3）Computer software of the longitudinal growth chart for children with Down syndrome【English Version】（Excel 2003 English Ver., Windows XP English Ver.）（教材）	平成18年8月	前掲の「ダウン症児身体発育曲線作成コンピュータソフト （Excel 2003, Windows XP 対応版）（教材）」の英語版で、英語版のExcel 2003及び Windows XPに対応している。平成18年8月にカナダのバンクーバーで開催された第9回ダウン症世界会議における研究発表の際に使用し、参加者のうち希望者に配布した。 ※吉岡隆之、藤田弘子、後和美朝、福嶋美津子、福岡希代子、戸島章雄 ※共同作成につき本人担当部分抽出不可能 ※9th World Down Syndrome Congress（Vancouver, Canada）（平成18年8月）において発表（後掲）

4) フィーリングアーツ社会貢献・文化交流スライド教材 【医療・福祉・教育施設1000回公演プロジェクト】	平成18年12月～ 現在に至る	2004年4月から開始した「フィーリングアーツ1000回公演プロジェクト」の一環で、国内の医療・福祉・教育施設、被災地等で、患者、高齢者、障がい者、子どもたち、施設のスタッフ、被災者等を対象に行ったフィーリングアーツ公演の様子等に関するスライド教材（約120枚）を作成し、順次更新している。地域での文化芸術交流の意義とあり方を考察し、具体的に、感性の開発や心のケアに関して社会に貢献する方策を模索する上で有用なスライド教材である。神戸市看護大学看護学部看護学科の看護学の基盤となる科目Ⅰ「感性・身体表現」（2年次配当、選択、2単位30時間）の授業で使用していた。また、フィーリングアーツに関するワークショップや講演等でも使用している。 ※北村義博、吉岡隆之 ※共同作成につき本人担当部分抽出不可能
5) 物語風禁煙教材【学生編】「明るい人生計画」（Power Point・スライド版）	平成20年2月～ 平成24年9月	喫煙率の一番高い年代は20歳代と30歳代であり、特に男女共に20歳代の喫煙率は高く、喫煙のきっかけになりやすい大学生の禁煙は、特に取り組むべき問題である。そこで、喫煙を行っている大学生が禁煙へ関心を向け、行動変容につながるような物語風禁煙教材（スライド16枚）を作成した。神戸市看護大学看護学部看護学科の看護学の基盤となる科目Ⅱ「健康行動論」（3年次配当、必修、1単位30時間）の授業等で使用していた。 ※宮﨑晶子，吉岡隆之 ※指導教員として教材の全般的な監修を行った。 ※2007年度神戸市看護大学研究演習抄録集に掲載
6) 物語風禁煙教材【教師編】「子どものきもち　＜学校編＞　～“あること”をやめると・・・～」（Power Point・スライド版）	平成20年6月～ 平成24年9月	児童生徒の模範となるためにも、また、児童生徒を受動喫煙の害から守るためにも、教師の禁煙は重要である。そこで今回、各種の行動科学理論を応用し、禁煙への行動変容を促すような教師のための物語風教材（スライド19枚＋フィーリングアーツDVD1曲）を試作した。神戸市看護大学看護学部看護学科の看護学の基盤となる科目Ⅱ「健康行動論」（3年次配当、必修、1単位30時間）の授業等で使用していた。 ※和田みなみ、吉岡隆之、北村義博 ※指導教員として教材の全般的な監修を行った。 ※第23回日本保健医療行動科学会学術大会(山梨)において発表
7) フィーリングアーツ国際文化交流ビデオ教材 【ケニア編】	平成20年8月～ 現在に至る	2008年8月に、ケニア・ナイロビのスラム地区にある子ども病院のHIVに感染した子どもたちや医療スタッフ等を対象に行ったフィーリングアーツ公演、ナイロビ郊外やキテングラ村の児童養護施設で子どもたちやスタッフを対象にした公演、ケニア看護協会の看護管理者を対象に行ったワークショップ、ケニアの大自然等の様子に関するビデオ教材（約6分）を作成した。国際的な文化芸術交流の意義とあり方を考察し、具体的に人類・社会に貢献する方策を模索する上で有用なビデオ教材である。神戸市看護大学看護学部看護学科の看護学の基盤となる科目Ⅰ「感性・身体表現」（2年次配当、選択、2単位30時間）の授業で使用していた。また、フィーリングアーツに関するワークショップや講演等でも使用している。 ※北村義博、吉岡隆之、北村佳大 ※共同作成につき本人担当部分抽出不可能

8）物語風禁煙教材【看護学生編】「看護学生物語」（Power Point・スライド版）	平成21年6月～平成24年9月	女性看護職の喫煙率は一般女性の約2倍といわれている。今回、看護学生の段階で禁煙をすることが有効と考え、各種の行動科学理論を応用し、看護学生が禁煙に関心をもち、行動変容ができるような物語風禁煙教材（スライド31枚＋フィーリングアーツDVD1曲）を作成した。神戸市看護大学看護学部看護学科の看護学の基盤となる科目Ⅱ「健康行動論」（3年次配当、必修、1単位30時間）の授業等で使用していた。 ※第56回近畿学校保健学会(奈良)において発表（座長賞受賞） ※氏原曜子、吉岡隆之、北村義博 ※指導教員として教材の全般的な監修を行った。
9）フィーリングアーツ国際文化交流ビデオ教材【ベトナム・ホーチミン編】	平成21年8月～現在に至る	2009年8月に、ベトナム・ホーチミンにおいて、児童養護施設の聴覚障がいをもつ子どもたちを対象に行ったフィーリングアーツ公演、整形・リハビリテーション病院の医療関係者や患者を対象に行ったワークショップ、現地のインターネットテレビに出演した様子等に関するビデオ教材（約5分）を作成した。国際的な文化芸術交流の意義とあり方を考察し、具体的に人類・社会に貢献する方策を模索する上で有用なビデオ教材である。神戸市看護大学看護学部看護学科の看護学の基盤となる科目Ⅰ「感性・身体表現」（2年次配当、選択、2単位30時間）の授業で使用していた。また、フィーリングアーツに関するワークショップや講演等でも使用している。 ※北村義博、吉岡隆之、久永珠美 ※共同作成につき本人担当部分抽出不可能
10）一般の学齢期の児童・生徒のための「身体発育曲線」及び「縦断型発育基準チャート」作成コンピュータソフト（Excel 2003, Windows XP 対応版）（身長と体重の現量値および年間増加量のパーセンタイル曲線，身長に対する体重パーセンタイル曲線の5つのグラフで構成）（教材）	平成21年12月～現在に至る	前掲の「ダウン症児身体発育曲線作成コンピュータソフト（Excel 2003, Windows XP 対応版）（教材）」を基に、健常児の部分のみを抽出し、「身長と体重の発育基準曲線」及び「学齢期縦断型身長・体重発育チャート」の上に、一般の学齢期の児童・生徒が自身のグラフを描くことができるコンピュータソフト（Excel 2003, Windows XP 対応版）を作成した。神戸市看護大学看護学部看護学科の看護学の基盤となる科目Ⅱ「ヘルスプロモーション論」（1年次配当、必修、1単位30時間）の授業で使用していた。また、大阪成蹊短期大学児童教育学科の「小児保健Ⅰ（子どもの保健Ⅰ）」の授業等でも使用している。 ※吉岡隆之、後和美朝 ※共同作成につき本人担当部分抽出不可能
11）フィーリングアーツ国際文化交流スライド教材【道程】（Power Point・スライド版）	平成21年12月～現在に至る	2001年以降に行った「フィーリングアーツ国際文化交流プロジェクト」の一環で、海外（カナダ、タイ、米国、中国、インドネシア、ケニア、ベトナム、韓国、パキスタン、フィンランドなど）の医療・福祉・教育施設や被災地などで行った公演の様子等に関するスライド教材を作成し、順次更新している（約150枚、2013年5月現在）。国際的な文化芸術交流の意義とあり方を考察し、具体的に人類・社会に貢献する方策を模索する上で有用なスライド教材である。神戸市看護大学看護学部看護学科の看護学の基盤となる科目Ⅰ「感性・身体表現」（2年次配当、選択、2単位30時間）の授業等で使用していた。また、フィーリングアーツに関するワークショップや講演等でも使用している。 ※吉岡隆之、北村義博 ※共同作成につき本人担当部分抽出不可能

12）フィーリングアーツ社会貢献・文化交流ビデオ教材【東日本大震災被災地編】	平成23年5月～現在に至る	2011年5月に、福島県いわき市被災地の避難所（湯本第一小学校）、福島県猪苗代町の避難所となっていた民宿の被災者やスタッフを対象に行ったフィーリングアーツ公演（地元の音楽家とのコラボレーションを含む）、被災地の様子等に関するビデオ教材（約5分）を作成した。大震災被災地での文化芸術交流の意義とあり方を考察し、具体的に、被災地での心のケアに関して社会に貢献する方策を模索する上で有用なビデオ教材である。神戸市看護大学看護学部看護学科の看護学の基盤となる科目Ⅰ「感性・身体表現」（2年次配当、選択、2単位30時間）の授業で使用していた。また、フィーリングアーツに関するワークショップや講演等でも使用している。 ※北村義博、吉岡隆之、久永珠美 ※共同作成につき本人担当部分抽出不可能
13）フィーリングアーツ国際文化交流ビデオ教材【パキスタン北部大震災（2005年）被災地編】	平成23年8月～現在に至る	2011年8月に、パキスタン北部大震災（2005年）の被災地バラコットにおいて、小学校の児童や教員、地域の教育関係者を対象に行ったフィーリングアーツ公演、被災地の様子等に関するビデオ教材（約5分）を作成した。大震災被災地での国際的な文化芸術交流の意義とあり方を考察し、具体的に、海外の被災地での心のケアに関して社会に貢献する方策を模索する上で有用なビデオ教材である。神戸市看護大学看護学部看護学科の看護学の基盤となる科目Ⅰ「感性・身体表現」（2年次配当、選択、2単位30時間）の授業で使用していた。また、フィーリングアーツに関するワークショップや講演等でも使用している。 ※北村義博、吉岡隆之、久永珠美 ※共同作成につき本人担当部分抽出不可能
３　教育上の能力に関する大学等の評価		
1）神戸市看護大学看護学部看護学科の看護学の基盤となる科目Ⅱ「ヘルスプロモーション論」（1年次配当、必修、1単位30時間）の授業における評価	平成20年4月～平成24年9月	学生による授業評価＜総合評価（5段階評価））＞ 20年度：3.7、21年度：4.1、22年度：3.3、 23年度：3.5、24年度：4.1 いずれの年度も高い評価を得ている。
2）神戸市看護大学看護学部看護学科の看護学の基盤となる科目Ⅱ「健康・体力・スポーツ演習」（1年次配当、必修、1単位30時間）の授業における評価	平成20年4月～平成24年3月	学生による授業評価＜総合評価（5段階評価））＞ 20年度：4.2、21年度：4.3、22年度：3.8、 23年度：4.1 いずれの年度も非常に高い評価を得ている。
3）神戸市看護大学看護学部看護学科の看護学の基盤となる科目Ⅰ「感性・身体表現」（2年次配当、選択、2単位30時間）の授業（オムニバス方式）における評価	平成20年4月～平成24年3月	学生による授業評価＜総合評価（5段階評価））＞ 20年度：5.0、21年度：5.0、22年度：5.0、 23年度：4.8 いずれの年度も最高の評価を得ている。
4）神戸市看護大学看護学部看護学科の看護学の基盤となる科目Ⅱ「健康行動論」（3年次配当、必修、1単位30時間）の授業における評価	平成20年4月～平成24年9月	学生による授業評価＜総合評価（5段階評価））＞ 20年度：3.4、21年度：3.4、22年度：3.7、 23年度：3.9、24年度：3.7 いずれの年度も高い評価を得ている。
5）神戸市看護大学看護学部看護学科の看護学の基盤となる科目Ⅱ「統合医療論」（3年次配当、選択、1単位15時間）の授業（オムニバス方式）における評価	平成20年4月～平成24年3月	学生による授業評価＜総合評価（5段階評価））＞ 20年度：4.7、21年度：4.4、22年度：4.6、 23年度：4.4 いずれの年度も極めて高い評価を得ている。
6）神戸市看護大学看護学部看護学科の看護学の基盤となる科目Ⅱ「健康とビジネス」（4年次配当、選択、1単位15時間）の授業（オムニバス方式）における評価	平成21年4月～平成24年3月	学生による授業評価＜総合評価（5段階評価））＞ 21年度：4.3、22年度：4.2、23年度：3.9 いずれの年度も非常に高い評価を得ている。

4　実務の経験を有する者についての特記事項		
（国際招聘ワークショップ・講演等）		
1) "Feeling Arts" International Workshop: "Feeling Arts" in the Healing Process, Educational workshop for clinical and medical staff at Lakeview Center and Baptist Health Care, At Eaddy Activity Center, Lakeview Center. (Pensacola, U.S.A.)	平成16年6月	フィーリングアーツ研究会副代表、研究者、教育者として、癒しの芸術フィーリングアーツの活動、意義等について、実践的観点から実演を交えてワークショップ形式で講演を行い、また効果等について学術的観点から言及した。参加者は医療関係者等約100名であった。フィーリングアーツと尺八の音色で日本的な癒しの場となった。ファミリーセラピストをしていた参加者の一人は、その後、施設でセラピーの一環としてフィーリングアーツのDVDを使用するようになり、当該施設にフィーリングアーツDVDライブラリを設置した。 ※Yoshihiro Kitamura and Takayuki Yoshioka ※共同講演につき本人担当部分抽出不可能 ※Sponsored by Jikei-American Center, University of West Florida, Lakeview Foundation's Morris Eaddy Educational Fund, Feeling Arts Academy
2) "Feeling Arts" International Workshop: Art Program, 2005 Special Olympics World Winter Games, At White Ring Sports Arena.(Nagano, Japan)	平成17年2月～3月	フィーリングアーツ研究会副代表、研究者、教育者として、癒しの芸術フィーリングアーツの活動、意義等について、実践的観点から実演を交えてワークショップ形式で講演を行った。参加者は一日に延べ数百名であった。日本で初めて開催された、知的障がい者のスペシャルオリンピックスでの講演であった。フィーリングアーツの講演会場は競技会場のフロアであったため、競技の参加選手の多くが、フィーリングアーツの体験ワークショップに参加し、感動とともに音楽と光による表現を学んだ。 ※Yoshihiro Kitamura, Takayuki Yoshioka, Akio Toshima, Michiko Ogawa, Shoko Kumamoto and Yumiko Nohara ※共同講演につき本人担当部分抽出不可能
3) "Feeling Arts" International Workshop, At Health Science Academy of Klaten (Sekolah Tinggi Ilmu Kesehatan Muhammadiyah Klaten) (Klaten, Indonesia)	平成18年9月	フィーリングアーツ研究会副代表、研究者、教育者として、癒しの芸術フィーリングアーツの活動、意義等について、実践的観点から実演を交えてワークショップ形式で講演を行い、また効果等について学術的観点から言及した。主な対象は看護学生と教員（約20名）であり、特に神戸の震災での活動と役割を説明した。参加者は非常に興味深く共感し、評価した。 ※Yoshihiro Kitamura and Takayuki Yoshioka ※共同講演につき本人担当部分抽出不可能 ※Conducted by Provincial Board of Central Java and Yogyakarta, Indonesian National Nursing Association. Supported by Indonesian National Nursing Association. Sponsored by Suntory Ltd., Kyowa Hakko Kogyo Co., Ltd.and Feeling Arts Academy
4) "Feeling Arts" International Workshop, At Central Java Nursing Academy (Akademi Keperawatan Pemerintah Provinsi Jawa Tengah). (Semarang, Indonesia)	平成18年9月	フィーリングアーツ研究会副代表、研究者、教育者として、癒しの芸術フィーリングアーツの活動、意義等について、実践的観点から実演を交えてワークショップ形式で講演を行い、また効果等について学術的観点から言及した。主な対象は看護学生と教員（約100名）であり、特に日本の医療施設における芸術の役割ついて講義した。 ※Yoshihiro Kitamura and Takayuki Yoshioka ※共同講演につき本人担当部分抽出不可能 ※Conducted by Provincial Board of Central Java and Yogyakarta, Indonesian National Nursing Association. Supported by Indonesian National Nursing Association. Sponsored by Suntory Ltd., Kyowa Hakko Kogyo Co., Ltd. and Feeling Arts Academy

5) "Feeling Arts" International Workshop, At Nursing Program, Faculty of Medicine, Diponegoro University (Program Studi Ilmu Keperawatan, Fakultas Kedocteran, Universitas Diponegoro) (Semarang, Indonesia)	平成19年3月	フィーリングアーツ研究会副代表、研究者、教育者として、癒しの芸術フィーリングアーツの活動、意義等について、実践的観点から実演を交えてワークショップ形式で講演を行い、また効果等について学術的観点から言及した。主な対象は看護学生と教員（約20名）であった。体験した参加者は感動し、新しい癒しの分野研究への刺激になったと評価した。特に神戸での震災地における役割を説明した結果、参加者の関心を引き深い共感と評価を得た。 ※Yoshihiro Kitamura and Takayuki Yoshioka ※共同講演につき本人担当部分抽出不可能 ※Conducted by Provincial Board of Central Java, Indonesian National Nursing Association. Supported by Indonesian National Nursing Association. Sponsored by Suntory Ltd., Kyowa Hakko Kogyo Co., Ltd., Panasonic Co., Ltd. and Feeling Arts Academy
6) "Feeling Arts" International Workshop, At Central Java Nursing Academy (Akademi Keperawatan Pemerintah Provinsi Jawa Tengah) (Semarang, Indonesia)	平成19年3月	フィーリングアーツ研究会副代表、研究者、教育者として、癒しの芸術フィーリングアーツの活動、意義等について、実践的観点から実演を交えてワークショップ形式で講演を行い、また効果等について学術的観点から言及した。主な対象は看護学生と教員（約50名）であった。実際に体験後の感想を聞き、癒しにおけるメンタル的な要素の大切さを説明した。 ※Yoshihiro Kitamura and Takayuki Yoshioka ※共同講演につき本人担当部分抽出不可能 ※Conducted by Provincial Board of Central Java, Indonesian National Nursing Association. Supported by Indonesian National Nursing Association. Sponsored by Suntory Ltd., Kyowa Hakko Kogyo Co., Ltd., Panasonic Co., Ltd. and Feeling Arts Academy
7) "Feeling Arts" International Workshop, At Ungaran Nursing Academy (Akademi Keperawatan Ngudi Waluyo Ungaran) (Semarang, Indonesia)	平成19年3月	フィーリングアーツ研究会副代表、研究者、教育者として、癒しの芸術フィーリングアーツの活動、意義等について、実践的観点から実演を交えてワークショップ形式で講演を行い、また効果等について学術的観点から言及した。主な対象は教員（約10名）であった。特に、芸術が思想や宗教を超えて、感動や癒しをもたらすことなどについて議論した。 ※Yoshihiro Kitamura and Takayuki Yoshioka ※共同講演につき本人担当部分抽出不可能 ※Conducted by Provincial Board of Central Java, Indonesian National Nursing Association. Supported by Indonesian National Nursing Association. Sponsored by Suntory Ltd., Kyowa Hakko Kogyo Co., Ltd., Panasonic Co., Ltd. and Feeling Arts Academy
8) Mental Support by "Feeling Arts" International Workshop to Caregivers of the Central Java Earthquake on May 2006, At Bantul RSD Hospital, (RSD Panembahan Senopati Pemerintah Kabupaten Bantul) (Bantul, Indonesia)	平成19年4月	フィーリングアーツ研究会副代表、研究者、教育者として、癒しの芸術フィーリングアーツの活動、意義等について、実践的観点から実演を交えてワークショップ形式で講演を行い、また効果等について学術的観点から言及した。対象は被災者支援の経験のある医療関係者など約80名であった。体験後、それぞれの感想をわかち合ったが、感動を覚えたり、多くのイメージが浮かんだ参加者、調光操作を希望する参加者など、反応は様々であった。その後、震災地でのフィーリングアーツの活動と役割を説明し、被災地での活用について議論した。 ※Yoshihiro Kitamura and Takayuki Yoshioka ※Conducted by Provincial Board of Central Java and Yogyakarta, Indonesian National Nursing Association. Supported by Indonesian National Nursing Association. Sponsored by Suntory Ltd., Kyowa Hakko Kogyo Co., Ltd., Panasonic Co., Ltd. and Feeling Arts Academy, Supported by PT Amerta Indah Otsuka

9) "Feeling Arts" International Workshop, At Health Science Academy of Yogyakarta (Jurusan Keperawatan Politeknik Kesehatan Yogyakarta) (Yogyakarta, Indonesia)	平成19年4月	フィーリングアーツ研究会副代表、研究者、教育者として、癒しの芸術フィーリングアーツの活動、意義等について、実践的観点から実演を交えてワークショップ形式で講演を行い、また効果等について学術的観点から言及した。主な対象は看護学生及び教員（約30名）であった。インドネシアで制作した新作で実演し、参加者から共感と評価を得た。 ※Yoshihiro Kitamura and Takayuki Yoshioka ※共同講演につき本人担当部分抽出不可能 ※Conducted by Provincial Board of Yogyakarta, Indonesian National Nursing Association. Supported by Indonesian National Nursing Association. Sponsored by Suntory Ltd., Kyowa Hakko Kogyo Co., Ltd., Panasonic Co., Ltd. and Feeling Arts Academy, Supported by PT Amerta Indah Otsuka
10) "Feeling Arts" International Workshop, At Faculty of Nursing, Indonesia University (Fakultas Ilmu Keperawatan, Universitas Indonesia) (Jakarta, Indonesia)	平成19年8月	フィーリングアーツ研究会副代表、研究者、教育者として、癒しの芸術フィーリングアーツの活動、意義等について、実践的観点から実演を交えてワークショップ形式で講演を行い、また効果等について学術的観点から言及した。主な対象は看護教員（約20名）であった。参加者は、芸術をケアに活用する新しい方法を高く評価し、インドネシアの看護分野においてフィーリングアーツを活用すべく、共同研究をしたいとの申し出があった。 ※Yoshihiro Kitamura and Takayuki Yoshioka ※共同講演につき本人担当部分抽出不可能 ※Sponsored by Faculty of Nursing, Indonesia University, PT Amerta Indah Otsuka and Feeling Arts Academy, Conducted by Dra. Setyowati, Ph.D.
11) "Feeling Arts" International Workshop, At Nursing Program, Faculty of Medicine, Diponegoro University (Program Studi Ilmu Keperawatan, Fakultas Kedocteran, Universitas Diponegoro) (Semarang, Indonesia)	平成19年8月	フィーリングアーツ研究会副代表、研究者、教育者として、癒しの芸術フィーリングアーツの活動、意義等について、実践的観点から実演を交えてワークショップ形式で講演を行い、また効果等について学術的観点から言及した。主な対象は看護の大学院生と教員（約20名）であった。初めて体験するアートに、非常に興味を示す学生が多く、日本に来て学びたいという学生もいた。 ※Yoshihiro Kitamura and Takayuki Yoshioka ※共同講演につき本人担当部分抽出不可能 ※Sponsored by FNursing Program, Faculty of Medicine, Diponegoro University, PT Amerta Indah Otsuka and Feeling Arts Academy, Conducted by Dra. Setyowati, Ph.D.
12) "Feeling Arts" International Workshop for Medical Staffs at Hospital (PS Puri Mandiri Kedoya) (Jakarta, Indonesia)	平成19年8月	フィーリングアーツ研究会副代表、研究者、教育者として、癒しの芸術フィーリングアーツの活動、意義等について、実践的観点から実演を交えてワークショップ形式で講演を行い、また効果等について学術的観点から言及した。主な対象は医療関係者（約50名）であった。フィーリングアーツのDVDを医療機関で活用することを切望する者も多かった。 ※Yoshihiro Kitamura and Takayuki Yoshioka ※共同講演につき本人担当部分抽出不可能 ※Sponsored by PT Amerta Indah Otsuka and Feeling Arts Academy

13) "Feeling Arts" International Workshop for Medical Staffs at Hospital (RSAB Harapan Kita) (Jakarta, Indonesia)	平成19年8月	フィーリングアーツ研究会副代表、研究者、教育者として、癒しの芸術フィーリングアーツの活動、意義等について、実践的観点から実演を交えてワークショップ形式で講演を行い、また効果等について学術的観点から言及した。主な対象は医療関係者、特に看護師（約50名）であった。ほとんどの参加者が興味を示し、特に芸術を医療現場で活用することに関する質問が多かった。 ※Yoshihiro Kitamura and Takayuki Yoshioka ※共同講演につき本人担当部分抽出不可能 ※Sponsored by PT Amerta Indah Otsuka and Feeling Arts Academy
14) "Feeling Arts" International Workshop for Executive Nurses of National Nurses Association of Kenya at Head Office of National Nurses Association of Kenya. (Nairobi, Kenya)	平成20年8月	フィーリングアーツ研究会副代表、研究者、教育者として、癒しの芸術フィーリングアーツの活動、意義等について、実践的観点から実演を交えてワークショップ形式で講演を行い、また効果等について学術的観点から言及した。主な対象はケニア看護協会の看護管理者（約20名）であった。特に、日本の医療施設でのフィーリングアーツの活動を高く評価し、フィーリングアーツをケニアの医療施設でも活用したいとの協力要請があった。 ※Yoshihiro Kitamura and Takayuki Yoshioka ※共同講演につき本人担当部分抽出不可能 ※Sponsored by National Nurses Association of Kenya and Feeling Arts Academy, Supported by Life Science Promotion Association and International Council of Nurses
15) "Feeling Arts" International Workshop at the Center of Orthopedist & Rehabilitation, Ho Chi Minh (Trung Tam Chinh Hinh va Phuc Hoi Chuc Nang TP HCM) (Ho Chi Minh City, Vietnam)	平成21年8月	フィーリングアーツ研究会副代表、研究者、教育者として、癒しの芸術フィーリングアーツの活動、意義等について、実践的観点から実演を交えてワークショップ形式で講演を行い、また効果等について学術的観点から言及した。主な対象は医療関係者と患者（約80名）であった。フィーリングアーツの調光操作を体験する機会を設けたところ、枯葉剤の後遺症をもつ患者の一人が操作を体験し、是非、日本でフィーリングアーツの勉強をしたいとの申し出があった。 ※Yoshihiro Kitamura and Takayuki Yoshioka ※共同講演につき本人担当部分抽出不可能 ※Sponsored by Panasonic Co., Ltd. and Feeling Arts Academy, Supported by Otsuka OPV., Co. Ltd., Life Science Promotion Association
16) "Feeling Arts" International Workshop at the Center for Social Research, Chittagong (for Medical, Welfare and Educational Staffs) (Chittagong, Bangladesh)	平成22年8月	フィーリングアーツ研究会副代表、研究者、教育者として、癒しの芸術フィーリングアーツの活動、意義等について、実践的観点から実演を交えてワークショップ形式で講演を行い、また効果等について学術的観点から言及した。主な対象は教育関係者、医療従事者、医療ボランティアなど（約70名）であった。特に、バングラデシュで貧困者の医療支援をしている外国人医師が感動し、非常に興味を示した。 ※Yoshihiro Kitamura and Takayuki Yoshioka ※共同講演につき本人担当部分抽出不可能 ※Sponsored by Center for Social Research of Chittagong, Image [Social Welfare Organization of Chittagong] and Feeling Arts Academy, Supported by Life Science Promotion Association

17) "Feeling Arts" International Workshop at Salpaus Further Education (Hanako Seminar, National Educational Project between Finland and Japan) (Lahti, Finland)	平成24年11月	フィーリングアーツ研究会副代表、研究者、教育者として、癒しの芸術フィーリングアーツの活動、意義等について、実践的観点から実演を交えてワークショップ形式で講演を行い、また効果等について学術的観点から言及した。今回は、フィンランド国内の職業学校関係者と日本との交流促進を目的としたフィンランドの国家教育プロジェクトの一つ「Hanakoセミナー（ラハティ市のサルパウス職業学校で開催）」の分科会の一つである福祉関係のワークショップ（約40名が参加）で講演を行い、講演後、質疑応答、意見交換等を行った。 ※Yoshihiro Kitamura, Takayuki Yoshioka, Chikashi Nishikawa, Tomoko Morimoto and Mieko Miyake ※共同講演につき本人担当部分抽出不可能 ※Sponsored by Feeling Arts Academy, Supported by JSPS KAKENHI Grant Number 24390493
18) "Feeling Arts" International Workshop at Omnia Vocational College (for Staffs and Students) (Espoo, Finland)	平成24年11月	フィーリングアーツ研究会副代表、研究者、教育者として、癒しの芸術フィーリングアーツの活動、意義等について、実践的観点から実演を交えてワークショップ形式で講演を行い、また効果等について学術的観点から言及した。フィンランドのエスポー市にあるオムニア職業学校主催のワークショップで、主に教職員と学生（約30名）を対象に講演を行い、質疑応答、意見交換等を行った。特に認知症ケアに非常に有効であるとの評価があった。 ※Yoshihiro Kitamura, Takayuki Yoshioka ※共同講演につき本人担当部分抽出不可能 ※Sponsored by Feeling Arts Academy, Supported by JSPS KAKENHI Grant Number 24390493
（国際文化交流）		
1) "Feeling Arts" International Art & Cultural Exchange: "Feeling Arts" for Healing, Dedication Ceremony, Opening Celebration of International Center and Japan House, University of West Florida, At Conference Center, University of West Florida (Pensacola, U.S.A.)	平成16年6月	フィーリングアーツボランティア委員会副代表、教育者、研究者として、癒しと感性の芸術 フィーリングアーツの公演を通して国際文化芸術交流をコーディネートした。西フロリダ大学の日本館のオープニングセレモニーの一環で、関係者約20名を対象に公演・交流を行った。新しい癒しの芸術、光の水墨画として、非常に高い関心と評価を得た。 ※Yoshihiro Kitamura and Takayuki Yoshioka ※共同公演につき本人担当部分抽出不可能 ※Sponsored by Jikei-American Center, University of West Florida, Feeling Arts Academy and Feeling Arts Volunteer Committee
2) "Feeling Arts" International Art & Cultural Exchange, At Mut Mee Guest House, Conducted by Nong Khai Rotary Club (Nong Khai, Thailand)	平成16年8月	フィーリングアーツボランティア委員会副代表、教育者、研究者として、癒しと感性の芸術 フィーリングアーツの公演を通して国際文化芸術交流をコーディネートした。タイ東北部のノンカーイのイサーン地域の経営者及び地域の世話人など約20名を対象に公演・交流を行った。非常に反応がよく様々なアイデアが出され、フィーリングアーツを地域に広めるための協力の申し出があった。 ※Yoshihiro Kitamura, Takayuki Yoshioka, Sachie Ito and Kanako Yagi ※共同公演につき本人担当部分抽出不可能 ※Sponsored by Feeling Arts Academy and Feeling Arts Volunteer Committee

3) "Feeling Arts" International Art & Cultural Exchange, At Malipo Rongzhi Hotel (Malipo (Southeast of Wenshan Prefecture of Yunnan), China)	平成17年8月	フィーリングアーツボランティア委員会副代表、教育者、研究者として、癒しと感性の芸術 フィーリングアーツの公演を通して国際文化芸術交流をコーディネートした。中国の雲南省麻栗坡において少数民族約10名を対象に公演・交流を行った。参加者は「フィーリングアーツは４千年前の壁画に似ている」と興味を示した。 ※Yoshihiro Kitamura, Takayuki Yoshioka, Hitomi Nakao and Kanako Hori ※共同公演につき本人担当部分抽出不可能 ※Sponsored by Feeling Arts Academy and Feeling Arts Volunteer Committee
4) Mental Support by "Feeling Arts" Exhibitions to Victims of the Central Java Earthquake on May 2006, At Gading Daton Village of Bantul, (Di Dusun Gading Daton, Desa Donotirto, Kecamatan Kretek, Bantul) (Bantul, Indonesia)	平成19年4月	フィーリングアーツボランティア委員会副代表、教育者、研究者として、癒しと感性の芸術 フィーリングアーツの公演を通して国際文化芸術交流をコーディネートした。2006年の中部ジャワ大震災の被災地バントゥール村の被災者40名ほどを対象に公演・交流を行った。参加者は光と音楽に感動し、長時間、フィーリングアーツを体験し、癒された様子であった。その後、特に神戸の震災地での活動と役割を説明し、参加者から共感を得た。 ※Yoshihiro Kitamura and Takayuki Yoshioka ※共同講演につき本人担当部分抽出不可能 ※Conducted by Provincial Board of Central Java and Yogyakarta, Indonesian National Nursing Association. Supported by Indonesian National Nursing Association. Sponsored by Suntory Ltd., Kyowa Hakko Kogyo Co., Ltd., Panasonic Co., Ltd., Feeling Arts Academy and Feeling Arts Volunteer Committee, Supported by PT Amerta Indah Otsuka
5) Mental Support by "Feeling Arts" Exhibitions at Welfare Facility for Old People (Panti Sosial Tresna Werda, Yayasan Karya Bhakti Ria Pembangun) (Jakarta, Indonesia)	平成19年8月	フィーリングアーツボランティア委員会副代表、教育者、研究者として、癒しと感性の芸術 フィーリングアーツの公演を通して国際文化芸術交流をコーディネートした。インドネシアのジャカルタの高齢者施設の入所者（約50名）を対象に公演・交流を行った。参加者はフィーリングアーツの公演中に見えた様々なイメージを発表し感動を覚えていた。 ※Yoshihiro Kitamura and Takayuki Yoshioka ※共同公演につき本人担当部分抽出不可能 ※Sponsored by PT Amerta Indah Otsuka, Feeling Arts Academy and Feeling Arts Volunteer Committee
6) "Feeling Arts" International Art & Cultural Exchange at Welfare Facility for Orphan (Panti Asuhan SOS DESA TARUNA) (Jakarta, Indonesia)	平成19年8月	フィーリングアーツボランティア委員会副代表、教育者、研究者として、癒しと感性の芸術 フィーリングアーツの公演を通して国際文化芸術交流をコーディネートした。インドネシアのジャカルタの児童養護施設の子どもたち（約40名）を対象に公演・交流を行った。子どもたちは非常に喜び、フィーリングアーツの体験後、クレヨンを織物のように使いすばらしい絵を描いて見せた。 ※Yoshihiro Kitamura and Takayuki Yoshioka ※共同公演につき本人担当部分抽出不可能 ※Sponsored by PT Amerta Indah Otsuka, Feeling Arts Academy and Feeling Arts Volunteer Committee

7) "Feeling Arts" International Art & Cultural Exchange at Primary School (SD Notre Dame Kembangan) (Jakarta, Indonesia)	平成19年8月	フィーリングアーツボランティア委員会副代表、教育者、研究者として、癒しと感性の芸術 フィーリングアーツの公演を通して国際文化芸術交流をコーディネートした。インドネシアのジャカルタの小学校の子どもたち（約50名）を対象に公演・交流を行った。フィーリングアーツの体験後、子どもたちは感性豊かなすばらしい絵を描いた。校長は、子どもたちが授業でグラデーションの技法を習ってないにも関わらず、綺麗なグラデーションを描いていたので驚き感動した。 ※Yoshihiro Kitamura and Takayuki Yoshioka ※共同公演につき本人担当部分抽出不可能 ※Sponsored by PT Amerta Indah Otsuka, Feeling Arts Academy and Feeling Arts Volunteer Committee
8) "Feeling Arts" International Art & Cultural Exchange at Primary School (SD Islam Cikal Harapan BSD) (Jakarta, Indonesia)	平成19年8月	フィーリングアーツボランティア委員会副代表、教育者、研究者として、癒しと感性の芸術 フィーリングアーツの公演を通して国際文化芸術交流をコーディネートした。インドネシアのジャカルタの小学校の子どもたち（約50名）を対象に公演・交流を行った。フィーリングアーツの体験後、子どもたちは、地球や宇宙を感じるような色合いで絵を描き、とてもすばらしく印象的であった。 ※Yoshihiro Kitamura and Takayuki Yoshioka ※共同公演につき本人担当部分抽出不可能 ※Sponsored by PT Amerta Indah Otsuka, Feeling Arts Academy and Feeling Arts Volunteer Committee
9) "Feeling Arts" International Art & Cultural Exchange at Medical Clinic in Slum Areas (Child Doctor Clinic in the Kibera Slum Areas) (Nairobi, Kenya)	平成20年8月	フィーリングアーツボランティア委員会副代表、教育者、研究者として、癒しと感性の芸術 フィーリングアーツの公演を通して国際文化芸術交流をコーディネートした。スラム街の子どものための医療施設で患者とスタッフ（約20名）を対象に公演・交流を行ったが、参加者の中にはエイズを発症した子どもたちも多く含まれていた。子どもたち活気づき周りの看護師や医師にフィーリングアーツの感想を積極的に語っていた。このような施設での公演・交流の必要性を強く感した。 ※Yoshihiro Kitamura and Takayuki Yoshioka ※共同公演につき本人担当部分抽出不可能 ※Sponsored by International Medical Collaboration Unit, Feeling Arts Academy and Feeling Arts Volunteer Committee, Supported by Life Science Promotion Association
10) "Feeling Arts" International Art & Cultural Exchange at Welfare Facility for Orphan (Matumaini Children's Home (Save the Children Centre) (Nairobi, Kenya)	平成20年8月	フィーリングアーツボランティア委員会副代表、教育者、研究者として、癒しと感性の芸術 フィーリングアーツの公演を通して国際文化芸術交流をコーディネートした。ケニアのナイロビの児童養護施設の子どもたち（約20名）を対象に公演・交流を行った。HIVに感染している子どもたちも多く含まれていた。フィーリングアーツ体験後、子どもたちが描いた絵は、美術教育の機会に恵まれていない為、線描写が多くシンプルで飾り気のないたいへん美しいものであった。 ※Yoshihiro Kitamura and Takayuki Yoshioka ※共同公演につき本人担当部分抽出不可能 ※Sponsored by Save the Children Centre, Feeling Arts Academy and Feeling Arts Volunteer Committee, Supported by Life Science Promotion Association

11) "Feeling Arts" International Art & Cultural Exchange at Welfare Facility for Orphan (Saidia Furaha) (Kitengela, Kenya)	平成20年8月	フィーリングアーツボランティア委員会副代表、教育者、研究者として、癒しと感性の芸術 フィーリングアーツの公演を通して国際文化芸術交流をコーディネートした。ケニアのナイロビ郊外の児童養護施設と保育園の子どもたち（約20名）を対象に、感性開発と自立支援の心のサポートとして公演・交流を行った。フィーリングアーツの公演後に子どもたちが描いた作品は非常にユニークなものが多く、日本のデザイナーに認められ、日本の地域ミニコミ誌の表紙に採用されるほどであった。 ※Yoshihiro Kitamura and Takayuki Yoshioka ※共同公演につき本人担当部分抽出不可能 ※Sponsored by Saidia Furaha Organization, Feeling Arts Academy and Feeling Arts Volunteer Committee, Supported by Life Science Promotion Association
12) "Feeling Arts" International Art & Cultural Exchange at Welfare Facility for Orphan (Truong Chuyen Biet Khiem Thinh Hy Vong Binh Thanh) (Ho Chi Minh City, Vietnam)	平成21年8月	フィーリングアーツボランティア委員会副代表、教育者、研究者として、癒しと感性の芸術 フィーリングアーツの公演を通して国際文化芸術交流をコーディネートした。ベトナムのホーチミンの児童養護施設において聴覚障がいの子どもたち（約300名）を対象に、数グループに分け順次公演・交流を行った。音楽が聞こえない子どもたちは、フィーリングアーツの光の演奏（変化）に感動し、積極的に手を挙げ感想を述べ、その姿に担当の先生たちも驚き、深く感動されていた。 ※Yoshihiro Kitamura and Takayuki Yoshioka ※共同公演につき本人担当部分抽出不可能 ※Sponsored by Panasonic Co., Ltd., Feeling Arts Academy and Feeling Arts Volunteer Committee, Supported by Otsuka OPV., Co. Ltd., Life Science Promotion Association
13) "Feeling Arts" International Art & Cultural Exchange at Primary School (Midcity Model School) (Chittagong, Bangladesh)	平成22年8月	フィーリングアーツボランティア委員会副代表、教育者、研究者として、癒しと感性の芸術 フィーリングアーツの公演を通して国際文化芸術交流をコーディネートした。バングラディッシュのチッタゴンの小学校の子どもたち（約30名）を対象に公演・交流を行った。公演中に停電したが、子どもたちはフィーリングアーツを見たい一心で電気がつくまでおとなしく待っていた。ほとんど全ての子どもが調光操作を希望するほど、フィーリングアーツに強い興味を示した。 ※Yoshihiro Kitamura and Takayuki Yoshioka ※共同公演につき本人担当部分抽出不可能 ※Sponsored by Midcity Model School, Feeling Arts Academy and Feeling Arts Volunteer Committee, Supported by Life Science Promotion Association
14) "Feeling Arts" International Art & Cultural Exchange at Welfare Facility for Orphan (Dong Myung Child Welfare Center) (Seoul, Korea)	平成22年8月	フィーリングアーツボランティア委員会副代表、教育者、研究者として、癒しと感性の芸術 フィーリングアーツの公演を通して国際文化芸術交流をコーディネートした。韓国のソウルの児童養護施設において小学校４年生～６年生の子どもたち（約20名）を対象に公演・交流を行った。子どもたちはフィーリングアーツに非常に感動し、その感動を絵に描いた。児童養護施設の先生も非常に興味を示した。 ※Yoshihiro Kitamura and Takayuki Yoshioka ※共同公演につき本人担当部分抽出不可能 ※Sponsored by Dong Myung Child Welfare Center, Feeling Arts Academy and Feeling Arts Volunteer Committee, Supported by Life Science Promotion Association

15) "Feeling Arts" International Art & Cultural Exchange at Primary School (Balakot Public School) in the stricken area of the 2005 Kashmir (Northern Pakistan) Earthquake (Balakot, Pakistan)	平成23年8月	フィーリングアーツボランティア委員会副代表、教育者、研究者として、癒しと感性の芸術 フィーリングアーツの公演を通して国際文化芸術交流をコーディネートした。2005年に起きたパキスタン北部大震災の被災地バラコットの小学校で、低学年の子どもたち（約30名）を対象に公演・交流を行った。フィーリングアーツの体験後、子どもたちは感じたことを絵に描いたが、クレヨンをもつのが初めての子が多く、線描写はできたが塗ることには慣れていない様子で、独特の絵が多かった。 ※Yoshihiro Kitamura and Takayuki Yoshioka ※共同公演につき本人担当部分抽出不可能 ※Sponsored by Feeling Arts Academy and Feeling Arts Volunteer Committee, Supported by Balakot Public School, Save Pakistan Bank and Life Science Promotion Association
16) "Feeling Arts" International Art & Cultural Exchange and Workshop at School of Special Education for Slow Learners and Mentally Challenged Individuals (The School of Institute of Behavioral Psychology) (Karachi, Pakistan)	平成23年8月	フィーリングアーツボランティア委員会副代表、教育者、研究者として、癒しと感性の芸術 フィーリングアーツの公演を通して国際文化芸術交流をコーディネートした。パキスタンのカラチの障がい者施設において中高生（約50名）を対象に公演・交流を行った。生徒たちは光に非常に敏感で、集中してフィーリングアーツを体験していた。体験後に描かれた生徒たちの絵は、光や天と地を再現しようとする意志にあふれていた。先生たちはフィーリングアーツの手法を学びたいという気持ちが強く、公演後、熱心に質問をされた。 ※Yoshihiro Kitamura and Takayuki Yoshioka ※共同公演につき本人担当部分抽出不可能 ※Sponsored by Otsuka Pakistan Limited, Feeling Arts Academy and Feeling Arts Volunteer Committee, Supported by Institute of Behavioral Psychology, Otsuka Pharmaceutical Co., Ltd. and Life Science Promotion Association
17) "Feeling Arts" International Art & Cultural Exchange at Primary & Secondary School (Kivimaan peruskoulussa) (Lahti, Finland)	平成24年11月	フィーリングアーツボランティア委員会副代表、教育者、研究者として、癒しと感性の芸術 フィーリングアーツの公演を通して国際文化芸術交流を行った。フィンランドのラハティ市のキビマー基礎学校において、3年生の子どもたち（2クラス約45名）を対象に、フィーリングアーツの公演（児童によるイメージ表現（描画）、児童による合唱を含む）を通して交流を行った。公演の後、学校見学（質疑応答を含む）を行い、最後に、校長と共に昼食（給食）をとりながら、質疑応答・意見交換等を行った。 ※Yoshihiro Kitamura, Takayuki Yoshioka, Chikashi Nishikawa, Akira Nakagawa, Tomoko Morimoto and Mieko Miyake ※共同公演につき本人担当部分抽出不可能 ※Sponsored by Feeling Arts Academy and Feeling Arts Volunteer Committee, Supported by JSPS KAKENHI Grant Number 24390493
5　その他		
（神戸市看護大学における修士論文指導実績）		
1) 神戸市看護大学大学院看護学研究科博士前期課程実践看護学領域小児看護学専攻の大学院生1名を副指導教員（神戸市看護大学大学院看護学研究科博士前期課程の兼担助教授）として指導	平成18年4月～平成19年3月	研究題名「タッチケアが障害児を持つ母親に及ぼす影響」（内容）新生児や乳児を対象に近年行われるようになってきたにタッチケアによる母子相互作用に着目し、そのタッチケアを障害児に応用し、障害児の母親の育児ストレスが軽減することをケア前後の母親へのインタビューから検証した。

2）神戸市看護大学大学院看護学研究科博士前期課程実践看護学領域小児看護学専攻の大学院生1名を副指導教員（神戸市看護大学大学院看護学研究科博士前期課程の兼担准教授）として指導	平成21年4月～平成22年3月	研究題名「肥満の子どもとその家族の健康生活に対する認識・行動とそれに関連する家族の思い」（内容）子どもの肥満について、本人および家族全員を対象に、肥満に関する認識・生活行動、さらには、それらに関連する家族の思いについて、質問紙および聴き取りにより調査し、明らかにした。
3）神戸市看護大学大学院看護学研究科博士前期課程実践看護学領域小児看護学専攻の大学院生1名を副指導教員（神戸市看護大学大学院看護学研究科博士前期課程の兼担准教授）として指導	平成23年4月～平成24年3月	研究題名「思春期の１型糖尿病をもつ患者に対する看護援助がもたらす認識・行動の変化」（内容）１型糖尿病をもち、血糖コントロールが良好ではない思春期の子どもを対象に、看護援助を行い、疾病管理行動に関する認識と行動の変化について、インタビューおよび血糖コントロールの指標としてのHbA1c値等に基づき考察した。
（神戸市看護大学看護学部看護学科における教育実績：担当授業科目）		
1）保健行動論	平成10年4月～平成20年3月	神戸市看護大学看護学部看護学科の専任教員（平成10年4月から平成17年3月まで講師、平成17年4月から平成19年3月まで助教授、平成19年4月から平成20年3月まで准教授）として担当の「保健行動論」（専門基礎科目、3年次配当、必修、2単位・30時間）において、日常生活に習慣として組み込まれた保健行動に関する授業を行い、それによって学生に、保健行動の成り立ちとその影響要因、生活習慣や人間関係との関係、保健行動の変容の要因等を理解させる教育効果があった。
2）ヘルスプロモーション	平成12年4月～平成18年3月	神戸市看護大学看護学部看護学科の専任教員（平成12年4月から平成17年3月まで講師、平成17年4月から平成18年3月まで助教授）として担当の「ヘルスプロモーション」（専門基礎科目、1年次配当、選択、1単位・30時間）において、ヘルスプロモーションに関する授業を行い、それによって学生に、ヘルスプロモーションの基本的な考え方および関連する種々の科学的基礎知識を理解させるとともに、健康に関する環境整備を含め、人々が自らの健康をコントロールし改善することを可能とするための方法を理解させる教育効果があった。
3）ヘルスプロモーション演習	平成12年4月～平成18年3月	神戸市看護大学看護学部看護学科の専任教員（平成12年4月から平成17年3月まで講師、平成17年4月から平成18年3月まで助教授）として担当の「ヘルスプロモーション演習」（専門基礎科目、1年次配当、選択、1単位・30時間）において、ヘルスプロモーションに関する実践的技法について主体的な演習形式の授業を行い、それによって学生に、身体活動、食生活、休養など、ヘルスプロモーションに関する具体的な方法や課題を主体的に習得させる教育効果があった。
4）プライマリーヘルスケア（オムニバス形式）	平成15年4月～平成20年3月	神戸市看護大学看護学部看護学科の専任教員（平成15年4月から平成17年3月まで講師、平成17年4月から平成19年3月まで助教授、平成19年4月から平成20年3月まで准教授）として担当の「プライマリーヘルスケア」（専門基礎科目、3年次配当、必修、1単位・15時間）において、プライマリーヘルスケアの歴史的背景とその考え方に関する授業を行い、それによって学生に、健康増進から、疾病予防、医療、リハビリテーションまでの一貫した総合的なケアとその属性、今後の展開について理解させる教育効果があった。（単位認定者として、プライマリーヘルスケアの歴史的背景とその基本的考え方、総括を担当）

5）研究演習	平成15年4月～ 平成21年3月	神戸市看護大学看護学部看護学科の専任教員（平成15年4月から平成17年3月まで講師、平成17年4月から平成19年3月まで助教授、平成19年4月から平成21年3月まで准教授）として担当の「研究演習」（専門科目、4年次配当、必修、4単位・120時間）において、研究方法及び研究過程についての授業を少人数のゼミ形式あるいは個別指導形式で行い、それによって学生に、既習の諸学を通して得た知識を活用して問題意識を研究テーマへ発展させ、研究の過程を主体的、実践的に習得させる教育効果があった。
6）基礎セミナー	平成18年4月～ 平成24年3月	神戸市看護大学看護学部看護学科の専任教員（平成18年4月から平成19年3月まで助教授、平成19年4月から平成24年3月まで准教授）として担当の「基礎セミナー」（総合科目、1年次配当、必修、1単位・30時間）において、大学における学習・研究のために必要な「知の技法」に関する授業を少人数のゼミ形式で行い、それによって学生に、図書館やインターネットを活用した情報収集の方法、レポートの作成方法、プレゼンテーション方法を主体的に習得させる教育効果があった。
7）早期体験演習	平成18年4月～ 平成24年3月	神戸市看護大学看護学部看護学科の専任教員（平成18年4月から平成19年3月まで助教授、平成19年4月から平成24年3月まで准教授）として担当の「早期体験演習」（総合科目、1年次配当、必修、1単位・30時間）において、保健・医療・福祉施設での早期体験に関する授業をグループ演習形式で行い、それによって学生に、保健・医療・福祉施設の利用者とのコミュニケーションを通してその体験や思い、権利保護等について体験的に習得させる教育効果があった。
8）ヘルスプロモーション論	平成18年4月～ 平成24年8月	神戸市看護大学看護学部看護学科の専任教員（平成18年4月から平成19年3月まで助教授、平成19年4月から平成24年8月まで准教授）として担当の「ヘルスプロモーション論」（看護の基盤となる科目Ⅱ、1年次配当、必修、1単位・30時間）において、ヘルスプロモーションに関する授業を行い、それによって学生に、ヘルスプロモーションの基本的な考え方および関連する種々の科学的基礎知識を理解させるとともに、健康に関する環境整備を含め、人々が自らの健康をコントロールし改善することを可能とするための方法を理解させる教育効果があった。
9）健康・体力・スポーツ演習	平成18年4月～ 平成24年3月	神戸市看護大学看護学部看護学科の専任教員（平成18年4月から平成19年3月まで助教授、平成19年4月から平成24年3月まで准教授）として担当の「健康・体力・スポーツ演習」（看護の基盤となる科目Ⅱ、1年次配当、必修、1単位・30時間）において、「ヘルスプロモーション」の観点に立ち、人々が自らの健康・体力を維持・増進するための身体活動やスポーツに焦点を当て演習形式で体験的に学ぶ授業を行い、それによって学生に、健康・体力測定の実施・評価の方法、健康・体力づくりのためのスポーツの実践方法及びそれらを企画・運営・評価する方法を主体的に習得させる教育効果があった。

10）感性・身体表現（オムニバス形式）	平成19年4月～平成24年9月	神戸市看護大学看護学部看護学科の専任准教授として担当の「感性・身体表現」（看護の基盤となる科目Ⅰ、2年次配当、選択、2単位・30時間）において、絵画、音楽、ダンスなどを通して自己を表現する方法に関する授業を講義及び演習形式で行い、それによって学生に、感性や身体性の回復（気づき）及びセラピーとしての芸術表現の方法を主体的に習得させる教育効果があった。（単位認定者として、絵画、音楽、多彩な照明を通しての感性や身体性の回復（気づき）及びセラピーとしての芸術表現の方法、総括を担当）
11）健康行動論	平成20年4月～平成24年8月	神戸市看護大学看護学部看護学科の専任准教授として担当の「健康行動論」（看護の基盤となる科目Ⅱ、3年次配当、必修、1単位・30時間）において、行動科学と健康に関する授業を行い、それによって学生に、人間の思考や行動、その変容に関する基礎的な考え方、また、生活習慣や人間関係など健康に深く関わる行動とその変容、それらを支援する方策について学際的な観点から理解させる教育効果があった。
12）統合医療論（オムニバス形式）	平成20年4月～平成24年8月	神戸市看護大学看護学部看護学科の専任准教授として担当の「統合医療論」（看護の基盤となる科目Ⅱ、3年次配当、選択、1単位・15時間）において、統合医療や全人的ケアに関する授業を行い、それによって学生に、統合医療や全人的ケアの基本的な考え方、欧米や日本での実践事例や課題等を理解させる教育効果があった。（単位認定者として、統合医療や全人的ケアに関するトピックの講義と総括を担当）
13）健康とビジネス（オムニバス形式）	平成21年4月～平成25年3月	神戸市看護大学看護学部看護学科の専任准教授（平成21年4月～平成24年8月）及び兼任講師（平成24年9月～平成25年3月）として担当の「健康とビジネス」（看護の基盤となる科目Ⅱ、4年次配当、選択、1単位・15時間）において、健康をめぐるビジネスに関する授業を行い、それによって学生に、健康・医療・スポーツ分野におけるビジネスの動向、あり方、問題点及び可能性について、消費者の立場で理解させるとともに、看護専門職者としても多角的な観点から理解させる教育効果があった。（単位認定者として、健康ビジネスに関するトピックの講義、ディスカッション、レポート評価、総括を担当）
14）スタートアップセミナー	平成24年4月～平成24年8月	神戸市看護大学看護学部看護学科の専任准教授として担当の「スタートアップセミナー」（総合科目、1年次配当、必修、2単位・45時間）において、大学における学習・研究のために必要な「知の技法」及び保健・医療・福祉施設での早期体験に関する授業を少人数のゼミ形式およびグループ演習形式で行い、それによって学生に、図書館やインターネットを活用した情報収集の方法、レポートの作成方法、プレゼンテーション方法を主体的に習得させ、また、保健・医療・福祉施設の利用者とのコミュニケーションを通してその体験や思い、権利保護等について体験的に習得させる教育効果があった。

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
1　資格，免許		
1）神戸市少年団長尾少年団野球クラブコーチ	平成18年12月～平成20年6月	主に投手、打撃、走塁、外野守備を担当し、また、発育過程を考慮したトレーニングや練習方法も担当
2）ワットポー伝統医学校・タイ古式マッサージ基本コース（General Thai Massage）修了	平成23年3月	The Wat Po Traditional Medical School, Bangkok, Thailand, Certificate No. 5410100664

3) ロイクロ伝統タイ古式マッサージ＆ヨガスクール・フットマッサージ（Foot Massage）　修了	平成24年3月	Traditional Thai Massage & Yoga “Loi Kroh” School, Chiang Mai, Thailand, Given on 27-Mar-2012
4) ロイクロ伝統タイ古式マッサージ＆ヨガスクール・腹部デトックスマッサージ・レベル1（Abdominal Detox Massage, Level 1）　修了	平成26年3月	Traditional Thai Massage & Yoga “Loi Kroh” School, Chiang Mai, Thailand, Given on 7-Mar-2014
2　特許等		
なし		
3　実務の経験を有する者についての特記事項		
なし		
4　その他		
1) 文部科学省・現代的教育ニーズ取組支援プログラム（現代GP）（地域活性化への貢献＜地元型＞）「地元住民と共に学び共に創る健康生活―住民による教育支援と学生による地域支援の融合とeヘルスの活用―」事業	平成18年4月～平成21年3月	平成18年4月から平成21年3月までの3年間、神戸市看護大学看護学部看護学科の専任教員（平成18年4月から平成19年3月まで助教授、平成19年4月から平成21年3月まで准教授）として、文部科学省「現代的教育ニーズ取組支援プログラム（現代GP）（地域活性化への貢献＜地元型＞）」に採択された全学的な取り組みである「地元住民と共に学び共に創る健康生活―住民による教育支援と学生による地域支援の融合とeヘルスの活用―」事業に、予算調整責任者として従事し、事業推進責任者および学内調整責任者とともに事業を統括する役割を務めた。また、神戸市看護大学現代GP委員会において、健康生活支援学等学生教育部門委員（3年間）、eヘルス部門委員（3年間）、健康調査部門委員（3年間）、現代GP講演会・シンポジウム企画部門委員（2年間）、成果報告書企画・編集部門委員（1年間）を務めた。

研究業績等に関する事項				
著書，学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所，発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（著書）				
1.ダウン症児すこやかノート―成長発達の手引きと記録―	共著	平成18年4月	メディカ出版	ダウン症児を授かった親へのメッセージや心構えなどからはじまり、ダウン症に関しての知識、今後起こり得る病気や療育機関についてなど、幅広い視点から説明されている。療育の実践の章では、周産期から乳幼児期、学齢期、青年期とその子の成長を主治医とともに記録していける構成になっている。成長の記録の他に合併症の治療歴や検査結果なども記入できる。付録として、ダウン症児と健常児双方の「身長と体重の発育基準曲線」及び「学齢期縦断型身長・体重発育チャート」の上に、自身のグラフが描けるCD－ROMコンピュータソフト（Excel 2003, Windows XP 対応版）が付属している。 編集：藤田弘子、大橋博文 共著者：藤田弘子、大橋博文、幸田啓子、三浦久美、岩本昭雄、吉岡隆之 A5版　全122頁 本人担当部分：「ダウン症児身体発育曲線について」吉岡隆之、藤田弘子監修、ダウン症児身体発育曲線作成CD-ROM（コンピュータソフト）に収録（A4版1-3頁）を単著。 ダウン症の乳児期、乳幼児期、0～18歳の3つのタイプの「成長曲線（男・女）」及び「学齢期（小学1年～高校3年）発育チャート（男・女）」について、それぞれの概要、健常児との相違、評価方法、評価の際の注意点を詳細にわかりやすく解説した。
2.眼がとらえた情報がこころに与える影響、ルネッサンス京都21「五感シリーズ Ⅳ」	共著	平成21年1月	オフィスエム	「みる」は一番大きなこころの窓と考えられ、内容は先ず虫の目に見る世界から始まる。ついで音と共に移りゆく色彩を見ながらこころをゆすられるフィーリングアーツに、さらに科学の目で私たちの視覚はどのように進化してきたのかをたどる。太古に恐竜に追われて暗闇のなかにかろうじて生き残った哺乳類の中から最後に人類が進化してきたことが、色を視る仕掛けの中から読み取られる。ここからもう一度こころの問題に帰り、先ず心眼ともいうべき武道家の目の鋭さを解き、締めくくりは和菓子である。それは色と形と香り、味など五感を総動員して味わうべきものである。これらの世界を目という狭い窓口にとらわれず、読者の心にまでとどくようにそれぞれの著者の長年の研鑽の成果がこの本で披露されている。 監修:菅原努、編集：大東肇、中井吉英 共著者：福井宏至（teamむしのめ他3名）、北村義博、吉岡隆之、七田芳則、前田比良聖、青木直巳 四六版　全182頁 本人担当部分：第2章「癒しと感性の芸術フィーリングアーツ」（45-81頁）を共著。 絵画と光彩と音楽を融合させた体感型の統合芸術「フィーリングアーツ」について、国内外の教育・医療・福祉施設や被災地での活動内容、癒しの効果に関する研究成果（快いフィーリングの出現、自由なイメージ表現、ナラティヴ・セラピーとしての効果）、子ども向けのプログラムに関する研究成果（特別支援学校や子育て支援施設における研究、イドネシアと日本の比較研究）、ボランティアの体験や著名人からのコメントを紹介した。 （共同執筆につき本人担当部分抽出困難） 共著者：北村義博、吉岡隆之

（学術論文）				
1.継続的な身体トレーニングが心肺持久性指標としての相対心拍数増加率に及ぼす影響：競技者と非競技者の比較（査読付）	共著	平成16年3月	神戸市看護大学紀要，8，1-8	トレーニングが心肺持久性指標としての相対心拍数増加率(Δ%HR/ΔWR)に及ぼす影響を検討した。同年齢、同体格の健康な女子大学生で、日常的に身体トレーニングを行っている者（競技者）と行っていない者（非競技者）を対象に、両群間のΔ%HR/ΔWRを比較した。また、同時に両群間の最大酸素摂取量(VO2max)についても比較した。結果として、競技者群のΔ%HR/ΔWRおよびΔ%HR/Δ(WR/BM)は、競技者群に比べて約20%低かった。また、競技者群のVO2maxおよびVO2max/BMは非競技者群に比べて約30%高かった。以上の結果から、Δ%HR/ΔWRはVO2maxと同様にトレーニングにより改善することが示唆された。（共同研究につき本人担当部分抽出不可能） 共著者：吉岡隆之、 藤本繁夫、 後和美朝、 白石龍生
2.ダウン症学齢期縦断型身長・体重発育チャート	共著	平成16年11月	AUXOLOGY（成長学），10，48-50	発育の変化が大きく個体差も大きい学齢期（6～18歳）ダウン症候群（ダウン症）551例（男子308例、女子243例）の身長および体重の縦断的計測値（総数5、779）を対象資料として、特に個人の身長と体重の成熟度に着目し、時系列を追って発育の経過観察や評価を行うことが可能な「ダウン症学齢期縦断型身長・体重発育チャート」を構築した。遺伝的支配が標準とは異なると推定されるダウン症の発育を標準の発育と比較し、その違いからダウン症の自然成長の特徴を知り得ると考え、参考として標準の発育チャートを波線で添付した。（共同研究につき本人担当部分抽出不可能） 共著者：吉岡隆之、後和美朝、藤田弘子
3.ダウン症候群の自然成長（その2）：身長・体重スパートの「ずれ」を認識し得る発育チャート（査読付）	共著	平成17年1月	小児保健研究，64(1)，73-81	学齢期ダウン症候群（ダウン症）の発育について、特に身長と体重の発育スパート（発育量の急激な増加）の「ずれ」を認識し、時系列を追って発育の経過観察や評価を行うことが可能な「ダウン症学齢期発育チャート」を構築した。特にダウン症は、男女とも身長と体重のスパートの「ずれ」が標準に比べて大きく、身長スパートの後、遅れて体重スパートが出現する傾向がみられた。この傾向は女子で顕著であった。今回の「発育チャート」は、男女別にそれぞれ身長の現量値、体重の現量値、身長の年間増加量、体重の年間増加量および身長－体重パーセンタイルの5つのグラフで構成した。この5つのグラフを同時に観察することにより、ダウン症の特性、個人の身長・体重の長期的・短期的な発育変化、身長・体重スパートの「ずれ」および身長に対する体重の推移など、発育状況を多角的に、しかも視覚的に把握することができ、学齢期におけるダウン症児童・生徒個々人の身体発育および肥満・痩せ傾向を的確に評価し得ると考えられた。（共同研究につき本人担当部分抽出不可能） 共著者：吉岡隆之、藤田弘子、後和美朝、福嶋美津子

4.神戸市看護大学における ネットワークを利用した臨地教育支援の試み	共著	平成18年11月	平成18年度情報教育研究集会講演論文集，17-19	神戸市看護大学における臨地教育や臨床側からの要望が強いリカレント教育を支援するため、インターネットとVPN技術を用いた通信環境を構築して、神戸市立中央市民病院－神戸市看護大学間でオンラインカンファレンスと臨床現場の看護師のため講義映像のストリーミング配信等の実証実験を行った。コンピュータネットワーク技術を実習カンファレンスに応用することにより、遠隔地の実習場においても教員がネットワークを通じてリアルタイムにカンファレンスに参加できるシステムを構築することの可能性と有効性についての評価を行った。（共同研究につき本人担当部分抽出不可能） 共著者：吉岡隆之、長野勝利、江川幸二、吉永喜久恵、平河勝美、池川清子
5.保健と医療の語りとアート：フィーリングアーツとナラティヴ （学会依頼論文）	共著	平成19年6月	日本保健医療行動科学会年報，22，77-91	「フィーリングアーツ（FA）」は、音楽と光彩と抽象絵画による統合芸術であり、医療、福祉、教育施設などで公演活動が行われている。一方、「ナラティヴ・セラピー（NS）」は、問題を起こしている古い筋書きを別の新しい筋書きに書き換えようとする療法である。この「NS」としての「FA」について、2つの大規模な調査結果やボランティアのナラティヴ（語り）を交えて、「感動」「イメージ」「響き合い」「調和」など、芸術のもつ可能性を含めて考察した。（共同研究につき本人担当部分抽出不可能） 共著者：北村義博、吉岡隆之
6.無床助産所実習での学生指導における臨地指導助産師の経験（査読付）	共著	平成23年3月	神戸市看護大学紀要，15，83-90	助産学専攻科で実施する無床助産所実習の臨地指導助産師7名を対象に、実習指導の経験について半構成的面接調査を行い、その内容を意味の類似性に基づいてカテゴリー化した。その結果、「同じ志をもつ後輩を大切にする」「指導をチャンスと捉え大学と共に育てる」「活動･業務範囲内で可能かつ最良の実習内容を計画する」「地域での支援をよりよく経験できるように働きかける」「地域に根付いた助産師特有の助産観を伝える」の5つのカテゴリーに分類された。（共同研究につき本人担当部分抽出不可能） 共著者：安積陽子、高田昌代、子安恵子、谷川裕子、早瀬麻子、藤井ひろみ、嶋澤恭子、渡邊定博、吉岡隆之
7.Basic study on the clinical application of “Feeling Arts” as a healing method with a biofeedback approach	共著	平成23年10月	Proceedings of the 6th International Conference of Health Behavioral Science: Sustainable Health Promotion, The Executive Committee of the 6th International Conference of Health Behavioral Science 2010 (Kuala Lumpur), 156-158	「フィーリングアーツ（FA）」は音楽と光彩と抽象絵画による統合芸術で、人々の「こころの癒し」と「感性の開発」に効果がある。一方、「バイオフィードバック（BF）」は、自律神経系や内分泌機能などを意識的に制御することを可能にする工学的な手法である。本研究では、「FA」と「BF」を組み合わせて臨床に応用するための基礎的・実験的研究を行い、「FA」によるリラックス効果は「BF」を行うことにより助長されることが示唆された。（共同研究につき本人担当部分抽出不可能） 共著者：Takayuki Yoshioka、 Natsuki Ikeda、Kimiko Hiramatsu and Yoshihiro Kitamura

8.神戸市看護大学“まちの保健室”の活動評価―利用者のアンケート調査より（査読付）	共著	平成24年3月	神戸市看護大学紀要, 16, 11-20	日本看護協会が推進する「地域における新たな看護提供システム」としての「まちの保健室」のモデル事業は、少子高齢社会における新たな健康課題への取り組みである。神戸市看護大学では2005年12月に「まちの保健室」を開設し、健康相談に加え、健康に関する各種の講義、演習、健康度測定を組み合わせた活動を特徴としている。本研究では、この神戸市看護大学の「まちの保健室」の活動に関する利用者の満足度やニーズへの適合性について、利用者への質問紙調査を行い、概ね良好な結果を得た。（共同研究につき本人担当部分抽出不可能） 共著者：池田清子、安藤悦子、岩本里織、沼本教子、宇多みどり、丹野恵一、吉岡隆之
9.癒しの芸術「フィーリングアーツ」のリラックス効果に関する生理学的および心理学的検討（査読付）	共著	平成24年6月	日本保健医療行動科学会年報, 27, 226-239	フィーリングアーツは音楽と光彩と抽象絵画による統合芸術である。このフィーリングアーツを体験することによる客観的なリラックス効果や不安軽減効果などについて、生理学的・心理学的観点から検討した。その結果、生理学的観点からリラックス効果が認められ、どのような曲や色調の変化の時にリラックス効果が高まるかは、対象者によって大きく異なっていた。また、心理学的観点から状態不安の軽減効果が認められ、普段から不安の高い人ほど効果が大きかった。（共同研究につき本人担当部分抽出不可能） 共著者：吉岡隆之、北村義博、日野原重明、近森栄子、川口貞親
（その他）				
「国際学会発表」				
1.Growth standard for 0-18 years Japanese children with Down's syndrome: With appendant reference to longitudinal chart between 6 and 18 years	共同	平成16年4月	8th World Down Syndrome Congress (Singapore), Abstracts, p67	ダウン症候群（ダウン症）の小児保健指導や治療・評価において、ダウン症固有の自然成長を知る身体発育基準値が重要であるという認識に立ち、近畿地区で1975～2000年の間に出生したダウン症児1、513例、縦断的計測値総数23,430を対象資料とし、出生から18歳の縦断的成長曲線および発育基準値表を作成した。成長曲線は、97、90、50、10、3パーセンタイル値の5つの曲線で示され、男女別、身長・体重別で4つの図を作製した。それぞれの図には標準成長曲線が波線で添付されている。また、発育基準値表は各成長曲線から読みとり作成した。また、発育の変化が大きく個体差も大きい学齢期（6～18歳）については、より詳細に適切に評価するために、著者らの先行研究で開発した、年間増加量や身長・体重曲線を加味した「ダウン症学齢期縦断型身長・体重発育チャート」が付随している。（共同研究につき本人担当部分抽出不可能） 共同発表者：Takayuki Yoshioka, Hiroko Fujita, Yoshiaki Gowa, Miyako Kunisawa and Toshitaka Kakiuchi

2. Longitudinal growth chart for suitable assessment of overweight schoolchildren with Down syndrome: Development of useful computer software	共同	平成18年8月	9th World Down Syndrome Congress (Vancouver, Canada), Down Syndrome Quarterly, Vol. 8, Issue 1, p92	学齢期におけるダウン症児の発育を的確にしかも簡便に評価するために，身長と体重の発育テンポの違いや体型を考慮し得る縦断型の発育評価ソフトを開発し，そのソフトを用いてダウン症をもつ高校生54名（男子36名、女子18名）を対象に肥満評価を行った。体型（肥満度）曲線の基準をみると，ダウン症基準で50～90パーセンタイルとされる範囲（以下，イエローゾーン）は標準でいう90パーセンタイル以上の範囲に含まれる。今回のダウン症をもつ高校生54人のうち，このイエローゾーンと判定されたのは23人であったが，このうちほとんどの生徒が実際の皮下脂肪厚では通常範囲であった。これらの結果から，ダウン症をもつ生徒の身体発育や肥満を評価するときには，ダウン症独自の基準を用いる必要があることが確認できた。また，今回開発したダウン症発育基準チャートのコンピュータソフトを用いることで正しい評価が簡便にでき，個人差を考慮した的確な保健指導につながると考えらえた。（共同研究につき本人担当部分抽出不可能） 共同発表者：Takayuki Yoshioka, Hiroko Fujita, Yoshiaki Gowa, Mitsuko Fukushima, Kiyoko Fukuoka and Akio Toshima
3.Basic study on the clinical application of “Feeling Arts” as a healing method with a biofeedback approach.	共同	平成22年9月	6th International Conference of Health Behavioral Science (Kuala Lumpur, Malaysia), Conference Programme and Abstracts, p52	「フィーリングアーツ（FA）」は音楽と光彩と抽象絵画による統合芸術で，人々の「こころの癒し」と「感性の開発」に効果がある。一方，「バイオフィードバック（BF）」は，自律神経系や内分泌機能などを意識的に制御することを可能にする工学的な手法である。本研究では，「FA」と「BF」を組み合わせて臨床に応用するための基礎的・実験的研究を行い，「FA」によるリラックス効果は「BF」を行うことにより助長されることが示唆された。（共同研究につき本人担当部分抽出不可能） 共同発表者：Takayuki Yoshioka, Natsuki Ikeda, Kimiko Hiramatsu and Yoshihiro Kitamura
4. “Feeling Arts” for Caring and Peace (Trial Experience Corner) (Invited Lecture)	共同	平成24年3月	International Hiroshima Conference on Caring and Peace (Hiroshima, Japan), Programe & Abstracts, p48	ケアリングと平和をテーマに、音楽と光彩と抽象絵画による統合芸術であるフィーリングアーツの体験ワークショップを行った。まずフィーリングアーツを実際に体験する機会をもち、その後、フィーリングアーツの国内外での活動や効果等について、実践的な観点から概説した。また、フィーリングアーツによる体験交流をする中で、昨今の世界経済の破綻、自然災害、宗教や思想の違いによる対立などにより、多く命が失われ、人々の心身が傷ついている世界の現状に思いをはせ、共に平和と傷ついた人々の心身の調和のために祈りを捧げた（共同研究につき本人担当部分抽出不可能） 共同発表者：Yoshihiro Kitamura and Takayuki Yoshioka
「主な国内学会発表」				
1.ダウン症発育評価ソフトの開発とその利用―ダウン症をもつ高校生の肥満評価―	共同	平成19年6月	第54回近畿学校保健学会（神戸），第54回近畿学校保健学会講演集，p21	学齢期におけるダウン症児の発育を的確にしかも簡便に評価するために，身長と体重の発育テンポの違いや体型を考慮し得る縦断型の発育評価ソフトを開発し，そのソフトを用いてダウン症をもつ高校生69名（男子44人，女子24人）を対象に肥満評価を行った。その結果，標準の基準では肥満傾向と判定されるがダウン症の基準では肥満と判定されなかったのは25人で，このうちほとんどの生徒が皮下脂肪厚では通常範囲であり，ダウン症発育評価ソフトの有用性が確認された。（共同研究につき本人担当部分抽出不可能） 共同発表者：吉岡隆之，後和美朝，戸島章雄，田中康子，松本季代，菊池彩香

2.癒しの芸術フィーリングアーツ ―子どもの感性をひらく― （体験学習ワークショップ）（招聘講演）	共同	平成20年6月	第55回近畿学校保健学会(大阪)，第55回近畿学校保健学会講演集，pp41-42	絵画と光彩と音楽を融合させた統合芸術「フィーリングアーツ」を実際に体感し，その後，特に子ども向けのプログラム「キッズ・フィーリングアーツ（鑑賞，コントローラーによる調光操作の体験，鑑賞後の描画）」について，特別支援学校，子育て支援施設，児童養護施設あるいは医療施設等における活動の様子や研究成果，インドネシアと日本の比較研究などを紹介し，体験した上での感想や意見を共有し，また「フィーリングアーツ」の可能性について共に考えた。（共同研究につき本人担当部分抽出不可能） 共同発表者：北村義博，吉岡隆之
3.教師を対象とした物語風禁煙教材の試作	共同	平成20年6月	第23回日本保健医療行動科学会学術大会(山梨)，第23回日本保健医療行動科学会学術大会プログラム・抄録集，p40	児童生徒の模範となるためにも，また，児童生徒を受動喫煙の害から守るためにも，教師の禁煙は重要である。そこで今回，各種の行動科学理論を応用し，禁煙への行動変容を促すような教師のための物語風教材を試作し，その有効性について基礎的な資料を得る目的で，大学生に教材を視聴してもらった上でアンケート調査を行った。その結果，大部分の人にとって禁煙を意識し得る教材であると考えられた。（共同研究につき本人担当部分抽出不可能） 共同発表者：和田みなみ，吉岡隆之，北村義博
4.看護学生への禁煙支援―行動科学に基づく物語風教材の試作―（座長賞受賞）	共同	平成21年6月	第56回近畿学校保健学会(奈良)，第56回近畿学校保健学会講演集，p17	女性看護職の喫煙率は一般女性の約2倍といわれている。今回、看護学生の段階で禁煙をすることが有効と考え、看護学生が禁煙に関心をもち、行動変容ができるような物語風禁煙教材の作成し，実際に看護学生に教材を視聴してもらった上で，その有効性についてアンケート調査を行った。その結果から，看護学生にとって非常に効果的であると考えられた。（共同研究につき本人担当部分抽出不可能） 共同発表者：氏原曜子，吉岡隆之，北村義博
5.フィーリングアーツ ―芸術文化交流活動から感性・イメージ表現療法へ―（体験学習ワークショップ）（招聘講演）	共同	平成24年6月	第27回日本保健医療行動科学会学術大会（岐阜），プログラム・抄録集，p35	芸術文化交流活動から感性・イメージ表現療法へをテーマに、音楽と光彩と抽象絵画による統合芸術であるフィーリングアーツの体験ワークショップを行った。まずフィーリングアーツを実際に体験する機会をもち、その後、フィーリングアーツの国内外での活動や効果等について、実践的な観点から概説した。その後、現在開発中のバーチャル・フィーリングアーツを応用した「感性・イメージ表現療法」について概説し、その臨床への応用について議論を行った。（共同研究につき本人担当部分抽出不可能） 共同発表者：北村義博，吉岡隆之
「研究報告書」				
1.バイオならびに情報科学関連分野の研究動向調査	共著	平成19年10月	平成19年度神戸研究学園都市大学交流推進協議会共同研究概要（平成17年度研究班），Vol.6，pp6-7	幅広い分野の研究者が参加する「生命・情報科学懇話会」を立ち上げ，バイオならびに情報科学関連分野の最新の研究成果について，情報交換・意見交換を定例的に行う機会を設け，当該分野の研究動向を探ると共に，一般の人々を対象とした情報発信のモデルとなる開かれた研究会の運営方法について検討を行った。（共同研究につき本人担当部分抽出不可能） 共著者：芝崎誠司，井内善臣，秋吉一郎，冨永英夫，長野勝利，吉岡隆之，西山正秋，山本伸一，藤本健司

2.神戸学園都市地域における異世代交流による知の伝達の試み	共著	平成21年10月	平成20・21年度神戸研究学園都市大学交流推進協議会共同研究概要（平成18・19年度研究班），Vol. 7・8, pp12-13	少子高齢・核家族社会の中で，世代を超えた庶民生活文化の伝承（知の伝達）が十分に行われていない現状において，地域の特性を活かした有効な世代間コミュニケーションおよびコミュニケーションツールについて，神戸学園都市地域を対象として，異世代交流座談会および地域住民へのアンケート調査をもとに検討した。（共同研究につき本人担当部分抽出不可能） 共著者：秋吉一郎，井内善臣，長野勝利，吉岡隆之，藤本健司
3.神戸学園都市地域における異世代間の文化継承方法の研究	共著	平成23年6月	神戸研究学園都市大学交流推進協議会共同研究データベース（平成21年度研究） (URL) http://www.unity-kobe.jp/?page=exchange/resarch/past/2009/02	少子高齢・核家族社会の中で，世代を超えた文化の継承が十分に行われず，異世代文化が地域内に共存している現在の地域社会において，異世代交流による文化の継承はどのような仕掛けによって活性化されるかについて，神戸学園都市地域を対象として，実際に地域文化に関する活動を行っている団体からの意見聴取および地域住民へのアンケート調査をもとに検討した。（共同研究につき本人担当部分抽出不可能） 共著者：多井　剛，秋吉一郎，吉岡隆之，藤本健司

［注］

1 最近10年間の教育活動、研究活動について作成すること。

2 「教育活動」については、各項目ごとに年月日順に、「学会等および社会活動」については、就任年月日順に記入すること。

3 「研究活動」については、下記の点に留意すること。

① 著書・論文及びその他の順に、発表年月日順に記入すること。

② 著者が複数にわたる場合で、筆頭著者が著書・論文等において明示されている場合には、その氏名に◎印を付すこと。

③ 共著(論文)の場合、「該当頁数」の記入にあたっては、本人の分担箇所を特定できる場合は、その頁数を記載すること。

④ 最近10年間に著書・論文等の発表のなかった者についても、教員名を挙げてその部分を空欄にしておくこと。

⑤ 芸術分野や体育実技等の分野を担当する教員については、著書・論文等以外の競技会、展覧会または演奏会等での発表のうち、特に顕著な業績と認められるものについても記載すること。このほか、専門分野の特性を 考慮し、顕著な業績と認められるものがある場合もこれに含めてもよい。

教　育　研　究　業　績　書

平成26年3月31日

氏名　　渡辺　邦博

研究分野	研究内容のキーワード
理論経済学、経済思想、経済史	経済学説史、経済思想史、古典派経済学、重商主義、ステュアート、スミス

教育上の能力に関する事項

事項	年月日	概要
1　教育方法の実践例		
1）特記事項なし		
2　作成した教科書，教材		
3　教育上の能力に関する大学等の評価		
1）特記事項なし		
4　実務の経験を有する者についての特記事項		
1)　DVDと共に語る経済学成立の背景	平成17年4月23日	大学と地域社会の連携の試みとして、王寺町と共催して継続している公開講座第一回目の講演タイトル。スミスやステュアートに関係するスライド、関係DVDを紹介した。
2)　熊谷次郎訳・マグヌソン『重商主義』の合評会で司会	平成20年1月23日	重商主義に関する最近の動向を反映するマグヌソンの訳者の一人・熊谷次郎氏を招き、マグヌソンの学説について研究会を行った。
3)　ジョン・ヴィント「ハリエット・マーティノーと経済学の制度化」の講演で司会	平成22年3月15日	ジョン・ヴィント、マンチェスター・メトロポリタン大学教授の経済学の普及・制度化に関する講演は、古典派経済学の普及過程の好例であるが、氏の見解を研究した。
4)　奈良県王寺町･奈良産業大学共催「りーべるカレッジ」において、「特命全権大使米欧回覧実記と文明開化」を講演した。	平成23年10月1日	奈良県王寺町と奈良産業大学協賛「りーべるカレッジ」於;王寺町地域交流センター 政情未だ不安定な明治維新直後に、政府中枢メンバーと多数の留学生によって、条約改正と言う当初の目的と期間を大きく上回る一大旅行によって、明治のリーダーたちが、何を学び、日本の進路に生かそうとしたのか、膨大な記録を読み解いて、使節団の意図したことを考える。
5)　地域公共学総合研究所第一回経過報告会　「吉野林業関係調査経過報告」	平成23年3月	吉野林業関係調査経過報告、谷弥兵衛氏の大著「近景吉野林業史」の紹介を中心に現地林業調査の概要を報告した。
6)　地域公共学総合研究所第二回経過報告会＆公開講演会　「台湾フェローシップ参加報告」＆「公開講演会の開会の辞」、福井県立大学服部茂幸講師紹介	平成24年2月	台湾フェローシップ参加報告＆公開講演会の開会の辞、福井県立大学服部茂幸講師紹介
7)　地域公共学総合研究所第三回経過報告会　「台北高等商業学校の商業教育調査」	平成25年3月	4ヶ月の台湾奨助金を得て旧日本が台北に設置した高等教育機関＝台北高等商業学校の商業教育を調査した成果を紹介した。

5　その他		
1）特記事項なし		

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
1　資格，免許		
1）博士（経済学）	平成21年3月	関西大学　第415号　論文題目　「ジェイムズ･ステュアートとスコットランド」
2　特許等		
1）特記事項なし		
3　実務の経験を有する者についての特記事項		
1)　国立屏東科技大　技職及職業教育研究所，Graduate Institute of Vocational and Technological Education　2012/03/15　I. 第二次大戦前の台湾における高等商業教育　High commercial school education in Taiwan before WW II	平成24年3月	国際交流提携校の依頼により、一旦職業に就いた大学院生向けのワークショップを行った。
2）II. How Japan developed Taiwan by Japanese and western technology and knowledge.　2012/03/22	平成24年3月	国際交流提携校の依頼により、一度職業に就いた大学院生向けのワークショップを行った。
4　その他		
1）日本高等教育評価機構評価委員	平成24年４月1日から平成27年月31日まで	

研究業績等に関する事項				
著書，学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所，発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（著書）				
1．『ジェイムズ・ステュアートとスコットランド---もう一つの古典派経済学---』	単	平成19年4月	ミネルヴァ書房	ステュアートの背景、主著以外の著作を中心に、その経済学説の普及拡大を考察し、伝記的部分によって補足した。
（学術論文）				
1．　ジョン・ヴィント、ハリエット・マーティノーと労働紛争	単	平成23年11月	奈良産業大学社会科学学会、社会科学雑誌第3号	pp.151-190.19世紀初頭、イングランドの今日風に言えば女流作家マーティノーは、近代的な工場システムの導入に直面した工場労働者たちによる「機械打ちこわし」に直面して、工場劇とでも分類されうる劇脚本を多数発表して、いわゆる「流行作家」となった。ヴィントは、彼女が依拠した経済理論と彼女の理解を比較して、演劇と言うジャンルによって彼女が経済学の普及に貢献したことを分析した。ヴィント論文の翻訳を通じて、マーティノーを紹介すると共に、後期マーティノーの変質との関係を解説として付加した。
2．近世吉野林業に関する最近の労作 -Basic Structure of Yoshino Forestry in the Edo era-	単	平成24年	龍谷大学里山研究センター報告書	多間伐で先進的を言われる吉野林業については、実のところ、その起源まで遡った通史がなかった。

３．新聞購読に関する意識調査	共	平成23年12月	奈良産業大学紀要第２７集	pp.113-125.大学生が新聞を読まない。それでは、彼らはどのように日々の情報を入手しているのか？新聞に関する意識はどのようなものかを近畿圏3つの大学を中心に500ほどのサンプルを収集、解析した。
４．日本統治下の台湾における高等商業教育 ー台北高等商業学校を中心としてー	単	平成24年3月	奈良産業大学地域公共学総合研究所 研究年報第2号	pp.53-61.　旧日本領であった台湾の高等教育機関、とりわけ高等商業教育機関の台北高等商業学校のカリキュラム、スタッフなどを検討することで、経済学がどのように普及したか、さらには西洋技術がどう適用されたのかを研究する基礎を探求した。
５．ダリエン計画をめぐって	単	平成24年3月	社会科学雑誌 第4号	pp.43-50.17世紀末、未だ独立国であったスコットランドは、イングランドによる政治的攻勢と経済的停滞から脱出するため、起死回生策として、中南米のダリエン地峡に植民地建設を企画した。啓蒙思想研究に隠れて必ずしも活発とは言えないこの計画の基礎的研究文献を紹介する一階梯として、計画全体のスケッチを示した。
6.Report for Taiwan Fellowship 2012,　Two Journals published by Taipei High Commercial School before the World War II.　　By Kunihiro Watanabe, Research Institute for Public Affairs, Nara Sangyo University	単	平成24年7月	中華民國國家図書館漢学研究中心報告書	2012年台湾外交部台湾奨助金訪問學人報告
グロサリ:『特命全権大使米欧回覧実記』帰路に観る固有名詞表記ーーー地名・国名を中心としてーーー	単	平成24年11月	社会科学雑誌第5号	pp.603-612.『特命全権大使米欧回覧実記』の帰路に現れた固有名詞表記に米欧諸国表記の日中文化歴史の差異を検討した。
「どのようにして日本は日本と西洋の技術・知識を通じて台湾を開発したのか」	単	平成24年12月	奈良産業大学紀要第28集	pp.217-226.屏東科技大学技職所の依頼で院生向けに実施したワークショップの教案。
2012年度台湾林業調査報告	山本英司との共同	平成24年12月	奈良産業大学地域公共学総合研究所年報第3集	pp.119-136.2012年9月に実施した台湾林業調査の速報。
台北高等商業学校の商業教育について	単	平成25年6月	経済学論究67-1	pp.65-104.台北高等商業学校の商業教育の分析
地名を検索する	単	平成26年3月	奈良産業大学地域公共学総合研究所年報第4集	pp.53-66.　グーグルマップを利用した伝記的資料の確認。
（その他）				
（翻訳）				
ジョン・プレブル著『ダリエンの大惨事』	単	平成24年12月	奈良産業大学地域公共学総合研究所年報第3集	pp.137-147、プリブルの研究書『ダリエンの大惨事』の翻訳、中米パナマ地峡近傍のダリエンでのスコットランド植民地建設失敗に関する箇所の翻訳。
ジョン・プレブル著「ウスター事件、エディンバラ、1705年」	単	平成25年年2月	桃山学院大経済経営論集54-3	pp.53-77、プリブルの研究書『ダリエンの大惨事』の翻訳、1705年にエディンバラで起こったイングランド船乗組員の処刑事件の経緯部分の翻訳。
（書評）				
（辞典項目）				

(学会報告)				
1. ジェイムス･ステュアート	単	平成19年10月14日	社会思想史学会第32回大会(立命館大学) セッションF「ヒュームとスミス」	大会セッションFで 、拙著『ジェイムズ･ステュアートとスコットランド」が合評の対象となり、発題に答弁した。
2. 『コールドウェル文書』をめぐって	単	平成19年12月	アダム･スミスの会例会(芝蘭会館)	ステュアート関係の重要文書(『コールドウェル文書』『コルトネス文書』など)の研究意義を説明した。
3. ジェイムズ・ステュアート研究の現在	単	平成20年12月3日	関西大学公開セミナー(経商合同会議室)	関西大学のセミナーからの要請で、日本のステュアート研究の原状と課題を説明した。
4.台北高等商業学校の商業教育について	単	平成24年12月22日	経済学史研究会第218回例会報告	台湾フェローシップの助成を受け、台北高等商業学校の雑誌を収集し、その記事を分析した経過を報告した。
5.台湾林業の現状と課題	山本英司と共同	平成24年12月26日	龍谷大学里山学研究センター定例研究会	平成24年９月に実施された林業調査を山本英司氏との共同で報告した。
6. ハーマンのダリエン計画論とヒュームに関する記述について	単	平成25年10月26日	関西学院大学	セッションB「ヒュームとスミス」、アーサー・ハーマン著(篠原久監訳・守田道夫訳)『近代を創ったスコットランド人』(昭和堂、2012年)合評会での問題提起

[注]

1 最近10年間の教育活動、研究活動について作成すること。

2 「教育活動」については、各項目ごとに年月日順に、「学会等および社会活動」については、就任年月日順に記入すること。

3 「研究活動」については、下記の点に留意すること。

① 著書･論文及びその他の順に、発表年月日順に記入すること。

② 著者が複数にわたる場合で、筆頭著者が著書･論文等において明示されている場合には、その氏名に◎印を付すこと。

③ 共著(論文)の場合、「該当頁数」の記入にあたっては、本人の分担箇所を特定できる場合は、その頁数を記載すること。

④ 最近10年間に著書･論文等の発表のなかった者についても、教員名を挙げてその部分を空欄にしておくこと。

⑤ 芸術分野や体育実技等の分野を担当する教員については、著書･論文等以外の競技会、展覧会または演奏会等での発表のうち、特に顕著な業績と認められるものについても記載すること。このほか、専門分野の特性を 考慮し、顕著な業績と認められるものがある場合もこれに含めてもよい。

教　育　研　究　業　績　書

平成26年3月31日

氏名　　伊﨑　一夫

研究分野	研究内容のキーワード

教育上の能力に関する事項

事項	年月日	概要
1　教育方法の実践例		
(1)相互評価活動による支持的・受容的風土を有する国語教室づくり	昭和62年～現在	伝え合い活動、「いいところ見つけ」によって、学習者の表現吟味力の育成、コミュニケーションの活性化による支持的･受容的な人間関係の構築などを自らの学級で実践し、確認してきた。その具体的手立てとしては、付箋紙による評価コメントの交換や、相互評価の観点となる学び方や認識力の活用できる既習事項として蓄積する「くらしの言葉・学びの言葉」等がある。一連の研究成果を活用し、博論「これからのあるべき国語教室に関する実践的研究」をまとめるなど、研究を継続している。 （神戸大学附属住吉小学校・三田市立公立小学校・環太平洋大学）
(2)PISA型読解力を育む読解指導	平成10年～現在	文学教材、説明文教材において「情報の取り出し－解釈－熟考・評価－論述」のPISA型読解力のプロセスを満たす読解指導の研究を継続的に行ってきた。文学教材では、気持ちの読み取りに終わらない目的意識を明確にし、テキストの価値を吟味・評価する読み方の指導を中心にし、説明文では、発信を意識した立場から効果的な文章構成や表現技法を確かに学ばせる読解指導を展開している。研究成果は、著作・論文等において公開している。 （三田市立公立小学校・環太平洋大学）
2　作成した教科書，教材		
(1) 大学用教科書の編集執筆 移行期からはじめる新しい国語科の授業づくり （総頁数133P,責任編集　伊﨑一夫・阿部秀高）	平成21年 ４月10日 日本標準	平成20年度版学習指導要領実施に伴い，「言語活動の充実」の意味と意義を中心に、格上げされた言語活動例の具体化とその方法について詳細に解説した。自ら行った授業実践例等についても豊富に掲載し，確かな言語力を育成するための授業づくりのポイントと、求められる指導方法の工夫改善について具体的に解説した。　平成22年度「国語科教育法」の授業において教科書として使用。
(2)大学用教科書の編集執筆 子どもと言葉・絵本の世界 （総頁数65P,単著）	平成21年 9月1日 友野印刷	0歳から就学前、さらに小学校低学年までの子どもの言葉の発達過程の概要を示し、園生活を中心に小学校入学時までの子どもの言葉に関わるさまざまな事例を用いながら、子どもの生活や遊び、子ども同士の関わりが言葉の発達にどのように影響するのか解説した。また、幼稚園教育要領の領域「言葉」の「ねらい」に示された子どもの言葉を育てるために、言葉が育つ環境と要因、保育者の言葉かけや援助のあり方、絵本・紙芝居などの児童文化財の活用方法などについて具体的な方法を提示した。特に絵本の読み聞かせについて詳述している。平成21～22年度「子どもと言葉」の授業において教科書として使用。
(3)大学用教科書の編集執筆 小学校国語科 学習指導案で授業が変わる！ －学習指導案を読む・書く・使いこなす－ （総頁数135P,単著）	平成23年 4月10日 日本標準	国語科の授業づくりの具体化を学習指導案の計画･立案によって行うことを基本方針に、「学習指導案を読み解く」「学習指導案を書ききる」「学習指導案を使いこなす」「教材解釈と授業づくり」「学習指導要領で求められる国語力とそのポイント」を観点として、「言語活動の充実」を担う国語科の役割とその具体化について詳細に解説した。平成23～24年度「国語科教育法」の授業で教科書として使用。

3　教育上の能力に関する大学等の評価		
(1) 平成21年度環太平洋大学授業評価アンケート結果	平成21年度	学生による授業評価結果 ・「子どもと言葉」平均3.8(4段階) 「子どもと言葉」は「授業で使用された教科書の有効性」の評価(平均3.9/4.0)が高い。
(2) 平成22年度環太平洋大学授業評価アンケート結果	平成22年度	学生による授業評価の結果 ・「国語科教育法」平均3.8(4段階) ・「子どもと言葉」平均3.8(4段階) 「子どもと言葉」「国語科教育法」は「授業で使用された教科書の有効性」の評価(平均3.9/4.0)が高い。
(3) 平成23年度環太平洋大学授業評価アンケート結果	平成23年度	学生による授業評価の結果 ・「国語科教育法」平均3.7(4段階) ・「言葉の理解」平均3.5(4段階) 「国語科教育法」では「授業で使用された教科書の有効性」の評価(平均3.8/4.0)が高い。
(4) 平成23年度環太平洋大学授業評価アンケート結果	平成23年度	学生による授業評価の結果 ・「国語科教育法」平均3.7(4段階) ・「言葉の理解」平均3.8(4段階) 「国語科教育法」では「授業で使用された教科書の有効性」の評価(平均3.8/4.0)が高い。
4　実務の経験を有する者についての特記事項		
(1)兵庫教育大学主催の研修講座講師 「実践者と研究者のコラボレーションによる国語科授業づくりセミナー　ー授業びらき・授業つなぎ・授業おさめー」	平成19年 8月	実践事例として，1年生への年間を通した作文指導，絵本等の紹介活動を中核とする読書指導などを示しつつ，授業実践における「意味・価値」を解説し，個々の教師が，確かで豊かな国語授業を自らの実践において生み出すための示唆を与えた。
5　その他		
特になし		

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
1　資格，免許		
2　特許等		
3　実務の経験を有する者についての特記事項		
4　その他		

研究業績等に関する事項				
著書，学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所，発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（著書）				
(1) 小学校国語科 PISA型読解力 向上の学習問題と 解説	共著	平成19年 4月25日	明治図書	国語科の教育課程実施調査，PISA調査の課題をふまえ，PISA型読解力を向上させるための具体的なプランの提示と、その有効性について論じた。B5版 総頁数86P　編者:小森茂　共著者:伊崎一夫・雨宮久高他10名 担当:2章1節「テキストを理解･評価しながら読む力を高める学習問題」pp.14-25単著 内容:言語教育という国語科の立場から，学習者の「国語への関心・意欲・態度」と「テキスト中の情報抽出」とを大切にし，「テキストの解釈」「熟考・評価」に応じた具体的なプランを提案し，その効果的な活用法を詳述した。特に，これまでの読解指導との違いを明確化した。【関連科目：国語科指導法】
(2)教育フォーラム46 〈言葉の力〉を育てる	共著	平成22年 8月25日	金子書房	平成20年度版学習指導要領の中核理念を成す“言葉の力”の育成をふまえ、その確かで豊かな実現に向け、さまざまな教科における言語力育成に関する実践的提案を行っている。A5版 総頁数159P編者:梶田叡一　共著者:梶田叡一・加藤明・伊崎一夫他10名　担当:「論理的記述力を高めるーお気に入りの本を選び『おすすめの文章』を書こうー」pp.25-35
				単著 内容:PISA型読解力を強化するためには論理的記述力が不可欠であり、具体的な根拠に基づき自分の考えを主張する論理的記述力育成の可能性を「読むこと」領域との連携に求め、「読んだ本について、好きなところを紹介する」言語活動を例に、その工夫改善の有効性を論じた。 【関連科目：国語科指導法】
(3) 国語実践に学ぶ 「基礎・基本習得 の技能」	単著	平成24年 8月21日	株式会社ERP 教育PRO 特集号	平成20年度版学習指導要領の要である「言語活動の充実」をふまえ、「言葉の力」の獲得を保障する学習活動について実践的方向を示し、その具体化の手立てと有効性について論じた。学習活動の活性化のためには、単元構想や実際の指導における仕組みや仕掛けの工夫が求められると共に、学習指導要領の指導事項として示されている「言葉の力」の理解と吟味が不可欠であることを強調した。学習指導要領において示された記録、報告、解説、推薦等の言語活動例を取り上げ、それらの意味と意義について、実践事例を挙げながら詳述している。 B5版　総頁数40P 【関連科目：国語科指導法、教育実習事前事後指導(小)、教育実習Ⅰ(小)、教育実習Ⅱ(小)、教職実践演習(幼・小)】
(4) 国語授業へのアプローチ・知っておきたい国語教育の〈ことば〉	単著	平成24年 10月20日	株式会社ERP ERPブックレット	平成20年度版学習指導要領の要である「言語活動の充実」をふまえ、指導事項に取り上げられている基礎的･基本的な用語を取り上げ、文芸理論、分析批評等の観点をふまえ、その意味や意義を解説した。具体的には、「登場人物」「主題」「視点」「ファンタージ教材」「イメージ化」「音読・朗読・暗唱」「形式段落・意味段落」「事実・意見」「説明・解説」「俳句・短歌」「漢字」「書写(トメ・ハネ・ハライ)」などの用語について、具体的な実践事例を示しながら詳述している。 A5版　総頁数86P 【関連科目：国語科指導法、教育実習事前事後指導(小)、教育実習Ⅰ(小)、教育実習Ⅱ(小)、教職実践演習(幼・小)】

(5)教育フォーラ51 言語活動―『読み』『書く』の力を中心に	共著	平成25年 2月25日	金子書房	平成20年度版学習指導要領が目指す＜言葉の力＞を育む理論と実践のあり方を提案。 A5版　総頁数135P 編者：梶田叡一 共著者：梶田叡一・伊﨑一夫他10名 担当：「文学教材の論理的読解のために－「主題把握」とテキストの多様な情報を関連付けることを－」pp,48-58　単著 内容： PISA型読解力においては「自分の考え」を論述することが不可欠となる。妥当性のある「自分の考え」を持つために、テキストの文脈的理解と主題把握に関わる多様な情報を関連付けることによって論理的思考力が強化され、「自分の考え」が創出されることを論証した。 【関連科目：国語科指導法、教育実習事前事後指導(小)、教育実習Ⅰ(小)、教育実習Ⅱ(小)、教職実践演習(幼・小)】
(6)教育フォーラム53 文学が育てる言葉の力 文学教材を用いた指導をどうするか	共著	平成26年 2月25日	金子書房	今までよりさらに高次の「言葉の力」を育成するため、文学作品に惹きつけられる出会いと的確な指導のあり方を提案。 A5版　総頁数148P 編者：梶田叡一 共著者：梶田叡一・伊﨑一夫他11名 担当：「テキスト全体の構造的理解を促す文学教材の指導」pp,37-47　単著 内容： 児童生徒に文学の持つ魅力に気づかせ、作品を通して子どもの言葉の世界を深めさせていくためには、物語の構造的理解に関する学習が不可欠であることを、「三年とうげ」（光村3年下・平成23年本）を例に論証した。 【関連科目：国語科指導法、教育実習事前事後指導(小)、教育実習Ⅰ(小)、教育実習Ⅱ(小)、教職実践演習(幼・小)】
（学術論文）				
(1) 読解リテラシーの向上をめざす学習指導の工夫に関する研究－絵本の読み聞かせを取り入れた読解指導－	単著	平成22年 3月	環太平洋大学研究紀要 第3号 環太平洋大学 pp.43-50	幼稚園の「ことば」領域と小学校入門期の「読むこと」領域において、PISA型「読解力」の育成を可能とする学習指導の工夫改善のポイントを「絵本の読み聞かせ」に求め、その有効性について論じた。特に、面白さの理由を表出する場の強化によって、読解リテラシーの向上が保障されることを、実践によって検証・確認した。幼児期から小学校低学年までの言語獲得とその発達における質的変化を論証の対象とした。 【関連科目：子どもと言葉】
(2) 読解リテラシーの向上をめざす学習指導の工夫に関する研究(2) －「つなぐ思考」の活性化－	単著	平成23年 3月	環太平洋大学研究紀要 第4号 環太平洋大学 pp.65-71	幼稚園の「ことば」領域と小学校入門期の「読むこと」領域における学習活動において、論理的思考力の育成を可能にする学習指導の工夫改善のポイントを「つなぐ思考」に求め、その有効性について論じた。特に、「つなぐ思考」を促す接続詞を活用することによって、論理的思考力が向上することを実践によって検証・確認した。幼児期から小学校低学年までの言語獲得とその発達における質的変化を論証の対象とした。【関連科目：子どもと言葉】

(3) 論理的思考を強化し、「つなぐ思考」を活性化する単元開発－「どうぶつの赤ちゃん」を例に－【査読あり】	単著	平成23年4月	月刊「国語教育研究」№468 日本国語教育学会 pp. 10-15	論理的に思考し、論理的に記述するためには、事象と事象とを関連づけ、そこに必然的な結びつきを見い出す思考、情報を「つなぐ思考」が求められることを示し、その有効性について論じた。単元開発の一例として、「どうぶつの赤ちゃん」（光村１年）における図鑑作りを取り上げ、「つなぐ思考」を強化することによって、論理的思考は活性化し、自分の考えを主張できる「表現力」へと結びつくことを明らかにした。【関連科目：国語科指導法】
(4) 国語科の課題－「習得」と連動した「言語活動」の構想－	単著	平成23年12月	「新しい教育」Vol. 25 日本標準教育研究所 2011年12月 PP. 2-5	平成20年度版学習指導要領が求める「言語活動の充実」は「各教科等を貫く重要な改善の視点」であり、そのために各教科の中核に位置付く国語科が重要な役割を担っていることをふまえ、「習得」と連動した「言語活動」のありようについて、具体的に論じた。考察対象として、「スピーチ」「宝物紹介」「感想文」「読解学習」等、小・中学校の指導事例を全般的に取り上げた。「言語活動の充実」においては、考察対象とした「スピーチ」「宝物紹介」「感想文」等の生成にとどまることなく、それらを用いた学級内外他者による相互評価活動が不可欠であることを強調している。【関連科目：国語科指導法、教育実習事前事後指導(小)、教育実習Ⅰ(小)、教育実習Ⅱ(小)、教職実践演習(幼・小)】
(5) いま「学び方開き」のとき－学びの基礎を手ほどきする－	単著	平成25年4月	「小四教育技術」平成25年4月号 小学館 PP. 75-80	学級開きの4月が一年間の学び方の基礎を教えるときであることを指摘し、その具体的手法として「朝の会のミニスピーチ」「教科書の仕組みを知る学習」「音読カードの項目の作成」「連絡帳による学習のふり返り」等を提案した。全ての教科学習に共通する学び方として、「話し方」「聞き方」「本読みの仕方」「ノートの使い方」「ふり返りの仕方」などがあり、4月時期に意図的・計画的に指導する必要があることを強調した。【関連科目：国語科指導法、教育実習事前事後指導(小)、教育実習Ⅰ(小)、教育実習Ⅱ(小)、教職実践演習(幼・小)】
(6)小学校国語科教育の課題と克服に向けて―「言葉の力」を育む「ノート指導」と「学習で使う言葉」―	単著	平成26年4月	「教育ＰＲＯ」第44巻第8号 日本教育綜合研究所 2014年4月 PP. 16-19	国語指導のさらなる工夫改善につながる糸口を、平成25年の「全国学力・学習状況調査」に求め、その具体的方策として、「論理的思考力にかかわる用語の指導」「学習で使う用語の適切な指導」「年間を通した言語活動の継続」「めあて・ふり返りの明確化」「ノート指導の充実」等の重要性を具体例とともに論述した。【関連科目：国語科指導法、教育実習事前事後指導(小)、教育実習Ⅰ(小)、教育実習Ⅱ(小)、教職実践演習(幼・小)】
その他				
特になし				

［注］

1 最近10年間の教育活動、研究活動について作成すること。

2 「教育活動」については、各項目ごとに年月日順に、「学会等および社会活動」については、就任年月日順に記入すること。

3 「研究活動」については、下記の点に留意すること。

① 著書・論文及びその他の順に、発表年月日順に記入すること。

② 著者が複数にわたる場合で、筆頭著者が著書・論文等において明示されている場合には、その氏名に◎印を付すこと。

③ 共著(論文)の場合、「該当頁数」の記入にあたっては、本人の分担箇所を特定できる場合は、その頁数を記載すること。

④ 最近10年間に著書・論文等の発表のなかった者についても、教員名を挙げてその部分を空欄にしておくこと。

⑤ 芸術分野や体育実技等の分野を担当する教員については、著書・論文等以外の競技会、展覧会または演奏会等での発表のうち、特に顕著な業績と認められるものについても記載すること。このほか、専門分野の特性を 考慮し、顕著な業績と認められるものがある場合もこれに含めてもよい。

教　育　研　究　業　績　書

平成26年3月31日

氏名　　小野　俊郎

研究分野	研究内容のキーワード
化学,情報教育、物理学、生物物理学	精油、香料、ローレンツ変換、相対論、視覚、ロドプシン

教育上の能力に関する事項

事項	年月日	概要
1　教育方法の実践例		
2　作成した教科書，教材		
3　教育上の能力に関する大学等の評価		
4　実務の経験を有する者についての特記事項		
5　その他		

職務上の実績に関する事項

事項	年月日	概要
1　資格，免許		
社団法人全国保育士養成協議会 児童福祉施設福祉サービス第三者評価調査者	平成16年7月19日	認定番号521
2　特許等		
3　実務の経験を有する者についての特記事項		
4　その他		

研　究　業　績　等　に　関　す　る　事　項				
著書，学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所，発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要
（著書）				
（学術論文）				
Volatile compounds with characteristic aroma of boiled sweet potato (*Ipomoea batatas L. cv* Ayamurasaki, *I. batatas L. cv* Beniazuma and *I. batatas L. cv* Simon 1)（査読付）	共	平成25年（2013）	Journal of Essential Oil Research Volume 25, Issue 6, 2013 pages 497-505	３品種のサツマイモの精油を水蒸気蒸留法で抽出した。また得られた精油の成分をGCおよびGC/MSにより同定して、比較検討した。hexadecanoic acidが3品種に共通して、最大成分またはそれに準じた成分であることなどがわかった。また、香気特性について、GC-Oを使い、AEDA分析を行った。担当部分：論文取り纏め Atsuhiko Nakamura, Toshirou Ono, Nobuo Yagi & Mitsuo Miyazawa
Comparison of Volatile Compounds with Characteristic Odor in Flowers and Leaves of Nojigiku (*Chrysanthemum japonense*)（査読付）	共	平成25年（2013）	Journal of Oleo Science Vol. 62 (2013) No. 8 pp. 631-636	ノジギクの葉と花から、それぞれ、ジエチルエーテルを用いて水蒸気蒸留法で精油を抽出した。精油をGCおよびGC/MSにより同定して、比較検討した。ともに、campherが40%程度以上存在することがわかった。またノジギクアルコールがそれに次いで存在することなどがわかった。また香気特性についても、調べた。 担当部分：論文取り纏め Atsushi Usami, Toshirou Ono, Shinsuke Marumoto, Mitsuo Miyazawa
Comparison of agitake (*Pleurotus eryngii* var. *ferulae*) volatile components with characteristic odors extracted by hydrodistillation and solvent-assisted flavor evaporation.（査読付）	共	平成26年（2014）	Journal of Oleo Science vol.63(2014) No.1,pp.83-92	アギタケの精油を水蒸気蒸留法とSAFE法で抽出した。溶媒として、ジエチルエーテルとジクロロメタンの両方を使用した。精油をGCおよびGC/MSにより同定して、比較検討した。2,3,7-trimethyl-2-octeneとMethylsuccinimideが、ヒラタケ属のキノコ精油の中にも存在することが確認できた。また、最も特徴的な香気成分が1-octen-3-olであることなどが判った。 担当部分：論文取り纏め Usami A,Ono T,Kashima Y,Nakahashi H,Marumoto S,Nosaka S,Watanabe S,Miyazawa M

［注］

1　最近10年間の教育活動、研究活動について作成すること。

2　「教育活動」については、各項目ごとに年月日順に、「学会等および社会活動」については、就任年月日順に記入すること。

3　「研究活動」については、下記の点に留意すること。

①　著書・論文及びその他の順に、発表年月日順に記入すること。

②　著者が複数にわたる場合で、筆頭著者が著書・論文等において明示されている場合には、その氏名に◎印を付すこと。

③　共著（論文）の場合、「該当頁数」の記入にあたっては、本人の分担箇所を特定できる場合は、その頁数を記載すること。

④　最近10年間に著書・論文等の発表のなかった者についても、教員名を挙げてその部分を空欄にしておくこと。

⑤　芸術分野や体育実技等の分野を担当する教員については、著書・論文等以外の競技会、展覧会または演奏会等での発表のうち、特に顕著な業績と認められるものについても記載すること。このほか、専門分野の特性を 考慮し、顕著な業績と認められるものがある場合もこれに含めてもよい。

教　育　研　究　業　績　書

平成26年3月31日

氏名　　清都　千春

研究分野	研究内容のキーワード
法学	憲法、比較法、比較憲法

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
1　教育方法の実践例		
1）特記事項なし		
2　作成した教科書，教材		
1）特記事項なし		
3　教育上の能力に関する大学等の評価		
1）特記事項なし		
4　実務の経験を有する者についての特記事項		
1）特記事項なし		
5　その他		
1）特記事項なし		

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
1　資格，免許		
1）特記事項なし		
2　特許等		
1）特記事項なし		
3　実務の経験を有する者についての特記事項		
1）特記事項なし		
4　その他		
1）特記事項なし		

研　究　業　績　等　に　関　す　る　事　項				
著書，学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所，発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　要
（著書）				
（学術論文）				
原発事故、地球温暖化とスピンコントロール	単著	平成24年12月	奈良産業大学地域公共学総合研究所年報第３集１４９頁	
（その他）				

［注］

1 最近10年間の教育活動、研究活動について作成すること。

2 「教育活動」については、各項目ごとに年月日順に、「学会等および社会活動」については、就任年月日順に記入すること。

3 「研究活動」については、下記の点に留意すること。

① 著書・論文及びその他の順に、発表年月日順に記入すること。

② 著者が複数にわたる場合で、筆頭著者が著書・論文等において明示されている場合には、その氏名に◎印を付すこと。

③ 共著（論文）の場合、「該当頁数」の記入にあたっては、本人の分担箇所を特定できる場合は、その頁数を記載すること。

④ 最近10年間に著書・論文等の発表のなかった者についても、教員名を挙げてその部分を空欄にしておくこと。

⑤ 芸術分野や体育実技等の分野を担当する教員については、著書・論文等以外の競技会、展覧会または演奏会等での発表のうち、特に顕著な業績と認められるものについても記載すること。このほか、専門分野の特性を 考慮し、顕著な業績と認められるものがある場合もこれに含めてもよい。

教　育　研　究　業　績　書

平成26年3月31日

氏名　　阪元　勇輝

研究分野	研究内容のキーワード
複合化学、環境学、総合工学	環境関連化学、環境影響評価・環境政策、環境技術・環境材料、地球・資源システム工学、エネルギー学

教育上の能力に関する事項

事項	年月日	概要
1　教育方法の実践例		
1）マルチメディア機器を利用した講義	平成17年4月～現在に至る	奈良文化女子短期大学および京都文教大学において、学生に対して、より環境問題の理解を深めるため、視覚効果（画像･映像）を利用して、学習効果を高めた。
2）プレゼンテーションの導入と対外的発表	平成19年4月～平成22年3月	奈良文化女子短期大学の子供学ゼミにて、子供に対する環境教育として、プレゼンテーションソフトを用いて、学生に環境電子絵本を作成させ、また保育園や幼稚園児に対してプレゼンテーションさせ、視覚効果を利用し、子供に対する学習効果を高めた。
2　作成した教科書，教材		
1）環境関連講義用教科書	平成17年4月～現在に至る	奈良文化女子短期大学および京都文教大学において、環境関連の講義用教科書を作成した。環境関連の教科書は一般的に専門性が高いため、より平易な教科書を各関係テーマに応じて作成した。環境政策論、環境法規、地域環境論、他
2）環境関連講義用補助教材	平成17年4月～現在に至る	奈良文化女子短期大学および京都文教大学において、環境関連の補助教材を作成した。特に環境問題に関して、視覚効果（環境破壊の画像・ビデオ等）を利用し、より学習効果を高めるための補助教材を作成した。リサイクルと環境、環境保護と市民生活、他
3　教育上の能力に関する大学等の評価		
1）奈良文化女子短期大学学生による授業アンケート結果における評価	平成17年4月～平成22年3月	奈良文化女子短期大学において毎年実施されている学生によると、担当の講義全般について、総合評価として４点以上（５点満点）の評価を得ている。
2）京都文教大学学生による授業アンケート結果における評価	平成23年9月～現在に至る	京都文教大学において毎年実施されている学生によると、担当の「環境の科学」について、総合評価として４点（５点満点）の評価を得ている。
4　実務の経験を有する者についての特記事項		
1）事業者、団体および地方行政職員・議員に対する環境関連のセミナーおよび講演	平成17年4月～現在に至る	多くの環境関連のセミナーおよび講演を行っている。詳細は、（公的招待講演会・セミナー発表等）を参照。
2）関西大学客員研究員（先端科学技術推進機構）	平成20年4月～平成22年3月	客員研究員として卒業研究および修士研究に従事し、卒業論文および修士論文の作成に寄与した。
5　その他		
1）特記事項なし		

職務上の実績に関する事項

事項	年月日	概要
1　資格，免許		
1）エネルギー管理士（経済産業省）	平成6年5月	エネルギーシステム全てにおいて管理が可能あることを認められている。

2）環境カウンセラー（環境省）	平成11年4月	環境全般に関してカウンセリング可能あることを認められている。
3）国際環境アドバイザー（経済産業省）	平成11年10月	国際的に環境に関するアドバイスが可能であることを認められている。
4）新エネルギー有識者（NEDO:新エネルギー・産業技術総合開発機構）	平成12年3月	新エネルギーに関する知見を有していることを公式的に認められている。
5）博士（工学）：関西大学大学院工学研究科化学工学専攻	平成12年9月	ライフサイクルアナリシスによる省エネルギーおよび炭酸ガス削減技術の評価に関して論文として纏めた。
他、多数）危険物取扱者（甲種）、環境マネジメントシステムEA21審査（環境省人）、環境社会検定（eco検定）、他		左記のように多様な環境関連の資格を有している。
2　特許等		
3　実務の経験を有する者についての特記事項		
1）事業者、団体および地方行政職員・議員に対する環境関連のセミナーおよび講演	平成11年4月～現在に至る	多くの環境関連のセミナーおよび講演を行っている。詳細は、（公的招待講演会・セミナー発表等）を参照。
2）関西大学客員研究員（先端科学技術推進機構）	平成20年4月～平成22年3月	客員研究員として卒業研究および修士研究に従事し、卒業論文および修士論文の作成に寄与した。
4　その他		
1）特記事項なし		

研　究　業　績　等　に　関　す　る　事　項

著書，学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所，発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　要
（著書）				
1. 奈良県の環境保全団体活動事例集「地球を守るのは私たち！」	監修・編集および部分執筆	平成17年3月	奈良県庁環境政策課,奈良県庁,pp.72,(執筆p.4)	奈良県内の環境保全活動に従事している団体に関して、アンケート調査を行い、その活動内容・規模・主要な環境保全活動に関して纏めた。
2. 廃棄物循環利用と適正処理のための手引書～ゼロエミッションをめざして～	監修および編集	平成18年3月	奈良県庁：生活環境部：環境政策課廃棄物委対策課,奈良県庁,pp93	奈良県内の企業（事業者）を対象とし、配布することを目的に、様々な廃棄物の循環利用と適正処理のために、様々な廃棄物の処理方法の実例および廃棄物処理法・奈良県の条例等に関して解説した。
（学術論文）				
1. Life Cycle Inventory Assessment of a Livestock Waste Treatment Plant（査読付）	共著（第3著者）	平成16年	The Tenth Asian Pacific Confederation of Chemical Engineering (APCChE) Congress, 3P-06-061(No.489)	家畜糞尿の処理プラントに関してライフサイクルアセスメントを行い、その性能を評価した。その結果、CO2 リサイクルシステムとして極めて有効であり、エネルギー発生システムとしても有効であることが明らかとなった。
2. Life Cycle Assessment of a Solid-Liquid Separating Unit - Estimation of the CO2 emission for an Inclined Solid-Liquid Separating Unit -	単著	平成17年	Study Reports of Narabunka Women's College, No.36, pp.25-32	傾斜型固・液分離装置に関してライフサイクルアセスメントを行い、その各原材料およびユーティリティのCO2排出量を推算した。その結果、ステンレススチール製の形鋼の使用によるCO2排出量が最も多いことが明らかとなった。

３．Life Cycle Inventory Assessment of a Wet-Biomass Waste Treatment Plant （査読付）	共著（第3著者）	平成18年	The 7th International Conference on EcoBalance, P-45 (4pages)	家畜糞尿の処理プラントに関して、バイオマスエネルギーを有効するためにガスエンジンを利用したエネルギー回収システムに対してのライフサイクルアセスメントを行い、その性能を評価した。その結果、このシステムは、エネルギー発生システムおよびCO2 リサイクルシステムおよびとしても有効なシステムであることが明らかとなった。
４．Life Cycle Inventory Assessment of a Livestock Waste Treatment Plant （査読付）	共著（第3著者）	平成18年	環境科学会, Vol. 19, No. 6, pp517-526	家畜糞尿の処理プラントに関して、性能向上のために新たなシステム（燃料電池）を付加し、ライフサイクルアセスメントを行い、その性能を評価した。その結果、現状のシステムより、CO2 リサイクルシステムおよびエネルギー発生システムとしても極めて大きく性能向上することが明らかとなった。
５．Measurement of Thermophysical Properties by Arbitrary Heating Method - Development of Pressure and Corrosion Resistance Measurement Unit -	単著	平成19年	Study Reports of Narabunka Women's College, No.38, pp.55-66	高圧・腐食性を有する様々なエネルギー媒体の熱力学的物性値を測定するために耐圧・耐腐食性測定装置を設計・開発し、その評価を行った。その結果、耐圧性・耐腐食性は問題なく、測定装置として実用化できることが明らかとなった。
６．Measurement of Thermophysical Properties of Thermal Energy Storage System - Measurement of CaCl2-NH3 system by Arbitrary Heating Method -	単著	平成20年	Study Reports of Narabunka Women's College, No.39, pp.39-48	任意加熱法を用いた耐高圧・腐食性熱力学的物性値測定装置による蓄熱システム(CaCl2-n・NH3 system)の熱力学的物性を測定した。その結果、熱伝導度は、内部圧力の大きく依存するが、熱拡散係数は、ほぼ一定であることが明らかとなった。
７．Evaluation of Cost Index for Life Cycle Engineering - Cost index of an Inclined Solid-Liquid Separating Unit -	単著	平成21年	Study Reports of Narabunka Women's College, No.40, pp.71-81	ライフサイクルエンジニアリング(LCE)の概念を用いて、その1つのカテゴリーであるコストインデックスに関して、傾斜型固・液分離装置のコストインデックスを推算した。その結果、製品性能、コストおよび環境負荷の3者によるLCEモデルを構築することができた。
８．A Life Cycle Engineering of a Waste Water Treatment Unit （査読付）	単著	平成21年	The Nineth International Conference on Ecomaterials, pp.123-124	ライフサイクルエンジニアリング(LCE)の一例として、排水処理装置に関して、環境負荷、コストおよび性能との関係を評価すべく、本論文では、環境負荷（CO2排出量）とコストインデックス（コスト指標）の関係を推算し、評価した。その結果、環境負荷とコストインデックスには、非常に強い創刊関係があることが明らかとなった。
９．Numerical Simulation 4of Thermal Energy Storage Unit Using CaCl2-NH3 system	単著	平成22年	The Bulletin of Nara Sangyo University, Vol.26, pp.11-20	CaCl2-NH3 System を用いた蓄熱装置の反応特性と熱物性値とシミュレーションモデルにより得られた結果を比較した。その結果、最大誤差は、5%程度であり、当該シミュレーションモデルは、妥当なモデルであることが明らかとなった
10. A Strategy of the Bio-mass Utilization in a Local Government -An Application of Lumber from Thinning -	単著	平成23年	Annual Report of the Research Institute of Public Affairs Nara Sangyo University, Vol.1, pp.115-120	奈良県の地方行政において、間伐材（廃棄物）の有効利用を目的に、あるリサイクルシステムを提案し、その検討を行った。その結果、有効成分が抽出できることが明らかとなり、また、その残渣をバイオマスエネルギーとして有効利用できるシステムあることが明らかとなった。
11. Measurement of Thermophysical Properties of Thermal Storage System - Effect of Heat Transfer Media -	単著	平成23年	The Bulletin of Nara Sangyo University, Vol.26, pp.73-78	CaCl2-NH3 System を用いた蓄熱システムに関して、熱媒体を添加した際の熱物性値（有効熱伝導度、熱拡散係数）の変化について測定を行った。その結果、熱媒体を添加した場合、その熱物性値は向上することが明らかとなり、また充填密度が大きく影響している事が分かった。

12. Life Cycle Assessment of Biodegradable Plastics（査読付）	単著	平成23年	The Tenth International Conference on Ecomaterials(ICEM10), pp.193-196	生分解性プラスチックを利用して製造された食品トレイと石油を原料として製造された食品トレイにおいて、その環境負荷としてCO2排出量およびエネルギー消費原単位をライフサイクルアセスメント評価法を利用して評価した。その結果、バイオマス由来で製造された食品トレイが石油を原料として製造された食品トレイよりも優位であることが明らかとなった。
13. Feasibility Study of a Biomass Utilization in Local Village - Cost Simulation of Extraction System of Wood Oil from Wood Thinnings -	単著	平成24年	Annual Report of the Research Institute of Public Affairs Nara Sangyo University, Vol.2, pp.79-84	奈良県の地方行政において、間伐材（廃棄物）の有効利用を目的に、あるリサイクルシステムを提案し、その費用対効果の検討を行った。その結果、有効成分の抽出量にも依存するが、平均的な収量が得られれば、おおよそ約10年投資に対して回収できることが明らかとなった。
14. Utilization of Forest Thinning Residue as Biomass Resource（査読付）	単著	平成25年	The 11TH International Conference on Ecomaterials(ICEM11), pp.130-133	地方の森林山村において、隣地残材となっている森林間伐材の有効利用および廃棄物処理を目的とし、間伐材をバイオマス資源としてエッセンシャルオイルを抽出し、その抽出残渣をさらにバイオ燃料とするシステムを提案し、パイロットスケールにて実験を行い、そのフュージビリティスタディ（事業採算性）を行った。その結果、採算性は間伐材のコストに大きく依存することが明らかとなり、また間伐材のコストによっては、採算性が大きく見込める可能性があることが明らかとなった。
（その他）				
（学会発表）				
1．Life Cycle Inventory Assessment of a Livestock Waste Treatment Plant	共同	平成16年10月	Proceedings of the Tenth Asian Pacific Confederation of Chemical Engineering (APCChE) Congress, Kitakyushu, Japan	家畜糞尿の処理プラントに関してライフサイクルアセスメントを行い、その性能を評価した。その結果、CO2 リサイクルシステムとして極めて有効であり、エネルギー発生システムとしても有効であることが明らかとなった。
2．Life Cycle Inventory Assessment of a Wet-Biomass Waste Treatment Plant	共同	平成18年11月	Proceedings of The 7th International Conference on EcoBalance, Nov. 14 - 16, Tsukuba, Japan	家畜糞尿の処理プラントに関して、バイオマスエネルギーを有効するためにガスエンジンを利用したエネルギー回収システムに対してのライフサイクルアセスメントを行い、その性能を評価した。その結果、このシステムは、エネルギー発生システムおよびCO2 リサイクルシステムおよびとしても有効なシステムであることが明らかとなった。
3．A Life Cycle Engineering of a Waste Water Treatment Unit	単	平成21年11月	Proceeding of Nineth International Conference on Ecomaterials(ICEM9),Nov.24-27, Kyoto, Japan	ライフサイクルエンジニアリング(LCE)の一例として、排水処理装置に関して、環境負荷、コストおよび性能との関係を評価すべく、本論文では、環境負荷（CO2排出量）とコストインデックス（コスト指標）の関係を推算し、評価した。その結果、環境負荷とコストインデックスには、非常に強い創刊関係があることが明らかとなった。
4．Life Cycle Assessment of Biodegradable Plastics （以上、国際学会）	単	平成23年11月	Proceeding of Tenth International Conference on Ecomaterials(ICEM10),Nov.21-25, Shanghai, China	生分解性プラスチックを利用して製造された食品トレイと石油を原料として製造された食品トレイにおいて、その環境負荷としてCO2排出量およびエネルギー消費原単位をライフサイクルアセスメント評価法を利用して評価した。その結果、バイオマス由来で製造された食品トレイが石油を原料として製造された食品トレイよりも優位であることが明らかとなった。

（国内学会） １．地球温暖化問題と日本の環境行政の動向（Global Warming Issue and Environmental Strategies of Japanese Government）	単	平成18年3月	Proceedings：第5回奈良女子大学共生科学研究センターシンポジウム（地球温暖化と都市化－緑は環境を緩和するのか？－），pp.128-129，2006年3月4日，奈良女子大学，奈良	現在の日本国政府の地球温暖化対策に関する主要な施策・政策に関して解説し、また、これらの政策の中で、環境税や環境マネジメントシステムの重要性についても言及し、現在の施策・政策の現状と課題および今後の方向性について考察した。
２．森林保全と環境政策 （以上、国内学会）	単	平成18年12月	第10回紀伊半島研究会シンポジウム（今後の紀伊半島研究会を考える －山の上から海まで、そして後継者養成－），奈良女子大学共生科学研究センター，紀伊半島研究会，2006年12月24日，奈良女子大学，奈良	現在の日本国政府の地球温暖化対策のための主要な森林施策・政策および奈良県の森林施策・政策に関して解説し、それらの施策・政策の現状と課題および今後の方向性および比較について考察した。
（公的招待講演会・セミナー発表等）				
１．「最近の新エネルギー技術」－燃料電池とコージェネレーションシステム－	単	平成16年6月	奈良県工業技術センター主催　2004年度奈良県技術フォーラム，奈良	企業（事業者）に対して、最近のエネルギー技術として、燃料電池およびコージェネレーションシステム等に関して解説した。
２．暮らしとエネルギーのお話	単	平成17年3月	奈良県庁主催，環境家計簿ファミリー「ひろげるつながる」交流会，奈良県文化会館，奈良	環境家計簿普及のために、奈良県内の環境家計簿参加者および一般市民に対して、暮らしに係わるエネルギーに関して解説した。
３．事務所・家庭で出来る地球温暖化防止策Ⅰ	単	平成17年7月	奈良県庁委託，奈良県環境アドバイザー事業，大宮通り商工振興会研修会，　奈良	企業（事業者）および一般家庭の方々に対して、地球温暖化のメカニズムおよびその影響に関して解説した。
４．エコアクション21（EA21）認証・登録制度について	単	平成17年7月	奈良県工業技術センター主催，奈良県技術フォーラム，奈良県工業技術センター，奈良	企業（事業者）に対して、環境省策定の環境マネジメントシステムであるエコアクション21（EA21）認証・登録制度に関して解説した。
５．事務所・家庭で出来る地球温暖化防止策Ⅱ	単	平成17年8月	奈良県庁委託，奈良県環境アドバイザー事業，大宮通り商工振興会研修会，奈良ロイヤルホテル，奈良	企業（事業者）および一般家庭の方々に対して、極めて基本的で取り組みやすいな地球温暖化対策に関して解説した。
６．LCC（ライフサイクルコスト）評価方法の構築	単	平成17年8月	奈良県中小企業支援センター委託，中小企業支援事業，東洋スクリーン，奈良	企業（事業者）に対して、LCC（ライフサイクルコスト）評価方法の構築およびライフサイクルエンジニアリング等の製品の研究・開発および設計に関する新しい評価方法に関して解説した。
７．環境問題に対する知識の共有化と課題解決-水質汚濁に関して-	単	平成17年10月	奈良県庁委託，奈良県環境アドバイザー事業，奈良県昭和工業団地研修会，奈良	奈良県昭和工業団地の企業（事業者）に対して、工業団地としての環境問題、特に水質汚濁に関しての知識の共有および課題解決策に関して解説した。
８．環境省エコアクション21（EA21）説明会-EA21認証・登録制度について-	単	平成17年11月	NPO法人奈良環境カウンセラー協会主催，環境省近畿地方環境事務所後援事業，奈良県中小企業会館，奈良	企業（事業者）に対して、環境省策定の環境マネジメントシステムであるエコアクション21（EA21）認証・登録制度に関して解説した。
９．～京都議定書発効から1年～地球温暖化の防止 -古都・奈良からの発信- パネラー	単	平成18年2月	環境省きんき環境館,奈良環境ネットワーク主催事業，なら環境パートナーシップ交流大会，奈良市生涯学習センター，奈良	企業（事業者）および市民の双方の立場から、地球温暖化対に対する取り組み方法やわが国の環境政策論に関しての基本的な解説した。

10. 環境経営が企業を変える -環境関連法の登録と遵守-	単	平成19年3月	NPO法人奈良環境カウンセラー協会主催，環境省近畿地方環境事務所後援事業，2007年3月15日，奈良県中小企業会館，奈良	企業（事業者）を対象とし、非常に広範囲にわたる環境関連法に関して、必修である法を解説し、具体的な事例をあげ、遵守すべき法とその遵守方法に関して解説した。
11. 最近の環境問題 -環境経営の必要性-：環境と経営講演会	単	平成19年12月	環境省主催，NPO法人奈良環境カウンセラー協会後援，2007年12月3日，奈良県中小企業会館，奈良	企業（事業者）および地方行政の環境関連担当者を対象とし、現状の逼迫した環境問題について解説し、今後どの様に企業および地方行政のマネジメントに環境経営が必要であるかを解説した。
12. 「環境問題を知る」シリーズ（全3回：登美ヶ丘キャンパス）：第一回 Lifestyles of Health and Sustainability（LOHAS：ロハス）とは － 健康と環境に配慮したライフスタイル －	単	平成20年7月	奈良文化女子短期大学主催，2008年7月26日，奈良文化女子短期大学（富美ヶ丘キャンパス）	アメリカ発祥の「健康や環境にやさしいライフスタイル（LOHAS：ロハス）」と言う考え方に関して、その意味やどの様なライフスタイルなのかについて概説した。
13. 「環境問題を知る」シリーズ：登美ヶ丘キャンパス：第二回　新エネルギーとは － 脱化石燃料を目指して －	単	平成20年10月	奈良文化女子短期大学主催，2008年10月18日，奈良文化女子短期大学（富美ヶ丘キャンパス）	「新エネルギー」に関して、それはどの様なエネルギーなのか、そのメリットやデメリットや脱化石燃料にどの程度貢献できるのか等、最近の最新技術・トピックスについて概説した。
14. 「環境問題を知る」シリーズ：高田キャンパス：第一回　新エネルギーとは － 脱化石燃料を目指して －	単	平成20年11月	奈良文化女子短期大学主催，2008年11月1日，奈良文化女子短期大学（高田キャンパス）	「新エネルギー」に関して、それはどの様なエネルギーなのか、そのメリットやデメリットや脱化石燃料にどの程度貢献できるのか等、最近の最新技術・トピックスについて概説した。
15. 「地球温暖化とライフサイクルアセスメント」	単	平成20年11月	奈良県庁委託，奈良県環境アドバイザー事業，ユーテック株式会社井戸野研究所，奈良(11月17日)	近年の地球温暖化の状況および原因について解説し、その対策に繋がる「ライフサイクルアセスメント」とは、どの様な対策手法か、どの様な有効性があるのかについて解説した。
16. 「省エネルギーと地球温暖化」	単	平成20年11月	奈良市・関西電力連携住宅省エネルギー推進事業(NEDO助成事業)，　なら100年会館，奈良，(11月29日)	住宅の省エネルギー推進事業に参画された奈良市民に対して、地球温暖化とエネルギー消費の関係や奈良市や奈良県のエネルギー状況について概説し、さらに簡単で効果のある省エネルギー手法を解説した。
17. 「環境問題を知る」シリーズ：登美ヶ丘キャンパス：第三回　化学物質と食の安全	単	平成21年1月	奈良文化女子短期大学主催，2009年1月17日，奈良文化女子短期大学（富美ヶ丘キャンパス）	最近、化学物質が身近に氾濫しており、その中で特に食の安全が大きな問題となっている。様々な化学物質の危険性に関して、食を通じて概説する。
18. 「環境問題を知る」シリーズ：高田キャンパス：第二回　化学物質と食の安全	単	平成21年1月	奈良文化女子短期大学主催，2009年1月24日，奈良文化女子短期大学（高田キャンパス）	最近、化学物質が身近に氾濫しており、その中で特に食の安全が大きな問題となっている。様々な化学物質の危険性に関して、食を通じて概説する。
19. 「低炭素社会 の実現に向けた電気エネルギー利用の合理化と関係法 令」	単	平成21年2月	奈良県電気協会主催，「平成20年度電気効率使用講習会」，奈良県中小企業会館4階大会議室，奈良，(2月17日)	省エネルギー法および地球温暖化防止法が改正され、より厳格化され、罰則を伴うことになった。また、電気エネルギーを効率良く利用し、省エネルギーにつなげるかを解説した。
20. 「地球環境と気候変動 －地球温暖化と省エネ －」	単	平成21年12月	（財）奈良市生涯学習財団　富雄公民館 主催，「富雄環境講座」，富雄公民館，奈良市，（12月3日）	近年の大規模な気候変動に関して、地球温暖化との関係やその被害の重大性について解説し、今後のどの様に推移するか、またそれを防止する策としての省エネルギーの重要性に関して解説した。
21. 「省エネルギ ーと環境問題　－ 省エネと地球温暖化 －	単	平成21年12月	奈良リハビリテーション専門学校 学生自治会 主催，「環境セミナー」，生駒市，（12月3日）	20世紀の人類によるエネルギー多消費型の現代社会が、どの様に地球温暖化をもたらしたかを解説し、身近に取り組むことができて、効果が大きい省エネルギー手法を解説した。

22. 「化学物質と食の安全 －化学物質の安全性とは －」	単	平成22年2月	（財）奈良市生涯学習財団　富雄公民館 主催，「富雄環境講座」，富雄公民館，奈良市，（2月18日）	近年、化学物質が身近に氾濫しており、その中で特に食の安全が大きな問題となっている。様々な食品による健康被害や化学物質の危険性に関して、食を通じて概説した。
23. 低炭素社会に向けた社会動向と行政の役割	単	平成22年2月	奈良市市議会銀団　主催，「環協講座」，奈良市市議会会議室，奈良市，（2月25日）	奈良市の市議会議員に対して、低炭素化に向けた国際的な動向について概説し、我が国の政策の現状および地方行政の役割やあり方について解説した。
24. カーボンフットプリント（CFP）制度試行事業について － 事業者の主な取組内容 －	単	平成22年3月	NPO法人　大阪環協カウンセラー協会　主催，H21年度第三回OECA普及啓発セミナー，piaNPO6F会議室，大阪市，（3月6日）	国家プロジェクトであるカーボンフットプリント（CFP）制度試行事業について、その制度の概要および様々な事業者の主なカーボン排出量の算定方法やカーボン排出量削減の取組内容について解説した。
25. 地球温暖化問題 － 地球温暖化と省エネルギー －	単	平成23年7月	奈良県，王寺町主催，奈良産業大学共催，「平成23年度りーべるカレッジ」第Ⅱシリーズ「生活を科学する」，王寺町地域交流センター，王寺町，（7月16日）	昨今の大規模な気候変動は、化石燃料の大量消費による「地球温暖化」に少なからず起因していることが明らかとなってきていつ。地球温暖化の状況と地球温暖化を少しでも抑制するための身近な省エネルギーについて概説した。
26. 3Eのトリレンマ －「3つのE」は、これからどうなるのでしょう －		平成23年11月	奈良産業大学主催，王寺町共催，2011奈良産業大学シンポジウム「これからのエネルギーと私達の暮らし」パネルディスカッション，王寺町地域交流センター，王寺町，（11月26日）	我が国の3つのE（環境・エネルギー・経済）の現状について概説し、この3つのEのトリレンマの状態にあること、また、今後の我が国のこの3つのEのあり方や方向性について討議した。

［注］

1 最近10年間の教育活動、研究活動について作成すること。

2 「教育活動」については、各項目ごとに年月日順に、「学会等および社会活動」については、就任年月日順に記入すること。

3 「研究活動」については、下記の点に留意すること。

① 著書・論文及びその他の順に、発表年月日順に記入すること。

② 著者が複数にわたる場合で、筆頭著者が著書・論文等において明示されている場合には、その氏名に◎印を付すこと。

③ 共著(論文)の場合、「該当頁数」の記入にあたっては、本人の分担箇所を特定できる場合は、その頁数を記載すること。

④ 最近10年間に著書・論文等の発表のなかった者についても、教員名を挙げてその部分を空欄にしておくこと。

⑤ 芸術分野や体育実技等の分野を担当する教員については、著書・論文等以外の競技会、展覧会または演奏会等での発表のうち、特に顕著な業績と認められるものについても記載すること。このほか、専門分野の特性を 考慮し、顕著な業績と認められるものがある場合もこれに含めてもよい。

Narasangyo
University

奈良産業大学

〒636-8503　奈良県生駒郡三郷町立野北３丁目 12-1
TEL 0745-73-7800　FAX 0745-72-0822
URL http://www.nara-su.ac.jp